

# 鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 9

平成4年度発掘調査報告  
(第2分冊)

平成5年3月

鎌倉市教育委員会

## 目次

### (第1分冊)

序文	i
例言	ii
平成4年度の概観	1
1. 由比ガ浜中世集団墓地遺跡	11
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	20
第二章 調査の経過と概要	27
第三章 検出した遺構・遺物	28
(1) 上層遺構	28
(2) 下層遺構	182
第四章 まとめ	196

### (第2分冊)

2. 大倉幕府周辺遺跡群	1
第一章 調査地点の概観	7
第二章 調査の概要	12
第三章 調査結果	14
第1節 中世の遺構と遺物	14
第四章 調査のまとめ	112
3. 長谷小路周辺遺跡	145
第一章 調査の概要	153
第1節 調査に至る経緯	153
第2節 調査体制	153
第3節 調査の成果	154
第二章 遺跡地の概要	155

第1節 歴史地理的環境	155
第2節 調査地点	158
第三章 発見された遺構と遺物	160
第1節 中世以前	160
第2節 中世	167
第3節 上層遺物包含層	246
第四章 まとめ	249

(第3分冊)

4. 保寧寺跡	1
第一章 遺跡の歴史地理的環境	5
第二章 発見された遺構と遺物	8
第1節 第1面で発見された遺構と遺物	8
第2節 第1面包含層出土遺物	19
第3節 第2面で発見された遺構と遺物	26
第4節 第2面包含層出土遺物	37
第三章 調査の成果と問題点	52
5. 多宝寺跡	69
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	72
第二章 調査の概要	73
第1節 調査方法	73
第2節 堆積土層	74
第三章 検出遺構と出土遺物	76
第1節 第一面の遺構と遺物	76
第2節 第二面の遺構と遺物	78
第3節 第三面の遺構と遺物	80
第4節 第三面下の遺物	85
第四章 調査のまとめ	89

6. 宇津宮辻子幕府跡 .....	103
第一章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	107
第二章 調査経過と概要 .....	108
第三章 検出した遺構と遺物 .....	109
(1) 遺構 .....	109
(2) 遺物 .....	115
第四章 まとめ .....	124
7. 大倉幕府周辺遺跡群 .....	131
第一章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	135
第二章 調査の概要 .....	136
第三章 検出遺構と出土遺物 .....	137
第四章 まとめ .....	151
8. 政所跡 .....	165
第一章 遺跡の位置 .....	170
第二章 調査の経緯 .....	173
第三章 検出された遺構と遺物 .....	175
第1節 上層で検出された遺構と遺物 .....	175
第2節 第1面で検出された遺構と遺物 .....	180
第3節 第1面かわらけ溜 .....	185
第4節 かわらけ溜内出土遺物 .....	229
第5節 第1面包含層出土遺物 .....	230
第6節 第2面で検出された遺構 .....	233
第7節 第2面の遺構と包含層出土遺物 .....	236
第四章 調査の成果と問題点 .....	238
9. 若宮大路周辺遺跡群 .....	259
第一章 調査地点の位置 .....	263
第二章 調査の経過と概要 .....	264
第三章 検出された遺構と遺物 .....	266

(1) 遺構 .....	266
(2) 遺物 .....	270
第四章 まとめ .....	272
10. 若宮大路周辺遺跡群 .....	277
第一章 調査地の位置と環境 .....	281
第二章 調査軸線の設定 .....	284
第三章 調査の経過と堆積土層 .....	285
I. 調査の経過 .....	285
II. 堆積土層 .....	286
第四章 遺構と遺物 .....	288
I. 調査概要 .....	288
II. 遺構と遺物 .....	288
第五章 まとめと考察 .....	306
I. 検出遺構の年代 .....	306
II. 遺構15について .....	307
III. 遺構の変遷について .....	309

## 2. 大倉幕府周辺遺跡群

二階堂字荏柄38番1 (No.49)

## 例 言

1. 本報は、鎌倉市二階堂字荏柄38番1地点所在遺跡の発掘調査のうち、国庫補助事業にかかる個人住宅部分についての報告である。
2. 本報の掲載資料は1に述べた理由により部分的成果にとどまっているが、資料的意義が高いと認められるものは出土地区を問わず本報に掲載した。
3. 第三章第2節 原始・古代の遺構と遺物 および調査の総括的な成果は、追って刊行予定の発掘調査団分の本報告書で提示する。
4. 調査体制は次のとおり。  
担 当 者 馬淵和雄  
調 査 員 山田健二・園部雅之・及川加代子・太田美知子・渡部律子・山上玉恵・南保由利  
調査補助員 坂倉美恵子・兼行仗枝・森本康二・丹行正・小松茂憲・小西さつき・佐藤一仁  
調査協力者 神谷敏一・増田保・岩間敏雄・岸名富雄・高橋健一郎・御園生正民・斎藤政蔵・長島三男・小原謙一・青木綾子・成田初枝・池谷ツル・蒲谷由利子・黒崎真理・小川喜司・本田誠一・岡陽一郎・鈴木健太郎・鈴木美和
5. 本報の執筆・編集は馬淵がおこなった。
6. 本報掲載写真は、遺構を馬淵・山田・園部が、遺物を黒崎が撮った。全景写真は(株)サンシャインによる。
7. 遺構図墨入れは太田・森本・南保が、遺物実測図墨入れは馬淵がおこなった。
8. 本発掘調査の出土遺物等の資料は鎌倉市教育委員会が保管している。

## 目 次

例 言 .....	2
目 次 .....	3
第一章 調査地点の概観 .....	7
第二章 調査の概要 .....	12
第三章 調査結果 .....	14
第1節 中世の遺構と遺物 .....	14
1 二階堂大路関連施設 .....	14
a 二階堂大路側溝 .....	14
b 柱穴列 1～5 .....	16
2 東御門川旧流路（大倉御所東堀）と関連施設 .....	20
a 東御門川旧流路（大倉御所東堀） .....	20
b 道状遺構 .....	20
3 平坦部の遺構 .....	44
a 柱穴列 6 .....	44
b 掘立柱建物 .....	44
c 井戸 .....	44
d 摺鉢遺構 .....	44
e 埋納遺構 .....	44
f 土壌 .....	44
g 土師器溜り .....	44
第四章 まとめ .....	112
付編 大倉幕府周辺遺跡群（二階堂字荏柄38番1）の花粉化石 .....	113

挿 図 目 次

図1	調査地点と周辺の主な 発掘調査地点・旧跡	8	図32	井戸2出土遺物(2)	64
図2	調査地点位置図	9	図33	井戸2出土遺物(3)	66
図3	調査区設定図	12	図34	井戸3・同出土遺物	67
図4	中世遺構配置図	15	図35	井戸4・同出土遺物	69
図5	調査区南半遺構群	折込み	図36	井戸5・同出土遺物	70
図6	溝6切石列	19	図37	井戸6・同出土遺物(1)	74
図7	溝1・6出土遺物	21	図38	井戸6出土遺物(2)	75
図8	溝2・3・16出土遺物	23	図39	井戸7・同出土遺物(1)	76
図9	溝7・8出土遺物	26	図40	井戸7出土遺物(2)	78
図10	溝9・10・11出土遺物	28	図41	井戸7出土遺物(3)	79
図11	溝14出土遺物	31	図42	井戸8・同出土遺物	81
図12	柱穴列1~4	折込み	図43	井戸9・同出土遺物	82
図13	柱穴列1出土遺物(1)	35	図44	井戸10・同出土遺物	84
図14	柱穴列1出土遺物(2)	36	図45	井戸11・同出土遺物(1)	85
図15	東御門川旧流路と関連施設	40	図46	井戸11出土遺物(2)	87
図16	東御門川旧流路出土遺物	41	図47	井戸11出土遺物(3)	88
図17	柱穴列6(上)・建物1(下)	45	図48	井戸12・同出土遺物	89
図18	建物3	46	図49	井戸13・同出土遺物(1)	91
図19	建物2	折込み	図50	井戸13出土遺物(2)	92
図20	建物4	49	図51	井戸13出土遺物(3)	93
図21	建物6	50	図52	井戸14・同出土遺物	96
図22	建物5	折込み	図53	据臺遺構・同出土遺物	99
図23	建物5石組雨落溝	53	図54	埋納遺構・同出土遺物	100
図24	建物8	54	図55	土漿1・同出土遺物(1)	101
図25	建物7	折込み	図56	土漿1出土遺物(2)	102
図26	建物9	57	図57	土師器溜り1(溝25上層) ・同出土遺物	105
図27	建物10	58	図58	土師器溜り2(溝29上層) ・同出土遺物(1)	106
図28	建物11	59	図59	土師器溜り2出土遺物(2)	107
図29	建物12	60	図60	原始・古代遺構配置図	111
図30	井戸1・同出土遺物	61			
図31	井戸2・同出土遺物(1)	63			

## 表 目 次

表1	溝1・6出土遺物観察表(1)	22	表25	井戸6出土遺物観察表(2)	73
表2	溝1・6出土遺物観察表(2)	24	表26	井戸7出土遺物観察表(1)	77
表3	1・6出土遺物観察表(3)	25	表27	井戸7出土遺物観察表(2)	80
表4	溝2・3・16出土遺物観察表(1)	25	表28	井戸8出土遺物観察表	80
表5	溝2・3・16出土遺物観察表(2)	27	表29	井戸9出土遺物観察表(1)	80
表6	溝7・8出土遺物観察表(1)	27	表30	井戸9出土遺物観察表(2)	83
表7	溝7・8出土遺物観察表(2)	29	表31	井戸10出土遺物観察表	83
表8	溝9・10・11出土遺物観察表(1)	29	表32	井戸11出土遺物観察表	86
表9	溝9・10・11出土遺物観察表(2)	30	表33	井戸12出土遺物観察表	90
表10	溝14出土遺物観察表(1)	30	表34	井戸13出土遺物観察表(1)	94
表11	溝14出土遺物観察表(2)	32	表35	井戸13出土遺物観察表(2)	95
表12	柱穴列1出土遺物観察表(1)	37	表36	井戸13出土遺物観察表(3)	97
表13	柱穴列1出土遺物観察表(2)	38	表37	井戸14出土遺物観察表(1)	97
表14	柱穴列1出土遺物観察表(3)	39	表38	井戸14出土遺物観察表(2)	98
表15	東御門川旧流路出土遺物観察表(1)	42	表39	掘変遺構出土遺物観察表	99
表16	東御門川旧流路出土遺物観察表(2)	43	表40	埋納遺構出土遺物観察表	100
表17	井戸1出土遺物観察表	62	表41	土壇1出土遺物観察表(1)	102
表18	井戸2出土遺物観察表(1)	62	表42	土壇1出土遺物観察表(2)	103
表19	井戸2出土遺物観察表(2)	65	表43	土壇1出土遺物観察表(3)	104
表20	井戸3出土遺物観察表	68	表44	土師器溜り1出土遺物観察表(1)	104
表21	井戸4出土遺物観察表	69	表45	土師器溜り1出土遺物観察表(2)	108
表22	井戸5出土遺物観察表(1)	71	表46	土師器溜り2出土遺物観察表(1)	108
表23	井戸5出土遺物観察表(2)	72	表47	土師器溜り2出土遺物観察表(2)	109
表24	井戸6出土遺物観察表(1)	72	表48	土師器溜り2出土遺物観察表(3)	110

## 図版目次

- |  |   |
|--|---|
| <p>図版 1 中世遺構面全景</p> <p>図版 2-1 調査区南半部全景</p> <p style="padding-left: 20px;">2 溝6切石列(東から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3 同上(西から)</p> <p>図版 3-1 東御門川旧流路(南から)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 同上(東から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3 溝8(西から)</p> <p style="padding-left: 20px;">4 柱穴列I-K(北から)</p> <p>図版 4-1 井戸1(南から)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 同上壁面と石積の様相<br/>(西から)</p> <p>図版 5-1 井戸2(北から)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 同上遺物出土状況<br/>(北から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3 同上完掘状況(北から)</p> <p>図版 6-1 井戸3(西から)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 井戸4(西から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3 井戸5(南から)</p> <p>図版 7-1 井戸6(左)・井戸9<br/>(西から)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 井戸6(西から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3 同左竹出土状況</p> <p>図版 8-1 井戸7(西から)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 井戸8(西から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3 同上石積の様相(北から)</p> <p>図版 9-1 5・6・D・E付近<br/>井戸検出状況(東から)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 井戸9(西から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3 井戸10(西から)</p> <p>図版 10-1 井戸11(北から)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 同上木製品出土状況<br/>(東から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3 井戸12(北から)</p> | <p>図版 11-1 井戸13(東から)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 同上漆椀出土状況</p> <p style="padding-left: 20px;">3 井戸14(南から)</p> <p>図版 12-1 土壘3(北から)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 土壘7(東から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3 柱穴603(東から)</p> <p>図版 13-1 土師器溜り1(西から)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 土師器溜り2(南から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3 同左集中部の様相</p> <p>図版 14-1 土師器溜り3(南東から)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 土師器溜り4(北西から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3 石組雨落溝(西から)</p> <p>図版 15-1 埋納遺構(北から)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 同上(上から)</p> <p style="padding-left: 20px;">3 据臺遺構</p> <p>図版 16-1 井戸1出土遺物</p> <p style="padding-left: 20px;">2 井戸2出土遺物(1)</p> <p>図版 17-1 井戸2出土遺物(2)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 井戸3出土遺物</p> <p style="padding-left: 20px;">3 井戸4出土遺物</p> <p style="padding-left: 20px;">4 井戸5出土遺物</p> <p style="padding-left: 20px;">5 井戸6出土遺物(1)</p> <p>図版 18-1 井戸6出土遺物(2)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 井戸7出土遺物(1)</p> <p>図版 19-1 井戸7出土遺物(2)</p> <p style="padding-left: 20px;">2 井戸8出土遺物</p> <p style="padding-left: 20px;">3 井戸9出土遺物</p> <p style="padding-left: 20px;">4 井戸10出土遺物</p> <p style="padding-left: 20px;">5 井戸11出土遺物</p> <p style="padding-left: 20px;">6 井戸12出土遺物</p> <p>図版 20-1 井戸13出土遺物</p> <p style="padding-left: 20px;">2 井戸14出土遺物</p> |
|--|---|

## 第一章 調査地点の概観

### 立地

かつて六浦路と呼ばれていた県道金沢・鎌倉線は、鶴岡八幡宮の東側にある筋竹橋から約500mの間、真っ直ぐ東に延びる。この直線部分の東端を東南角とした東西約280m・南北約210mの平行四辺形区画が、「大倉御所」の跡地とされている。「御所」とは権力者の居館の謂であり、つまりは幕府の所在地を意味する。調査地点はこの地の東南角近くの臨地にあって、「大倉幕府周辺遺跡群」という名称の与えられた遺跡地(鎌倉市No.49)の一角に位置する。現在の地番は鎌倉市二階堂字在柄38番1。

大倉幕府東南の角はまた、永福寺惣門に通じる二階堂大路が六浦路から分岐する場所でもあるが、現在では狭い路地に過ぎなくなったこの二階堂大路に調査地点は南辺を接している。つまり本地点は、幕府の東南角と二階堂大路起点近くに挟まれた三角地帯のような場所である。

地勢上からみれば、この付近は朝比奈時に源を発した滑川の本流が狭隘な谷間を抜け、二階堂川や大御堂川、東御門川などと合流して、鎌倉中心城の沖積平野を形成し始める辺りである。標高は大体12mから13mの間で、若宮大路一帯に比べおよそ4m～8mほど高い河岸段丘上にある。往時には由比ヶ浜の辺まで一望できたであろう。調査地点から滑川までの距離は約60mを測る。

### 歴史的環境

この一帯は日当たりのよい南向きの微高地で、水利にも恵まれていたためか、はやくに人の往来があったらしく、1936年に縄文時代前期～中期の土器や石器など数10点が在柄天神社前から採集されている<sup>註1</sup>。他、鶴岡八幡宮東隣の横浜国大付属小学校からも後期の土器が地表下4mの深さから出土している<sup>註2</sup>。

弥生時代に入ると、本地点から300～400m西方の3地点(図1-8・9・10)で、中期から後期にかけての住居址数軒が検出され、また東方約400mの杉本寺周辺遺跡の調査の際にも土器片が出土しているところから、この一帯の河岸段丘上の広い範囲に集落が営まれていたことが分かる<sup>註3</sup>。

古墳時代の遺構は今のところ明白ではないが、本地点に隣接する雪ノ下大倉耕地569番1地点や先の杉本寺周辺遺跡で土器片が採集されており、また海岸砂丘地帯を中心に堅穴住居も数軒検出され、古墳群の存在も伝えられるので、いずれこの付近でも確認される可能性は高い<sup>註4</sup>。

律令期の鎌倉地方には、今小路西遺跡の鎌倉郡衙検出に明らかのように大規模な集落が存在していたとみられ、この付近でも在柄遺跡で8～10世紀の堅穴住居7軒が検出されている。またこの一帯は当時「荏草郷」と呼ばれていたようで、天平七年(735)の『相模国封戸租交易帳』にその名が見え、平安時代の辞典『和名類聚抄』には「荏草」はエカラと振られている。滑川沿いては、本地点から約500m東に天平六年(734)創建と伝えられる杉本寺があり、朝比奈時に近い十二所鐘ヶ



図1 調査地点付近の主な地形・旧跡

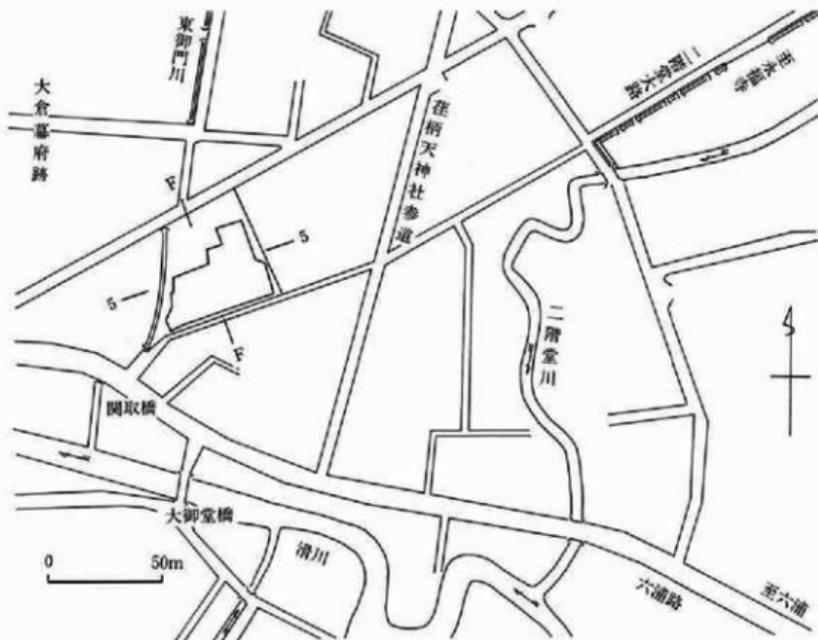


図2 調査地点位置図

〔図1 調査地点名〕

- ①. 大倉幕府周辺遺跡 (調査地点) ②. 大倉幕府周辺遺跡群 (雪ノ下字大倉569番1地点) ③. 向在栢遺跡 ④. 横小路周辺遺跡 ⑤. 大倉幕府周辺遺跡 (雪ノ下字大倉耕地565番4地点) ⑥. 淨明寺釈迦堂田楽土子遺跡 ⑦. 淨明寺釈迦堂遺跡 ⑧. 大倉南御門遺跡 (A地点) ⑨. 大倉南御門遺跡 (B地点) ⑩. 大倉南御門遺跡 (C地点) ⑪. 政所跡周辺遺跡 (雪ノ下三丁目606番1地点) ⑫. 政所跡 (雪ノ下三丁目965番地点) ⑬. 政所跡 (雪ノ下三丁目966番1地点) ⑭. 鶴岡八幡宮境内遺跡 (国宝館用地) ⑮. 鶴岡八幡宮境内遺跡 (研修道場用地) ⑯. 鶴岡八幡宮前遺跡 (銀杏用地) ⑰. 政所跡 (雪ノ下三丁目988番地点) ⑱. 政所跡 (雪ノ下三丁目987番1,2地点) ⑲. 北条泰時・時頼邸跡 (雪ノ下一丁目395番地点) ⑳. 北条泰時・時頼邸跡 (雪ノ下一丁目432番2地点) ㉑. 北条泰時・時頼邸跡 (雪ノ下一丁目371番1地点) ㉒. 北条泰時・時頼邸跡 (雪ノ下一丁目372番7地点) ㉓. 北条泰時・時頼邸跡 (雪ノ下一丁目419番3地点) ㉔. 鶴岡八幡宮境内遺跡 (源平茶屋) ㉕. 東勝寺遺跡 ㉖. 北条泰時・時頼邸跡 (雪ノ下一丁目374番4地点)

谷北道跡でも奈良・平安時代の土器が採集されている。こういった点からみて、本地点が律令期の鎌倉に展開した集落のただ中にあることは間違いない。

平安時代末期には、正確な年月は未詳だが調査地点北方約250mの山腹に荏柄天神社が勧請されている。社蔵の『荏柄山天満宮略縁起』によれば、長治元年(1104)8月に里民が当地に社殿を建立したと伝える。後に源頼朝が大倉に館を造営した際、鬼門鎮守の社として崇められた。

この地がいつ頃から大倉と呼ばれはじめたかは不明だが、一説に頼朝によるともいう。また11世紀に源頼義・義家が鎌倉に初めて居館を構えたところとも伝える（『保曆間記』など）。

『吾妻鏡』治承四年（1180）十二月十二日条は、頼朝の新亭が「大倉郷」にてき移徒の儀が行われたことを記す。それは初め父義朝の亀ヶ谷の館跡に構えようとしたが、場所が広くない上に、すでに岡崎義実が義朝の菩提を弔うための寺院を建てていたので中止し、大庭景義に命じて大倉に新造したという。同書によるとその頃の鎌倉には由比郷・小林郷・大倉郷などがあつた。これらの郷が先の『和名類聚抄』の「鎌倉郷」に代わって平安時代に分立した新しい郷か、それとも頼朝が新たに「村里に号を授（同日条）」けたものか明らかでない。

さて、この「新亭」＝「大倉御所」は、以後頼朝・頼家・実朝のいわゆる源氏三代の将軍が幕政に当たる場所として、嘉禄元年（1225）まで45年間続く。この間調査地点付近の消息は『吾妻鏡』にしばしば伝わる。そのうち最も最近なのは、建保元年（1213）の和田の乱に関係する諸事件である。この乱の委細には謎が多いが、和田義盛が執権北条義時に対し、謀叛の企ての露顕した甥和田平太風長の処罰が背烈だとして挙兵したものの、利あらず、一族はほとんど滅んだ。この時、風長の「屋地」の取公をめぐって、乱の因ともなる相論が義盛や義時らの間に起きるが、その場所が「荏柄の前にあり、御所の東隣たるによって（三月二十日条）」とある。つまり調査地点近辺に他ならない。さらに五月四日、乱の時、「尼御台所（北条政子）御第」として「東御所」とみえ、貫達人氏はそれを「幕府の郭外で、東方の近くにあつた」と推定する。また貞應二年（1223）二月二十七日の記事から、「勝長寿院の北方にあたり、大体大倉幕府の東の辺と勝長寿院の奥を結ぶ線上にあつた」とした。<sup>註9</sup>「東御所」は建保元年八月一日条では「東殿」とも呼ばれている。『吾妻鏡』には義時の「大倉亭」についての記事もいくつか見え、貫氏はそれを、寛喜三年（1231）正月十四日条などから、杉本寺の西方で、二階堂大路の辺、つまり現在の関取橋の付近に比定している。以上を整理すると、大倉御所存続期の当地点一帯の居館について、それぞれの広さが不明なので決定するには至らないが、ほぼ次のような位置関係が想定されよう。

和田風長の屋敷は、三月二十日条により本地点北方のさほど遠くない場所であることがわかる。北条義時の「大倉亭」はおそらく、二階堂大路を挟んだ本地点向かい側である。すると、「大倉幕府の東の辺」だという「東御所（東殿）」の位置が問題となる。貫氏の推定に従うならば、それは風長の屋地の南側、義時亭の二階堂大路向かい側、つまり調査地点付近が最も妥当な場所ということになる。しかしもちろん、決め手があるわけではない。

話は前後するが、頼朝は文治元年（1185）、本地点南側の谷戸に父義朝追福のため勝長寿院を建て、続いて同五年（1189）、大倉の地に「靈地」を得て大刹永福寺を建てている（年代は両寺共に事始めの際のもの）。先述のように、六浦路から分れて永福寺惣門にいたる道は二階堂大路と呼ばれていたと考えられ、調査地点南辺を通じる路地がそれに当たる。なお、六浦路が朝比奈時をこえて六浦津まで通じるのは、仁治元年（1240）北条泰時が執権であつた時で、それ以前に六浦路の名はなかったと思われる。

嘉禄元年七月十一日、政子が死ぬ。すると十月三日には御所移転が群議され、翌四日に宇津宮辻子と若宮大路等の候補地が巡検される。この時はじめて丈尺が打たれている。そして十二月にははやくも新御所（「宇津宮辻子御所」）が完成し、二十日に將軍幕原頼経移徙の儀が行われた。豊ただしとしか言いようがないが、いずれにせよこの年に大倉御所は廃絶したわけである。これ以降政治の中心が若宮大路周辺に移ったため、調査地点周辺の記事は減る。だが、六浦津で陸揚げされた貨物や、六浦一帯で生産された塩などの搬路として六浦路が開かれてからは、その脇にあって、おおいに賑わっていたことは間違いない。建長三年（1251）と文永二年（1265）には、「大倉辻」が「鎌倉中」に設置された七ヶ所の商業地の一つに指定されている。この「大倉辻」は六浦路と二階堂大路の分岐点のことであろう。

『吾妻鏡』にはまたこの一帯の火事を伝える記事も頻りにみえるが、『北条九代記』等の記載と併せて『鎌倉市史 総説編』に詳しく、『向佐栢遺跡発掘調査報告書』に筆者も抜粋しておいたのでここでは繰り返さない。

鎌倉時代末の動乱期には、武蔵方面から朝比奈時を経て鎌倉に入ってくる敵を防ぐため、本地点から約400m東の杉木寺裏山に山城が築かれている（「杉木城」）。しかし建武四年（1337—南朝の延元二年）、鎌倉に攻め入った北畠顕家らの軍勢により陥落する（「鷓鴣神社務記録」他）。

降って文安三年（1446）二月十八日付の「白田憲景遺状」により、白田氏の屋敷が栢栢谷にあったことがわかるが、場所は明らかでない（『白田文書』）。

天文十七年（1548）、小田原城主北条氏康は栢栢社造営のため、現在の関取橋の名の由来ともなった関所を六浦路に設け、通行の人馬から税を徴収してそれに充てた（「栢栢神社造営関定書案」）。関所は西の橋詰にあったという。先年この場所が発掘調査され、それらしき礎石建物が検出されている。

江戸時代後期には、六浦路は相模湾の魚を江戸に返る交通路として、かなりな往来があったらしい。明治二年には調査地点北東に鎌倉宮が建立され、新たな参詣路が二階堂大路北側に平行して敷設された。現在のバス通りがそれである。

註1 赤星直忠『鎌倉市史 考古編』吉川弘文館 1959

2 註1に同じ

3 1980・1981・1983年度にそれぞれ調査。地点10出土遺物が註5の書で紹介されている。

4 1990年度に調査

5 馬淵和雄『大倉幕府周辺遺跡群 雪ノ下字大倉耕地569番1地点発掘調査報告書』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団 1990

6 河野真知郎他『今小路西遺跡（御成小学校内）発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会 1990

7 馬淵和雄他『向佐栢遺跡発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会 1985

8 馬淵和雄『鎌倉谷北遺跡』鎌倉谷北遺跡発掘調査団 1983

9 貫達人『北条氏平址考』『金沢文庫研究紀要』第8号 神奈川県立金沢文庫 1971 3～8頁

10 高柳光壽『鎌倉市史 総説編』吉川弘文館 1959（再版1967） 281・282頁

11 註5に同じ

## 第二章 調査の概要

掘削面積は全体で約1000㎡、その内集合住宅部分を大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団が、個人住宅部分を鎌倉市教育委員会が調査したが、遺跡発掘調査という作業の性格上、地区割りにおいても工程においても両者の明確な区分はそれほど意識していない。調査は1991年5月28日に始まり、試掘調査では認められなかった原始・古代遺構の検出という予想外の事態が加わったものの、ほぼ予定通り、1992年1月いっばいに終了した。

鎌倉市教育委員会文化財保護による試掘調査によれば、地表下およそ70～100cmにある中世基盤層の直上まで、ほぼ全面に近・現代の耕作土や客土層が認められるという。そこで調査に当たっては、深さ約70cmまで重機を導入し、以下を人力によって掘ることとした。調査区は全体的には東西に長く、北東部分が張り出した形をしている。のちに判明するが、南壁と西壁に沿って大きな溝が走行しており、この部分で基盤層が深く落ち込んでいる他、北東部を除いて大方後世に削平されている。

測量基準線の設置の際は、北西調査区外の任意の点から東西と南北の双方向に5m間隔の軸線を派生させ、前者に算用数字1以下の、後者にアルファベットA以下の名称を付した。東西軸を調査区南側の二階堂大路の主軸線に沿うようにしたため、南北軸は正南北方位に一致していない。南北

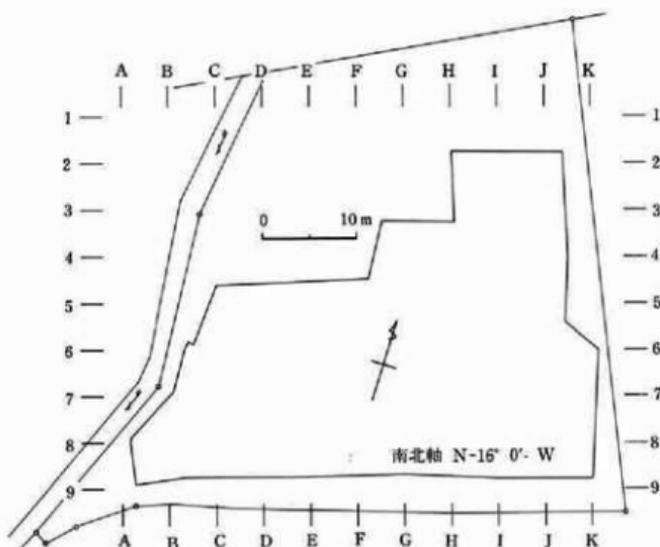


図3 調査区設定図

軸方位N-16°-W。各方眼区画の名称は、北西角の軸線交点を充てた。標高の基準杭は11.70mと12.20mに置いた。

発掘作業は5月の終わりに重機を導入して始められた。これは一週間ほどで終わるが、重機の後を追うかたちで、作業員による遺構面検出が続いた。残土は場外搬出を基本とした。先述のように、大半の部分は中世基盤層まで削平を被っており、近・現代層を剥がすすぐに遺構検出が可能となる。中世基盤層は鎌倉市内のほとんどを覆っている暗茶褐色または黒褐色の強粘性土で、中世遺構は次章で述べるように調査区全域にわたってまんべんなく検出された。

遺構掘削は南側と西側の溝部分から始め、漸次平坦面に移った。西側溝については中世以前に自然の河川であったことが判明したが、大量の埋土すべてを排出することは日程上不可能で、重機の導入も工程に危険が伴うところから、下層まで掘り下げることは断念した。

中世遺構は、検出面がほとんど削平されていたため、その大半を同一面上で検出した。したがって次章にみる通り、その主体は削平の弊をそれほど受けていない鎌倉時代前期にあり、それ以降のものについては、井戸や溝など限られた深い遺構にいくつか痕跡をとどめているに過ぎない。検出自体は比較的容易であったため、ここ数年の気象傾向である秋の長雨にもかかわらず、11月中旬に歴大な遺構の出た中世面の調査をほぼ終え、残りの期間を予定外の原始・古代の調査に充てることのできた。12月2日には気球による航空撮影を行う。

原始・古代遺構は、掘削開始直後から遺物が頻繁に採集されていたため、その存在が予想されていたが、やはりというべきか果して中世遺構の壁面からそれらしい落ち込みがいくつも確認されはじめた。それで中世面調査後の12月初めから検出作業に入り、以後調査終了までの2カ月を充当した。遺構は弥生時代から平安時代に及び、すべて中世面から10-20cm下にある黄白色の砂層上面に検出した。ほとんどが中世遺構によってひどく攪乱されていたため検出はかなり難渋したが、1992年1月31日に調査を終了した。

現地作業から報告書作成にいたる間、様々の方の御教示・助言をいただいた。名前を次に記して感謝の意を表する（順不同）。

吉田章一郎・吉岡康暢・石井進・細野善彦・服部敬史・小野正敏・大土周三・柳川清彦・服部実喜・大三輪龍彦・松尾宣方・玉林美男・永井正憲・福田誠・佐久間貴士・伊藤正義・亀井明徳・飯村均・合田芳正・金井安子・今泉潔・及川良彦・手塚直樹・河野真知郎・原広志・田代郁夫・菊川英政・宇野隆夫・鍋柄俊夫・田島明人・越田賢一郎・下川達彦・原田信男・河野通明・松尾剛次・三浦純夫・千葉季弥・松本建速・笹生衛・井上哲男

### 第三章 調査結果

#### 第1節 中世の遺構と遺物

当該期の遺構はおよそ次の通り

柱穴約2620口（掘立柱建物12棟・柱穴列6列を含む）・溝33条（石組雨落溝1条を含む）・道状遺構1条・土壇23基・井戸14基・土師器溜り5・埋納遺構1基・据置遺構1基・その他。

これらの遺構群は大きく二つに分けることができる。一つは調査区南壁と西壁に沿って走る溝とそれに伴う棚列や道路の部分であり、もう一つは掘立柱建物の密集する平坦面である。前者の溝は共に非常に大きく、後者の平坦面をその一部とする原敷地の境界を示すものと思われた。南壁のそれら溝や柱穴列は他の遺構群とは主軸方位を全く異にし、明らかに南側調査区外の旧二階堂大路軸線の規制を受けているところから、大路側溝とその関連施設であることは間違いない。また、西壁のそれが東御門川田流路で、同時に大倉御所東側の堀であることも言をまたない。いずれも頻りに改修・浚渫されながら、最近まで機能していたことが窺えた。

前章で述べたように、中世基盤層は調査区北東部を除いて大半が削平を受けているため、ほとんどの遺構は暗茶褐色土上面で検出された。この面の標高は調査区北城でおよそ11.50m前後、南西城はより深い削平を受けているために、11m前後にある。このような事情により、検出遺構の過半は鎌倉時代前期に属し、おそらく上層に存在していたであろうそれ以降のものは、井戸や溝・土壇など深い掘方をもつものに限られる。またこの状況は、切込み面の層序による遺構の新旧判断を困難にし、切合い関係のみを確実な基準とすることを我々に余儀なくした。

##### 1 二階堂大路関連施設

溝1～20・柱穴列1～5などが相当する。先述のように、これらの主軸方位は他の遺構とは異なり、二階堂大路のそれに一致している。二階堂大路そのものは、頻繁な溝の掘削によって調査区内ではほとんど消滅しており、東南角近くでわずかにその痕跡をとどめるにすぎない。

##### a 二階堂大路側溝（図5～11）

鎌倉時代初期から近世にかけ、20数回にわたって付け替えられており、その結果全体として複雑な据方形状を呈するようになった。またD軸近辺からH軸東側付近にかけて、近代期の池に大きく攪乱されているため、延長に不明な点が多い。しかも残念なことに、西壁沿いの東御門川田流路を近代に付け替える際、破砕シルト岩の地業を地表下深く行っているため、合流地点の様相も全く把握できなかった。

これらの溝は大きく四期の群に分けることができる。ただ溝という遺構の性質上、出土遺物にかなり混乱のあることは避けがたく、図7～11に提示したのは、個別に出土溝を確定できたものにと

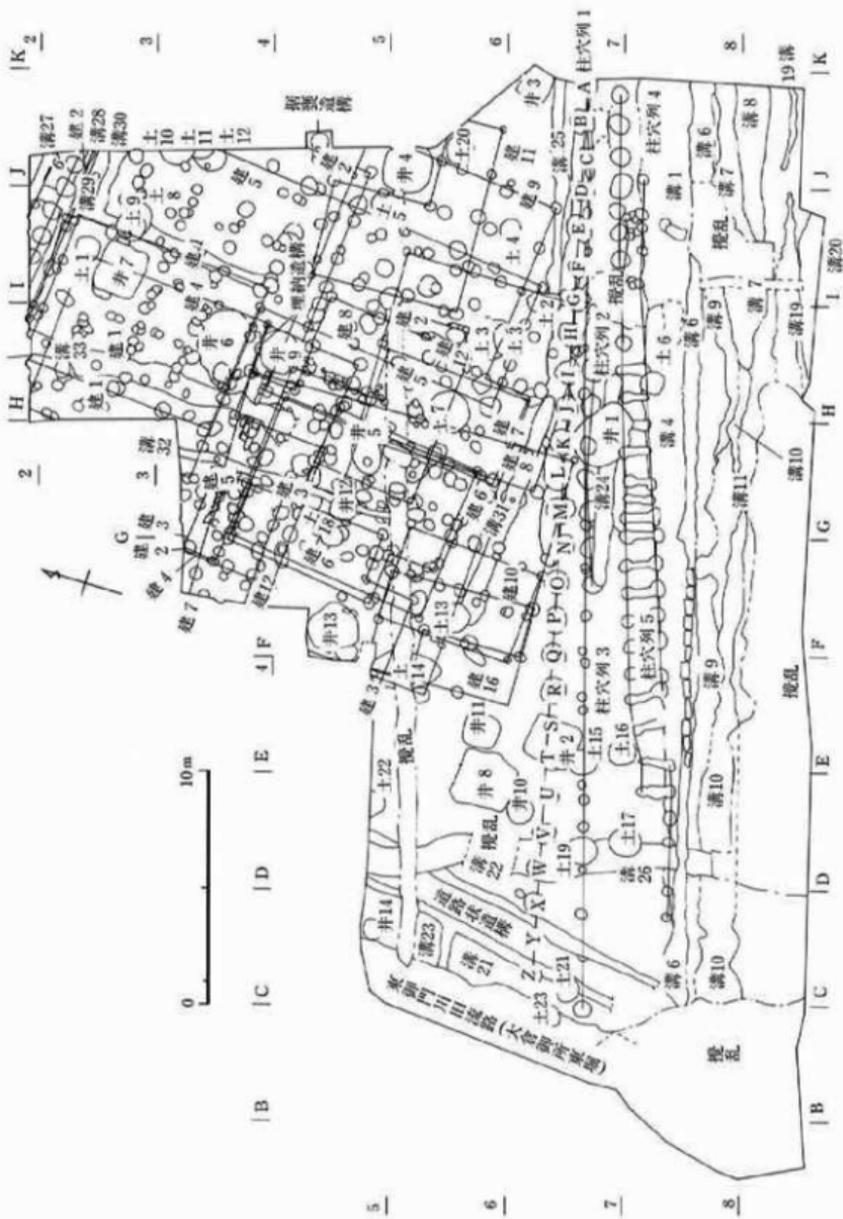


図4 中世遺構配置図

どまる。

**I期** この一群は概ね整った箱型の断面を呈し、側溝のなかでは最も北側に位置している（溝1～6）。後述する柱穴列のうち、1・2・4などがこの時期に属する。年代は鎌倉時代初期～前期とみてよからう。幅はそれぞれ溝によっても、場所によっても異なるが、大体底部で90cm程度である（不明）。このうち溝6は約60cm前後と他よりも狭く、E軸からG軸にかけて凝灰質砂岩（「鎌倉石」）切石が縦列に置かれている。なおこの時期に伴うとみられる砂礫の硬化層が調査区東壁際にわずかに認められた。二階堂大路の版築の下部層の可能性もある。

**II期** この時期になると、溝は8軸付近に移動する（溝7～11）。この時期には総じて逆台形または皿型の断面になり、幅は広いもので約120cm、狭いもので60～70cm程となる。東壁際南側に残る二階堂大路の痕跡は、この時期に伴う可能性が強い。年代は、遺物にやや混乱があるが、鎌倉時代後期～南北朝時代と思われる。H軸付近以西は攪乱されて委細不明。

**III期** この時期の一群はやや北側に後退し、I期群とII期群の中間に位置する（溝12～16）。この期のものは概ねV字形または蕨研形の断面をしており、上部の幅は推定約90cm～120cm程と思われる。年代は、これも遺物に混入が多いが、大体室町時代～戦国時代であろう。

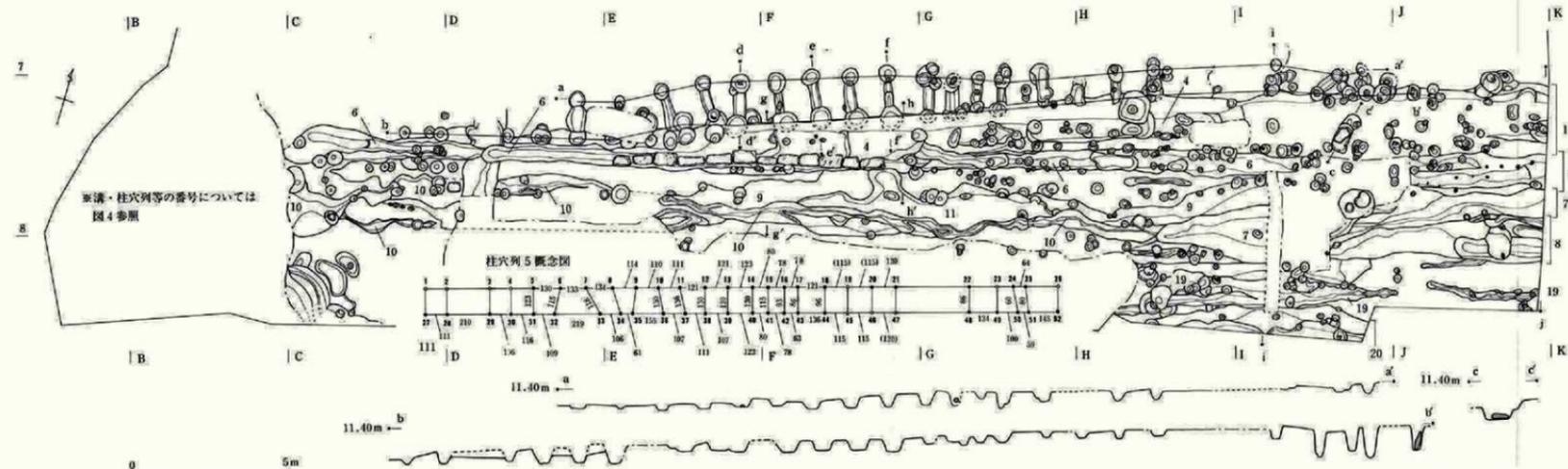
**IV期** 敷地が前面にせりだしたとみえ、側溝は調査区南辺にまで移動する（溝17～20）。溝断面は逆台形を呈するが、貧弱な上帯水した痕跡もなく、形骸化というに近い。出土遺物に乏しく、年代を確定しがたいが、江戸時代以降とみられる。

#### b 柱穴列1～5（図12～14）

1 二階堂大路側溝の北側を平行して東西に走る。調査区内だけで25間の柱間があり、さらに東側に延びるのは間違いない。西側については東御門川旧流路上層の近代掘込み地業により、続きを確認できなかった。主軸方位は二階堂大路側溝I期の溝のうち、とりわけ溝6によく一致し、出土遺物の年代も共通するところから、両者併存の可能性が強い。一部を除き平行する列がなく、横列を想定させるが、柱穴はどれも直径1mを超える整った円筒形で、非常に大型の堅固な上部施設を考えざるをえない。柱根等を検出できなかったので柱の詳細は不明。いくつかに残る根固めの石の状況から、柱は抜き去られた可能性がある。柱穴B～N間に溝25を伴う。出土遺物の年代は、鎌倉時代のごく初期に比定される。

2 柱穴列1の柱穴I～O南側に平行する。主軸方位が僅かに1とずれているものの、並び自体はよく揃っている。1の付帯施設の可能性もある。出土遺物は少ないが、態様からみて1と同時期であろう。これも大体円筒形をしているが、直径90cm前後で、柱穴は1のそれよりも一回り小さい。この柱穴列に接するように、すぐ南側にはほぼ同じ長さの溝24がある。付帯施設の可能性が考えられよう。

3 柱穴列1の南側にある。横列であろう。後述する4・5ほどではないが、これも1とは少し主軸方位がずれる。東側は調査区外に延び、西側は1と同様の理由で不明。1や2、後述の4などと比較して、柱穴は二回り以上小さく、並びも疎らで、粗略になった印象を拭えない。1の柱穴A



階層・部屋	面積	容積
P1		
P2		
P3		
P4		
P5		
P6		
P7		
P8		
P9		
P10		
P11		
P12		
P13		
P14		
P15		
P16		
P17		
P18		
P19		
P20		
P21		
P22		
P23		
P24		
P25		
P26		
P27		
P28		
P29		
P30		
P31		
P32		
P33		
P34		
P35		
P36		
P37		
P38		
P39		
P40		
P41		
P42		
P43		
P44		
P45		
P46		
P47		
P48		
P49		
P50		
P51		
P52		
P53		
P54		
P55		
P56		
P57		
P58		
P59		
P60		
P61		
P62		
P63		
P64		
P65		
P66		
P67		
P68		
P69		
P70		
P71		
P72		
P73		
P74		
P75		
P76		
P77		
P78		
P79		
P80		
P81		
P82		
P83		
P84		
P85		
P86		
P87		
P88		
P89		
P90		
P91		
P92		
P93		
P94		
P95		
P96		
P97		
P98		
P99		
P100		

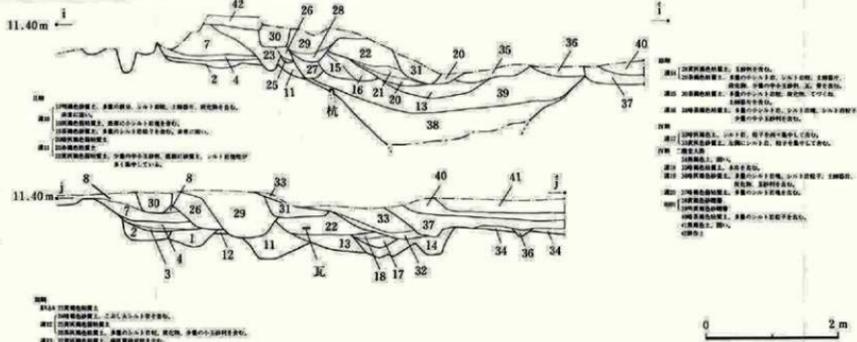
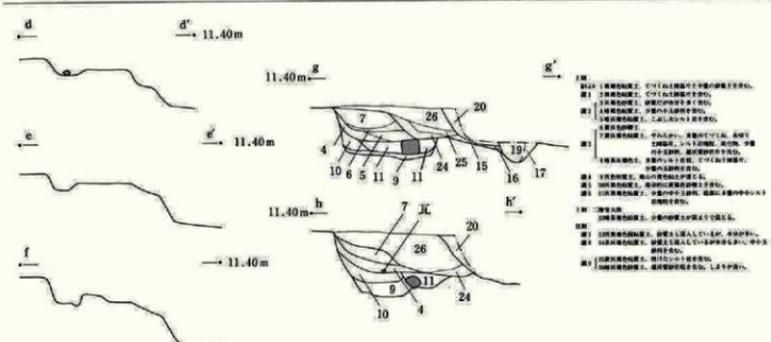


図5 二層式大径円道トンネル

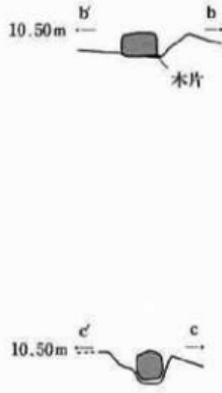
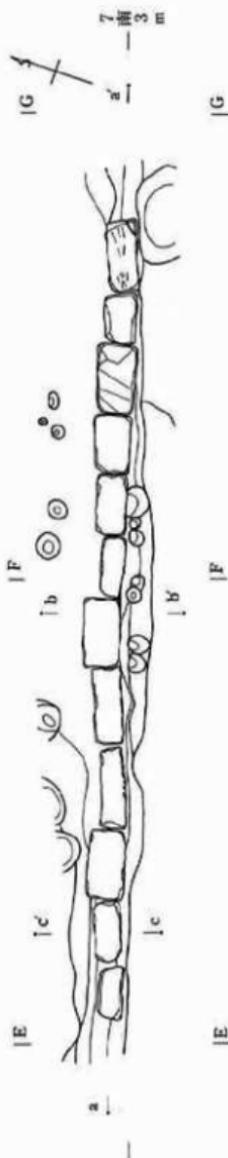


图6 溝切石列

・Bを切る。年代判定の材料を欠くが、鎌倉時代中期以降に盛行する2mの柱間がいくつかみられる。

4 ほぼ7軸上の東壁寄りにある。東側は調査区外に延びる可能性がある。これも遺物に乏しいものの、2と同様の様相を持つ点や、1期の溝2に主軸方位が一致している点からみて、平行した時期が考えられよう。

5 二つの柱穴を溝でつなぐ、「布風」または「溝持ち」形式の掘方を持つ。西側と東側は明瞭に検出していないが、西側は削平されたともみられる。これはおそらく、千葉地東遺跡や若宮大路周辺遺跡群雪ノ下一丁目210番他地点などですでに検出されている、溝側板をとめる柱と、それを背後から引いて支える控え柱の掘方であろう。なお鎌倉市内におけるこの形態の溝の検出例は、今のところ鎌倉時代中期以降である。

## 2 東御門川旧流路（大倉御所東堀）と関連施設

調査区の西端を流れる東御門川という小さな川は、鎌倉時代前期に大倉御所の東を限る堀の役割を果たしていたことは間違いない。調査区西壁沿いに検出した大溝はその旧状であり、それに平行する遺状遺構はその東側の通りだと思われる。

### a 東御門川旧流路（図15・16）

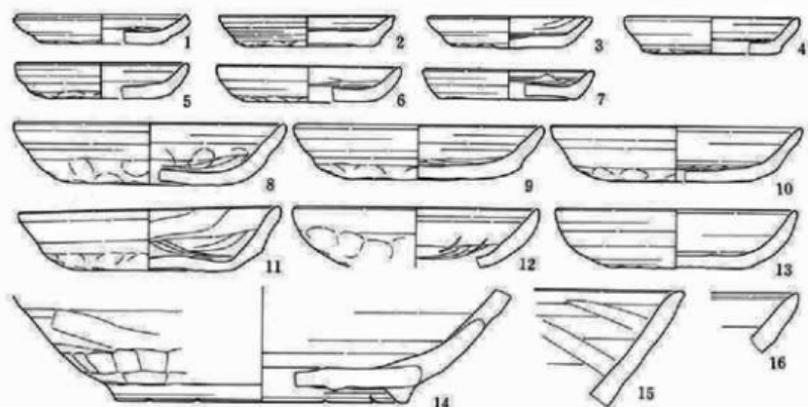
流路壁は約30°～45°の傾斜で西に向かって落ち、対岸は調査区外にあるものの、逆台形の箱状になると予想される。先に述べたとおり、この上部には近代の流路付け替え時のシルト岩による地業が深く入り込んでいるため、二階堂大路側溝との交点付近の状況は不明である。また検出した大溝は、出土遺物から大体15世紀以降掘削されたものと思われ、中世初期の形状はこの部分では窺えない。溝肩口に柱穴の並びなどがみられないことなどと併せ、この頃に削り取られた事も考えられる。出土遺物も年代的に混乱している。

川を挟んだ臨地の雪ノ下字大倉耕地569番1地点で流路対岸の肩が検出されており、年代が違うので単純な対応には無理があるにしても、ひとまず幅約9mという数値が得られた。ただこの数値は全容判明まで保留しておきたい。

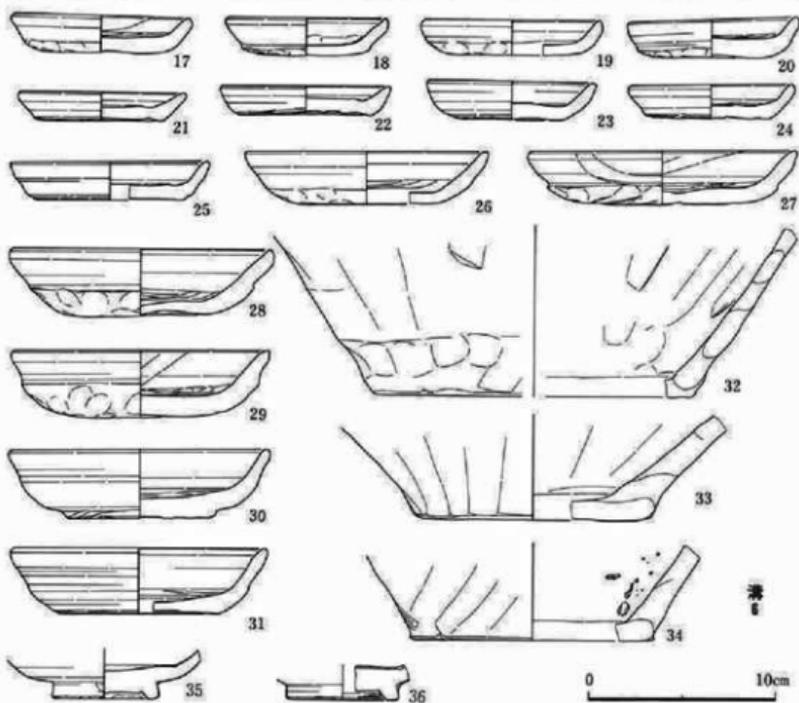
中世期の底面からは、中世以前の河川も検出された。このことは大倉御所の堀が、すでに存在していた自然流路を踏襲して作られた可能性があることを示している。

### b 遺状遺構（図15）

東御門川旧流路東岸に平行する2本の溝（21・22）がある。溝に挟まれた幅120cm前後の平坦面に版築層が認められたので道としたが、土塁の基底部の可能性もある。北は調査区外に延び、南は攪乱されて不明である。主軸方位はN-10°-Eで、流路とは僅かにずれるが関連施設とみてよからう。溝21からは東御門川旧流路に向け溝23が派生する。出土遺物に乏しく年代判定の材料を欠くが、両側の溝出土遺物から概ね鎌倉時代前期に比定される。



溝1



溝6

図7 溝1・6出土遺物

溝 1	1	土師器	法量 口径9.25cm 底径6.4cm 器高1.6cm 砂含む 色調 灰褐色	器高1.6cm 焼成 良好	成形 手づくね	胎土 微量の
	2	土師器	法量 口径9.4cm 底径6.7cm 胎土 微量の砂含む 色調 灰褐色	器高1.65cm 焼成 良好	成形 手づくね	内底部ナデ
	3	土師器	法量 口径8.65cm 底径5.8cm 器高1.6cm 胎土 小石、針状物質含む 良好 完形	色調 橙色 焼成	成形 手づくね	口縁から内底にかけてナデ 底部手頭痕
	4	土師器	法量 口径9.4cm 底径6.9cm 器高1.95cm 胎土 針状物質含む 色調 淡橙色	器高1.95cm 焼成 良好	成形 手づくね	胎土 赤色小石
	5	土師器	法量 口径9.3cm 底径6.0cm 器高1.9cm 胎土 針状物質含む 良好	器高1.9cm 焼成 良好	成形 手づくね	口縁から内底にかけてナデ 底部手頭痕
	6	土師器	法量 口径9.9cm 底径6.8cm 器高1.95cm 胎土 針状物質、砂粒含む 色調 橙色	器高1.95cm 焼成 良好	成形 手づくね	口縁部ナデ
	7	土師器	法量 口径9.2cm 底径7.8cm 器高1.6cm 胎土、赤色小石、針状物質 良好	器高1.6cm 焼成 良好	成形 ロクロ	外底部回転糸切り内 底部ナデ スノコ痕有り
	8	土師器	法量 口径14.6cm 底径8.1cm 器高3.3cm 胎土 針状物質、雲母含む 良好	器高3.3cm 焼成 良好	成形 手づくね	口縁部、内底部ナ デ 内底指頭痕
	9	土師器	法量 口径13.3cm 底径7.6cm 器高2.9cm 胎土 微量の砂粒含む 良好	器高2.9cm 焼成 良好	成形 手づくね	口縁部、内底部ナ デ 底部手頭痕 スノコ痕有り
	10	土師器	法量 口径13.45cm 底径7.3cm 器高2.9cm 胎土 赤色小石、小石含む 良好	器高2.9cm 焼成 良好	成形 手づくね	口縁部ナデ 底 部手頭痕 スス付着
	11	土師器	法量 口径14.15cm 底径8.3cm 器高3.3cm 胎土 針状物質、少量の小石含む 良好 完形 備考 底物質カキ傷有り	器高3.3cm 焼成 良好	成形 手づくね	口縁部内底部ナ デ 底部手頭痕
	12	土師器	法量 口径13.2cm 底径7.6cm 器高3.1cm 胎土 針状物質、赤色小石、砂粒、雲母含む、やや粗い 良好	器高3.1cm 焼成 良好	成形 ロクロ	外底部回転糸切り 色調 橙色
	13	土師器	法量 口径13.0cm 底径7.6cm 器高3.1cm 胎土 針状物質、赤色小石、砂粒、雲母含む、やや粗い 良好	器高3.1cm 焼成 良好	成形 ロクロ	外底部回転糸切り 色調 橙色
	14	渚美 こね鉢	法量 底径15.5cm 器高2.0cm 胎土 堅緻 小石若干含む 色調 暗灰色	器高2.0cm 焼成 普通	成形 輪積	高台貼り付け 外面下位回転ヘラ削り後指頭ナデ
	15	渚美 こね鉢	成形 胴部上位から口縁にかけて横位のナデ 内外面に自然釉 色調 灰褐色	胎土 砂質 小石若干含む 焼成 普通	胎土 砂質	小石若干含む 口縁部
	16	常滑 こね鉢	成形 口縁内外面横位のナデ 内面に除灰 焼成 普通	胎土 暗灰褐色 小石、粗砂含む 色調 褐色	胎土 暗灰褐色	小石、粗砂含む
	溝 6	17	土師器	法量 口径9.7cm 底径6.0cm 器高2.0cm 胎土 小石、砂、針状物質含む、気孔有り 良好	器高2.0cm 焼成 良好	成形 手づくね

表1 溝1・6出土遺物観察表(1)

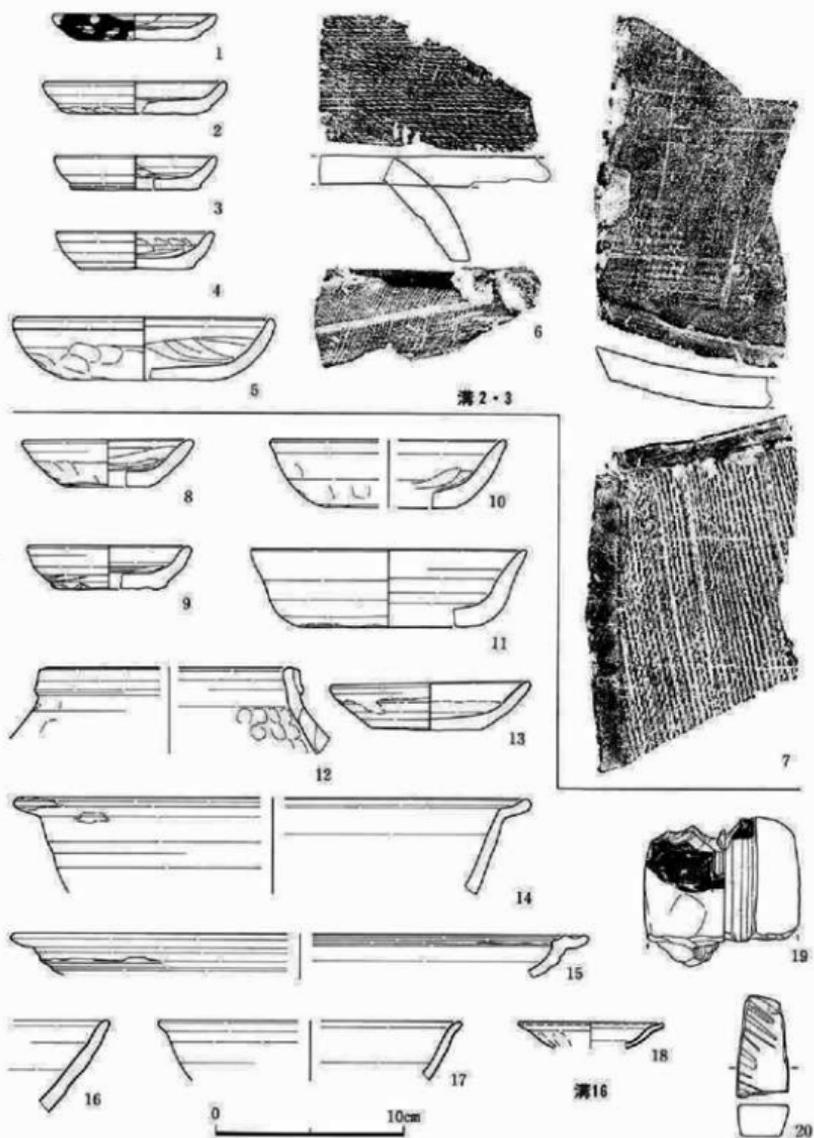


图8 清2·3·16出土遗物

講 6	18	土師器	法量 口径8.7cm 底径5.0cm 器高2.0cm 内底部ナデ好	胎土 微砂粒、針状物質含む	成形 手づくね、指頭痕有り 色調 灰褐色	口縁部、内底部ナデ 焼成 良好
	19	土師器	法量 口径9.7cm 底径6.2cm 器高1.9cm 胎土 微量の砂、針状物質含む、		成形 手づくね 色調 灰褐色	口縁部、内底部ナデ 焼成 良好
	20	土師器	法量 ナデ 口径9.3cm 底径5.5cm 器高2.1cm 胎土 小石、多量の砂、針状物質含む、 焼成 良好		成形 手づくね 色調 橙褐色	口縁部から内底部 気孔有り
	21	土師器	法量 口径9.0cm 底径6.8cm 器高1.5cm 内底部ナデ スノコ痕有り 胎土 多量の砂、針状物質含む、 焼成 良好		成形 ロクロ 色調	外底部回転糸切り やや粗い
	22	土師器	法量 口径9.15cm 底径7.2cm 器高1.55cm 内底部ナデ スノコ痕有り 胎土 多量の砂、針状物質含む、 焼成 良好		成形 ロクロ 色調 灰褐色	外底部回転糸切り やや粗い
	23	土師器	法量 口径9.1cm 底径5.4cm 器高2.0cm 内底部ナデ スノコ痕有り 胎土 砂、少量の赤色砂粒、針状物質含む 焼成 良好		成形 ロクロ 色調	外底部回転糸切り 灰褐色
	24	土師器	法量 口径8.95cm 底径6.2cm 器高1.8cm 内底部ナデ スノコ痕有り 胎土 砂、小石、針状物質含む 焼成 良好		成形 ロクロ 色調 灰褐色	外底部回転糸切り 口縁部スス付着
	25	土師器	法量 口径10.7cm 底径8.0cm 器高2.0cm 内底部ナデ 内底部に溝状のカキ傷有り 胎土 砂粒含む 焼成 良好		成形 ロクロ 色調 灰褐色	外底部回転糸切り 内底部ナデ
	26	土師器	法量 口径13.0cm 底径7.2cm 器高2.75cm 胎土 微砂粒、針状物質含む 色調 灰褐色		成形 手づくね 色調 灰褐色	口縁部、内底部ナデ 焼成 良好
	27	土師器	法量 口径14.5cm 底径8.5cm 器高2.6cm 内外部強いナデ スノコ痕有り 胎土 針状物質含む 焼成 良好		成形 手づくね 色調 灰褐色	口縁部、内底部ナデ 内外部強いナデ
	28	土師器	法量 口径14.2cm 底径7.0cm 器高3.5cm 外底部カキ傷有り 胎土 小石、針状物質含む、 焼成 良好		成形 手づくね 色調 灰褐色	口縁部、内底部ナデ 外底部カキ傷有り
	29	土師器	法量 口径13.1cm 底径6.0cm 器高3.55cm スノコ痕有り 胎土 針状物質、微砂粒含む 良好		成形 手づくね 色調 灰褐色	口縁部、内底部ナデ スノコ痕有り
	30	土師器	法量 口径14.0cm 底径8.0cm 器高3.7cm 胎土 多量の微砂粒含む 色調 灰褐色		成形 ロクロ 色調 灰褐色	外底部回転糸切り 焼成 良好
	31	土師器	法量 口径13.75cm 底径8.2cm 器高3.5cm 口縁部強いナデ、内底部ナデ 胎土 針状物質含む 成 良好		成形 ロクロ 色調 灰褐色	外底部回転糸切り 焼成 良好
32	常滑 埴	法量 底径17.2cm 胎土 暗灰褐色 小石含む	成形 輪積 色調 明褐色	内外面横ナデ 内面に丹灰	外底部へラ調整後ハケ調整 焼成 普通	
33	常滑 こね鉢	法量 底径12.7cm 胎土 暗灰褐色 小石含む、 焼成 普通	成形 内面下位から内底にかけ横位のナデ 色調 明褐色	内外面横ナデ 外底部へラ調整	外面下位から底部 きめ細かい 焼成 普通	

表2 溝1・6出土遺物観察表(2)

溝 6	34	常滑 甕	法量 底径13.0cm 成形 内外部横ナデ 外面ハケ 胎土 灰色 きめ細かい 色調 自然釉 内面灰緑色 外面明褐色 焼成 普通
	35	青磁 龍泉窯 碗	法量 底径5.6cm 成形 ロクロ 高台削り出し 文様 内面体部に荷花文書 地 淡褐色 高台部暗灰色 釉薬 緑味褐色透明 高台登付、 高台内露胎 焼 成 やや不良
	36	青磁 龍泉窯 碗	法量 底径6.0cm 成形 ロクロ 高台削り出し 素地 灰白色、気孔多い 釉薬 灰緑色半透明 高台登付、高台内露胎 焼成 良好

表3 溝1・6出土遺物観察表(3)

溝 2・ 3	1	土師器	法量 口径9.7cm 底径5.7cm 器高1.4cm 成形 手づくね 口縁部、内底部ナ デ 外面にスス付着 胎土 砂粒、針状物質含む 色調 灰褐色 焼成 良好
	2	土師器	法量 口径9.7cm 底径6.7cm 器高1.7cm 成形 手づくね 口縁部ナデ 胎土 針状物質、微砂粒含む、きめ細かい 色調 灰褐色 焼成 良好
	3	土師器	法量 口径8.65cm 底径6.4cm 器高1.8cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り内 底部ナデ 胎土 小石、赤色粗砂粒、針状物質含む、やや粗い 色調 褐色 焼成 良好
	4	土師器	法量 口径8.5cm 底径6.0cm 器高2.0cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り内 底部ナデ 胎土 針状物質、砂粒含む、やや粗い 色調 褐色 焼成 良 好
	5	土師器	法量 口径14.0cm 底径8.0cm 器高3.3cm 成形 手づくね 口縁部ナデ 胎土 針状物質、粗砂粒含む 色調 灰褐色 焼成 良好
	6	丸瓦	法量 厚さ1.45cm 成形 凸面縄目叩き 凹面粗布目 胎土 暗灰色瓦質砂粒 含む、きめ細かい 色調 暗灰色 焼成 普通
	7	平瓦	法量 厚さ1.6cm 成形 凸面縄目叩き 凹面糸切り、砂付着 胎土 暗灰色 須恵質、砂粒含む 色調 胎芯部灰色 焼成 普通
溝 16	8	土師器	法量 口径9.2cm 底径4.4cm 器高2.5cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り内 底部ナデ 胎土 赤色粗砂粒、針状物質含む、やや粗い 色調 褐色 焼 成 良好
	9	土師器	法量 口径8.8cm 底径6.2cm 器高2.3cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切りス ノコ痕有り 胎土 小石、赤色砂粒、針状物質含む、やや粗い 色調 褐色 焼成 良好
	10	土師器	法量 口径12.4cm 底径7.0cm 器高3.6cm 成形 ロクロ 外底部回転内底部ナ デ 胎土 小石、赤色砂粒、針状物質含む、やや粗い 色調 褐色 焼成 良好
	11	土師器	法量 口径14.8cm 底径9.6cm 器高4.2cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 胎土 小石、針状物質含む、やや粗い 色調 暗灰褐色 焼成 良好
	12	常滑 壺	法量 口径14.3cm 成形 輪積 口縁部内外面ナデ 肩部内面指頭瓦痕 胎土 灰褐色、小石、粗砂多く含む 色調 赤褐色 焼成 普通 備考 表面 酸化現象

表4 溝2・3・16出土遺物観察表(1)

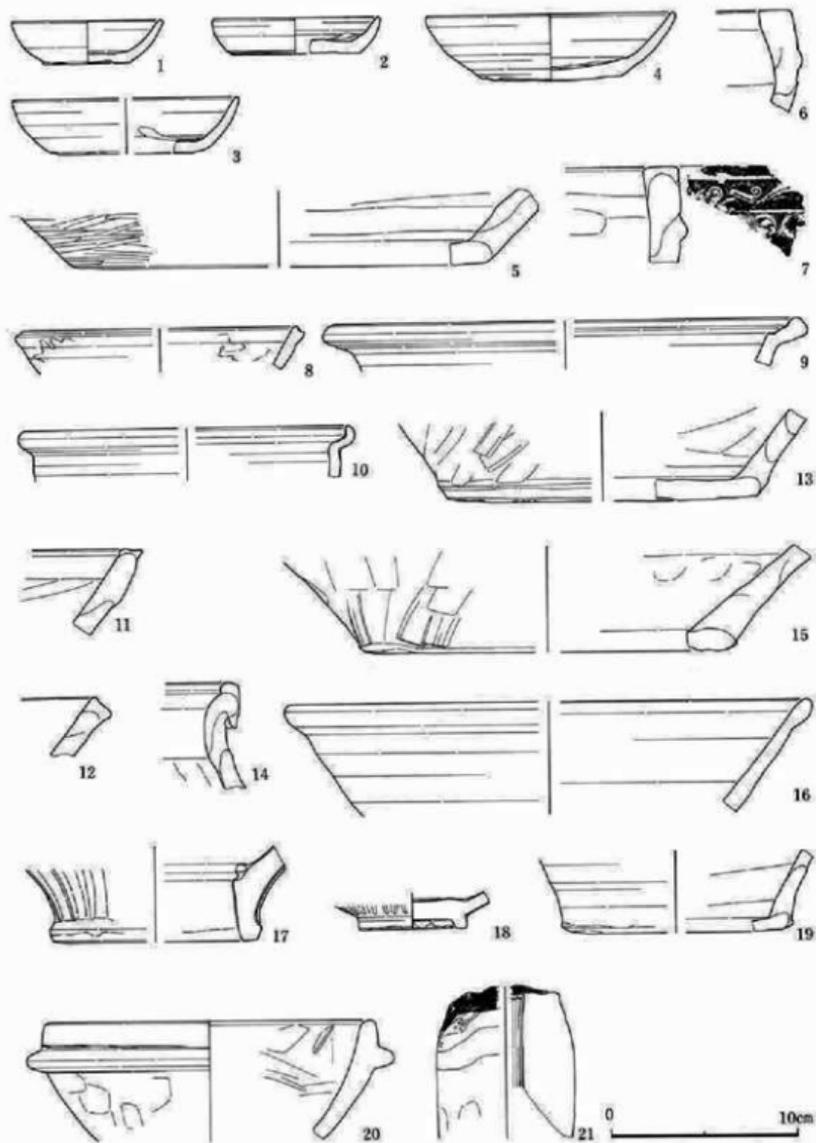


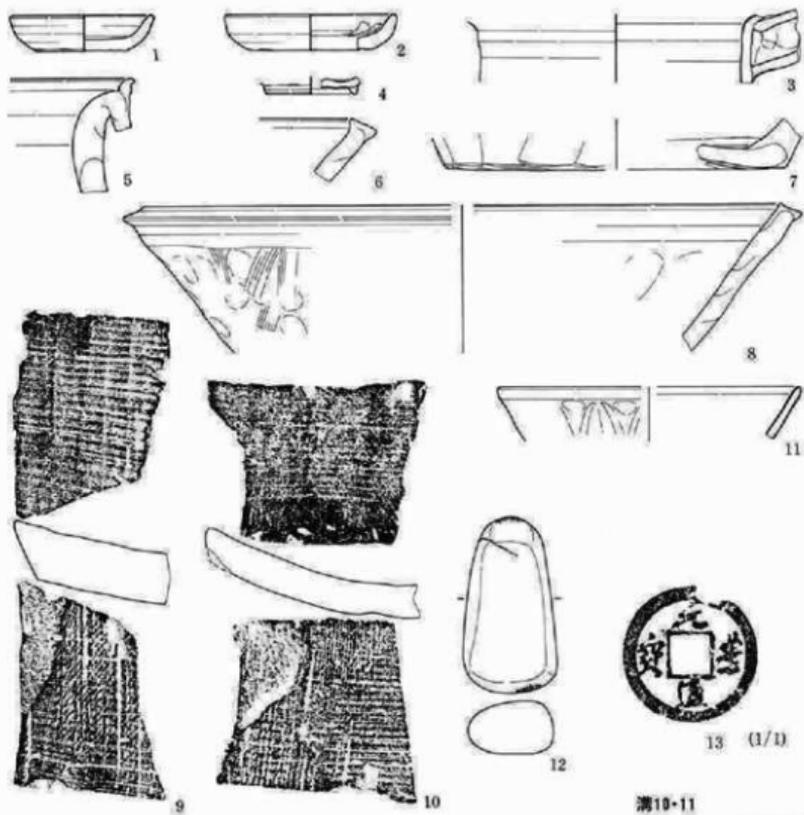
图9 溝7・8出土遺物

溝 16	13	瀬戸 緑軸小皿	法量 口径10.7cm 底径5.8cm 器高2.3cm 素地 黄褐色、微気孔有り 釉薬 淡緑色灰釉、一部白濁	成形 ロクロ	外底部回転糸切り素 焼成 良好
	14	瀬戸 折縁深皿	法量 口径27.0cm 灰釉透明	成形 ロクロ 素地 灰褐色、きめ細かい	釉薬 淡緑色 焼成 良好
	15	瀬戸系 折縁皿	法量 口径30.8cm 二次焼成で表面が白濁	成形 ロクロ 素地 黄灰色、微気孔有り	釉薬 灰釉、 むら有り
	16	瀬戸 太平鉢	法量 口径29.0cm 釉薬 淡黄褐色灰釉透明	成形 ロクロ 口縁部横ナゲ	素地 灰白色、気孔有り 焼成 良好
	17	青磁 龍泉窯系 碗	法量 口径16.0cm 色、透明	成形 ロクロ 素地 灰白色	釉薬 緑味を帯びた褐 色、透明 焼成 良好
	18	青白磁 口瓦小皿	法量 口径7.8cm 素地 白色、きめ細かい	成形 ロクロ 体部中位から外反	文様 外面体部蓮弁文 釉薬 淡青色、二次焼成で白濁、口縁部露胎 焼成 良好
	19	瀬戸	法量 口径8.3cm 孔径3.4cm 胎土 小石、粗砂粒含む、気孔有り	成形 棒に粘土を巻き付けて成形	外面ナゲ先端 部露胎 色調 先端部暗灰色 体部灰褐色 焼成 良好
	20	磁石	法量 (長さ5.3cm) 幅2.7cm 厚さ1.7cm 色調 灰緑色	備考 4面とも砥面	石材 石灰岩

表5 溝2・3・16出土遺物観察表(2)

溝 7・ 8	1	土師器	法量 口径8.1cm 底径4.6cm 器高2.25cm 胎土 赤色小石粒子含む	成形 ロクロ	外底部回転糸切り内 底面ナゲ スノコ痕有り 色調 灰褐色 焼成 良好
	2	土師器	法量 口径9.1cm 底径6.9cm 器高1.9cm 胎土 砂含む	成形 ロクロ	外底部回転糸切り内 底面ナゲ スノコ痕有り 色調 灰褐色 焼成 良好
	3	土師器	法量 口径12.1cm 底径7.0cm 器高2.95cm 胎土 赤色小石粒子、砂粒含む	成形 ロクロ	外底部回転糸切り 色調 褐色 焼成 良好
	4	土師器	法量 口径13.1cm 底径6.8cm 器高3.5cm 胎土 赤色砂粒、針状物質、小石含む	成形 ロクロ	外底部回転糸切り内 底面ナゲ スノコ痕有り 色調 褐色 焼成 良好
	5	火鉢	法量 底径21.2cm 胎土 灰褐色瓦質 砂粒含む、気孔有り	成形 輪轆 内面横ナゲ	外面横位のへら磨き 色調 器表面暗灰色 焼成 普通
	6	火鉢	成形 内面横位のナゲ	外面へら磨き	文様 外面口縁から下へ沈線、菊花文押印、 透珠文 胎土 灰褐色瓦質 色調 外面暗灰色 焼成 普通
	7	火鉢	法量 口径24.8cm 胎土 灰褐色瓦質	成形 内面横ナゲ	外面横位のへら磨き 色調 内面橙褐色 焼成 やや不良
	8	瀬戸 おろし皿	法量 口径15.4cm 釉薬 淡灰緑色透明	成形 口縁部横ナゲ	素地 灰色 小石含む、やや粗い 焼成 良好
	9	瀬戸 折縁皿	法量 口径25.8cm 釉薬 緑褐色透明	成形 ロクロ 素地 灰褐色	砂粒、小石含む、やや粗い 焼成 良好
	10	瀬戸 折縁皿	法量 口径17.9cm 焼成 良好	成形 ロクロ 素地 灰褐色	釉薬 緑褐色透明

表6 溝7・8出土遺物観察表(1)



清9·10·11

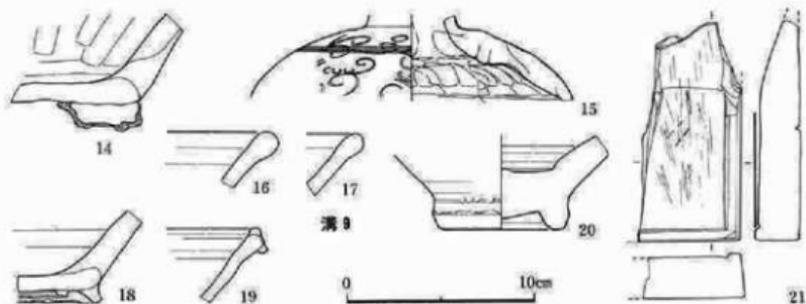


圖10 清9·10·11出土遺物

溝7・8	11	常滑 こね鉢	成形 内外部横ナデ 良好	胎土 石英、砂粒、小石含む	色調 明褐色	焼成
	12	常滑 こね鉢	成形 内外面上位横ナデ 成 良好	胎土 暗灰褐色 小石含む	色調 黒褐色	焼
	13	常滑 こね鉢	法量 底径16.6cm 胎土 暗灰褐色、白色クレー粒含む	成形 輪楕 外底部輪横ナデ、外底面へラ調整後ハケ目 色調 外底部赤褐色	焼成 普通	
	14	常滑 甕	成形 輪楕 口縁部内外面横ナデ 焼成 良好	胎土 赤色砂粒、粗砂含む	色調 赤褐色	
	15	常滑 甕	法量 底径20.2cm 内部指頭痕	成形 輪楕 底部輪内外面横ナデ 外面指頭状工具による調整 胎土 灰褐色	色調 赤褐色 内側に降灰	焼成 良好
	16	山崎陶窯 こね鉢	法量 口径28.2cm 色調 灰色	成形 輪楕後ロクロ 焼成 良好	胎土 砂粒、小石含む、やや粗い	
	17	青磁 龍泉窯酒会甕	法量 底径9.6cm 文 志地 灰白色	成形 ロクロ 底部を軸差で体部に接着 軸差 青灰色失透 高白瓷付露胎	文様 外面蓮弁 焼成 良好	
	18	青磁 龍泉窯 甕	法量 底径5.7cm 文 素地 暗灰色、緻密	成形 ロクロ 高台削り出し、へラ調整 軸差 暗灰緑色半透明	文様 外面蓮弁 焼成 ちら有り	
	19	黒釉 甕	法量 底径12.4cm 有り 色調 灰色	成形 ロクロ 内面横ナデ 焼成 良好	素地 小石、砂粒含む、気孔	
20	滑石鍋	法量 口径17.6cm 調 灰赤味褐色	成形 口縁外面に横位の削り痕 体部内外面に使用痕 備考 鍋下にスス付着	色		
21	羽口	法量 最大径7.1cm 赤色砂粒、針状物質含む、気孔有り	成形 棒に粘土を巻き付けて成形 色調 暗褐色	外面にナデ 焼成 良好	胎土	

表7 溝7・8出土遺物観察表(2)

溝10・11	1	土師器	法量 口径7.0cm 底径4.2cm 器高1.9cm 底面ナデ スノコ痕有り	成形 ロクロ 外底部回転糸切り内 胎土 小石含む	色調 暗褐色	焼成 良好	
	2	土師器	法量 口径9.1cm 底径6.6cm 器高1.85cm 胎土 小石、砂粒、針状物質含む	成形 ロクロ 外底部回転糸切り内 色調 灰褐色	焼成 良好		
	3	瀬戸 行平	法量 胴部径14.6cm 釉薬 灰釉 透明	成形 ロクロ 把手貼り付け 焼成 良好	胎土 灰白色	きめ細かい	
	4	瀬戸内系 土器碗	法量 底径4.8cm 砂粒含む	成形 手づくね 高台貼り付け 色調 器表面近く灰茶褐色	胎土 暗灰色	きめ細かい 焼成 良好	
	5	常滑 甕	成形 輪楕 口縁部横ナデ 焼成 良好	胎土 砂粒含む、きめ細かい	色調 暗灰褐色		
	6	常滑 こね鉢	法量 口径25.2cm 孔有り、やや粗い	成形 輪楕 口縁部横ナデ 色調 暗灰褐色	胎土 白色砂粒、小石含む気 焼成 良好		

表8 溝9・10・11出土遺物観察表(1)

溝 10 ・ 11	7	常滑 こね鉢	法量 底径18.2cm 成形 輪積 内底部ナデ、外面下部ヘラナデ 外底面に離れ砂 有り 胎土 白色砂粒、小石含む 色調 暗褐色 焼成 良好
	8	常滑 こね鉢	法量 口径32.0cm 成形 輪積 胴体部に指頭痕有り 口縁部、内外面ナデ 外面 上部ナデ下部に櫛目状工具による調整 胎土 小石、砂粒含む、粗い、気孔有り 色調 暗褐色 焼成 良好
	9	平瓦	法量 厚さ2.8cm 成形 凸面櫛目 凹面糸切り痕 胎土 瓦質、きめ細かい、 砂粒含む、気孔有り 色調 灰色-暗灰色 焼成 普通 備考 内面に砂 付着
	10	平瓦	法量 厚さ1.8cm 成形 凸面糸切り痕、粗布目 凹面糸切り痕 胎土 瓦質、 砂粒含む、気孔有り、きめ細かい 色調 灰色 焼成 普通 備考 内面 に砂付着
	11	青磁 龍泉窯 碗	法量 口径16.2cm 成形 ロクロ 文様 体部外面蓮弁文 素地 灰白色 きめ細かい、微気孔有り 釉薬 灰緑色不透明 焼成 良好
	12	敲き石	法量 長径9.3cm 短径4.5cm 厚さ3.0cm 石材 ホルンフェルス系の円礫 備考 両端に敲き痕有り
	13	銭	元豐通寶 (行書)
溝 9	14	常滑 甕	成形 輪積 内底部指頭ナデ 外面下位から底部にむかってヘラ調整 胎土 灰褐色、 砂粒含む、粘性強 色調 内面緑褐色 外面暗褐色 焼成 普通 備 考 底に粘土片と砂付着
	15	瀬戸 瓶 子	成形 ロクロ 内底指頭正痕有り 文様 唐草文 素地 灰色、精緻、気孔有 り 釉薬 淡緑色透明 頸部内外面施釉 焼成 良好
	16	山茶碗 系 こね鉢	成形 口縁分内外面ロクロ横ナデ 胎土 きめ細かい 色調 暗灰色、口縁に 降灰 焼成 良好
	17	山茶碗 系 こね鉢	成形 口縁分内外面ロクロ横ナデ 胎土 砂粒、小石含む 色調 暗灰色 焼成 良好
	18	渥美 こね鉢	成形 輪積後ロクロ 高台貼り付け 外面指頭ナデ、下部ヘラ削り 高台底部にもみ殻 痕有り 胎土 小石、砂粒含む 色調 暗灰色 焼成 良好
	19	東播系 こね鉢	成形 輪積後ロクロ 胎土 小石、砂粒含む 色調 暗灰青色 焼成 良 好 備考 口縁に自然釉
	20	福建系 白磁西耳 壺	法量 底径6.6cm 成形 ロクロ高台削り出し 素地 灰白色、緻密、気孔有 り 釉薬 淡青白色透明、内外面施釉、高台部露胎 焼成 良好
	21	甕	法量 厚さ2.2cm 成形 平面は長方形 肩部に向かって深く落ちる 陸部は平坦 側面は外傾 石材 粘板岩 色調 黒色

表9 溝9・10・11出土土物観察表(2)

溝 14	1	土師器	法量 口径10.05cm 底径6.0cm 器高3.3cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り、 スノコ痕有り 胎土 赤石粒子、針状物質含む 色調 褐色 焼成 良好
	2	土師器	法量 口径12.4cm 底径7.2cm 器高3.1cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 胎土 針状物質、小石、砂、雲母含む 色調 明灰褐色 焼成 良好

表10 溝14出土土物観察表(1)

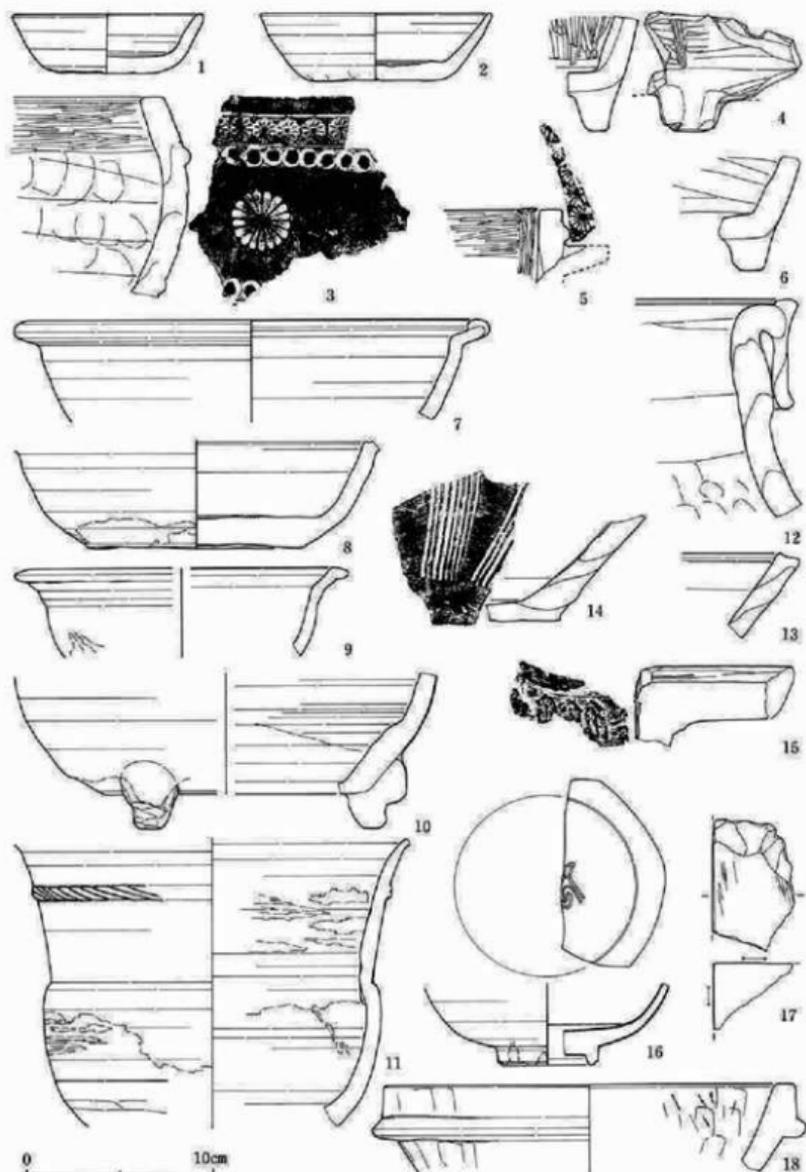


图11 溝14出土遺物

溝 14	3	火 鉢	成形 輪楕、口縁部、外面部、内面上部へラ磨き 文様 外面上位から沈線、連続小菊花文押印、沈線、蓮珠文押印、大菊花文押印、蓮珠文押印 胎土 瓦質 小石含む、気孔有り 色調 灰色 外面黒色処理 焼成 良好
	4	輪花型火鉢	成形 胴部内面縦位のへラ磨き、脚部濶台形板状の貼り付け、脚部底部外面へラ調整 胎土 瓦質 やや粗い 色調 灰色 表面黒色処理 焼成 良好
	5	跗付火鉢	成形 口縁部貼り付け、内外面へラ磨き 文様 口縁部外面上位から沈線、蓮珠文押印 跗上面連続菊花文押印 胎土 瓦質、砂粒含む 色調 灰色 表面黒色処理 焼成 良好
	6	輪花型火鉢	成形 胴部内面斜位のナゲ、内底部横ナゲ、胴部外面斜位のへラ磨き、脚部台形板状の貼り付け 胎土 瓦質、小石、砂含む 気孔有り やや粗い 色調 灰白色 表面暗灰色 焼成 良好
	7	瀬戸折縁皿	法量 口径25.3cm 成形 ロクロ 素地 黄灰色、小石含む、小気孔有り 釉薬 黄褐色透明、小気孔有り 焼成 良好
	8	瀬戸折縁皿	法量 底径11.5cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 文様 内底面に4周の沈線 素地 黄灰色、小石含む、気孔有り 釉薬 灰緑色、白濁 内面と外面同部に施釉 焼成 良好
	9	瀬戸折縁皿	法量 口径17.6cm 成形 ロクロ 素地 淡黄灰色、気孔有り 釉薬 灰緑色、口縁部白濁 焼成 良好
	10	瀬戸香炉	法量 底径13.0cm 成形 ロクロ 外面へラ調整 脚部狀足の貼り付け 素地 黄灰色、小気孔有り、きめ細かい 釉薬 胴部外面黒褐色の施釉 内底部淡緑色透明釉 焼成 良好
	11	瀬戸香炉	成形 ロクロ 頂部上位に貼付の縄目帯 素地 黄灰色、小石含む、微気孔有り 釉薬 灰緑色透明、一部白濁 外面と内面頸部まで施釉 焼成 良好
	12	常滑甕	成形 輪楕 内外面横ナゲ 内面に指頭底有り 胎土 暗灰色、砂、小石含む 小気孔有り 色調 内面茶褐色 外面緑褐色、障灰 焼成 良好
	13	常滑こね鉢	成形 内外面横ナゲ 外面ハケ調整 口縁外側に口唇縁の指頭底有り 胎土 暗灰色褐色 小石、粗砂含む 色調 内面暗灰褐色 外面暗茶褐色 施釉 香 焼成 普通
	14	備前すり鉢	成形 輪楕 内外面横ナゲ 条線1束8本 胎土 赤褐色、小石含む、気孔有り きめ細かい 色調 黒褐色の自然釉、外面は所々白濁 焼成 良好
	15	軒平瓦	法量 厚さ2.2cm 成形 瓦当部と平瓦を貼り付け 頸部指頭及びへらによるナゲ 文様 刺頭文 胎土 瓦質、小石含む、やや粗い 色調 胎土部灰色、器表面近く灰褐色 表面暗褐色 一部灰褐色 焼成 普通
	16	青磁龍泉窯碗	法量 底径5.3cm 成形 ロクロ 高古削り出し 文様 内底面画花文 内底と内側面の間に鏤刻の内帯有り 素地 暗灰色、微気孔有り、きめ細かい 釉薬 灰緑色半透明 高古登付、高古内露胎 焼成 良好
	17	砥石	法量 長さ5.8cm 幅4.2cm 厚さ3.7cm 石材 砂岩 色調 黒灰色 4面とも砥面
	18	滑石鍋	法量 口径22.0cm 成形 鍋の断面が三角に近い 内面に使用痕有り 色調 灰白色 器表面は赤みを帯びる

表11 溝14出土遺物観察表

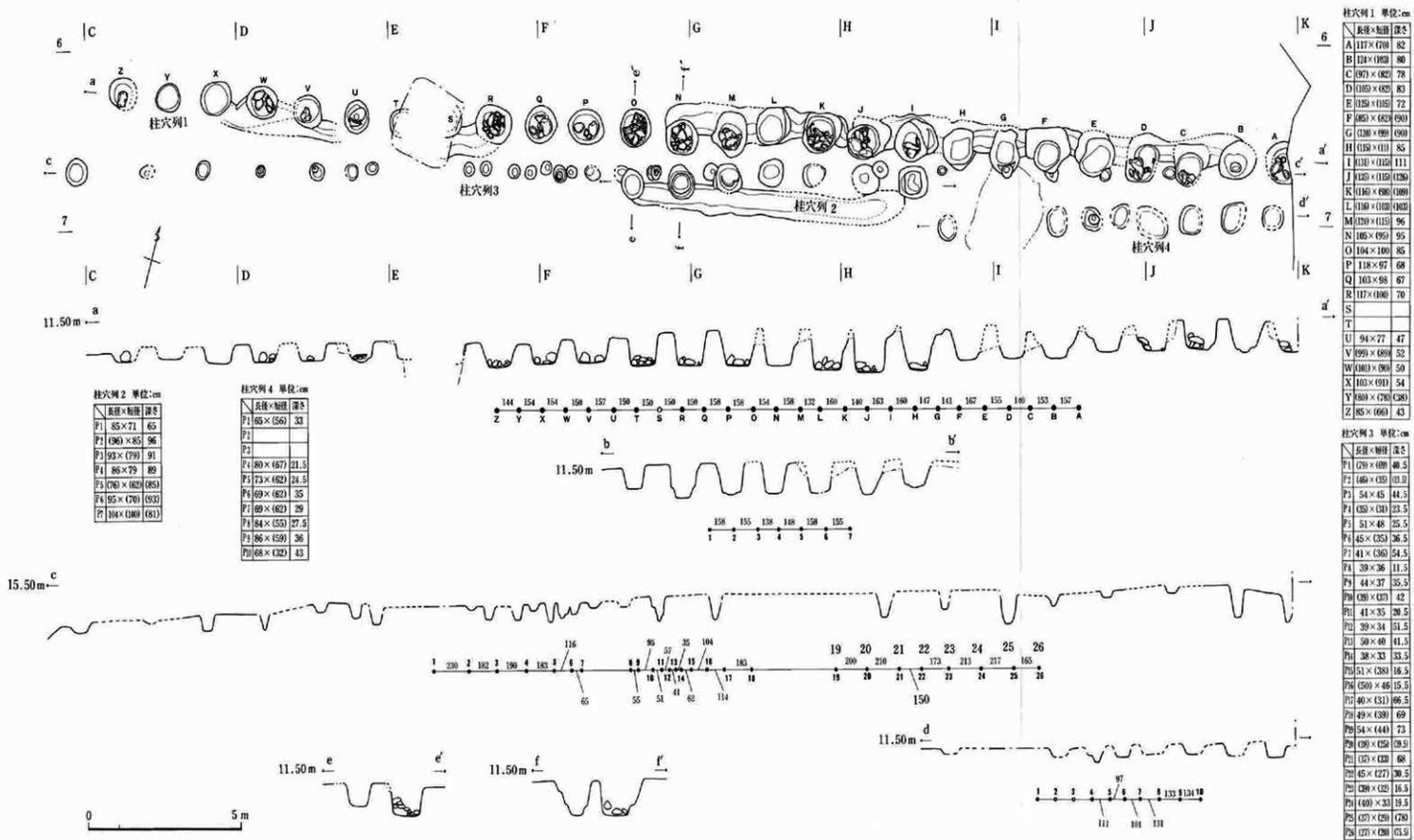


图12 柱穴列1~4

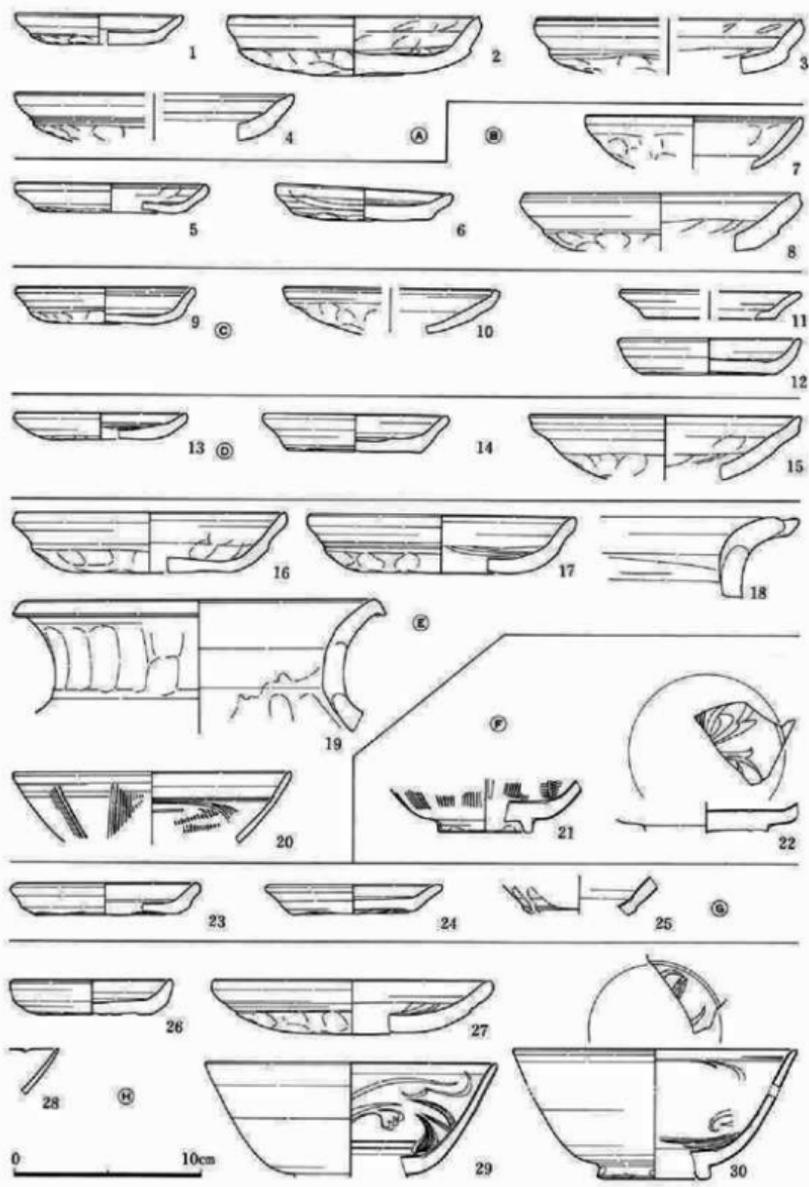


图13 柱穴列1出土遺物(1)

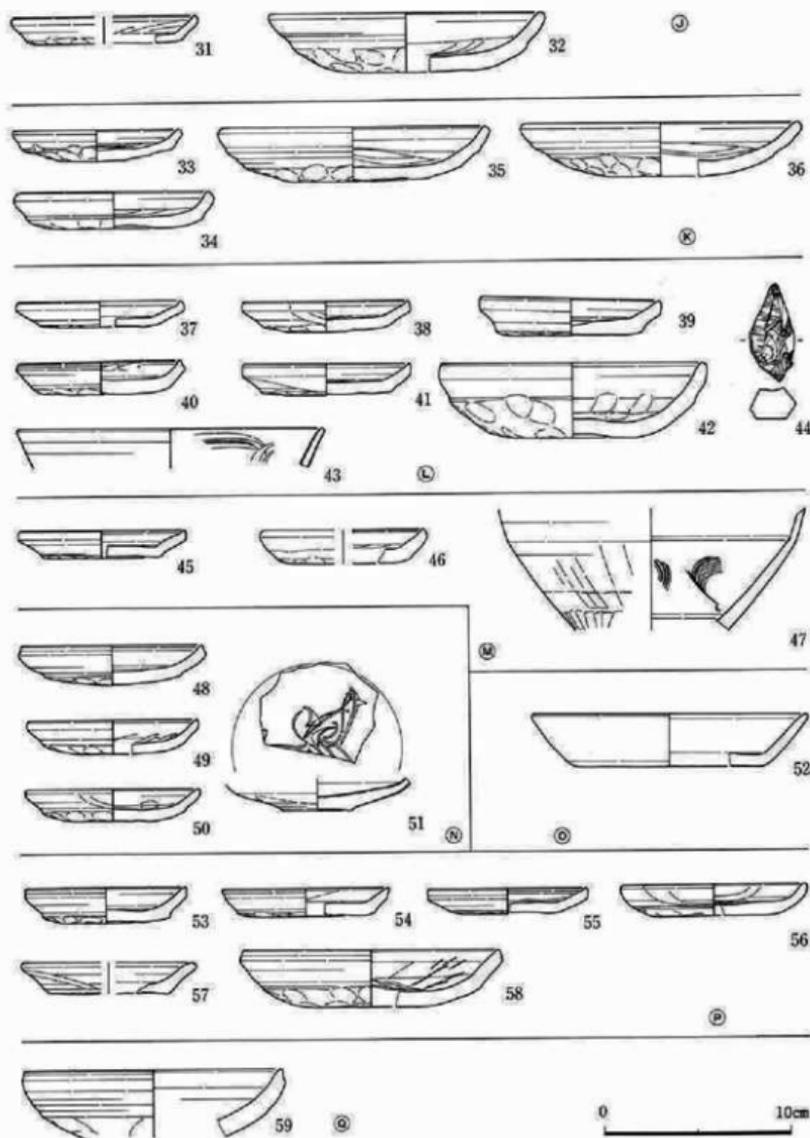


图14 柱穴列1出土遺物(2)

A	1	土師器	法量 口径9.0cm 底径4.4cm 器高1.6cm 胎土 針状物質、砂粒含む 色調 灰褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部強いナゲ
	2	土師器	法量 口径13.6cm 底径5.0cm 器高3.15cm 部指頭痕 胎土 針状物質含む 色調 橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナゲ 内底
	3	土師器	法量 口径14.4cm 底径8.0cm 器高3.2cm 胎土 針状物質、砂粒含む 色調 灰茶褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナゲ
	4	土師器	法量 口径15.0cm 底径7.0cm 器高3.0cm 胎土 針状物質、砂粒含む 色調 淡橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナゲ
B	5	土師器	法量 口径10.4cm 底径6.6cm 器高1.5cm 胎土 針状物質含む 色調 橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナゲ
	6	土師器	法量 口径9.6cm 底径4.5cm 器高1.6cm 胎土 針状物質含む、ややきめ細かい 色調 橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナゲ 完形
	7	土師器	法量 口径11.6cm 成形 外底部手づくね 堅い 色調 暗褐色 焼成 良好	胎土 砂粒含む、二次焼成があり	
	8	土師器	法量 口径15.0cm 底径8.5cm 器高3.1cm 胎土 針状物質、砂粒含む、やや粗い 色調 灰茶褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナゲ
C	9	土師器	法量 口径9.6cm 底径5.4cm 器高2.0cm 胎土 針状物質、砂粒含む 色調 灰茶褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部、内底部ナゲ
	10	土師器	法量 口径11.6cm 成形 外底部手づくね 色調 淡橙褐色 焼成 良好	口縁部ナゲ	胎土 針状物質含む
	11	土師器	法量 口径9.8cm 底径6.8cm 器高1.5cm 胎土 針状物質、砂粒含む 色調 橙褐色	成形 ロクロ 焼成 良好	外底部回転糸切り
	12	土師器	法量 口径9.8cm 底径7.0cm 器高2.0cm スノコ痕有り 胎土 砂粒含む、やや粗い 色調 灰茶褐色	成形 ロクロ 焼成 良好	外底部右回転糸切り
D	13	土師器	法量 口径9.2cm 底径5.0cm 器高1.4cm 胎土 針状物質含む 色調 淡橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	内底部ナゲ
	14	土師器	法量 口径10.0cm 底径6.9cm 器高2.0cm スノコ痕有り 内底部ナゲ 淡橙褐色 焼成 良好	胎土 針状物質、砂粒含む、やや粗い 色調	外底部右回転糸切り
	15	土師器	法量 口径14.6cm 底径6.0cm 器高3.2cm 胎土 針状物質、砂粒含む 色調 灰褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナゲ スス付着
E	16	土師器	法量 口径14.6cm 底径8.2cm 器高3.2cm 胎土 針状物質含む、やや粗い 色調 灰茶褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナゲ
	17	土師器	法量 口径14.4cm 底径7.8cm 器高3.0cm 胎土 針状物質含む 色調 灰茶褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナゲ
	18	瀬美 甕	成形 輪積 内側面横ナゲ 内面褐色 口縁に降灰 焼成 普通	胎土 小石含む、やや粗い 色調 外面灰緑色	
	19	瀬美 甕	法量 口径20.0cm 成形 輪積 口縁部外面滑溜ナゲ 色調 暗青灰褐色 口縁内側に降灰 焼成 普通	胎土 小石含む	
20	青磁 同安窯系陶	法量 口径15.0cm 成形 ロクロ やや粗い 釉薬 淡灰青緑色透明	文様 内外面横描き 焼成 良好	素地 灰褐色	

表12. 柱穴1出土遺物観察表(1)

F	21	青磁 同安堂系碗	法量 底径6.6cm 素地 灰褐色やや粗い、気孔有り	成形 ロクロ	高台削り出し 釉薬 暗灰緑色透明、気泡有り	文様 内外面飾描き	焼成 良好
	22	青磁 龍泉窯 碗	法量 底径5.0cm 素地 灰褐色きめ細かい、微気孔有り	成形 ロクロ	高台削り出し 釉薬 暗緑褐色透明	文様 底部画花文	素地 焼成 良好
G	23	土師器	法量 口径10.2cm 底径7.2cm 胎土 針状物質、砂粒含む、やや粗い	器高1.7cm	成形 ロクロ	色調 橙褐色	底部右回転糸切り 焼成 良好
	24	土師器	法量 口径9.4cm 底径6.3cm 胎土 針状物質、砂粒含む、やや粗い	器高1.5cm	成形 ロクロ	色調 橙褐色	底部右回転糸切り スノコ底有り 焼成 良好
	25	天目 茶 碗	成形 ロクロ高台わきへら削り	素地 灰褐色きめ細かい	釉薬 黒色不透明	焼成 良好	
H	26	土師器	法量 口径8.7cm 底径7.0cm 内底部ナゲ スノコ底有り	器高1.8cm 胎土 針状物質、砂粒含む、やや粗い	成形 ロクロ	色調 橙褐色	底部右回転糸切り 焼成 良好
	27	土師器	法量 口径13.4cm 底径6.0cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	器高3.0cm	成形 手づくね	色調 白橙褐色	口縁部、内底部ナゲ 焼成 良好
	28	青白磁 輪花 皿	成形 型入れ、口縁輪花	素地 白色	釉薬 水青色透明	焼成 良好	
	29	青磁 龍泉窯 碗	法量 口径15.7cm め細かい、気孔有り	成形 ロクロ	釉薬 暗緑褐色半透明、気泡有り	文様 内側面画花文	素地 灰褐色き 焼成 良好
	30	青磁 龍泉窯 碗	法量 底径6.0cm 灰褐色きめ細かい、気孔有り	成形 ロクロ	高台削り出し 釉薬 緑褐色透明	文様 画花文	素地 焼成 良好
J	31	土師器	法量 口径10.0cm 胎土 針状物質含む	底径6.9cm 色調 橙褐色	器高1.3cm	成形 手づくね	口縁部ナゲ 焼成 良好
	32	土師器	法量 口径14.9cm 胎土 針状物質、砂粒含む	底径6.8cm 色調 白橙褐色	器高3.1cm	成形 手づくね	口縁部ナゲ、スノコ 焼成 良好
K	33	土師器	法量 口径9.0cm 胎土 針状物質、砂粒含む	底径3.4cm 色調 橙褐色	器高1.7cm	成形 手づくね	口縁部ナゲ 焼成 良好
	34	土師器	法量 口径10.6cm 胎土 針状物質、砂粒含む	底径5.8cm 色調 灰橙褐色	器高1.9cm	成形 手づくね	口縁部ナゲ 焼成 良好
	35	土師器	法量 口径15.0cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	底径6.8cm 色調 橙褐色	器高2.9cm	成形 手づくね	口縁部、内底部ナゲ 焼成 良好
	36	土師器	法量 口径15.0cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	底径4.9cm 色調 灰橙褐色	器高2.9cm	成形 手づくね	口縁部、内底部ナゲ 焼成 良好
L	37	土師器	法量 口径9.0cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	底径5.3cm 色調 灰橙褐色	器高1.3cm	成形 手づくね	口縁部ナゲ 焼成 良好
	38	土師器	法量 口径9.0cm 胎土 針状物質含む、ややきめ細かい	底径4.6cm 色調 灰橙褐色	器高1.6cm	成形 手づくね	口縁部ナゲ 焼成 良好
	39	土師器	法量 口径9.7cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む、粗い	底径6.5cm 色調 灰橙褐色	器高2.0cm	成形 手づくね	口縁部ナゲ 焼成 良好

表13 柱穴列)出土遺物観察表(2)

	40	土師器	法量 口径8.9cm 底径5.8cm 器高1.8cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	色調 灰橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ
	41	土師器	法量 口径9.0cm 底径6.8cm 器高1.7cm 胎土 針状物質、砂粒含む、ややきめ細か	色調 橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ
	42	土師器	法量 口径14.4cm 底径6.5cm 器高4.0cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	色調 灰橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ
	43	青磁 龍泉窯 前	法量 口径16.4cm きめ細かい	成形 ロクロ 釉薬 緑褐色透明	文様 内面へう描き文 焼成 良好	素地 灰褐色、
	44	水晶	法量 長さ5.25cm 最大幅2.4cm	両端、両側縁に使用痕有り		
M	45	土師器	法量 口径9.0cm 底径6.0cm 器高1.4cm 胎土 針状物質、砂粒含む、ややきめ細か	色調 橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ
	46	土師器	法量 口径9.0cm 底径5.4cm 器高1.8cm 胎土 針状物質、砂粒含む	色調 灰橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ
	47	青磁 同安窯系陶	成形 ロクロ	文様 内面柳目描き 焼成 良好	素地 灰褐色、気孔有り	釉薬 緑褐色半透明、体部下半が露胎
N	48	土師器	法量 口径10.0cm 底径1.9cm 器高2.1cm 胎土 針状物質、砂粒含む	色調 灰橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ
	49	土師器	法量 口径9.2cm 底径3.8cm 器高1.8cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	色調 白橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ
	50	土師器	法量 口径9.4cm 底径4.3cm 器高1.7cm 内底に指頭痕有り 胎土 針状物質、砂粒含む	色調 橙褐色	成形 外底部手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ
	51	青磁 同安窯系風	法量 底径3.8cm 焼成 良好	成形 ロクロ 素地 灰褐色気孔有り	体部から底部にかけてへう削り 釉薬 内面と外体部途中まで緑褐色半透明	文様 へう描き文
O	52	土師器	法量 口径14.8cm 底径10.0cm 器高2.8cm 胎土 針状物質、雲母含む	色調 茶褐色	成形 ロクロ 糸切り痕不明瞭 焼成 良好	
P	53	土師器	法量 口径8.6cm 底径4.9cm 器高1.8cm 胎土 針状物質含む	色調 橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ
	54	土師器	法量 口径9.0cm 底径6.0cm 器高1.5cm 胎土 針状物質、砂粒含む、雲母含む	色調 灰橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ
	55	土師器	法量 口径8.6cm 底径4.8cm 器高1.3cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	色調 灰橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ
	56	土師器	法量 口径10.0cm 底径6.0cm 器高1.7cm 胎土 針状物質、砂粒含む	色調 灰橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ
	57	土師器	法量 口径9.0cm 底径5.0cm 器高1.7cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	色調 橙褐色	成形 ロクロ 外底部右回転糸切り 焼成 良好	
	58	土師器	法量 口径14.0cm 底径6.0cm 器高3.1cm 胎土 針状物質含む	色調 橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部、内底部ナデ
Q	59	土師器	法量 口径14.0cm 色調 灰橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ	胎土 針状物質、砂粒含む

表14 柱穴I出土遺物観察表(3)

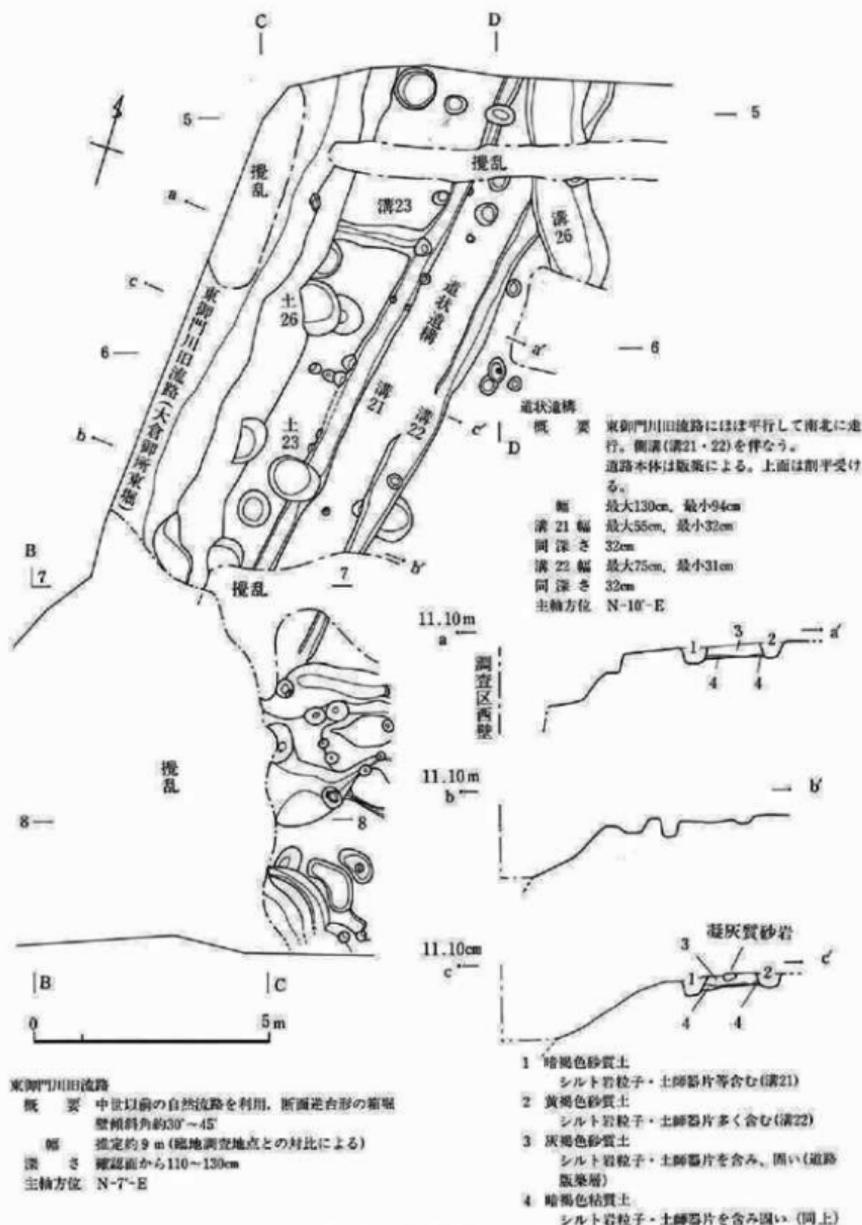


図15 東御門川日田流路と関連施設

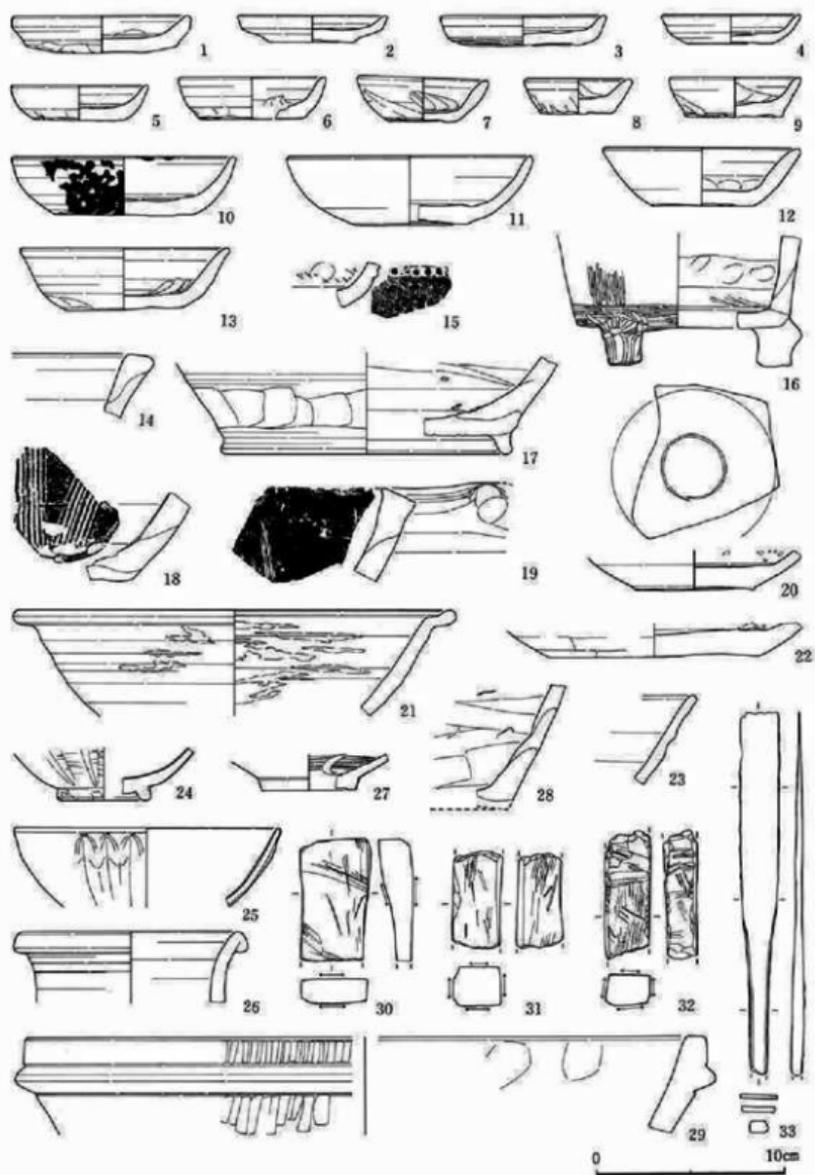


図16 東御門川旧流路出土遺物

1	土師器	法量 胎土 白粒含む	口径9.6cm 底径4.8cm 器高2.0cm 色調 橙色	器高2.0cm 成形 手づくね 内底部、口縁部ナデ 焼成 良好
2	土師器	法量 胎土	口径8.0cm 底径4.6cm 器高1.4cm 色調 淡橙褐色	器高1.4cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 胎 焼成 良好
3	土師器	法量 ナデ	口径8.9cm 底径5.9cm 器高1.6cm 胎土 針状物質、白粒含む 色調 灰褐色	器高1.6cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 焼成 良好
4	土師器	法量 底有り	口径7.4cm 底径4.7cm 器高1.5cm 胎土 砂粒、赤色粒、雲母含む 色調 淡褐色	器高1.5cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り スノコ 焼成 良好
5	土師器	法量 ナデ	口径7.4cm 底径4.8cm 器高1.85cm 胎土 砂粒、雲母、針状物質含む 色調 灰褐色	器高1.85cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 焼成 良好
6	土師器	法量 着	口径7.8cm 底径5.8cm 器高2.2cm 胎土 砂粒、雲母、針状物質含む 色調 灰褐色	器高2.2cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り スス付 焼成 良好
7	土師器	法量 ナデ	口径7.0cm 底径3.6cm 器高2.3cm 胎土 針状物質、白粒含む 色調 橙色	器高2.3cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 焼成 良好
8	土師器	法量 ナデ	口径5.7cm 底径3.85cm 器高1.9cm 胎土 針状物質、白粒含む 色調 橙色	器高1.9cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 焼成 良好
9	土師器	法量 ナデ	口径7.0cm 底径5.2cm 器高2.1cm 胎土 針状物質、白粒含む 色調 橙色	器高2.1cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 焼成 良好
10	土師器	法量 ナデ	口径12.0cm 底径7.4cm 器高3.1cm 胎土 砂粒、雲母、針状物質含む 色調 橙褐色	器高3.1cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 焼成 良好
11	土師器	法量 胎土	口径13.1cm 底径6.1cm 器高3.65cm 胎土 白粒、雲母含む 色調 橙褐色	器高3.65cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 焼成 良好
12	土師器	法量 ナデ	口径10.6cm 底径5.4cm 器高3.1cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母、白粒含む 色調 橙色	器高3.1cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 焼成 良好
13	土師器	法量 胎土	口径11.6cm 底径6.05cm 器高3.3cm 胎土 砂粒、針状物質、雲母含む 色調 灰褐色	器高3.3cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 焼成 良好
14	手埴り	成形	口径 底径 器高 胎土 灰褐色、砂粒含む 色調 表面黒色処理	器高 成形 ロクロ 胎土 灰褐色、砂粒含む 色調 表面黒色処理 焼成 良好
15	瓦 質 香 が	成形 胎土	内面指頭痕 文様 外側体部に連珠文、4段以上の雷文押印 胎土 砂粒含 色調 淡橙褐色 焼成 良好	
16	瓦 質 香 が	法量 砂粒含む	底径10.6cm 器高 胎土 灰褐色 色調 灰褐色	器高 成形 輪積 胎土 灰褐色、粘性強い、砂粒、小石含む 色調 灰褐色 焼成 良好
17	山茶碗裏系 こね鉢	法量 胎土	底径15.4cm 器高 胎土 砂粒、小石含む 色調 灰褐色	器高 成形 輪積後ロクロ 胎土 灰褐色、粘性強い、砂粒、小石含む 色調 灰褐色 焼成 良好
18	備 前 すり鉢	成形	口径 底径 器高 胎土 灰褐色、粘性強い、砂粒、小石含む 色調 灰褐色	器高 成形 輪積 胎土 灰褐色、粘性強い、砂粒、小石含む 色調 灰褐色 焼成 良好

表15 東御門川旧流路出土遺物(1)

19	備前 すり鉢	成形 輪積後ロクロナデ 口縁部指頭圧痕 条線1東6本以上; 胎土 赤褐色、砂粒、 小石含む 色調 褐色 焼成 やや不良
20	瀬戸 鉢	法量 底部6.3cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 文様 内底部に環状の刻痕 が一条 素地 灰褐色、気孔有り 釉薬 内底部に灰釉の飛沫 焼成 良好
21	瀬戸 折縁皿	法量 口径23.6cm 成形 ロクロ 素地 黄灰褐色、砂粒含む 釉薬 灰釉半 透明 網毛塗り 焼成 良好
22	瀬戸 鉢	法量 底部11.1cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 外面へう割り 素地 灰褐 色、気孔有り、粗い 釉薬 内底部に灰釉が白濁 焼成 良好 備考 内底部 に重ね焼きの痕有り
23	瀬戸 鉢	成形 ロクロ 素地 灰褐色 釉薬 灰釉が白濁 焼成 良好 備考 二 次焼成の痕有り
24	青磁 龍泉窯 碗	法量 底部5.0cm 成形 ロクロ 高台割り出し 文様 外側複弁 素地 灰 褐色、気孔有り 釉薬 淡緑色半透明 高台登付、高台内露胎 焼成 良好
25	青磁 龍泉窯 碗	法量 口径14.3cm 成形 ロクロ 文様 外側単弁 素地 淡灰色、黒粒含む 釉薬 灰緑色半透明 焼成 良好
26	白磁 壺	法量 口径12.5cm 成形 ロクロ 緑帯部貼り付け 素地 淡灰褐色、気孔有り、 やや粗い 釉薬 灰褐色透明 焼成 良好
27	青白磁 碗	法量 底径5.0cm 成形 ロクロ 高台浅く割り出し 文様 内体部片切彫りの上 に柳掻き文 素地 淡灰褐色、黒粒含む 釉薬 水色透明 高台登付、高台内露胎 焼成 良好
28	黒釉 壺	成形 輪積 内外面横ナデ 素地 茶褐色~暗灰褐色、砂粒、小石含む 釉薬 一 部に黒釉種 内底部に降灰 焼成 良好 備考 外底部剥離
29	滑石鉢	法量 口径26.3cm 成形 鈿部が三角に近い のみ状工具痕、使用底有り スズ附着 色調 灰色
30	砥石	法量 (長さ6.5cm) 幅3.5cm 厚さ0.6~1.45cm 産地 上野 色調 灰緑色 備考 中砥 4面とも砥面
31	砥石	法量 (長さ4.9cm) 幅2.4cm 厚さ2.1cm 産地 不明 石材 砂岩 色調 灰褐色 備考 中砥 4面とも砥面
32	砥石	法量 (長さ6.3cm) 幅2.2cm 厚さ1.4cm 産地 上野 色調 灰緑色 備考 中砥 4面とも砥面

表16 東御門川旧流路出土遺物(2)

### 3 平里部の遺構

二階堂大路と大倉御所に南・西面を限られたこの屋敷地の平里面からは、夥しい数の遺構を検出した。柱穴列1条・掘立柱建物12棟・溝8条（石組雨落溝を含む）・井戸14基・土塋23基・据置遺構1・埋納遺構1・土師器溜り5・その他で、年代は鎌倉時代初期から戦国時代に及ぶ。しかし本節冒頭に述べた通り、上層遺構は井戸や土塋など深い掘方を持つもの以外、良好な遺存状態になかった。また、井戸や土塋などが場所を問わず検出されたのに対し、建物配置には偏在性が認められる。

#### a 柱穴列6（図17）

調査区東北角にあり、両端は調査区外に延びる。北隣の溝27、南隣の溝28とともに東御門川に直交する主軸方位にある。また後述する建物のほとんどがここより北には延びない。何らかの境界を示すものであろう。遺物が少なく年代の詳細は不明だが、建物を規制している以上概ね同時期とみられる。柱間の平均が110cm前後と、柱穴列4のそれとはほぼ共通する点も同時性を示唆している。

#### b 掘立柱建物（図17～29）

検出された建物のほとんどがF軸とJ軸の間におさまり、北は溝27・28・柱穴列6の線を越えない。個別の詳細は各々の図を参照されたい。この内には確認範囲のみで8間×5間に及ぶもの（建物2）や、面積で200m<sup>2</sup>を超える大規模なもの（建物2・5）がある。これらは主軸方位から大きく二つに分けることができる。一つは真北から4°前後東に偏差を持つ一群、もう一つは真北にほとんど一致する一群である。建物については、屋敷地の変遷と併せ、後日刊行予定の総括報告書で改めて考察する。また溝についてもそのときに譲る。

#### c 井戸（図30～52）

形態・規模等に様々な変種があるが、ほぼ円筒形で素掘りのものと、方形の掘方に方形の木枠を持つものに大別できる。これらのごく大雑把に言って次のような変遷をたどる。

鎌倉時代前期は円筒形で素掘りのものが中心で、鎌倉後期以降方形の木枠を持つようになり、中世後期には再び素掘りのものが多くなる。井戸については、年代観を第4章に記す。

#### d 据置遺構（図53）

常滑を据えたもの。遺構切り込み肩と口縁部を欠くため年代不明。層位からみて鎌倉時代中期以降に下るまい。壁の中には何もなかった。

#### e 埋納遺構（図54）

個別図参照。これについての考察も、総括報告書に譲る。

#### f 土塋（図55・56）

図に掲載したものの他は総括報告書に譲る。

#### g 土師器溜り（図57・58）

図に掲載したものの他は総括報告書に譲る。

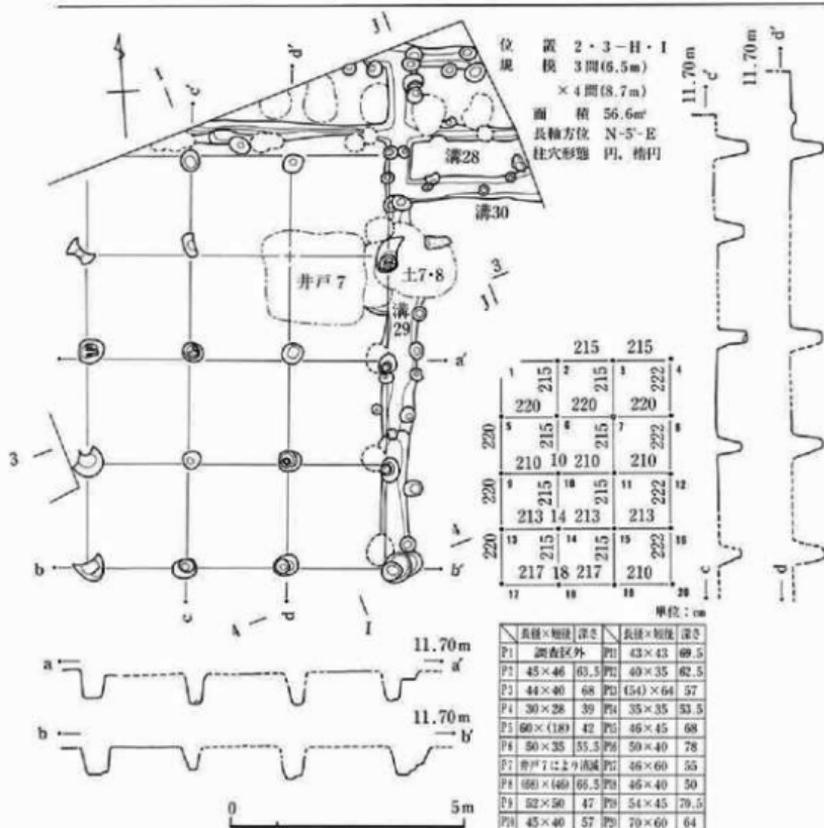
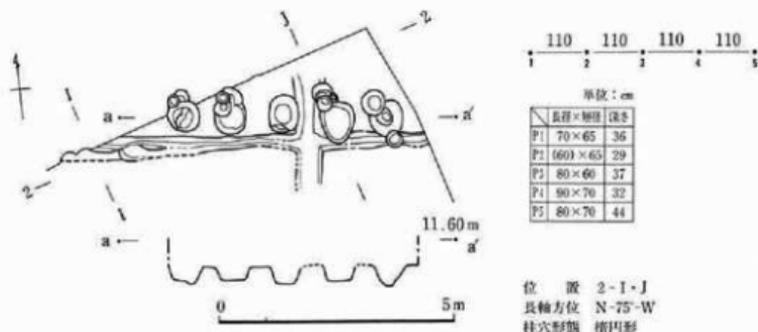
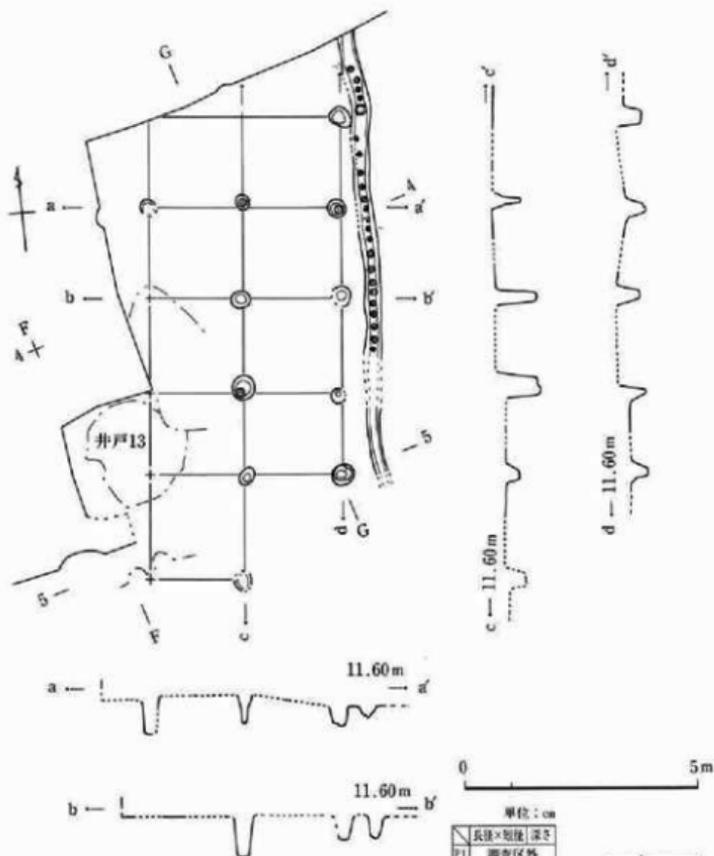


図17 柱穴列6 (上)・建物1 (下)



位置 3・4-F・G  
 規模 2間(4.1m)×4間(7.6m)  
 南面突出部分1間(2.0m)×1間(2.2m)  
 面積 31.16㎡  
 4.4㎡  
 平面形 長方形  
 柱穴形態 円、楕円  
 長軸方位 N-6°-E

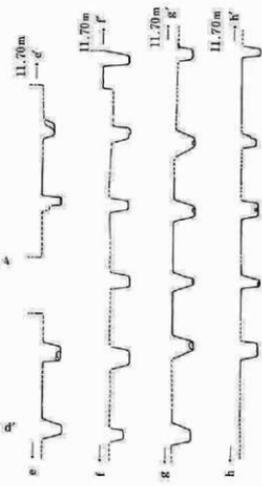
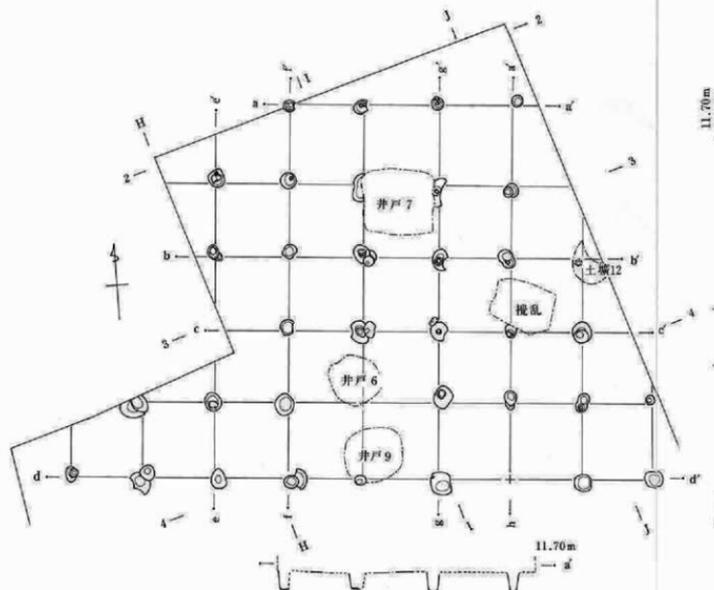
単位：cm

床	長さ×短径	深さ
F1	調査区外	
F2	50×49	57
F3	48×38	28.5
F4	30×30	60
F5	48×40	42
F6	礎石により埋没	
F7	40×35	82
F8	45×40	50
F9	礎石により埋没	
F10	52×50	90
F11	32×30	57.5
F12	井戸13により埋没	
F13	40×28	25
F14	50×45	36
F15	井戸13により埋没	
F16	45×40	30

		1		2
		207		208
192	3	197	4	190
	6	197	7	205
	8	190	9	210
191	10	196	11	205
	12	220	13	205
	14		15	

図18 建物3



位置 2・3・4-H-1-J  
 棟定規模 8間(17.8m)×5間(11.3m)  
 構造面積 201<sup>㎡</sup>  
 平面形 长方形  
 長軸方位 N-88-W  
 柱穴形制 円, 隅円  
 備考 P2, P3, P4, P6, P9, P13, P20,  
 P21, P26, P29に破石あり

単位:cm

柱穴形制	寸法	高	間隔	間隔
P1	調板区外	71	44×31	61
P1	38×38	60	66×50	57
P2	49×48	54	調板区外	
P3	38×38	57	調板区外	
P4	38×34	57	52×41	37
P4	52×46	30	58×50	32
P7	48×48	52	60×56	62
P8	55×59	43	井戸12より内側	
P9	68×54	52	69×54	59
P10	52×28	42	40×36	34
P11	48×31	51	303×34	63
P12	44×34	52	58×26	53
P13	44×46	52	24×24	37
P14	62×34	52	48×42	25
P15	41×14	51	60×44	45
P16	68×50	36	41×26	45
P17	調板区外	52	38×28	47
P18	49×60	65	66×50	57
P19	70×34	48	52×52	24
P20	54×54	60	60×48	17

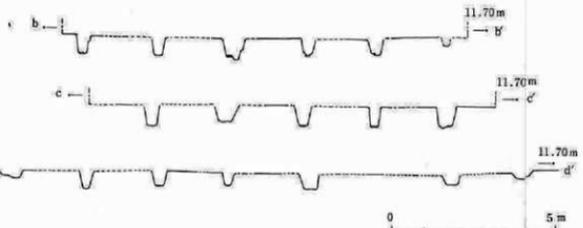
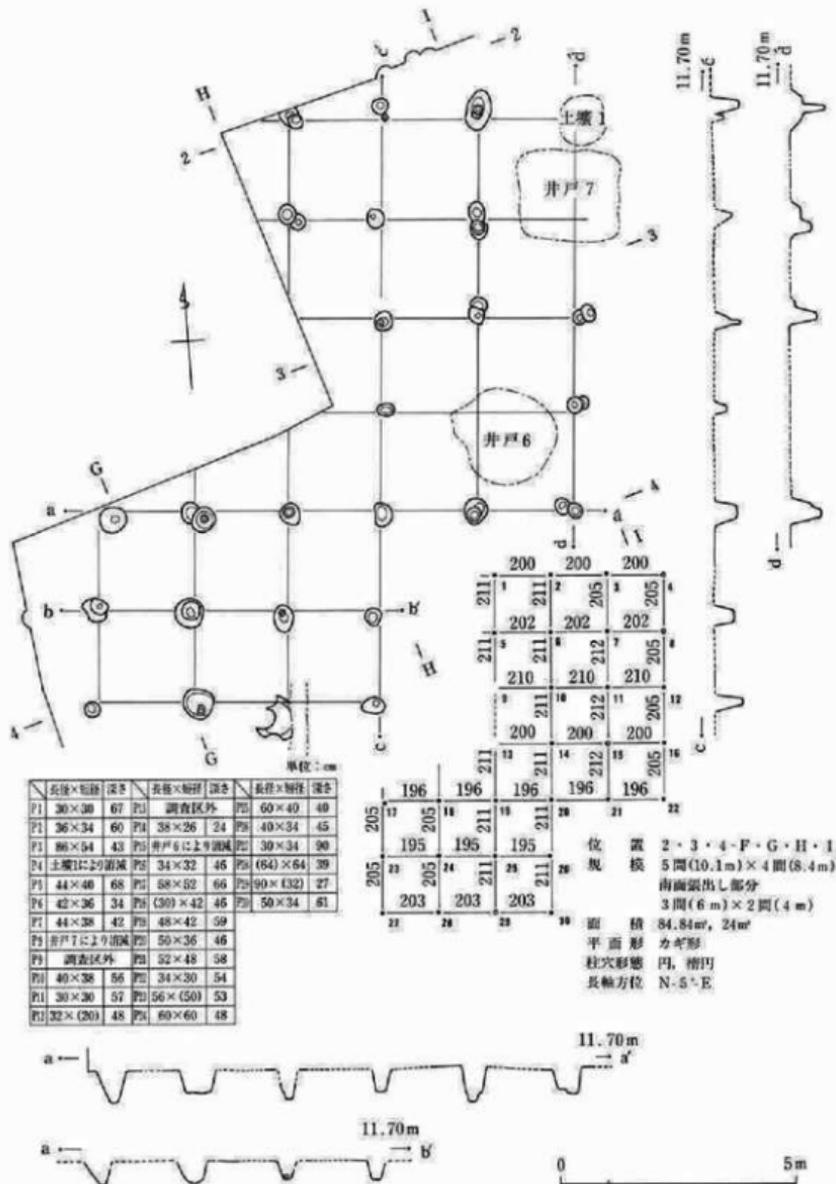


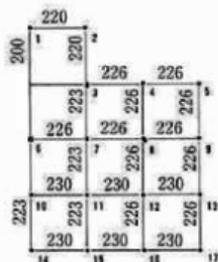
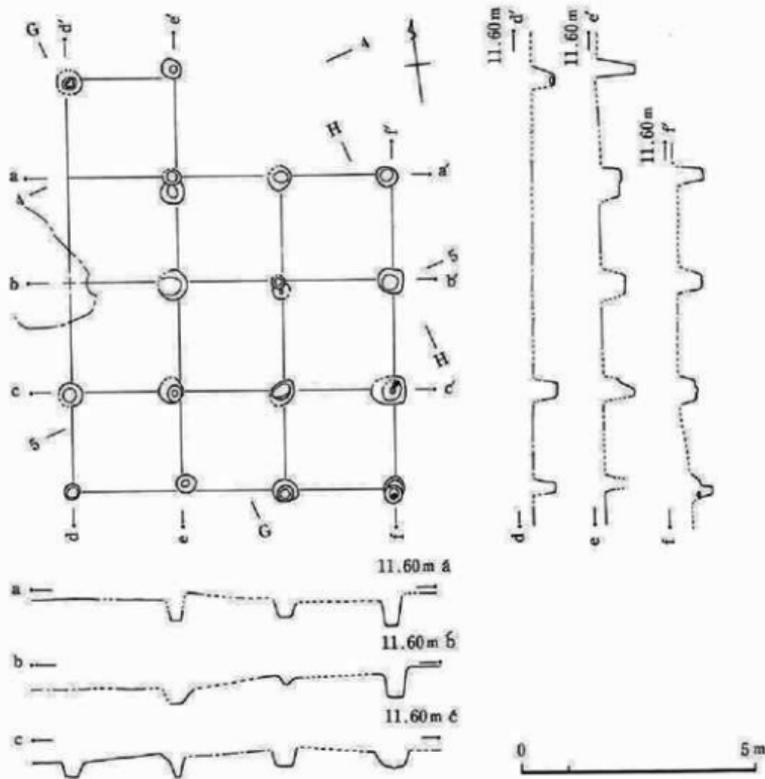
図19 建物2



長さ×幅×深さ	長さ×幅×深さ	長さ×幅×深さ	長さ×幅×深さ
P1 30×30 67	P2 調査区外	P3 60×49 40	
P4 36×34 60	P5 38×26 24	P6 40×34 45	
P7 86×54 43	P8 井戸6の上り階段	P9 30×34 90	
P10 土壌1の上り階段	P11 34×32 46	P12 (64)×64 39	
P13 44×40 68	P14 68×62 66	P15 90×132 27	
P16 42×36 34	P17 (30)×42 46	P18 50×34 61	
P19 44×38 42	P20 48×42 59		
P21 井戸7の上り階段	P22 50×36 46		
P23 調査区外	P24 52×48 38		
P25 40×38 56	P26 34×30 54		
P27 30×30 57	P28 56×(50) 53		
P29 32×(20) 48	P30 60×60 48		

位置 2・3・4・F・G・H・I  
 規模 5間(10.1m)×4間(8.4m)  
 南面突出し部分  
 3間(6m)×2間(4m)  
 面積 84.84㎡, 24㎡  
 平面形 カギ形  
 柱穴形態 凹, 槽凹  
 長軸方位 N-S-E

図20 建物4



単位: cm

名称×柱径	長さ	直径×柱径	深さ		
P1	52×50	51	P11	54×50	46
P2	46×38	84	P12	69×48	36
P3	40×36	41	P13	74×62	34
P4	52×48	41	P14	34×32	48
P5	46×42	80	P15	42×38	28
P6	埋込口に200円筒		P16	52×48	47
P7	64×60	31	P17	38×38	83
P8	30×28	54			
P9	54×50	57			
P10	50×50	29			

位置 4・5-G・H  
 規模 3間(6.7m)×3間(6.9m)  
 北面張り出し部分  
 1間(2.0m)×1間(2.26m)  
 面積 46.23㎡, 4.52㎡  
 平面形状 方形 一部方形張り出し  
 長軸方位 N-83°-W  
 柱穴形態 円形, 楕円形  
 備考 P1, P18 礎石あり  
 P14 柱痕あり

図21 建物6

尺 度 2・3・4・5-H・I・J  
 規 模 7層(13m)×4間(8.8m)  
 南側面9角の部分  
 3間(10.8m)×5間(9.3m)  
 面 積 114.4㎡, 100.4㎡  
 平 面 形 分形  
 長軸方位 N-6°E  
 柱次群 Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, Ⅴ  
 備 考 P.3, P.4, P.5, P.6  
 P.9, P.20, P.21, P.23  
 P.38, P.41, P.42, P.43  
 P.49に礎石あり  
 P.18に礎石あり



単位: cm

長径×短径	深さ	長径×短径	深さ	
P1	調査区外	P1	90×64	46
P2	調査区外	P2	52×48	33
P3	42×36	54	48×38	42
P4	60×50	50	64×50	35
P5	44×40	44	24×28	59
P6	50×44	48	調査区外に2分溝	
P7	調査区外	P7	50×38	48
P8	調査区外	P8	44×34	58
P9	42×40	35	22×(42)	23
P10	60×50	63	80×58	40
P11	64×(30)	49	44×49	52
P12	50×(20)	56	62×59	43
P13	調査区外に2分溝	P13	56×48	47
P14	44×30	44	80×70	50
P15	66×48	38	54×38	47
P16	調査区外	P16	38×50	50
P17	調査区外	P17	80×60	70
P18	56×54	82	56×50	50
P19	49×28	54	68×(22)	82
P20	53×44	64	72×(44)	49
P21	44×42	41	58×(24)	51
P22	44×38	54	86×70	48
P23	46×42	52	110×70	57
P24	調査区外	P24	42×32	54
P25	調査区外	P25	52×52	49
P26	88×64	153	124×(40)	53
P27	48×48	60	72×(4)	37
P28	72×(48)	22	56×(42)	56
P29	32×28	52	50×42	59
P30	56×48	37	45×40	30

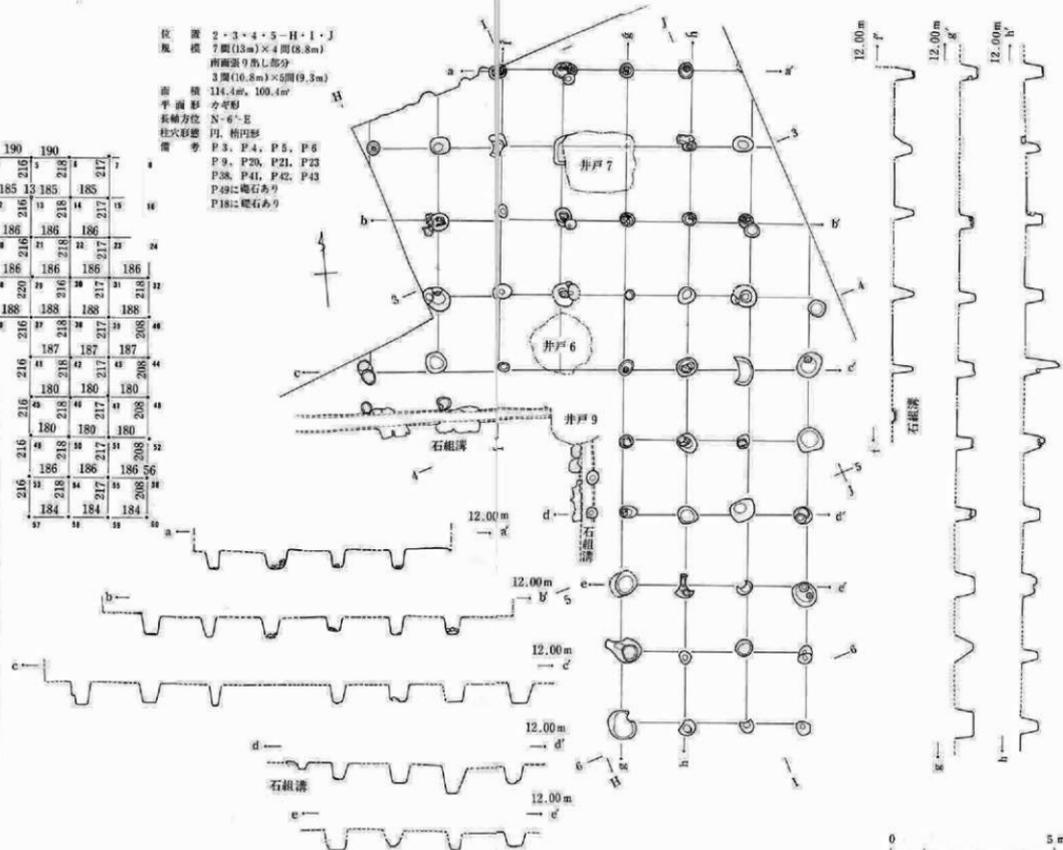


図22 建物5

石組雨落溝

位 置 G・H-3・4

規 模 東西長 9.8m以上

南北長 5.2m以上

溝 幅 20~35cm

溝深さ 9~12cm

東西軸方位 N-86°-W

石 材 灰色シルト岩

備 考 5号建物の雨落溝か?

両端は機皿に、角は井戸9に切られる

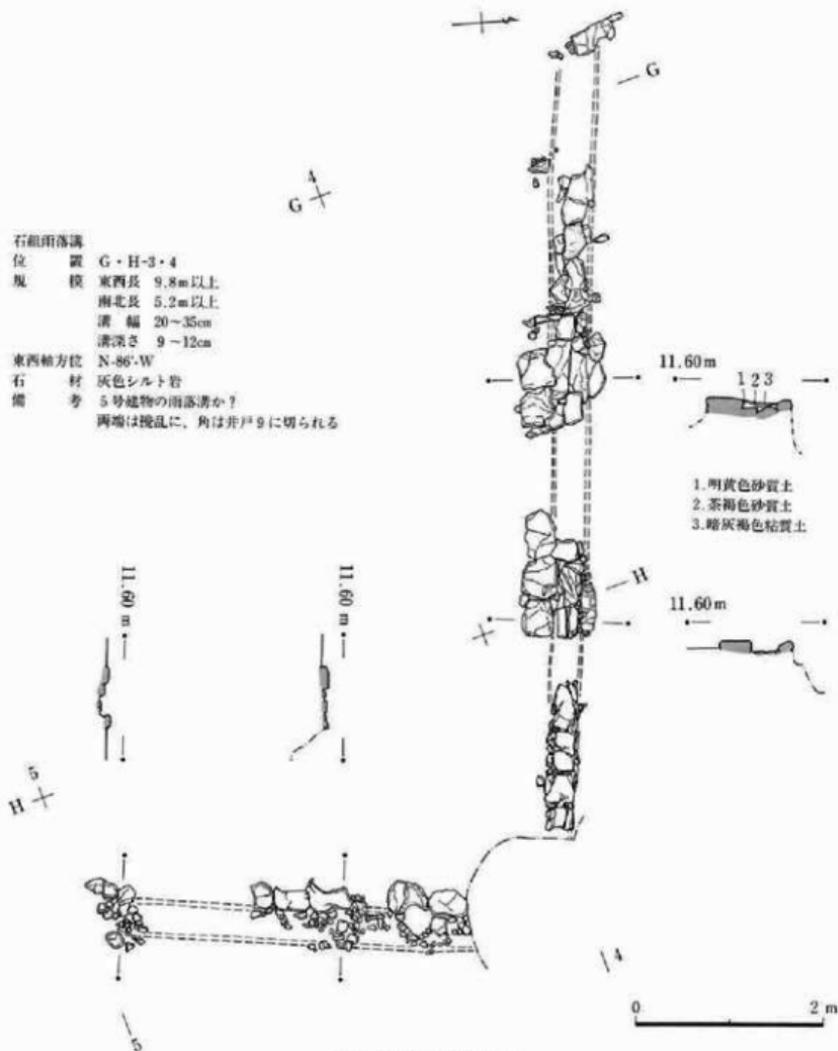
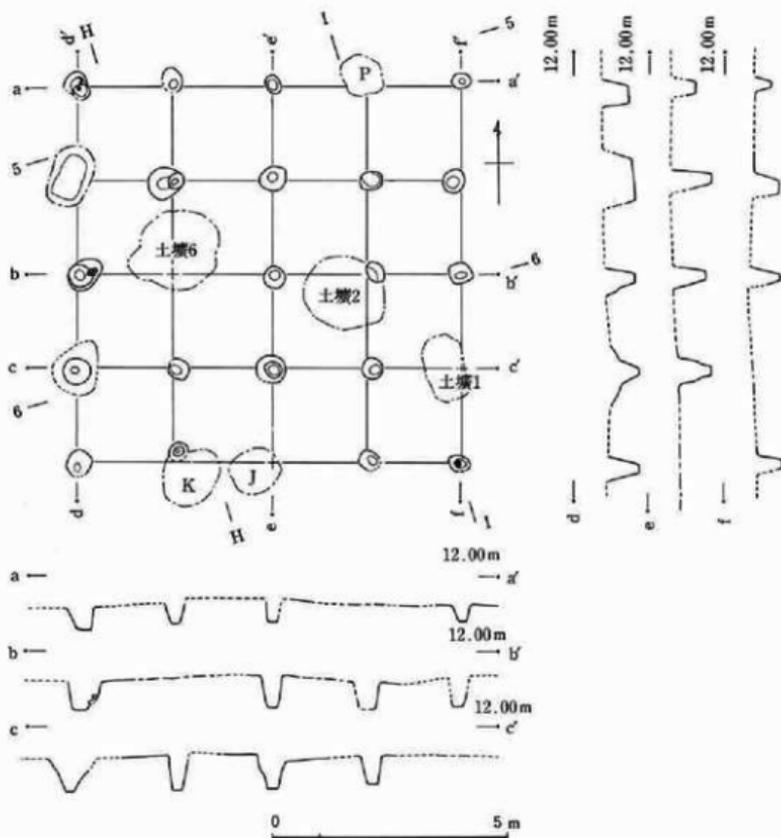


図23 建物5 石組雨落溝



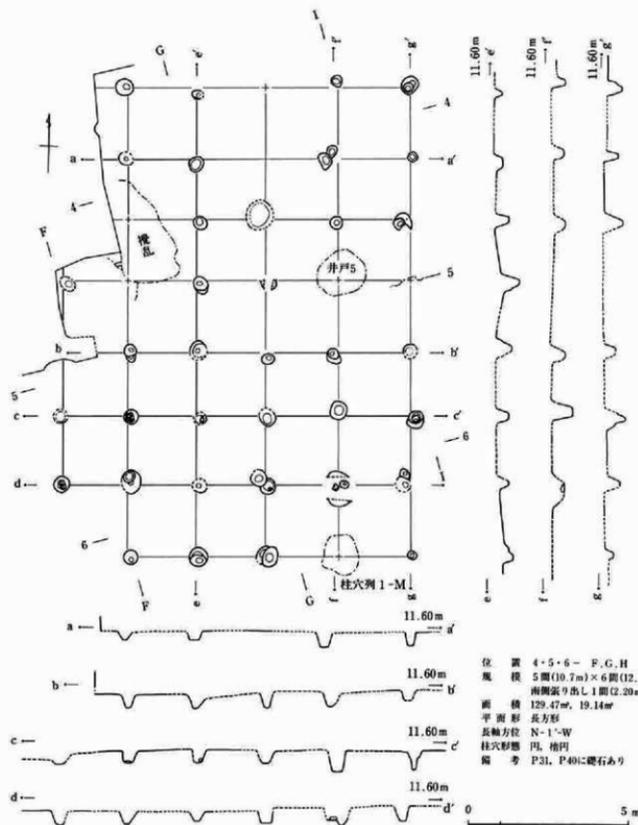
	205	205	205	205	
205	1	2	3	4	5
	205	205	205	205	
205	6	7	8	9	10
	205	205	205	205	
205	11	12	13	14	15
	205	205	205	205	
205	16	17	18	19	20
	205	205	205	205	
205	21	22	23	24	25

単位: cm

名称	長さ×幅	高さ	名称	長さ×幅	高さ
P1	50×(40)	43	P10	(200)×(98)	72
P2	54×42	44	P11	50×44	77
P3	42×30	48	P12	64×62	69
P4	P.11482:2900減		P13	48×44	63
P5	42×32	36	P14	土層に上り直減	
P6	120×86	38	P15	58×48	54
P7	126×60	67	P16	44×(38)	42
P8	60×50	87	P17	55寸に上り直減	
P9	50×46	64	P18	(48)×38	30
P10	52×46	50	P19	48×36	53
P11	78×58	62			
P12	土層に上り直減				
P13	48×44	57			
P14	56×(36)	58			
P15	54×46	63			

位置 5・6-目・I  
 規模 4間(8.2m)×4間(8.2m)  
 面積 67.24㎡  
 平面形 正方形  
 長軸方位 N-0°  
 柱穴形態 円形、楕円形  
 備考 P1 土師器、礎石片あり  
 P11 礎石あり

図24 建物 8



位置 4・5・6 - F, G, H  
 規模 5間(10.7m)×6間(12.1m)  
 南側面9出し1間(2.20m)×4間(8.7m)  
 面積 129.47㎡, 19.14㎡  
 平面形 長方形  
 長軸方位 N-1°-W  
 柱穴形態 円, 隅  
 備考 P31, P40に礎石あり

		220	220	220	220	
1	204	203	204	206	202	
2	222	444	222			
3	212	203	204	206	202	
4	213	213	213	213	213	
5	204	203	204	206	202	
6	217	217	217	217	217	
7	203	204	206	202		
8	220	220	220	220		
9	204	204	204	206	202	
10	214	214	214	214	214	
11	204	203	204	206	202	
12	218	218	218	218	218	

単位: cm

P1	調査区外	深さ	P4	調査区外	
P1	調査区外	58	P4	調査区外	
P2	54×50	58	P5	28×38	40
P3	32×28	25	P6	60×54	40
P4	柱礎上2号礎	75	P7	40×38	43
P5	34×30	42	P8	44×38	48
P6	58×50	44	P9	44×44	33
P7	調査区外	39	P10	44×44	33
P8	48×40	20	P11	44×44	40
P9	50×46	28	P12	40×32	38
P10	39×34	46	P13	56×46	38
P11	30×30	43	P14	54×50	43
P12	調査区外	35	P15	54×48	39
P13	礎石上2号礎	78	P16	50×50	40
P14	44×40	34	P17	74×68	38
P15	50×44	26	P18	48×42	27
P16	50×48	39	P19	50×46	27
P17	C30×44	58	P20	88×40	53
P18	52×38	43	P21	48×(44)	47
P19	礎石上2号礎	74	P22	44×44	27
P20	48×42	26	P23	40×60	23
P21	C30×46	49	P24	50×(44)	29
P22	井戸上2号礎	74	P25	30×24	7
P23	礎石上2号礎	78			

図26 建物7

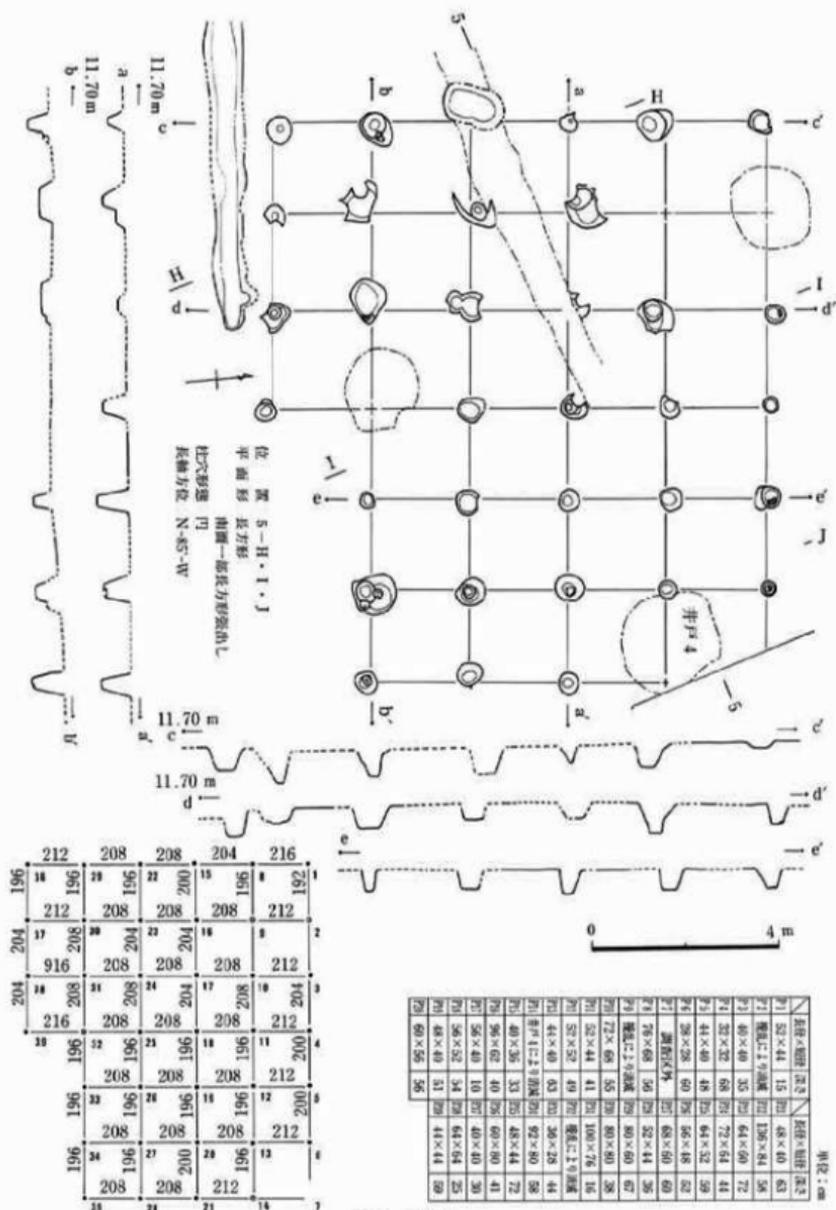
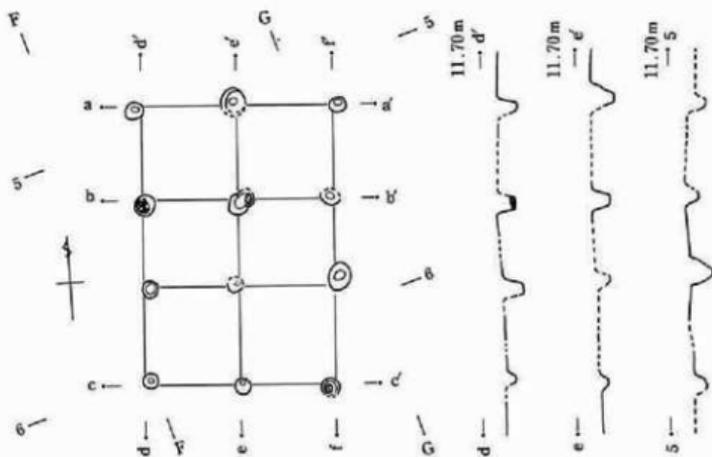


図26 建物 ①



位置 56-I・F・G  
 規模 2間(3.85m)×3間(6.05m)  
 面積 23.3㎡  
 平面形 長方形  
 長軸方位 N-3°-E  
 柱式形態 円形、楕円形  
 備考 P4、P5礎石あり

0 5m

単位：cm

長径×短径	深さ	長径×短径	深さ
P1 39×36	39	P11 34×32	10
P2 62×53	39	P12 40×40	39
P3 36×32	38		
P4 46×43	35		
P5 65×38	39		
P6 44×36	36		
P7 38×32	44		
P8 34×32	39		
P9 60×46	60		
P10 32×32	18		

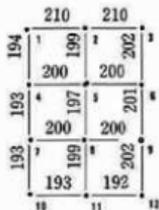
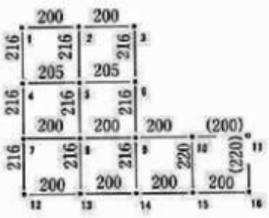
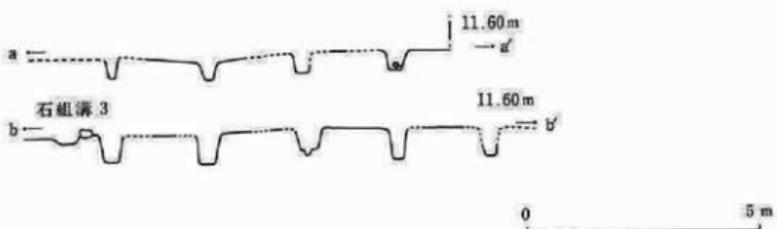
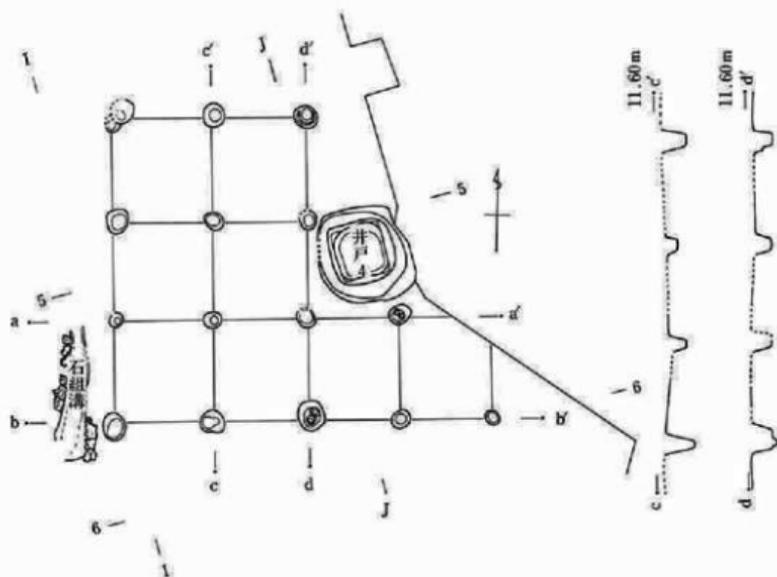


図27 建物10



単位: cm 位置 4.5-1-J

長径×短径	深さ	長径×短径	深さ
P1 52×50	30	P10 60×50	36
P2 52×46	52	P11 52×46	63
P3 50×46	40	P12 64×52	57
P4 58×50	27	P13 44×34	66
P5 45×36	27	P14 34×30	57
P6 44×34	36	P15 34×28	42
P7 34×28	42	P16 40×36	51
P8 40×36	51	P17 44×36	42
P9 44×36	42	P18 48×40	41

規模 2間(4.0m)×3間(6.48m) 25.92㎡  
 東側張出し 2間(4.0m)×1間(2.2m) 8.8㎡

平面形 長方形  
 長軸方位 N-1°-E  
 柱穴形跡 円形、楕円形  
 備考 西面雨落ち溝あり

図28 建物11

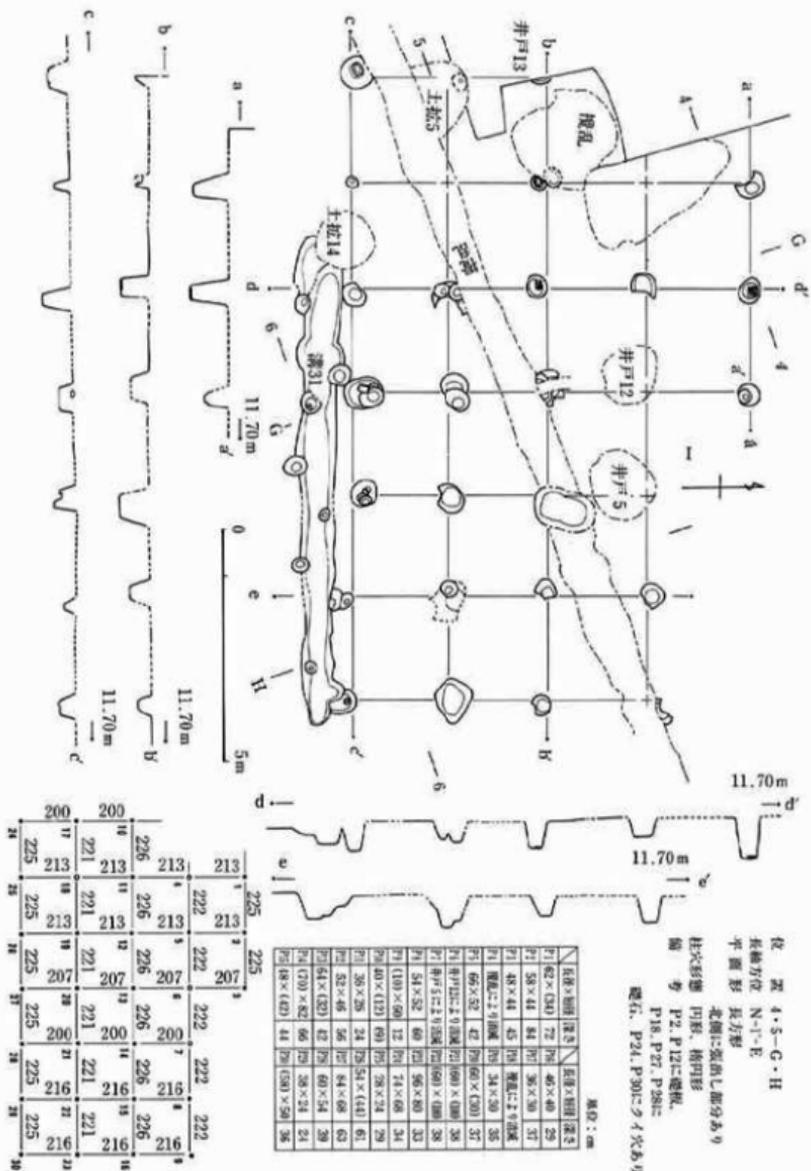
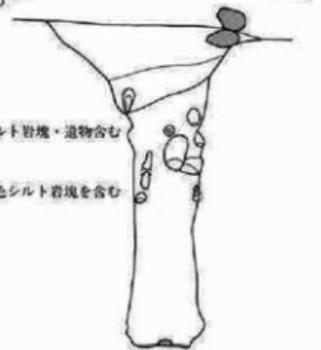
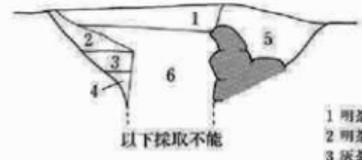
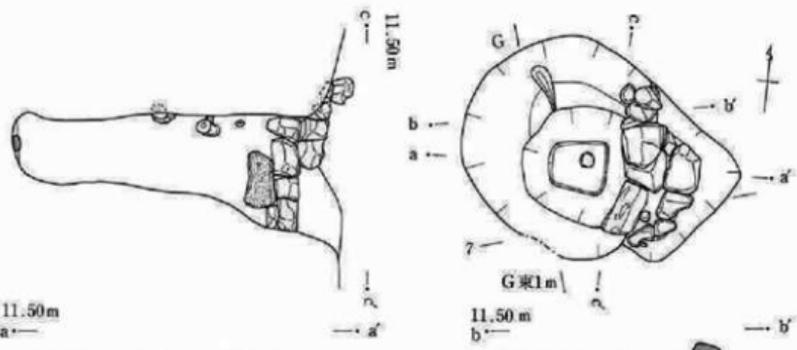


図20 建物12



- 1 明茶褐色土 灰色シルト岩塊・遺物含む
- 2 明茶褐色弱粘質土
- 3 灰茶褐色弱粘質土
- 4 灰褐色弱粘質土 灰色シルト岩塊を含む
- 5 茶褐色弱粘質土
- 6 明茶褐色土

概要 円筒形土器、上部東壁をシルト岩の切石積で補修。同北側に導水用と思われる窪込み。壁中位からやや上に不定形の小ピット多い。地下水の湧出孔か？

最大径 230cm 胴部径 84cm  
 底部径 57cm  
 深さ 355cm  
 主軸方位 N-41.5°-W

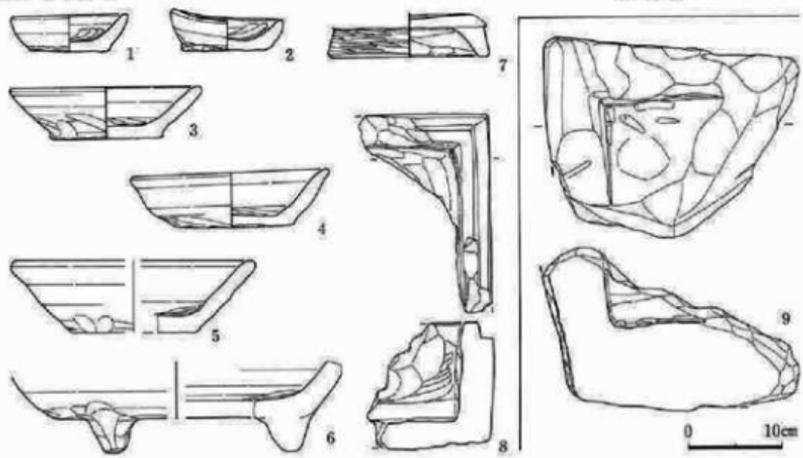


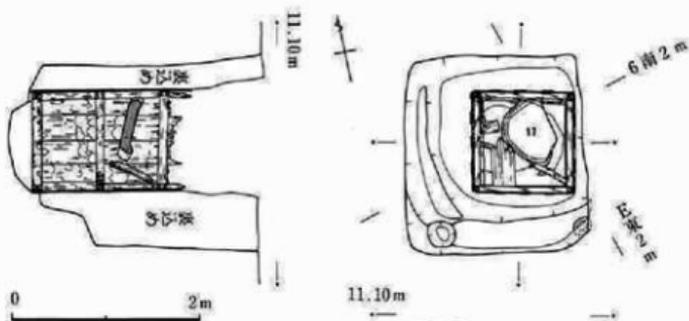
図10 井戸1・岡出土遺物

1	土師器 (ミニ チュア)	法量 口径6.2cm 底径4.2cm 器高2.0cm 部ナデ 胎土 針状物質、小石、粗砂粒含む、 良好	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底 色調 橙色 焼成
2	土師器 (ミニ チュア)	法量 口径6.0cm 底径4.6cm 器高1.7cm 部ナデ 胎土 砂粒、小石含む、やや粗い	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底 色調 橙色 焼成 良好
3	土師器	法量 口径10.2cm 底径6.0cm 器高2.75cm 部ナデ 胎土 針状物質、小石、砂粒、金雲母含む、 焼成 良好	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底 色調 橙色
4	土師器	法量 口径10.6cm 底径6.4cm 器高3.0cm 部ナデ、スノコ痕有り 胎土 針状物質、小石、砂粒含む、 焼成 良好	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底 色調 橙褐色
5	土師器	法量 口径13.0cm 底径6.8cm 器高3.9cm 部ナデ 胎土 針状物質、小石含む、粗い	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底 色調 橙褐色 焼成 良好
6	土師器 火鉢	法量 底径12.4cm 成形 ロクロ 内底部ナデ 脚部貼り付け 胎土 土器質 針 状物質、小石含む、やや粗い 色調 橙色 焼成 良好	
7	瓦器	法量 高台径8.6cm 成形 高台貼り付け、へら磨き 内底部ナデ 胎土 灰白色 瓦質 色調 内底部灰白色 外底部、高台黒色処理 焼成 普通	
8	角型火鉢	法量 器高6.8cm 成形 型押し、へら磨き 胎土 灰褐色瓦質 小石、砂粒含む 色調 表面黒色 焼成 普通	
9	箱状石製品	石質 砂岩 成形 たがね底有り	

表17 井戸1出土遺物観察表

1	土師器 (ミニ チュア)	法量 口径6.1cm 底径3.4cm 器高2.1cm 部ナデ スノコ痕有り 胎土 砂粒、小石、針状物質含む 良好 完形	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底 色調 橙色 焼成
2	土師器	法量 口径8.0cm 底径4.0cm 器高2.4cm 部ナデ 口径部へら削り スノコ痕有り 胎土 針状物質、砂粒含む 焼成 良好 完形	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底 色調 灰茶褐色
3	土師器	法量 口径10.8cm 底径6.3cm 器高3.1cm 部ナデ スノコ痕有り 胎土 針状物質含む	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底 色調 灰橙褐色 焼成 良好
4	土師器	法量 口径14.4cm 底径9.0cm 器高4.3cm 部ナデ スノコ痕有り 胎土 針状物質、砂粒含む	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底 色調 橙褐色 焼成 良好
5	土師器 (白色系)	法量 底径5.0cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 胎土 砂粒、小石含む 色調 白褐色 焼成 良好	
6	火鉢	法量 口径41.0cm 成形 輪積後ロクロ 口縁下穿孔 胎土 暗赤褐色、瓦質 小 石、砂粒含む 色調 黒褐色 焼成 良好	

表18 井戸2出土遺物観察表(1)



概 要 方形の掘方に方形横性支柱型の井戸枠を据える。掘方下部の西辺と南辺に段状部。南辺の段状部の両端に柱状状盛り込み。井戸枠を据える際の作業孔か？掘方底部は扇状に窪む溜部。

井戸枠辺長 外径108cm、内径91cm、芯々98cm  
 掘方辺長 南北210cm、東西195cm  
 裏方辺長 南北147cm、東西145cm  
 溜部 径 145cm  
 深さ 265cm  
 主軸方位 N-13.5°-E

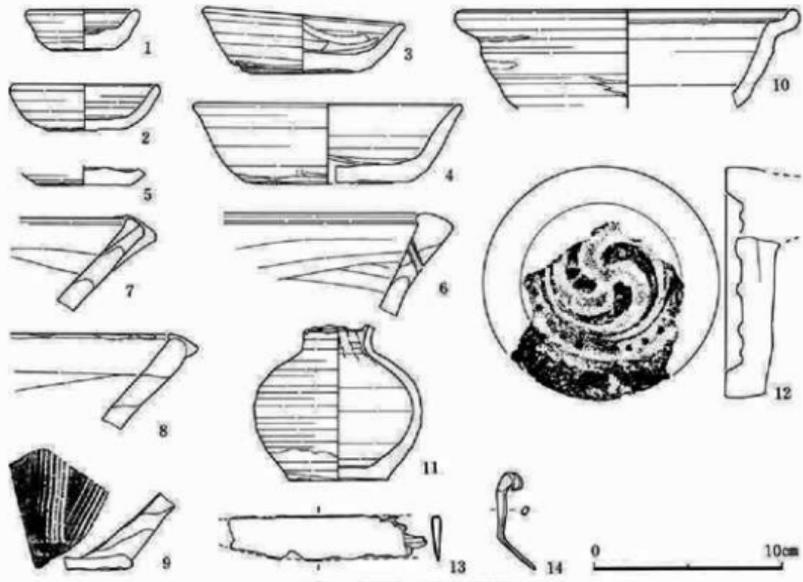


図31 井戸2・同出土遺物(1)

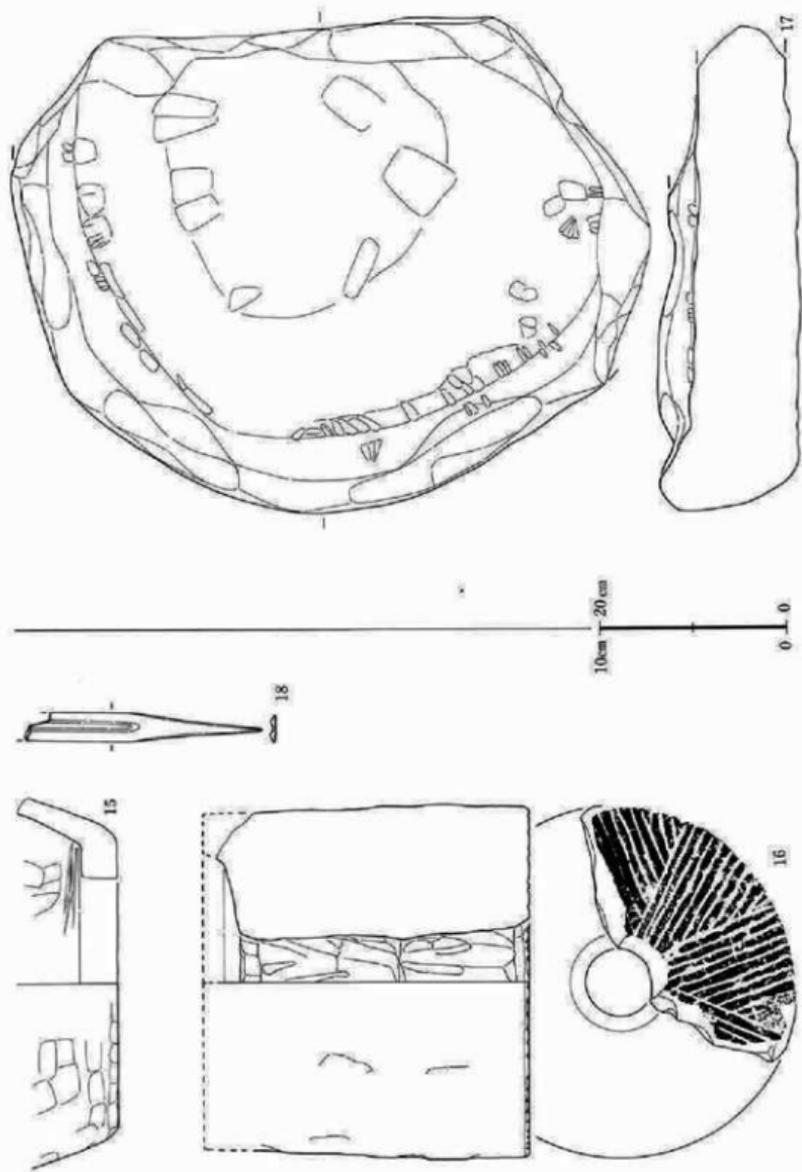


图32 井戸2出土遺物(2)

7	常滑 こね鉢	成形 輪積 口縁部内外面横ナゲ 口縁部指頭圧痕 胎土 灰黒色、小石、砂粒含む 色調 黒色 焼成 普通
8	常滑 こね鉢	成形 輪積 口縁部内外面横ナゲ 胎土 橙色、小石、砂粒含む、やや粗い 色調 橙色 焼成 普通
9	備前 すり鉢	成形 輪積 内外面横ナゲ 条線1束8本 スス付着 胎土 暗赤褐色、砂粒含む 気 孔有り 色調 暗赤褐色 焼成 良好
10	瀬戸 折鉢皿	法量 口径18.4cm 成形 ロクロ 素地 黄灰色、精良、気孔有り 釉薬 灰 釉 焼成 良好 備考 スス付着
11	瀬戸 小壺	法量 底径5.2cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 胎土 灰黒色、緻密 釉薬 緑褐色鉄釉 焼成 良好
12	軒丸瓦	法量 外径12.2cm 内径8.5cm 成形 丸瓦に瓦当貼り付け 瓦当裏面指頭ナゲ 文様 三つ巴文 内区外周に進珠文 胎土 瓦質、小石、砂粒含む、気孔有り 色 調 赤褐色 焼成 良好
13	刀子	法量 幅2.0cm 最大厚 0.5cm 最小厚0.1cm
14	釘	法量 長さ6.1cm 幅0.45cm 厚さ0.25cm
15	滑石鍋	法量 底径15.5cm 成形 内面、外面下位に削り底有り 色調 暗赤褐色 備 考 スス付着
16	茶臼 (上臼)	法量 外径19.0cm 口径5.2cm 高さ16.7cm 白の目は8分圓11溝 石材 安山岩 色調 灰黒色
17	皿状石製品	法量 直径70cm前後か? 高さ15.0cm 底部厚さ11.4cm 石材 凝灰質砂岩
18	骨製	法量 幅1.6cm 最大厚0.3cm 成形 片面の中央にへこみ有り
19	無文漆椀	法量 口径14.0cm 底径6.5cm 器高6.2cm 成形 内外全面黒漆塗り 下塗なし
20	無文漆椀	法量 底径7.5cm 成形 内外全面黒漆塗り 下塗なし 口縁部を削り取る
21	漆器椀用硯	法量 長径11.1cm 幅8.3cm 成形 内外全面黒漆塗り 下塗なし 内底は平滑
22	曲物底板	法量 径12.0cm 厚0.6cm 成形 平面円形、板目
23	曲物底板	法量 径13.2cm 厚0.55cm 成形 平面円形、板目
24	曲物底板	法量 長径14.8cm 短径14.0cm 最大厚0.8cm 最小厚0.4cm 成形 平面はぼ円形 板目
25	箸	法量 長さ(17.0cm) 幅0.7cm 厚さ0.5cm
26	箸	法量 (長さ18.0cm) 幅0.7cm 厚さ0.3cm
27	横櫛	法量 櫛厚0.9cm 櫛3.9cm 成形 歯の間隔は密、棟部は緩い弧を描き側面は半円形 の楔形 色調 黒色処理
28	筒状木製品	法量 径1.3cm 中心孔径0.2cm
29	竹製品	法量 径0.7cm 内径0.4cm 成形 六角形に近く面取り 色調 茶色

表19 井戸2出土遺物観察表(2)

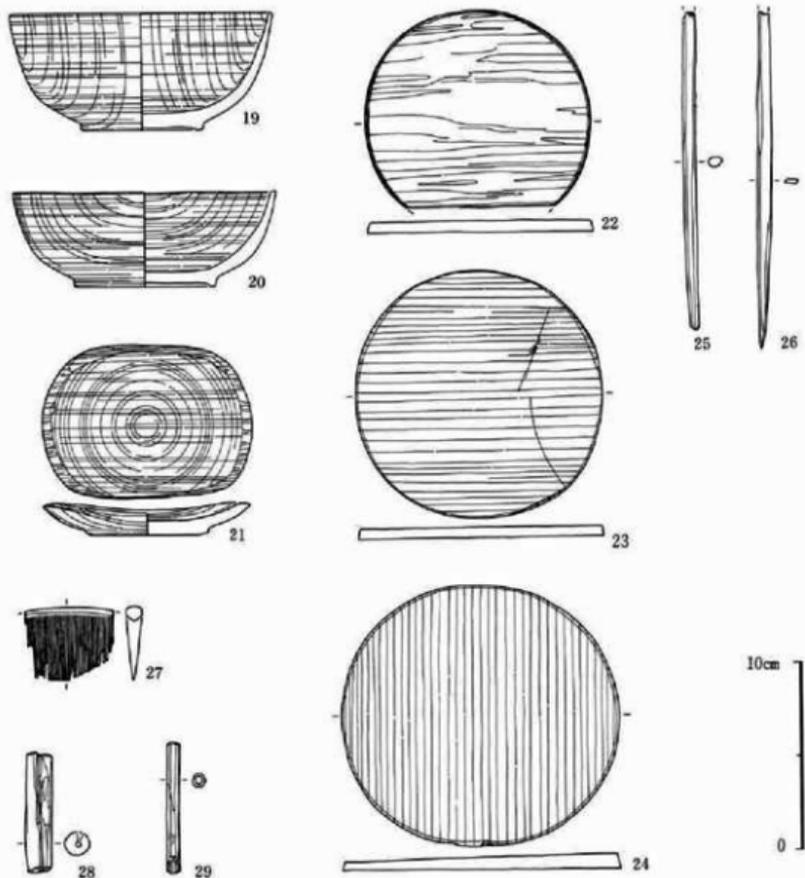
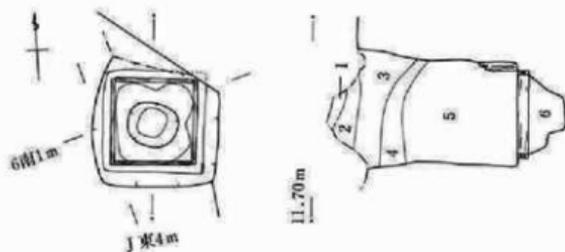


図33 井戸出土遺物3)-裏込め



概 要 方形の側方に方形の本枠を据える。器部径 54cm(長径)  
 本枠は最下段の横様のみ遺存。深 さ 225cm  
 井戸枠辺長 外法94cm、内法85cm、芯々89cm 主軸方位 N-4°-E  
 掘方辺長 東西134cm、南北139cm以上。

- 1 明褐色粘質土
- 2 黒灰色粘質土
- 3 灰褐色粘質土
- 4 灰色シルト岩塊・遺物・炭化物を含む
- 5 灰褐色粘質土
- 6 灰褐色粘質土

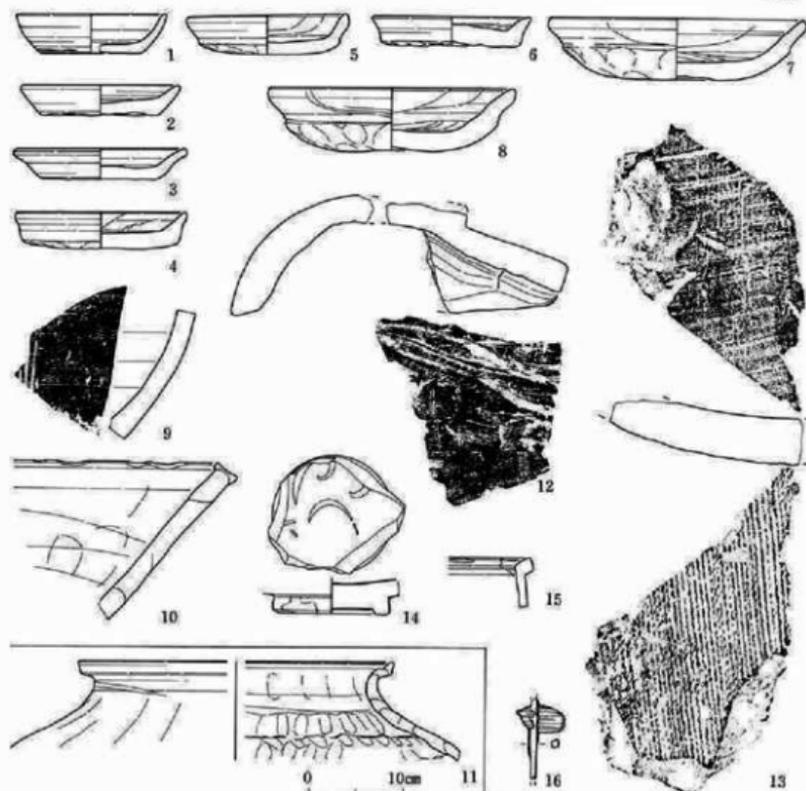


図34 井戸3・同出土遺物

1	土師器	法量 口径8.0cm 底径5.2cm 器高2.1cm 部ナデ 胎土 針状物質、金雲母、白色細粒、黒色細粒含む 焼成 良好	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 色調 淡褐色	内底 焼成 良好
2	土師器	法量 口径8.5cm 底径6.2cm 器高1.6cm 部ナデ 胎土 針状物質、砂粒含む	成形 ロクロ 色調 淡黄褐色	外底部回転糸切り 焼成 良好
3	土師器	法量 口径9.3cm 底径6.2cm 器高1.65cm 部ナデ 胎土 針状物質、黒雲母、黒色砂粒含む	成形 ロクロ 色調 褐色	外底部回転糸切り 内底 焼成 良好
4	土師器	法量 口径9.2cm 底径4.6cm 器高1.95cm 部ナデ 胎土 針状物質、砂粒含む	成形 手づくね 色調 灰褐色	外底部、内底部、口縁 焼成 良好
5	土師器	法量 口径8.7cm 底径5.3cm 器高2.15cm 部ナデ 胎土 針状物質、砂粒含む	成形 手づくね 色調 灰褐色	外底部、内底部、口縁 焼成 良好
6	土師器	法量 口径8.6cm 底径6.0cm 器高1.6cm 胎土 針状物質、砂粒含む	成形 手づくね 色調 灰褐色	内底部、口縁部ナデ 焼成 良好
7	土師器	法量 口径15.4cm 底径5.8cm 器高3.25cm 胎土 針状物質、砂粒含む	成形 手づくね 色調 淡褐色	内底部、口縁部ナデ 焼成 良好
8	土師器	法量 口径13.2cm 底径4.9cm 器高3.3cm 胎土 針状物質、小石含む	成形 手づくね 色調 灰褐色	内底部、口縁部ナデ 焼成 良好
9	備前 すり鉢	成形 内外面に横ナデ 内側に染線有り 焼成 普通	胎土 灰褐色、粘性が強い	色調 褐色
10	常滑 こね鉢	成形 輪積 口縁部ナデ 焼成 普通	胎土 黒褐色、小石粒含む、粗い	色調 赤褐色
11	常滑 甕	法量 口径33.6cm 成形 輪積 内外面横ナデ 色調 赤褐色	肩部内側指頭痕有り 焼成 普通	胎土 明褐色、砂粒含む、きめ細かい
12	丸瓦	成形 凹面布目叩き 凸面ヘラナデ 焼成 普通	胎土 瓦質、白色粒含む、きめ細かい 備考 永福寺1期	色調 灰色
13	平瓦	成形 凹面糸切り痕と布目 凸面親目叩き 色調 灰色	指頭痕有り 備考 永福寺1期	胎土 瓦質、白色粒含む
14	青磁 龍泉窯 碗	法量 底径6.2cm 成形 ロクロ 高台削り出し 明灰色、きめ細かい 釉薬 灰緑褐色不透明、高台内部と足付は一部露胎 良好	文様 内底面両花文 素地 焼成	
15	黄釉 盤	成形 輪積後ロクロ 透明 焼成 良好	素地 淡灰褐色、黒色細粒、白色細粒含む	釉薬 黄灰色不
16	鉄釘	法量 長さ4.4cm 径0.35cm 厚0.35cm	備考 木炭付着	

表20 井戸3出土遺物総表

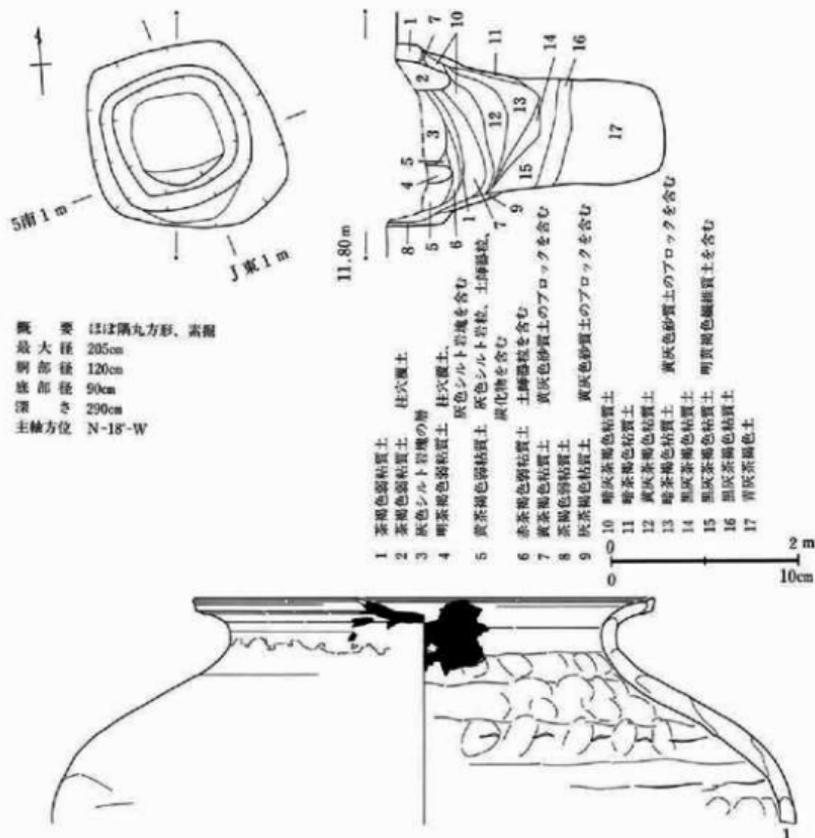
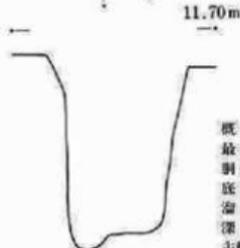
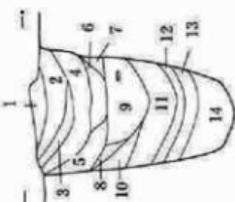
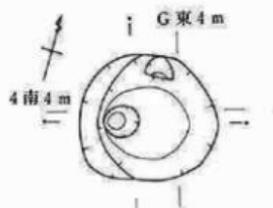


図35 井戸4・同出土遺物

1	常滑 甕	法量 口径24.65cm 外側に丹灰	成形 輪積 胎土 灰色～灰黄色、 きめ細かい	口縁部横ナデ 肩部内側指頭痕有り 色調 褐色	口縁部と肩部 焼成 普通
---	---------	-----------------------	------------------------------	------------------------------	-----------------

表21 井戸4出土遺物観察表



概要  
 最大径 150cm  
 胴部径 112cm  
 底部径 92cm  
 深さ 40cm  
 深さ 210cm  
 主軸方位 N-74-E



1. 明瓦葺瓦葺上
  2. 明瓦葺瓦葺上
  3. 明瓦葺瓦葺上
  4. 明瓦葺瓦葺上
  5. 明瓦葺瓦葺上
  6. 明瓦葺瓦葺上
  7. 明瓦葺瓦葺上
  8. 明瓦葺瓦葺上
  9. 明瓦葺瓦葺上
  10. 明瓦葺瓦葺上
  11. 明瓦葺瓦葺上
  12. 瓦葺
  13. 瓦葺
  14. 瓦葺
- 褐色シト土層を含む  
 褐色シト土層を含む

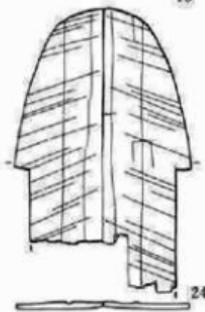
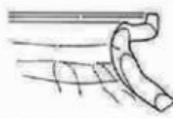
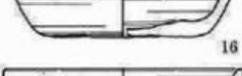
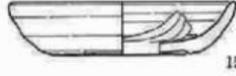
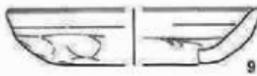
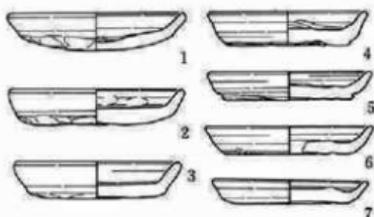


図35 井戸5・同出土遺物

1	土師器	法量 口径9.6cm 底径2.5cm 器高2.0cm 胎土 小石、砂粒含む、やや粗い	成形 手づくね 色調 橙褐色	内底部、口縁部ナデ 焼成 良好
2	土師器	法量 口径9.4cm 底径4.0cm 器高2.0cm 胎土 小石、砂粒含む、やや粗い	成形 手づくね 色調 淡褐色	内底部、口縁部ナデ 焼成 良好
3	土師器	法量 口径9.0cm 底径4.8cm 器高2.0cm 胎土 小石、砂粒、針状物質含む、やや粗い	成形 外底部手づくね 色調 褐色	内底部、口縁部ナデ 焼成 良好
4	土師器	法量 口径8.4cm 底径6.6cm 器高1.8cm 胎土 針状物質含む	成形 ロクロ 色調 淡橙褐色	外底部同転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り 焼成 良好
5	土師器	法量 口径8.8cm 底径6.8cm 器高1.5cm 胎土 砂粒含む	成形 ロクロ 色調 灰橙褐色	外底部同転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り 焼成 良好
6	土師器	法量 口径9.0cm 底径6.9cm 器高1.5cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	成形 ロクロ 色調 灰橙褐色	外底部同転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り 焼成 良好
7	土師器	法量 口径8.4cm 底径6.3cm 器高1.3cm 胎土 針状物質、砂粒含む	成形 ロクロ 色調 淡橙褐色	外底部同転糸切り 内底部ナデ 焼成 良好
8	土師器	法量 口径13.4cm 底径5.1cm 器高3.5cm 胎土 小石、砂粒、針状物質含む	成形 手づくね 色調 灰橙褐色	内底部、口縁部ナデ スス付着 焼成 良好
9	土師器	法量 口径13.6cm 底径7.5cm 器高3.0cm 胎土 針状物質含む	成形 手づくね 色調 淡褐色	内底部、口縁部ナデ 焼成 良好
10	土師器	法量 口径11.2cm 底径6.4cm 器高2.9cm 胎土 砂粒、小石含む	成形 ロクロ 色調 淡橙褐色	外底部同転糸切り 焼成 良好
11	土師器	法量 口径13.0cm 底径9.3cm 器高2.9cm 胎土 針状物質、砂粒含む	成形 ロクロ 色調 灰橙褐色	外底部同転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り スス付着 焼成 良好
12	土師器	法量 口径12.0cm 底径8.2cm 器高3.0cm 胎土 針状物質、砂粒含む	成形 ロクロ 色調 橙褐色	外底部同転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り スス付着 焼成 良好
13	土師器	法量 口径12.4cm 底径8.6cm 器高2.4cm 胎土 針状物質、砂粒、橙粒子、雲母含む	成形 ロクロ 色調 灰橙褐色	外底部同転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り 焼成 良好
14	土師器	法量 口径12.4cm 底径9.0cm 器高2.7cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	成形 ロクロ 色調 淡橙褐色	外底部同転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り 焼成 良好
15	土師器	法量 口径12.2cm 底径7.8cm 器高2.8cm 胎土 針状物質、砂粒、小石、雲母含む	成形 ロクロ 色調 淡橙褐色	外底部同転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り 焼成 良好
16	土師器	法量 口径11.6cm 底径8.0cm 器高2.6cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	成形 ロクロ 色調 灰橙褐色	外底部同転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り 焼成 良好

表22 井戸5出土遺物観察表(1)

17	土師器	法量 口径13.0cm 底径9.0cm 器高2.9cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 傷有り 内底部ナデ スノコ痕有り 胎土 針状物質、砂粒、小石含む 色調 橙褐色 焼成 良好
18	土師器	法量 口径12.0cm 底径8.4cm 器高3.0cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ スノコ痕有り 胎土 針状物質、砂粒含む、やや粗い 色調 淡橙褐色 焼成 良好
19	土師器	法量 口径13.0cm 底径9.2cm 器高2.7cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ スノコ痕有り 胎土 小石、針状物質、砂粒含む 色調 淡褐色 焼成 良好
20	土師器	法量 口径13.2cm 底径9.5cm 器高2.6cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ スノコ痕有り 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む 色調 灰橙褐色 焼成 良好
21	土師器	法量 口径12.4cm 底径8.5cm 器高3.2cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ スノコ痕有り 胎土 針状物質、砂粒、小石含む 色調 淡橙褐色 焼成 良好
22	西播系土器	法量 口径13.6cm 底径5.5cm 器高4.9cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 胎土 瓦質、小石含む。きめ細かい 色調 灰白色 焼成 良好
23	常滑 甕	法量 口径27.0cm 成形 輪積 口縁部ナデ 胎土 暗灰褐色小石、砂粒含む 気孔有り 色調 褐色 焼成 普通
24	板草縄芯	法量 幅9.45cm 厚さ0.4cm 成形 平面は端を切った長円形、側面は中央付近に切り込み、板目
25	漆塗り木製品	法量 長さ23.4cm 幅2.0cm 厚さ0.9cm 成形 両端1.4cm 厚さ0.3cm 削り取り 両面漆塗り

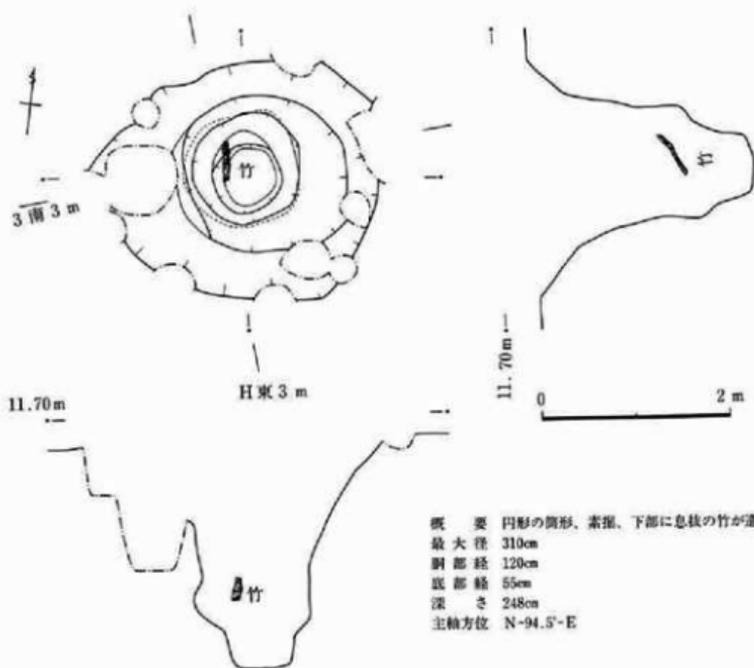
表23 井戸5出土遺物観察表(2)

1	土師器	法量 口径9.4cm 底径6.0cm 器高1.5cm 成形 手づくね、口縁部、内底部ナデ 胎土 針状物質含む 色調 橙褐色 焼成 良好 完成
2	土師器	法量 口径9.5cm 底径2.3cm 器高2.0cm 成形 手づくね、口縁部、内底部ナデ 胎土 針状物質、砂粒、金雲母含む 色調 灰褐色 焼成 良好 完成
3	土師器	法量 口径9.2cm 底径3.4cm 器高2.4cm 成形 手づくね、口縁部、内底部ナデ スノコ痕有り 胎土 針状物質含む 色調 黄褐色 焼成 良好 完成
4	土師器	法量 口径8.6cm 底径4.6cm 器高1.9cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 胎土 砂粒、金雲母含む、粗い 色調 淡褐色 焼成 良好
5	土師器	法量 口径9.8cm 底径7.7cm 器高2.0cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ スノコ痕有り 胎土 針状物質、赤色粒子含む 色調 灰褐色 焼成 良好 半完成
6	土師器	法量 口径9.5cm 底径7.0cm 器高1.7cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部相筒状工具によるナデ スノコ痕有り スス付着 胎土 砂粒、針状物質含む 色調 橙褐色 焼成 良好

表24 井戸6出土遺物観察表(1)

7	土師器	法量 口径9.0cm 底径6.6cm 器高1.7cm 部ナデ 胎土 赤色粒子含む	成形 色調 淡橙色	ロクロ 焼成	外底部回転糸切り 良好	内底
8	土師器	法量 口径8.2cm 底径6.8cm 器高2.0cm 部ナデ スノコ状有り 胎土 針状物質、金雲母、赤色粒子、砂粒含む	成形 色調 淡	ロクロ 焼成	外底部回転糸切り 良好	内底
9	土師器	法量 口径14.8cm 底径5.4cm 器高3.4cm 胎土 針状物質含む	成形 色調 灰褐色	手づくね 焼成	口縁部、内底部ナデ 半完形	
10	土師器	法量 口径14.4cm 底径4.6cm 器高3.4cm 胎土 針状物質、小石含む	成形 色調 橙褐色	手づくね 焼成	口縁部、内底部ナデ 良好 完形	
11	土師器	法量 口径13.5cm 底径7.1cm 器高3.1cm 胎土 砂粒、小石含む	成形 色調 橙色	手づくね 焼成	口縁部、内底部ナデ 良好 完形	
12	土師器	法量 口径13.5cm 底径8.6cm 器高3.0cm 部ナデ 胎土 針状物質、赤色粒子、小石含む	成形 色調 淡褐色	ロクロ 焼成	外底部回転糸切り 良好	内底
13	土師器	法量 口径14.6cm 底径9.6cm 器高3.2cm 部ナデ 胎土 針状物質、赤色粒子、金雲母含む	成形 色調 橙褐色	ロクロ 焼成	外底部回転糸切り 良好	内底
14	土師器 (白色系)	法量 口径8.5cm 底径3.4cm 器高2.4cm きめ細かい	成形 色調 乳白色	手づくね 焼成	良好 内底部ナデ 完形	胎土
15	瀝美 費	法量 口径40.8cm 含む	成形 色調 灰褐色	口縁横ナデ 焼成 普通	内面指頭痕 外面印き目有り	胎土、砂粒
16	丸瓦	法量 (長さ16.9cm) 幅16.1cm 厚さ2.2cm 胎土 瓦質、小石、微細な雲母含む	成形 色調 灰黑色	凸面丁家なナデ 焼成	凹面布目 良好	
17	黄褐色釉	法量 口径12.2cm 釉薬 鉛釉	成形 焼成	ロクロ 素地 緻密黄灰色軟質 備考 いわゆるムソソノ壺	色調 緑褐色半透	
18	青磁 龍泉窯 陶花文碗	法量 口径6.6cm 色緻密、気孔多	成形 釉薬 灰緑色透明	左回転ロクロ 焼成 普通	文様 内面へら描き文	素地 暗灰
19	青磁 龍泉窯 陶花文碗	成形 色透明	ロクロ 焼成 普通	内面へら描き文	素地 灰色緻密、粘性強	釉薬 灰緑
20	青磁 龍泉窯 陶花文碗	法量 口径16.0cm 質 釉薬 暗灰緑色半透明	成形 焼成 普通	ロクロ 文様 内面へら描き文	素地 暗灰色岩石	
21	青磁 龍泉窯 陶花文碗	法量 口径17.0cm (器高5.7cm) 素地 暗灰色緻密、粘性強	釉薬 灰緑色半透明	成形 焼成 普通	ロクロ 文様 内面へら描き文	
22	箸	法量 長さ22.8cm 幅0.65cm 厚さ0.45cm	両口			
23	箸	法量 長さ25.5cm 幅0.7cm 厚さ0.6cm	両口			
24	板草祝志	法量 長さ23.0cm 幅10.6cm 厚さ0.3cm	成形 平面は前後端を切った長円形、側面は中央やや後に切り込み 板目			
25	板草祝志	法量 長さ22.8cm 幅9.4cm 厚さ0.3cm	成形 平面は前後端を切った長円形、側面は中央やや後に切り込み 板目			

表25 井戸6出土遺物観察表(2)



概要 円形の筒形、素掘、下部に息枝の竹が遺存  
 最大径 310cm  
 胴部径 120cm  
 底部径 55cm  
 深さ 248cm  
 主軸方位 N-94.5°-E

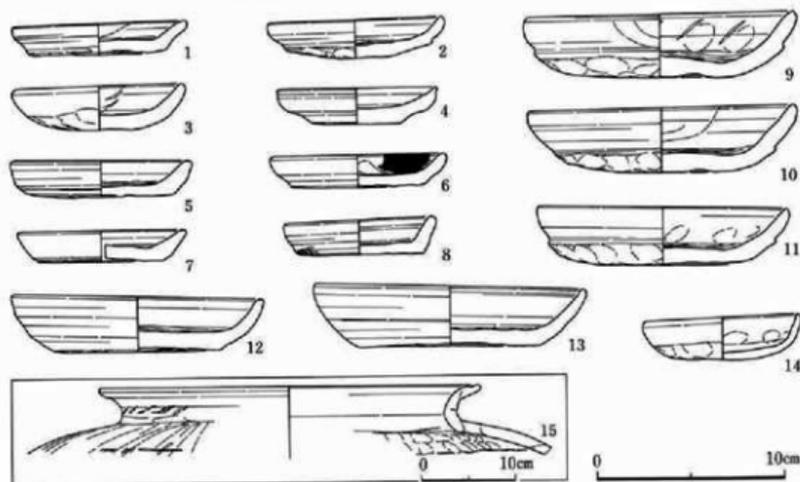


図37 井戸6・同出土遺物(1)

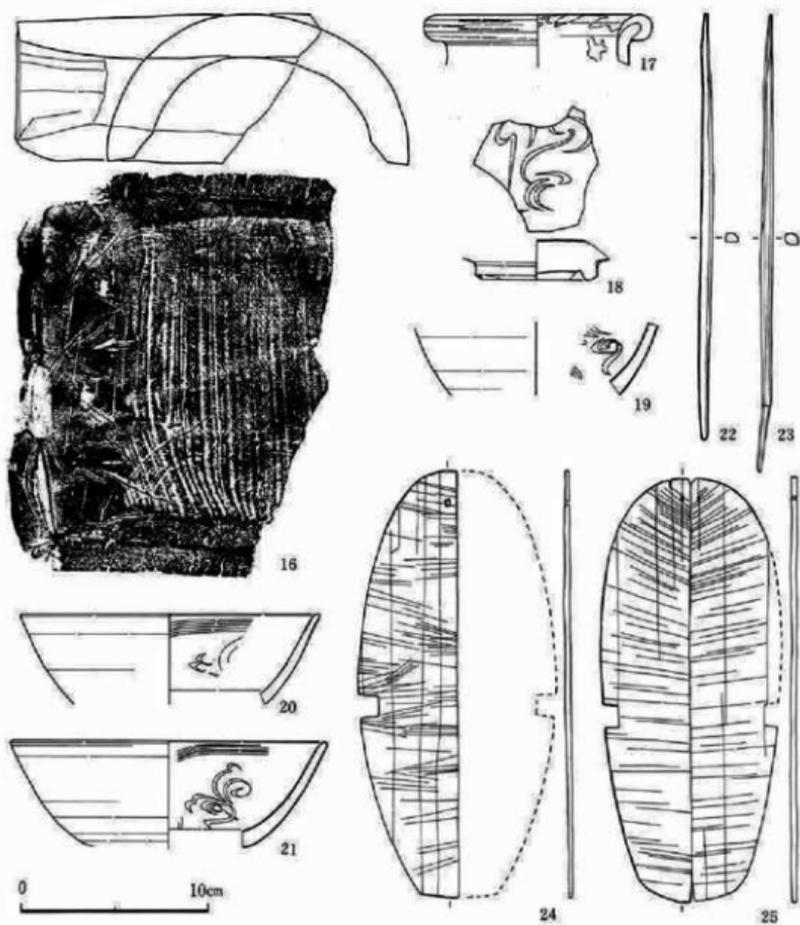


图38 井戸6出土遺物(2)

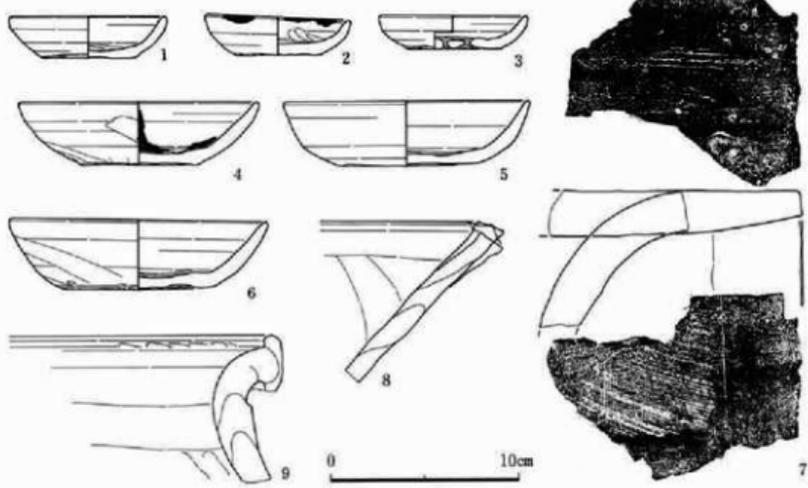
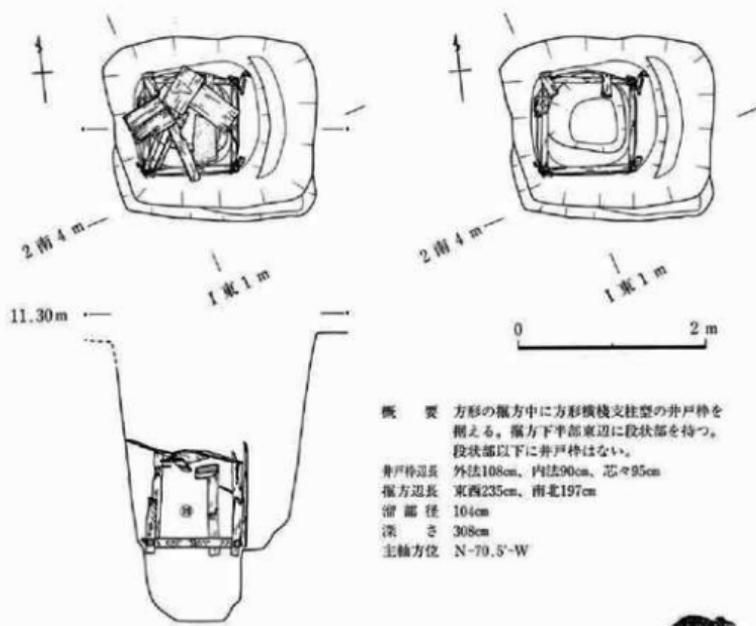


図39 井戸7・岡出土遺物(1)

1	土師器	法量 口径8.4cm 底径5.0cm 器高2.2cm 部ナデ 胎土 針状物質、砂粒含む	成形 色調	ロクロ 灰茶褐色	外底部回転糸切り 焼成 良好	内底 完形
2	土師器	法量 口径7.8cm 底径4.5cm 器高2.0cm 部ナデ スノコ痕有り 口縁にスス付着	成形 色調	ロクロ 胎土、針状物質、小石含む	外底部回転糸切り 焼成 良好	内底 灰橙
3	土師器 (穿孔)	法量 口径8.0cm 底径5.0cm 器高1.8cm 部ナデ 底部に2ヶ所穿孔有り	成形 色調	ロクロ 胎土、針状物質含む、やや粗い	外底部回転糸切り 焼成 良好	内底 橙褐色
4	土師器	法量 口径12.8cm 底径6.0cm 器高3.4cm 部ナデ スノコ痕有り、スス付着	成形 色調	ロクロ 胎土、針状物質含む	外底部回転糸切り 焼成 良好	内底 灰橙褐色
5	土師器	法量 口径13.2cm 底径7.5cm 器高3.5cm 部ナデ 胎土 雲母含む	成形 色調	ロクロ 胎土、雲母含む	外底部回転糸切り 焼成 良好	内底 半完形
6	土師器	法量 口径13.8cm 底径8.0cm 器高3.7cm 部ナデ 胎土 針状物質含む	成形 色調	ロクロ 胎土、針状物質含む	外底部回転糸切り 焼成 良好	内底 半完形
7	丸瓦	法量 (長さ14.5cm 幅9.5cm) 部ナデ 胎土 瓦質、きめ細かい	成形 色調	凸面側目をナゲ調整 暗灰青色	凹面糸切り底と布目痕、 端部削り残ナゲ 表面黒色処理	焼成 良好
8	常滑 こね鉢	成形 輪積 口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 石、砂粒含む	色調 焼成	赤褐色 普通	口唇部き指頭王底	胎土 赤褐色、小
9	常滑 甕	口径22.4cm 成形 輪積 口縁部横ナデ 調 茶褐色 焼成 普通	胎土	暗灰色、小石、砂粒含む	色	
10	瀬戸 香合 <sup>4</sup>	法量 口径25.0cm 成形 口縁部折縁、なぶり仕上げ 顔部貼り付け凸帯 肩 部池珠文 胎土 黄灰色きめ細かい 釉薬 黒褐色 外面と内面口縁から頸部に施 粒 焼成 良好	色調	黒褐色	外面と内面口縁から頸部に施 粒	焼成 良好
11	瀬戸 香合 <sup>4</sup>	成形 口縁部内外面横ナデ 文様 頸部二連の型押し池珠 下部に貼り付けの袋歯連 珠 胎土 灰褐色、気孔少し有り 釉薬 陰輪 内面は白濁	色調	灰褐色	文様 体部外面に蓮華文の 焼成 良好	焼成 良好
12	瀬戸 香合 <sup>4</sup>	法量 底径14.4cm 成形 口縁部内外面横ナデ 文様 体部外面に蓮華文の 押印 胎土 明灰褐色、気孔多い 釉薬 淡緑色透明	色調	明灰褐色	文様 体部外面に蓮華文の 焼成 良好	焼成 良好
13	瀬戸 大平鉢	法量 口径27.2cm 成形 口縁から体部横ナデ 外面下部へく削り 胎土 灰褐色、微気孔有り 釉薬 黄灰色の灰釉が白濁 内面、外面口縁から体部まで施 粒 焼成 良好	色調	黄灰色の灰釉が白濁	内面、外面口縁から体部まで施 粒	焼成 良好
14	黒釉 甕	法量 口径9.0cm 底径14.0cm 成形 口縁部内外面横ナデ 素地 茶褐色、小石、長石含む 胎土部 赤茶褐色 釉薬 黒茶褐色、失透	色調 焼成	黒茶褐色	素地 茶褐色、小石、長石含む 胎土部 赤茶褐色	焼成 良好
15	青磁 甕	法量 口径12.2cm 成形 口縁部内外面横ナデ 外反 素地 灰白色 釉薬 緑青色半透明、内外面に厚く施粒	色調 焼成	緑青色半透明	外反 素地 灰白色 焼成 良好	釉薬 緑青色半透明、内外面に厚く施粒
16	不明鉄製品	法量 長さ15.1cm 最大幅1.0cm 最大厚0.45cm				
17	鉄釘	法量 長さ5.4cm 最大幅0.45cm				
18	鉄	大観通貫				

表26 井戸7出土遺物観察表(1)

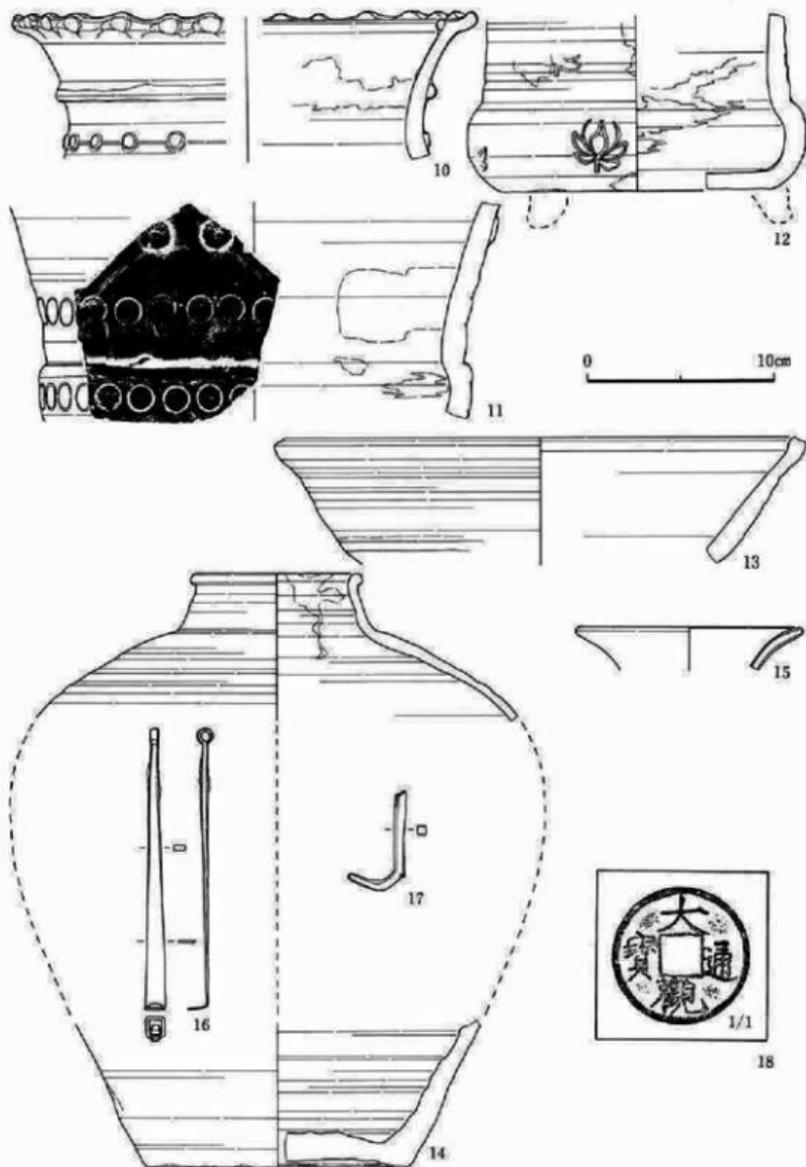


图40 井戸7出土遺物(2)

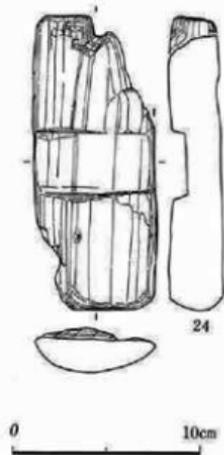
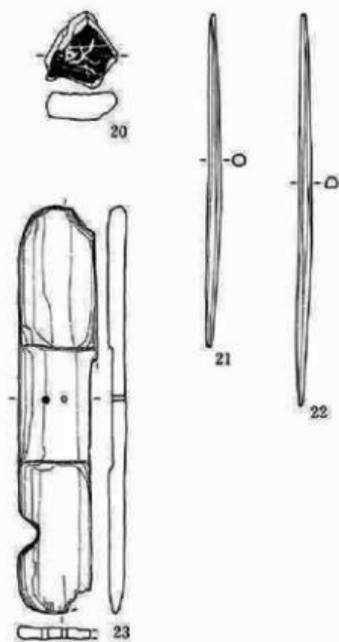
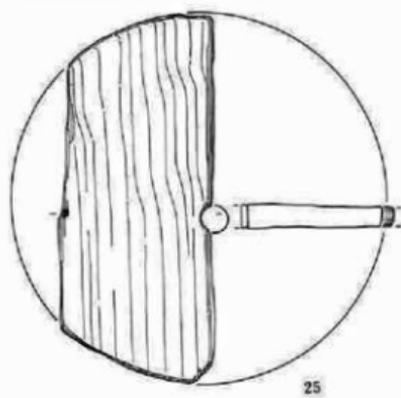
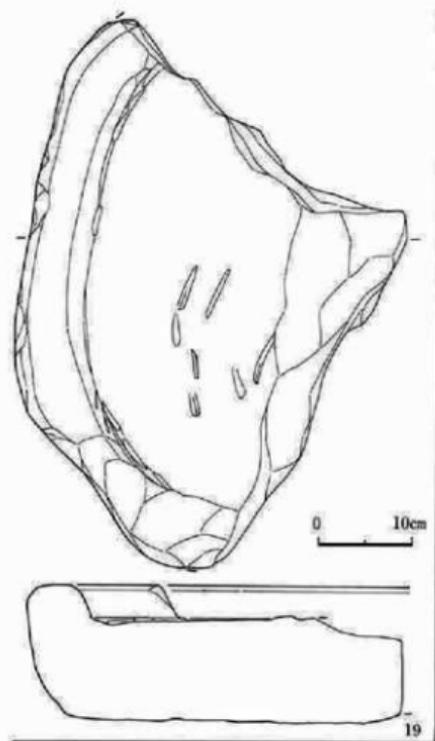


图41 井戸7出土遺物(3)

19	石風 ?	法量 高さ14.6cm 底部厚11.6cm	石材 凝灰質砂岩	備考 たがね痕有り
20	滑石印判	法量 長さ3.2cm 幅3.5cm 厚さ1.4cm	成形 模刻有り	
21	箸	法量 長さ17.8cm 幅0.7cm	成形 両口	
22	箸	法量 長さ20.8cm 幅0.7cm	成形 両口	
23	部 材	法量 長さ21.8cm 最大幅4.2cm 最大厚1.0cm 最大厚1.0cm	板目	
24	部 材	法量 長さ15.8cm 最大幅6.5cm 最大厚2.9cm 最大厚2.9cm	板目	
25	曲 底 物 板	法量 径20.0cm 厚さ1.1cm	成形 平面不正円形 経目	備考 中心下部に孔 補修木釘孔有り

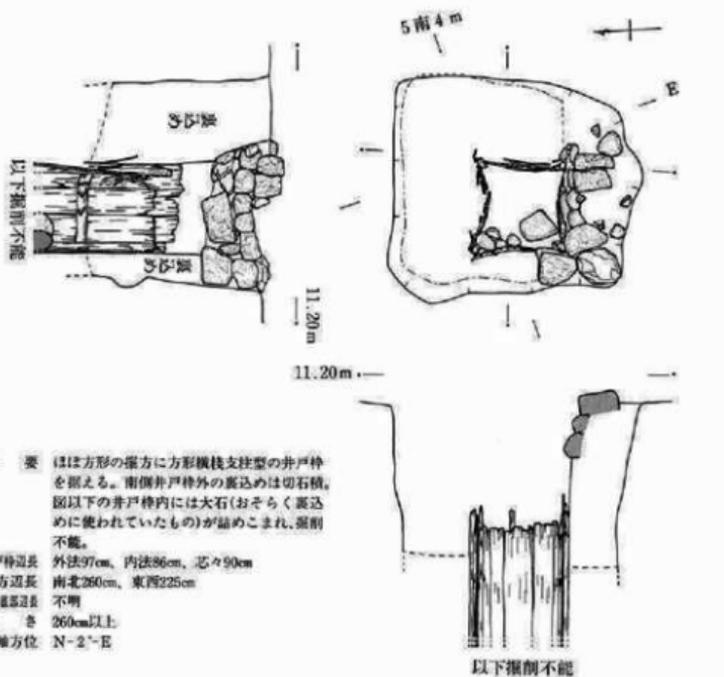
表27 井戸7出土遺物観察表(2)

1	土師器	法量 口径8.2cm 底径5.4cm 器高1.7cm 胎土 スノコ底有り 砂粒、針状物質、雲母含む、やや粗い 焼成 良好	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 色調 橙色	内底 部ナゲ
2	土師器	法量 口径7.6cm 底径5.4cm 器高1.6cm 胎土 雲母、砂粒、針状物質含む、やや粗い	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 色調 淡褐色	焼成 良好
3	土師器	法量 口径8.2cm 底径6.4cm 器高1.6cm 胎土 スノコ底有り 雲母、砂粒、針状物質、白粒含む 焼成 良好	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 色調 橙色	内底 部ナゲ
4	土師器	法量 口径13.6cm 底径8.4cm 器高3.45cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 色調 灰褐色	内底 部ナゲ
5	常 滑 甕	法量 底径11.6cm 焼成 普通	成形 輪楕 胎土 紫灰色、砂粒、小石含む、気孔有り	
6	白 磁 口 瓦 皿	成形 ロクロ 焼成 良好	素地 灰白色、砂粒含む、微気孔有り 釉薬 灰白色半透明	
7	平 瓦	成形 凸面糸切り筋、網目、凹面離れ砂 焼成 良好	胎土 灰色瓦質、砂粒含む 備考 水稲寺1期	色調 灰黒

表28 井戸8出土遺物観察表

1	土師器	法量 口径9.5cm 底径6.3cm 器高1.7cm 針状物質、金雲母、砂粒含む、やや粗い	成形 手づくね 色調 淡褐色	口縁部ナゲ 焼成 良好	胎土 完形
2	土師器	法量 口径10.0cm 底径2.7cm 器高2.2cm 胎土 針状物質、砂粒含む	成形 手づくね 色調 淡褐色	口縁部ナゲ 焼成 良好	スス付着 半完形
3	土師器	法量 口径8.8cm 底径4.4cm 器高1.8cm 胎土 金雲母、砂粒、小石含む、粗い	成形 ロクロ 色調 淡褐色	内底部ナゲ無し	胎

表29 井戸9出土遺物観察表(1)



概 要 はほぼ方形の掘方に方形横枝支柱型の井戸枠を据える。南側井戸枠外の裏込めは切石積。図以下の井戸枠内には大石(おそらく裏込めに使われていたもの)が詰めこまれ、掘削不能。

井戸枠辺長 外法97cm、内法86cm、芯々90cm

掘方辺長 南北260cm、東西225cm

掘方裏込め 不明

深 さ 260cm以上

主軸方位 N-2°-E

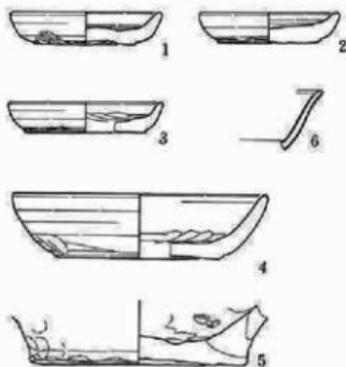
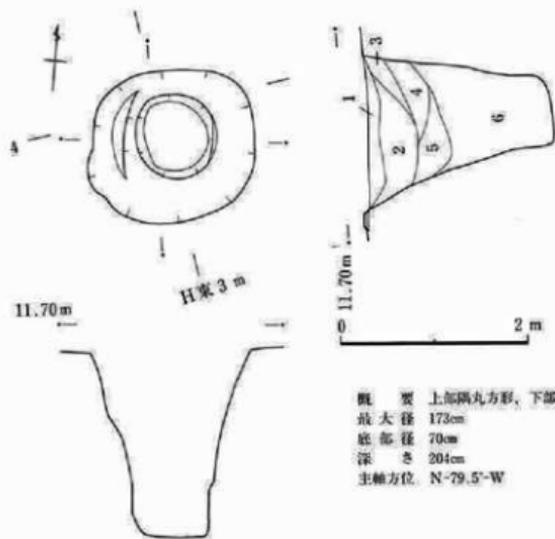


図42 井戸8・出土遺物



概要 上部隅丸方形、下部円形の筒形、素組  
 最大径 173cm  
 底部径 70cm  
 深さ 204cm  
 主軸方位 N-79.5°-W

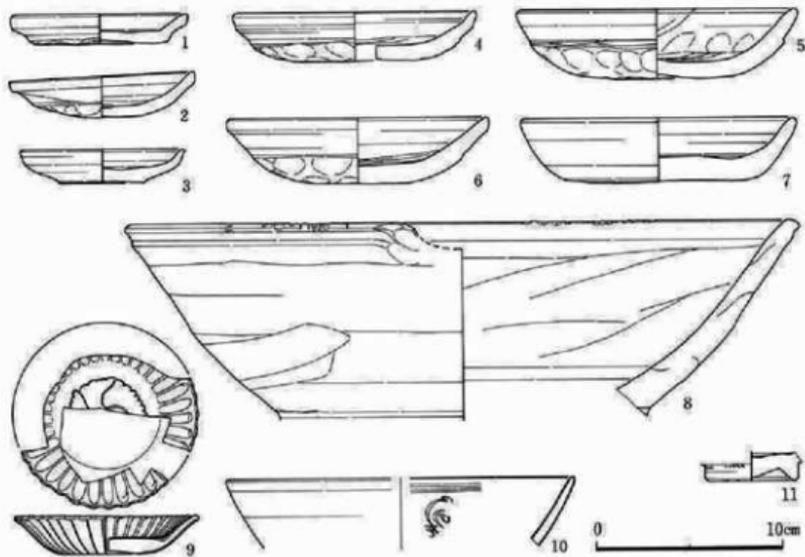


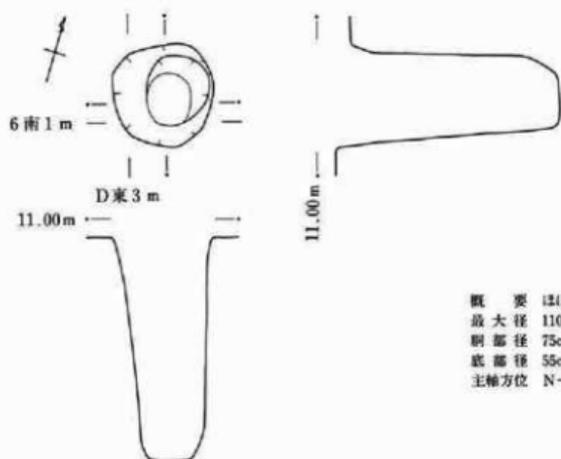
図43 井戸9・同出土遺物

4	土師器	法量 口径13.0cm 底径6.0cm 器高2.6cm 胎土 針状物質、微砂粒含む、ややきめ細かい	成形 手づくね 色調 淡褐色	口縁部、内底部ナデ 焼成 良好
5	土師器	法量 口径15.0cm 底径5.5cm 器高3.7cm 胎土 針状物質、小石、金雲母含む	成形 手づくね 色調 淡褐色	口縁部、内底部ナデ 焼成 良好
6	土師器	法量 口径14.0cm 底径4.8cm 器高3.5cm 砂粒含む、粗い	成形 手づくね 色調 淡褐色	口縁部ナデ 胎土 焼成 良好
7	土師器	法量 口径14.7cm 底径10.0cm 器高3.5cm 胎土 針状物質、小石、砂粒含む、粗い	成形 ロクロ 色調 橙褐色	外底部回転糸切り 内底部ナデ 半完形 焼成 良好
8	常滑 こね鉢	法量 口径36.0cm (底径10.0cm 器高11.0cm) 胎土 茶褐色、白色砂粒、小石含む	成形 輪積 色調 赤褐色	高台貼り付け 内外面 焼成 良好
9	青磁 龍泉窯 皿	法量 口径9.5cm 底径3.4cm 器高2.05cm 胎土 素地 灰白色、気孔有	成形 ロクロ 釉薬 青緑色半透明	文様 外面線刻内側 焼成 良好
10	青磁 龍泉窯 碗	法量 口径18.6cm (器高3.7cm) 胎土 灰白色、気孔有	成形 ロクロ 釉薬 淡緑色透明	文様 内面画文 素地 焼成 良好
11	青磁 同安窯系統	法量 口径5.0cm 胎土 素地 灰白色、気孔有	成形 ロクロ、高台削り出し 釉薬 内面淡黄緑色半透明	文様 高台外面に帯描き 焼成 良好

表30 井戸9出土遺物観察表(2)

1	土師器	法量 口径7.6cm 底径5.7cm 器高1.6cm 胎土 砂粒、雲母、針状物質、白粒含む	成形 ロクロ 色調 灰褐色	外底部回転糸切り 焼成 良好
2	土師器	法量 口径12.0cm 底径6.8cm 器高3.1cm 胎土 スノコ底有り 砂粒、雲母、針状物質含む	成形 ロクロ 色調 灰褐色	外底部回転糸切り 内底部ナデ 焼成 良好
3	常滑 こね鉢	成形 輪積 口縁部、内外面横ナデ 色調 赤褐色~暗茶褐色	胎土 暗茶褐色、白色砂粒、小石、雲母含む 普通	焼成
4	瀬戸 折縁甕	法量 口径11.6cm 胎土 焼成 良好	成形 ロクロ 備考 二次焼成有り	素地 灰色、やや粗い 釉薬 灰釉 器表面に灰付着
5	青磁 龍泉窯 鉢	成形 ロクロ、高台削り出し 色半透明、高台内露胎	素地 灰白色、砂粒含む、きめ細かい 焼成 良好	釉薬 淡緑
6	白磁 口瓦皿	法量 口径10.2cm 釉薬 灰白色半透明	成形 ロクロ 焼成 良好	素地 灰白色、きめ細かい、微気孔有り
7	砥石	法量 (長さ5.5cm) 幅3.85cm 厚さ1.4cm 備考 中砥 2面が砥面	産地 上野	色調 灰緑色
8	砥石	法量 (長さ9.2cm) 幅1.85cm 厚さ1.85cm 備考 4面とも砥面	産地 不明	色調 暗黒色
9	石	法量 幅18.8cm 厚さ9.0cm 石材 灰色シルト岩	成形 表面に小孔が多数有り (海岸生物の生息痕か?)	

表31 井戸10出土遺物観察表



概要 ほぼ円筒形、素掘  
 最大径 110cm  
 胴部径 75cm  
 底部径 55cm  
 主軸方位 N-32°-E

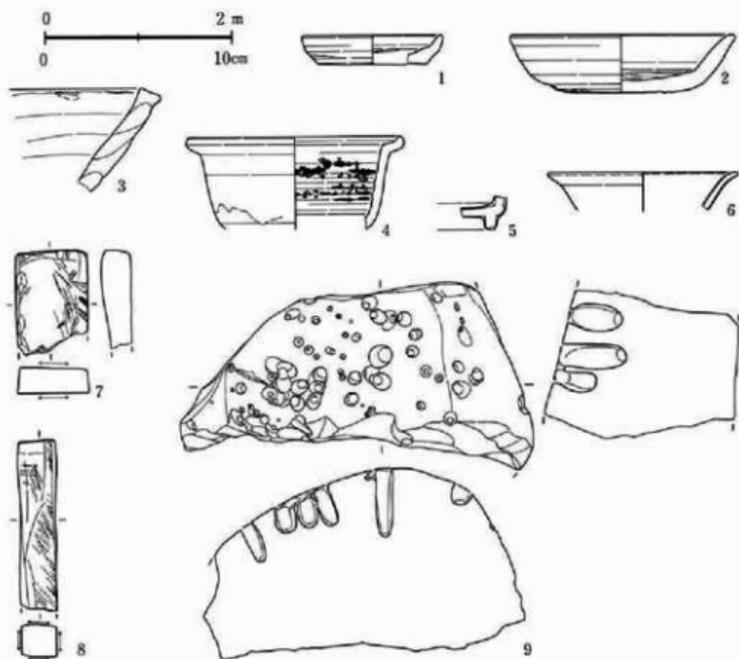
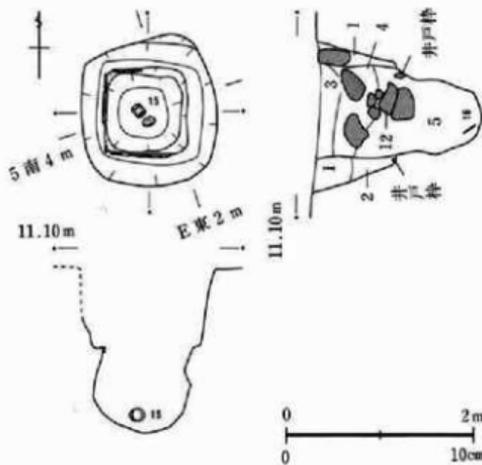


图44 井戸10・同出土遺物



- 1 茶褐色粘質土 (裏込め)
- 2 灰色シルト岩塊を含む
- 3 暗茶褐色粘質土 (裏込め)
- 4 灰色シルト岩塊・炭化物・遺物を含む
- 5 明茶褐色粘質土
- 6 灰色シルト岩塊・土器断片・炭化物を含む
- 7 暗茶褐色粘質土

概 要 兩方形の側方に方形横棧支柱型(横定)の井戸枠を測える。掘方中に段状部を持つ。井戸枠木質は横棧の一部を除いてほとんど遺存していないが、段状部以下はおそらくもともとは無かったと思われる。

井戸枠辺長 外法94cm、内法86cm、芯々90cm  
 掘方辺長 南北153cm、東西144cm  
 掘方下部辺長 南北82cm、東西83cm  
 深さ 175cm  
 主軸方位 N-2.5°-E

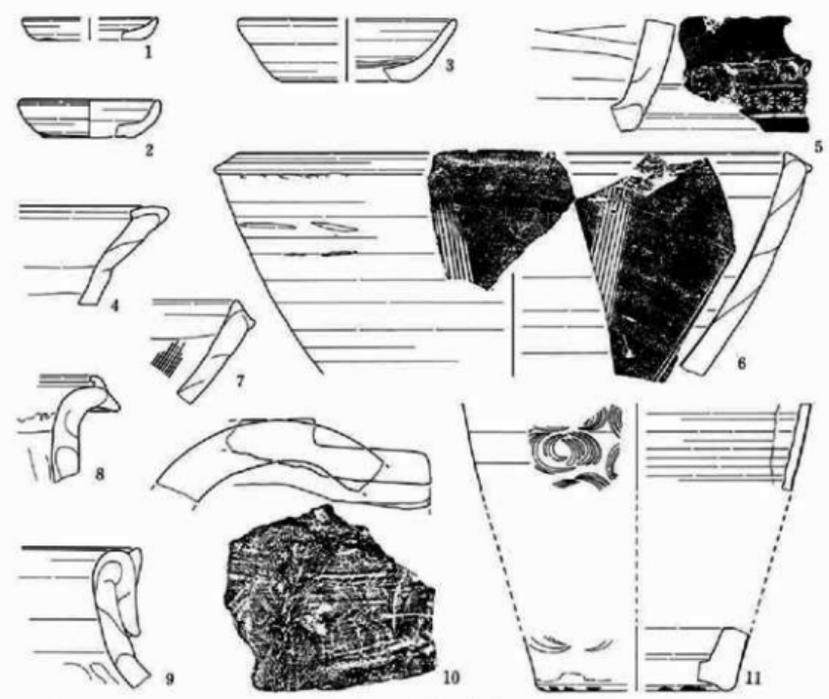


図45 井戸11・同出土遺物(1)

1	土師器	法量 口径7.2cm 底径5.6cm 器高1.1cm コ底有り 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 色調 灰橙褐色	スノ 焼成 良好
2	土師器	法量 口径7.6cm 底径4.8cm 器高2.0cm コ底有り 胎土 針状物質、砂粒含む	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 色調 灰橙褐色	スノ 焼成 良好
3	土師器	法量 口径11.6cm 底径7.0cm 器高3.3cm 胎土 針状物質、雲母、砂粒含む	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 色調 灰橙褐色	焼成 良好
4	火鉢	成形 輪積 内外面横ナデ 口縁部外側ヘラナデ やや粗い 色調 淡橙色 胎土部灰褐色	胎土 長石、小石、橙色砂粒子含む、 焼成 良好	
5	火鉢	成形 輪積 内外面横ナデ 外面ヘラ磨き 沈線、連続菊花文押印、沈線 胎土 瓦質、小石含む 内面灰黑色 外面白灰色 色調 胎土部灰色～白橙色 焼成 良好	文様 体部外面中位に上から、空押し連続 焼成 良好	
6	備前 すり鉢	法量 口径29.2cm 色調 淡褐色	成形 輪積後ロクロ 条線1東8本 焼成 普通	胎土 小石、砂粒含む
7	備前 すり鉢	成形 輪積後ロクロ 1東6本以上の条線有り 黒色 焼成 普通	胎土 小石、砂粒含む	色調 灰
8	常滑 甕	成形 輪積 胎土 砂粒、小石含む、やや粗い	色調 茶褐色	焼成 普通
9	常滑 甕	成形 輪積 胎土 砂粒、小石含む、やや粗い	色調 暗茶褐色	焼成 普通
10	平瓦	成形 凸面ヘラナデ 凹面布目 処理 焼成 良好	胎土 瓦質、砂粒含む	色調 灰黒色 表面黒色
11	青白磁 椀	法量 口径10.7cm 白色、気孔有り 考 高台に漆付着	成形 ロクロ 高台浅く削り出し 釉薬 青白色透明、外面施釉、高台部露胎	文様 渦文 雲地 灰 焼成 良好
12	石白 (上白)	法量 直径58.6cm 内径42.5cm 石材 凝灰質砂岩	高さ17.2cm 色調 灰緑色	成形 窪み部分に供給口有り、工具痕有
13	石白 (下白)	法量 直径46.0cm 孔径6.0cm 石材 安山岩	高さ13.5cm 色調 黒灰色	成形 8分角11溝 工具痕有り 石
14	雨落石	法量 長さ15.7cm 幅12.0cm 高さ3.3cm	石材 凝灰質砂岩	色調 黄灰色
15	曲物	法量 径10.2cm 底厚0.3cm	成形 柎目の薄板を桜の皮で張り合わせる	綴じ部は3重
16	曲物底板	法量 径12.8cm 底厚0.8cm	成形 平面円形 柎目	かくし鉄釘による補修痕有り
17	曲物底板	法量 径11.5cm 底厚0.7cm	成形 平面円形 柎目	

表32 井戸口出土遺物観察表

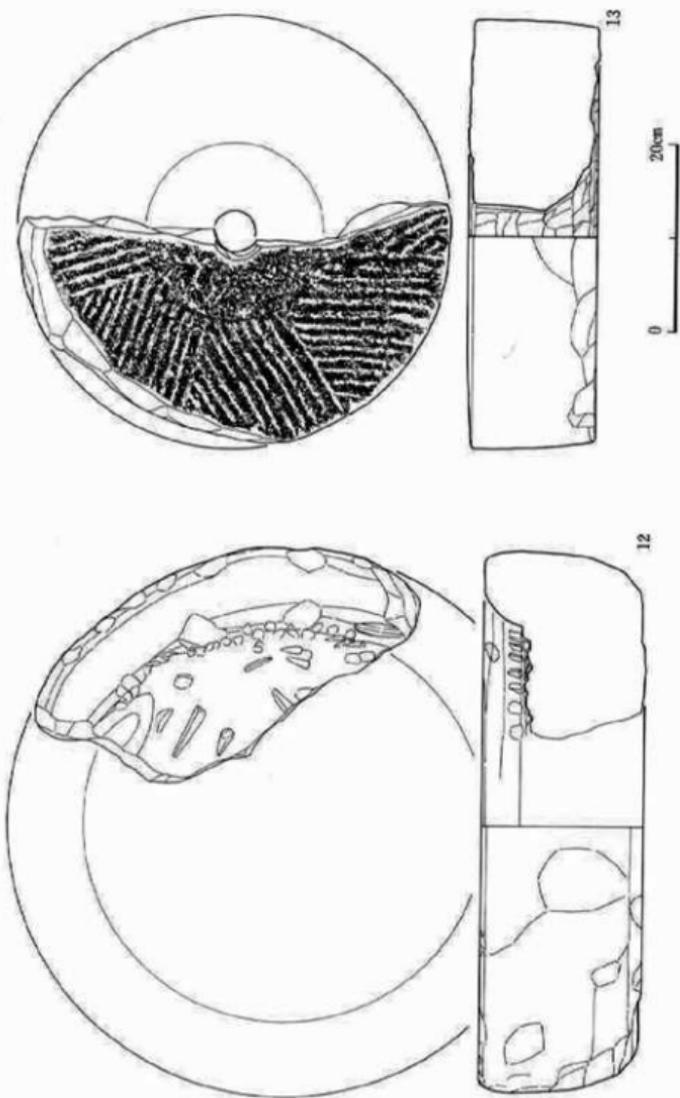


图46 井戸11出土遺物(2)

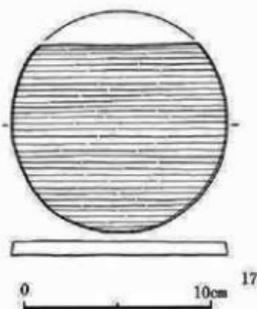
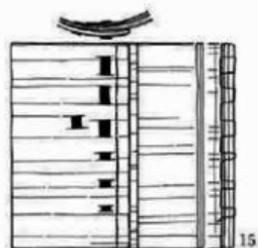
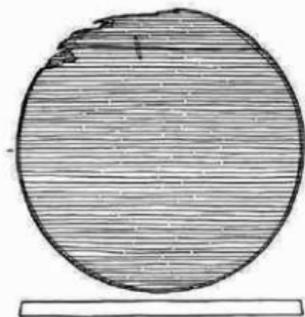
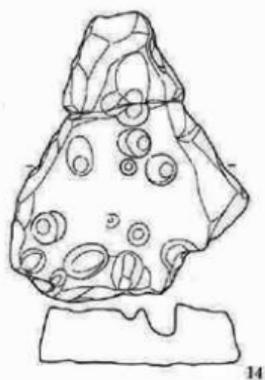
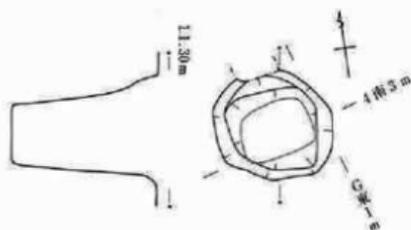


图47 井戸11出土遺物(3)



概要 上部不整形円形、下部不整形方形、素掘  
 最大径 130cm  
 胴部径 90cm  
 底部 75cm  
 深さ 158cm  
 主軸方位 N-85°-E

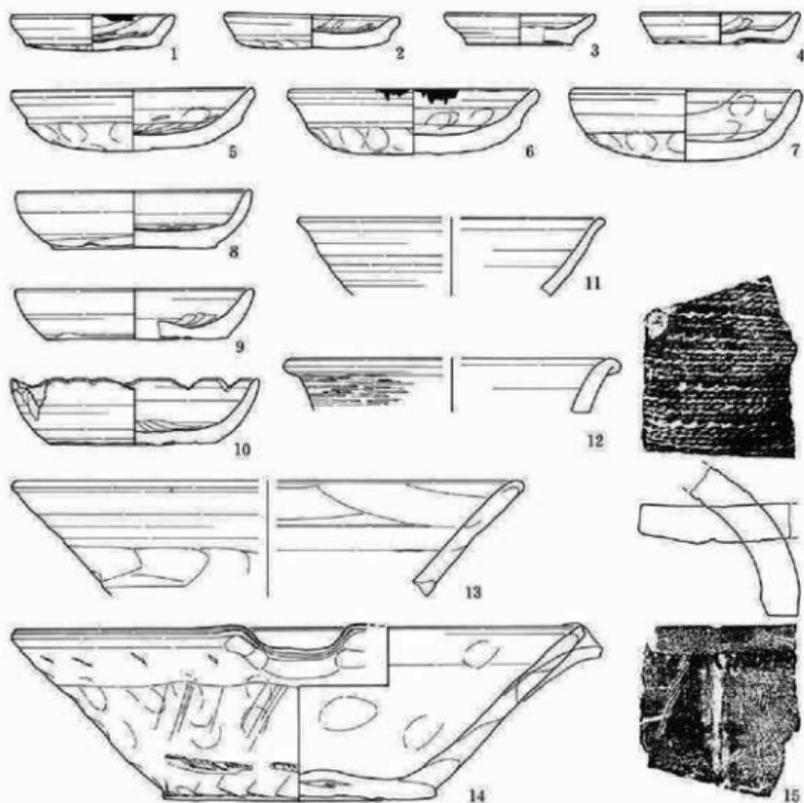
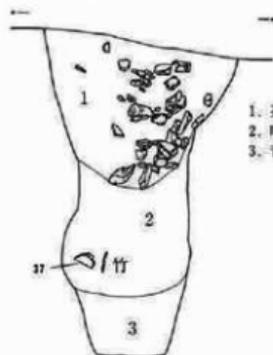
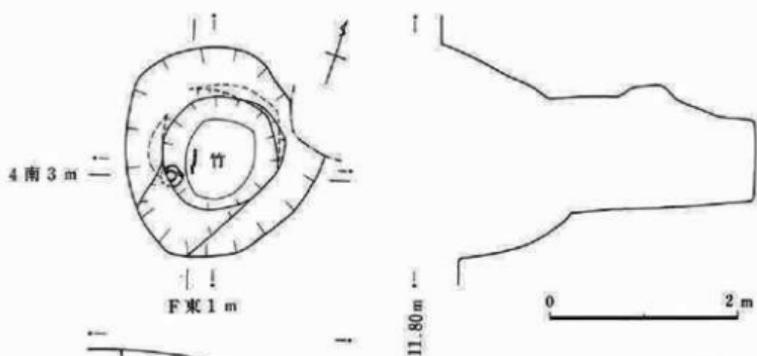


図48 井戸12・岡出土遺物

1	土師器	法量 スス付着 好	口径8.8cm 胎土	底径7.1cm 針状物質、砂粒含む。	器高1.9cm きめ細かい 完形	成形	手づくね 色調	内底部、 淡橙色	口縁部ナデ 焼成	良好
2	土師器	法量 スス付着 好	口径9.4cm 胎土	底径8.1cm 雲母、砂粒、針状物質含む	器高1.8cm	成形	手づくね 色調	内底部、 灰褐色	口縁部ナデ 焼成	良好
3	土師器	法量 口縁部ナデ	口径8.2cm 胎土	底径5.7cm 針状物質、白粒、雲母、砂粒含む	器高1.7cm	成形	ロクロ 色調	外底部回転糸切り 淡褐色	内底部 焼成	良好
4	土師器	法量 コ底有り	口径8.6cm 胎土	底径7.2cm 砂粒、雲母、針状物質、白粒含む	器高1.6cm	成形	ロクロ 色調	外底部回転糸切り 橙色	スノ コ底有り 焼成	良好
5	土師器	法量 胎土	口径13.0cm 胎土	底径11.4cm 雲母、針状物質、砂粒含む	器高3.3cm	成形	手づくね 色調	内底部、 淡橙色	口縁部ナデ 焼成	良好
6	土師器	法量 スス付着 好	口径13.6cm 胎土	底径11.3cm 雲母、砂粒、針状物質、白粒含む	器高3.5cm	成形	手づくね 色調	内底部、 淡褐色	口縁部ナデ 焼成	良好
7	土師器	法量 胎土	口径12.4cm 胎土	底径10.6cm 雲母、針状物質、砂粒含む、きめ細かい	器高3.85cm	成形	手づくね 色調	内底部、 淡褐色	口縁部ナデ 焼成	良好
8	土師器	法量 口縁部ナデ	口径12.5cm 胎土	底径8.8cm 砂粒、針状物質含む、粗い	器高3.1cm	成形	ロクロ 色調	外底部回転糸切り 橙色	内底部 焼成	良好
9	土師器	法量 口縁部ナデ 焼成	口径12.8cm 胎土	底径9.6cm スノコ底有り 砂粒、雲母、針状物質、白粒含む	器高2.65cm	成形	ロクロ 色調	外底部回転糸切り 橙色	内底部 焼成	良好
10	土師器	法量 口縁部ナデ	口径13.2cm 胎土	底径8.95cm スノコ底有り 口縁部を意図的に欠く	器高3.55cm	成形	ロクロ 色調	外底部回転糸切り 淡褐色	内底部 焼成	良好
11	山茶碗	法量 良好	口径16.0cm			成形	ロクロ 胎土	砂粒含む 色調	灰色 焼成	
12	渚 美 壺	法量 胎土	口径18.0cm			成形	ロクロ 胎土	外面横位の刷毛塗り 砂粒含む 色調	暗灰色 焼成	良好
13	常 滑 こね鉢	法量 胎土	口径27.0cm			成形	輪植後ロクロ 胎土	暗灰褐色、砂粒、小石、雲母含む 色調	内面灰褐色 外面赤褐色 焼成	普通
14	常 滑 こね鉢	法量 胎土	口径30.6cm 胎土	底径14.3cm 灰褐色、砂粒含む、気孔有り	器高9.3cm	成形	輪植 色調	口縁部ナデ 赤褐色	口縁部ナデ 内側に降灰 焼成	普通
15	丸 瓦	法量 胎土	厚さ1.95cm 胎土			成形	凸面襷目 色調	凹面布目、端部ヘラナデ 灰褐色 焼成	胎土 瓦質、砂粒、 小石含む、気孔有り 良好	

表33 井戸12出土遺物観察表



1. 茶褐色粘質土  
2. 暗灰色粘質土  
3. 青灰色砂質土

概 要 円形の筒形、素掘、下部に  
息抜き用の竹が遺存。

最大径 230cm  
胴部径 115cm  
底部径 80cm  
深さ 346cm  
主軸方位 N-9.5°-E

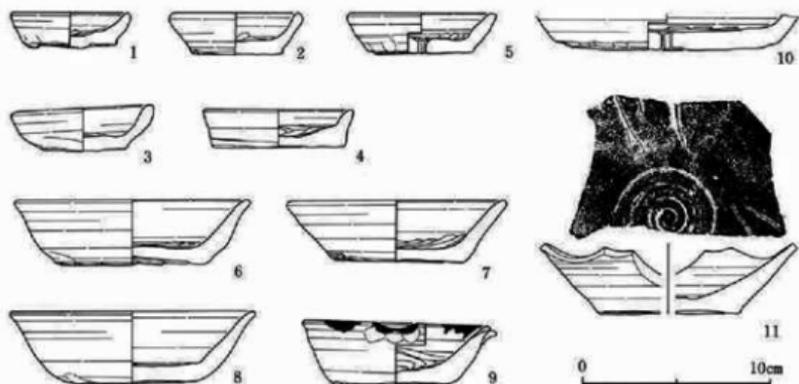


図49 井戸13・同出土遺物(1)

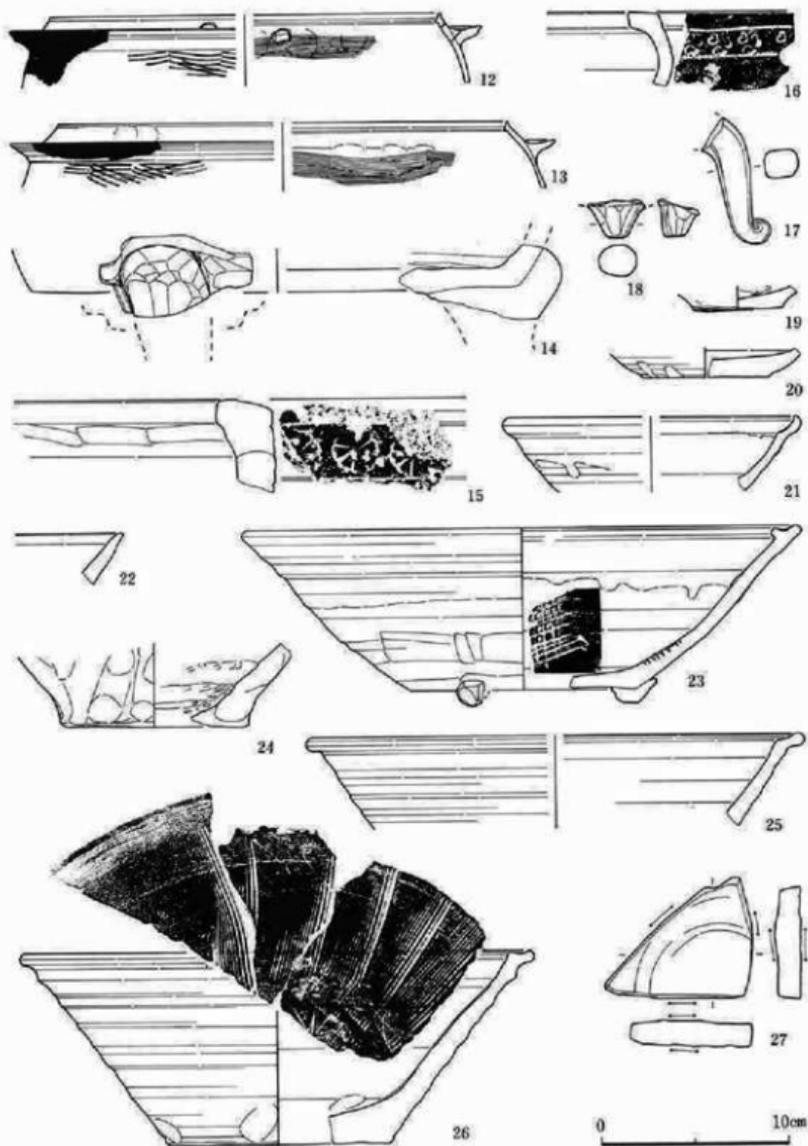


图58 井戸13出土遺物(2)

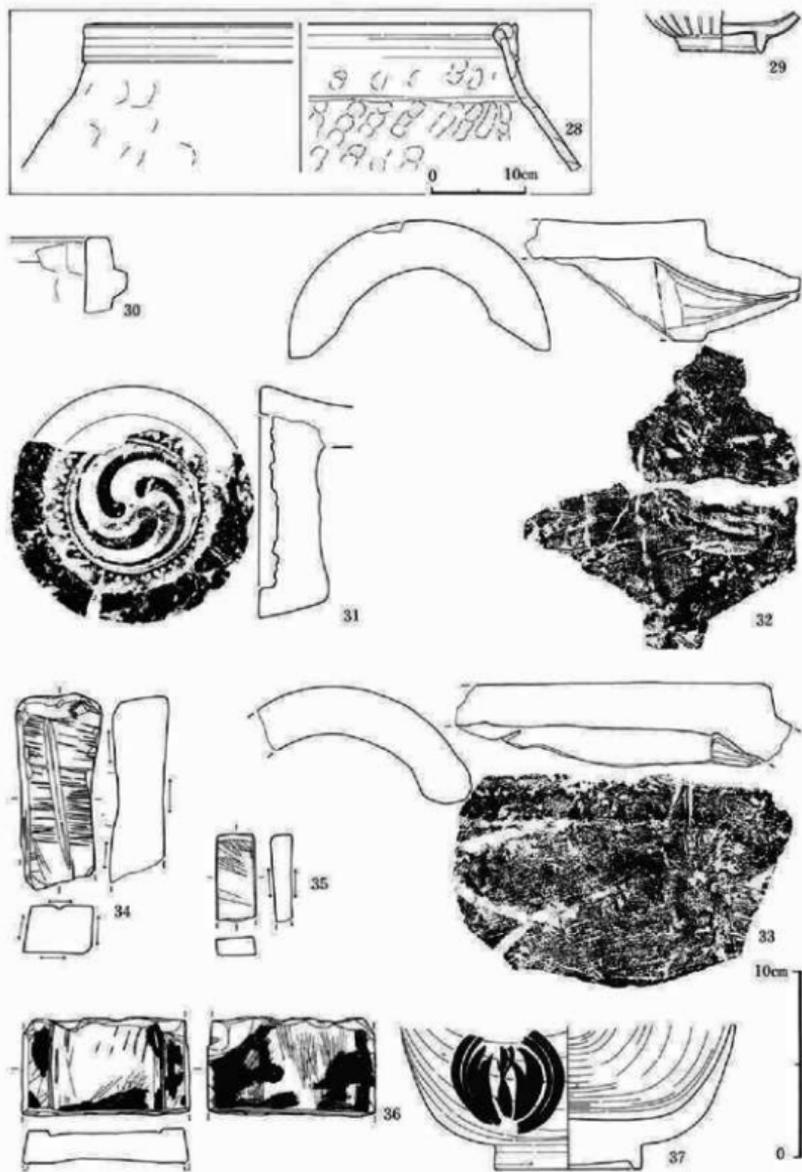


图51 井戸13出土遺物(3)

1	土師器	法量 口径6.4cm 底径4.9cm 器高2.0cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り 胎土 針状物質、金雲母、小石、赤色粒子含む、やや粗い 色調 橙褐色 焼成 良好 完形
2	土師器	法量 口径7.2cm 底径4.9cm 器高2.25cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り 胎土 針状物質、小石、赤色粒子含む 色調 淡褐色 焼成 良好 完形
3	土師器	法量 口径7.65cm 底径4.3cm 器高2.3cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土 針状物質、小石、赤色粒子含む、やや粗い 色調 橙褐色 焼成 良好 半完形
4	土師器	法量 口径8.0cm 底径7.0cm 器高2.05cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土 砂粒、赤色粒子含む 色調 淡褐色 焼成 良好
5	土師器	法量 口径7.9cm 底径5.5cm 器高2.15cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土 針状物質、小石含む、やや粗い 色調 橙褐色 焼成 良好 完形 底部穿孔
6	土師器	法量 口径12.6cm 底径7.0cm 器高3.5cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り 胎土 針状物質、小石、赤色粒子含む、やや粗い 色調 橙褐色 焼成 良好
7	土師器	法量 口径11.9cm 底径6.9cm 器高3.4cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り 胎土 針状物質、小石、赤色粒子含む、やや粗い 色調 橙褐色 焼成 良好 半完形
8	土師器	法量 口径13.2cm 底径7.2cm 器高3.9cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り 胎土 針状物質、金雲母、小石、赤色粒子含む、やや粗い 色調 橙褐色 焼成 良好 半完形
9	土師器	法量 口径10.0cm 底径6.3cm 器高3.3cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ スノコ底有り 胎土 針状物質、小石含む、やや粗い 色調 淡褐色 焼成 良好 半完形 灯明皿か
10	土師器	法量 口径11.8cm 底径7.4cm 器高3.5cm 成形 ロクロ 外底部糸切り底をなでて消す 縁辺部全面に剥落痕 内底部ナデ 胎土 針状物質、小石、赤色粒子含む 色調 橙褐色 焼成 良好 底部穿孔
11	土師器	法量 口径13.8cm 底径7.4cm 器高3.5cm 成形 ロクロ 外底部回転糸切り 胎土 金雲母、赤色粒子含む、やや粗い 色調 橙褐色 焼成 良好 半完形
12	つば付土鍋	法量 口径10.4cm 底径7.4cm 器高3.5cm 成形 輪積 内面部横方向ハゲ目 外部横方向ハゲ目状工具痕 スス付着 穿孔有 胎土 肌色きめ細かい 色調 胎芯部灰色 器表近く灰褐色 焼成 良好
13	つば付土鍋	法量 口径12.0cm 底径7.4cm 器高3.5cm 成形 輪積 内面部横方向ハゲ目 外部横方向ハゲ目状工具痕 スス付着 胎土 肌色きめ細かい 雲母、赤色粒子含む 色調 胎芯部灰色 器表近く灰褐色 焼成 良好
14	火鉢	法量 内底径23.0cm 底径10.0cm 器高10.0cm 成形 脚部ヘラ削り 内底面ナデ 胎土 砂粒含む瓦質 色調 灰白色 焼成 普通 二次焼成で内表面剥落
15	火鉢	成形 内面ナデ 外面口縁下に菊花文の押印 胎土 小石含む瓦質 色調 灰白色 焼成 普通 二次焼成で表面が剥落

表34 井戸13出土遺物観察表(1)

16	瓦質香炉	成形 器表面へラ磨き 外面口縁下に二本の沈線間に竹筒の押印。内面横方向へケ目 胎土 瓦質、砂粒含む、気孔が多い 色調 灰白色、内外上部灰黒色 焼成 普通
17	瓦質香炉	成形 手づくね 胎土 瓦質、砂粒含む 色調 淡褐色 胎芯部暗灰色 焼成 普通
18	土師器香炉	成形 手づくね 胎土 灰黒色、赤色粒子 色調 淡褐色、胎芯部灰黒色 焼成 普通
19	山茶碗	法量 底径4.8cm 成形 ロクロ 素地 灰褐色、きめ粗く気孔多 釉薬 淡 灰緑色透明 焼成 やや悪い 高台なし
20	瀬戸皿	法量 底径7.0cm 成形 ロクロ、内外面磨耗 素地 淡黄灰色、きめやや粗い 焼成 普通 備考 灰緑色半透明釉の飛沫が付着
21	瀬戸折縁皿	法量 口径16.0cm 成形 ロクロ 内外面磨耗 素地 淡黄灰色、きめやや粗い 釉薬 口縁部に緑色半透明 焼成 普通 備考 20の遺物と同一の可能性有り
22	瀬戸平碗	法量 口径28.0cm 成形 ロクロ 素地 灰白色 釉薬 薄緑色半透明 焼成 普通
23	瀬戸大平鉢	法量 口径30.0cm 底径12.0cm 器高9.4cm 成形 ロクロ 外面下半部へラ削り 脚 貼り付け 内壁におろし目有り 素地 淡褐色、ややきめ粗い 釉薬 暗緑色 灰 釉、表面が白濁 焼成 普通
24	常滑こね鉢	法量 底径10.1cm 成形 輪積 外面部へラ削り 外面下部指頭痕 胎土、小石 白色砂粒含む 色調 内外面赤褐色 胎芯部、内底面付近褐色 焼成 普通
25	常滑折縁鉢	法量 口径26.8cm 成形 ロクロ 胎土 褐色～黒褐色、小石、白色砂粒含む や やきめ細かい 焼成 普通 備考 白濁した自然釉有り
26	常滑すり鉢	法量 口径27.6cm 底径12.0cm 器高10.4cm 成形 ロクロ 外底部回転車切り 内部 掻き目1束13本 胎土 赤褐色、白色砂粒、小石含む 色調 赤褐色 焼成 普通
27	常滑変転用砥石	成形 外底部ナデ 胎土 暗灰褐色、白色砂粒含む ややきめ細かい 色調 外面 暗褐色 内面橙褐色 焼成 普通
28	常滑変	法量 口径23.2cm 成形 輪積 内外面ナデ 内帯部が口縁に貼り付く 内面指頭痕 胎土 赤褐色、小石、白色砂粒含む 色調 濃褐色 焼成 普通
29	青磁龍泉窟碗	法量 底径4.4cm 成形 ロクロ、高台削り出し 文様 外面に複蓮弁 素地 灰白色、気孔含む 釉薬 青緑色不透明 焼成 良好
30	滑石鍋	成形 鈿上下下に削り痕 使用痕有り 穿孔途中の孔有り 色調 灰白色 備考 再加工痕有り
31	軒丸瓦	法量 外径12.2cm 内径8.8cm 成形 凸面へラナデ 胎土 灰白色瓦質、小石 砂粒含む 色調 灰黒色 焼成 普通 備考 瓦当部のみ
32	丸瓦	法量 幅14.0cm 厚さ2.8cm 成形 凸面へラナデ 凹面縄目 胎土 瓦質、小石、 赤色粒子、砂粒含む 色調 橙褐色 焼成 普通
33	丸瓦	法量 (幅12.0cm) 厚さ2.6cm 成形 凸面へラナデ 凹面縄目 胎土 瓦質 砂粒含む 色調 灰色 焼成 普通

表35 井戸13出土遺物観察表(2)

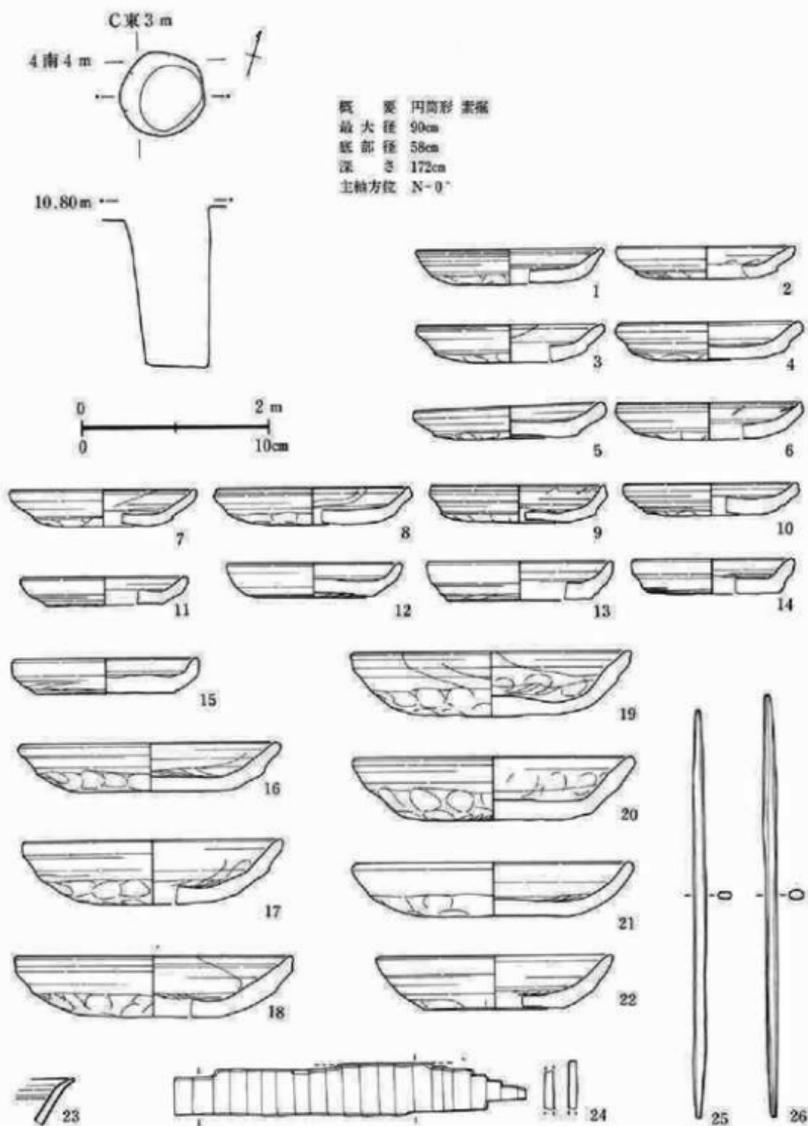


图52 井戸14・同出土遺物

34	砥石	法量 長さ10.5cm 幅4.6cm 厚さ2.8cm 備考 中砥 4面とも砥面	産地 天草	色調 灰色に赤灰色の縞
35	砥石	法量 (長さ4.7cm) 幅1.9cm 厚さ1.0cm 備考 中砥 2面が砥面	産地 上野	色調 灰緑色
36	硯	法量 (長さ5.3cm) 幅8.8cm 厚さ1.8cm 赤濁石 備考 墨付着 再加工途中	成形 両面硯 摺痕有り	石材
37	漆器 椀	法量 口径17.8cm 底径7.8cm 備考	成形 内外面黒漆塗り	内面剥落 文様 外面3ヶ所に朱塗りの手描き菊丸文

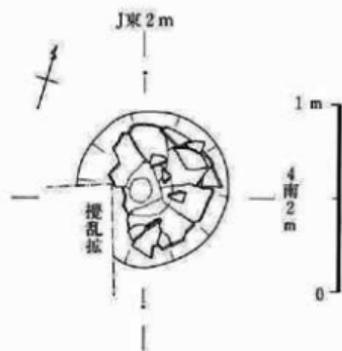
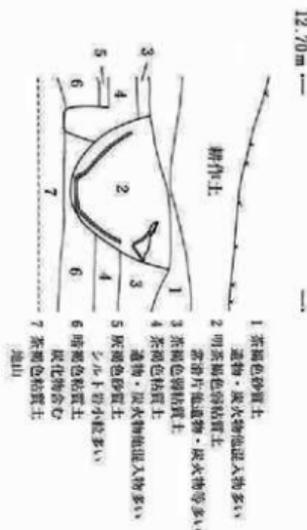
表36 井戸13出土遺物観察表(3)

1	土師器	法量 口径10.0cm 底径8.4cm 器高1.7cm 胎土 小石粒含む、やや粗い	成形 手づくね	内底部、口縁部ナデ	色調 暗橙色	焼成 良好
2	土師器	法量 口径9.6cm 底径5.8cm 器高1.7cm 胎土 砂粒、雲母含む	成形 手づくね	内底部、口縁部ナデ	色調 橙色	焼成 良好
3	土師器	法量 口径9.8cm 底径4.6cm 器高2.0cm 胎土 砂粒、雲母、針状物質含む	成形 手づくね	口縁部ナデ	色調 暗橙褐色	スス付着 焼成 良好
4	土師器	法量 口径10.0cm 底径8.0cm 器高1.9cm 胎土 砂粒、雲母含む	成形 手づくね	内底部、口縁部ナデ	色調 灰褐色	焼成 良好
5	土師器	法量 口径10.2cm 底径5.6cm 器高1.8cm 胎土 砂粒、雲母、針状物質含む	成形 手づくね	内底部、口縁部ナデ	色調 灰褐色	焼成 良好
6	土師器	法量 口径9.8cm 底径5.4cm 器高2.0cm 胎土 砂粒、雲母含む、ややきめ細かい	成形 手づくね	内底部、口縁部ナデ	色調 橙色	焼成 良好
7	土師器	法量 口径10.0cm 底径5.2cm 器高1.9cm 胎土 雲母、砂粒、針状物質含む、ややきめ細かい	成形 手づくね	内底部、口縁部ナデ	色調 淡橙色	焼成 良好
8	土師器	法量 口径10.6cm 底径5.5cm 器高1.9cm 胎土 砂粒、針状物質含む、ややきめ細かい	成形 手づくね	内底部、口縁部ナデ	色調 橙色	焼成 良好
9	土師器	法量 口径9.4cm 底径5.5cm 器高2.1cm 胎土 砂粒、雲母含む	成形 手づくね	内底部、口縁部ナデ	色調 灰褐色	焼成 良好
10	土師器	法量 口径9.4cm 底径5.4cm 器高1.5cm 胎土 砂粒、雲母、針状物質含む	成形 手づくね	内底部、口縁部ナデ	色調 灰褐色	焼成 良好
11	土師器	法量 口径9.0cm 底径6.2cm 器高1.4cm 胎土 雲母、砂粒含む	成形 ロクロ	外底部回転糸切り	色調 灰褐色	内底部ナデ スノコ痕有り 焼成 良好
12	土師器	法量 口径9.4cm 底径4.0cm 器高1.8cm 胎土 砂粒、小石、針状物質含む、やや粗い	成形 ロクロ	外底部回転糸切り	色調 橙褐色	内底部ナデ スノコ痕有り 半突起 焼成 良好

表37 井戸14出土遺物観察表(1)

13	土師器	法量 口径10.0cm 底径8.0cm 器高2.1cm 下部へラ痕有り 胎土 砂粒、小石含む、やや粗い	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 色調 橙褐色 焼成 良好
14	土師器	法量 口径8.6cm 底径7.4cm 器高1.8cm 部ナデ スノコ痕有り 胎土 砂粒、小石、針状物質含む	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 色調 橙色 焼成 良好
15	土師器	法量 口径9.8cm 底径7.5cm 器高1.9cm 胎土 砂粒、雲母、針状物質含む	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 色調 灰褐色 焼成 良好
16	土師器	法量 口径14.0cm 底径8.5cm 器高2.6cm 胎土 砂粒、針状物質含む、ややきめ細かい	成形 手づくね 内底部、口縁部ナデ 色調 灰色 焼成 良好
17	土師器	法量 口径14.0cm 底径6.0cm 器高3.4cm 胎土 砂粒、針状物質、雲母含む、ややきめ細かい	成形 手づくね 内底部、口縁部ナデ 色調 灰褐色 焼成 良好
18	土師器	法量 口径14.7cm 底径7.2cm 器高3.3cm 胎土 砂粒、針状物質、雲母含む	成形 手づくね 内底部、口縁部ナデ 色調 灰褐色 焼成 良好
19	土師器	法量 口径15.0cm 底径9.0cm 器高3.5cm 胎土 砂粒、雲母、針状物質含む	成形 手づくね 内底部、口縁部ナデ 色調 灰褐色 焼成 良好
20	土師器	法量 口径15.0cm 底径9.0cm 器高3.3cm 外底にスス付着 胎土 砂粒、雲母、針状物質含む	成形 手づくね 内底部、口縁部ナデ 色調 灰色 焼成 良好
21	土師器	法量 口径15.0cm 底径8.0cm 器高2.8cm 胎土 砂粒、雲母含む、やや粗い	成形 手づくね 内底部、口縁部ナデ 色調 灰褐色 焼成 良好
22	土師器	法量 口径12.6cm 底径7.4cm 器高2.9cm 胎土 砂粒、雲母、針状物質含む	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 色調 橙色 焼成 良好
23	白磁 罐反陶	法量 口径10.2cm 透明 焼成 良好	成形 ロクロ 素地 灰褐色、微気孔有り 釉薬 灰褐色
24	曲物体部	法量 長さ18.7cm 幅2.8cm 厚さ0.5cm (くすむための割みか?)	成形 椀目 線刻有り (曲物表面の曲げ易)
25	箸	法量 長さ21.9cm 幅0.7cm 厚さ0.4cm 両口	
26	箸	法量 長さ22.7cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 両口	

表38 井戸14出土遺物観察表(2)



概 要 円形鉢状土坑に常滑甕を埋める  
西南部と上辺は削平を受ける  
最大柱径 85cm以上  
床部径 22cm  
深さ 53cm以上  
主軸方位 N-0°

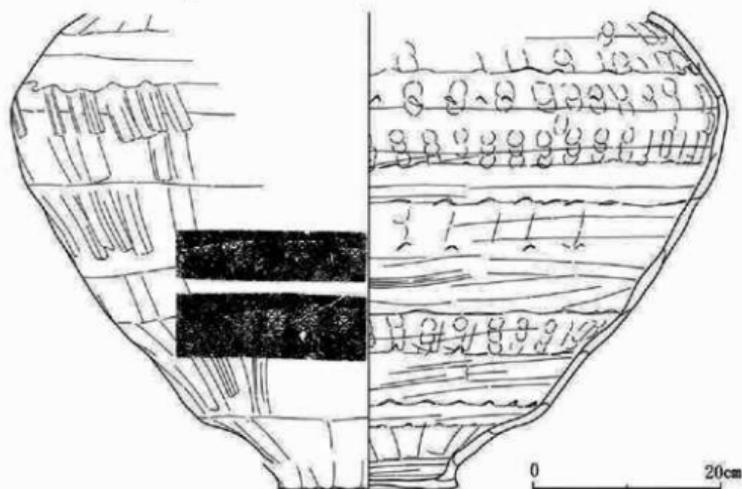
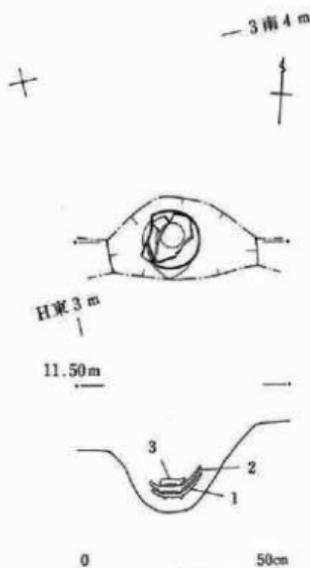


図53 掘り振遺構・同出土遺物

1	常滑 甕	注量 底径19.2cm 底形 輪滑 外部縦方向ハケ目 内部指頭底有り 文様 外面 中位に2列の斜線文と格子文の組み合わせ連続叩き目文 胎土 小石、砂粒含む、気孔 有り 色調 灰褐色 焼成 良好
---	---------	--

表39 掘り振遺構出土遺物観察表



概 要 楕円状の小土壇に青磁三枚を  
重ねて埋納する  
最大径 41cm  
底部径 17cm  
深 さ 24cm  
主軸方位 N-0°  
重複関係 井戸6・9に切られる

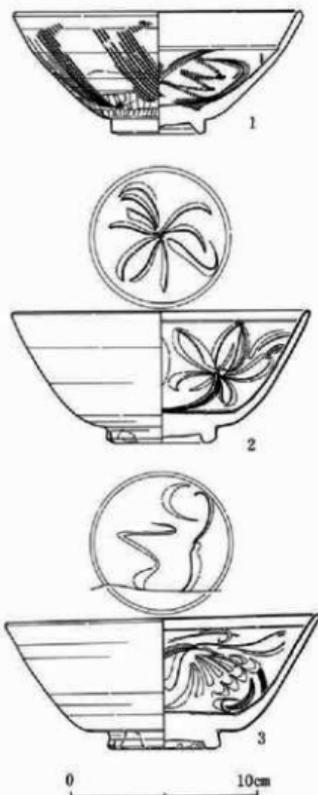
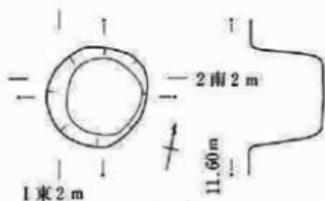


図54 埋納遺構・同出土遺物

1	青磁 同安窯系 碗	法量 口径15.6cm 底径5.0cm 器高6.5cm 底部ナデ 文様 内面上位に一重の沈線、 素地 灰色微気孔、砂粒含む、粘性有り 高台内露胎 焼成 普通	成形 左回転ロクロ 高台削り出し その下にへら描きと櫛描き 外面櫛描き 釉薬 淡灰緑色透明 外面中位から高台。
2	青磁 龍泉窯 碗	法量 口径16.0cm 底径6.0cm 器高7.0cm 文様 内面へら描き、蓮華文、三花三葉 多く透明 内外面施釉 高台内露胎 焼成 普通	成形 左回転ロクロ 高台削り出し 素地 灰色堅緻 釉薬 灰緑色微気泡 普通
3	青磁 龍泉窯 碗	法量 口径16.4cm 底径6.0cm 器高7.0cm 文様 内面へら描き、蓮華文、 内外面施釉 高台内露胎 焼成 普通	成形 左回転ロクロ 高台削り出し 素地 灰白色堅緻 釉薬 淡緑色透明

表40 埋納遺構出土遺物観察表



概要 円筒形  
 最大径 110cm  
 底部径 78cm  
 深さ 77cm  
 主軸方位

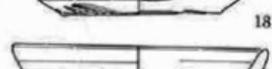
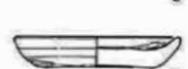
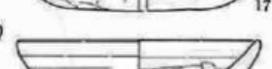
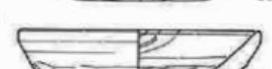
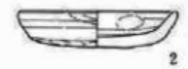
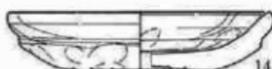
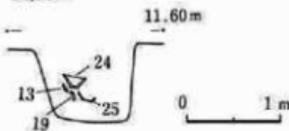
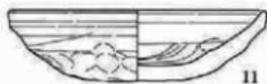


图55 土坑1・岡出土遺物(1)

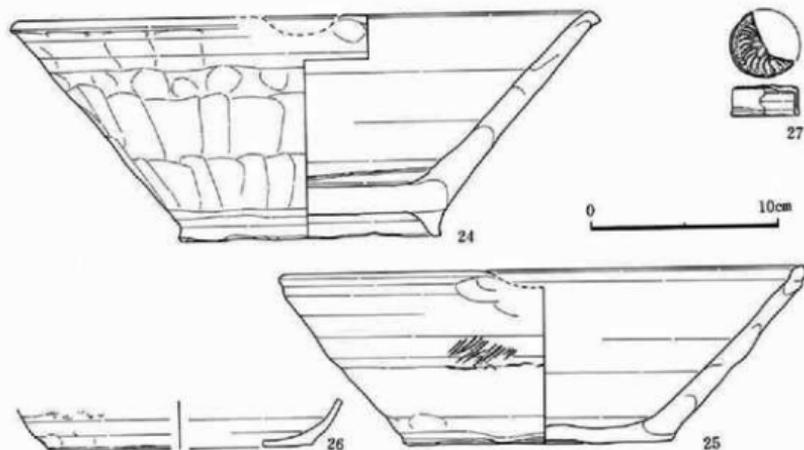


図56 土壌1出土遺物(2)

1	土師器	法量 口径9.0cm 底径4.9cm 器高2.0cm 胎土 雲母、砂粒子、針状物質含む 全体的に鉄分が付着 良好	成形 手づくね 内底部指頭直有り 色調 灰褐色 焼成
2	土師器	法量 口径8.5cm 底径3.1cm 器高1.9cm 胎土 雲母、砂粒子含む 灰色シルト岩粒、 良好	成形 手づくね 内底部ナデ 色調 灰褐色 焼成
3	土師器	法量 口径9.3cm 底径4.5cm 器高2.3cm 胎土 砂粒子、雲母含む 色調 黄褐色 良好	成形 手づくね 焼成
4	土師器	法量 口径9.0cm 底径1.6cm 器高1.9cm 胎土 砂粒子、雲母、針状物質含む、やや粗い 外体部に鉄分が付着 色調 灰褐色 焼成 良好	成形 手づくね 内底部中央に指頭直 完形
5	土師器	法量 口径10.1cm 底径4.7cm 器高1.9cm 胎土 砂粒子、灰色シルト岩粒、雲母、針状物質含む 色調 灰褐色 良好	成形 手づくね 焼成
6	土師器	法量 口径8.9cm 底径5.3cm 器高1.55cm 胎土 小石、砂粒子、針状物質含む、粗い 外底部ナデ 色調 赤褐色 良好	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 焼成
7	土師器	法量 口径8.4cm 底径6.3cm 器高1.5cm 胎土 砂粒子、針状物質、雲母、小石含む、粗い 外底部ナデ 色調 棕色 良好	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 焼成
8	土師器	法量 口径8.2cm 底径6.0cm 器高1.2cm 胎土 砂粒子、雲母、針状物質含む、やや粗い 外底部ナデ 色調 淡黄棕色 良好	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 焼成
9	土師器	法量 口径9.05cm 底径6.1cm 器高1.85cm 胎土 針状物質、赤色粒子、砂粒、雲母含む 外底部ナデ 色調 灰褐色 良好	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 焼成

表41 土壌1出土遺物観察表(1)

10	土師器	法量 口径9.0cm 底径7.1cm 胎土 針状物質、砂粒含む	器高1.9cm 色調 灰褐色	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 焼成 良好
11	土師器	法量 口径13.8cm 底径4.3cm 針状物質、砂粒子、雲母含む	器高3.8cm 色調 橙色	成形 手づくね 内底部ナデ 焼成 良好
12	土師器	法量 口径13.5cm 底径4.7cm 頭底有り 口縁部スス付着 焼成 良好	器高3.6cm 胎土 針状物質、砂粒子、雲母含む	成形 手づくね 内底部ナデ 内体部指 色調 灰褐色
13	土師器	法量 口径13.0cm 底径5.5cm 砂粒子、小石、雲母含む	器高3.1cm 色調 橙色	成形 手づくね 胎土 針状物質、 焼成 良好
14	土師器	法量 口径14.2cm 底径7.3cm 内外同位置に指をぬいた跡有り 色調 淡黄褐色 焼成 良好	器高3.1cm 胎土 針状物質、砂粒子、雲母含む	成形 手づくね 内底部指頭底有り 内 色調 淡黄褐色
15	土師器	法量 口径14.0cm 底径5.8cm 内底部中央にスス付着 焼成 良好	器高3.5cm 胎土 雲母、針状物質、砂粒子含む	成形 手づくね 内底部ナデ 指頭底有 色調 淡橙褐色
16	土師器	法量 口径13.2cm 底径6.0cm 胎土 砂粒子、針状物質、雲母含む	器高3.6cm 色調 淡橙褐色	成形 手づくね 内外面スス付着 焼成 良好
17	土師器	法量 口径13.3cm 底径6.7cm 胎土 雲母、針状物質、砂粒子含む	器高3.2cm	成形 手づくね 内底部ナデ 内体部指 色調 淡橙褐色 焼成 良好
18	土師器	法量 口径13.0cm 底径8.4cm 胎土 灰色シルト岩粒、砂粒子、雲母、針状物質含む、やや粗い 色調 淡黄褐色 焼成 良好	器高3.0cm	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底 色調 淡黄褐色
19	土師器	法量 口径13.5cm 底径8.8cm 口底有り 内底部強いナデ 淡茶褐色 焼成 良好	器高3.2cm 胎土 砂粒子、針状物質、雲母、小石含む 半完形	成形 ロクロ 外底部回転糸切り、スノ 色調
20	土師器	法量 口径12.2cm 底径8.8cm 胎土 砂粒子、針状物質、雲母、小石含む、粗い 色調 橙褐色 焼成 良好	器高3.3cm	成形 ロクロ 外底部回転糸切り、スノ 色調 橙褐色 焼成 良好
21	土師器	法量 口径12.5cm 底径7.8cm 胎土 灰褐色 焼成 良好	器高3.8cm 砂粒子、雲母、針状物質、灰色シルト岩粒含む	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底 色調
22	土師器	法量 口径12.3cm 底径8.7cm 胎土 針状物質、雲母、赤色粒子含む	器高3.15cm 色調 灰褐色	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 焼成 良好
23	平瓦	法量 長さ21.5cm 厚さ2.5cm 胎土 須恵質、砂粒含む	色調 淡灰色	成形 凸面糸切り、縄目 凹面糸切り一部跌分付着
24	山茶碗底茶 こね鉢	法量 口径30.6cm 底径13.8cm ナデ以下へつ削り 内側面ナデ 子含む 色調 外部暗褐色 内側明灰色	器高12.0cm 内底部に重ね焼跡有り 内側明灰色	成形 輪積 高台貼り付け 外面部口縁 口縁に降灰 胎土 砂、砂粒 焼成 普通
25	常滑 こね鉢	法量 口径27.8cm 底径13.6cm 降灰普通 外体部に重ね焼跡有り	器高10.2cm 胎土 砂、砂粒子含む	成形 輪積 内外面、口縁ナデ 内面に 色調 赤褐色 焼成

表42 土壌1出土遺物観察表(2)

26	黄釉盤	法量 底径14.1cm 針状物質含む、やや粗い。	成形 輪積 釉薬 内面黄釉の白濁有り 素地 淡灰色、砂、砂粒子、淡黄褐色 焼成 普通
27	青白磁梅瓶蓋	法量 上部径3.4cm 下部径3.6cm 器高1.6cm かかると内面開りこみ 文様 上部に梅花文 釉薬 淡青色 焼成 良好	成形 外面型押し、端部を残し軸が 素地 灰白色、砂粒子含む 釉

表43 土壌 | 出土遺物観察表 (3)

1	土師器	法量 口径9.45cm 底径6.7cm 器高1.7cm 針状物質、微砂粒含む 色調 灰褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナゲ 完形	胎土
2	土師器	法量 口径9.9cm 底径7.5cm 器高1.7cm 胎土 針状物質、砂粒含む、粗い 色調 灰褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部強いナゲ 完形	
3	土師器	法量 口径10.4cm 底径6.0cm 器高1.85cm 胎土 砂粒、小石、針状物質含む、やや粗い	成形 手づくね 色調 灰褐色	口縁部強いナゲ 焼成 良好	
4	土師器	法量 口径10.7cm 底径6.0cm 器高1.7cm 砂粒、針状物質含む 色調 灰褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナゲ	胎土
5	土師器	法量 口径9.9cm 底径6.0cm 器高1.9cm 砂粒、小石、針状物質含む 色調 灰褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナゲ 完形	胎土
6	土師器	法量 口径9.8cm 底径7.2cm 器高1.3cm 胎土 砂粒、小石、針状物質含む、やや粗い	成形 ロクロ 色調 灰褐色	外底部回転糸切り 内底部ナゲ 焼成 良好	
7	土師器	法量 口径9.6cm 底径7.2cm 器高1.6cm 胎土 砂粒含む、やや粗い	成形 ロクロ 色調 褐色	外底部回転糸切り 内底部ナゲ 焼成 良好	完形
8	土師器	法量 口径9.3cm 底径7.5cm 器高1.8cm 胎土 砂粒、針状物質含む 備考 線状カキ傷有り 完形	成形 ロクロ 色調 灰褐色	外底部回転糸切り 焼成 良好	
9	土師器	法量 口径14.7cm 底径8.0cm 器高2.6cm 針状物質、微砂粒含む 色調 灰褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナゲ	胎土
10	土師器	法量 口径14.6cm 底径7.0cm 器高3.4cm 有り 胎土 小石、砂粒、針状物質含む、やや粗い	成形 手づくね 色調 灰褐色	口縁部ナゲ 焼成 良好	スノコ痕
11	土師器	法量 口径15.6cm 底径10.0cm 器高3.6cm 胎土 砂粒、針状物質含む 色調 灰褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部強いナゲ	
12	土師器	法量 口径14.6cm 底径6.5cm 器高3.6cm 胎土 砂粒、針状物質含む 色調 灰褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部強いナゲ	
13	土師器	法量 口径14.8cm 底径9.0cm 器高3.2cm 内外面強い横ナゲ スノコ痕有り 色調 灰褐色 焼成 良好	成形 ロクロ 胎土 砂粒、小石含む、やや粗い	外底部回転糸切り 内底部ナゲ 色	
14	土師器	法量 口径14.5cm 底径8.8cm 器高3.4cm 口縁部強い横ナゲ 胎土 砂粒、小石、針状物質含む、気孔有り、やや粗い 色調 灰褐色 焼成 良好	成形 ロクロ	外底部回転糸切り 内底部ナゲ	

表44 土師器罎 | 出土遺物観察表 (1)

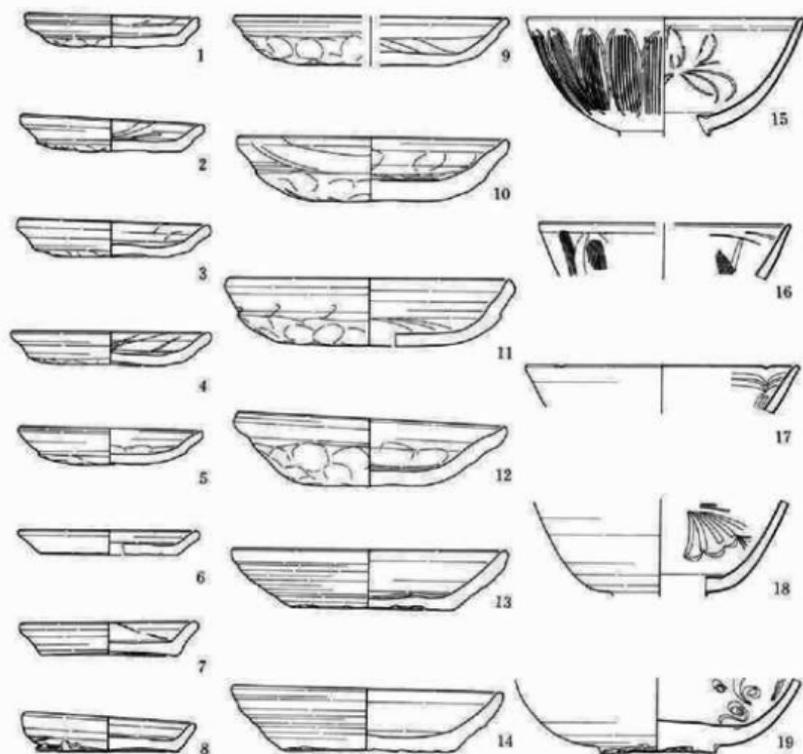
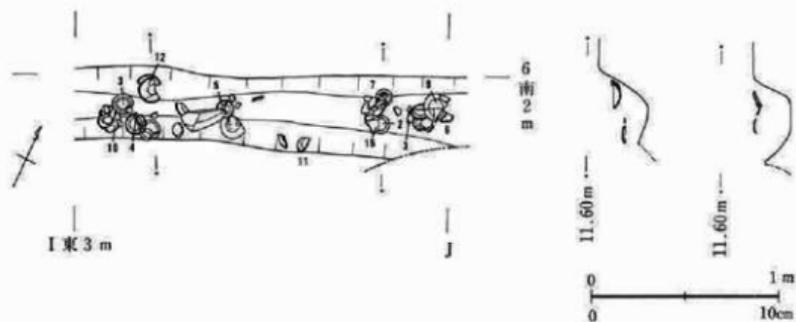


图57 土師器瀆り1(溝25上層)・同出土遺物

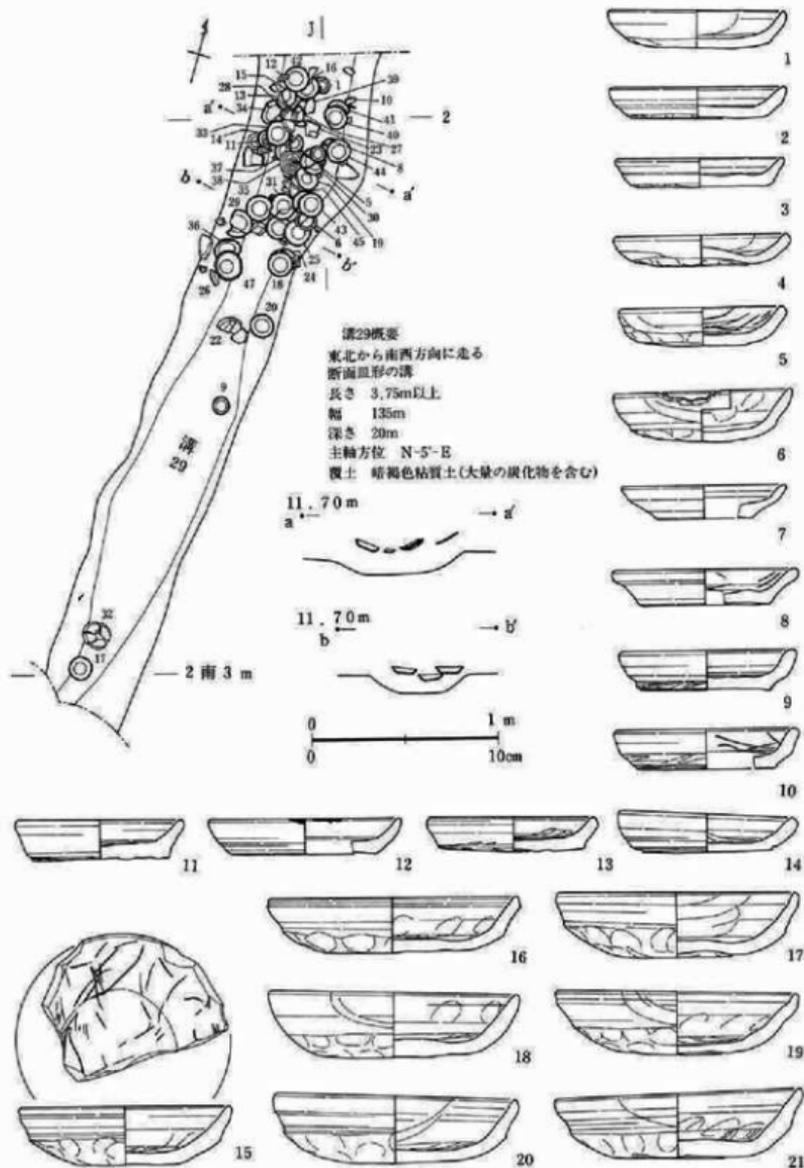


図58 土師器溜り2・同出土遺物(1)

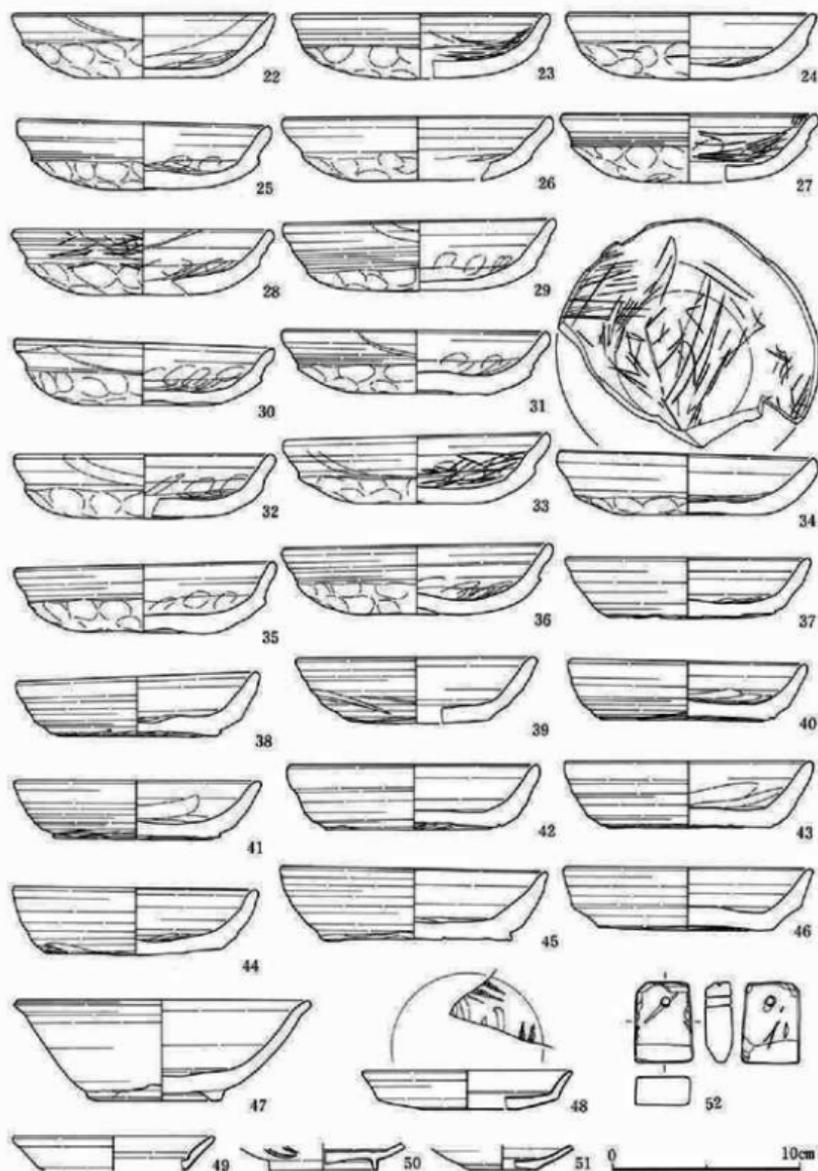


圖59 土師器溜り2出土遺物(2)

15	青磁 龍泉窯 碗	法量 口径13.8cm 気孔有り	成形 釉薬 灰緑色透明	文様 内外面施釉	体部外面縁蓮弁 焼成 良好	素地 灰褐色、微
16	青磁 龍泉窯 碗	法量 口径13.4cm 地 灰色	成形 釉薬 淡灰青色透明	文様 内外面施釉	体部外面縁蓮弁 焼成 良好	内面撫書き文 素
17	青磁 龍泉窯 碗	法量 口径14.6cm 地 灰色、聖織	成形 釉薬 淡青色透明	口縁輪花 内外面施釉	文様 体部内面へら描き文 焼成 良好	素
18	青磁 龍泉窯 碗	成形 釉薬 色透明	文様 内外面施釉	体部内面片切り彫りの蓮花 焼成 良好	素地 暗灰色	釉薬 灰緑
19	青磁 龍泉窯 碗	法量 底径7.4cm 部へら描きの飛雲文 輪 高台内露胎	成形 釉薬 素地 灰白色、気孔若干、聖織	高台内へら削り 焼成 良好	高台を打ち欠く 釉薬 青緑色透明	文様 内体 内外面施

表45 土師器溜り1出土遺物観察表(2)

1	土師器	法量 口径9.7cm 底径7.0cm 砂粒、雲母含む	器高1.8cm 色調 灰橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ	胎土
2	土師器	法量 口径9.6cm 底径7.0cm 胎土 小石、針状物質含む	器高1.6cm 色調 橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	内底部、口縁部ナデ	
3	土師器	法量 口径9.2cm 底径6.8cm 胎土 小石、砂粒、針状物質含む 考 二次焼成の痕有り	器高1.5cm 色調 橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	内底部、口縁部ナデ	ス 備
4	土師器	法量 口径9.6cm 底径5.2cm 胎土 針状物質、砂粒含む	器高1.7cm 色調 淡橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	内底部、口縁部ナデ	平完形
5	土師器	法量 口径9.4cm 底径4.1cm 胎土 小石、砂粒、針状物質含む 備考 内面に引っ掻き傷多数有り	器高2.0cm 色調 淡橙褐色	成形 手づくね 焼成 良好	内底部、口縁部ナデ	
6	土師器	法量 口径9.8cm 底径3.0cm 胎土 小石、針状物質含む	器高2.7cm 色調 灰褐色	成形 手づくね 焼成 良好	口縁部ナデ	スス付着
7	土師器	法量 口径8.8cm 底径5.2cm 胎土 砂粒、針状物質含む	器高1.8cm 色調 淡橙褐色	成形 ロクロ 焼成 良好	外底部回転糸切り	胎
8	土師器	法量 口径10.0cm 底径7.2cm 胎土 砂粒、針状物質含む、粗い	器高2.0cm 色調 淡褐色	成形 ロクロ 焼成 良好	外底部回転糸切り	内底部 ナデ
9	土師器	法量 口径9.6cm 底径7.0cm 胎土 針状物質、砂粒含む	器高2.2cm 色調 灰橙褐色	成形 ロクロ 焼成 良好	外底部回転糸切り	スノコ 完形
10	土師器	法量 口径10.0cm 底径7.4cm 胎土 針状物質、小石、砂粒含む、やや粗い	器高2.15cm 色調 淡褐色	成形 ロクロ 焼成 良好	外底部回転糸切り	
11	土師器	法量 口径9.1cm 底径7.3cm 胎土 スノコ底有り 良好	器高2.2cm 砂粒、小石含む、やや粗い	成形 ロクロ 色調 淡褐色	外底部回転糸切り	内底部 焼成
12	土師器	法量 口径10.6cm 底径7.6cm 胎土 針状物質、砂粒、雲母含む	器高1.9cm 色調 灰橙褐色	成形 ロクロ 焼成 良好	外底部回転糸切り	スス付 焼成 良好
13	土師器	法量 口径9.3cm 底径7.7cm 胎土 針状物質、砂粒、橙粒子含む	器高1.8cm 色調 橙褐色	成形 ロクロ 焼成 良好	外底部回転糸切り	内底部 ナデ 焼成

表46 土師器溜り2出土遺物観察表(1)

14	土師器	法量 口径9.8cm 底径7.2cm 器高2.0cm 成形 ナデ スノコ底有り 胎土 小石、砂粒含む 備考 内面に引っ掻き傷多数有り	成形 色調	口外 外底部回転糸切り 淡褐色 焼成 良好
15	土師器	法量 口径11.5cm 底径6.0cm 器高3.2cm 成形 胎土 針状物質、砂粒含む 備考 内面に引っ掻き傷多数有り	成形 色調	手づくね 指頭板有り 口縁部ナデ 橙褐色 焼成 良好 備考 内面に
16	土師器	法量 口径13.6cm 底径8.0cm 器高3.0cm 成形 胎土 針状物質、砂粒、漆母含む、ややきめ細かい 備考 内面に引っ掻き傷多数有り	成形 色調	手づくね 指頭板有り 内底部、口 縁部ナデ 灰橙褐色 焼成 良好
17	土師器	法量 口径13.0cm 底径7.5cm 器高3.5cm 成形 胎土 針状物質、砂粒含む	成形 色調	手づくね 指頭板有り 内底部、口 縁部ナデ 灰橙褐色 焼成 良好
18	土師器	法量 口径13.6cm 底径7.0cm 器高3.5cm 成形 胎土 砂粒、針状物質含む、ややきめ細かい 形	成形 色調	手づくね 内底部、口縁部ナデ 橙褐色 焼成 良好 完
19	土師器	法量 口径13.1cm 底径4.5cm 器高3.4cm 成形 胎土 小石、砂粒、針状物質含む	成形 色調	手づくね 内底部、口縁部ナデ 淡褐色 焼成 良好
20	土師器	法量 口径13.2cm 底径5.0cm 器高3.6cm 成形 胎土 針状物質、小石含む スス付着	成形 色調	手づくね 内底部、口縁部ナデ 橙褐色 焼成 良好 完形
21	土師器	法量 口径13.4cm 底径6.0cm 器高3.5cm 成形 胎土 砂粒、小石含む、ややきめ細かい 備考 内面に引っ掻き傷多数有り	成形 色調	手づくね 内底部、口縁部ナデ 淡褐色 焼成 良好 備
22	土師器	法量 口径14.0cm 底径7.0cm 器高3.4cm 成形 胎土 針状物質含む、きめ細かい スス付着	成形 色調	手づくね 内底部、口縁部ナデ 褐色 焼成 良好
23	土師器	法量 口径14.0cm 底径4.6cm 器高3.5cm 成形 胎土 砂粒、針状物質含む、ややきめ細かい 備考 内面に引っ掻き傷多数有り	成形 色調	手づくね 内底部、口縁部ナデ 灰褐色 焼成 良好
24	土師器	法量 口径13.6cm 底径5.0cm 器高3.6cm 成形 胎土 針状物質、砂粒、小石含む、やや粗い	成形 色調	手づくね 内底部、口縁部ナデ 淡褐色 焼成 良好
25	土師器	法量 口径13.6cm 底径4.4cm 器高3.6cm 成形 胎土 砂粒、小石、針状物質含む、やや粗い スス付着 良好 完形	成形 色調	手づくね 内底部、口縁部ナデ 淡褐色 焼成
26	土師器	法量 口径14.6cm 底径6.7cm 器高3.3cm 成形 針状物質、砂粒、小石含む	成形 色調	手づくね 口縁部ナデ 胎土 橙褐色 焼成 良好
27	土師器	法量 口径13.8cm 底径7.5cm 器高3.7cm 成形 針状物質、砂粒含む 多数有り	成形 色調	手づくね 口縁部ナデ 胎土 灰橙褐色 焼成 良好 備考 内面に引っ掻き傷
28	土師器	法量 口径14.0cm 底径8.0cm 器高3.5cm 成形 針状物質、砂粒含む	成形 色調	手づくね 口縁部ナデ 胎土 灰橙褐色 焼成 良好 備考 口縁外部に引っ掻
29	土師器	法量 口径14.8cm 底径5.8cm 器高3.8cm 成形 胎土 針状物質、砂粒含む 備考 内面に引っ掻き傷多数有り	成形 色調	手づくね 内底部、口縁部ナデ 橙褐色 焼成
30	土師器	法量 口径14.4cm 底径7.2cm 器高3.5cm 成形 胎土 針状物質、小石、砂粒含む、やや粗い 焼成 良好 備考 内面に引っ掻き傷多数有り	成形 色調	手づくね 内底部、口縁部ナデ 外 底部に糸痕有り 淡褐色 半完形
31	土師器	法量 口径14.4cm 底径7.2cm 器高3.5cm 成形 胎土 小石、砂粒、針状物質含む 焼成 良好 備考 内面に引っ掻き傷多数有り	成形 色調	手づくね 内底部、口縁部ナデ 外 底部に糸痕有り 灰褐色
32	土師器	法量 口径14.0cm 底径8.0cm 器高3.4cm 成形 胎土 針状物質、砂粒含む 備考 内面に引っ掻き傷多数有り	成形 色調	手づくね 内底部、口縁部ナデ 外 底部に指頭板と糸痕有り 灰橙褐色 焼成 良好

表47 土師器溜り2出土遺物観察表(2)

33	土師器	法量 口径14.4cm 底径8.0cm 器高3.6cm 口縁部ナゲ スス付着 外底部に染痕有り 褐色 焼成 良好 備考 内面に引っ掻き傷多数有り	成形 手づくね 指頭痕有り 内底部、口 胎土 針状物質、砂粒含む 色調 灰橙
34	土師器	法量 口径16.6cm 底径9.0cm 器高3.2cm 口縁部ナゲ 胎土 針状物質、砂粒含む 考 内面に引っ掻き傷多数有り	成形 手づくね 指頭痕有り 内底部、口 色調 灰褐色 焼成 良好 備考
35	土師器	法量 口径14.2cm 底径6.3cm 器高3.6cm 底部に染痕有り 胎土 小石、砂粒含む 考 内面に引っ掻き傷有り	成形 手づくね 内底部、口縁部ナゲ 外 色調 淡褐色 焼成 良好 備考
36	土師器	法量 口径14.6cm 底径5.5cm 器高3.7cm スス付着 外底部に染痕有り 胎土 針状物質、砂粒、小石含む 焼成 良好 備考 内面に引っ掻き傷多数有り	成形 手づくね 内底部、口縁部ナゲ ス 色調 橙褐色 焼成 良好
37	土師器	法量 口径13.2cm 底径9.8cm 器高3.3cm スノコ痕有り 胎土 小石、砂粒含む 備考 内面に引っ掻き傷多数有り	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 色調 淡褐色 焼成 良好 完形
38	土師器	法量 口径13.1cm 底径8.9cm 器高3.2cm ナゲ スノコ痕有り スス付着 胎土 小石、砂粒、針状物質含む 焼成 良好 備考 内面に引っ掻き傷有り	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 色調 淡褐色 焼成 良好 完形
39	土師器	法量 口径13.0cm 底径8.2cm 器高3.5cm ナゲ スノコ痕有り 胎土 針状物質、小石、砂粒含む 良好 備考 内面に引っ掻き傷有り	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 色調 淡褐色 焼成
40	土師器	法量 口径12.8cm 底径9.4cm 器高3.2cm ナゲ 外面下部にナゲ 外底周縁に深い染痕が通る スノコ痕有り 針状物質含む、やや粗い 色調 淡褐色 焼成 良好	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 胎土 小石、砂粒、
41	土師器	法量 口径13.4cm 底径8.8cm 器高3.2cm ナゲ スノコ痕有り 胎土 小石、砂粒、針状物質含む 良好	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 色調 淡褐色 焼成
42	土師器	法量 口径13.6cm 底径9.2cm 器高3.5cm ナゲ 外底周縁に深い染痕が通る スノコ痕有り 調 淡褐色 焼成 良好 完形	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 胎土 針状物質、粗砂含む 色
43	土師器	法量 口径13.4cm 底径9.0cm 器高3.55cm ナゲ 外底周縁に深い染痕が通る スノコ痕有り 色調 灰褐色 焼成 良好 半完形	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 胎土 針状物質、粗砂含む、やや
44	土師器	法量 口径13.1cm 底径9.5cm 器高3.7cm ナゲ スノコ痕有り 胎土 小石、砂粒含む、粗い 完形	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 色調 褐色 焼成 良好
45	土師器	法量 口径14.3cm 底径10.0cm 器高3.8cm ナゲ 外面下部にナゲ 外底周縁に深い染痕が通る スノコ痕有り 粗砂含む、やや粗い 色調 灰褐色 焼成 良好	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 胎土 針状物質、
46	土師器	法量 口径13.4cm 底径9.3cm 器高3.4cm ナゲ スノコ痕有り 胎土 砂粒、小石含む、やや粗い 成 良好 半完形	成形 ロクロ 外底部回転糸切り 内底部 色調 明灰褐色 焼
47	山茶碗	法量 口径15.9cm 底径7.25cm 器高5.45cm 砂粒、小石含む、やや粗い 色調 暗灰色 焼成 良好 完形	成形 ロクロ 高台貼り付け 胎土
48	青磁 同安窯系皿	法量 口径11.2cm 器高1.9cm 素地 灰白色、微気孔有り 釉薬 灰緑色透明 外底面露胎 焼成 良好	成形 ロクロ 文様 内底面柳掻き調花文
49	青磁 同安窯系皿	法量 口径10.6cm (器高1.8cm) 釉薬 緑褐色透明 焼成 良好	成形 ロクロ 素地 灰白色、精緻、微気孔有
50	青白磁 碗	法量 口径5.8cm 底径5.8cm 器高1.5cm 白色、緻密、微気孔有り 釉薬 青白色透明 外底面露胎 焼成 良好	成形 ロクロ 高台割り出し 文様 外面調花文 素地
51	青白磁 皿	法量 口径3.6cm 底径3.6cm 器高1.5cm 釉薬 青白色透明 外底面露胎 焼成 良好	成形 ロクロ 外底面に目痕 素地 白色、精緻、微気孔有り
52	磁石	法量 長さ4.3cm 幅3.0cm 厚さ1.5cm 4面とも砥面 上部に穿孔有り 上部木口に穿孔を試みた孔有り 色調 黄褐色 備考 携帯用か	産地 上部

表48 土師器溜り2出土遺物観察表(3)

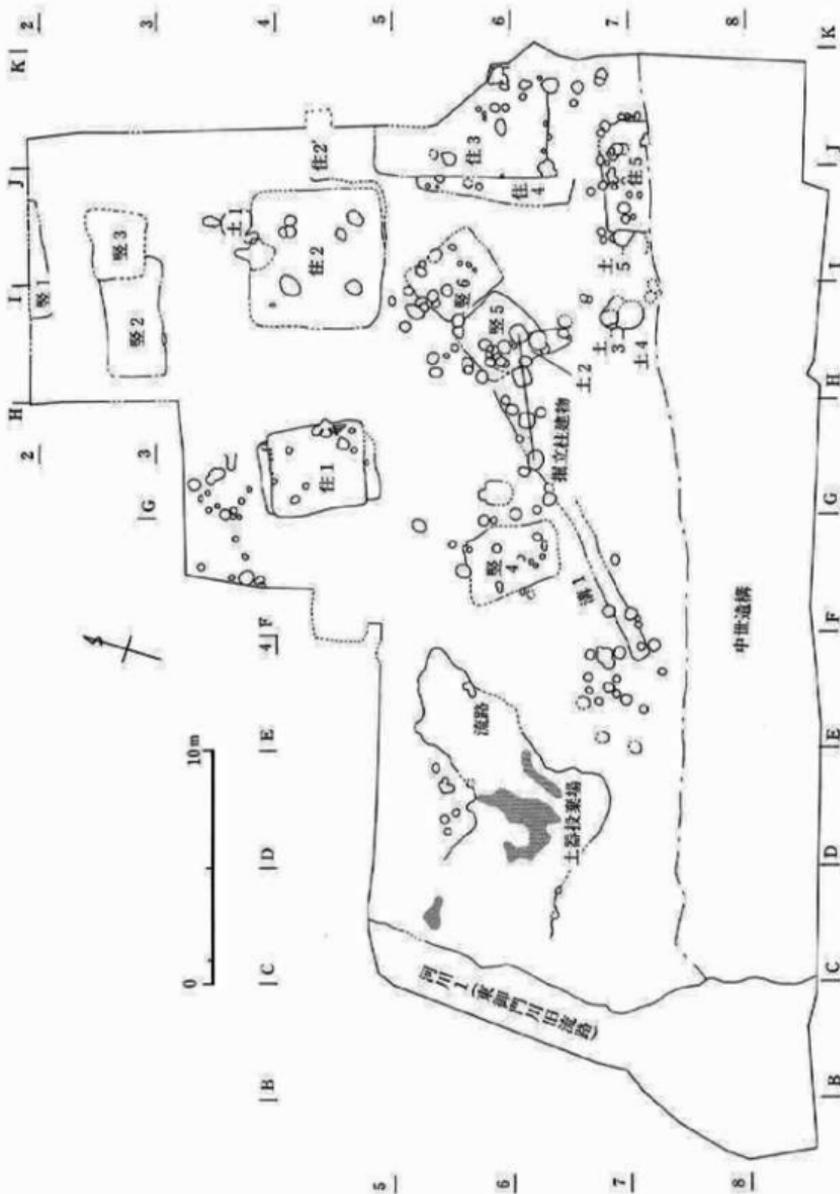


図50 原始・古代遺構配置図

## 第四章 まとめ

第三章に示されたように、本発掘調査では遺構・遺物とも非常に良好な資料が得られた。しかしながら、本報の対象範囲は国庫補助分の調査であり、総括的考察は原始・古代遺構を始め、原因者負担分の調査をも併せた全体の成果を俟たねばならない。そこでここでは、検出遺構のうち特に鎌倉時代前期の井戸を中心に、良好な一括遺物の得られたものについて、およそ四半世紀ごとの年代観を提示するにとどめておく。その詳細な根拠については、追って刊行する予定の総括報告書に委ねたい。ここで得られた良好な資料は、従来の当地における土師器の年代観に影響を及ぼさずにいなくてあろう。

なおこの年代観は、主として京都における手捏ね土師器（以下土師器T種と呼ぶ）の編年に基づいているが、言うまでもなくそれは筆者が、当該期のT種について——そしておそらくロクロ成成品（R種）についても——京都における展開と東日本におけるそれとが、よく照応すると考えるからである。年代を求める際には、富山大学宇野隆夫・（財）大阪文化財センター鍋橋俊夫両氏から、平安京の年代観を基盤にした有益なご教示を得た。また（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター松本達速氏からは、平泉におけるT種の展開についてお教えいただいた。厚く御礼申し上げます。

12世紀第4四半期——柱穴列1・井戸6・井戸9・井戸14・土師器溜り1・2

13世紀第1四半期——井戸4

13世紀第2四半期——井戸12・土壘1・井戸5

13世紀後半——井戸8

14世紀前半——井戸10・井戸11

14世紀中葉～後半——井戸7

16世紀前半——井戸1・井戸13

とりあえず以上のように考える。13世紀後半以降の細分については総括報告の際に試みたい。

ところで基本的な疑問として、モノの歴史的变化をたどるに当たり、何故近代以降に導入された区分概念である四半世紀で分けるのか、ということがある。筆者とてその疑問を感じないわけではないが、社会変化を背景とした明白な画期を設定するまでの、あくまで暫定措置に過ぎない。いずれにしても、調査地点の変遷やその性格などと併せ、詳細な考察は総括報告書までいまだし待つていただきたい。

原始・古代について今回は詳しく紹介できなかったが、遺構全図（付図2）と同配置図（図60）を掲載したので参照されたい。

## 大倉幕府周辺遺跡群（二階堂字荏柄38番1）の花粉化石

鈴木 茂 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

先に報告した大倉幕府周辺遺跡群（雷ノ下字大倉耕地565番4地点）では主に鎌倉時代初期の遺跡周辺の植生が示された（鈴木 1991b）。今回の二階堂字荏柄38番1地点においては古代の住居跡や12世紀末～14世紀頃にかけてと近世と考えられている溝状遺構などが検出されており、これらの堆積物から花粉化石を抽出することにより古代から近世にかけての遺跡周辺における植生変遷を明らかにすることが出来ると思われる。以上の観点から下記に示した3地点において花粉分析を行った。

### 2. 試料と方法

花粉分析用試料は古代の住居跡覆土を最上部にのせる井戸6（3Hグリッド）の南壁より7点、奈良・平安時代の覆土を上部にのせる井戸4（5Jグリッド）の南壁より6点、および調査区東壁セクション（溝状遺構）より5点の計18試料が採取された（図1・2）。遺跡内におけるこれら3地点の位置については遺跡の章を参照して頂き、以下にそれらの土層記載を若干示す。なお図1に示した層位番号は便宜的につけたものであり、また図2の層位番号については資料として頂いたセクション図に示されていたものを使用した。

1) 井戸6（試料No.1～7）：I層（古代の住居跡覆土）は黒褐色の粘土～シルトで赤褐色の酸化鉄が糸状に多量にみられる。また黄色の砂塊（径3mm前後）が点在している。II層は暗黄灰色砂質粘土～シルトで、上部は黄色（砂）が強い。赤褐色の酸化鉄が管状に多く入り、黒褐色粘土が塊あるいは斑紋状にみられる。III層は黒～黒灰色の泥炭質粘土で、やや多孔質である。上部34cmは全体に白色粒子（径1mm以下）が散在しており、上位との境界部に赤褐色の酸化鉄が集積している。また下部には赤色スコリアが点在する白色テフラ（脱色したスコリア）層が3枚認められるが、現在のところ他地域との対応関係やそれらの降下年代については不明である。IV層は青灰色砂質粘土からシルトであるが、上部4cmの多くは暗灰青色で、赤褐色の酸化鉄が集積し固くしまっている。V層は青灰色の細粒砂であるが、シルト分が多く含まれている。VI層は黒灰青色の砂質シルトで、柔らかく、北側に向かい薄くなり途絶える。VII層は青色の砂レキ層で、レキは砂岩や泥岩塊（土丹）が認められた。また本層には黒褐色の有機質シルトがレンズ状、ラミナ状、塊状にみられ（上部10cmは特に多い）、北側には材片とともに植物遺体密集層が観察される。

2) 井戸4（試料No.8～13）：VIII層（奈良・平安時代の覆土）は黒褐色のシルトで、赤褐色の酸化鉄が斑紋状に集積している。最大径10mmの黄色砂塊が散在し（下部に多い）、最大径11mmの土丹片や土器片がみられる。IX層は黒灰色の泥炭質粘土で、赤褐色の酸化鉄が根状に発達している。中・下部において脱色したスコリアが層状に散在し、それらが3枚認められる（最下部には赤色スコリアが点在している）。これらは井戸6のIII層にみられるスコリア層に対応するものと思われる。X層は

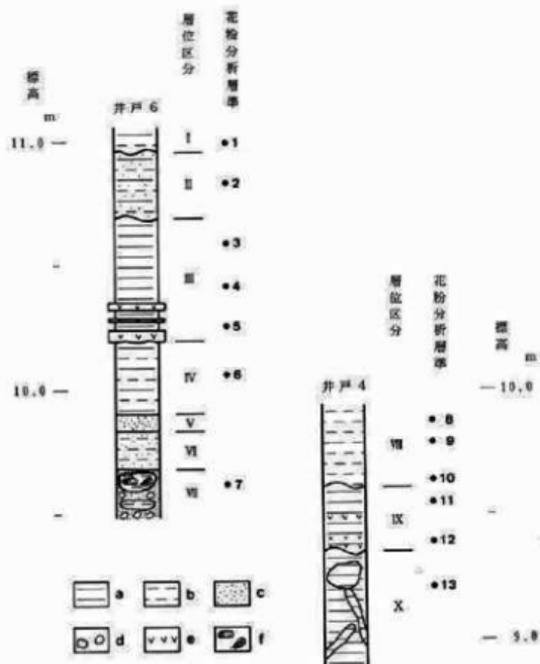


図1 井戸4・井戸6にみられる断面の地質柱状図と花粉分析層準  
 a: 粘土 b: シルト c: 砂 d: レキ e: テフラ f: 植物遺体



図2 調査区東壁のセクションと試料採取位置図

黄灰色の粘土で、赤褐色の酸化鉄が管状に集積しており、また軟らかい暗灰白色粘土が上部では層状に(10mm前後)、その下では根あるいは茎?の跡を埋めるような形状で観察される。

3) 東壁セクション(試料No14~18):本地点においては試料を採取した土層について記載し、他の土層については遺跡の章を参照して頂きたい。

30層(試料No14:近世)は暗灰色砂質シルトで、土丹粒(径1~2mm、最大径9mm)が多く含まれており、カワラケ片や炭片も散在している。18層(試料No15:14世紀頃?)は暗灰色のシルト~粘土で、土丹片(最大径77mm)を多く含み、カワラケ片や炭片が散在している。また径40mmの砂岩もみられる。23層(試料No16:13世紀後半~14世紀前半頃?)は黒灰色の砂質シルト~粘土で、炭片、カワラケ片、土丹(径25mm)がみられる。16層(試料No17:12世紀末~13世紀初め頃)は黒灰色の粘土で、黄褐色砂塊が散在している。また炭片やカワラケ片、土丹(径20mm)がみられる。試料No18(古代住居の覆土)は黒灰色の粘土で、炭片が多くみられる。

以上の試料18点について次のような手順にしたがって花粉分析を行った。

試料(湿重約1.0g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%フッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:1濃硫酸の割合の混液を加え3分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行い、その際サフランニンにて染色を施した。

### 3. 結果

検出された花粉・胞子の分類群数は樹木花粉35、草本花粉15、形態分類で示したシダ植物胞子2の計52である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表1に、また井戸6の試料No5、7については主要な花粉・シダ植物胞子の分布を図3に示した。この分布図における樹木花粉は樹木花粉総数を基数に、草本花粉、シダ植物胞子は全花粉・胞子総数を基数として百分率で示してある。なおこの2試料以外においては花粉の検出数が非常に少なく分布図として示すことが出来なかった。表1および図3においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示し、クワ科・バラ科・マメ科の花粉は樹木起源と草本起源のものがあるがそれぞれに分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括して入れてある。また花粉化石の単体標本(花粉化石を一個体抽出して作成したプレパラート)を作成し各々にPLC.SS番号を付し形態観察用および保存用とした。

1) 井戸6:最下部の試料No7(有機質シルト)において比較的良好的な花粉化石を得ることが出来たが、その他については検出数が少なく、また試料No5においても樹木花粉が100個体を越してはいるが、その分類群数や一緒に観察される大量の微少な有機物片(植物片?)などから、他の多くの花粉は分解されてしまったのではないかとと思われる。したがって試料No5の分布図は参考程度にみて頂きたいと考える。

試料No7ではスギ属やコナラ属アカガシ亜属、クリ属-シノキ属-マテバシイ属(本試料では





クリ属花粉と思われるものは観察されなかった)が10~20%出現しており、スギ属以外の針葉樹類ではモミ属が4%ほど検出されている。常緑広葉樹類ではユズリハ属が7%弱と比較的多く産出しており、その他シキミ属やツバキ属などが検出されている。落葉広葉樹類ではクマシデ属-アサダ属やニレ属-ケヤキ属、エノキ属-ムクノキ属などが5%ほど出現しており、その他コナラ属コナラ重属、アカメガシワ属、カエデ属、ムクロジ属が1%を越えて検出されている。草本類ではイネ科が20%を越えて出現している他はいずれも低率(ヨモギ属は6%)であり、分類群数も少ない。

試料No.5においてもスギ属やアカガシ重属、クリ属-シノキ属-マテバシイ属およびイネ科の多い傾向がみられ、他の試料からもこれらが検出されている。また試料No.6ではシダ類胞子が非常に多く検出されており、特徴的である。

2) 井戸4(試料No.8~13)においてはいずれの試料も検出数が非常に少なく、10個体を越えるものはイネ科の試料No.9だけである。その中には樹木類のアカガシ重属やクリ属-シノキ属-マテバシイ属、草本類ではイネ科が比較的検出されている。

3) 東壁セクション(試料No.14~18)においても花粉の検出数が少なかったが、産出傾向に若干特徴がみられる。すなわち木本類ではマツ属複雑管束重属(アカマツやクロマツなどのいわゆるニヨウマツ類)が試料No.14~16において比較的検出されており、アカガシ重属やクリ属-シノキ属-マテバシイ属は試料No.16~18に多くみられる。草本類ではイネ科とともにアカザ科-ヒユ科が全試料から検出されており、ヨモギ属や他のキク亜科、タンポポ亜科も比較的検出されている。

#### 4. 遺跡周辺の古植生

以上のようにほとんどの試料において花粉の検出量が少なく、植生変遷について述べることは出来ない状態である。したがってここでは検出された花粉化石を基に、以前に公表された資料を参考にして遺跡周辺の古植生あるいは植物について述べることにする。

検出数の少ない中で唯一良好な状態で検出してきた試料No.7(井戸6:最下部)では照葉樹類のアカガシ重属が最も多く検出されている。また結果のところでも述べたようにクリ属-シノキ属-マテバシイ属については本試料に限って全てがシノキ属-マテバシイ属型の花粉であった(他の試料においては保存状態が悪く、明確にクリ属とシノキ属-マテバシイ属の区別がつかなかった)。これらアカガシ重属やシノキ属-マテバシイ属を主体にシキミ属、ユズリハ属、ツバキ属などをともなった照葉樹林が成立していた。針葉樹類ではスギ属がアカガシ重属の次に高い出現率を示しており、モミ属やイチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科とともに温帯針葉樹林を形成していた。またクマシデ属-アサダ属やコナラ重属、ニレ属-ケヤキ属、エノキ属-ムクノキ属、カエデ属などの落葉広葉樹類もかなり生育していた。このように遺跡周辺では照葉樹林や温帯針葉樹林が分布域を広げており、それらに混じるように落葉広葉樹類が生育していた。

このような植生が成立していた時代について、同層準の堆積物から<sup>14</sup>C年代、4410±110y.B.P.(GaK-16116)が得られ、時代としては縄文時代中期末頃と考えられる。その後の遺跡周辺の植生は

試料No.5で示されているように大きな変化は無く、アカガシ亜属を主体とした照葉樹林とスギ属林が成立していたと思われる。横浜市南西部の花粉分析結果（清水 1990）をみると、一度増加傾向を示したアカガシ亜属は約2,800年前に再び増加し、約1,000年前まで多く生育しており、スギ属については約4,700年前から増加し始め、約2,600年前から約1,000年前にかけて優勢であった。また優勢であったコナラ亜属は約2,800年前には衰えている。こうした横浜市南西部にみられる植生変遷をそのまま当遺跡にあてはめることは出来ないが、おおまかな傾向としては同様の傾向を辿ったと予想され、縄文時代中期末以降の鎌倉周辺地域は、照葉樹林や温帯針葉樹林が分布域を広げており、それらに混じるように落葉広葉樹類が生育していたであろう。

こうした傾向は東壁セクションの試料からみると13世紀後半～14世紀前半頃？までみられたようである。また試料No.14～16においてニウウマツ類が特徴的に検出されている。史跡永福寺跡の花粉分析結果（鈴木 1991a）においては、12世紀末から13世紀後半にかけてスギ林や照葉樹林が優占し、その後ニウウマツ類が優占しており、クロマツの植林とアカマツの二次林の形成が予想されている。当遺跡周辺においても14世紀前後にニウウマツ類の増加傾向が現れはじめ、それが少ないながらも花粉分析結果に示されたのではないと思われる。

草本類では試料No.16（13世紀後半～14世紀前半頃？）においてアカザ科・ヒユ科やキク科、アブラナ科が比較的検出されている。先の報告（鈴木 1991b）では鎌倉時代初期において当遺跡周辺ではアカザ科・ヒユ科やオオバコ属といった道端雑草類が目立ちかなり開けた景観であったと予想されている。時代は多少異なるようであるが今回も先の報告と同様の景観が示されているのではないと思われる。

## 5. おわりに

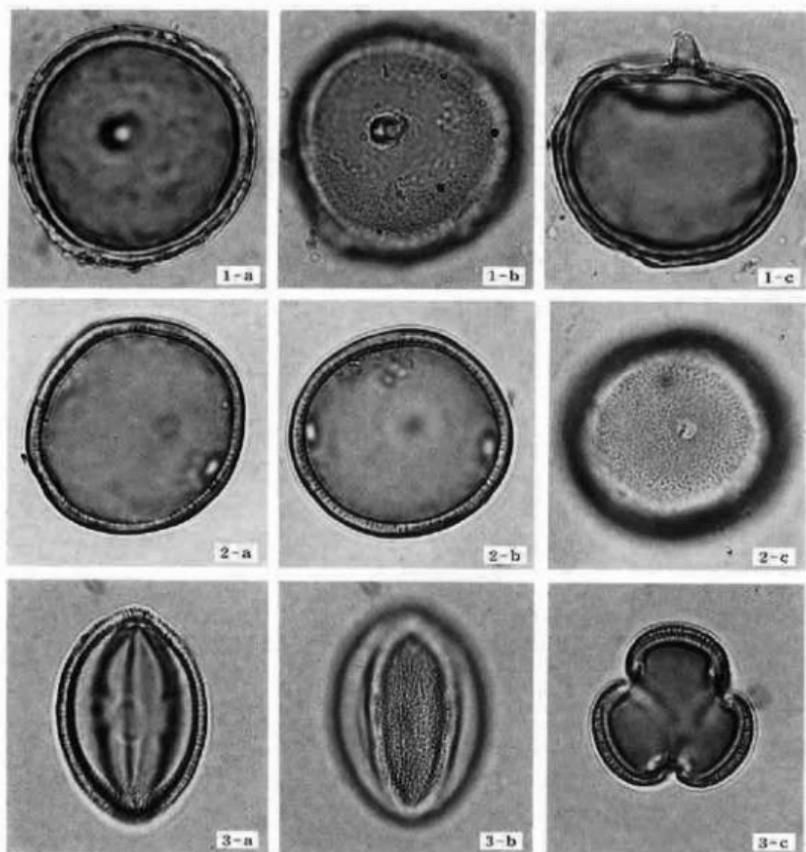
「はじめに」の所で述べたように今回は古代あるいはそれ以前から近世にかけての遺跡周辺の植生変遷が明らかに出来るものと思われた。しかしながら結果は花粉化石が殆ど得られず、上記したようなこともかなり予想の部分が大きいのが実際のところである。この原因の一つとしては多孔質な部分や酸化鉄の集積がみられるなど堆積物がかなり土壌化を受けていたのではないと思われる、それによって多くの花粉は分解してしまった可能性が考えられる。作成したプレパラート中に観察された多量の微少な有機物片（植物片？）はこのことを示しているのではないと思われる。

以上のように今回の分析ではきちんとしたデータを得ることが出来ず、古代あるいはそれ以前からの植生変遷を明らかに示すことが出来なかった。当遺跡群の他の地点における今後の分析結果に期待したい。

## 引用文献

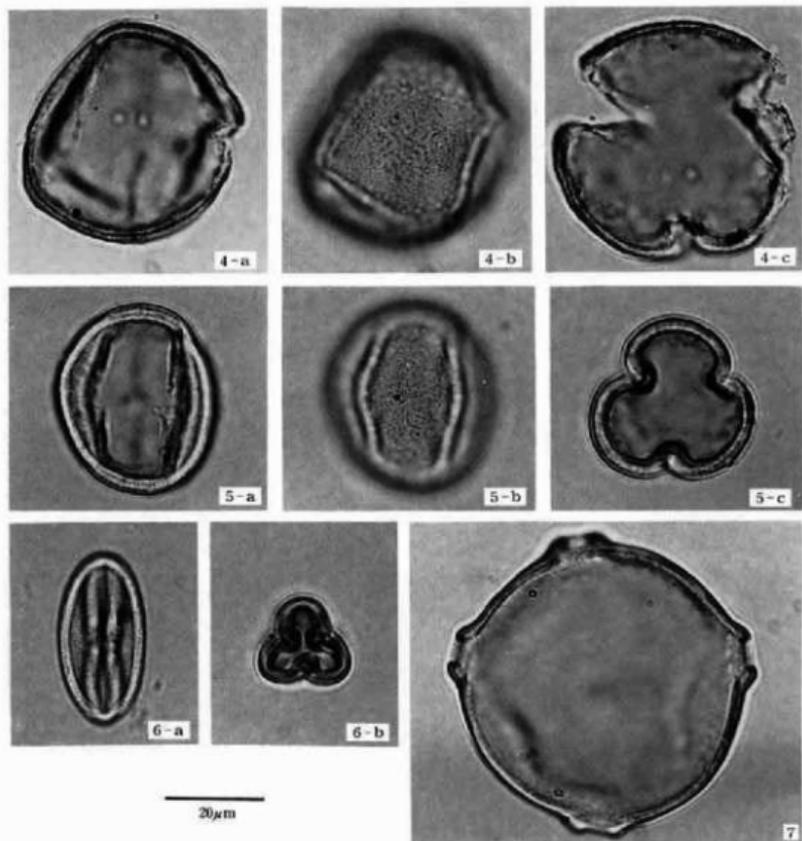
清水丈太（1990）横浜市南西部、柏尾川低地で得られた完新世堆積物の花粉分析。 第四紀研究、  
29、 P. 351-360。

- 鈴木 茂 (1991a) 平成元年度史跡永福寺跡の溝内堆積物の花粉化石。鎌倉市二階堂国指定史跡永福寺跡 国指定史跡永福寺跡環境整備事業に係わる発掘調査概要報告書-平成2年度-、鎌倉市教育委員会、P. 17-25。
- 鈴木 茂 (1991b) 大倉幕府周辺遺跡の溝内堆積物の花粉分析。鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 7 平成2年度発掘調査報告、鎌倉市教育委員会、P. 85-91。



図版1 大倉幕府周辺遺跡群(試料No.7)の花粉化石

- 1 : スギ属 PLC.SS 798  
 2 : エノキ属-ムクノキ属 PLC.SS 790  
 3 : カエデ属 PLC.SS 797



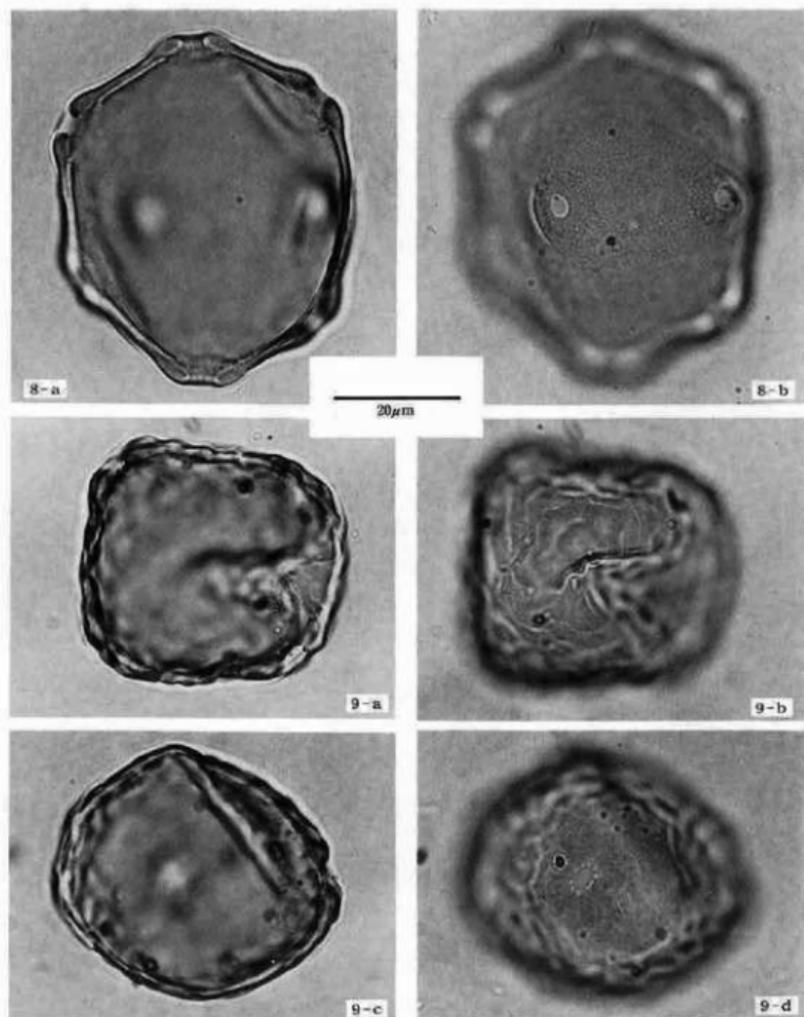
図版II 大倉幕府周辺遺跡群(試料No.7)の花粉化石

4 : コナラ属コナラ亜属 PLC.SS 796

5 : コナラ属アカガシ亜属 PLC.SS 798

6 : シイノキ属マテバシイ属 PLC.SS 792

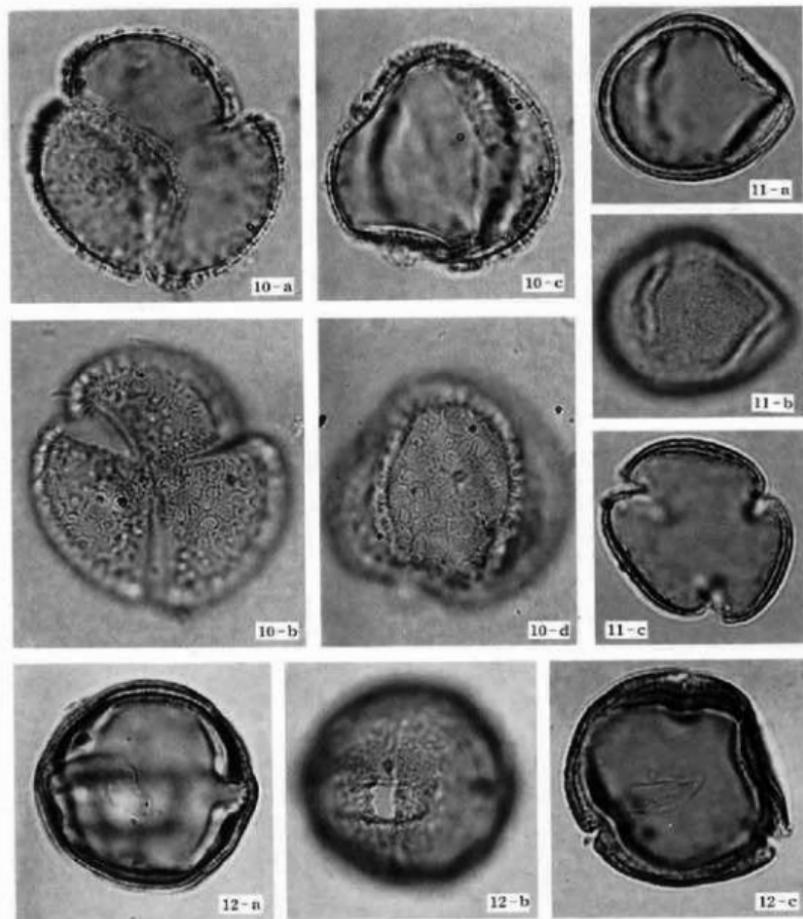
7 : クマシデ属アサダ属 PLC.SS 791



図版 III 大倉幕府周辺遺跡群 (試料No.7) の花粉化石

8 : クルミ属 PLC. SS 793

9 : ニレ属-ケヤキ属 PLC. SS 788



20 $\mu$ m

図版IV大倉幕府周辺遺跡群(試料No7)の花粉化石  
 10: シキミ属 PLC.SS 794  
 11: ユズリハ属 PLC.SS 795  
 12: アカメガシワ属 PLC.SS 799



▲中世遺構跡全景



1 調査区南半部全景



2 溝6切石列(東から)

3 同上西から





1 東御門川旧流路（南から）

2 同上（東から）



3 溝 8（西から）



4 柱穴列 1-K（北から）





1 井戸1 (南から)



2 同上壁面と石積の様相 (西から)



1 井戸? (北から)

2 同上遺物出土状況 (北から)



3 同上発掘状況 (北から)



1 井戸3 (西から)

2 井戸4 (西から)



3 井戸5 (南から)



1 井戸 6 (左) ・ 9 (西から)



2 井戸 6 (西から)

3 同左竹出土状況





1 井戸7 (西から)

2 井戸1 (西から)



3 同上石積の様相 (北から)





1  
5・6・D・E付近井戸検出状況

2  
井戸9 (西から)



3  
井戸10 (西から)

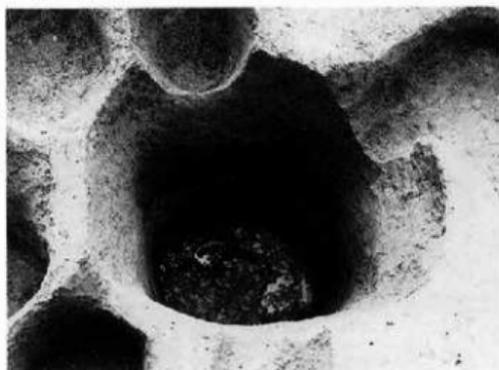


1 井戸11(北から)



2 同上木製品出土状況(東から)

3 井戸12(北から)





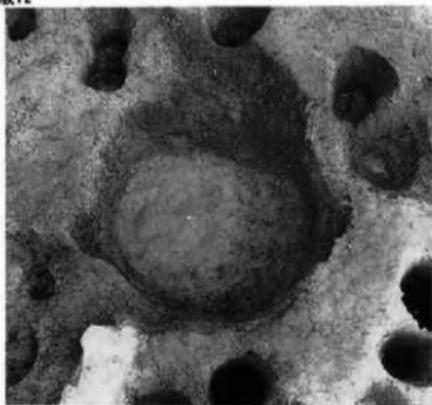
1 井戸13 (東から・上方は土師器溜り)



2 同上漆板出土状況 (東から)

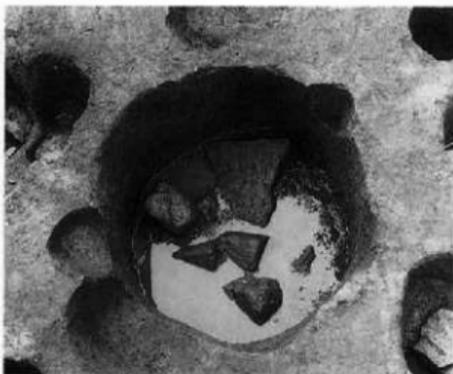
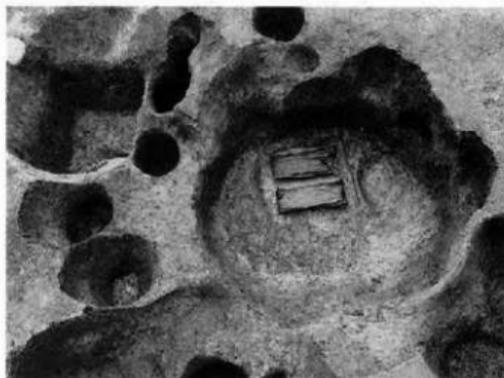
3 井戸14 (南から)





1  
土壇3 (北から)

2  
土壇7 (東から)



3  
柱穴跡 (東から)



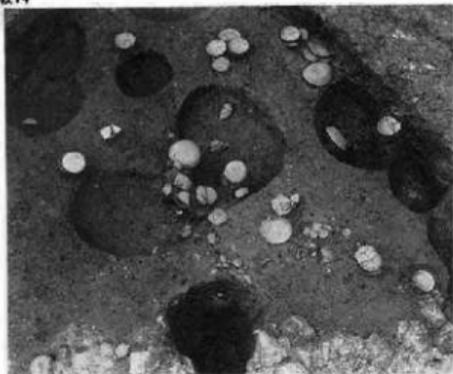
1 土師器溜り1 (西から)

2 土師器溜り2 (南から)



3 同左集中部分の様相





1 土師器溜り3 (南東から)

2 土師器溜り4 (北西から)



3 石組雨落溝 (西から)





1 埴納遺構（北から）



2 同上（上から）

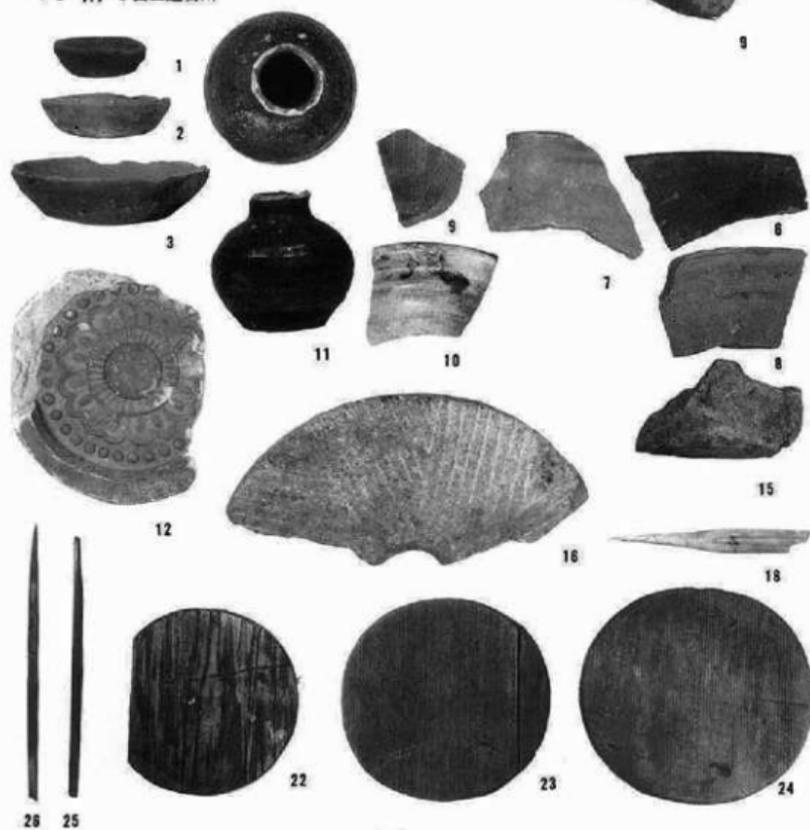
3 埴製遺構（西から）





▲ 1 井戸1出土遺物

▼ 2 井戸2出土遺物(1)





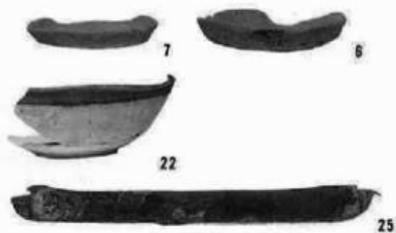
▲1 井戸1出土遺物



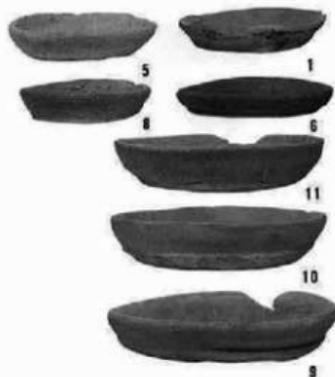
▲2 井戸3出土遺物



▲3 井戸4出土遺物



▲4 井戸5出土遺物



▶5 井戸6出土遺物(1)



▲1 井戸6出土遺物(2)

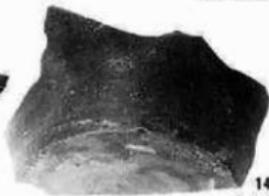


16

▼2 井戸7出土遺物(1)



14 (口縁部)



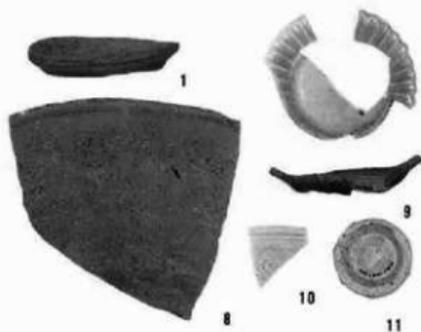
14 (底部)



▲ 1 井戸7出土遺物(2)



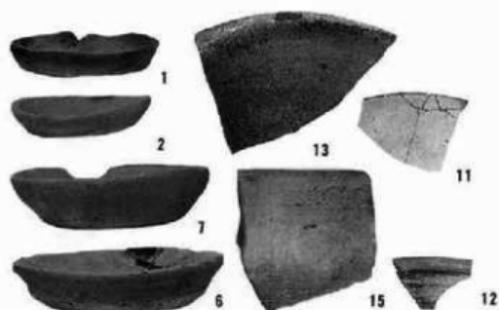
▲ 2 井戸6出土遺物



▲ 3 井戸9出土遺物



▲ 4 井戸10出土遺物

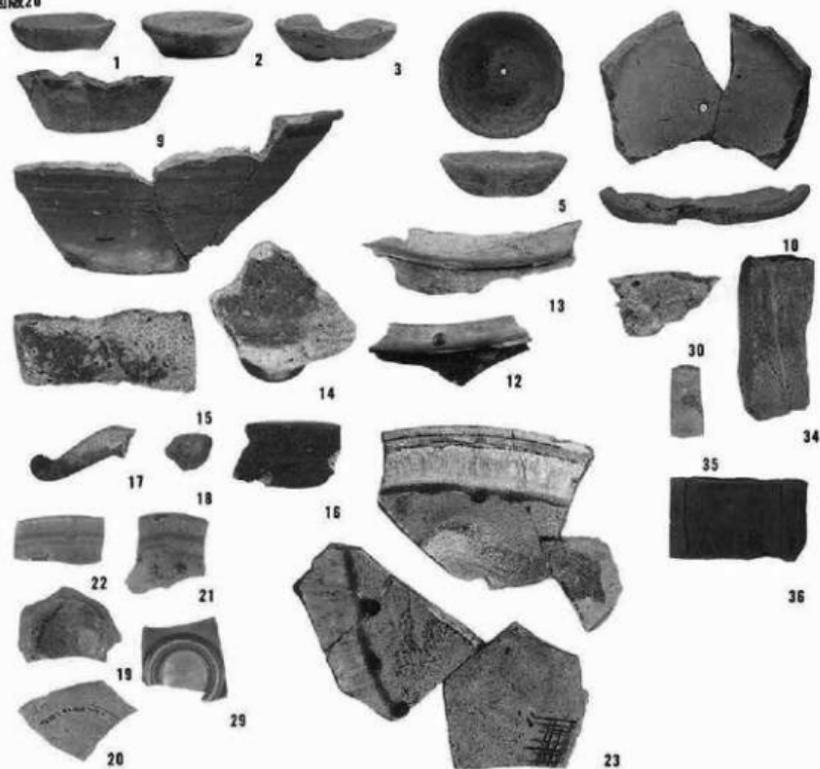


▲ 6 井戸12出土遺物



▲ 5 井戸11出土遺物

図版20



▲ 井戸13出土遺物



▼ 井戸14出土遺物



### 3. 長谷小路周辺遺跡

由比ガ浜三丁目229番外 (No236)

## 例言

1. 本編は、鎌倉市由比ガ浜三丁目229番外地点における個人住宅併用共同住宅建設に伴う、埋蔵文化財の事前発掘調査のうち、個人住宅相当分の国庫補助事業発掘調査の報告である。ただし、調査地内に発見された遺構と遺物を国家補助事業相当分と原因者負担事業分を分割して扱うことは、調査地内に発見された遺跡の理解をそこなおそれがあると思われ、できるだけ原因者負担事業分も加味して報告している。
2. 調査は、鎌倉市教育委員会が実施した。調査体制は本文中に記している。
3. 報告書作成にあたっては、調査員等による遺物の実測・トレースの後、遺構関係を宗荃秀明が、遺物関係を宗荃富貴子が執筆し、まとめを調査関係者の討議のうえ宗荃秀明が責任執筆した。また、出土獣骨の同定にあたっては、早稲田大学の金子浩昌先生の多大な御教示を賜った。
4. 発掘調査によって得た資料はすべて鎌倉市教育委員会が保管している。
5. なお遺跡全景写真は木村英代治がリモコン式高所撮影装置を使用し撮影した。

## 凡例

- ・ 本文中に使用した挿図の縮尺は、次の通りである。遺構全側図は1/120、遺構の個別図は1/30と1/60とした。遺物の実測図は1/3を基本とし、小さなものは1/2とした。ただし、なかには1/6としたものもあり、それらに限っては挿図中にその縮尺を記した。
- ・ 挿図中、は使用痕の、は加工痕の、は原材料加工痕の、それぞれの範囲を示している。
- ・ その他、遺物の成形・調整手法、胎土、種別、原産地等の詳細については、本編後段の遺物観察表および分類表を参照されたい。

# 本文目次

第一章 調査の概要	(153)
第1節 調査に至る経緯	(153)
第2節 調査体制	(153)
第3節 調査の成果	(154)
第二章 遺跡地の概要	(155)
第1節 歴史地理的環境	(155)
第2節 調査地点	(158)
第三章 発見された遺構と遺物	(160)
第1節 中世以前	(160)
第2節 中世	(167)
第3節 上層遺物包含層	(246)
第四章 まとめ	(249)

# 挿図目次

図1 鎌倉市全区と調査地点	(156)
図2 調査地点周辺諸遺跡	(157)
図3 調査区および方眼設定図	(158)
図4 調査区南壁東西方向土層図	(159)
図5 古代層発見遺構	(160)
図6 古代層出土遺物(1)	(161)
図7 古代層出土遺物(2)	(162)
図8 2面全体図 とじ込み	(163)
図9 2面I区 とじ込み	(165)
図10 2面I区土壁と溝の土層図	(168)
図11 2面I区井戸3・4	(169)
図12 井戸4出土遺物	(169)
図13 井戸3出土遺物	(170)
図14 2面I区土壁28出土遺物	(171)
図15 2面I区土壁28	(171)

図16	2面I区土塙218	(172)
図17	土塙218出土遺物	(172)
図18	2面I区土塙18	(173)
図19	土塙18出土遺物	(173)
図20	2面I区遺構(溝213・23)出土遺物(1)	(174)
図21	2面I区遺構(溝211・215、土塙27・15)出土遺物(2)	(176)
図22	2面I区遺構(土塙210・211・212・216・222、ビット85・87・89)出土遺物(3)	(177)
図23	I区2面上出土遺物	(178)
図24	2面III区	(180)
図25	2面III区溝214	(181)
図26	溝214出土遺物(1)	(181)
図27	溝214出土遺物(2)	(182)
図28	溝214出土遺物(3)	(183)
図29	2面III区土塙墓	(184)
図30	2面III区出土遺物	(185)
図31	2面IV区 とじ込み	(187)
図32	2面IV区遺構(井戸2、土塙22・23・24、ビット66・84・178)出土遺物	(186)
図33	2面IV区出土遺物(1)	(189)
図34	2面IV区出土遺物(2)	(190)
図35	1b面全体図 とじ込み	(191)
図36	1b面I区	(193)
図37	1b面I区溝28・29出土遺物	(195)
図38	1b面I区溝29・30、ビット114出土遺物	(196)
図39	1b面I区面上出土遺物	(197)
図40	1b面溝16・17	(197)
図41	溝16、17出土遺物	(198)
図42	1b面道路面上出土遺物	(201)
図43	1b面II区 とじ込み	(199)
図44	1b面II区方形竪穴建築址201、溝204土層断面図	(201)
図45	1b面II区遺構(溝216)出土遺物(1)	(203)
図46	1b面II区遺構(方形竪穴建築址201、溝204)出土遺物	(204)
図47	1b面II区遺構(溝208、土塙203・205・206)出土遺物(3)	(205)
図48	1b面II区遺構(土塙207・217、ビット34・86・102・207・209)出土遺物(4)	(206)
図49	1b面III区	(207)

図50	1 b面III区遺構(溝201・203、ピット204・208)出土遺物	(208)
図51	1 b面II、II・III区面上出土遺物	(209)
図52	1 b面IV区溝25・37、土壌11	(210)
図53	1 b面IV区井戸1	(211)
図54	井戸1内犬骨	(211)
図55	1 b面IV区溝1・37、土壌11、井戸1出土遺物	(211)
図56	1 b面IV区溝1	(212)
図57	1 b面IV区溝22・24	(212)
図58	溝22出土遺物	(213)
図59	溝24出土遺物	(214)
図60	1 b面溝14・18・19	(215)
図61	溝14・18・19、ピット13出土遺物	(216)
図62	1 b面V区方形竪穴建築址1	(218)
図63	方形竪穴建築址1出土遺物(1)	(219)
図64	方形竪穴建築址1出土遺物(2)	(220)
図65	方形竪穴建築址1出土遺物(3)	(221)
図66	方形竪穴建築址1出土遺物(4)	(222)
図67	1 b面、1 b面下D-5グリッド、1 b面出土遺物(1)	(223)
図68	1 b面下出土遺物(2)	(224)
図69	1 b面下出土遺物(3)	(225)
図70	1 b面下出土遺物(4)	(226)
図71	1 b面下出土遺物(5)	(227)
図72	1 b面下出土遺物(6)	(228)
図73	1 a面全体図 とじ込み	(229)
図74	1 a面道路	(231)
図75	道路面上イルカ骨	(232)
図76	1 a面II区溝12	(232)
図77	溝12、I・II区1 b面上出土遺物	(233)
図78	1 a面IV区 とじ込み	(235)
図79	1 a面IV区溝3・6出土遺物	(234)
図80	1 a面IV区溝9内獣骨	(237)
図81	1 a面IV区溝7・9出土遺物	(238)
図82	1 a面IV区溝9・4・5出土遺物	(239)
図83	1 a面IV区土壌1・2・3	(240)

図84	土塼1・2・3出土遺物	(240)
図85	1 a 面IV区泥岩敷	(241)
図86	1 a 面IV区溝4・5	(242)
図87	1 a 面IV区面上出土遺物	(242)
図88	IV区1 a 面上層遺物だまり土塼	(242)
図89	上層土塼出土遺物	(243)
図90	1 a 面下出土遺物(1)	(244)
図91	1 a 面下出土遺物(2)	(245)
図92	1 a 面下出土遺物(3)	(246)
図93	包含層中埋葬犬骨	(246)
図94	上層包含層出土遺物(1)	(247)
図95	上層包含層出土遺物(2)	(248)
図96	遺跡地割変遷図 とじ込み	(251)

## 表 目 次

表1	遺物観察表	(253)
表2	獣骨分類表	(280)
表3	加工骨分類表	(297)
表4	貝類分類表	(301)

## 写真図版目次

図版1	調査地から海岸を望む。古代排水溝。2面全景。	(314)
図版2	土塼墓。溝214内ヒト下顎骨とアカニシ出土状況。井戸4全景。井戸4井戸枠。	(315)
図版3	土塼28。土塼18。	(316)
図版4	土塼18内かわらけ出土状況。1 b 面全景。方形竪穴建築址1全景。	(317)
図版5	方形竪穴建築址1。1 a 面全景。1 a 面道路。1 b 面下かわらけ出土状況。	(318)
図版6	1 a 面泥岩敷遺構。1 a 面道路面上イルカ椎体出土状況。 1 a 面溝9内ハナゴンドウイルカ出土状況。1 a 面ウマ顎骨。	(319)
図版7	出土遺物——土師器、須恵器環・環蓋、須恵器甕片。	(320)
図版8	出土遺物——かわらけ。	(321)

図版9	出土遺物——かわらけ	(322)
図版10	出土遺物——異形かわらけ、火鉢、土釜、すりかわらけ	(323)
図版11	出土遺物——瓦貫・土器各種、伊勢系土鍋、土釜、瀬戸内系土器碗、 瓦器、黒緑皿	(324)
図版12	出土遺物——瓦	(325)
図版13	出土遺物——こね鉢、すり鉢、常滑甕	(326)
図版14	出土遺物——常滑小壺・皿、渥美、山茶碗	(327)
図版15	出土遺物——瀬戸	(328)
図版16	出土遺物——船載磁器	(329)
図版17	出土遺物——船載陶磁器	(330)
図版18	出土遺物——鉄製品、石製品	(331)
図版19	出土遺物——磨り常滑、碗・硯石、各種石材片	(332)
図版20	出土獣骨——ネズミ、ウサギ、ネコ、イス	(333)
図版21	出土獣骨——ウマ	(334)
図版22	出土獣骨——ウシ	(335)
図版23	出土獣骨——イノシシ、シカ、解体痕の残るウマ	(336)
図版24	出土獣骨——溝9内出土ハナゴンドウイルカ	(337)
図版25	出土獣骨——イルカ、アシカ	(338)
図版26	出土獣骨——サメ科、マグロ類、マダイ、コシヨウダイ、アンコウ、 カツオ、カジキ類、ウミガメ	(339)
図版27	出土獣骨——鳥類、ヒト、解体痕のあるヒト	(340)
図版28	出土遺物——骨製品、加工骨残片	(341)
図版29	出土遺物——加工骨残片	(342)
図版30	出土獣骨——溝214出土各種獣骨	(343)
図版31	出土貝類——溝214出土アカニシ	(344)

## 第一章 調査の概要

### 第一節 調査に至る経緯

鎌倉市由比ガ浜三丁目229番外地点における個人住宅併用共同住宅の建築申請にともない、鎌倉市教育委員会は長谷小路周辺遺跡地内に位置する申請地において、平成2年6月25日より同29日まで埋蔵文化財確認調査を行い、濃密な中世に属する遺物と遺構を発見し、建築工事にさきだって発掘調査による埋蔵文化財の記録保存が必要であると認めた。これを受けて、教育委員会文化財保護課と建築施主である二階堂昌喜氏との協議の結果、個人住宅相当分を国庫補助事業として、共同住宅分を原因者負担事業として発掘調査を行うこととなった。

発掘調査の対象は建築工事範囲320㎡であるが、このうち150㎡が国庫補助事業対象地、残りの170㎡が原因者負担対象地である。今回報告の発掘調査対象は発掘された遺跡地のほぼ半分に相当する調査成果であるが、それを過不足なく説明するため、残りの170㎡分についても加味している。

現地調査は、重機をもって表土を取り除いた平成3年7月15日よりはじめ、同年12月28日に終えた。この間、施主である二階堂家をはじめ周辺住民と工事関係者の方々のご理解とご助力を賜り、無事調査を終えることができた。ここにお礼を申し上げさせていただく。

### 第2節 調査体制

調査にあたっては以下のごとく体制を編成して行った。

主任調査員 宗華秀明（立教大学非常勤講師・鎌倉考古学研究所）

調査員 宗華富貴子（鎌倉考古学研究所）

調査補助員 佐藤仁彦、菊地正明、小野和代、渡辺弘子、田中千江、瀬川美樹子、兼行伏枝、橋爪猛、馬瀬直子（整理作業のみ）。調査協力者 歌川 明、川上竜二、関根のり子、石橋慎司、本多克仁（以上、専修大学学生）。瀬川嘉洋。

作業員 川村四志男、寺平義夫、高橋作造、箕田孝善、渡辺鉄雄、長島三男、齊藤政藏、松崎靖弘（以上、社団法人・鎌倉市シルバーセンター）。

このほか、現地調査中および整理作業途上において、多くの諸先生方よりご助言、ご指導をいただくことができた。特に金子浩昌先生においては、2度にわたり遠路鎌倉まで足を運んでいただき、出土獣骨の分類を確認していただくなど、御指導を賜った。記して諸先生方に御礼申しあげます。

### 第3節 調査の成果

表土を重機で取り除いた後、生活地業面をたよりに上層より手掘りにて調査を進め、最終的に4枚の生活地業面と生活面を確認した。このうち、より上層に位置する3枚の生活地業面は中世、最下位の生活面は古代に属する。

古代の面およびその文化層からは、8世紀代を中心とする土器が数多く出土する一方、縄文土器片や10世紀代の土器も出土した。生活面は、調査区の南東部に、茶褐色粘質砂層上面に発見できた。この土層は本遺跡地周辺の多数の遺跡にて中世の遺構が造られていた土層下に湿地堆積腐植土層として確認され、8～10世紀代の土器片や墓がみつげられている。本遺跡の茶褐色粘質砂層もそれらと同様のものと考えられる。またそうした湿地堆積土の堆積状況とその海拔高の勘案から旧地形の復元を可能ならしめるものと考えられるが、本遺跡地において発見された茶褐色粘質砂層とその上面に確認できた古代の生活面は、旧地形復元とともに人文地理的にも古代の人々の生活を知る一端を示している。調査区の南東に発見された生活面に造られていた遺構は、湿地堆積土という土地に人々が暮らすため、生活面の限界部に排水溝を設置していた。

中世期に属する生活地業面は3枚発見されているが、上位の2枚は近接した時期に造作されたもののあったので、上位2枚を1a・1b面とし、3枚目を第2面とした。第2面から第1a面までの中世は、およそ13世紀中葉から14世紀後半までの約120～130年ほどの期間の人々の生活跡が造られていた。

中世期の調査では、調査区全域に遺構が数多く発見されたが、その多くは同一地点に何度も重複して作られた溝であった。それらの溝は、それぞれが決して長大なものでなかったものの、幾度も同一地点に作り変えられたことから推して、地境の役割をはたしていたと考えられた。また最新の第1a面では破砕泥岩を用いて舗装された道路が発見された。

多くの地境溝と道路を重ね合わせると、調査区内がいくつかの区画に分割されていたことがわかり、その区域分割が道路遺構の有無にかかわらず、中世最古期の第2面から最新の1a面まで、ほぼ変りなく維持踏襲されていた。ただし、第1a面での道路の出現は区画分割の中でのオリエンテーションの変化があった可能性を残している。

このような地割の様子のほかに、中世期の調査から得られた大きな収穫に遺跡地内での動物の解体から獣骨利用の骨細工に至る中世の工芸活動の一端を詳細に窺い知る資料群があげられる。

出土したゴンドウタジラ、ウシ、ウマ、イノシシ、シカ、ウサギなどの大型から小型の哺乳類、魚類、鳥類の骨に造られた解体痕が獣肉の解体と切り分けを示し、骨細工を示す加工された獣骨の種類と部位別の取捨選択に加えて骨材の厳密な利用法は、熟練した工人の存在を明示している。また他の部位に比べて頭骨の出土点数の少なさと、多数の軽石やすり石の出土は、解体後の獣皮のなめし作業を示すものであろう。

## 第二章 遺跡地の概要

### 第1節 歴史地理的環境

神奈川県鎌倉市の南東に位置する鎌倉の旧市街地は、八幡宮を頂点とする三角形の沖積地および南の相模湾に面した砂浜地と、それらを取り巻く多くの谷戸地と滑川低地から形成されている。その三角形の沖積地を、八幡宮から南の海浜に向けて、南北に貫く主要道路が若宮大路である。若宮大路には、八幡宮社頭より海浜に向けて三つの鳥居が建てられている。もっとも海浜に近い一ノ鳥居より北方200メートルほどの地点にて、国道134号線が若宮大路を横切っている。この交差点は、現在下馬四ツ角と称されているが、かつての下馬であり、国道134号線は大町大路であったろうと考えられている。

大町大路は、中世鎌倉の要害である東の名越の切り通し、西の極楽寺坂へ至る東西交通の要路である。大町大路に、寿福寺前から南北に通る今小路が接する。ここを今は六地藏と呼び、この六地藏より西の大町大路を長谷小路と称している（『鎌倉市史』、ただし『吾妻鏡』にはない地名）。

遺跡地は、六地藏から南へ100メートルほど行った市道に面している。この市道は『鎌倉市史』において、采女塚を切崩したとある道路であって、近年の造作による。中世期に限れば、現在の国道134号線を大町大路・長谷小路とすると、六地藏から西へ150メートルほど行った地点で南東に20メートルほど入った位置に遺跡地があることになる。

長谷小路付近における他地点での調査によれば、海浜より連なる砂丘帯の最深部である長谷小路以南には、砂丘とその後背湿地とが交互に存立し、後背湿地が乾燥化する過程において古代の生活址が遺された。また六地藏の北方200メートルほどに大きく東に開いた谷戸には奈良時代の鎌倉郡面に比定される御成小学校地点が位置している。

他方、砂丘部には先に記した采女塚をはじめとする向原古墳群が存置していた。現在では、和田塚と称される采女塚がその一部を残すのみである。

この采女塚はまた近世においては無常堂塚とも呼ばれ、それ以前にはこの付近にお堂が存在していた可能性を示唆している。近世以前の中世における長谷小路の南一帯においては、乾燥化した砂丘後背湿地上に黄白色砂が堆積し、それを基盤層とする多くの遺構・遺物が発見されている。必ずといってよいほど発見される半地下式の方形竪穴建築址遺構にともなって出土する遺物には骨製品未成品、竈口、スラグ、獣骨切断片が多量にある。これらの出土遺物は、長谷小路周辺に職能民たちが活動していた様子を窺わせている。

註 1) 最近の調査成果は『鎌倉市史』が記すように、現在の国道134号線はかつての砂丘頂部の自然道を踏襲したものと考えられ、かつての大町大路・長谷小路も同様であったろうことを示している。宗蓑「今小路西遺跡—由比が浜一丁目213番3地点—」 近刊。

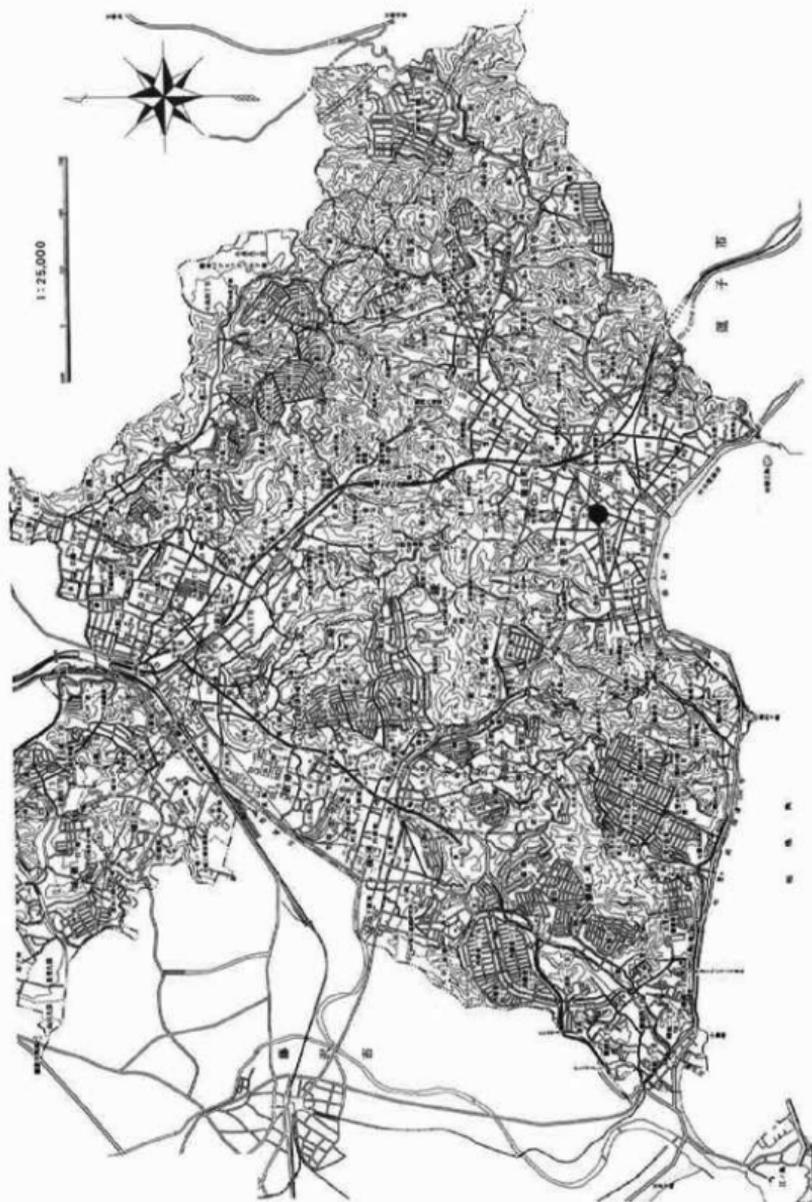


圖1 鎌倉市全圖之調査地点

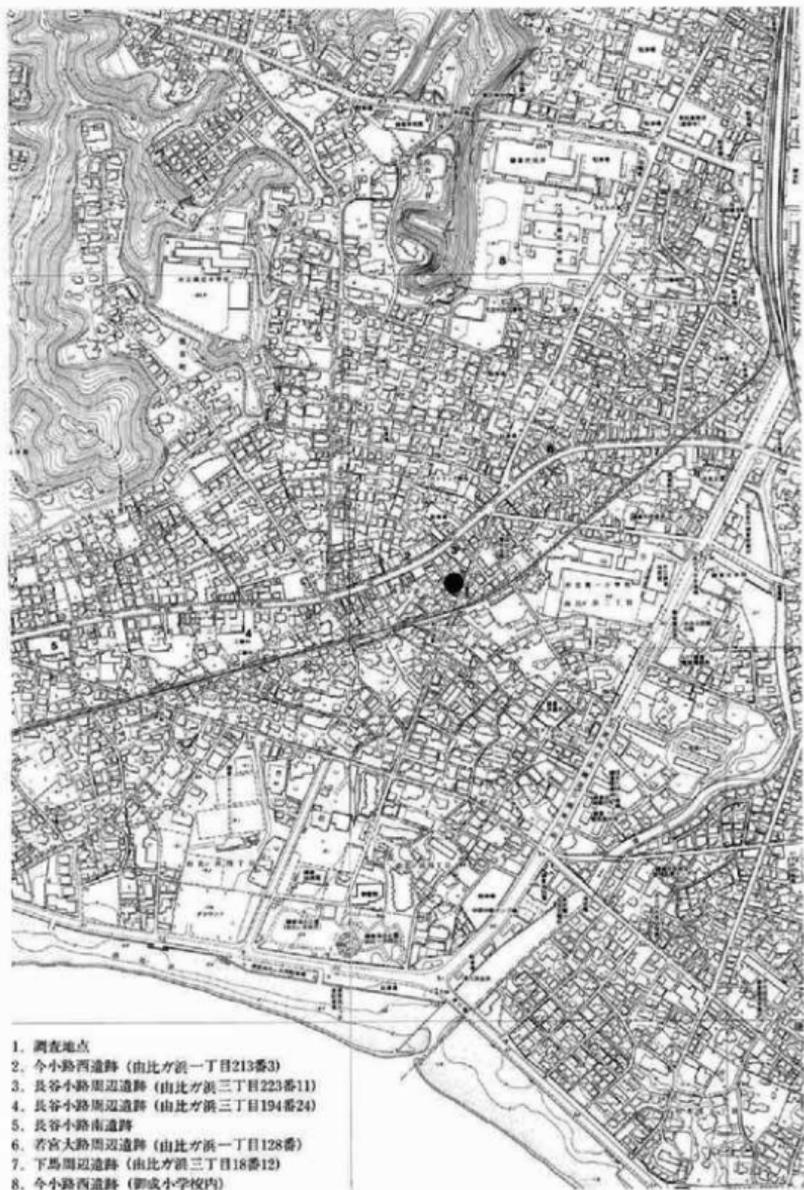


图2 調査地点周辺街道図

1. 調査地点
2. 今小路西邊路 (由比方浜一丁目213番3)
3. 長谷小路周辺道路 (由比方浜三丁目223番11)
4. 長谷小路周辺道路 (由比方浜三丁目194番24)
5. 長谷小路南邊路
6. 若宮大路周辺道路 (由比方浜一丁目128番)
7. 下馬場辺道路 (由比方浜三丁目18番12)
8. 今小路西邊路 (即成小学校内)

## 第2節 調査地点

中世においては長谷小路の南20メートルほどに位置する調査地点であるため、発掘調査にあたっては、長谷小路の軸線を調査の基本に据えるべきであったが、当の長谷小路が調査地点付近において屈曲しているため、認意の測量基点を設けざるをえなかった。調査区内に実測用に設定した方眼も測量基点同様認意のものとし、調査地の南東に面する比較的新しい市道の側道線から設定した。

設定した方眼は2メートル単位とし、南北軸に算用数字を、東西軸にアルファベットを北西隅を基点として付した。方眼各区の名称は北西隅の交差点をもって呼称した。

調査地点の土層堆積は、現地表下60~90センチ下方よりはじまる中世後期の遺物包含層下、海拔高7.5~8メートルに中世前半から後期初頭の生活地業面と、古代における砂丘後背湿地に堆積した粘質砂層が主要な文化層をなしている。粘質砂層下には湿地形成以前の海成白黄色砂層が厚く堆積している。

図4には調査区の南壁の東西方向における土層堆積状況を示した。本土層図の北西方向に長谷小路が位置している。堆積土層は、中世文化層において北西から南西へ向って下がる傾斜をしめし、逆により下層の白質色砂層は南東から北西へ向けて下がる。これらの間に堆積している挿图中の第6層は南東に薄く、北西に厚く認められる。この第6層は先に記した砂丘後背湿地の腐植堆積土である。

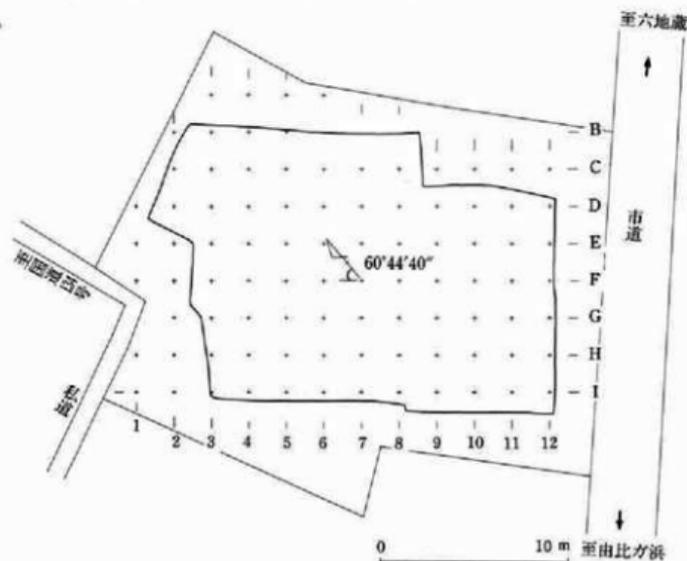


図3 調査区および方眼設定図



図4 調査区南壁東西南方向土層図

遺跡地にみられたこのような堆積状況は、海成の白黄色砂層の堆積、つまり当地における砂丘形成に対応したものと理解できる。すなわち、北西に下がる砂丘後背湿地と調査区より北西ないし西方に位置する砂丘堤の長谷小路との間に調査地が位置し、調査区西外において白黄色砂は高位へと傾斜しているものと考えられる。そうした低地に第6層の湿地堆積土が北西ほど厚く堆積し、中世期になると、より西方の高位にある長谷小路に合せるように、西ほど高くされたと考えられよう。

### 第三章 発見された遺構と遺物

前章までに述べ記してきたように、調査区内に発見された生活面は、実際の発掘調査によって上層より順次発見された順に番号を付している。すなわち、最上層の生活面を1a面としている。しかし報告にあたってはより古い時代より時代を下るように記してゆきたい。それによって調査地点の歴史的推移をより良く理解できるものと思うからである。

#### 第1節 中世以前

中世以前の生活面が認められた地域は、調査区の東側部分のみで、それもやがて北西に向けて下がってゆく軟弱なものとなり、調査区西部には確認できなかった。そうしたしっかりとした生活面を残す部分と軟弱な部分との境に浅い溝が発見された。

溝は上幅75センチ、深さ25センチのゆるいV字状をなす。溝の規模と位置する場所の状況からみて、溝より南東にある生活面を良好に維持するための排水溝と思われる。出土遺物は少なく、細片であるが、土師器の裏がおおよそその年代指標となり、奈良朝期としよう。図6-3は土師器としてあるが、あやしい。

溝の東側にあたる高位の生活面上および包含層から、多くの遺物が出土している。ただほとんど

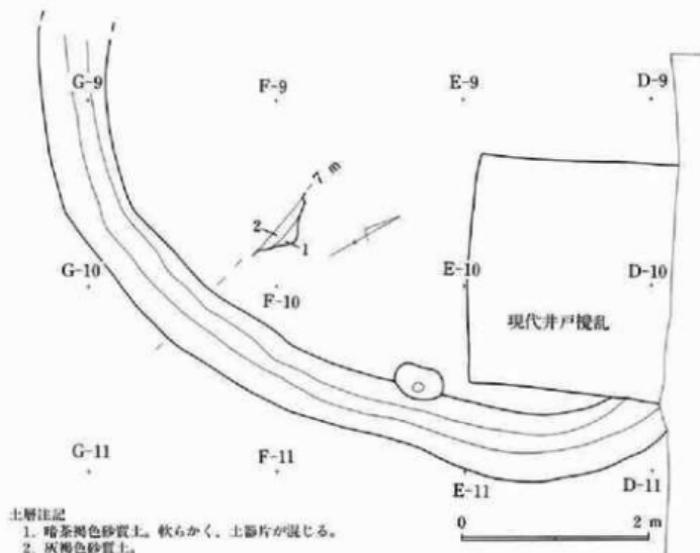


図5 古代層発見遺構

が細片であり、図に示した実測図は全て復元口径である。図6の下段に須恵器を、図7に土師器をおおかの年代観と器種別に掲載した。

須恵器では蓋受けの付く坏を指標とする7世紀前半以降8世紀代を中心とし、底部糸切りで断面箱形をなす坏を指標とする10世紀代平安朝期までの器型がみられる。

他方、土師器では古墳時代初期の五領期の壺・甕が最も古い時期に属するものである。周辺の遺跡においてもやはり五領期の台付甕を最古の出土物としており、本遺跡もそれと同様の様相を示すものと考えられる。ほかには、やはり須恵器と同じく8世紀代を中心として10世紀代までの年代を与えうる。

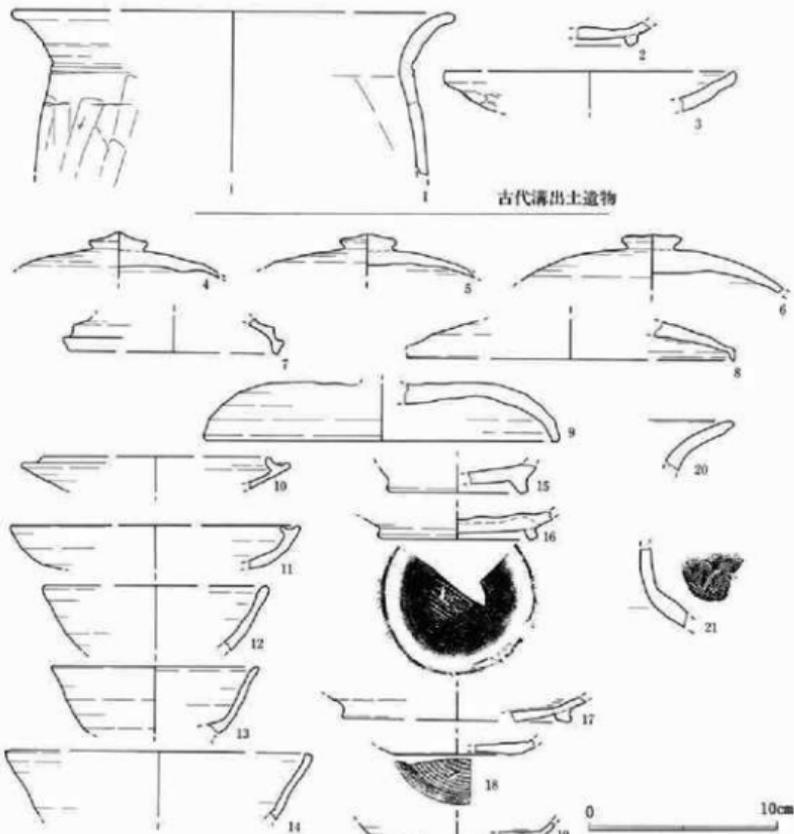


図6 古代溝、古代層出土遺物(1)

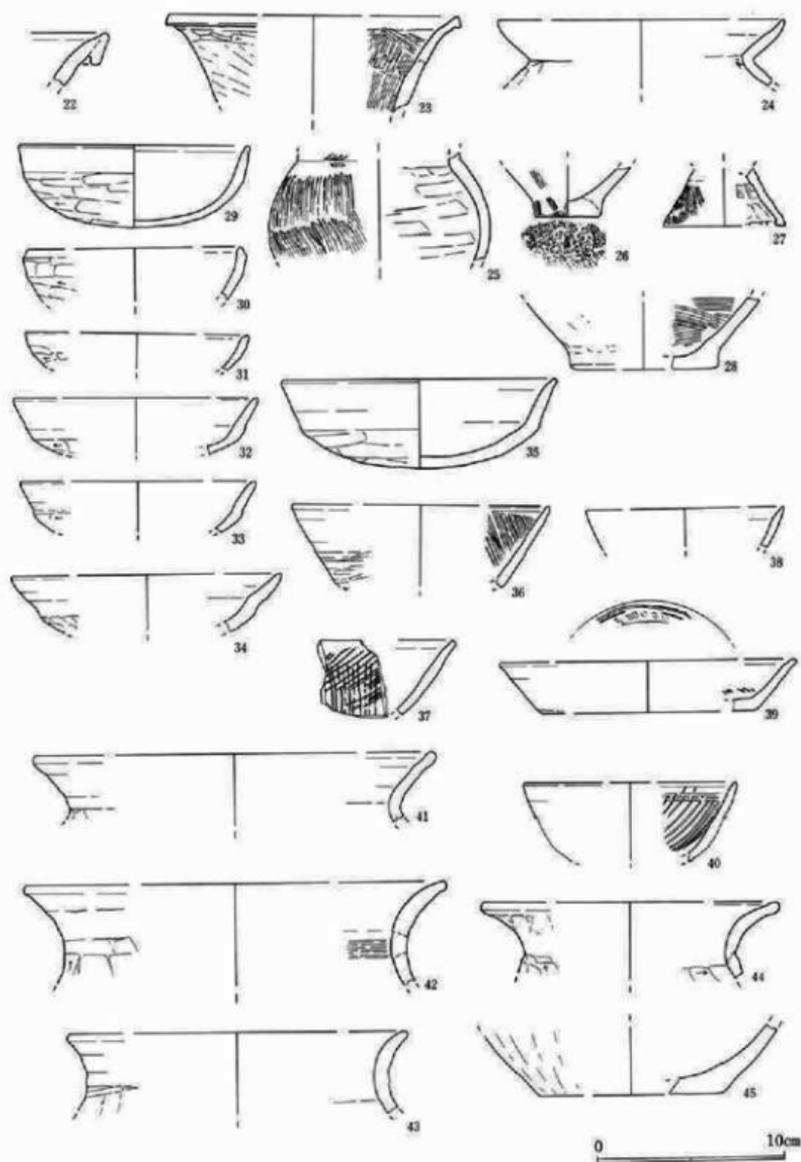


图7 古代层出土遗物(2)

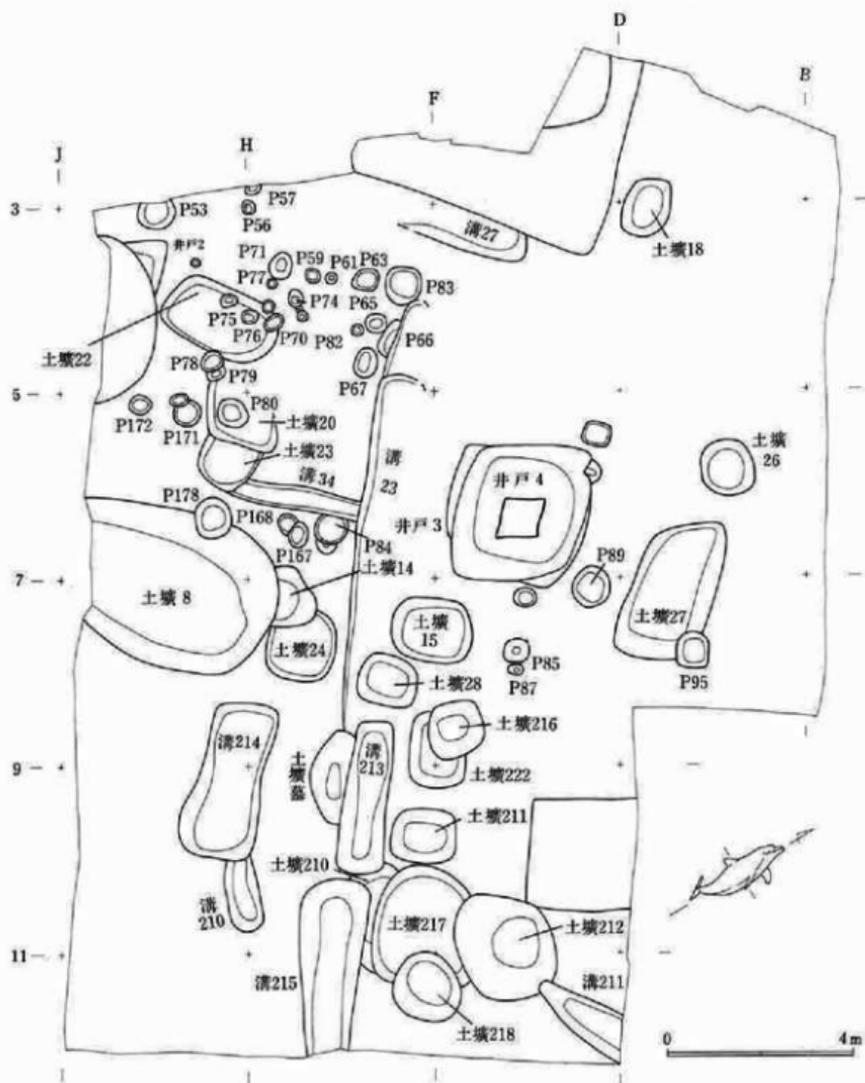


图 8 2面全体图



## 第2節 中世

中世に帰属する生活面は3枚発見され、下層より第2面、第1b面、第1a面が、ほぼ調査区の全域にわたって確認できた。ただし、第1a面のみは、調査区の東側において不明瞭となり、第1b面の上にわずかに遺物包含層が載るのみになってしまう。これはすでに前章の土層説明にて記したように、調査区内の中世生活面が西方の長谷小路に合わせて地築されていたことに起因するもので、本遺跡の最新の生活相は長谷小路より近い地域のみにして営まれたことを示している。第1a面の時代に鎌倉の長谷小路以南の街並の縮小を意味しているのであろう。

さて、このような調査地に発見された中世の遺構の中で溝の多さが目立つ。溝は10メートルを超えるような長大なものはなく、大方は2、3メートルの短いもので、形状からは細長い土塹とも見える。しかしながら、多くの溝はそれぞれに直交方向にその軸線を持ち、その掘られる地点もある程度に限定され、何度も同じ所に掘り返されている。このような溝は、互いに連結はしていないものの、ある区画の地境をなしていることを、遺構の全体的配置をみることで理解できる。

短い溝で区画された地域は、第2面から第1a面を通じて基本的には5ブロックを認めることができる。各ブロックは時間を経ることによって変遷をみせ、第1b、第1a面では破砕泥岩の版築の道路遺構により、区画割りが明瞭なものとなる。

### 第2面

中世最下面である。区画はI～IVに分けられるが、I区はII区をも包括する敷地内の小区であると思われる。またIII区とIV区も同様に同一敷地内の小区の可能性を残すが、大型の土塹8が両地を分断するように位置し、これほどの大きな土塹を敷地の中央付近に掘るものか疑わしく、その脇にある溝34をもって地境とした。

IV区西方とI区の南西に位置する溝27は、IV区とI区を区切るものと思われたが、現地調査において、より南西へ向けた延長を明瞭につかむことはできなかった。

以下、区画ごとに詳述する。

#### I区

I区は、溝23・213・215で区画された調査区の北半分を占める。溝211は他の溝と方位が異なるものの、一時的にI区の東を限っていた可能性がある。このI区は全時期を通して最大の敷地を有するが、造られた遺構は調査区の中央あたりから東部に多くが位置する。

地境溝脇、区画の南東部には矩形をなす土塹が一定の距離をおいて東西に並ぶ(土塹15・222・211・218)。これらの土塹群のラインはビット85と95のラインと直角に交わるが、後述するように土塹群の性格は敷地隅に掘られたゴミ穴と理解できる。他方、土塹群の西には同位置に2度にわたる井戸(3、4)が掘られ、このあたりから遺構は減少する。さきのビット85・95と土塹15は、土塹群のある地域と井戸址のある地域とを小区分する目かくしかもしれない。

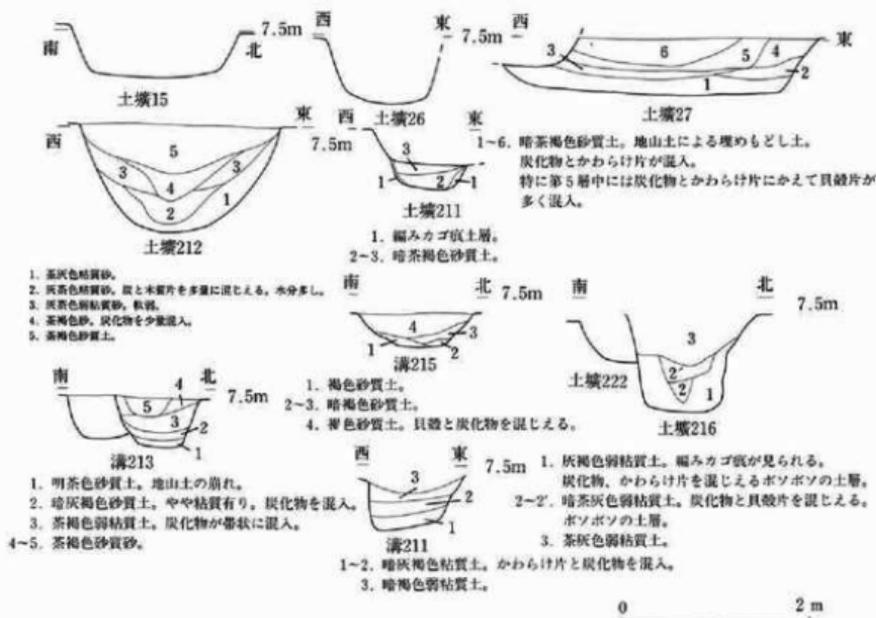


図10 2面1区 土壌と溝の土層図

## 井戸

1区中央付近に発見された井戸址は、同一地点における掘り直しによる2基がある。井戸3号と4号である。両井戸址の新旧関係は、3号が古く、その掘り直しが4号で新しい。井戸址の発見は、後述される第1b面の溝18の調査時に、溝の底面と東の立ち上がり部分にて3号井戸が最初に確認された。その後の調査の進展にともない、4号井戸を確認した。

図11に掲げた土層に3号と4号井戸の切り合い関係と覆土堆積を示した。調査では地下水の上昇によって、最下層まで掘りあげることができなかったが、3号井戸覆土中にみられる炭層は、3号井戸址使用中になんらかの火災による埋没を示している。4号井戸は3号井戸の更新をはかって、同一地点にやや掘り方の位置をずらして掘り直している。

4号井戸は、一辺2メートル80センチの矩形の掘り方をもつ。確認しえた深さは1メートル80センチである。井戸枠は掘り方のやや東より中央付近に位置する横伐支柱型の木枠である。側板は幅30センチ強の板を一辺に3枚並べて、内側にしっくい痕跡が薄く認められた。

3号井戸はその掘り方が部分的に調査されただけであるが、その規模は4号よりやや小ぶりであったと思われる。発見された掘り方上幅からの推定で、一辺2メートル20センチの不整形をなしていたと思われる。この掘り方北東部の覆土上層からは、手づくねのかわらけがまとまって多数出土している。井戸開削にともなう儀礼に用いられたものであろう(図13-65-102)。

両井戸址出土のかわらけと青磁碗の型式差は13世紀中頃以降の変遷を示す好資料である。

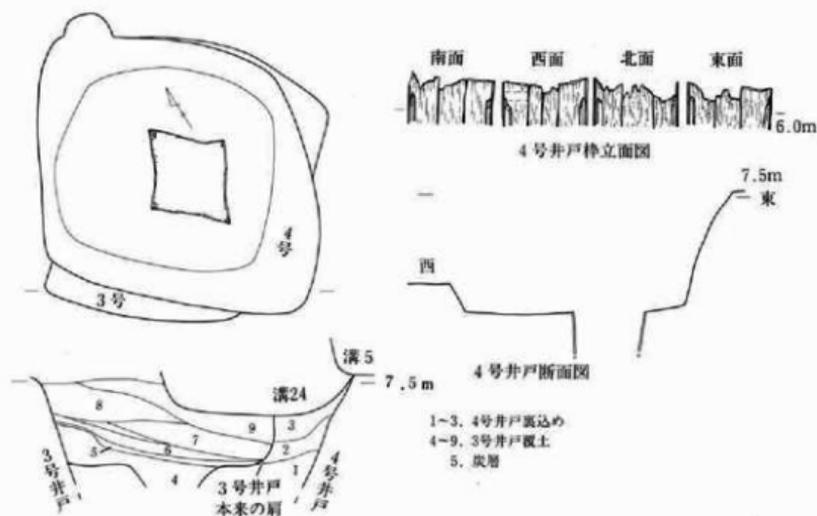


図11 2面1区井戸3・4

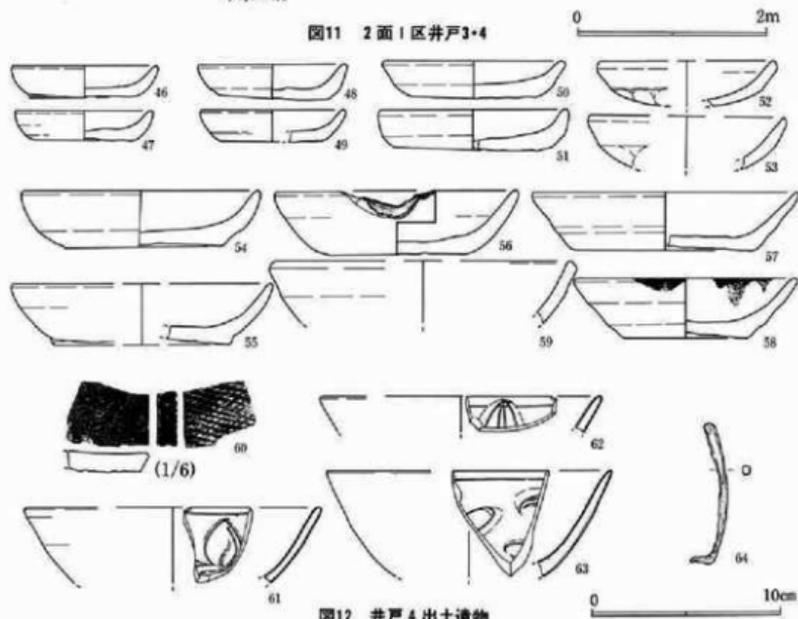


図12 井戸4 出土遺物

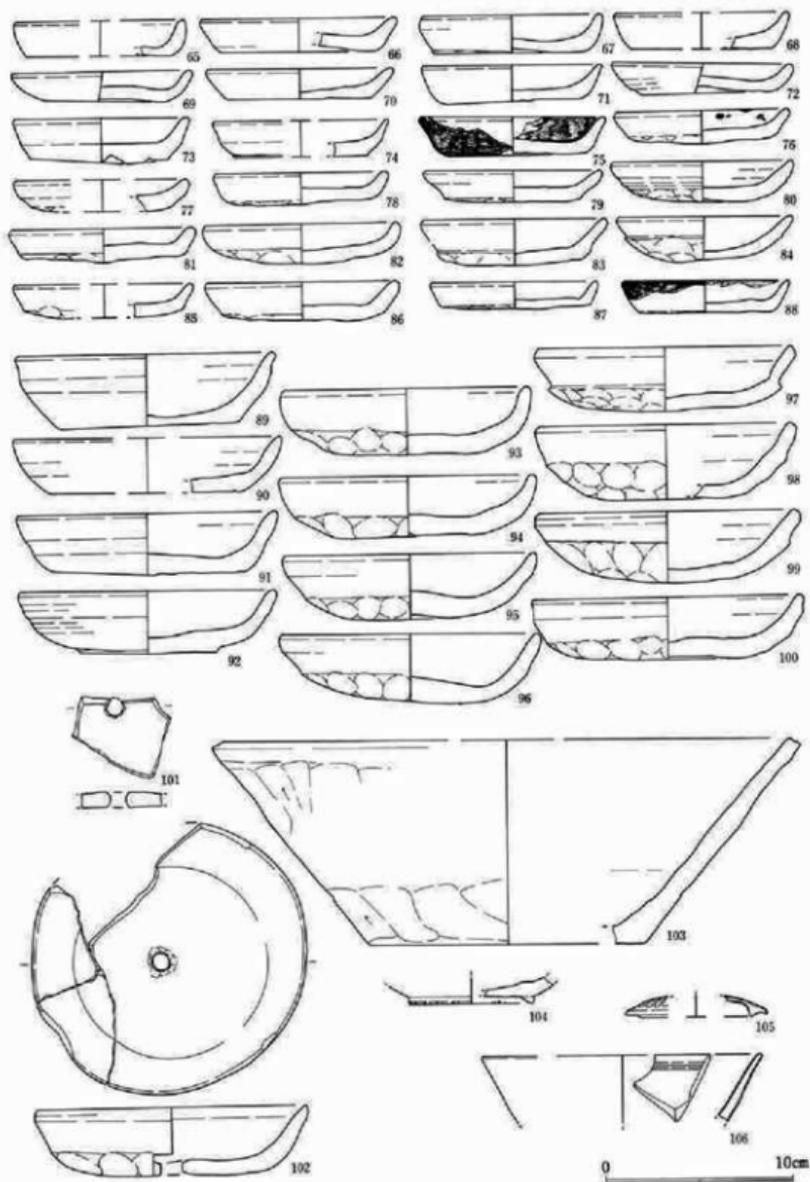


图13 井戸3出土遺物

## 土壌28

隅丸方形を呈する深さ80センチ、一辺110センチ内外の土壌。本土壌の覆土堆積状態はやや特殊で、覆土中に遺された遺物の出土状況は注目される。

土壌覆土掘り上げにおいて、まずアンペラ様の編みものが丸く発見されはじめ、慎重に調査を進めるに従い、編みものの上に獣骨片とかわらけが乗るように出土した。さらに調査を進めると同様に丸い編みものが下層より再び発見された(図14土層図中第7・6層)。編みものの径はほぼ100センチを測る。これらの編みものの土壌内に置かれた状況を土壌断面図にみると、土壌中央に順次積み重ねられるように堆積し、編みもの腐食過程において、土壌の壁が崩れゆく中で、編みものが土壌覆土中に浮ぶように位置することとなった。

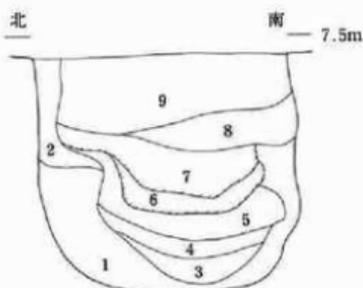
本土壌に見られた編みものと獣骨、かわらけの出土状況は、編みもの籠に入れたゴミを土壌に捨てたことを示している。



図14 土壌28出土遺物



図15 2面I区土壌28



1. 茶褐色粘質土。腐食物を若干含む。
2. 暗茶褐色粘質土。炭化物を少量混じえる。
3. 暗茶灰色弱粘質土。混入物なし。
4. 茶灰色砂質土。混入物なし。
5. 暗茶灰色弱粘質土。炭化物を混じえる。
- 6-7. 茶灰色弱粘質土。炭化物を混じえる。7層には泥炭地。
- 8-9. 茶褐色粘質土。



土坑218

本土坑もアンペラ様の編みものが遺るものである。円形に近い一辺90センチの隅丸方形、深さ68センチを測る。

編みものは、土坑覆土最上層に、やはり丸く発見された。しかし、土坑の発見された位置が、調査区内で最も生活面海拔高の低い調査区東端であったがため、地下水の湧水が多く、精査を行うそばから土が流れてしまい、良好な状態で編みものと出土遺物の関係を把握できなかった。

また、編みものの確認は覆土最上層だけであるが、土層断面においてはより下層覆土が粘質土系であり炭化物も多く混じえることから、下層にも編みものが投げ込まれていたかもしれない。

出土遺物は、編みもの籠との関係は不明ながらやはりかわらけを多く出土している。



図16 2面 | 区土坑218

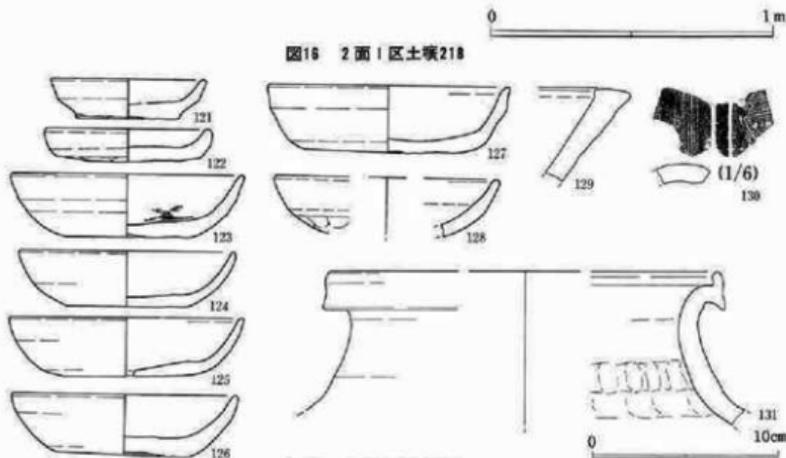


図17 土坑218出土遺物

## 土壌18

I区西端近くに発見された本土壌にもアンペラ様編み籠が確認され、多数のかわらけが出土した。

1×1.2メートルの矩形に、深さ75センチを測る。編み籠は最下層に発見されたが、近辺にある現代井戸攪乱からの湧水が激しく、明瞭な確認はできなかった。編み籠の上面とその付近からかわらけが折り重るように出土した。また覆土を水選



1. 暗黒褐色粘質土、かわらけを混入
2. 黒褐色粘質土、編み籠の破片、かわらけ片と炭化物を多く混入
3. 暗褐色粘質土
- 4-6. 暗褐色砂質土
7. 暗褐色粘質土

図18 2面I区土壌18

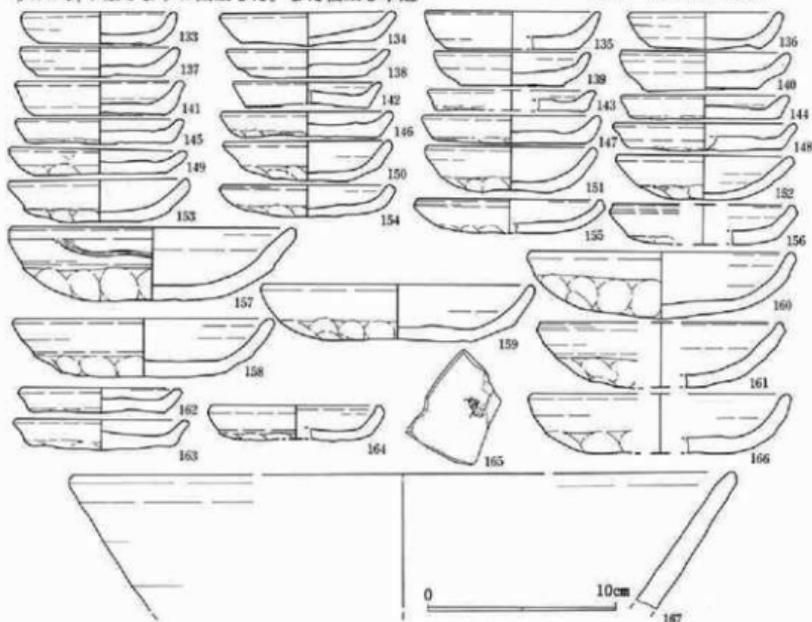


図19 土壌18出土遺物

別したところ、鯛の頭耳骨・主刺鯿骨、タイとマグロの歯骨、炭化米、種子等が検出された。

出土したかわらけは小型に糸切り底が9点ある他は手づくねにより、大型と小型の構成である。糸切りは底径口径比が小さく浅い。手づくねでは口縁から口唇のぼってりとした厚手がなく、底部とヨコナゲ部の境に強い屈曲を持たずに口縁が開く。手づくねのなかでも小型は丸底のものと平底ふうのものとがあり、前者の口縁は外反し、後者は内湾ぎみに立ち上がって口唇がつままれたように立つ。162-166は編み籠痕の発見された第2層から出土。両タイプの小皿が出ている。

## 溝213

I区とIII区の地境をなす溝。長さ3メートル25センチ、幅93センチ、深さ53センチを測る。断面

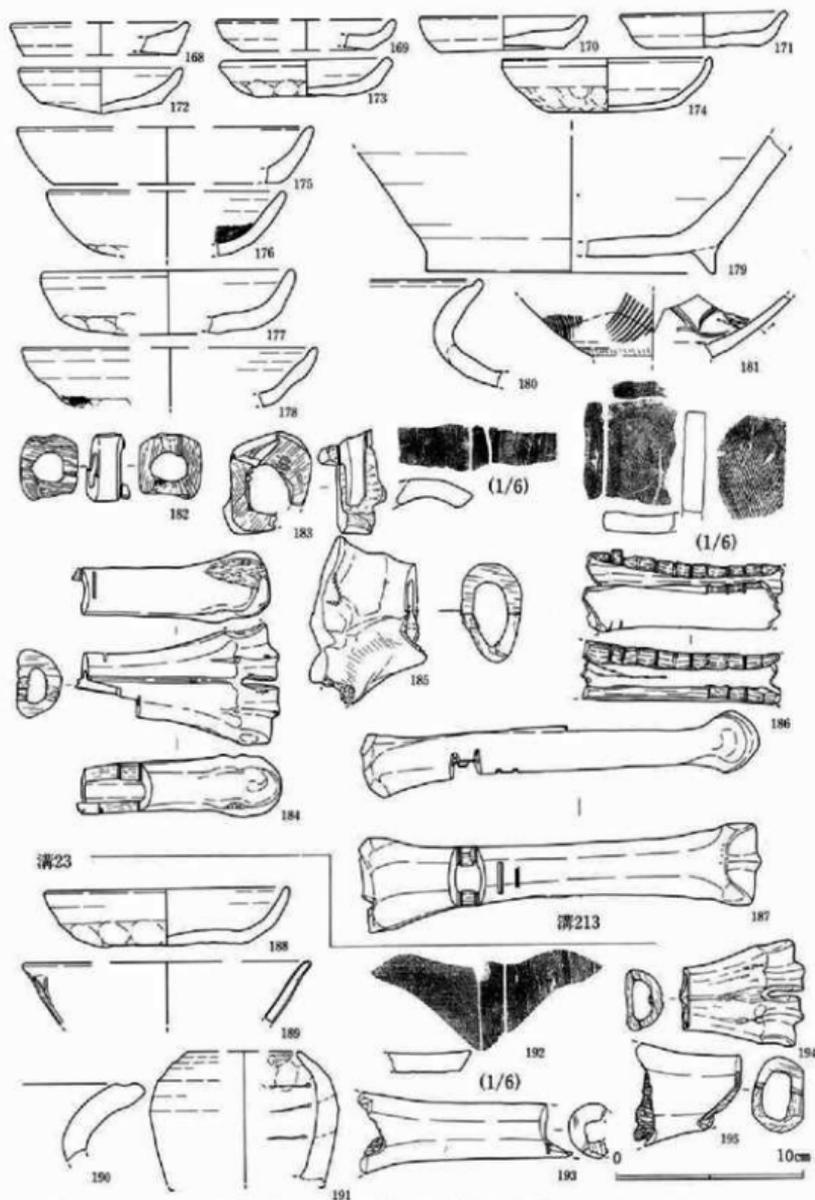


图20 2面1区遗物(清213·23)出土遗物(1)

箱形を呈し、底面は平坦。壁面崩落土上に粘性の砂質土が堆積している。覆土内からの出土遺物が多い。かわらけは糸切り底と手づくねの両者が出土し、手づくねがやや多い。174は白かわらけ。180の渥美の甕と181の青磁梅摺文碗がかわらけとともに13世紀中頃の年代指標となる。182～187はウシとウマの四肢骨から骨細工の原材を切り出した残片である。後に掲げる分類表を参照されたい。

#### 溝23

I区とIII区の地境をなす溝。長さ8メートル以上、幅1メートル弱を測るが、北側の立ち上がりは上層遺構の掘り込みで壊されている。底面は平坦。本遺構からの出土遺物は遺構の規模からして少なめである。190の渥美の甕と191の常滑の無頸広口壺が注意される。加工獣骨がやはり出土している。

#### 溝211

第2面に発見された溝のなかで、他の溝と直交、平行関係をもたない唯一の溝である。調査区の北東隅に一部だけが発見された。最大幅95センチ、深さ50センチを測る。糸切りかわらけが一点のみ出土している。

#### 溝215

I区とIII区の地境溝である。調査区東外へと延びている。最大幅1メートル45センチ、深さ35センチを測る。底面は平坦。溝213・23と同じ軸方位を持つ。溝213との間は15センチほどを空けている。出土した遺物は、かわらけ、加工獣骨と瓦。かわらけは糸切り底と手づくねがあり、手づくねはいずれも口唇が細く立ち上がる。

#### 土壌27

井戸趾の北に位置している。1.8×3メートルの不整矩形を呈し、深さ58センチを測る。覆土は上層に貝殻片を多数含むほかには目立った混入物はなく、中世期地山土を主体とする。井戸趾と何らかの関係があるのだろうか。用途不明。出土遺物には、かわらけ、瓦、常滑片口鉢、同安甕系青磁皿、軽石と加工獣骨がある。

#### 土壌15

1.8×1.35メートルの長方形、深さ45センチを測る。底面は平地で、ゴミ穴とは思われないが用途不明である。後述のビット95・86や土壌216・211との関連もみあたらない。出土した遺物には工芸細工関係のものがある。224と225は碗製作のために切り落とされた碗石断片、226は加工獣骨、223は軽石。

#### 土壌210

他の遺構に切られ、ほとんどその形状を残していない。出土した遺物には、かわらけ、土鍾と加工獣骨がある。かわらけは、手づくねに稜線がなく丸く内湾ぎみに立ち上がり、糸切りは平たく開く。第2面遺構のなかでも新しい相様を示す。

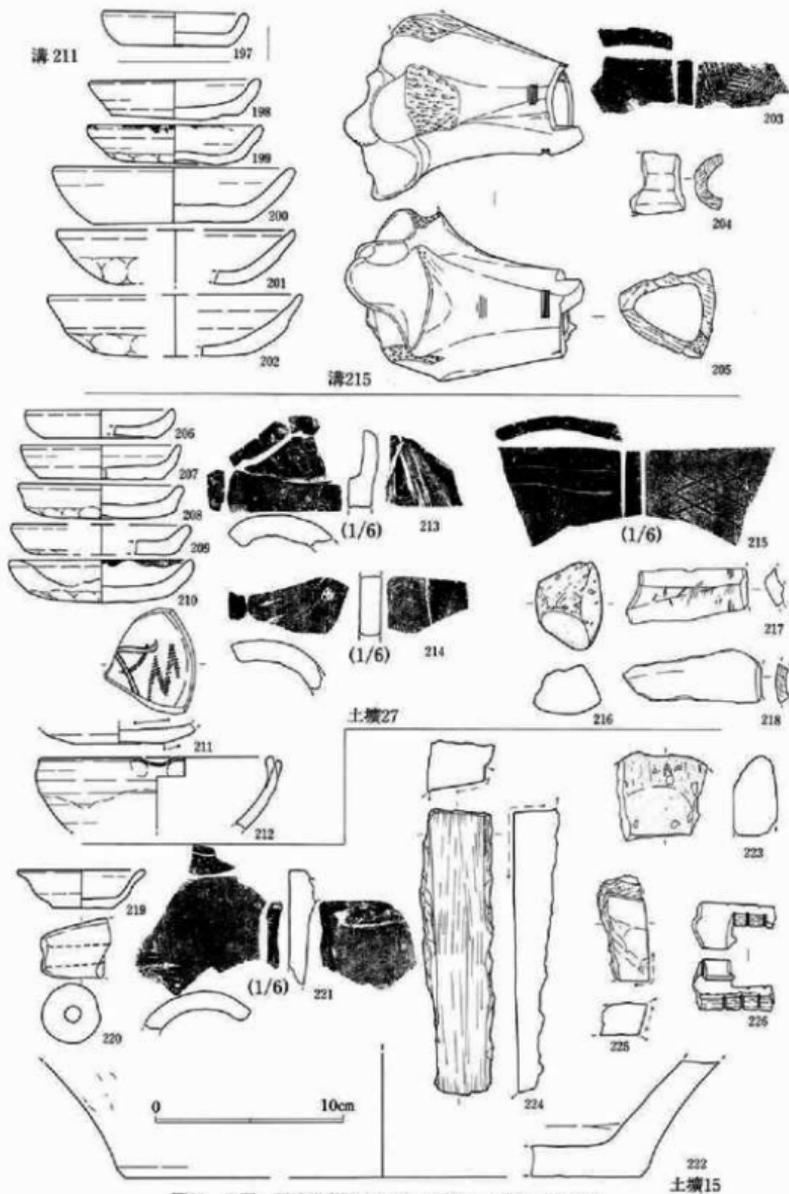


图21 2面I区遺構(溝211・215、土壤27・15)出土遺物(2)

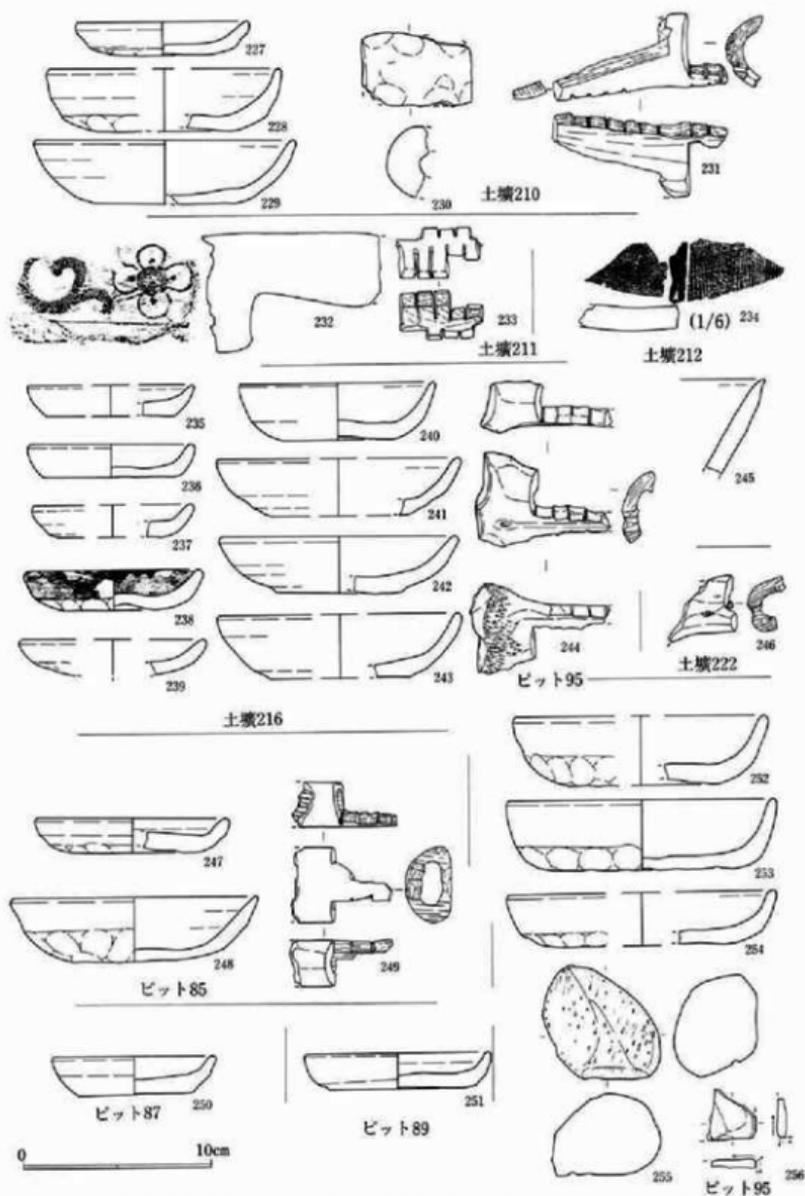


図22 2面I区遺構(土壙210・211・212・216・222、ビット85・87・89・85)出土遺物(3)

### 土壌211

1.4×1.25メートルの長方形を呈し、深さ65センチを測る、編み籠の痕跡を残す土壌である。編み籠の痕跡は土壌底面の立ち上がりの壁面に造っていた。土壌底面径いっばいの大きさの籠であったのだろう。遺構の大半が上層遺構に壊されていたため、覆土中よりの出土遺物は少ないものの、蓮花文瓦頭軒平瓦が出土している。文様の彫は深く、永福寺址創建瓦に同様のものがみられる。後述されるように本遺跡地から出土する瓦の量と質が注目される。

### 土壌212

直径2.2メートルの不整円形、深さ1メートル25センチの断面すり鉢状を呈する。覆土は中世地山土および基盤層の砂で充填され、遺物も少ない。素掘りの水溜めか何かだろうか。

### 土壌216

一辺1メートルの隅丸方形を呈し、深さ1メートル5センチを測る。底面から壁面下部に編み籠の痕跡を造している。編み籠の痕跡が造る覆土の下半は炭化物とかわらけを混入したボソボソの土質であり、編み籠ごととかわらけなどが土壌に投げ捨てられたと考えられる。出土遺物は、かわらけの他に東海系の暗灰色胎土のこね鉢と加工獣骨がある。かわらけは、大型品に底径口径比が大きく、体部の浅く開く糸切り底があり、加えてやや小振りのものも現れている。13世紀の後葉の感觸がみられる。

### 土壌222

1.6×1.3メートルの長方形を呈し、深さ45センチを測る。土壌16に切られるため、覆土の多くが失われている。加工獣骨が一点のみ出土した。

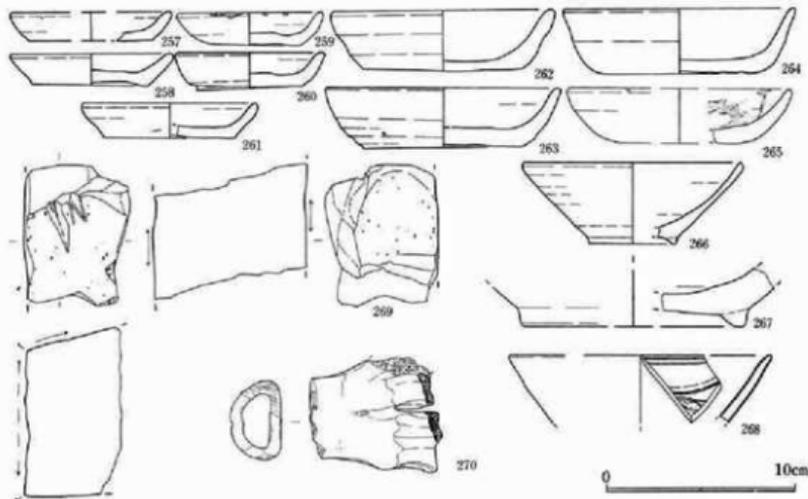


図23 2面上1区出土遺物

## ピット

I区の中央から西側にピットが数口遺存している。それぞれに明瞭な並びは認められないが、土壌の多数残る東部と遺構の少ない西部との間にあるところが気にかかる一方、井戸との関連も想定しえるが、疑問の残るところである。

### I区面上出土遺物

生活面直上より出土した遺物である。257～265はかわらけ、266は北部系山茶碗、267は南部系暗灰色こね鉢、267は常滑甕、268は劃花文青磁、269は天草地方産凝灰岩砥石、270はウシ中手骨擦り切残片。

かわらけは糸切り底づくりのみ。器高が低く、底径口径比の小さなぼつりとしたつくり。

常滑甕の口縁は、つまみ上げて縁帯作りの傾向を少し示す。

### III区

III区は、I区東部の南に位置するが、その西の限界についてやや問題が残る。すでに本節の冒頭に記したように大型土壌である土壌8を地境とするには不自然であり、また土壌8に連なるように土壌14と24が存在する。I区でみたように地境溝、すなわち敷地境界脇にゴミ捨て土壌が連続して掘られていたことを思い起せば、III区においても南北に連なる土壌群の脇に地境を想定しえるだろう。すなわち、溝34を地境溝としえる。

しかし、次にみるIII区北方のIV区とした地域に多く造るピット群の配置を辿うならば土壌8のすぐ脇にまでIV区が広がると考えられる。そうであるならば、III区とIV区の地境は、東西に連なる土壌群のあたりと考えなくてはならなくなる。

こうした矛盾を内包した区画分割であるが、上層遺構面との対比をふまえて、とりあえず溝34と土壌群との間でゆれ動いていたものとして以下を記すこととする。

### 溝214

長さ3.4メートル、最大幅1メートル65センチ、深さ60センチを測る。底面は平坦である。長軸方位は、I区との地境溝である溝213と同一であり、溝214も地境としての機能を有していたと考えられる。遺構覆土も他の土壌にみられるようなゴミ捨て穴とは異なり、溝の壁体をなす中世地山土の崩れが主体となっている。後述の溝210とともに溝214はIII区の北部地境として、溝213との間は通路としての空地と考えられる。

溝壁体の茶褐色砂質土が崩れ落ちて溝底面に堆積した覆土最下層の上に乗る土層は、第2面の中世地山土をもって溝をほぼ埋めつくしているが、この層中からは多量の遺物が出土している。そのなかでも、擦り切りで骨細工用材を切り取られた加工獣骨の数の多さが注目される。

269～279はかわらけ。糸切り底と手づくねが混在し、その型式はI区遺構出土、特に4号井戸の組み合わせに近い。279は焼成後に内面に釘掻状で青磁の蓮弁文に似た文様が刻まれている。この時期には内面に蓮弁文を刻んだ青磁の鉢が搬入されていたことを示す資料であろう。

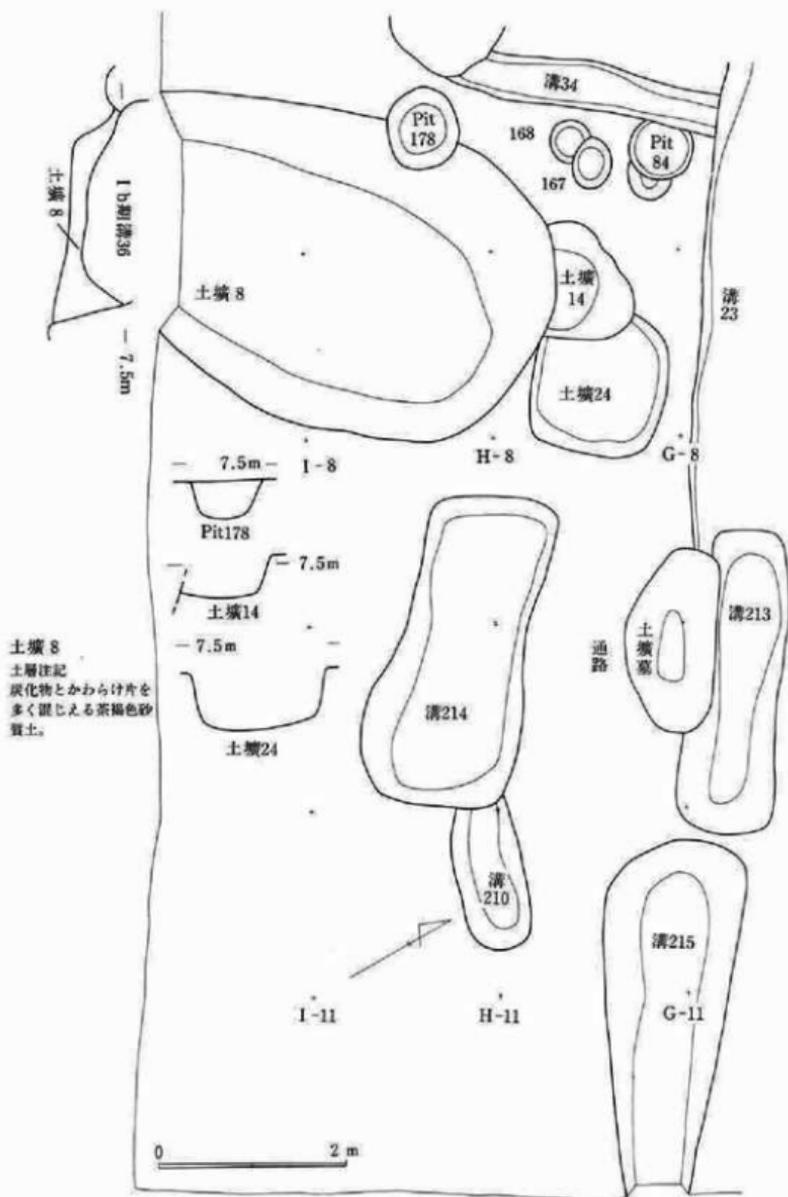


図24 2面Ⅲ区



図25 2面田区溝214

280は青磁劃花文碗。281~283はこね鉢。283は284の麗美の妻と同じ胎土である。

285~290は瓦。289と290は東海系の平瓦。

291~329は加工獣骨残片。

以上のほかに、加工獣骨とともに多量の獣骨も出土している。部位とその用いられ方を、また加工痕の遺る骨片の観察からは加工法と目的を探ることができる。出土骨分類の詳細は後掲の表に譲り、以下数値的比較を省き説明を加える。

出土した獣骨はウシとウマがほとんどで、特に

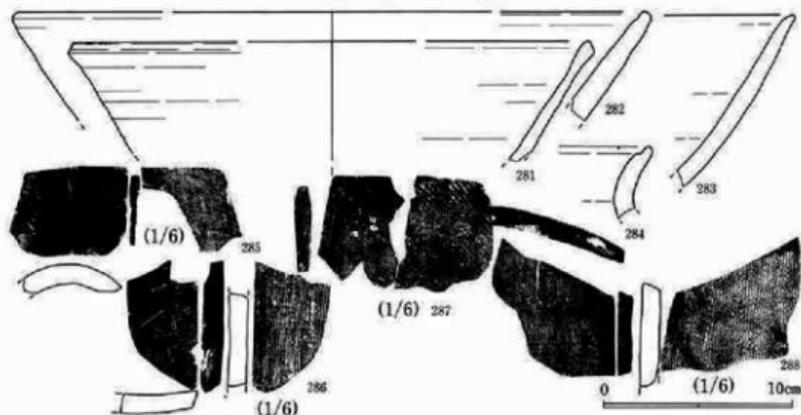


図26 溝214出土遺物(1)

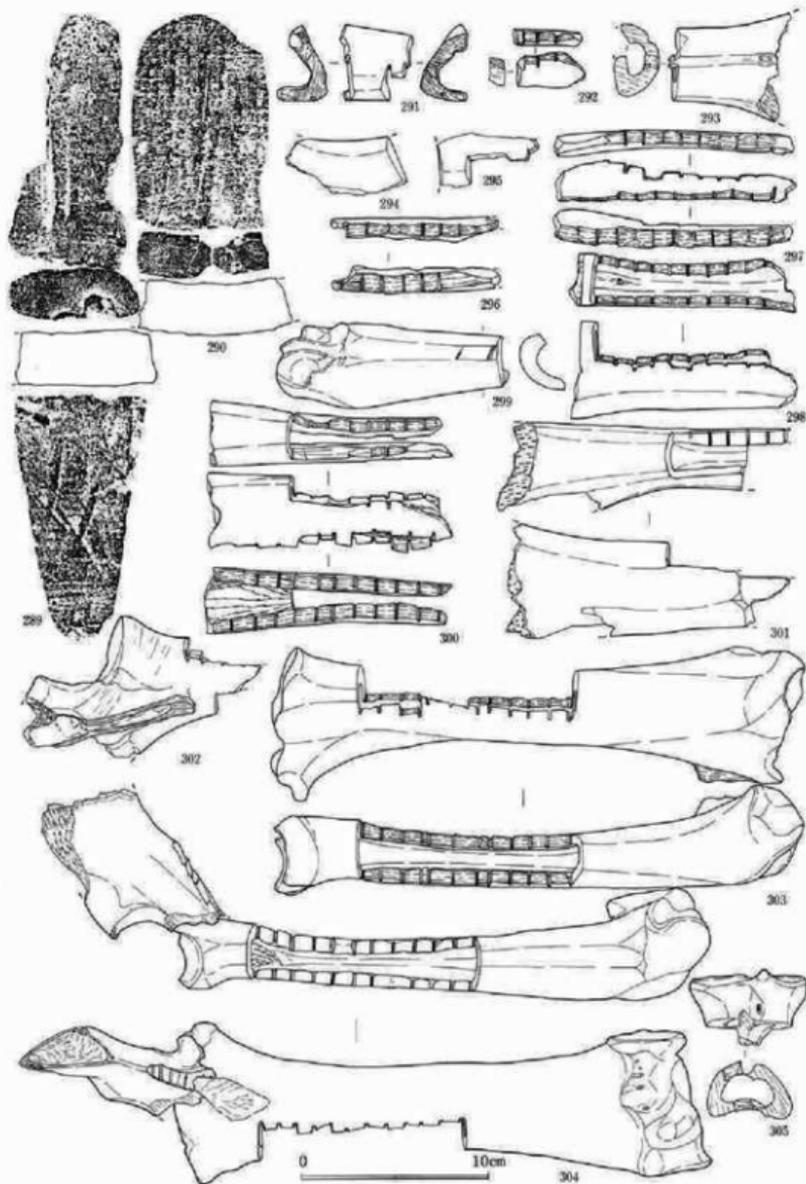


图27 冢214出土遺物(2)

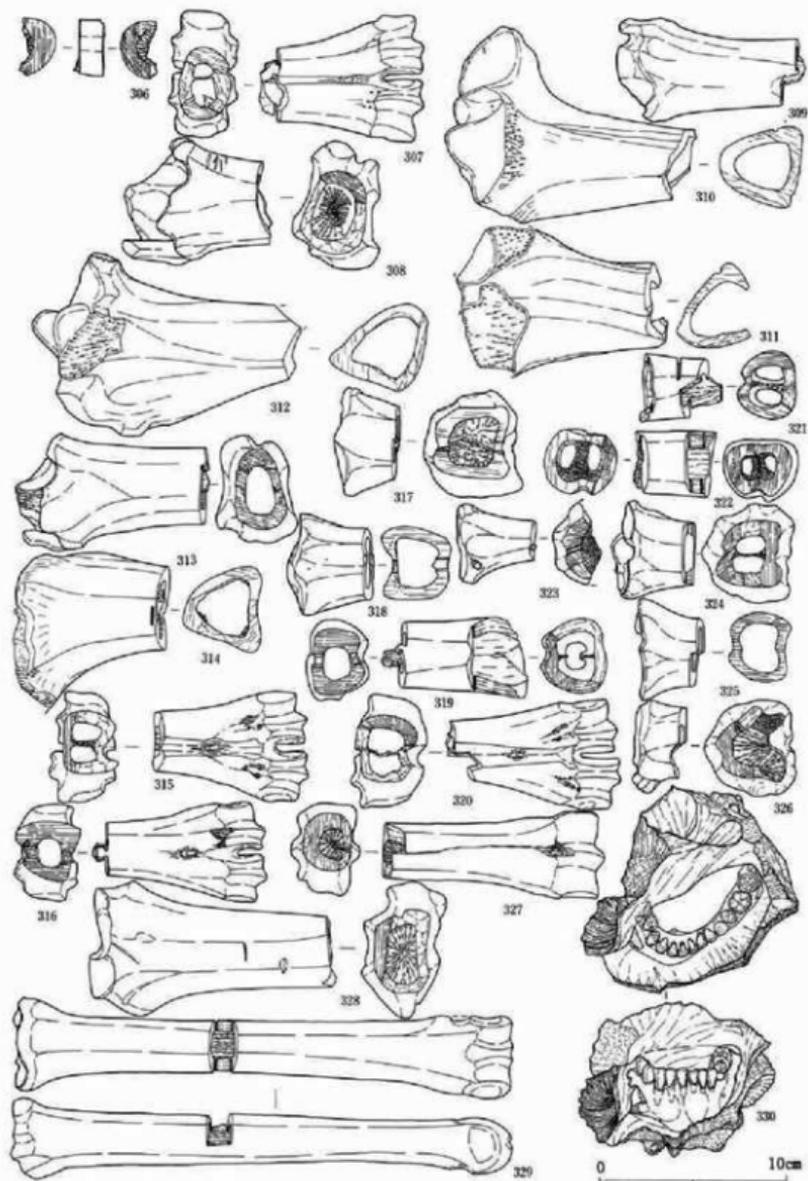


图28 溝214出土遺物(3)

ウシが多い。部位には中手・足骨が多用されている。中手・足骨は先史以来普及品の用材に使用されてきたが本例では骨材を縦でなく横に使い、306のような半円形の製品を得るために比較的直径の均一な骨を要した。半円形製品はおそらく刀装具である粟形に供したと考えられる。骨製粟形はこれまで長谷小路南遺跡で鯨類顎骨から作られることが知られているが、その粟形と今回出土の粟形は形状が異なる<sup>註1)</sup>。半円形の製品を得るには、骨材に一定の間隔で切り込みを入れた後に、ノミ状工具で削り取る方法を用いている。ただし、ウシとウマの骨では製品の取得法が異なる。偶蹄のウシの中手・足骨はやや扁平で8の字状の断面形をなすために両側から少し扁平な半円形製品を切り取る。他方單蹄類のウマの中手・足骨は断面が円に近似するために、良品を片方のみから切り取る。また、鯨類顎骨を使用した粟形は本遺構から出土しなかったが、後述の上層生活面から側縁が削り取られたイルカの上顎骨が出土している。

溝底からは人骨も出土した。人骨はアカシシの殺口に下顎骨だけをはめこんだもので、殺口のサイズに合わせるように両端を削った後に、さし込まれてしっかりと固定される<sup>註2)</sup>。

註1. 金子浩昌氏はイルカ顎骨の骨材利用をすてに指摘している。1988「中世遺跡における動物遺体—鎌倉市内遺跡の調査例を中心として—」『鎌木義昌先生古稀記念論文集』頁407—430。

註2. 宗茶富貴子 1992「長谷小路周辺(和田塚二階堂邸)遺跡出土の人骨について」『鎌倉考古』No.23頁4—6。

## 土壌墓

I区とIII区間の空間地に、溝213を切って造られる。東西長軸1メートル63センチ、南北短軸80センチ、深さ25センチの上面形に、東西2メートル48センチ、東西60センチの平坦な長方形底面をもつ。土壌内中央やや西よりにヒト頭骨が発見された。頭骨は下顎骨を除く前頭から頭頂、後頭骨の頭骨全体を遺しているが、地下水の湧水によるいたみがひどい。出土状況は底面にやや上向きに据え置かれたように位置しており、他に頭骨以下の人骨はみられなかった。また人頭骨を覆う覆土は、下層が第2面地山土。土層が同様の土に炭化物を混じえたものである。これらの状況からして、本土壌は人頭骨を意図的に埋置した土壌墓であると判断した。

土壌墓内からの他の遺物はなく、溝213との切り合いで、数点のかわらけ片が出土したが、明瞭な副葬品は確認されなかった。

## 溝210

溝214の東に位置し、切られる不整形な溝である。本溝も溝214とともに地境の機能をもっていたであろう。底面は平坦。やはり加工断片が出土している。

## 土壌 8



図29 2面III区土壌墓

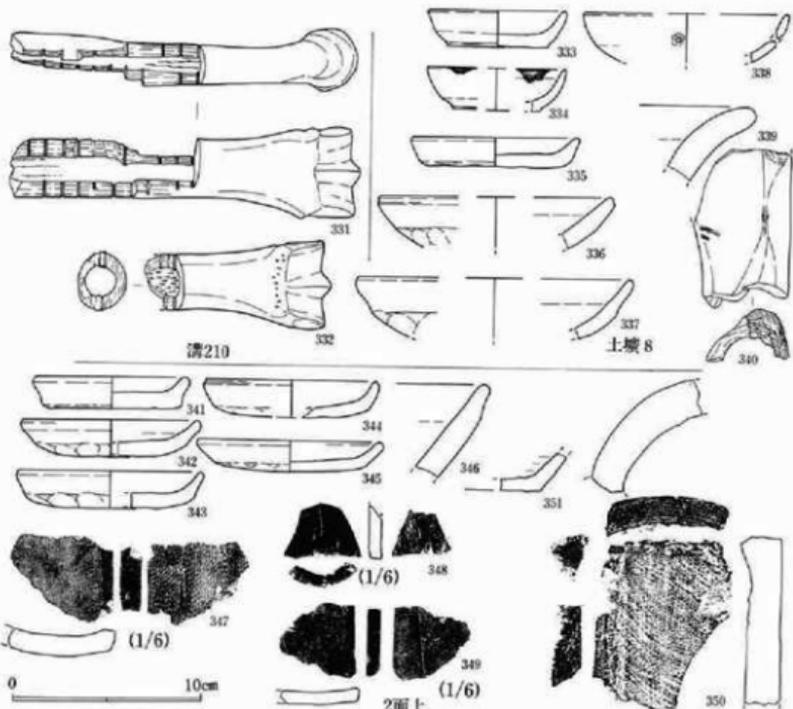


図30 2面田区遺構(溝210、土層8)面上 出土遺物

調査区南外へと拉がっており、全体の2/3ほどと思われる範囲を調査した。南北長4メートル以上、南北最大幅3.4メートル、深さ50センチ以上を測る。上面を1b面遺構に切られ、深さは不詳。底面は南東へ下る。

出土遺物のかわけには、丸深型の小型に内湾する手づくねがあり、これにともなって渾美の裏口縁が出土している。

#### IV区

調査区の南西部。溝23・27・34に三方を囲まれた区画である。南へはさらに拉がる。また東の境は前述のように溝34より東に広がる小時期もあったと考えられる。

IV区内には他の区画のように地境付近に土層が深く掘られた様子はなく、区画内にある土層は平面形が大きくても浅いものでゴミ捨て穴ではないようである。一方、IV区の特徴は多くのピットが造られ、それらが東西に並んでいることであろう。一部では「L」字状に曲がる並びもある。各ピットの規模とその並びや配置からして、これらのピット群は区画内敷地の目隠し堀であろう。ピット71～63～67の北西隅の「L」字の並びは、溝27と23に限られたIV区の西と北の敷地を画すものである。また172～80、178～165は東側の敷地を画すもので、IV区とIII区の地境の移動を示している。

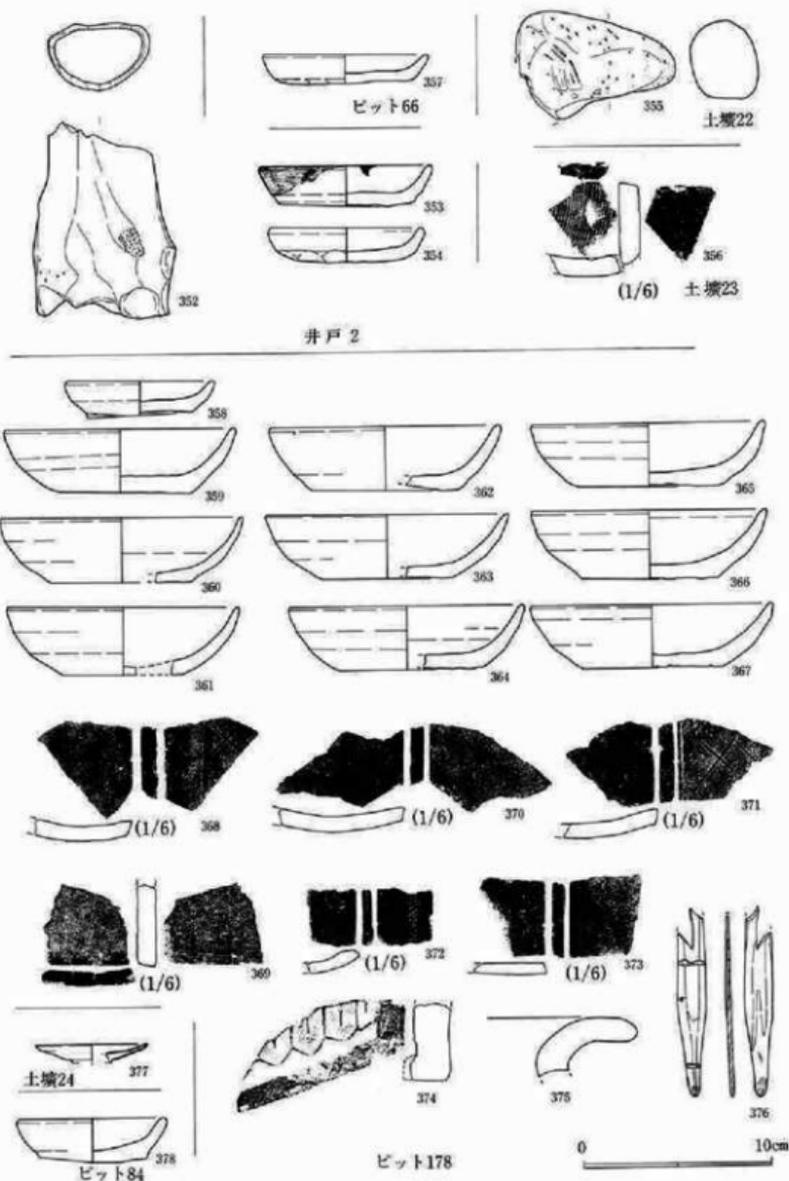


図32 2面IV区遺構(井戸2、土城22-23-24、ビット66・84・178)出土遺物(1)



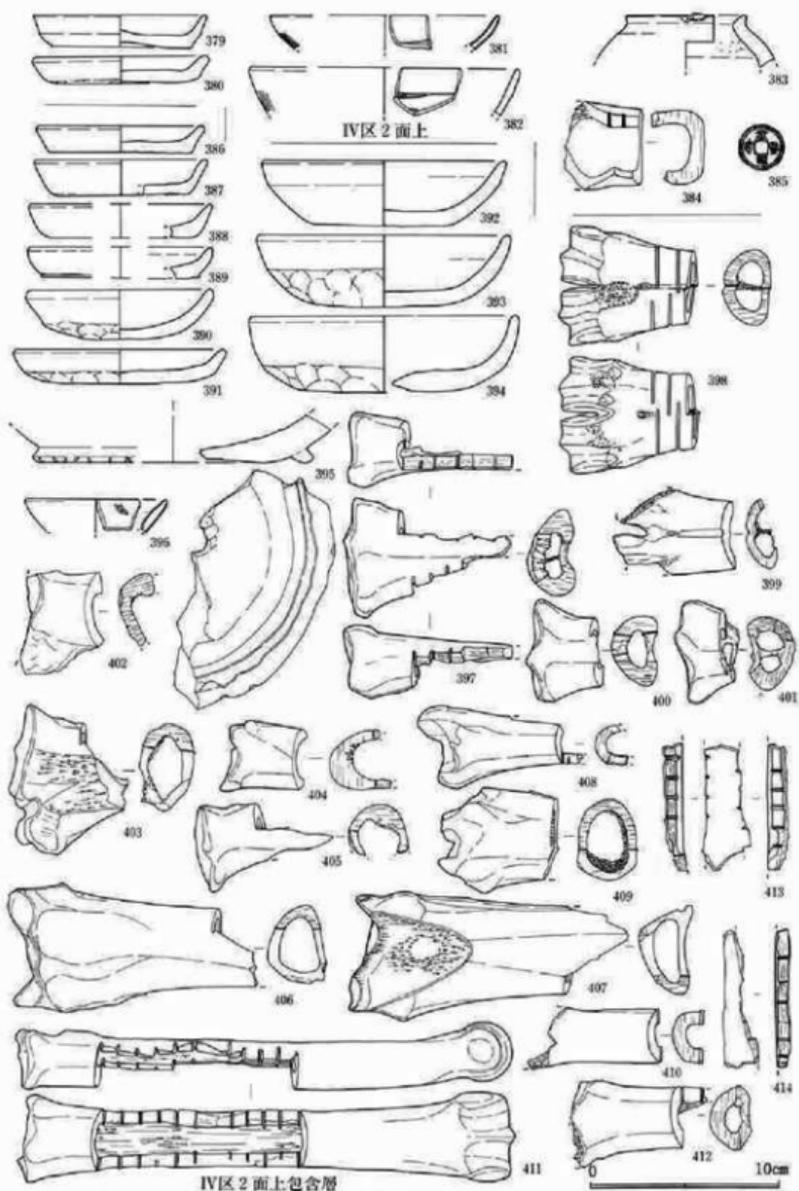


图33 2面IV区出土遗物(2)

こうしたIV区の敷地内に井戸が1基発見された。この2号井戸は1b面の1号井戸に切られ、その掘り方を一部残しているのみである。1b面の1号井戸は2面IV区の2号井戸の掘り直してあることは後節にて記述されるが、この同一地点での井戸の掘り直しはI区同様に区画割の連続性を物語っている。

#### 井戸2

掘り方の北西隅のみを発見。規模等不明であるが、方形の掘り方であったかもしれない。平底に近い手づくねかわらけと加工獣骨が掘り方覆土より出土する。

#### 溝34

溝23と土壌23に切られる。幅48センチ、深き50センチを測る。覆土は壁体をなす中世地山の茶褐色砂質土。炭化物が混入するが、生活遺物等はみられなかった。

#### 土壌22

南北長軸2メートル45センチ、東西幅1メートル40センチ、深き40センチを測り、底面は平坦。

#### 土壌23

土壌20に切られ、全形は不明。深き10センチほど。土壌20も浅く、西方にて底面はより浅くなり限界が明確でない。

#### ビット178

Ⅲ区土壌8を切る。覆土は粘性の強い黒褐色砂質土。木質腐植土混じりの感じはなかった。覆土内からは多数の瓦とともに、かわらけと渥美の襷口縁片が出土している。374の瓦は永福寺田期の再建瓦と同范。かわらけは他の2面遺構出土のものより新しい様相が窺える。すべて糸切り底。

#### Ⅳ区2面上出土遺物



図34 2面Ⅳ区出土遺物(3)

図33-379-385までが2面直上より出土した遺物。381と382は同安窯系青磁碗。

図33-386-図34-416までは2面上包含層よりの出土遺物。擦り切り痕の残る骨細工用材取得残片の多さが目につく。

かわらけは、糸切り底と手づくねのものが相半ばする量が出ている。手づくねでは、大型は稜が弱丸底で口縁の内湾のみ、小型は口縁の内湾と外反の両者がある。糸切り底では、口縁の外反傾向がみられはじめている。

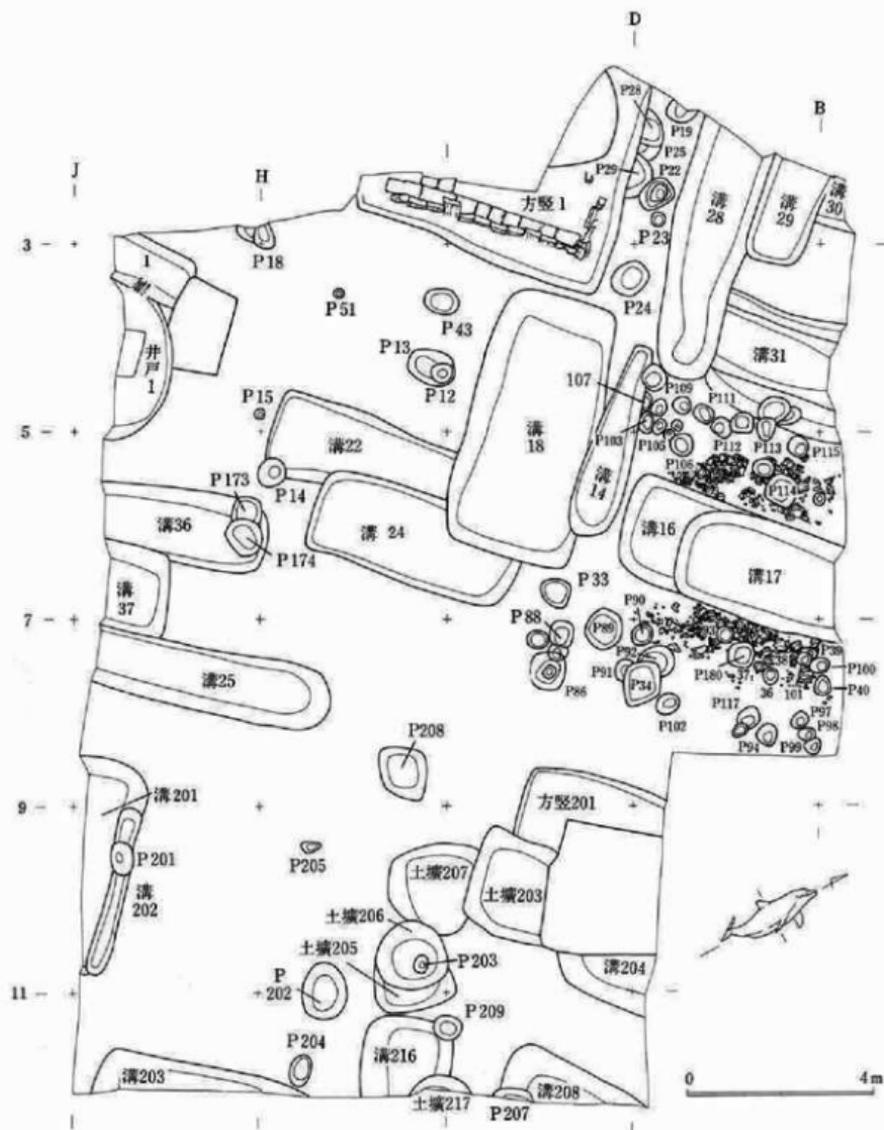
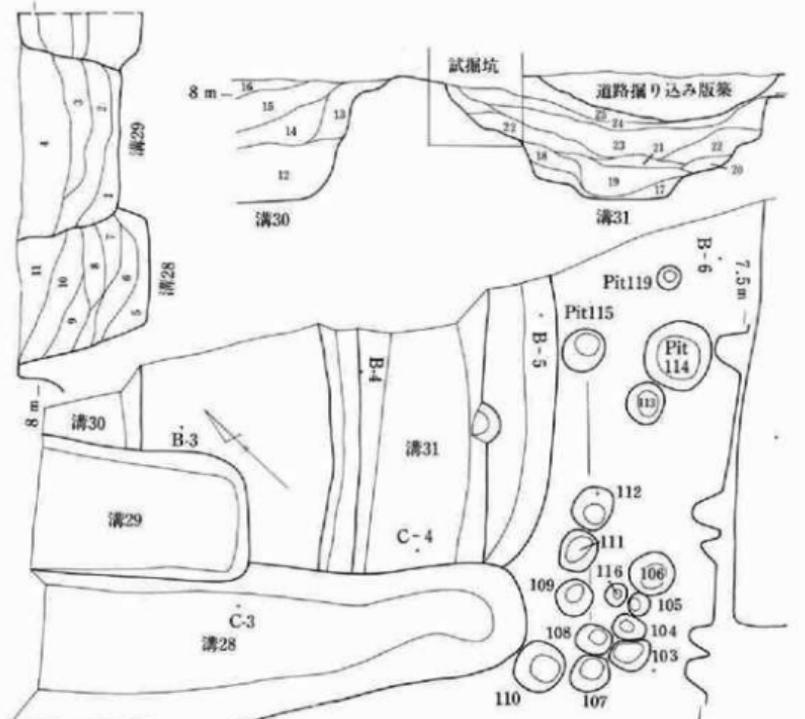


图35 1b面全体图

## 第1b面

1b面も2面同様に溝による区画割りを主体とする遺構群が発見された。そうした区画割りをされた敷地内に方形竪穴建築址が築かれたのが1b面の特徴であり、また破砕泥岩による版築面道路が溝だけの区画割りと異なる姿を見せている。

1b面の区画は、2面でのI区がI区とII区に道路と溝とで分割され、IV区西方にV区が作られている。V区は第2面での溝27の西方部がより東へ張り出してきたものであろう。以下I区より順次記してゆく。



### 土層状況

1～4. 暗赤褐色粘質土。泥岩塊、かわらけ片を多く混じえる。

5. 黄褐色粘質土。黄砂と灰化物を多量混入する。

5～7. 暗赤褐色粘質土。泥岩小塊と灰化物を多量混入する。

7～11. 暗赤褐色粘質土。泥岩小塊と灰化物、かわらけ片を混入する。

12. 茶褐色砂質土。泥岩塊と玉石、かわらけ片を多量に混じえる。

13～15. 黄褐色粘質土。泥岩塊を多く混じえる。14は中層積層に混み、堅くしる。

16. 暗赤褐色粘質土。泥岩小塊と玉石を混じえる。堅い。

17. 暗赤褐色粘質土。灰化物と泥岩片を混じえる。中分多し。

18. 泥質。

19～20. 暗赤褐色粘質土。灰化物、泥岩小塊、かわらけ片混入。中分多し。

21. 暗赤褐色粘質土。灰化物、泥岩小塊、かわらけ片、貝殻片混入。中分多し。

22～23. 暗褐色砂質土。

24. 暗褐色粘質土。

25. 暗褐色土。

図36 1b面I区

## I区

I区は溝28および14の東西溝とそれらに直交する南北に長軸をもつ溝31と版築道路ないし溝16・17によって区画されている。

版築道路は、その幅をグリッドの5ラインから7ラインにかけての東西にもち、溝16・17に沿うように位置している。溝16・17と道路はI区とその東にあるII区との地境として同様の機能をもつものである。新旧関係としては、道路の方が新しい。また、南北溝としてI区の東を限る溝16・17・31のうち、溝31が最も古く、16、17と新しくなる。

### 溝28

最大幅1メートル75センチ、深さ1メートル40センチを測る。調査区西外へと延びている。断面箱形を呈し、底面は平坦である。覆土上層の泥岩塊と玉石の層は、1a面における泥岩版築道路の下地固め土である。出土遺物では、419の永福寺II期瓦、420の永福寺III期瓦、422の舶載褐釉壺が注目される。永福寺瓦の焼成はII期が13世紀中頃、III期が13世紀末頃に比定されている。

### 溝29

幅1メートル45センチ、深さ1メートル5センチを測る。断面箱形の溝。調査区の西外へと延びている。この溝は溝28を切りながら、長軸方位を合わせていることから、溝28の掘りなおしと考えられる。426~437は溝28と29の切り合い上面から出土し、帰属がいまひとつ明瞭ではないが、さきの永福寺瓦の廃棄時期と426~431の薄手かわらけの関係が注意される。

### 溝31

2段落ちの最大幅2メートル40センチを測る溝。1b面I区では最古の溝である。底面は平坦。出土遺物では、452の永福寺I期最古期瓦と453の永福寺I期瓦の存在が、13世紀中葉以降の年代を示し、441~451のかわらけが溝28~29のかわらけとの対比を良く示している。

### ピット群

溝31と道路および溝16・17の間に南北に並ぶピット群が発見された。ピット群は切り合い関係から溝31より新しく、I区の東の限界が溝31より東へ拡大した時期において、地境溝16・17の内側に建てられたI区敷地の界であろう。この時、堀を作るピット列が道路版築の際に並んでおり、道路と溝16・17の新旧関係を考慮に入れても、I区の敷地東側に通路の存在を想定できる。

### 溝16・17

I区とII区を分ける南北溝。溝14を南限とし、調査区北外へと延びている。溝17が溝16を切り、同一地点での掘りなおしである。溝17は、幅2メートル10センチ、深さ95センチを測る、断面箱形。底面は平坦で、やや北に下る。溝16もほぼ同じ規模であるが、深さは65センチと少し浅い。溝17覆土上層の泥岩塊と玉石は、南北道路の下地固め。

その道路は、次の項にて記すが、溝16・17とはほぼ同位置、同方向に走る。道路と溝16・17は、地境として同じ機能を同一地点において果しているのである。

溝の西方1.5メートルほどには、I区敷地東限のピット列がみられたが、東方1メートルほどにも

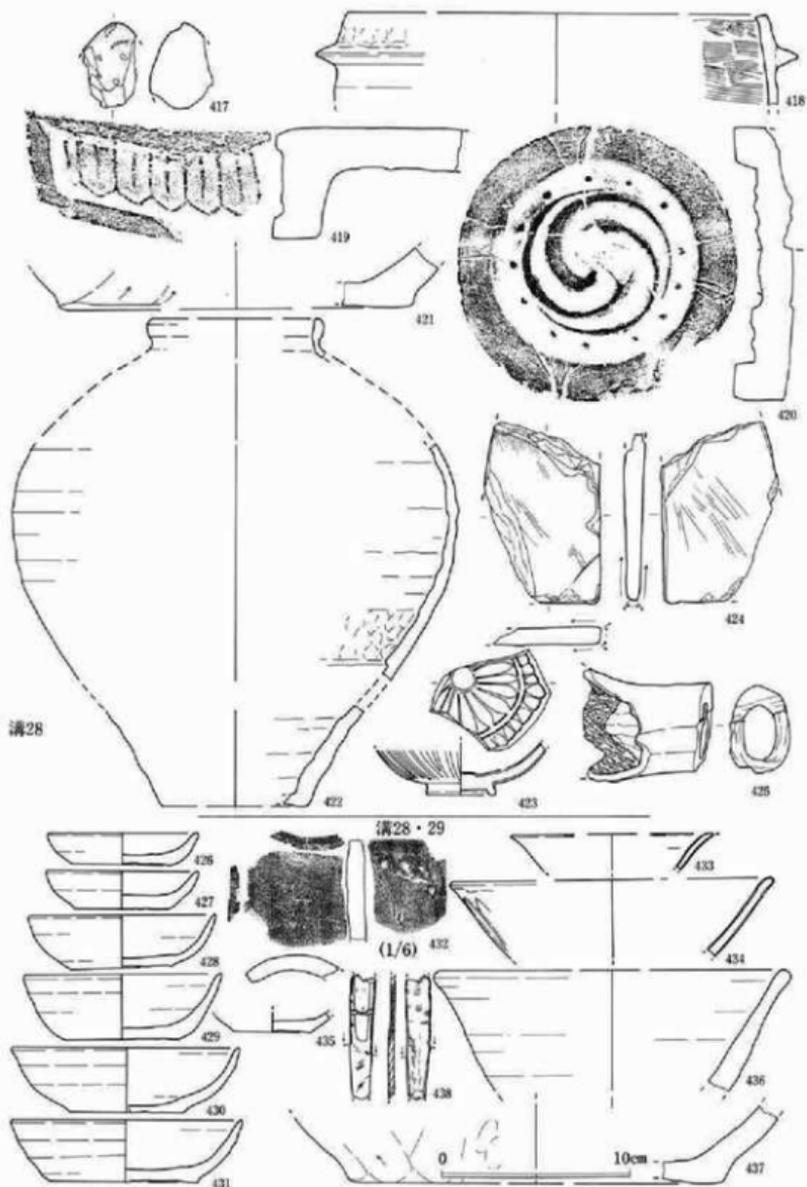


图37 1区1b面遺構(溝28、28・29)出土遺物(1)

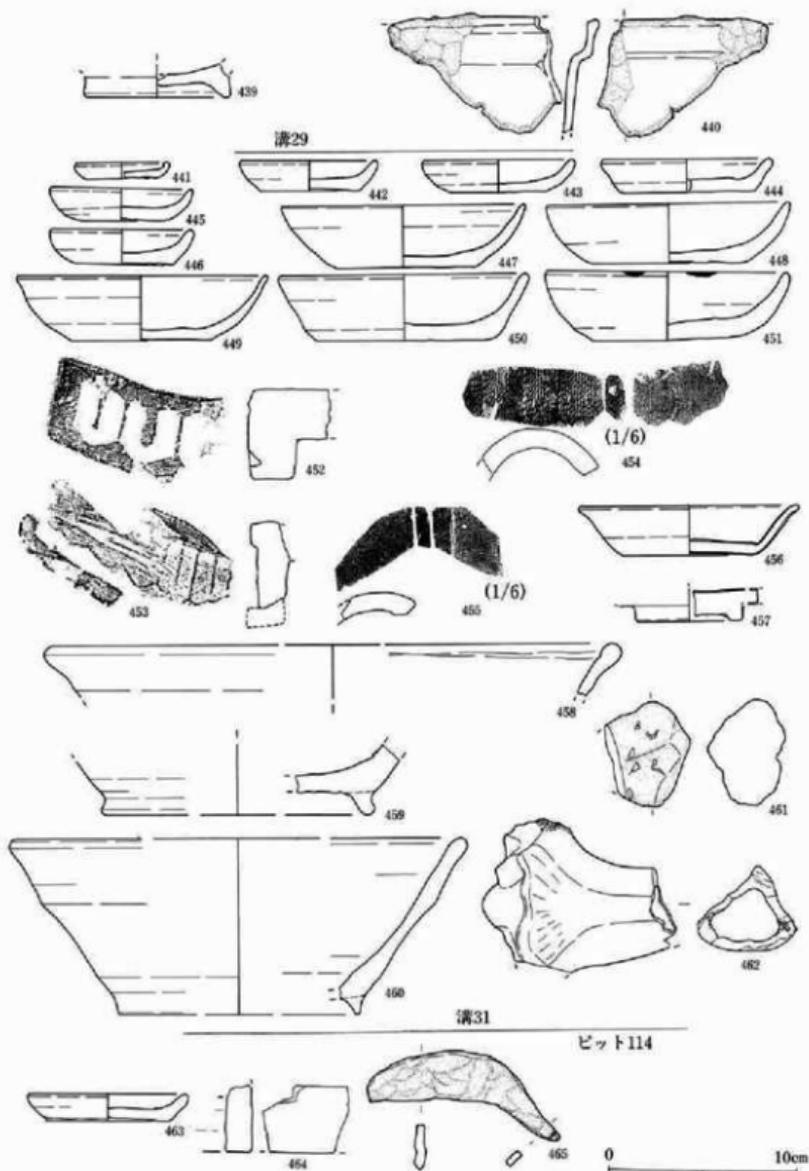


図38 1b面透構(溝29・31、ピット114)出土遺物(2)

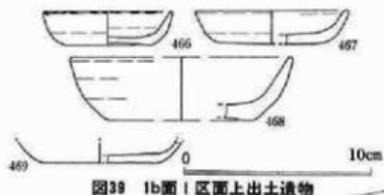


図39 1b面 I 区面上出土遺物

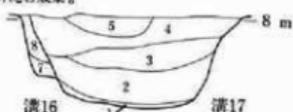


図40 1b面溝16、17

やはりピット列がある。ピット列は幾列か認められるが、これらのピット列も後述のII区の西の限界をなすものである。そうであるならば、I区とII区は溝16・17より1メートルほど内側を敷地限界としていることになる。そしてさらには、区画



1. 暗灰褐色粘質土。水分多く軟かい。
2. 暗灰褐色弱粘質土。10cm大泥岩塊多し。水分多く堅い。
3. 黄褐色砂質土。10cm大泥岩塊と玉石を多く混じえる。水分多く堅い。遺物多し。
4. 暗黄褐色砂質土。玉石と泥岩塊多し。水分少ない。
5. 黄褐色砂質土。泥岩塊と砂分多く混じえる。
6. 砕砕泥岩版築。



7. 暗灰褐色砂質土。2-3cm大泥岩塊多し。
8. 暗灰褐色砂質土。

を分ける溝16・17と東西両脇に1メートルほどの通路を想定できる。

出土遺物では、溝16覆土内の手づくねかわらけと青磁刺花文碗と鉢の出土と溝17覆土内の底径口径比が大きく背の高い薄きぎみの糸切りかわらけの対比が注意をひく。また硯製作用に端材が磨り切りによって切り落とされた硯石断片は、本遺跡を特徴づける遺物の一つである。

### 道路

溝16・17を埋めて、玉石と砕いた泥岩を叩きしめて造られる。溝17の最下層を除いた覆土が道路造成用の玉石と泥岩塊からなるため、道路の造成は、1b面において、溝17の掘削からそれほど時間的にかけ離れた時期のものではないと考えられる。ちなみに、1b面のI区とII区の区画割をなした遺構は、溝31→溝16→溝17→泥岩版築道路へと時間的に旧から新に変遷している。

さて、道路は調査区北外へと延びる南北に走る道で、4メートル20センチの幅員を有する。荷車がすれ違える路面幅であるが、路面の東端はII区敷地の西限のピット列をやや侵食しており、II区西限界のピット列は東（内側）へと移動している。

路面上の出土遺物では、器高の高い大型手づくねと内湾小型糸切底かわらけに刺花文青磁碗の出土が注意される。

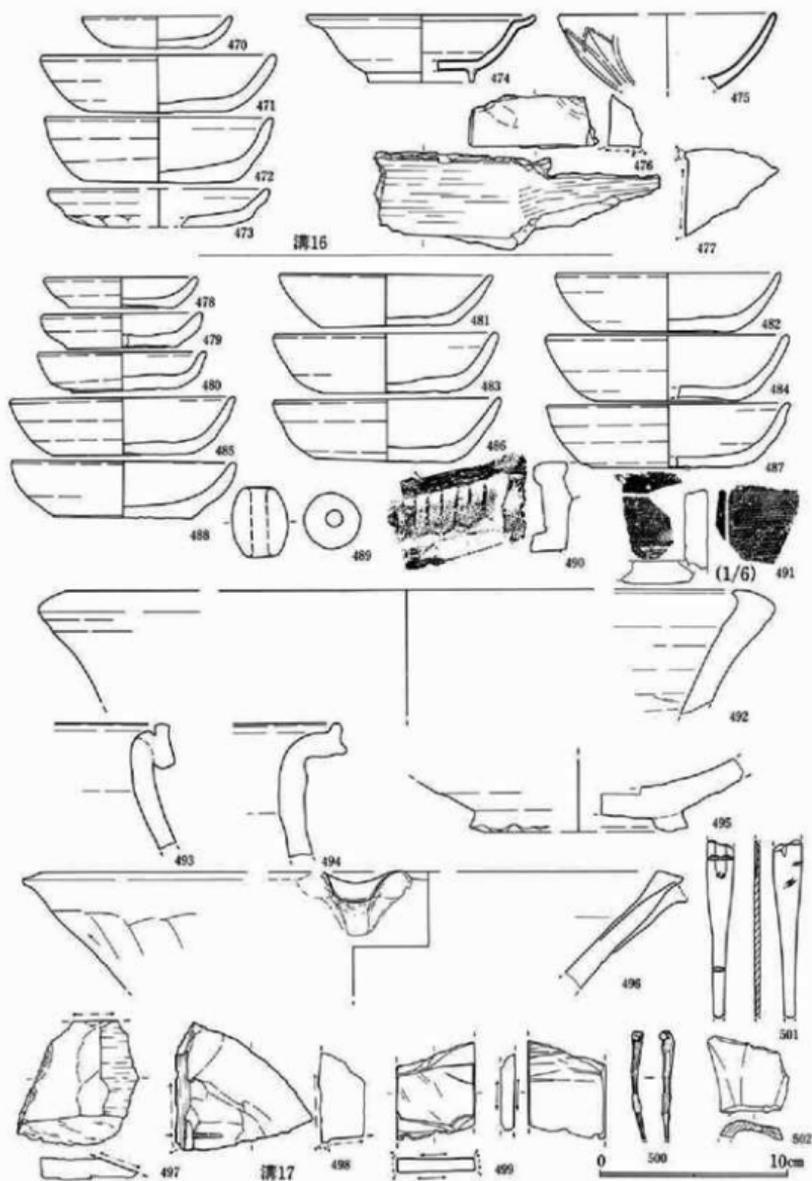
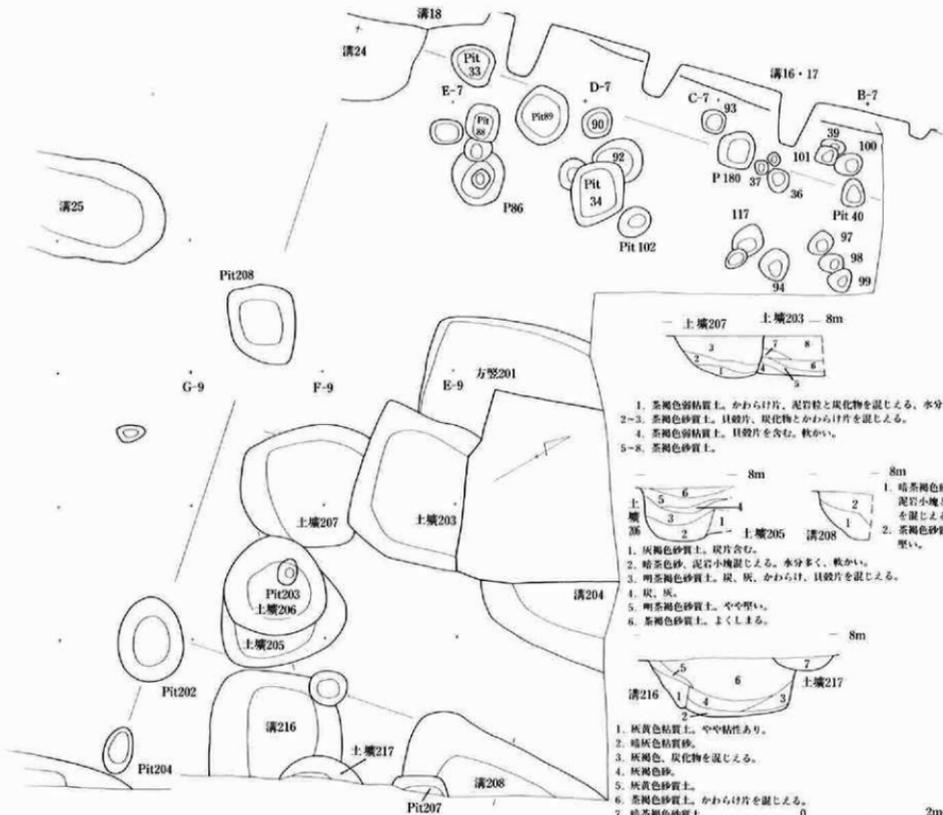


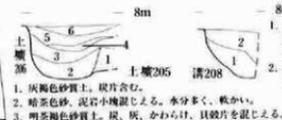
图41 溝16·17出土遺物



— 土壘207 土壘203 — 8m



1. 茶褐色弱粘質土。かわらけ片、泥岩粒と炭化物を混じえる。水分多く軟かい。
- 2-3. 茶褐色砂質土。貝殻片、炭化物とかわらけ片を混じえる。
4. 茶褐色弱粘質土。貝殻片を含む。軟かい。
- 5-8. 茶褐色砂質土。



1. 灰褐色砂質土。炭片含む。
2. 暗茶色砂。泥岩小塊混じえる。水分多く、軟かい。
3. 明茶褐色砂質土。炭、灰、かわらけ、貝殻片を混じえる。
4. 灰、炭。
5. 明茶褐色砂質土。やや堅い。
6. 茶褐色砂質土。まじりる。



1. 灰黄色粘質土。やや粘性あり。
2. 暗灰色粘粘砂。
3. 灰褐色。炭化物を混じえる。
4. 灰褐色砂。
5. 灰黄色砂質土。
6. 茶褐色砂質土。かわらけ片を混じえる。
7. 暗茶褐色砂質土。
- 炭化物、泥岩小塊、かわらけ片を多く混じえる。

2m

図43 1b面II区

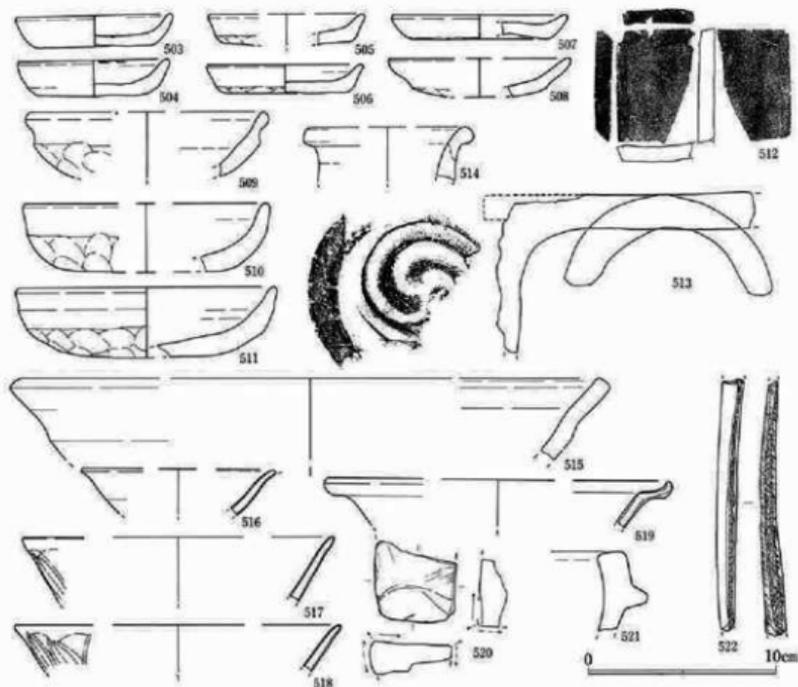


図42 1b面道路面上出土遺物

## II区

II区は東西を溝16・17ないし道路と溝208に限られるが、南の限界、III区との境界が明瞭ではない。北の限界は調査区外にあると思われる。南の境界をなすものとして、II区南東の溝216とピット208~204の2者を想定できるが、溝216西方の土層群の存在は、2面におけるI(II)区地境内側の状況と似ている。よってピット群をII区南限とし、溝216はより東区画の地境と考える。

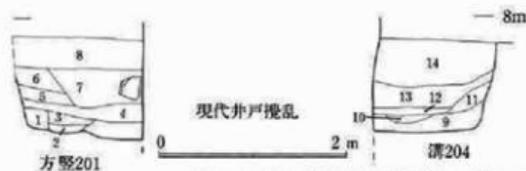


図44 1b面II区方形壁穴建築址201、溝204土層断面図

1. 暗灰茶色砂。
- 2~3. 茶褐色粘質土。
- 4~6. 茶灰色弱粘質土。
7. 茶灰色砂質土。炭化物、かわらけ片多く混じえる。
8. 暗茶褐色弱粘質土。砂を多く含む。
- 9~10. 灰茶褐色弱粘質土。炭化物、かわらけ片多し。
- 12~14. 茶色弱粘質土。

#### 溝216

Ⅱ区南東に位置し、調査区東外へと延びる。東西線は、Ⅰ区南を限る溝14・18に合わせている。幅2.0メートル、深さ85センチを測る断面箱形を呈する。南側底面脇に溝壁保護の土留め木枠を設置したような土層堆積が見られる。

出土遺物には、底径口径比が大きくて薄手かわらけに縁帯の小さな常滑の甕が伴う。

#### 溝208

Ⅱ区の東を限る溝、調査区内に全体の一部のみが発見される。深さ73センチを測る断面形はU字形を呈するものと思われる。南北軸線は溝216と直交する。

#### 方形竪穴建築址201

Ⅱ区中央付近に発見されるが、そのほとんどを現代井戸の掘り方に壊され、一部のみを確認した半地下式建物である。竪穴の掘り方西壁下に凝灰岩切り石を2個発見したが、その出土状況からして原位置とは考えらず、他に切り石の存置を認めることはなかった。出土遺物では、器高の高い糸切り底づくりと平底風の外反口縁の手づくね小型かわらけが13世紀末頃の年代指標となる。他方ロクロ挽きの粘土柱調整痕を残す糸切り痕かわらけ(542)が目される。552は上層崩落土中出土。

#### 溝204

現代井戸掘削の東に位置する。深さ1メートルを測る断面箱形を呈する。上場ラインの形状から溝と考えたが、方形竪穴建築址の可能性も残している。

#### 土壙203

方形竪穴建築址201を切る。一部を現代井戸掘削に壊されているが、方形を呈すると思われる。一辺1.8～2.2メートル、深さ60センチを測る。出土遺物では、砥石、端部の磨滅した常滑の甕細片、擦り切り痕のある獣骨片など工芸細工関連の遺物がみられる。

#### 土壙205、206

溝216の西に位置し、ほぼ同地点にて切りあっている。土壙206が新しい。205は不整形をなすと思われ、直径1.9メートル、深さ70センチを測る。206も不整形を呈し、直径1.5メートル、深さ80センチを測る。覆土には炭、灰、かわらけ、貝殻片を混じえる。ゴミ捨て穴か。

#### 土壙207

土壙203を切り、土壙206に切られる。不整形を呈し、一辺2メートル内外、深さ65センチを測る。覆土に炭化物とかわらけ4片を混じえ、ゴミ穴か。出土かわらけに薄手丸深の初現形甕(719)。

#### 土壙217

溝217を切る。調査区東端にその一部を発見する。覆土に炭化物とかわらけ片を多量に混じえ、ゴミ穴だろうか。

そのかわらけは、小型と中型の手づくねを混じえる糸切り底づくりを主体とする一群で、糸切り底に中型品と薄手丸深がみられる。

#### ピット群

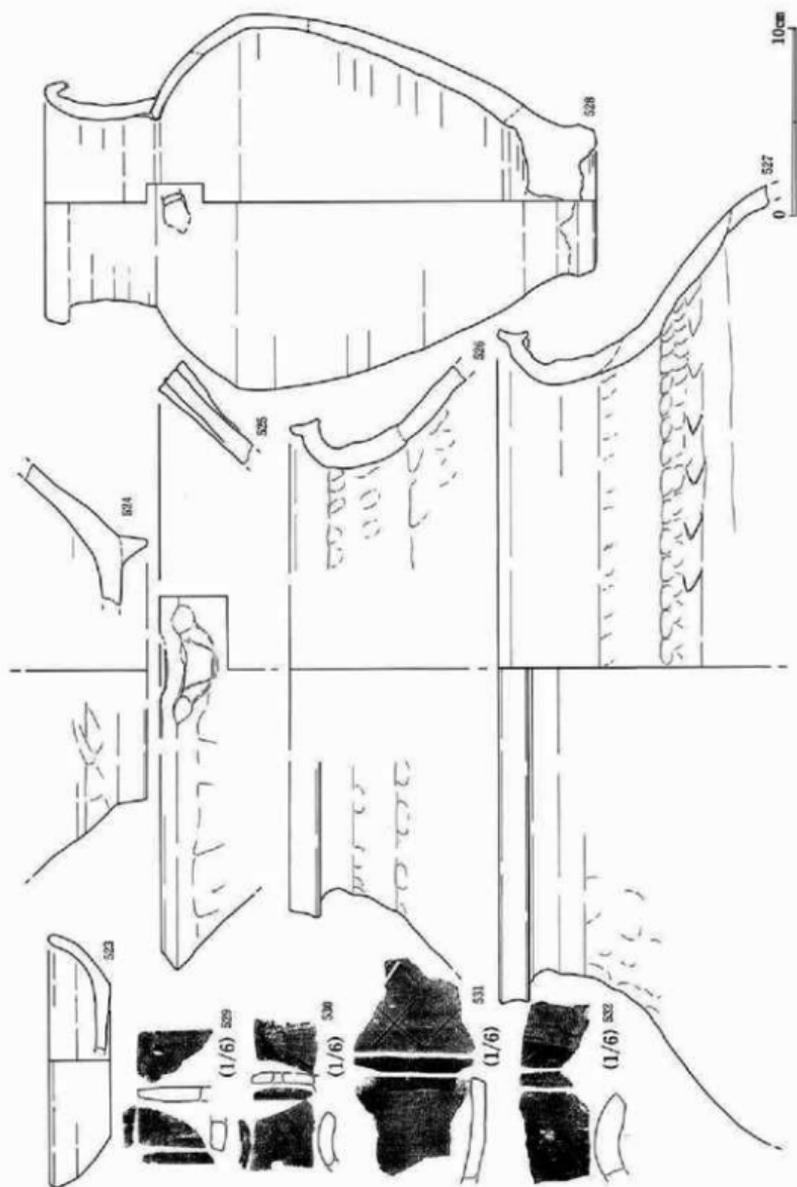


图45 1b面II区遗構(溝216)出土遺物(1)

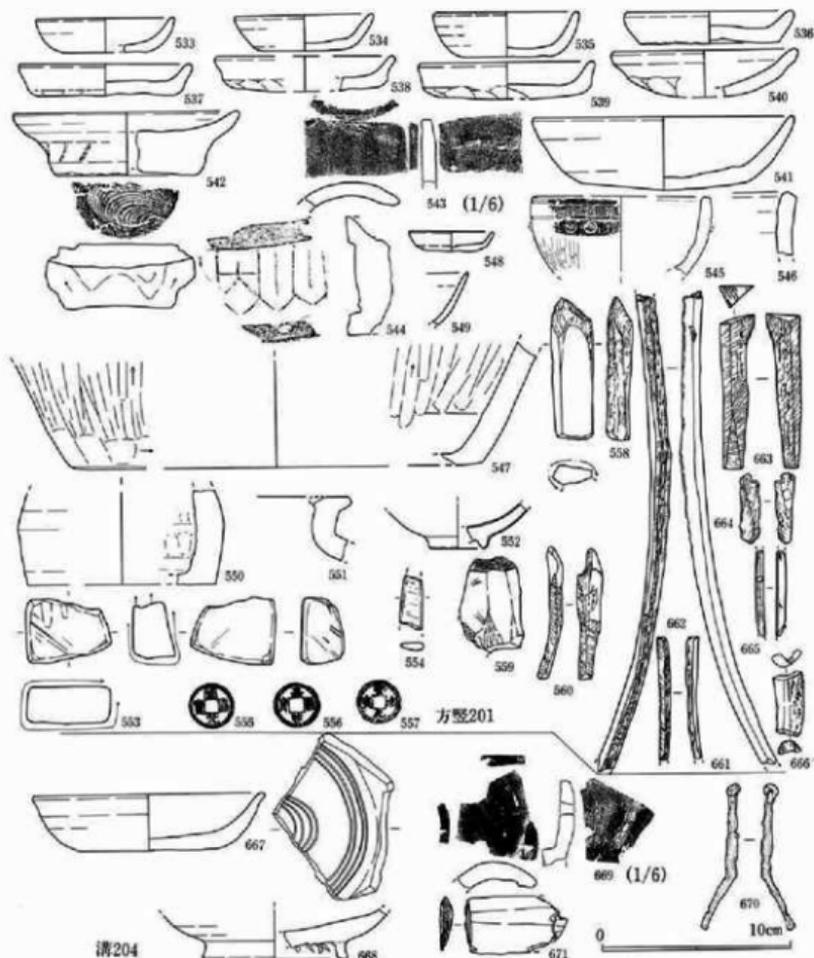


図48 1b Ⅱ区遺構(方形竪穴建築址 201、溝 204)出土遺物(2)

I 区Ⅱ区を限る溝16・17もしくは南北道路の東にビット群が位置する。これらはⅡ区敷地の西限界をなす堀もしくは柵と考えられ、先述のように、時期差をもって堀は西から東の列へ移動している。ビット40～33は溝16・17がI・Ⅱ区を分割していた時期のもので、ビット99～86がなす堀は道路が区画分割機能を果していた時期のものである。ビット86からは、廃棄された永福寺Ⅱ期互に伴って小型の薄手丸深かわらけの典型例が出土している。

Ⅱ区東部に位置するビット203・207・209は他のビットとの明瞭な配列を確認できなかった。これらはⅡ区1b面の中でも最も新しい時期に属する遺構である。

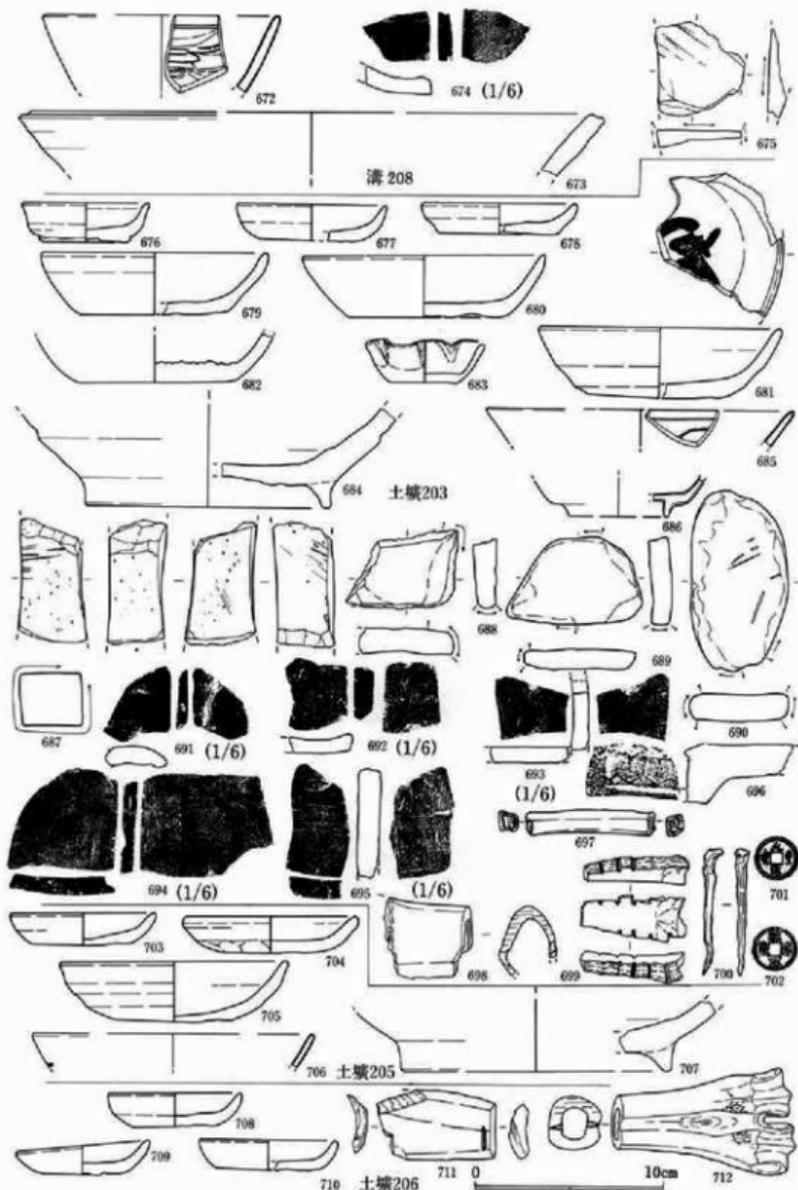


图47 1b面II区遺構(溝208、土城203・205・206)出土遺物(3)

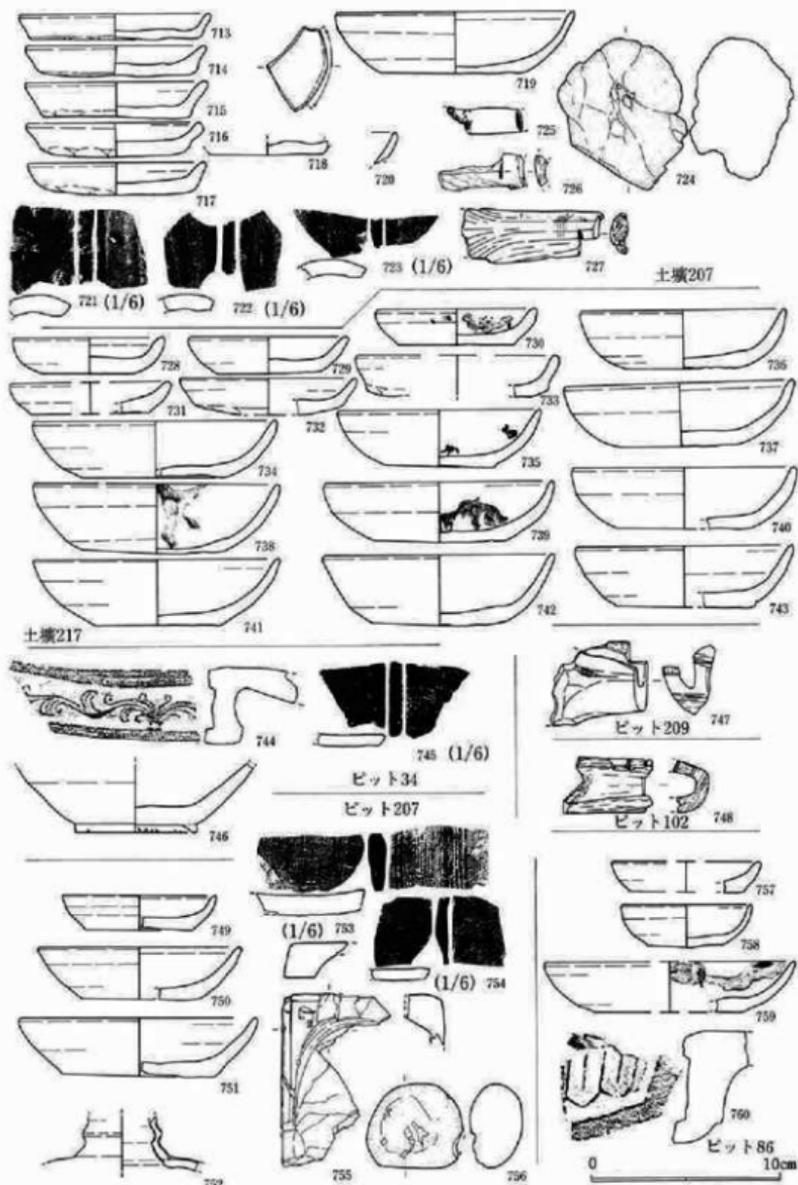


図48 1b面II区出土遺構(土塚207・217、ビット34・86・102・207・28)出土遺物(4)

### III区

溝25・201・203に東、西、南を、ピット列208、202、204に北を限られた区画。区画内に建物や土壇などの遺構はなく、空地のような様相をみせている。しかし、溝201と202が作り替えによって同位置に掘られるなど、溝による区画分割は厳然と守られていたと思われる。すなわち、III区における東、西、南の境界は、ほぼ溝をもって考えてよいことになり、かえって北の境界、II区との境が問題である。II区とIII区は一連の区画であり、ピット208～204は敷地内分割であろうか。

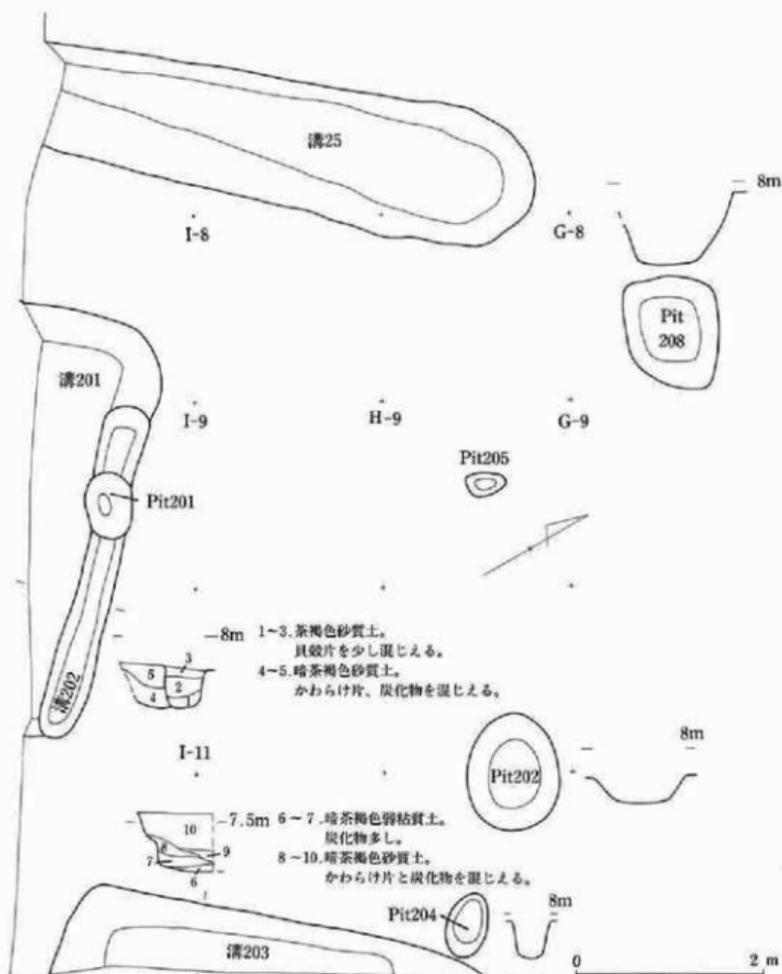


図49 1b面III区

### 溝201

II区の南を限る、東西長4.5メートル、深さ50センチの溝。断面形はU字形を呈し、底面は平坦である。

### 溝202

溝201を切る。長さ3.6メートル、幅48センチ、深さ43センチを測る。東西軸方位は溝201と同じで溝201の更新と思われる。

### 溝203

II区の東を限る、長さ4.6メートルほど、深さ60センチを測る溝。断面形は2段落ちの箱型を呈し、底面は平坦である。

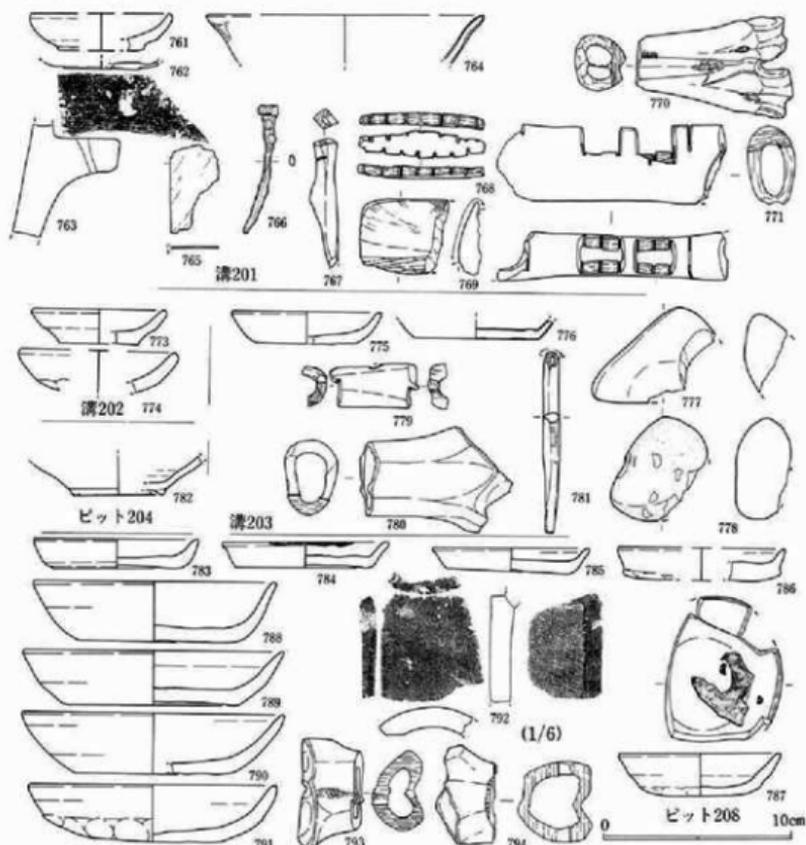


図50 1b面II区遺構(溝201・202・203、ビット204・208)出土遺物

Ⅲ区の北に溝201・202の東西軸方位に合わせて東西に並ぶピットである。これらは並びの方位が区画制溝と一致するものの、上述のように明瞭な地境の役を果たしていた可能性は弱く、それぞれの規模も異なっている。

Ⅱ区の項にてⅡ区の南限を確定できないとしていたように、ピット208～204の並びは区画分割というよりは、やはり敷地内小区分割とも考えられる。ただし、Ⅱ・Ⅲ区を同一敷地と考えた場合Ⅱ区南側にゴミ捨て穴と思われる土壌が幾度も掘られている状況をどのように解釈するか問題である。

1 b 面Ⅱ区、Ⅱ・Ⅲ区面上出土遺物

1 b 面の面上より出土した遺物のうち、方形竪穴建築址201周辺に発見されたものをⅡ区、それより南地域に発見されたものをⅡ・Ⅲ区面上として、以下に図示した。

Ⅱ区面上出土の796は薄手丸深かわらけの中型品。ぼつりとした手づくねかわらけも出土してい

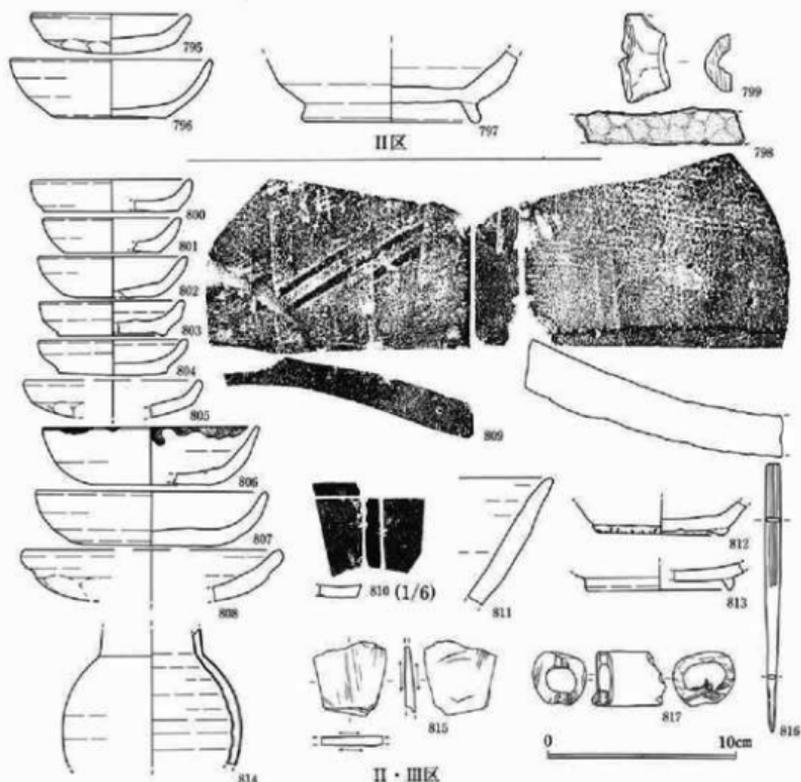


図51 1b面上Ⅱ、Ⅱ・Ⅲ区面上出土遺物

る。II・III区面上出土では、東海系の暗灰色粘土（湿美）のこね鉢に、やはり東海系（八事裏山）の平瓦がある。本遺跡からは、永福寺系をはじめ多数の瓦が出土しているが、東海系の瓦もかなりの点数が出土している。地粟土の中に紛れこんだとしても、寺院との関係が気に懸かる。

#### IV区

IV区の地境はかなり不明瞭で、他の区から囲まれた地域として認められる区画である。基本的には、東西溝14と18によってI区と南北道路方向からの出入口を塞ぎ、溝25によってII区との境をなしているが、溝25と同様の軸方位をもつ南北溝が幾条も区画内にあって、複雑な区画もしくは敷地を構成している。井戸の存在が敷地としての存立を示唆している。

#### 溝37、土塼11

溝25の西に隣りあい、南北に長軸をもって位置する。溝25は上面を1a面溝6に切られているために、本来の深さを確認できないが、95センチ以上もV字形に掘り込まれ、II区の西の境界を示している。これに切られる溝37も深さ80センチを有する地境の溝である。溝37が調査区内にて収束する。IV区南西隅にある南北溝1と平行関係にあり、同一小期の溝と考える。

土塼11は溝37に切られる。南北長3.1メートル深さ65センチを測る。溝であるかもしれない。

#### 井戸1

IV区南西隅に全体の半分ほどが発見された。直径3.6メートルの円形土塼の掘り方のはば中央に設置された井戸枠は一辺95センチの方形木枠横棧支柱型と思われる。井戸内調査は検出面より下方1.2メートルほどまで行ったが、以下は崩落の危険を避けるため調査を進めなかった。井戸枠は調査掘

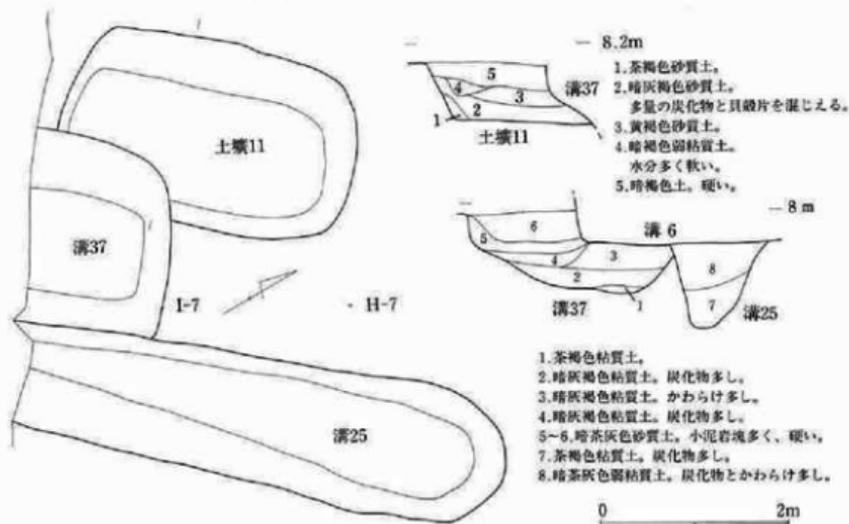


図52 1b面IV区溝25・37、土塼11

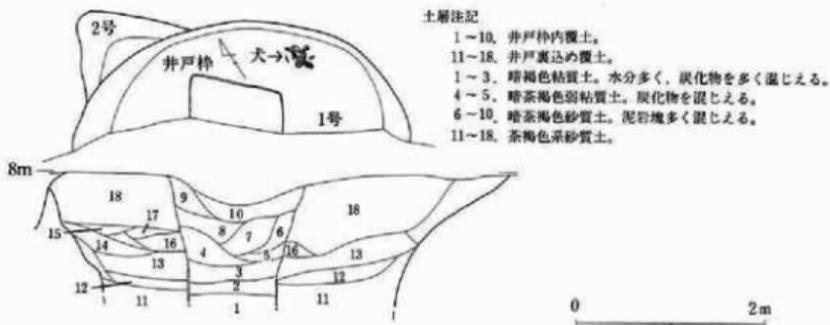


図53 1b面IV区井戸1



図54 1b面井戸1内犬骨

り上げ底面と調査区壁面にのみ確認できた。

井戸掘り方覆土内からは犬の全体骨が発見された。調査中に半分ほどが動いてしまったため、実測図では原位置に残った状況を示した。遺存骨の状態からして、死体が投げ込まれたと考えられる。出土遺物は、井戸枠内覆土からである。掘り方内覆土からは

犬骨を除く遺物は、かわらけの細片のほかになかった。

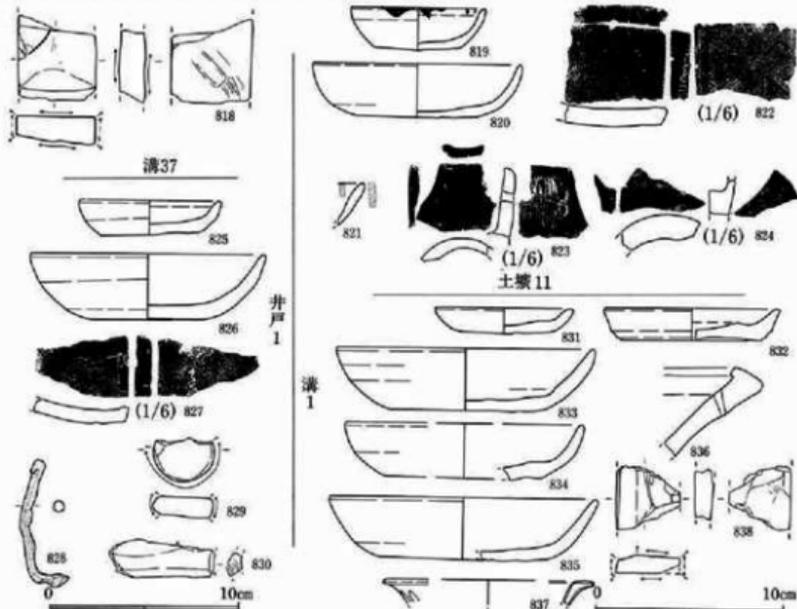


図55 1b面IV区溝1・37、土塚11、井戸1出土遺物

## 溝1

井戸を切る。幅1.1メートル、深さ75センチを測る。底面は平坦。断面は箱型を呈し、覆土上層には1a期道路面版築材となる玉石を多く混じえている。

## 溝22・24

IV区中央付近に隣接して切り合いながら南北に長軸をもつ溝である。両溝ともに後述の溝18に切られ、また溝24が溝22を切っている。

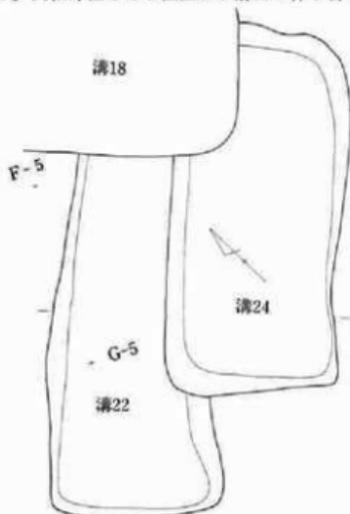
溝22は、南北長3.9メートル以上、幅1.7メートル、深さ80センチを測る。底面は平坦である。南北軸方位とその軸線が溝18を挟んで北に位置する溝16・17と同一である。溝22と溝16・17の同時期併存を想定させる。覆土は粘質土を主とし、特に第4層には炭と炭化物を多量に混じっていた。

この4層中からは多くの遺物が出土している。遺物の半数以上をかわらけが占め、ゴミ捨てか、何らかの儀礼の際の関連品だろうか。886の硯石端材とともに破損硯断片を再加工途上に捨てられた887の出土が注意される。886のような硯製作もしくはその第一次加工が行われていたことを示す硯石断片を多数出土する遺跡地に、修理・再利用細工品も同時に街中より持ち込まれていたことを明示している。

溝24は、南北長3.9メートル、幅1メートル83センチ、深さ42センチを測る。底面はやはり平坦である。長軸方位とその位置より溝22の作り替えと考えられる。覆土は下層から上層まではほぼ同一で



図56 1b面IV区溝1



### 土層注記

1. 暗茶褐色弱粘質土。
2. 灰褐色弱粘質土。
3. 灰茶褐色砂質土。
4. 暗茶褐色弱粘質土。炭化物を多く混じえる。
- 5-6. 暗灰褐色弱粘質土。
7. 暗茶褐色砂質土。
8. 暗茶褐色弱粘質土。
- 9-11. 暗茶褐色弱粘質土。炭化物を混じえる。
- 10層には完形かわらけ多く混入。

図57 1b面IV区溝22・24

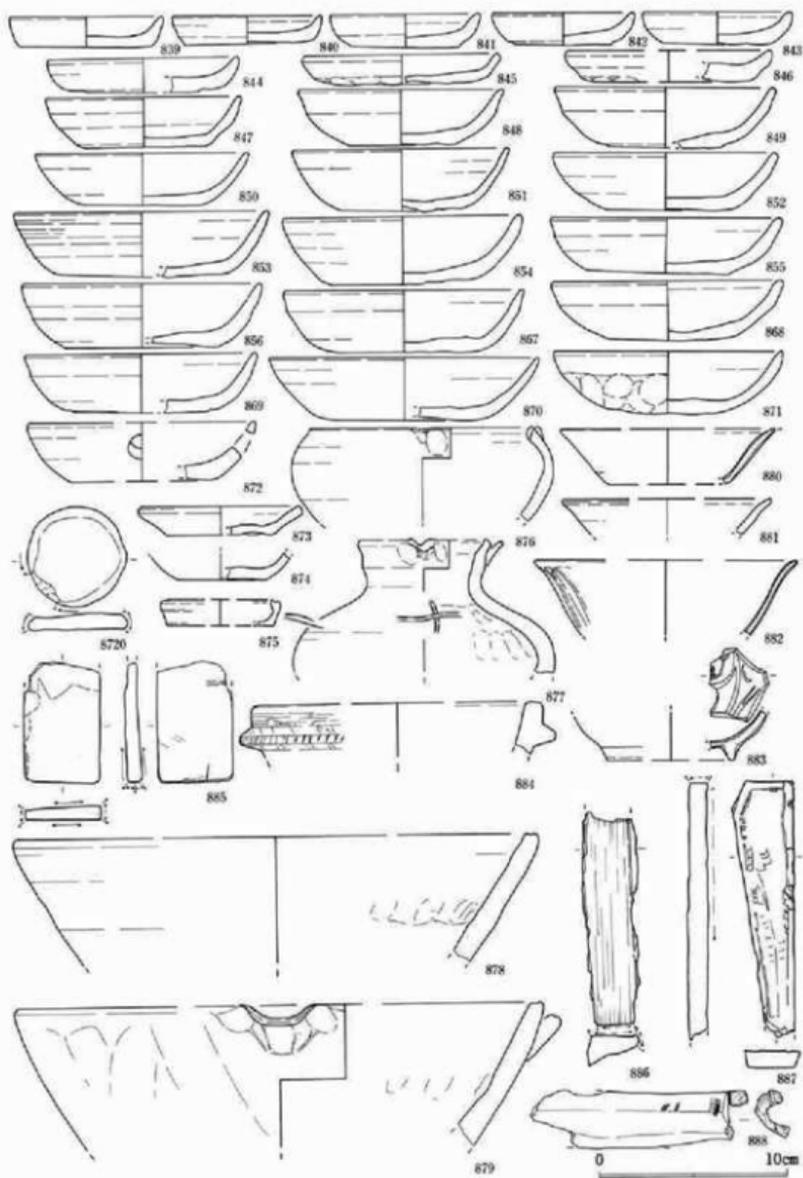


图58 1b面Ⅳ区满22出土遗物

いちどきに埋められたようで、中層からは完形のかわけが多数出土した。

出土したかわらけに薄手丸深はないが、同時期のものと思われる器高が高く、体部が丸く開いて底径口径比の大きなものがほとんどとなっている。

さて、I・II区地境の基本をなしていた溝16・17と南北軸方位を合わせ、その延長線上に位置する溝22と24は、ある時期にIV区の東限をなしていたと考えられ、溝25と37の間は通路であったと考えられる。溝37と1が東西の地境であった時期もあり、1b面IV区には小期ごとの変遷が想定される。

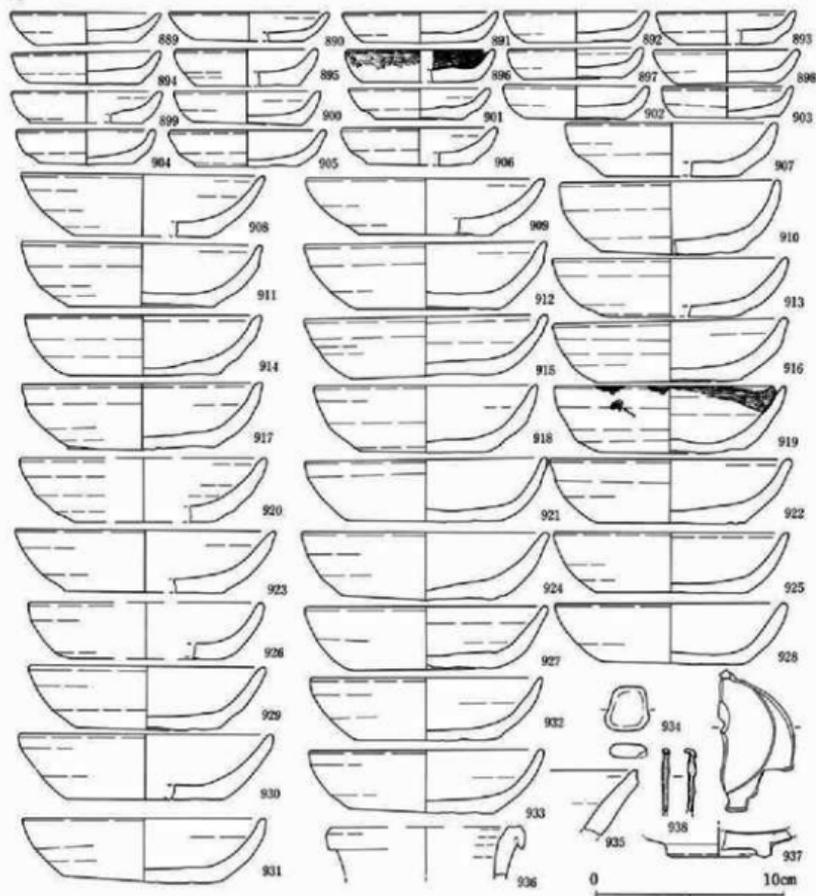


図59 1b面IV区溝24出土遺物

溝14・18・19

IV区の北限をなす、東西に長軸をもつ溝である。溝19が最も古く、それ以降18、14と更新されてゆく。

溝19は溝18の底面に発見され、その一部のみを確認できた。東西長3.5メートル、幅1.5メートルほどを測る。深さは1.4メートル前後であろう。

溝18は溝19の掘り直し。東西長5.4メートル幅2.9メートル、深さ1.3メートルを測る。覆土は泥岩塊と玉石を多く混じえる砂質土からなり、1 a面に現れる泥岩版築道路の地下固めてであろう。出土遺物にはかわらけの口縁が外反ぎみに立つ小型の手づくねと糸切り底の双方がみられる。

溝14は東西長4.3メートル、深さ35センチを測る。溝幅と底面は一定しない、覆土は灰色砂質土で埋めつくされ、他の1 b面遺構覆土と異なる。1 a面版築道路が溝14直上に位置することから、1 a面道路の掘り込み基礎かもしれない。

遺構の切り合い関係から、溝16・17、溝22・24の存在時期には溝18付近は道路であったろう。

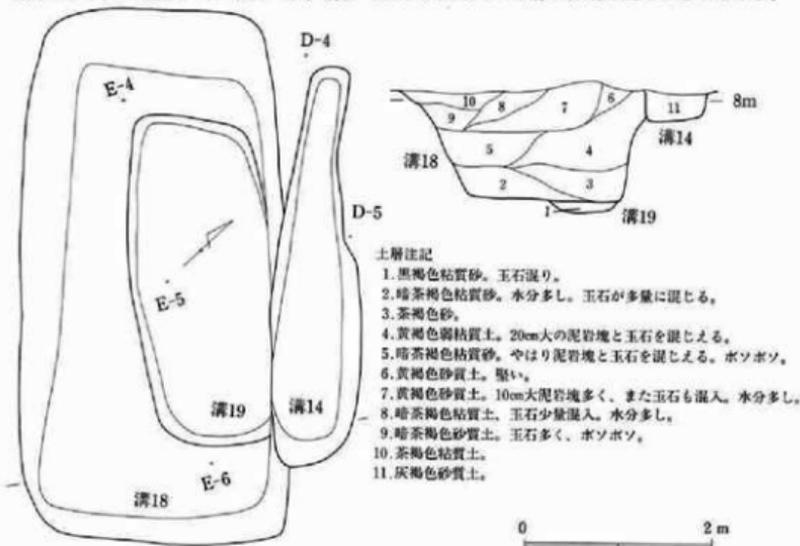


図60 1b面溝14・18・19

その他の遺構

IV区には数口のピットが発見されているが、それらに並び等を認めることができなかった。

ピット13からは、高麗青磁の天目台の破片(967)が出土している。

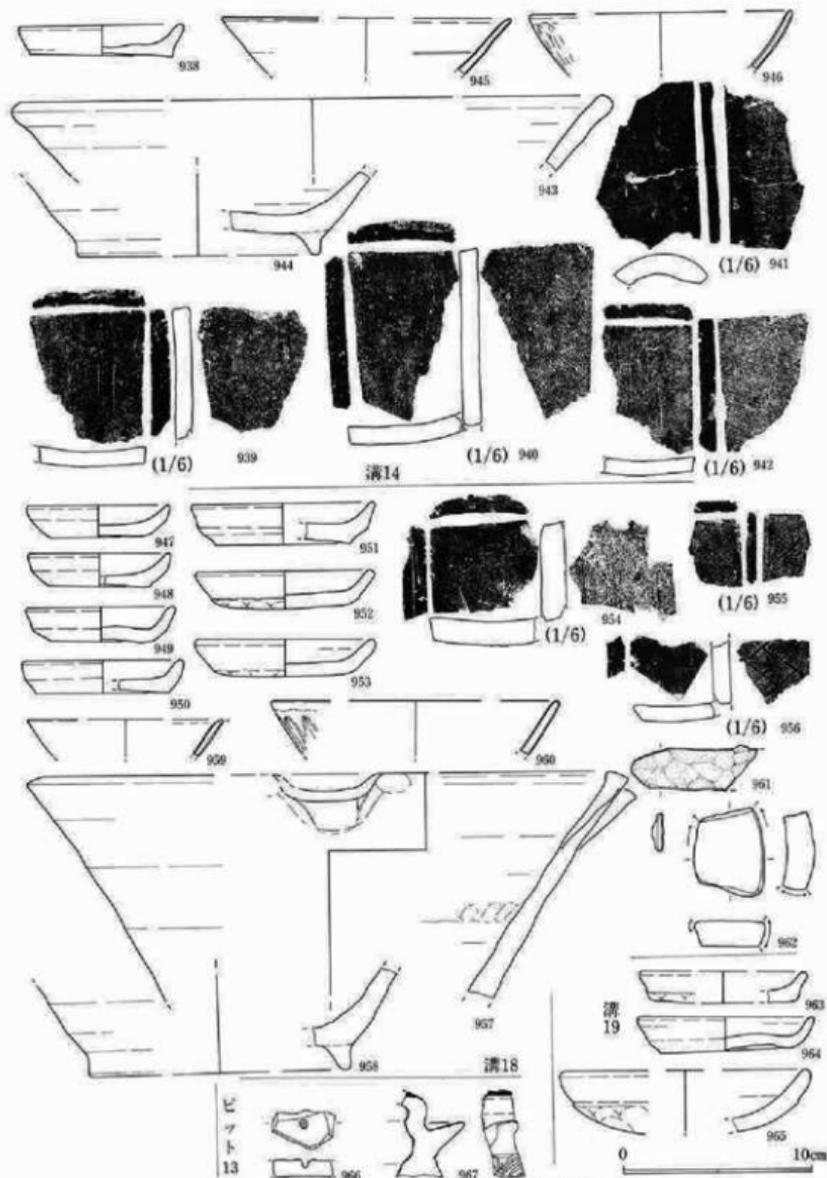


図01 1b面IV区溝14・18・19、ピット13出土遺物

## V区

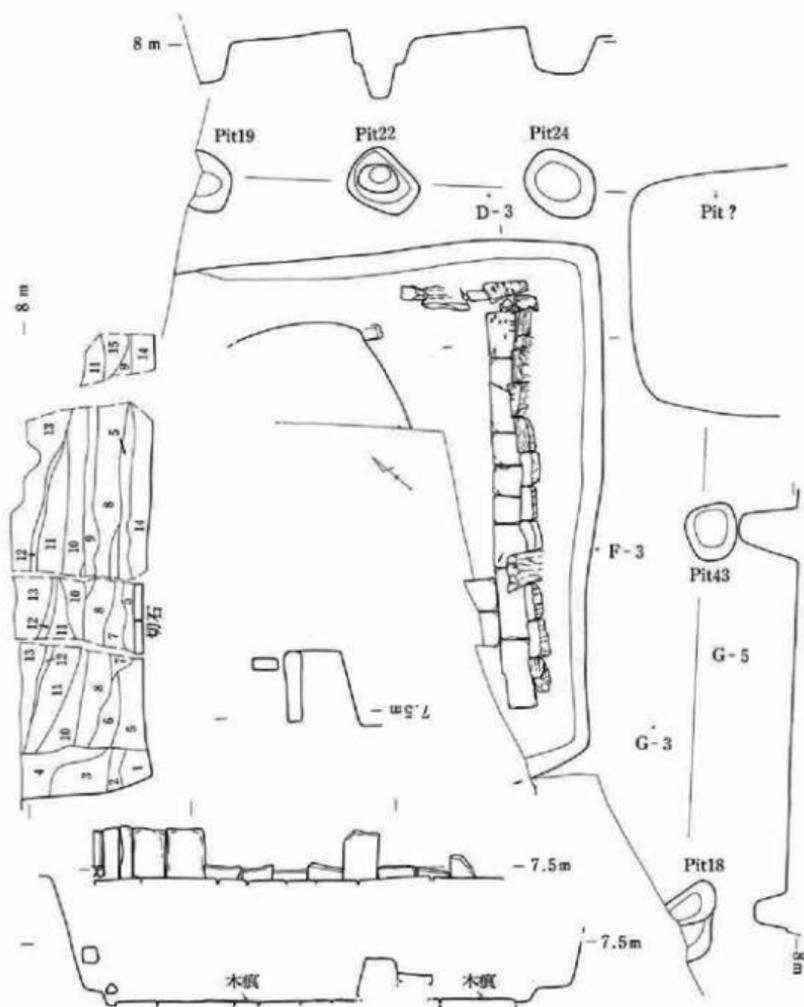
V区とした地域は、調査区の西南、方形竪穴建築址を囲むようにし字形に並ぶピット列によって他地域と区別された敷地を指すが、本来は溝28によって北を、溝22によって東を限られた区画と思われる。その区画内にピット列で囲んだ敷地に方形竪穴建築址が建てられた。遺構の切り合いと配置から、溝18は方形竪穴建築址を囲むピット列を切るためにそれ以前の溝が方形竪穴建築址の北東および東を限る。それらとして溝19と溝22ないし24を想定できる。すでに指摘したように溝22・24は溝16・17とともに調査区内の区画割りにおいて南北溝の基本でありながら、溝22・24に東を限られた区画の西の境界は不明であった。そうした溝22・24の西方にI区の南北ピット列の延長線上に近い位置に方形竪穴建築址の東側ピット列がある。このようにみる時、溝16・17を東の境界とするI区と溝22・24を東の境界とする方形竪穴建築址の建つ地域が相似形の区画割りとして現れてくる。すなわち、溝22・24とIII区との間にある空地が通路であった時期の存在をすでに記しておいたが、その時期には溝22・24の西方はここで言うV区に属していたことになる。

以上のようにIV区とV区は本来異なる区画ではなく、IV区とV区を包括した本来のIV区から分離して東へ拡大した部分をこれまでIV区として記してきたこととなる。そして、このIV区とすべき区画が次の1a面においてIV区とし確立する姿を見せるため、以下方形竪穴建築址をピット列で囲んだ地域をV区として記してゆく。

### 方形竪穴建築址1

調査区西端にて発見されたが、大方の部分は調査区外へと拡がっている。掘り方全形は長方形もしくは方形をなすと思われるが、調査では矩形掘り方の2辺を認め、東壁の南北長のみを確認できた。東壁の掘り方の長さは5メートル40センチの上場にはば垂直に落ちる壁下に5メートル25センチの下場をもつ。掘り方内部からは、掘り方壁面に平行した凝灰岩切り石列が発見され、本方形竪穴建築址は「土台建て」（宗栄1991）に分類される。発見された切り石は、底面に据え置かれた基礎石と、その外側に立てられた壁面下部をなす礫石がある。

基礎石は、長辺73センチ、短辺44センチ、厚さ13センチを測り、長辺を壁面に平行させて連ね、掘り方底面直上に据えられる。東壁下の基礎石全長は4メートル25センチを測るが、南方においては基礎石一ヶ分を残して東西方向の基礎石が据えられている。北壁下では、現代井戸の掘り方攪乱により東西方向の基礎石を確認できなかったが、北辺の礫石が東壁下基礎石の北端外側に配されていることから判断して北壁下基礎石は東壁下基礎石北端に直角に据えられていたと考えられる。他方、南壁下に発見された基礎石は、東壁下の基礎石と同一規格のものであるが、ここでは基礎石が一行でなく二列に並び置かれている。この二列に配された基礎石は、実は建物の基礎ではなく、おそらくは出入口施設に伴うものと考えられる。なぜならば、基礎石上に乗る建物の土台角材の痕跡が東壁下基礎石列の南端にまで認められ、また土層観察からも土台角材痕南端までが室内であったと判断できるからである。室内床面は基礎石上面レベルに合わせ炭化物混りの粘質土を敷く。壁下部の礫石は基礎石と同規格を用いながら隅部で幅を調整している。焼失建物。



土層注記

1-4. 真込め土。

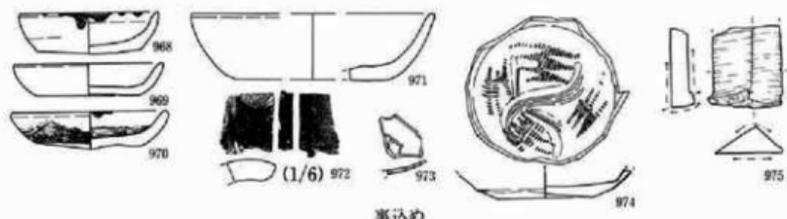
6. 茶褐色弱粘質土。極大熱泥岩塊と炭化物を多量に混じえる。

7. 暗褐色弱粘質土。極大熱泥岩塊と炭化物を混じえる。

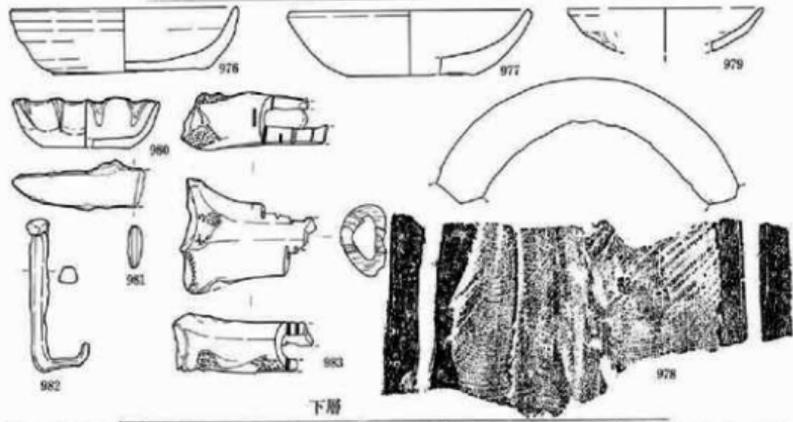
14. 暗茶褐色弱粘質土。床下土。炭化物と泥岩粒多く混じえる。

0 2 m

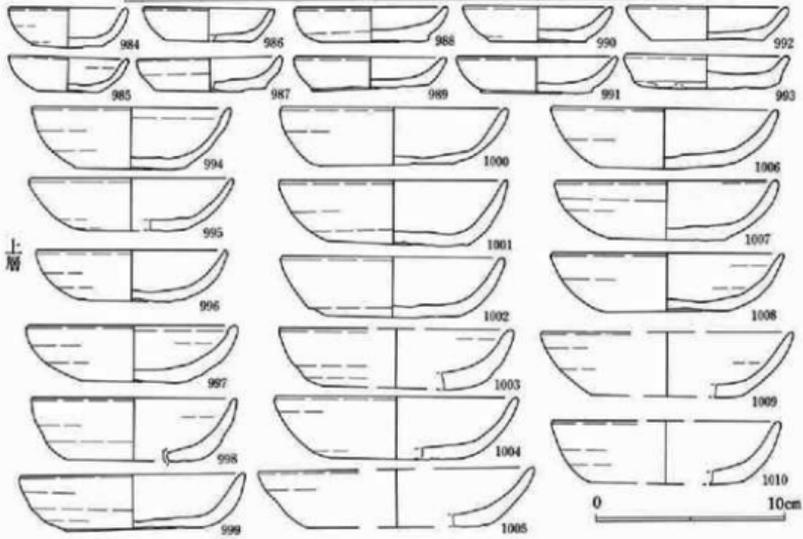
図62 1b面V区方形竪穴建物1



裏込め



下層



上層

図63 方形竪穴建築址1出土遺物(1)

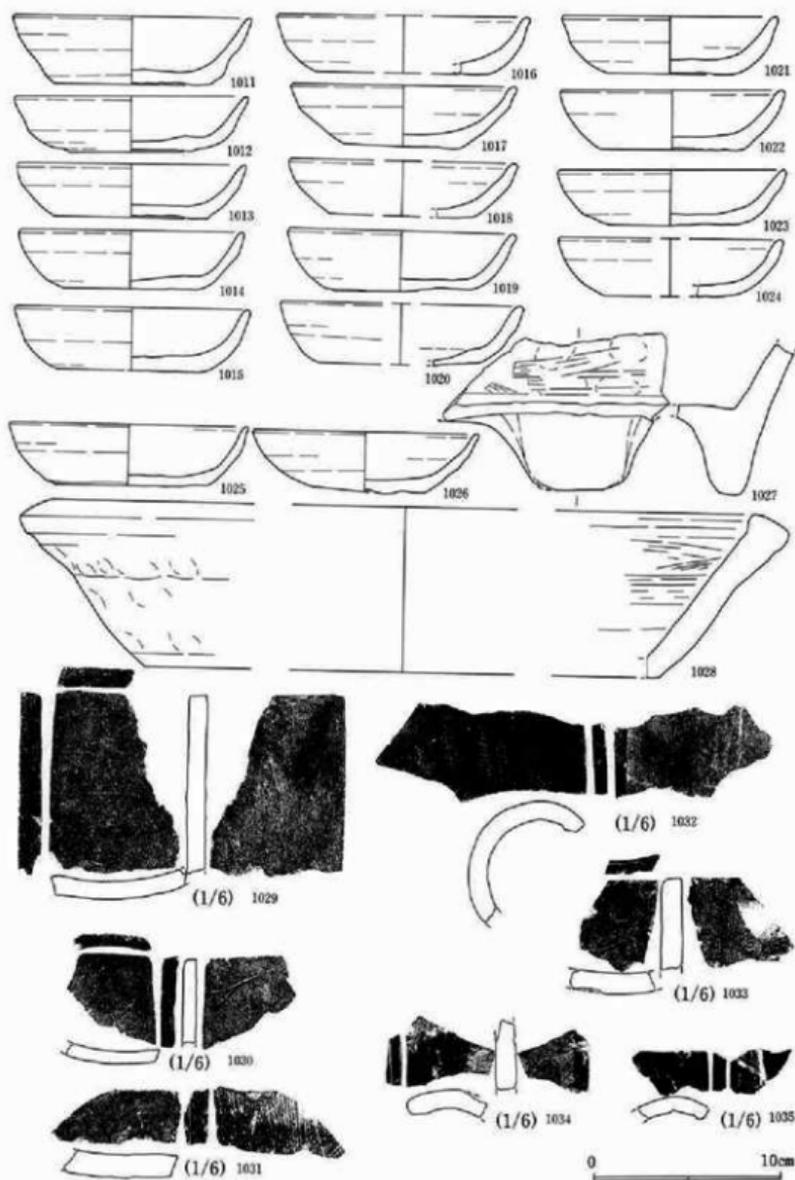


圖84 方形竪穴建築址1出土遺物(2)

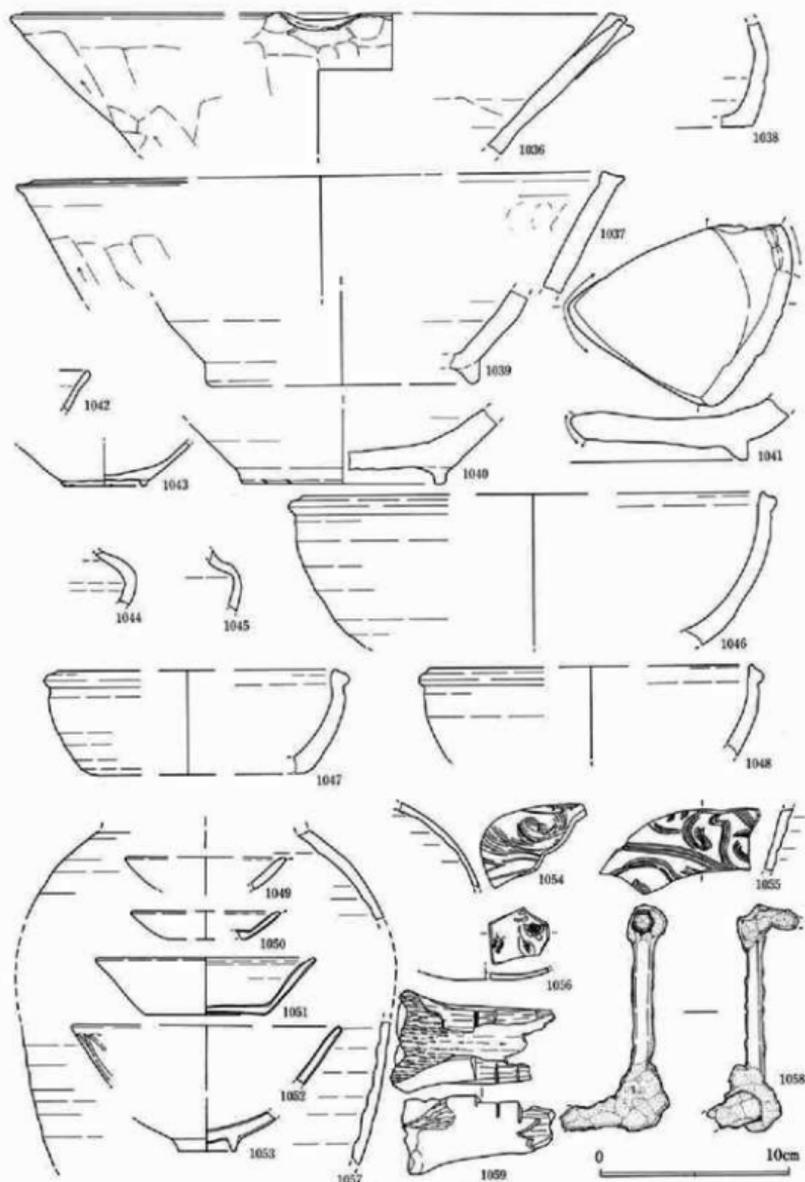


图65 方形竖穴墓葬址1出土遗物(3)

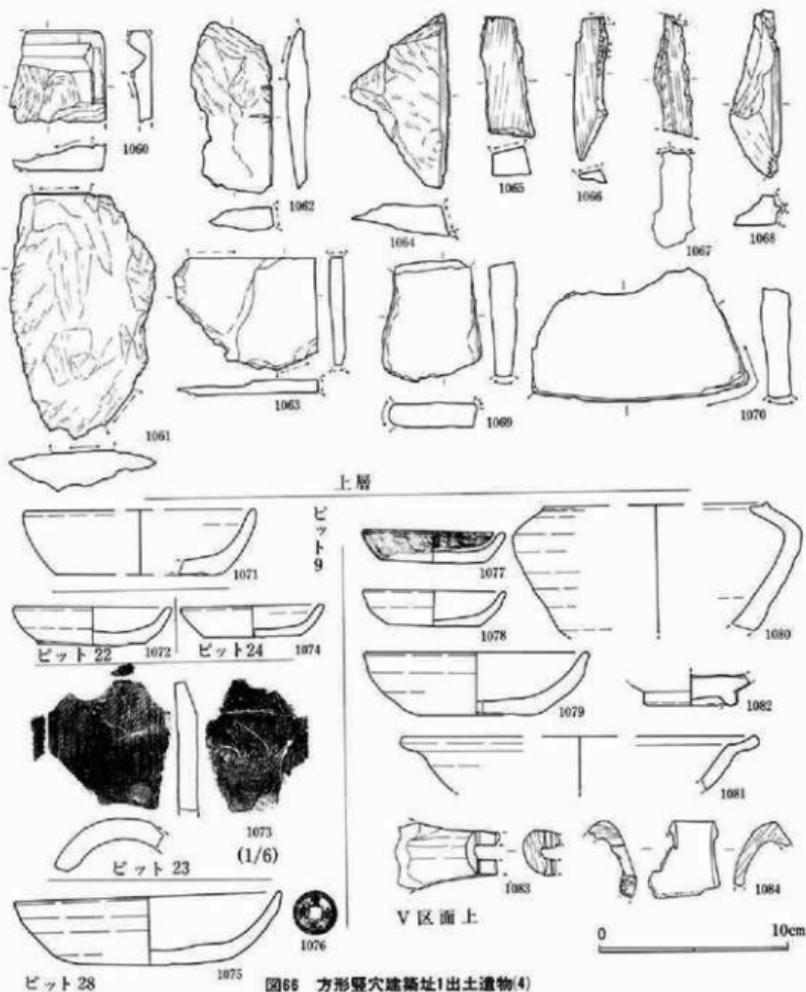


図66 方形竪穴建築址1出土遺物(4)

#### 1b面および面下出土遺物

方形竪穴建築址1覆土内からは、かわらけや陶器、船載陶磁器などの多くの器類のほかに、擦り切り痕のある加工獣骨と硯製作用硯石が出土し、工芸活動を示す遺物が出土している。こうした工芸活動を示す遺物群が多数の瓦とともに1b面構成土中からも出土している。また1b面下D-5グリットからは青磁碗とかかわらけの完形が一括で発見されている。

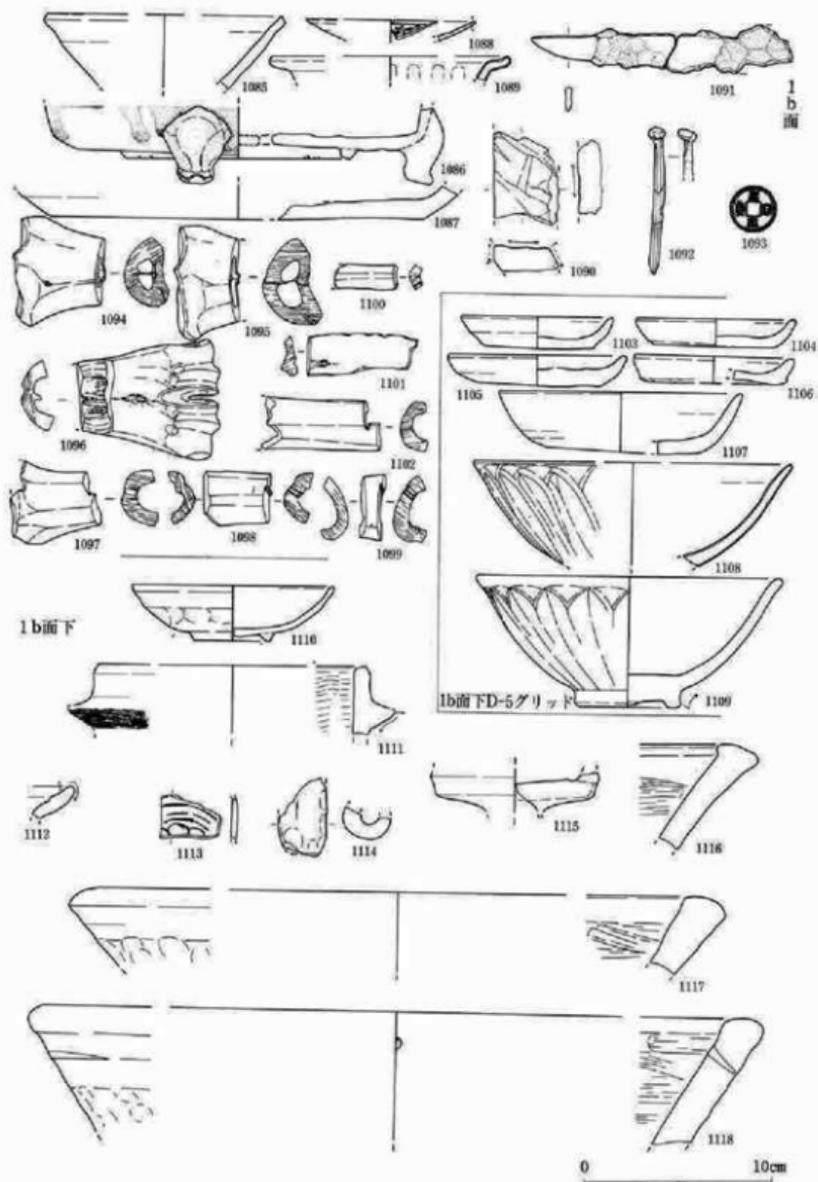


図67 1b面、1b面下D-5グリッド、1b面下出土物(1)

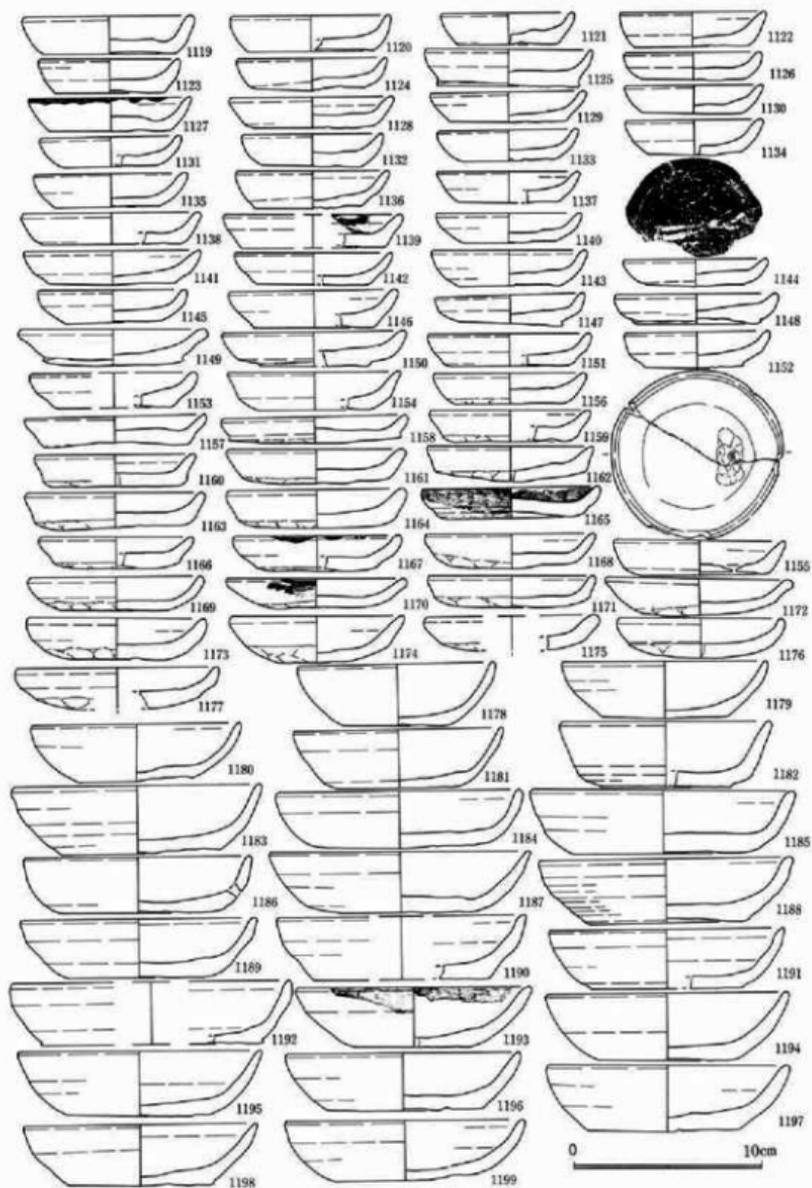


图88 1b面下出土遺物(2)

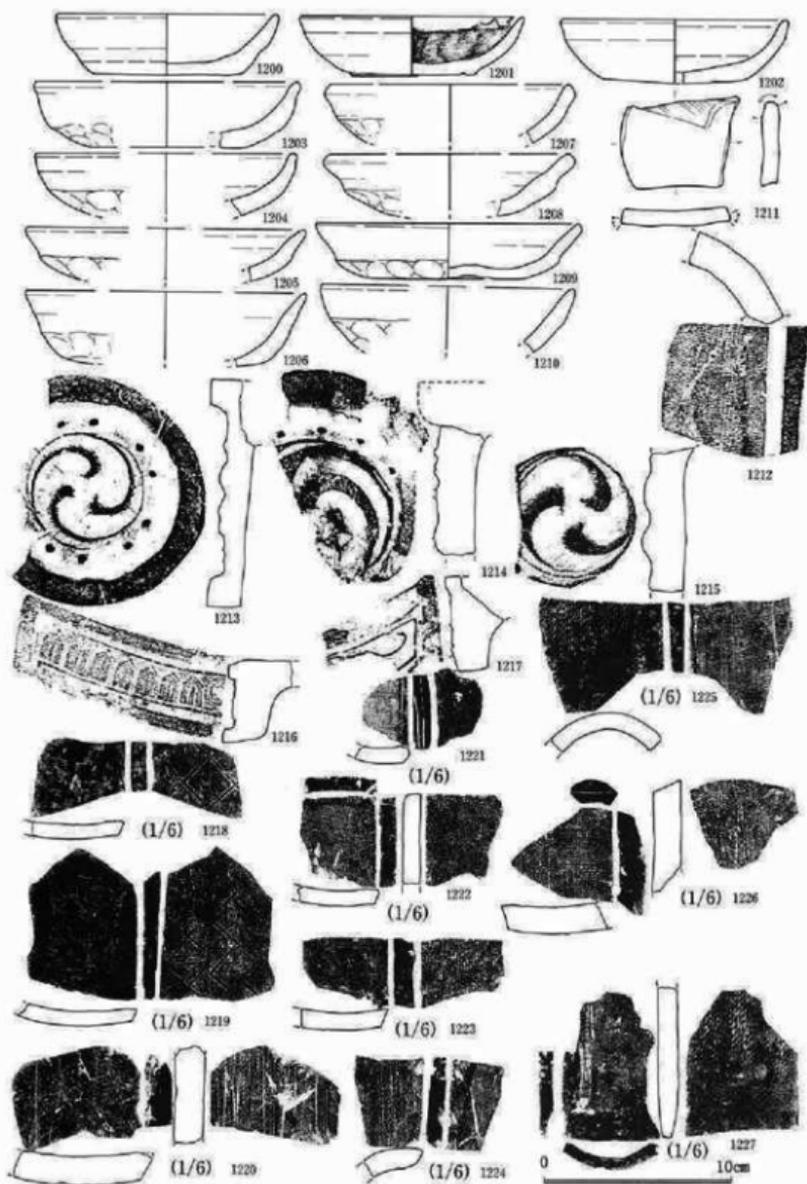


图69 16面下出土遺物(3)

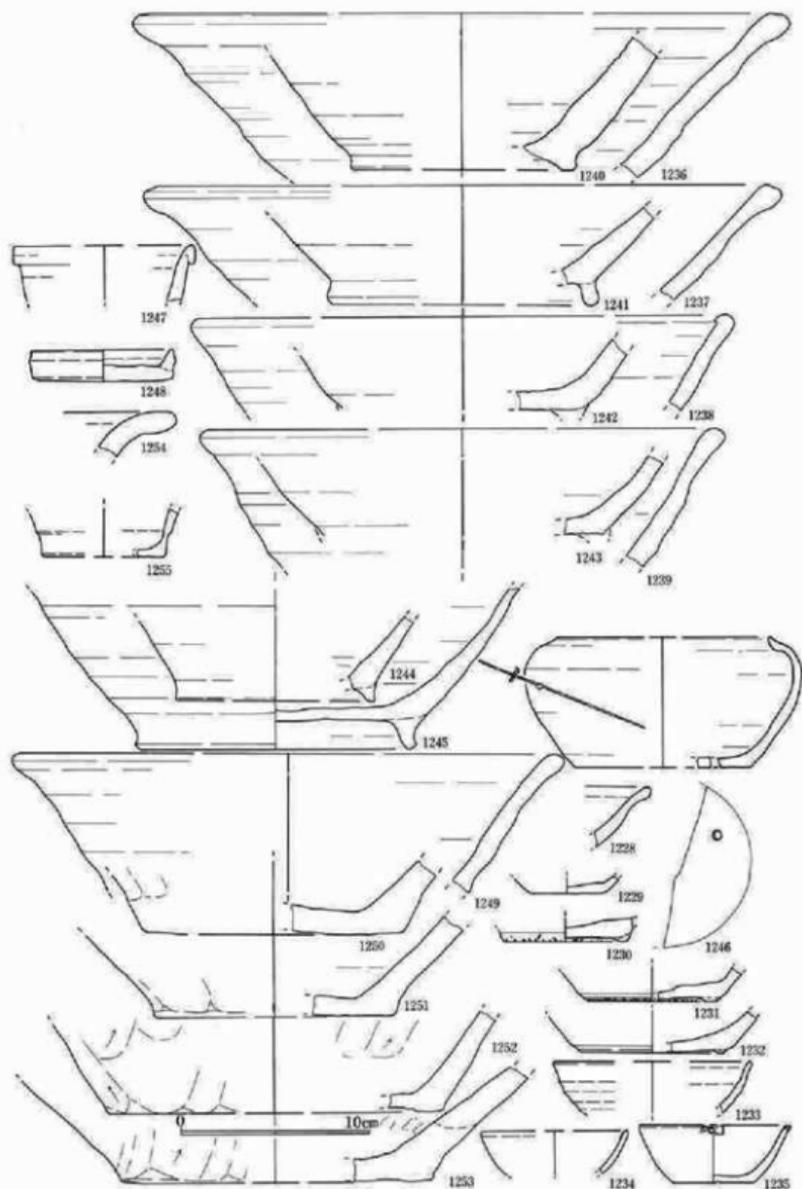


圖70 1b面下出土遺物(4)

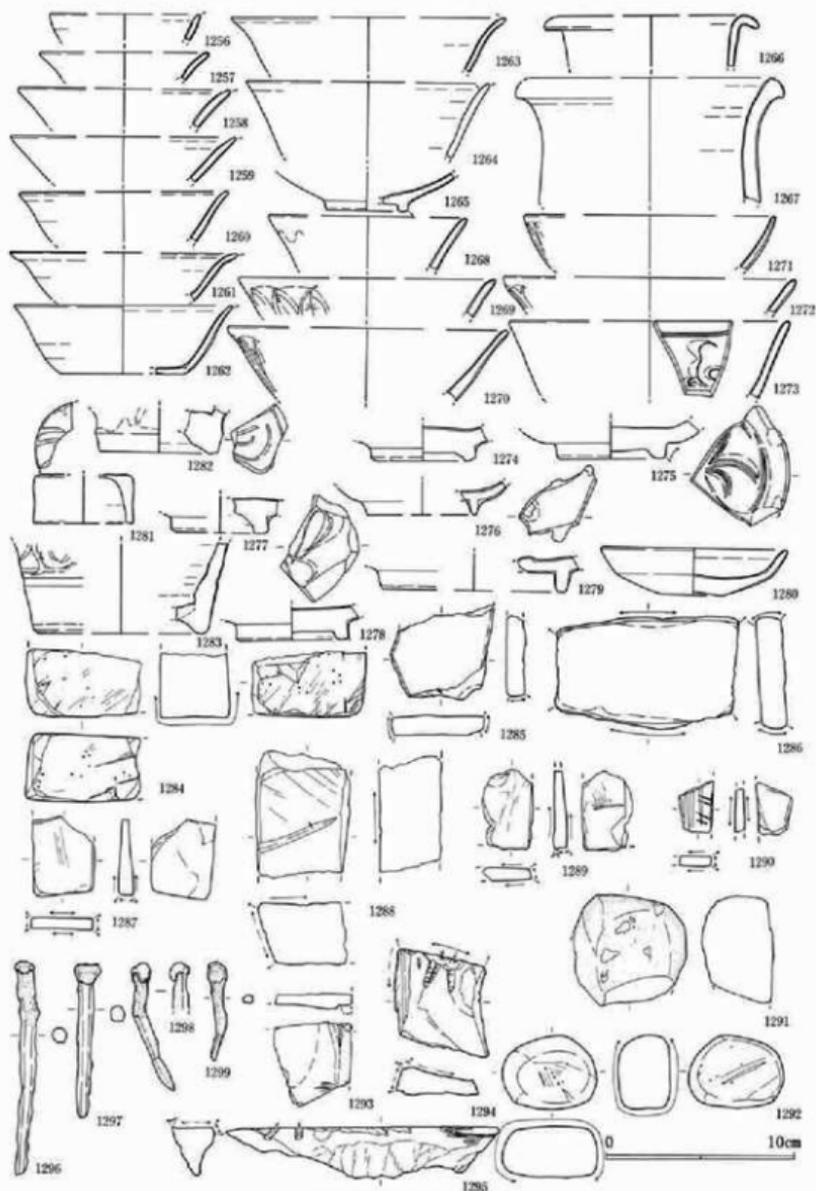


图71 1b面下出土遗物(5)

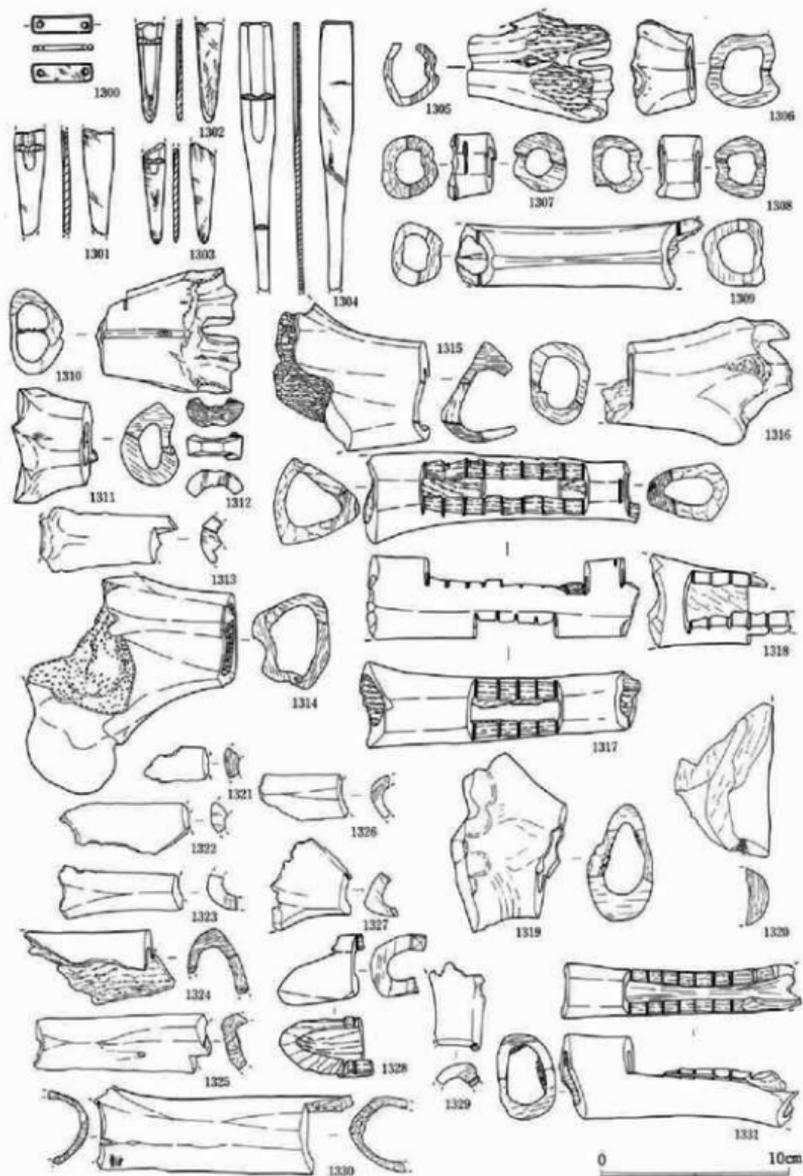


图72 1 b面下出土遺物(6)

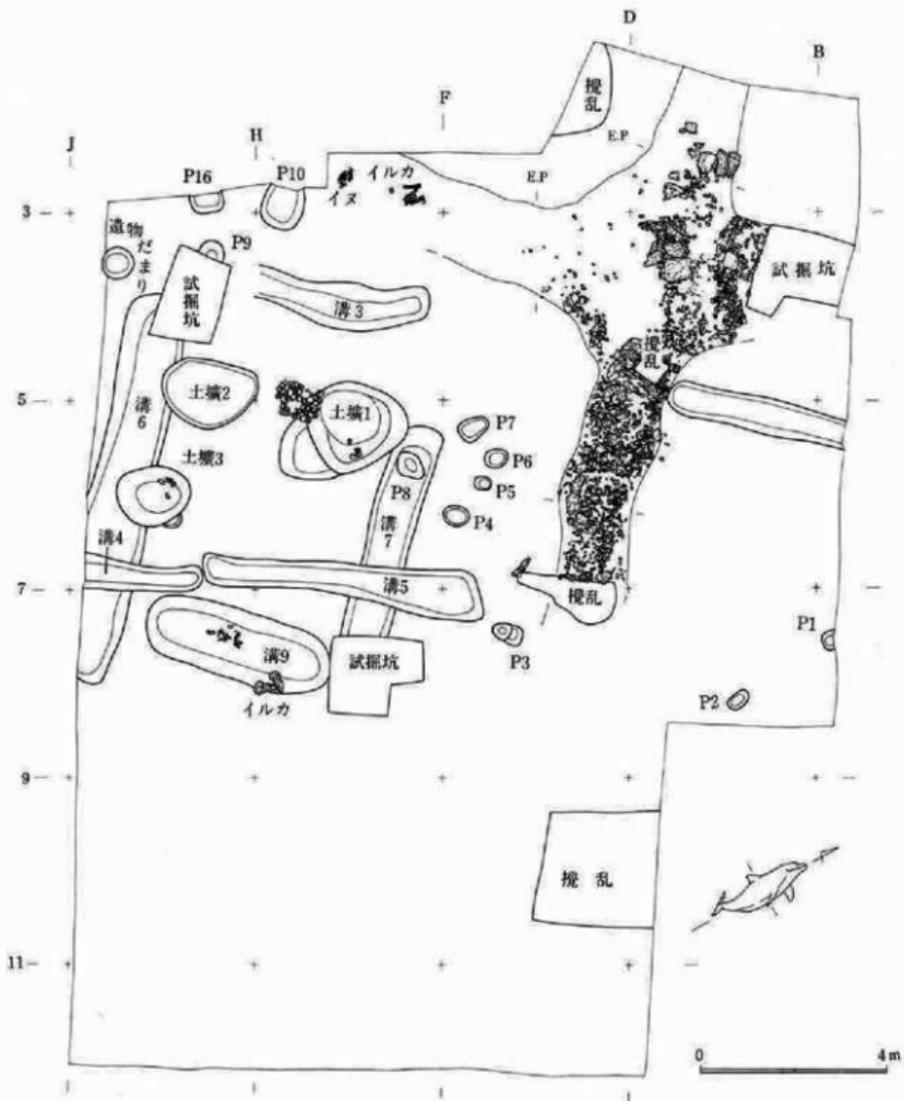


図73 1a面全体図

## 第1a面

1a面は発見された3枚の中世生活面のうち最上面にあたる。この時期に属する遺構は調査区の西側半分のみ発見されている。第二章にてすでに記したように、1a面を構成する地業土は調査地の西方に位置する長谷小路に向けて厚く堆積し、東は薄くなって、調査区内東側においては1a面地業層を認めることはなかった。1a面の時期には、調査地周辺において活発な生活を地中に止める活動が長谷小路に近い地域に集まるような、街形成の縮小が想定できる。

1a面に発見された遺構は、2条の交差する泥岩版築道路と、道路によって分割された4区画に造られた溝と土甕である。区画の名称は、生活面の確認されなかった調査区東側にも2面以来のIII区を踏襲して与えたため、時計回りにI～V区とした。

### 道路

道路は1b面の溝28・14・31と方形竪穴建築址1の東側ピット列の地割ラインに沿うように築かれている。道幅は85～90センチと狭く、路地のようなものであるが、これだけの版築面を構築するからには単なる家屋間の路地というより、調査区外西方にあると思われる長谷小路と密接なつながりをもった街並形成の一部をなしていたと考えた方が良であろう。

路面の版築にあたっては、路面下を掘り込んだ下地固めの後に行われ、路肩に大型の泥岩塊を据

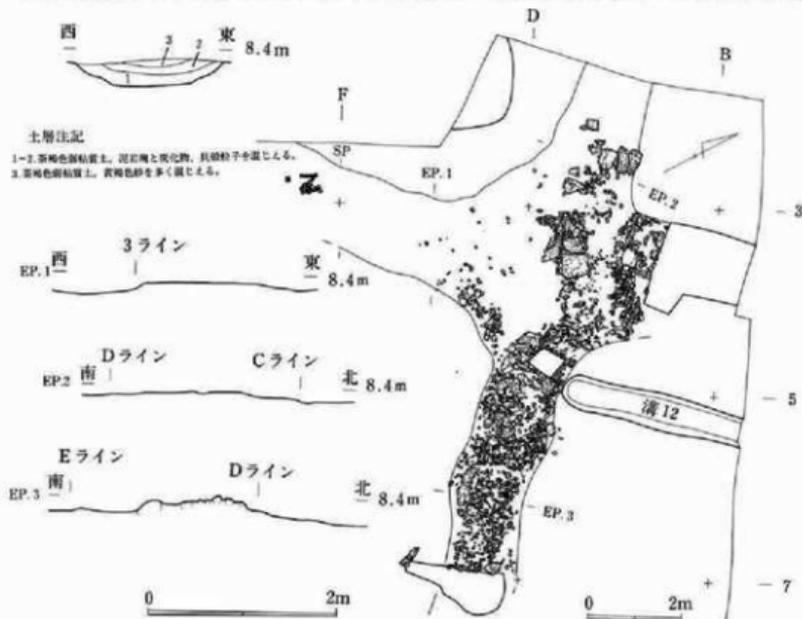


図74 1a面道路



図75 1a面上イルカ骨

えている。この路面上と道路脇にイルカ類の脊椎骨と上頸骨が発見された。脊椎骨は4つの椎体を一つながりとした状態で4列と2つ、計18体がまとめて出土し、それぞれの椎体は全て突起を切断されていた。胴体を輪切りにした後に、脊椎の突起ごと肉を切り落としたのだろう。

## II区

道路によって区画分けされた調査区内I～V区なかで、III区には生活面の遺されていないことをすでに記したが、生活面の遺る調査区西部でもI区とV区には遺構を認めることはなかった。II区とIV区にのみ遺構を確認したが、そこでの成果をI区・V区に適用するならば、I区とV区にあると思われる遺構は道路からいまま少し離れた調査区外に遺存すると思われる。

II区に発見された遺構は、溝12の南北溝、一つだけである。北は調査区外へと伸び、南は東西道路に接する。発見された地点は南北道路から1.2メートル離れている。幅85センチ、深さ30センチを測る。溝底に1335のかわらけが存置する。

### 1a面I・II区面上出土遺物

溝12出土遺物に視製作用端材(1339)があるように、面上からも視石端材や砥石、獣骨擦り切り残片が出土している。1a面においても下層面同様に、獣骨と石材を用いた工芸がなされていたことを確認できる。また道路面上のイルカ類脊椎骨の状況と合わせて考えるならば、動物の解体から獣骨利用工芸活動までを一連の作業としていたことを窺わせる。

## IV区

版築道路の南東に位置し、北と西を道路で限られた区画である。区画内はさらに溝で四方を囲まれた敷地を形成している。道路のある北と西にある溝は道路の肩からそれぞれ、北では2.9メートル、西では1.2メートル離れて位置する。溝で四方を囲まれた敷地は、道路との直接的結びつきを持たない。中世前期鎌倉の市街地と思われる地域にて、屋敷地とその前面に展開した街並が発見された今小路西遺跡・御成小学校地点にみられた道路と密接な関連性を持つ家屋・敷地(町屋?)形成とこの1a面、特にIV区の敷地形成は異なる様相を示している。中世鎌倉における地域的な生活空間

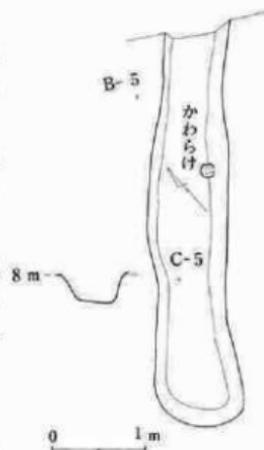


図76 1a面II区溝12

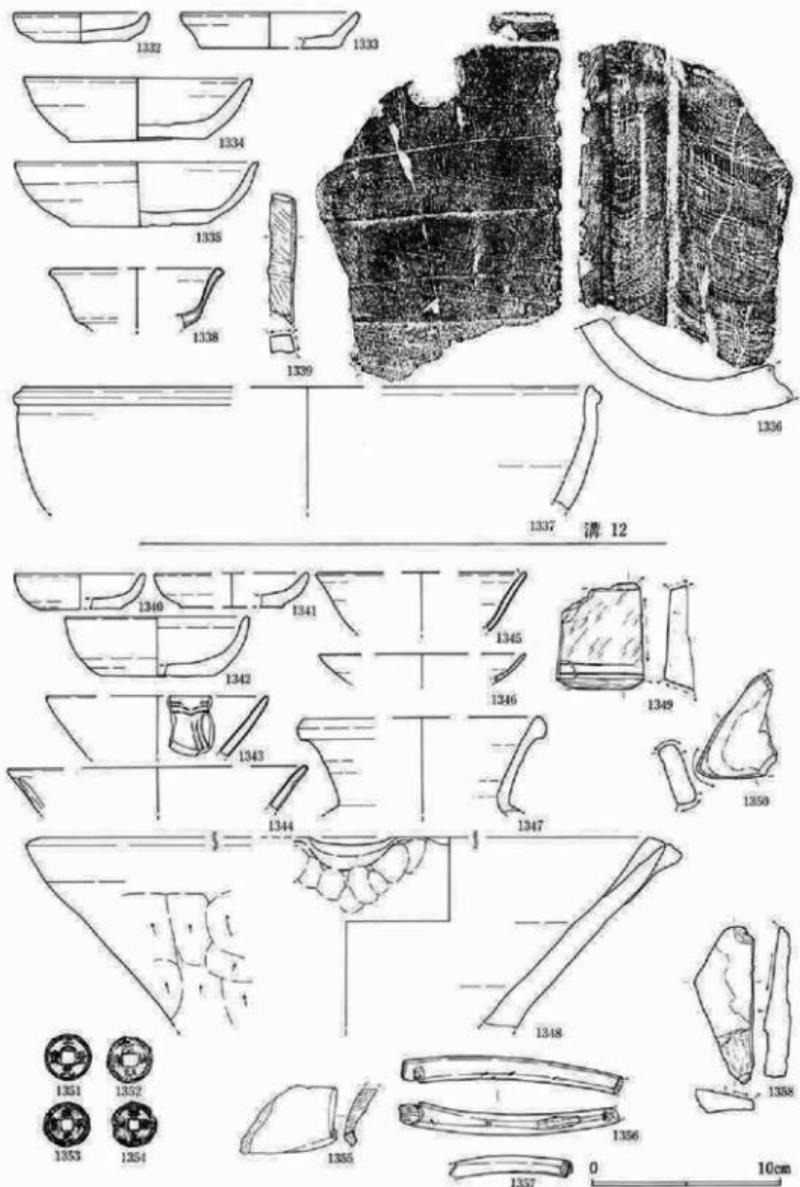


图77 1a面II区清12、1·II区 面上出土遗物

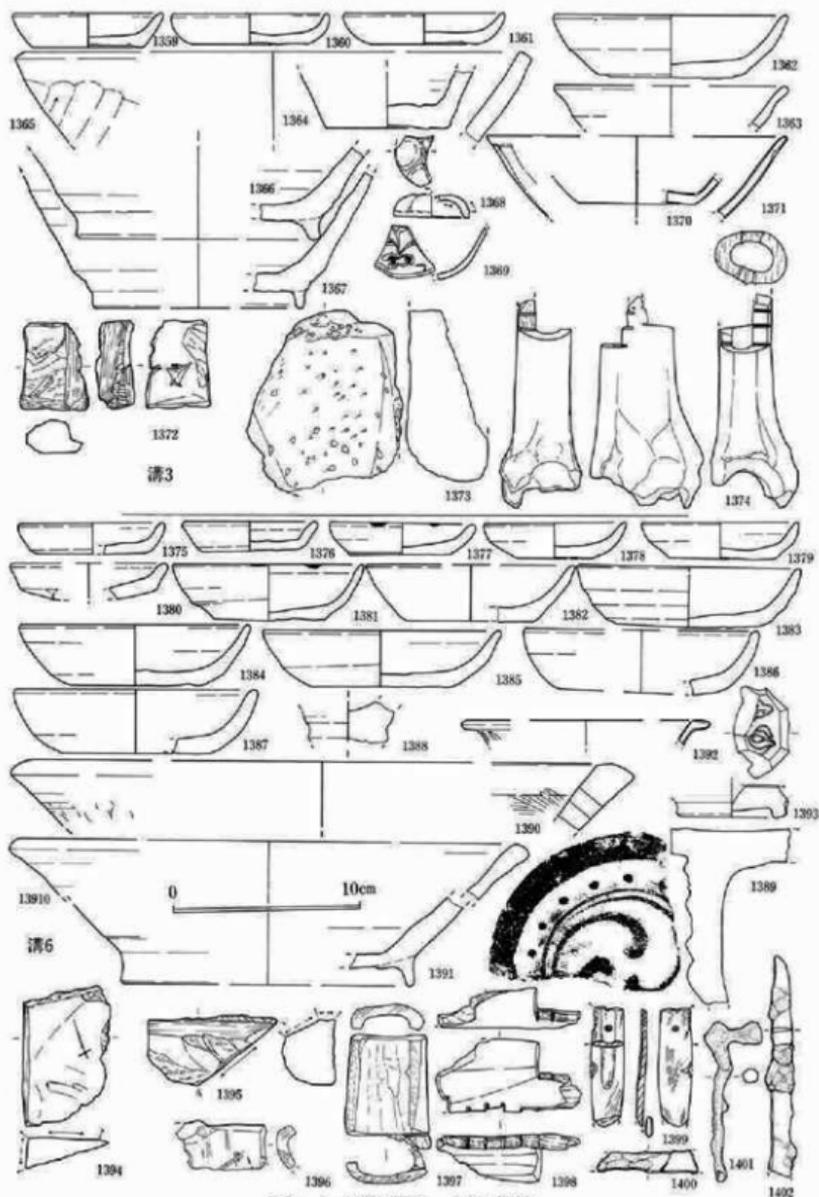


图79 1a面IV区清3·6出土遗物

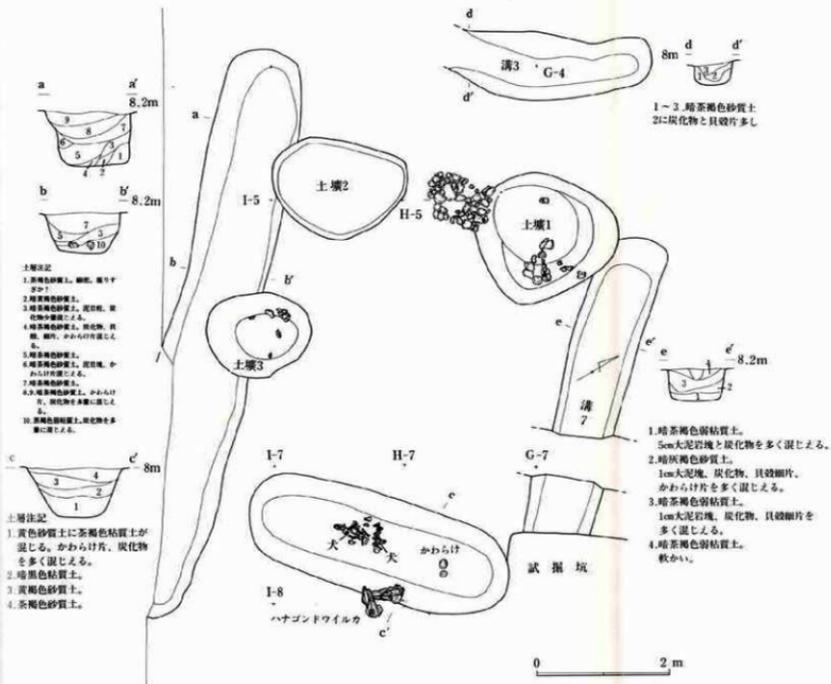


图78 1a圖IV区

の差であろうか。

ちなみにII区での溝12が道路から離れて位置する状況は、IV区の敷地形成における溝の配置と同様の意図によったものであり、またI区とV区において道路に接近した空間に何ら遺構を発見できなかったことをもIV区での状況が説明している。

### 溝3

IV区敷地の西を限る南北溝である。南端部は上層からの攪乱によって、浅い落ち込みをわずかに確認できるだけで、不明瞭であった。最大幅1メートル、深さ52センチを測る。全体に湾曲し、南北軸線をとりにくい。他の溝6・7・9の長軸とはほぼ平行・直交関係を有する。

出土遺物では、やはり王芸関係がみられ、1373の軽石は皮革工芸の狀毛除去用であろうか。

### 溝6

IV区敷地の南を限る東西溝である。IV区では最大の溝。長さ8メートル65センチ、幅1メートル18センチ、深さ53～82センチを測る。断面は箱形を呈し、底面は東から西へ下る。溝の東西両端はそれぞれ南北方向の溝である溝3・9と若干の隙間を残して接している。

出土遺物には、薄手丸深の中型を1点含むかわらけ群、鉢型の火鉢、永福寺III・IV期軒丸瓦の他に瓦と骨材工芸の端材が出土。永福寺III期以降の瓦型式は、永福寺などの大寺院以外にも使われており、瓦の製作年代がある程度出土遺跡地の年代指標となりえるものである。

### 溝7

IV区敷地の北を限る東西溝である。溝の東端は試掘坑によりこわされているが、それより東には延びない。推定長6メートル、幅96センチ、深さ50センチを測る。断面は箱形を呈し、底面は平坦である。溝西端とその西方にある溝3とは2メートル20センチ隔れ。そこは出入口であろう。

出土したかわらけは、薄手丸深の大・小型の他に器高が高く底径口径比の大きなものが目立つ。

### 溝8

IV区敷地の東を限る南北溝である。南北長4.1メートル、幅1.5メートル、深さ73センチを測る。断面はU字形をなすが、幅広い底面は平坦である。

溝底からは1421と1422のかわらけが底面に貼りつくような状態で出土した。溝の開削直後の遺物であろう。1422は薄手丸深の大型品の早い時期の典型である。また覆土下層では犬骨が2体分寄り添うように発見された。

覆土最上層から溝淵にかけてには、ハナゴンドウイルカの上顎骨から頭骨にかけての骨体が3頭

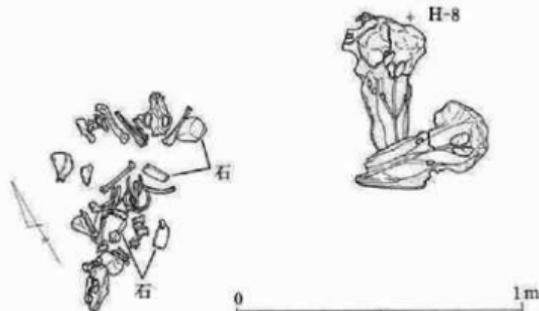


図80 溝9内獣骨

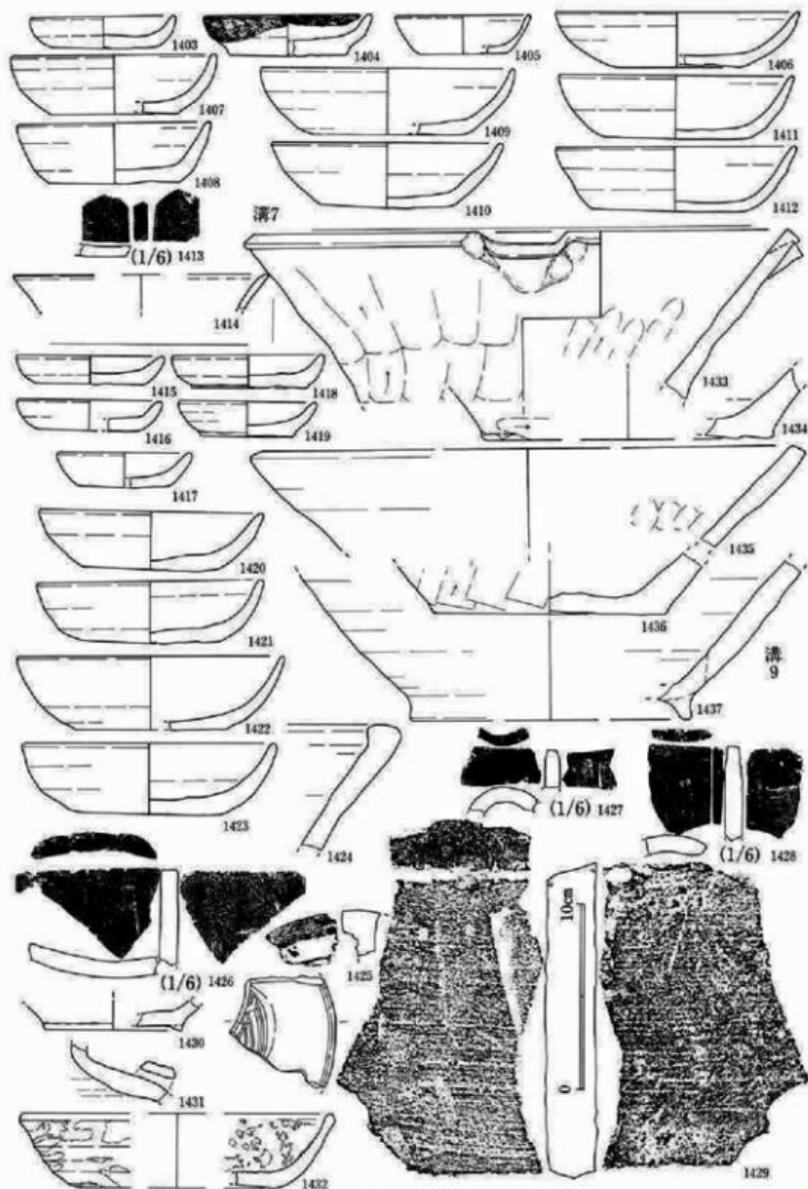


图81 Ia区IV区清7·9出土遗物

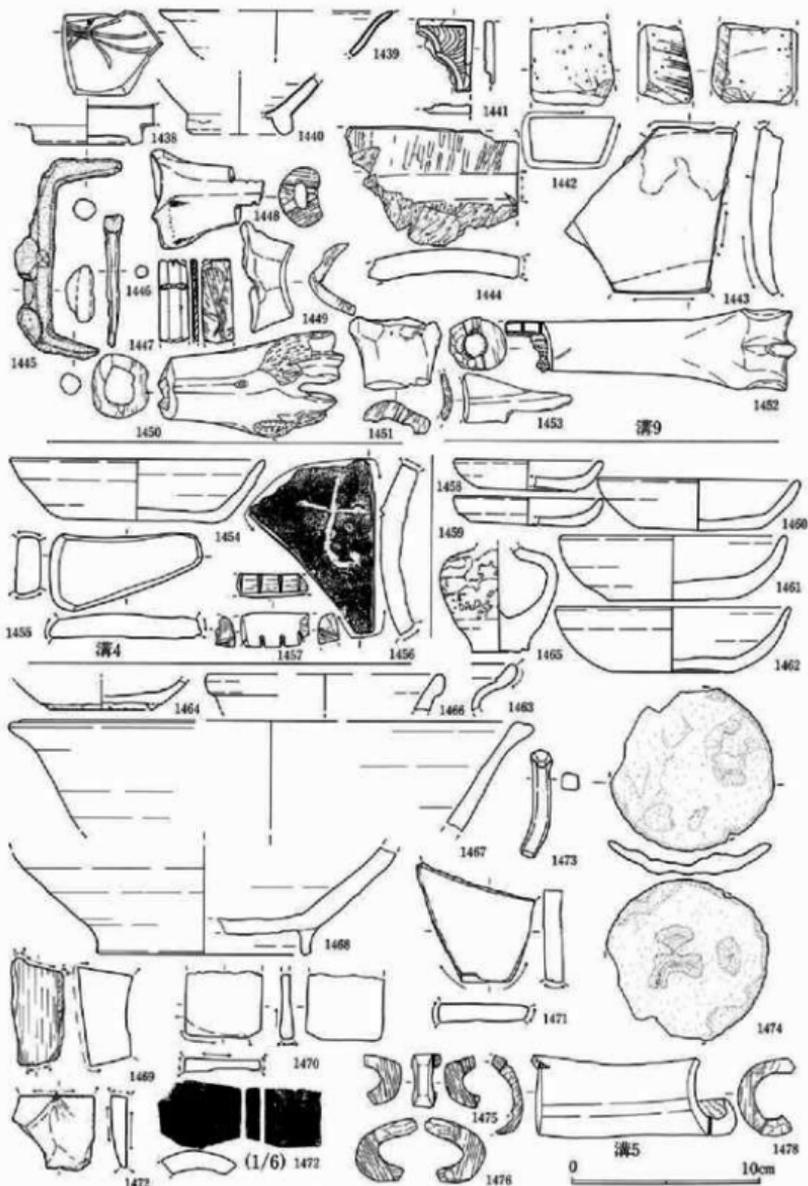


图82 1a面IV区清9·4·5



図83 1a面土坑1・2・3

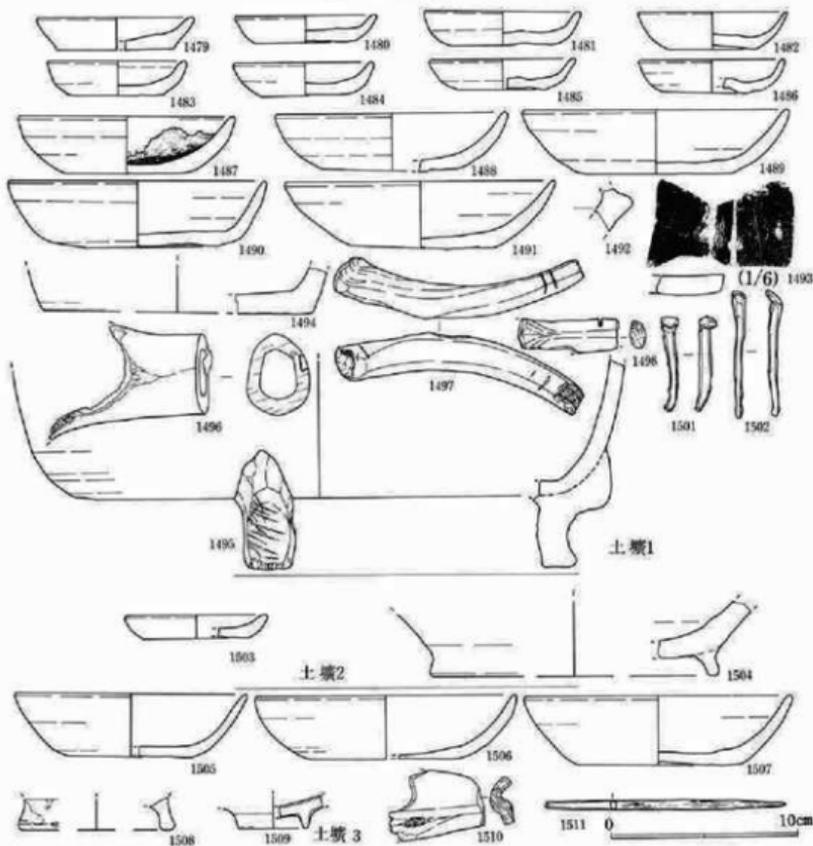


図84 1a面IV区土坑1・2・3出土遺物

分発見された。発見された骨のうち2頭は上顎骨の両側が削りとられている。その折り重なる2頭の下から発見された骨は、顎骨を失い真黒に焼けた頭骨のみであった。先の道路脇に発見されたイルカの骨もやはり上顎から頭骨の骨であり、解体の後に、体部と頭頸骨部が別々に処理されていたことをこれらは示している。イルカ類顎骨は図版25のように骨材工芸に用いられている。

#### 土壌1

溝7の西端部南側に位置する。溝7を切るこの土壌はより新しいと考えられるが、土壌の配置される方位関係は、溝3・6・7・9の作る敷地の軸方位と一致する。土壌は、不整円形を呈する2段落ちの形状をもつ。南北2.1メートル、東西1.9メートル、深さ45センチを測る。底面から多くの遺物が出土し、大きくて薄く大型のかわらけが年代指標になる一方、古手の瀬戸獣足盤も出土。

#### 土壌2

溝6を切って、その北に位置する。不整円形の浅いものである。南北2メートル5センチ、東西1メートル48センチ、深さ18センチを測る。

#### 土壌3

溝6を切って、土壌2の東に位置する。南北1メートル45センチ、東西1メートル25センチの不整円形を呈し、深さ43センチの断面すり鉢状をなす。やはり口縁の大きく開くかわらけが出土する。

#### 泥岩敷

土壌1の南に発見された遺構である。上面を平坦に調整された矩形や三角形の泥岩が、95×70センチの長方形に敷き詰められている。全体に中央部へ向けやや窪み浅い皿状をなす。

すぐ北にある土壌1との関係がまず考えられるが、この泥岩敷は何らかの作業台と思われ、溝9出土イルカなど動物の解体場ではないだろうか。

#### 溝4・5

溝4・5は、それぞれ溝6と溝7を切って、南北に連なる、より新しい溝である。また溝4・5の南北軸の方位は、調査区内に設定したグリッドラインにはほぼ沿う方向を指し、より古い南北溝である溝9と異なる。よって、IV区のなかでも、溝3・6・7・9が作る敷地構成と比べて、溝4・5の作る敷地はより新しい時期に属する。さらに溝4・5の南北軸は泥岩版築道路の南北軸と平行せず、また東西軸にも直行しない。新たな区画割りの出現も想定できるが、他に溝4・5と関係する遺構は確認されていない。また溝の断面形が底面幅のないU字からV字をなし、他の溝と異なる。

溝4は幅73センチ、深さ48センチ、溝5は長さ6メートル、深さ35-63センチを測る。

#### 1 a 面IV区面上出土遺物

遺構内からの出土遺物と同じく、骨材工芸作業を示す遺物がみられるとともに、端部に磨り面のある常滑片は革なめしにも使用されたのだろうか。

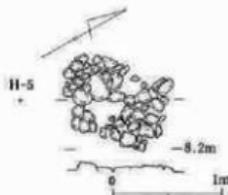


図85 1a面泥岩敷

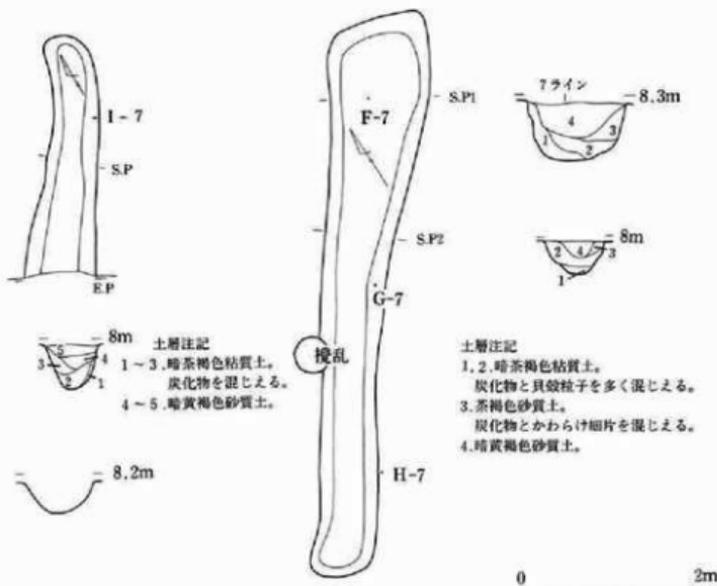


図66 1a面N区溝4, 5

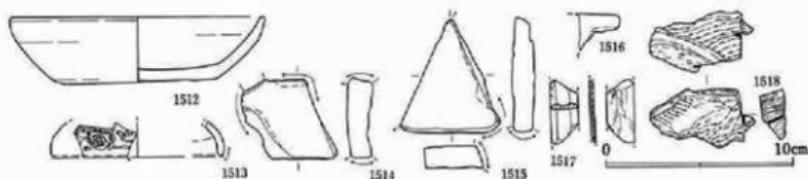


図67 1a面N区面上出土遺物

#### N区1a面上層土壌

溝6の南西、調査区南壁際に発見された。土層観察では、掘り込み開始面を確定できず、やや不安であるが、1a面の少し上層からと思われた。溝4・5の時期に伴う土壌であるかもしれないが、出土遺物では、本土壌の方がやや新しい様相を見せている。

土壌は不整形を呈し、南北64センチ、東西60センチを測る。確認できた深さは26センチ、底面の平坦なU字形をなす。土壌内からは、内外面上部にミガキをもつ瓦器質輪花型火鉢と数多くのか

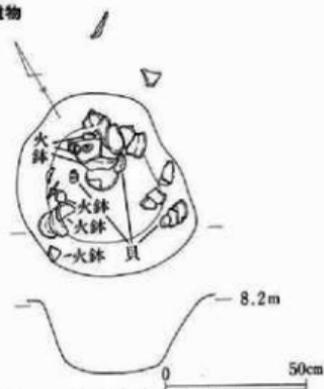


図68 1a面上層遺物だまり土壌

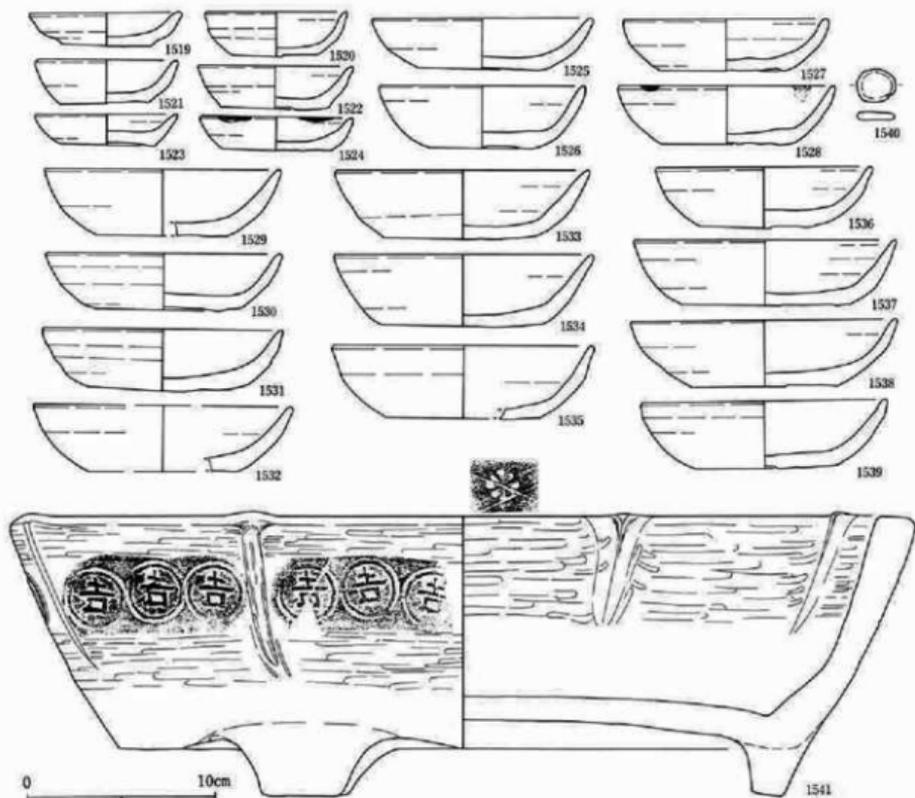


図89 IV区1a面上土壌出土遺物

わらけに混じてアカニシとハマグリの断片が出土した。火鉢はほぼ全景を復元できる破片が散乱していた。かわらけは全体に薄手作りで、口縁が大きく開き、器高の低いものである。

#### 1a面下出土遺物

1a面構成地業土中より出土した遺物である。1a面の構築時のおおよその時期を指標するものと思われる。

かわらけは、大・中・小型がそれぞれそろい、薄手丸深の存在と同時に他のタイプも薄手化して薄手丸深の模倣がはじまっている。また大型品に特大品がみられ、薄手化の確立期の様相を示している。火鉢では依然瓦質鉢型が残存している。

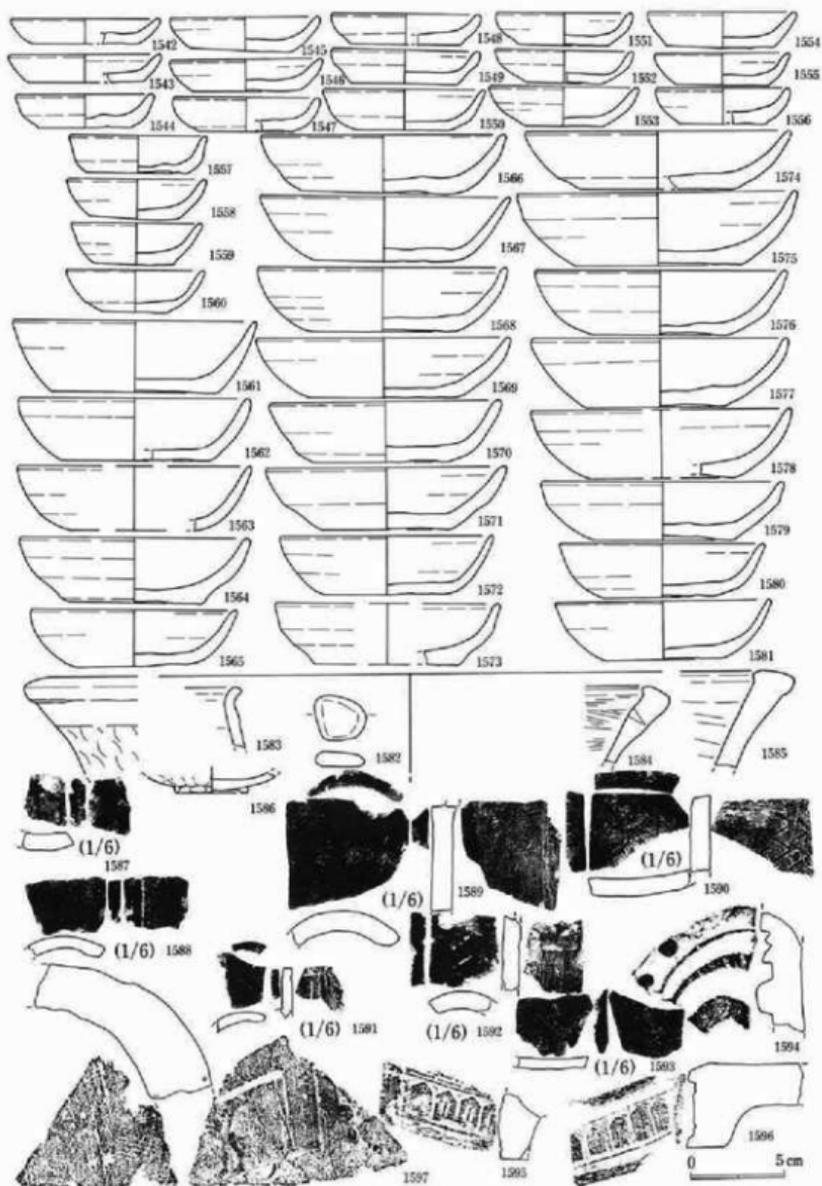


图90 1a面下出土遺物(1)

瓦の出土点数の多さが本遺跡の特徴の一つでもあるが、瓦では東海系の丸瓦をはじめ永福寺編年ではIII期IV期に属する瓦頭がみられる。1596の軒平瓦は上向き刻頭文の筈がズレている。1995と同范であろう。

南部系こね鉢の口唇部は肥厚し、いまにも2段作りになろうかとしている。

船載陶磁器では、口元の白磁皿を中心にして、青白磁の梅瓶と蓋、青磁の高台径の小さな碗と六角合子などがある。

石鍋は断面三角形の鈿が下向きにつくようになっていいる。同様に石材を用いたものでは、石材を搬入して遺跡地において使用・工作した砥石と硯の用材多数、それに硯の修理・再利用用品もある。

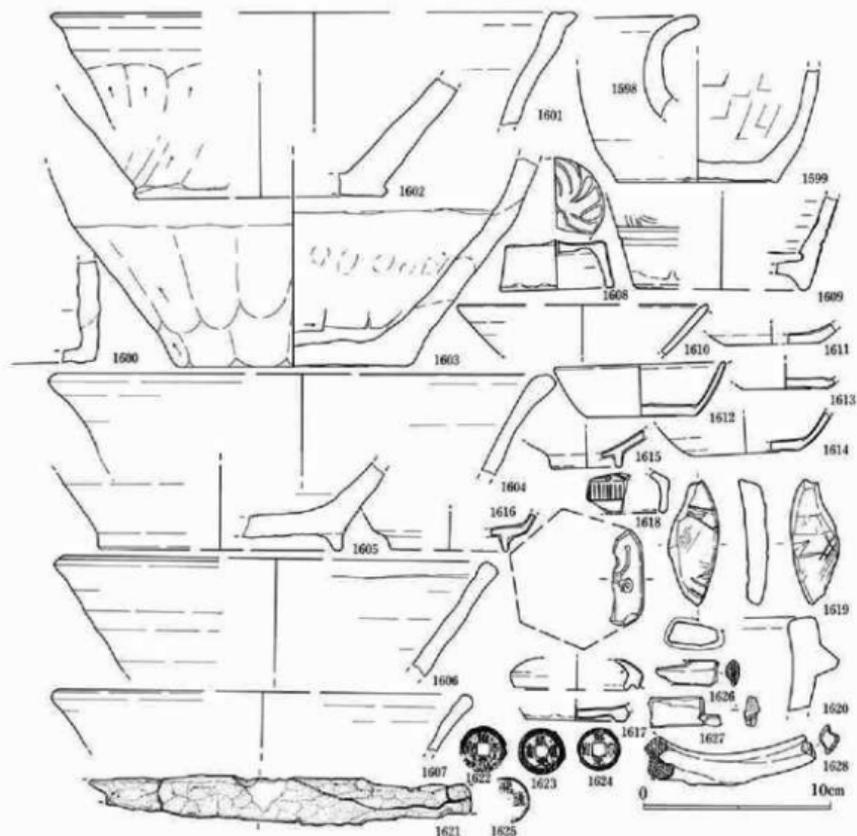


図91 1a面下出土遺物(2)

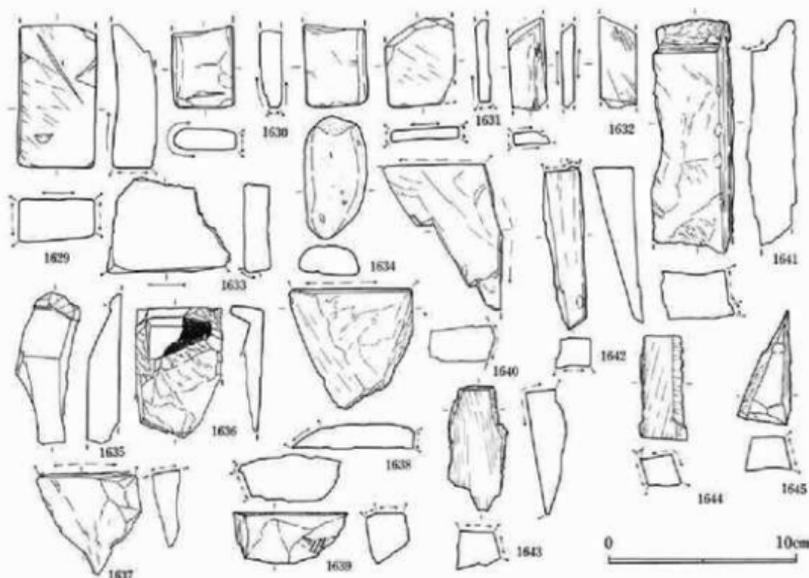


図92 1a面下出土遺物(3)

### 第3節 上層遺物包含層

重機をもって掘り上げた表土下に認められた、中世以降の遺物を包含する土層である。ここにおいてもかつての生活面が存在したと思われるが、明瞭な造構を伴う面としては確認されなかった。

#### 埋葬犬骨

上述の遺物包含層を掘り下げる途次に発見された。発見された時点においては、埋葬を明示する掘り込まれた土壌等を確認していないが、遺存骨の姿勢から考えて、遺物包含層中のいずれかのレヴェルでの生活面から掘られた土壌の中に埋葬されたものであろう。頭骨は調査中に失ってしまったが、手足を曲げてくるまるように横たえられている。

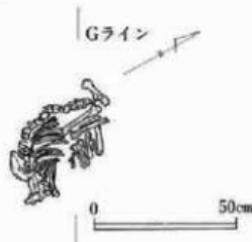


図93 包含層中埋葬犬骨

#### 包含層出土遺物

かわらけは、小型も器高が高くなるが、いまだ15世紀代のものとは一線を画している。在地もしくは鎌倉周辺で作られたと思われるかわらけ以外のものでは、火鉢が瓦質鉢型とともに七輪に近いものも現われている。まな瓦では、径の小さな軒丸瓦があり、これは秦野市龍法寺出土巴文瓦と類似する。

搬入品には、14世紀末から15世紀代を示す遺物が多くみられる。国内産では備前と瀬戸の播鉢が

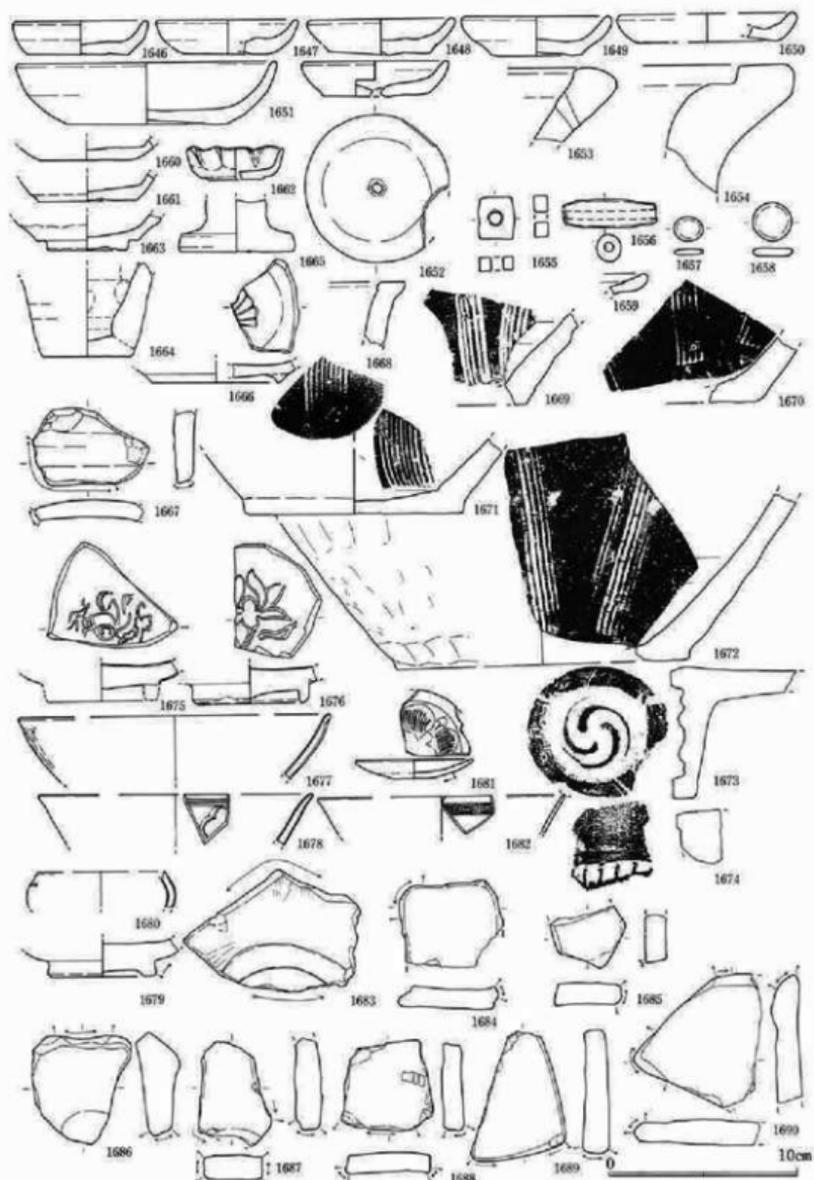


图84 上层遗物包含层(1)

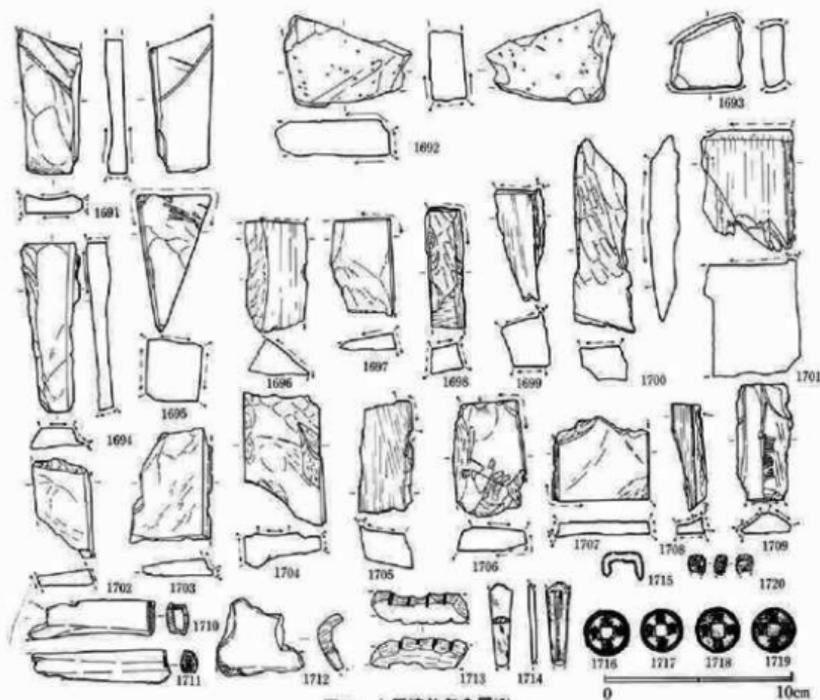


図95 上層遺物包含層(2)

あり、舶載中国産には明代の青磁碗などがある。また、同様の時期を示す青磁の皿と白磁雷文碗もある。

以上のように、1 a 面より上層にある遺物包含層からは14世紀中葉以降15世紀から16世紀までの年代を指し示す遺物が出土しており、遺跡地周辺もしくは遺跡地内の遺物包含層中にすら軟弱な生活面における人々の生活のあったことが予想できる。そして、そうした時期にあっても、遺物番号1683以降の端部に磨り面のある常滑片、砥石、硯製作用材の端材、それに獣骨加工片などが示す石材と骨材を用いた工芸活動が、2面以後連続と続けられていた。

## 第四章 まとめ

狭い範囲であったが今回の調査地においては、長谷小路の南側地域に地割の存在を確認し、その変遷をいくらかでも把握できた。また、石材や骨材の工芸が、素材となった石の擦り切りや動物解体からはじまる一連の作業として位置づけられた。

しかしながら、残された問題は多く、いわゆる長谷小路との関連は依然不明のまま推定の域を出ず、また調査地より数多く出土した瓦は単に地業主の中に混入して持ち込まれたとは考え難く、調査地の近隣において軒先や塀に瓦を葺いたお堂の存在していた可能性を示唆している。

以下にこうした今後に残された問題点と調査の成果を踏まえて、調査報告のまとめを記す。

### 古代

中世以前の生活は、生活面の乾燥化をはかるための排水溝を遺構として造したものの、遺物散布を中心とする閑散として居住形態であったと思われる。排水溝を築いた面からは8世紀代の土師器と須恵器が多く出土しており、人々が長谷小路の南側に生活の場を置いた時期は奈良時代頃であったと考えられる。この他に遺構を伴わない遺物は古墳時代の前期から平安時代中葉に属するものであったが、古墳時代の中・後期の遺物は今回の調査地を含めて長谷小路の南側からはあまり出土せず、古墳前期の後しばらく人々の活動が遠されない状況が続いたあと奈良・平安時代に入りふたたび長谷小路の南側に人々の生活痕が遺されるようになる。古墳時代中・後期は鎌倉の沖積地南端である小坪から由比が浜にかけて古墳が築かれた時期にあたるために、調査地周辺はその当時葬地として人々の日常生活は遺されなかったのだろうか。古墳前期に発見される遺物にみられる祭祀的性格の色濃い出土状況の展開が、古墳中・後期の古墳造営葬地に当該地を変え、遺物の出土の仕方に変化を与えたのかもしれないと考えられる。古代においてふたたび人々の生活址が遺される8世紀の奈良時代には、調査区の北方に御成小学校に発見された鎌倉群衛が設置されて、調査地は政治的中心地に近接した地域となる。

### 中世の地割と年代

中世期の生活面に発見された遺構は、溝と道路によって区画された地割のなかで、溝をそのまま敷地境とするものとピット列による槽もしくは塀をもって区画内の目隠しとするものがあった。敷地内には、井戸、方形竪穴建築址、土塀が掘られていた。土塀からはアンペラ様の編み籠に入れて捨てられたかわらけや魚骨・鯨類頭骨が一括出土し、当時の儀礼的飲食のあり方を垣間みせている。ただし各敷地内において、建物と井戸、土塀といった生活全般に及ぶ遺構がセットとしては発見されなかった。それは全域を確認できた区画が少かったことによるのかもしれない。

中世最下面である2面は、I(II)区、III区、IV区に分割される。I区は調査地の北側半分を南北に長く区画されるが、その中の遺構分布状況は、おそらくI区は東西に2分されてI区とII区であったと考えられた。発見された遺構は井戸と土塀が主なり、ゴミ捨て穴である土塀が区画境の南

に集中する。土壌が区画内の裏側であったかどうか不詳だが、Ⅱ区との間に通路が想定できるので、Ⅰ区への出入口に近いところではないだろうか。Ⅲ区とⅣ区の境は2面時小期によって移動していたようで、各区画分割は決定的なものではなかったと思われる。特にⅣ区は1b面時にも大幅な区画移動がみられる。Ⅰ区とⅢ区の間で想定できる通路には、頭骨のみが埋葬された土壌墓が地境溝を切って掘られた。図版27に解体痕の遺る人骨を掲げたが、葬法に二次葬の有無が問題となる。

井戸裏込め出土かわらけや永福寺Ⅰ期瓦の廃棄年から、2面は13世紀中葉と考えられる。

1b面は溝と道路によってⅠ～Ⅳ区に分割される。2面Ⅰ(Ⅱ)区がⅠ区とⅡ区に、またⅣ区がⅣ区とⅤ区に分かれる。方形竪穴建築址201の発見されたⅡ区は、2面時のようにⅢ区との間に溝と通路を配置せず、間隔の一定しないピットのみを持っている。他方Ⅱ区と接する北側を除く3方を溝で囲まれたⅢ区は遺構がほとんど発見されない空地となっていた。Ⅱ区とⅢ区は方形竪穴建築址201を主体とする一つの空間を構成し、建物址出土遺物が示す工芸活動の作業場所がⅢ区であろう。Ⅳ区は、本来Ⅴ区を含めた西側地域が主要地域であったものが東にも敷地拡大して、西側地域に方形竪穴建築址が柵もしくは塀に囲まれることによって、Ⅳ区とⅤ区に分離した。この分離は1a面へと引き継がれてゆく。

出土したかわらけ、国内外陶磁器の構成に加え、永福寺Ⅱ期瓦の廃棄年代と同じくⅢ期瓦の製作年代より、1b面は13世紀末頃より初まると考えられる。

中世最終面の1a面は泥岩版築道路によって区画される。調査地の東に生活面が認められなくなり、生活空間の縮小が窺える。明瞭に敷地を把握できたのは、四方を溝で囲まれたⅣ区のみであった。敷地は、道路によって分割された区画の中にありながら、道路とは一定の距離を置いて形成された。そうした街並に何らかの社会的意味があるものと思われる。出土遺物から14世紀前半代。

以上に地割の変遷を簡単に記したが、地割された各区画と敷地設定はほぼ方形をなしていたと考えられるだろう。ここには中世後半期以後にみられる道路に沿って設けられた長方形敷地の地割構成は未だ成立していない。

#### 遺跡の性格

2面から1a面までを通じて出土した、碗の製作・修理、動物の解体から草なめし・獣肉切り落とし・骨製品用材切り出しまで、石材と動物処理・骨材利用工芸を示す遺物群が遺跡地の性格を良く示している。ただし工芸完成品はほとんどない。長谷小路以南の地域は、極楽寺が權益を有する殺生禁断の前浜であったとされることがままあるが、今回の調査からは却って殺生が頻繁に行われた様子を示している。もし当該地が極楽寺との関係で殺生禁断の地であったならば、それは極楽寺との関係をもつ者だけが殺生を行える地であり、工芸職人らが極楽寺に統括された者たちであったとの推論に至る。また推論を重ねるならば、獣骨工芸に多用された骨がウシとウマであったことは、極楽寺の馬病舎との関係も注目される。馬病舎からの馬骨の供給と、それが由に供養のために馬病舎が建てられたのだろうか。

想像ばかりに終始してしまっただが、大方の御叱正をお願いいたします。

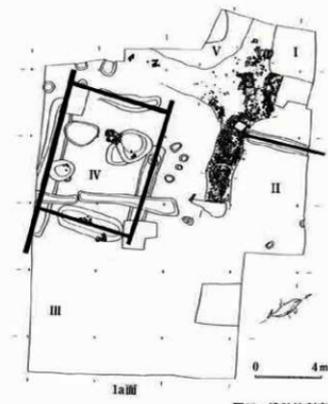
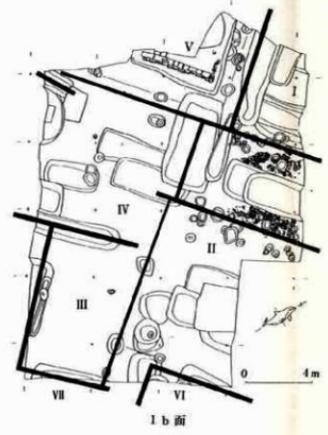
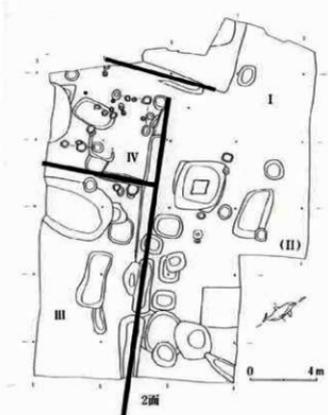


图96 遗址地刺实通图

遺物観察表

番号	出土地	種類	口径	底径	器高	材質・胎土・施をど
1	古代溝	土師器 壺	23.5	✓	✓	黒色砂、石灰殻を多く混じえる褐色土 焼成中や良
2	須磨寺 塚	土師器 壺	✓	✓	✓	白色胎土を多く混じえる明灰土
3	土師器 塚	15.3	✓	✓	✓	黒・白色胎土を混じえる褐色土 焼成良
4	古代溝	須磨寺 坏蓋	3.1 (宝珠様)			白色胎土を多く混じえる明灰土 焼い焼き上がり
5	須磨寺 坏蓋	3 (宝珠様)				白色小石を多く混じえる明灰土
6	須磨寺 坏蓋	3.1 (宝珠様)				白色胎土を混じえる明灰土 焼成良 宝珠は扁平
7	須磨寺 坏蓋	11.7 (菱様)				黒色砂を混じえる褐色土 焼成中や不良
8	須磨寺 坏蓋	17.6 (菱様)				白色小石を多く混じえる褐色土 焼成良
9	須磨寺 坏蓋	18.9 (菱様)				黒色砂、石灰殻、雲母を混じえる灰胎土
10	須磨寺 坏身	14.5	✓	✓	✓	白色胎土を多く混じえる明灰土 焼成良
11	須磨寺 坏身	15.4	✓	✓	✓	白色胎土を多く混じえる明灰土 焼成良
12	須磨寺 坏	12	✓	✓	✓	白砂少量と黒色胎土を混じえる褐色土胎土 焼成中や良
13	須磨寺 坏	11	✓	✓	✓	白色胎土を多く混じえる 胎土は黒、胎心は褐色を呈す
14	須磨寺 坏	16.4	✓	✓	✓	白色胎土を多く混じえる褐色土 胎土は黒褐色～黄褐色を呈す
15	須磨寺 坏	✓	7.6	✓	✓	白色胎土を多く混じえる
16	須磨寺 坏	✓	6.6	✓	✓	黒色砂を多く混じえる褐色土胎土 胎土は黒褐色を呈す
17	須磨寺 坏	✓	12.2	✓	✓	黒色砂を少量混じえる白色胎土
18	須磨寺 坏	✓	6.4	✓	✓	白色胎土を少量混じえる褐色土胎土 焼成良
19	須磨寺 坏	✓	8.8	✓	✓	白色小石少量と白砂を多く混じえる褐色土胎土 焼成良
20	須磨寺	✓	✓	✓	✓	白色胎土を多く混じえる明灰土
21	須磨寺	✓	✓	✓	✓	黒色砂を多く混じえる褐色土胎土
22	土師器 壺	✓	✓	✓	✓	白・黒色小石を多く混じえる明灰土 外面赤彩
23	土師器 壺	15.8	✓	✓	✓	黒色砂、白色胎土を多く混じえる胎土 内面下半は褐色を呈す
24	土師器 鉢	15.2	✓	✓	✓	黒色砂、白色胎土、石灰殻を多く混じえる褐色土 焼成良
25	土師器 壺	✓	✓	✓	✓	雲母・黒色砂を多く混じえる褐色土胎土 外面赤彩
26	土師器 台付壺	✓	3.2	✓	✓	黒色、白色胎土、雲母を多く混じえる褐色土
27	土師器 台付壺	✓	6.4	✓	✓	黒色胎土、白色胎土を混じえる紅～褐色胎土 焼成良
28	土師器 壺	✓	7.9	✓	✓	黒色、赤褐色小石を混じえる胎土 外縁黒色、内縁赤褐色を呈す
29	土師器 坏	12.4	12.7	4.8	✓	黒色、白色胎土を多く混じえる褐色土胎土 焼成良
30	土師器 坏	11.9	✓	✓	✓	黒色、白色砂、雲母を混じえる胎土
31	土師器 坏	11.9	✓	✓	✓	黒色胎土、赤褐色胎土を多く混じえる胎土
32	土師器 坏	13.1	✓	✓	✓	黒色胎土を多く混じえる褐色土胎土 焼成良
33	土師器 坏	12.6	✓	✓	✓	黒色、白色胎土および雲母を混じえる褐色土胎土
34	土師器 坏	14.4	✓	✓	✓	赤褐色胎土および白砂を混じえる胎土 焼成良
35	土師器 坏	14.8	12.7	4.7	✓	黒色、白色胎土を多く混じえる褐色土胎土 赤彩 焼成良
36	土師器埴文壺状坏	13.7	✓	✓	✓	褐色胎土を混じえる赤褐色胎土
37	土師器埴文壺状坏	✓	✓	✓	✓	白色胎土を少量混じえる褐色土胎土 焼成良
38	土師器 坏	10.3	✓	✓	✓	黒色砂を多く混じえる褐色土胎土
39	土師器埴文壺状坏	15.8	11.2	3	✓	黒色胎土、白色胎土および白砂を混じえる褐色土胎土
40	土師器埴文壺状坏	11.4	✓	✓	✓	白色胎土を混じえる胎土
41	土師器 壺	21.4	✓	✓	✓	黒色胎土、白色胎土を多く混じえる明褐色土 焼成良
42	土師器 壺	22.6	✓	✓	✓	褐色胎土白色胎土を多く混じえる明褐色胎土 焼成良
43	土師器 壺	18.1	✓	✓	✓	赤褐色胎土、雲母を多く混じえる褐色土胎土 焼成良
44	土師器 壺	16	✓	✓	✓	黒色砂、白色胎土、雲母を多く混じえる胎土 焼成良
45	土師器 壺	✓	9.8	✓	✓	黒色砂、白色胎土を少量混じえる褐色土胎土 焼成良
	井戸4	かわらけ				46～58は別表参照
59	南都山山楽	16.4	✓	✓	✓	灰白色胎土 胎土は黒褐色を呈す
60	平瓦	✓	✓	✓	✓	胎土を混じえる褐色土 凸面は椀子叩き、凹面はヘラナデで製成
61	青磁 彫花文	15.7	✓	✓	✓	灰白色胎土 胎土は灰褐色 胎土は黒褐色を呈す
62	青磁 彫花文	3.5	✓	✓	✓	灰白色胎土 胎土は灰褐色を呈し厚めに焼成される
63	青磁 彫花文	15.2	✓	✓	✓	灰白色胎土 胎土は灰褐色を呈し内外面にキズがつく
64	釘	7.6 (全長)				
	井戸3	かわらけ				65～102は別表参照
103	常陸小倉林	31.6	14.6	11	✓	白色小石～胎土を多く混じえる明褐色土 内面中位から下方は胎土
104	南都山山楽	✓	6.7	✓	✓	胎土に欠く灰白色土 胎土は黒褐色を呈す 胎土は黒褐色を呈す
105	白磁 合子身	7.6 (蓋径)				灰白色胎土 胎土は灰褐色を呈す
106	青磁 彫花文	1.5	✓	✓	✓	灰白色胎土 胎土は灰褐色を呈す
	土蔵2	かわらけ				107～112は別表参照
113	青磁 皿	✓	4.9	✓	✓	灰白色胎土 胎土は明褐色を呈す 内面に軽いキズ
114	すり常陸	✓	✓	✓	✓	
115	観石	✓	✓	✓	✓	磨り度異なる
116	加工骨残片	✓	✓	✓	✓	クシ中足骨
117	加工骨残片	✓	✓	✓	✓	クシウマ足骨
118	加工骨残片	✓	✓	✓	✓	クシ中足骨

遺物観察表

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
119	土壌20	加工骨残片	✓	✓	✓	クシorウマ四肢骨
120		鉢	✓	✓	✓	片断不備
	土壌218	かわらけ	✓	✓	✓	121~128は別表参照
129		瓦質火鉢	✓	✓	✓	黒色磁砂を多く混じえる 胎土は黄褐色~明灰色を呈す
130		丸瓦	✓	✓	✓	磁砂を混じえる灰色土 凸面は鈍目印み、凹面は布目痕が残る
131		骨滑 壺	10.3	✓	✓	白色磁石を多く混じえる灰褐色胎土 焼成良
	土壌18	かわらけ				133~166は別表参照
167		山形湖崗こね鉢	35.6	✓	✓	黒色磁砂および白色磁石~小石を多く混じえる灰色土 焼成度あり
	溝213	かわらけ				168~173、175~178は別表参照
174		白かわらけ	11.2	9.9	2.9	赤紅褐色陶質土 焼成良
179		山形湖崗こね鉢	✓	15.4	✓	黒色磁砂および白色磁石を混じえる暗褐色土 内底は著しい磨滅痕
180		骨滑 壺?	✓	✓	✓	白色磁石を多く混じえる暗褐色土
181		青磁 覆輪文皿	✓	✓	✓	灰黄色胎土 釉は淡オリーブ色 高台直上は飛びカンナで調整される
182		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
183		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
184		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
185		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ脛骨
186		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ脛骨
187		加工骨残片	✓	✓	✓	ウマ中手骨
	溝23	かわらけ				188は別表参照
189		青磁 覆輪文皿	15.4	✓	✓	明灰白色胎土 釉は灰緑色を呈す 内面にキズがわずかに残る
190		覆輪 壺	✓	✓	✓	白色磁砂および黒色砂を混じえる灰褐色土 焼成良
191		骨滑 小壺	3.8	✓	✓	白色磁石を混じえる暗褐色土 粘土粘着き上げ技法による成形
192		平瓦	3.5	✓	✓	磁砂を混じえる灰色土 凸面は鈍目印み、凹面はヘッナで調整
193		加工骨残片	✓	✓	✓	ウマ中足骨
194		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨
195		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ脛骨
	溝21	かわらけ				197は別表参照
	溝215	かわらけ				198~202は別表参照
203		平瓦	✓	✓	✓	磁砂を混じえる灰褐色土 凸面は鈍目印み、凹面は布目痕が残る
204		加工骨残片	✓	✓	✓	クシorウマ四肢骨
205		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ脛骨
	土壌27	かわらけ				206~210は別表参照
211		青磁 覆輪文皿	✓	4.8	✓	明灰白色胎土 釉は淡オリーブ色を呈しごく薄く施される
212		瀬戸 片口鉢	12.5	✓	✓	胎土に欠く灰白色土 外面中位~口唇は黄褐色の釉が施される
213		丸瓦	✓	✓	✓	磁砂を混じえる灰色土 凸面は鈍目印み+ナダ、凹面は布目痕が残る
214		丸瓦	✓	✓	✓	磁砂を混じえる灰褐色土 凸面は鈍目印み+平行印み、凹面は布目痕が残る
215		平瓦	✓	✓	✓	磁砂を混じえる灰色土 凸面は格子印み、凹面は布目痕が残る
216		磁石	✓	✓	✓	磨り直れる
217		加工骨残片	✓	✓	✓	クシorウマ四肢骨
218		加工骨残片	✓	✓	✓	クシorウマ四肢骨
219	土壌15	北風系人子	6.8	3.1	2.1	灰白色胎土 内底部分近は著しい磨滅痕 外底部は糸印り痕、ナダ調整
220		土鍋	✓	✓	✓	
221		丸瓦	✓	✓	✓	磁砂を混じえる灰色土 凸面はヘッナで調整、凹面は布目痕が残る
222		瓦質火鉢	✓	27.4	✓	白色磁石(貝?)を多く混じえる
223		磁石	✓	✓	✓	磨り直れる
224		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り 割取り
225		磁石	✓	✓	✓	藍色粘板岩 磨り取り
226		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨or中足骨
	土壌210	かわらけ				227~229は別表参照
230		土鍋	✓	✓	✓	
231		加工骨残片	✓	✓	✓	クシorウマ四肢骨
232	土壌211	軒草瓦	✓	✓	✓	1層 薄草瓦 磁砂・白色磁を混じえる灰色土
233		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨or中足骨
234	土壌212	平瓦	✓	✓	✓	磁砂を混じえる灰色土 凸面は鈍目印み、凹面は磨り直れる
	土壌216	かわらけ				235~243は別表参照
244		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨
245		覆輪 鉢	✓	✓	✓	白色磁砂を混じえる灰色土 焼成良
246	土壌222	加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
	ビット85	かわらけ				247~248は別表参照
249		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨
	ビット87	かわらけ				250は別表参照
	ビット89	かわらけ				251は別表参照

遺物取表

番号	出土地	種類	口径	底径	器高	材質・土色・釉など
	ピット95	かわらけ				252～254は別表参照
255		磁石	✓	✓	✓	磁石残る
256		磁石	✓	✓	✓	磁石
	2面上 1区	かわらけ				257～265は別表参照
266		北野赤山窯焼	11.8	4.6	4.4	明灰白色粘質土 磨滅なし
267		山本朝飯こね鉢	✓	11.9	✓	黒色磁粒・白色磁石を混じえる薄灰色磁土 内底部は著しい磨滅度
268		青磁 彫花文碗	14	✓	✓	灰白色磁土 釉は純灰緑色を呈し輪下に磁化色が厚く 内外面にキズ
269		磁石	✓	✓	✓	磁石片
270		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中手香 焼き直つく
	溝214	かわらけ				269～277, 279は別表参照
278		白かわらけ	10.6	9.5	2.8	白・黒色磁石を混じえる明灰白色磁土 内面に磨付着
280		青磁 彫花文碗	12.2	✓	✓	灰白色粘質磁土 釉は純灰緑色を呈し輪下に磁化色が多く厚く
281		山本朝飯こね鉢	28	✓	✓	黒色磁粒・白色磁石を混じえる灰白色 磨滅なし
282		山本朝飯こね鉢	34	✓	✓	黒色磁粒・白色磁石を多く混じえる灰白色 軽い磨滅度が残る
283		唐瓦 鉢	✓	✓	✓	白色磁粒～磁石を混じえる灰褐色土
284		青磁 彫花文碗	✓	✓	✓	白色磁粒を多く混じえる薄褐色土
285		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面は純目吹き、凹面は布目度が残る
286		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面は純目吹き、凹面は磨れ砂+スノコ度が残る
287		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面は純目吹き+平行吹き、凹面は布目度が残る
288		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面は純目吹き、凹面は布目度が残る
289		せつ研瓦 平瓦	✓	✓	✓	粗砂・白色粒を混じえる灰褐色土 凸面は巻き吹き、凹面は布目度+ナダが残る
290		せつ研瓦 平瓦	✓	✓	✓	粗砂・白色粒を混じえる薄褐色土 凸面は巻き吹き、凹面は布目度+ナダが残る
291		加工香残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
292		加工香残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
293		加工香残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
294		加工香残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
295		加工香残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
296		加工香残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
297		加工香残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
298		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
299		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
300		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
301		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
302		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
303		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
304		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
305		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨
306		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨or中足骨
307		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨
308		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
309		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
310		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
311		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
312		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
313		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
314		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ骨
315		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
316		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
317		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
318		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
319		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
320		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
321		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
322		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
323		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
324		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
325		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
326		加工香残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
327		加工香残片	✓	✓	✓	ウマ中足骨
328		加工香残片	✓	✓	✓	ウマ骨
329		加工香残片	✓	✓	✓	ウマ中足骨
330		アカニシト人骨	✓	✓	✓	アカニシ顔口にヒトの下顎骨がはめ込まれる。骨付遺物か?
331	溝210	加工香残片	✓	✓	✓	ウマ中足骨
332		加工香残片	✓	✓	✓	ウマ中足骨

遺物観察表

番号	出土地	種別	口径	直径	高さ	材質・粘土・釉など
	土壌8	かわらけ				333-338は別表参照
339		甕蓋 壺	✓	✓	✓	黒色磁砂・白色磁砂を混じえる灰褐色磁器土
340		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨
	2面上 Ⅱ区	かわらけ				341-343は別表参照
344		甕蓋 鉢	✓	✓	✓	白色磁砂・黒色磁砂を混じえる灰色磁器土 焼成良
347		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は鏡目可き、凹面は布目盛が残る
348		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面はヘラナダ調整、凹面は布目盛が残る
349		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸凹面ともにヘラナダ調整が残る
350		せつ器丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面はヘラナダ調整、凹面は灰緑色の自然釉がかかると
351		煎取陶器	✓	✓	✓	白色磁砂を少量混じえる明褐色自然釉磁器土 断面は方直かつ
352	井戸2	加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ横骨
	かわらけ					353-354は別表参照
355	土壌22	磁石	✓	✓	✓	磨り黒磁石
356	土壌23	平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面はヘラナダ調整、凹面は布目盛が残る
	ビット66	かわらけ				377は別表参照
	ビット178	かわらけ				358-367は別表参照
368		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰黒色土 凸面は棒子叩き、凹面は磨れ砂痕が残る
369		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は棒子叩き、凹面は磨れ砂痕が残る
370		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰黒色土 凸面は棒子叩き、凹面は磨れ砂ナダ痕が残る
371		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面は棒子叩き、凹面は磨れ砂痕が残る
372		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は棒子叩き、凹面は布目盛が残る
373		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は棒子叩き、凹面はヘラナダ調整痕が残る
374		軒平瓦	✓	✓	✓	珪質 煎取文 細砂・白色磁を混じえる灰色土
375		甕蓋 壺	✓	✓	✓	黒色磁砂を混じえる灰褐色磁器土 焼成良
376		笠	✓	✓	✓	裏面に浅い溝状の筋が残る 作り直し途中と思われる
377	土壌24	骨白磁 磁作り皿	6	✓	✓	灰白色磁器土 釉は淡黄緑色を呈す
	ビット84	かわらけ				378は別表参照
	2面上 IV区	かわらけ				379-380は別表参照
381		骨磁 磨掃き文柄	12.2	✓	✓	灰色磁器土 釉は灰オリーブ色を呈す
382		骨磁 磨掃き文柄	14.4	✓	✓	灰色磁器土 釉は灰球オリーブ色を呈し貫入が入る 内面にキズが残る
383		甕蓋 小壺	6.4	✓	✓	赤褐色磁砂・白色磁砂を混じえる灰褐色磁器土 器表は黒褐色
384		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ四肢骨
385		鏡	✓	✓	✓	「元龜清實」北宋時代
	IV区2面上包舎等	かわらけ				386-394は別表参照
395		甕蓋 鉢	✓	14.9	✓	薄灰色土 外底面より穿孔 高台縁部に煎取痕
396		骨磁 磨花文柄	7.6	✓	✓	灰色磁器土 釉は灰球淡緑青色を呈し軸下に煎取痕が深く
397		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨
398		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨
399		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨
400		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨
401		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨
402		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ横骨
403		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ横骨
404		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ横骨
405		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ横骨
406		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ横骨
407		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ横骨
408		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ横骨
409		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ横骨
410		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨
411		加工骨残片	✓	✓	✓	ウマ中骨
412		加工骨残片	✓	✓	✓	ウマ中骨
413		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ四肢骨
414		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ四肢骨
415		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は鏡目可き、凹面は水口ナダ痕が残る
416		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は鏡目可き、凹面は布目盛が残る
417	溝28	磁石	✓	✓	✓	磨り黒あり
418		甕蓋	22.3	✓	✓	褐色磁砂・白色磁砂を混じえる灰色せつ器質土 外面は黒色を呈す
419		軒平瓦	✓	✓	✓	珪質 煎取文 細砂および白色磁を混じえる灰色土 凹面は布目盛が残る
420		軒丸瓦	✓	✓	✓	Ⅱ-IV期 小壺 細砂を混じえる灰褐色土 凸面はヘラナダ、凹面は布目盛
421		常滑 この鉢	✓	18.9	✓	白色磁砂を混じえる薄灰色土 磨成度なし
422		煎取陶器 壺	8.9	7.6	✓	白色磁砂・細砂を多く混じえた緑・黄褐色粘土に似る明灰色粘質土
423		骨磁 磨掃り鏡	✓	3.7	✓	薄灰色自然釉磁器土 釉は薄灰緑色を呈す 内面に軽いキズ
424		磁石	✓	✓	✓	硃石
425		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ横骨

遺物観察表

番号	出土地	種類	口径	底径	高さ	材質・土色・胎など
	遺28-29	かわらけ				426-431は別表参照
432		丸瓦				細砂を混じえる灰白色土 凸面は鈍目叩き、凹面は赤目瓦が残る
433		白磁 口元瓦	10.8			明灰白色胎質土 胎は灰緑味乳白色を呈す 内面に紅いキズが残る
434		青磁 鍋蓋弁文焼	17.2			灰白色胎質土 胎は灰緑色を呈し貫入が入る キズなし
435		南庄系入子		4.1		灰白色胎質胎質土 内面に磨滅度が残る
436		山崎朝顔こお鉢	19			やや小粒 明灰白色土 内面は胎部上位まで磨滅度が残る
437		常滑 こお鉢		20		白色小石を混じえる黒灰色土 内底部～内胎部下位にかけて磨滅度が残る
438		弁				両端を削り直している 磨滅途中品と思われる
439	遺29	磁器瓦土器		7.8		白色胎質を多く混じえる胎質土 内底磨滅度が残る
440		鉄鍋				
	遺31	かわらけ				441-451は別表参照
452		軒平瓦				II期 朝顔文 灰白色胎質土
453		軒平瓦				II期 朝顔文 細砂を混じえる灰白色土
454		丸瓦				細砂を混じえる灰白色土 凸面は鈍目叩き、凹面は赤目瓦が残る
455		丸瓦				細砂を混じえる灰白色土 凸面はへうナゲ調整、凹面は赤目瓦が残る
456		白磁 口元瓦	11.8	6.4	2.7	明灰白色胎質土 胎は灰緑味乳白色を呈す キズなし
457		青磁 碗		5.6		明灰白色胎質土 胎は灰緑色を呈す
458		山崎朝顔こお鉢	30.8			胎部に欠く明灰白色土
459		山崎朝顔こお鉢		14.6		胎部に欠く暗灰色土 内面は著しい磨滅度 裏むき直しあり
460		山崎朝顔こお鉢	24.4	13.9	9.5	灰白色胎質土 胎部内面上位～内底部にかけて著しい磨滅度 一部削付着
461		磁石				擦り直あり
462		加工骨残片				ウシ骨
	ビット114	かわらけ				463は別表参照
464		不明土製品				黒色胎質を多く混じえる黄褐色胎質土
465		鉄鍔				
	1b面上 塚区	かわらけ				466-468は別表参照
469		南庄系入子		6.1		胎性に欠く灰白色胎質土 赤切り痕へうで調整される 内底磨滅度が残る
	遺14	かわらけ				470-473は別表参照
474		青磁 割縁皿	12.2	5.6	3.6	暗い灰白色土 胎は灰緑色を呈す 底割れ口に磨滅残る
475		青磁 鍋蓋弁文焼	11.6			やや粗い黄褐色胎質土 胎は灰緑色を呈す キズなし
476		硯石				赤硯石 原材切り出し痕 新取り
477		硯石				赤硯石 原材切り出し痕 新取り 擦り切り
	遺17	かわらけ				478-488は別表参照
489		土鍋				
490		軒平瓦				II期 朝顔文 細砂を混じえる灰白色土
491		平瓦				細砂を混じえる灰白色土 凸凹面ともに水口ナゲにより調整される
492		瓦葺穴鉢	34.8			黒色小石・白色胎質を混じえる胎質灰白色土
493		常滑 壺				白色胎質を多く混じえる成褐色土
494		常滑 瓶				黒色胎質・白色胎質を混じえる灰白色土
495		薩美 鉢		11.6		黒色胎質・白色胎質・小石を多く混じえる黒灰色土 内面著しい磨滅度が残る
496		常滑 こお鉢	33.2			白色小石を多く混じえる暗灰色土 胎部内面上位から下は著しい磨滅度が残る
497		硯石				赤硯石 擦り切り 原材切り出し痕
498		硯石				赤硯石 ナゲ手痕 擦り切り 新取り
499		磁石				硯石
500		釘	5.8			(遺存品)
501		弁				灰面凹状部に削り直残る
502		加工骨残片				ウシウマ四肢骨
	1b末道踏面上	かわらけ				503-511は別表参照
512		平瓦				細砂を混じえる灰白色土 凸面は磨子叩き、凹面はナゲで調整される
513		軒丸瓦				IV期以降? 白色胎質を混じえる灰白色土
514		常滑 小壺	8.2			白色胎質を多く混じえる暗褐色土
515		山崎朝顔こお鉢	32			黒色胎質・白色胎質を混じえる暗灰色土
516		白磁 口元瓦	10.4			明灰白色胎質土 胎は灰緑味乳白色を呈す 内面にわずかにキズ
517		青磁 鍋蓋弁文焼	16.6			灰白色胎質土 胎は灰緑色を呈す キズなし
518		青磁 鍋蓋弁文焼	17.4			灰白色胎質胎質土 胎は灰緑色を呈す 内面にわずかにキズ
519		青磁 割縁皿	18.3			灰白色胎質土 胎は灰緑味黄褐色を呈し貫入が入る
520		磁石				硯石
521		播石鍋				外面は磨付着
522		加工骨残片				ウシウマ四肢骨
	遺216	かわらけ				523は別表参照
524		山崎朝顔こお鉢		14		胎性に欠く灰白色土 内面は著しい磨滅度 外面中位は磨け僅ける
525		常滑 こお鉢	32.2			白色小石を多く混じえる成褐色土 内面は一時期削けるが磨滅度はない
526		常滑 壺	25.8			黒色・白色小石～胎質を多く混じえる成褐色土
527		常滑 壺	35.0			白色胎質を混じえる明灰白色胎質質土

遺物調査表

番号	出土地	種別	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
528	溝216	白磁 有写垂	11.9	7.4	29.3	灰白色粘質胎土 釉は灰味黄緑色を呈す
529		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面はナガ調整、凹面は布目目が残る
530		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面はナガ調整、凹面は布目目が残る
531		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は鳩目叩き、凹面は布目目が残る
532		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は鳩目叩き、凹面は布目目が残る
万寿堂穴窯跡第201						
	かわらけ					533～543は別表参照
543		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面はヘラナガ調整、凹面は布目目が残る
544		軒平瓦	✓	✓	✓	皿割か 煎磁文 中央に「大」がつく 磁砂・白色粒を混じえる灰白色土
545		瓦葺質 小窓香炉	9.4	✓	✓	磁作り 藍色・白色磁砂を多く混じえる灰白色土
546		不附土製品	✓	✓	✓	黒・白色磁砂を混じえる胎土かわらけ質土
547		瓦質火鉢	✓	21.9	✓	白色磁石を多く混じえる灰白色瓦質土
548		南無阿弥陀仏	4.5	2.7	1.1	灰白色胎土
549		北庭系?山茶碗	✓	✓	✓	白色磁砂を多く混じえる灰白色胎土
550		骨持 小壺	✓	10	✓	白色磁砂を混じえる薄灰白色土
551		蓋裏 壺	✓	✓	✓	白色磁砂を混じえる薄灰白色胎土
552		曹焼 碗	✓	3.2	✓	明初 上層よりの製品 薄灰白色胎土 釉は灰味黄緑色を呈し裏入りが入る
553		磁石	✓	✓	✓	粘土
554		石刀	✓	✓	✓	黒色頁岩 磁器加工される
555		銭	✓	✓	✓	「開元通寶」唐時代
556		銭	✓	✓	✓	「嘉祐通寶」北宋時代
557		銭	✓	✓	✓	「宣宗元寶」北宋時代
558		加工骨残片	✓	✓	✓	イルネ
559		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中尾骨
560		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ肋骨
561～660は欠番						
661		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ肋骨
662		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ肋骨
663		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ四肢骨
664		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ四肢骨
665		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ肋骨
666		磁角	✓	✓	✓	
溝204						
	かわらけ					667は別表参照
668		瀬戸 灰釉皿	✓	7.8	✓	灰白色粘質胎土 釉は灰白色を呈す 外底部はおろし状
669		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面はナガ調整、凹面は布目目が残る
670		瓦	8.2 (全長)	✓	✓	
671		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ肋骨
672	溝208	青磁 瓢花文碗	12.6	✓	✓	黄味灰白色粘質胎土 釉は黄味灰緑色を呈し裏入りが入る
673		骨持 こね鉢	31.2	✓	✓	白色磁砂・磁石を混じえる黄味灰白色胎土
674		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面はヘラナガ調整、凹面は布目目が残る
675		磁石	✓	✓	✓	粘土
土塚203						
	かわらけ					676～681は別表参照
682		瀬戸灰釉おろし皿	✓	8.6	✓	灰白色粘質胎土 釉は薄く焼跡される
683		北庭系輪花入子	6.3	3.4	2.3	黄味灰白色粘質胎土 内底部・花弁の一部に紅付着
684		山崎朝綱こね鉢	✓	13.1	✓	粘性に欠く薄灰白色土 内面は著しく磨滅
685		青磁 瓢花文碗	16.4	✓	✓	灰白色粘質胎土 釉は黄味灰緑色を呈す
686		曹焼 碗	✓	3.4	✓	灰白色粘質胎土 釉は黄味灰緑色を呈す 高台部には鉄褐色
687		磁石	✓	✓	✓	磁灰岩
688		すり骨持	✓	✓	✓	
689		すり骨持	✓	✓	✓	
690		すり骨持	✓	✓	✓	
691		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面はナガ調整、凹面は布目目が残る
692		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面はナガ調整、凹面は布目目が残る
693		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は鳩目叩き、凹面はナガ調整
694		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は鳩目叩き、凹面は布目目が残る
695		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は鳩目叩き、凹面は木口ナガ調整
696		軒平瓦	✓	✓	✓	黄味胎土の胎土は上下遊 上向き煎磁文 磁砂・白色粒を混じえる灰白色土
697		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ肋骨
698		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ骨
699		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ四肢骨
700		銭	6.8 (全長)	✓	✓	
701		銭	✓	✓	✓	「元龜通寶」北宋時代
702		銭	✓	✓	✓	「順寧元寶」北宋時代
土塚205						
	かわらけ					703～705は別表参照
706		青磁 磁器文碗	15	✓	✓	黄味灰白色胎土 釉は黄オリブ色を呈しごく薄く焼跡される

遺物観察表

番号	出土地	種類	口径	底径	器高	材質・胎土・物など
707	土蔵205	覆瓦 鉢	✓	14.4	✓	緑帯を帯びた土 内面は著しく磨滅する
	土蔵206	かわらけ				708～710は別表参照
711		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
712		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
	土蔵207	かわらけ				713～719は別表参照
720		瓦葺	✓	✓	✓	白・黒色砂を混じえる明灰色胎土
721		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は鈍目叩き、凹面は布目度が残る
722		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は鈍目叩き、凹面は布目度が残る
723		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は鈍目叩き、凹面は布目度が残る
724		礫石	✓	✓	✓	擦り痕あり
725		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
726		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
727		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
	土蔵217	かわらけ				728～743は別表参照
744	ビット34	軒平瓦	✓	✓	✓	唐草文 細砂を混じえる灰色土
745		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面はヘウナダ調整、凹面はナダ調整
746		南無山系破	✓	6.5	✓	粘性に欠く暗灰色土 磨滅痕なし
747	ビット209	加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨
748	ビット102	加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨or中足骨
	ビット207	かわらけ				749～751は別表参照
752		青白磁 梅瓶	✓	✓	✓	灰白色胎土 釉は白濁した緑青色を呈す
753		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面は鈍目叩き、凹面は磨れ砂度が残る
754		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は砂目+ナダ調整、凹面はナダ調整
755		硯	✓	✓	✓	黒色粘板岩 磨滅痕あり
756		礫石	✓	✓	✓	擦り痕あり
	ビット86	かわらけ				757～759は別表参照
760		軒平瓦	✓	✓	✓	刺繍文 細砂を混じえる灰褐色土
	庫301	かわらけ				761は別表参照
762		白かわらけ?	✓	4	✓	灰色・白色胎土を少量混じえる灰緑褐色胎土 外縁部は赤切り
763		瓦葺火鉢	✓	✓	✓	白・黒色石粒を多く混じえる明灰色胎土 胴部には花文が押印される
764		青磁 鎮西片文鉢	14.8	✓	✓	明灰色胎土 釉は灰緑色を呈し厚く施布される
765		硯石	✓	✓	✓	赤褐色粘板岩 磨り磨り
766		硯	6.9 (全長)	✓	✓	
767		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
768		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
769		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
770		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
771		加工骨残片	✓	✓	✓	ウマ頰骨
772は欠番						
	庫202	かわらけ				773～774は別表参照
	庫203	かわらけ				775は別表参照
776		白磁 瓶	✓	6.6	✓	明灰白色土 釉は灰緑褐色乳白色を呈し顔料が入る
777		礫石	✓	✓	✓	擦り痕あり
778		礫石	✓	✓	✓	擦り痕あり
779		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
780		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ腰骨
781		網針?	✓	✓	✓	未製品 全体に赤い粉り痕、遺物は切り出し痕が残る
782	ビット204	北無山系山系破	✓	5	✓	明灰白色胎土 磨滅痕なし 高台部より付けたナダ調整
	ビット208	かわらけ				783～791は別表参照
792		瓦葺	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は鈍目叩き、凹面は布目度が残る
793		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨
794		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
	16番 田区	かわらけ				795～796は別表参照
797		山系破山系破	✓	9.6	✓	黒色胎土 礫石を多く混じえる暗灰色土 磨滅痕なし
798		刀子	8.6 (遺存長)	✓	✓	
799		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨
	16番田・田区	かわらけ				800～808は別表参照
809		せつ器菓子瓦	✓	✓	✓	白色小石を混じえる褐色土 凸面は板ナダ調整「備」を施すも凹面は磨れ砂
810		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は砂目+ナダ、凹面は磨れ砂+ナダ
811		覆瓦 鉢	✓	✓	✓	白色胎土を混じえる灰色土 焼成痕
812		南無山系山系破	✓	6.8	✓	粘性に欠く灰白色土 磨り付けた高台に磨 内面は磨れ砂が残る
813		南無山系山系破	✓	7.9	✓	灰色胎土 赤切り痕を施すナダで削り 磨滅痕なし
814		磨盤 灰粉小甕	✓	✓	✓	灰色胎土 釉は二次焼成を受け灰緑色を呈す
815		礫石	✓	✓	✓	礫石

遺物観察表

番号	出土地	種類	口径	底径	高さ	材質・胎土・釉など
816	1b南目・田坂		15.4	(全長)		
817		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシやウマ四肢骨
818	溝37 土質11	磁石	✓	✓	✓	磁石
821		黒磁土	✓	✓	✓	白色胎土 胎土は明灰色を呈す
822		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は椀字引き、凹面は隠れ砂+ヘラナガ痕が残る
823		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる橙褐色土 凸面はナガ調盤、凹面は布目痕が残る
824		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面はナガ調盤、凹面は布目痕が残る
827	井戸1	かわらけ	✓	✓	✓	825～826は別表参照
827		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は砂目、凹面はナガ調盤
828		釘	8.1	(全長)		
829		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシやウマ四肢骨
830	溝1	かわらけ				831～832は別表参照
834		瓦質火鉢	✓	✓	✓	白色石灰を多く混じえる紅色土 胎土は黒色を呈す
837	青磁 銅蓮弁文調	11.2	✓	✓	✓	灰白色粘質胎土 胎土は淡黄褐色の鉄褐色を呈し貫入が入る
838		磁石	✓	✓	✓	磁石
839	溝22	かわらけ				839～856、867～872は別表参照 837～866は欠番
873		南越山瓦	8.7	3.6	1.5	白色胎土を多く混じえる灰色胎土 胎土は鉄褐色を呈し 内面のみ施釉される
874		南越山入子	✓	4.5	✓	黄白色粘質胎土 内面施釉あり
875	瀬戸 沢神合子身	6.4	3.6	1.4	✓	明灰白色粘質胎土 胎土は鉄褐色を呈し 内面のみ施釉される
876	常滑 広口小壺	11.6	✓	✓	✓	白色胎土を混じえる暗灰色土 胎土に片がつく
877	常滑 虎口壺	7.1	✓	✓	✓	暗灰色土 外面肩部分に磨きき文が入る 痕印か?
878	常滑 土お鉢	28	✓	✓	✓	白色小石を多く混じえる黒灰色土 磨滅痕なし
879	常滑 土お鉢	28.2	✓	✓	✓	白・黒色胎土を混じえる暗灰色胎土 磨滅痕なし
880	白磁 口元皿	11.4	6.6	3	✓	灰白色胎土 胎土は鉄褐色乳白色を呈す キズなし
881	白磁 口元皿	11.2	✓	✓	✓	灰白色粘質胎土 胎土は淡黄褐色乳白色を呈して厚く施釉される キズなし
882	青磁 銅蓮弁文調	13.9	✓	✓	✓	明灰白色胎土 胎土は明鉄青褐色を呈し厚く施釉される貫入が入る キズなし
883	青磁 銅花文調	✓	6.8	✓	✓	灰色粘質胎土 胎土は黄褐色を呈す
884		推石鍋	15.3	✓	✓	
885		磁石	✓	✓	✓	磁石
886		磁石	✓	✓	✓	赤磁石 擦り取り 痕取り痕あり
887		磁	✓	✓	✓	黒色粘板岩 再加工途中品
888		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシやウマ四肢骨
889	溝24	かわらけ				889～894は別表参照
935		黒瓦 鉢	✓	✓	✓	白色胎土に黒砂を多く混じえる灰褐色土 胎土黒
936		常滑 広口小壺	10.5	✓	✓	白色胎土を多く混じえる暗灰色土
937		青磁 銅花文調	✓	5.6	✓	灰色粘質胎土 胎土は淡黄褐色を呈す キズなし
938		釘	3.4	(遺存長)		
939	溝14	かわらけ				939は別表参照
940		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は磨き引き、凹面は布目痕が残る
941		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は砂目、凹面は隠れ砂痕が残る
942		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面はヘラナガ調盤、凹面は布目痕が残る
943		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は砂目、凹面は隠れ砂痕が残る
943		山茶碗土お鉢	32	✓	✓	白色胎土に黒砂を混じえる灰色土 磨滅痕なし
944		山茶碗土お鉢	✓	14	✓	粘性に欠く暗灰色土 内面は著しい磨滅痕
945		白磁 口元皿	15.4	✓	✓	明灰白色胎土 胎土は鉄褐色乳白色を呈す 内面は著しいキズあり
946		青磁 銅蓮弁文調	14	✓	✓	明灰白色胎土 胎土は 明鉄青褐色を呈し厚く施釉される 内面キズなし
947	溝18	かわらけ				947～953は別表参照
954		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は磨き引き、凹面はヘラナガ痕が残る
955		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面は砂目、凹面は隠れ砂痕が残る
956		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は磨き引き、凹面は布目痕が残る
957		常滑 土お鉢	32	✓	✓	白色小石を多く混じえる黒灰色土 磨滅痕なし
958		山茶碗土お鉢	14	✓	✓	粘性に欠く暗灰色土 内面は著しい磨滅痕
959		白磁 口元皿	10.4	✓	✓	灰白色胎土 胎土は鉄褐色乳白色を呈す 内面はごく軽いキズあり
960		青磁 銅蓮弁文調	15.3	✓	✓	灰色粘質胎土 胎土は鉄褐色を呈す
961		刀子?	✓	✓	✓	
962		擦り常滑	✓	✓	✓	
963	溝19	かわらけ				963～965は別表参照
966	ピット13	身孔かわらけ				966は別表参照
967		黒瓦青磁 天目台	✓	✓	✓	暗灰色粘質胎土 胎土は淡黄褐色、鋼下に黒鉄層が施される 一部黒色残る

造物観察表

番号	出土地	機種	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
	方堂埴師址1基址	かわらけ				998~971は別表参照
972		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色 凸面はヘラナゲ調整、凹面は有目直が残る
973		白磁 印花文皿	✓	✓	✓	釉色に欠く白白色、釉は灰味透明で黄入る
974		青磁 模文皿	✓	5.2	✓	灰白色粘質土、釉は灰味オリーブ色を呈す
975		硃石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り切り
	方堂埴師址1下層	かわらけ				976~977は別表参照
978		せつ餅瓦 丸瓦	✓	✓	✓	粗砂を混じえる灰褐色土 凸面は自然釉がかかり、凹面は有目直が残る
979		平瓦 硃	13.4	✓	✓	
980		北朝系 梅花入子	7.8	4.6	2.0	灰白色粘質土 外底には赤褐色の敷瓦調整
981		刀子	✓	✓	✓	
982		釘	9.5 (全長)	✓	✓	
983		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨骨
	方堂埴師址1上層	かわらけ				998~1026は別表参照
1027		瓦質火鉢	✓	✓	✓	黒・白色砂粒を多く混じえる灰褐色土 内面は黒色を呈す
1028		土師質火鉢	40.7	27.6	8.8	黒・白色砂粒を多く混じえる灰褐色土
1029		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は砂目可、凹面は磨れ砂が残る
1030		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面は砂目可、凹面は磨れ砂が残る
1031		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は純目可、凹面はヘラナゲ調整直が残る
1032		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面は純目可、凹面は有目直が残る
1033		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は純目可、凹ヘラナゲ調整直が残る
1034		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる白色土 凸面はヘラナゲ調整、凹面は有目直が残る
1035		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面はナゲ調整、凹面は有目直が残る
1036		雪清 こね鉢	33.8	✓	✓	白色小石を多く混じえる灰褐色土 体部内面中位から下方は磨滅直残る
1037		雪清 こね鉢	32.4	✓	✓	白色小石をやや混じえる灰褐色土 磨滅直なし
1038		雪清 小甕	✓	✓	✓	白色磁石を多く混じえる灰褐色土
1039		山茶碗 かね鉢	✓	14.6	✓	黒色磁粒・白色磁石を多く混じえる黄褐色土 内面は薄く磨滅する
1040		山茶碗 かね鉢	✓	11	✓	黄褐色粘質土 内面は薄く磨滅する
1041		磨り雪清	✓	✓	✓	こね鉢用 内面は転用磨の磨滅直が残る
1042		北朝系山茶碗	✓	✓	✓	灰白色粘質土 磨滅直なし
1043		北朝系山茶碗	4.5	✓	✓	明灰白色粘質土 赤褐色調整 磨滅直なし
1044		瀬戸 灰胎小甕	✓	✓	✓	灰白色粘質土 釉は二次焼成を受け詳細不明 体部内面下方は磨滅直残る
1045		瀬戸 灰胎小甕	✓	✓	✓	明灰白色粘質土 釉は透明に近い灰褐色を呈す
1046		瀬戸 灰胎甕	26	✓	✓	灰白色粘質土 釉は二次焼成を受け黄褐色を呈す
1047		瀬戸 灰胎甕	17.2	12.4	5.8	灰白色粘質土 釉は二次焼成を受け灰褐色を呈す
1048		瀬戸 灰胎甕	18.3	✓	✓	灰白色粘質土 釉は二次焼成を受け灰褐色を呈す
1049		白磁 口元皿	8.6	✓	✓	灰白色粘質土 釉は鉄緑味乳白色を呈す キズなし
1050		白磁 口元皿	8	✓	✓	明灰白色粘質土 釉は鉄緑味乳白色を呈す キズなし
1051		白磁 口元皿	11.8	6.4	3.1	明灰白色粘質土 釉は鉄緑味乳白色を呈す キズなし
1052		青磁 模文舟文皿	14.4	✓	✓	灰白色粘質土 釉は黄褐色を呈し黄入る 内面に僅かにキズあり
1053		青磁 硃	✓	3	✓	明灰白色粘質土 釉は鉄緑味灰青色を呈す
1054		青白磁 水注	✓	✓	✓	白色粘質土 釉は鉄緑青色を呈す
1055		青白磁 水注	✓	✓	✓	白色粘質土 釉は黄褐色を呈す
1056		白磁 製作片断	✓	✓	✓	白色粘質土 釉は白灰~灰褐色透明
1057		焼割漆	✓	✓	✓	白色磁石・黄色磁粒を混じえる黄褐色土 釉は茶褐色で一部天目直の磨滅直残る
1058		磨り金具	✓	✓	✓	
1059		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨骨
1060		硃	✓	✓	✓	黒色粘質土 「硃」に「梅」を作った再加工品
1061		硃石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り切り 磨り取り後磨り石として転用
1062		硃石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り切り 磨り取り後磨り石として転用
1063		硃石	✓	✓	✓	黒色粘質土
1064		硃石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り切り 新取り
1065		硃石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り切り
1066		硃石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り切り ナガメ直
1067		硃石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り切り 新取り
1068		硃石	✓	✓	✓	黒色粘質土 磨り切り 新取り 磨り取り後磨り石として転用
1069		すり雪清	✓	✓	✓	
1070		すり雪清	✓	✓	✓	
	ビット9	かわらけ				1071は別表参照
	ビット22	かわらけ				1072は別表参照
1073	ビット23	丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面は純目可、凹面は有目直が残る
	ビット24	かわらけ				1074は別表参照
	ビット28	かわらけ				1075は別表参照
1076		硃	✓	✓	✓	「聖宋元瓦」北宋時代

遺物観察表

番号	出土地	種別	口径	底径	容積	材質・胎土・釉など
	1b面上 V区	かわらけ				1077-1079は副表参照
1080		青滑 広口小壺	11.8	✓	✓	白色胎石を多く混じえる暗灰色土
1081		瀬戸 灰釉刷毛皿	19.1	✓	✓	白色胎粒を多く混じえる黄味灰白色土 釉は軽い二次焼成を受け黄味灰緑色
1082		青磁 瓶	5	✓	✓	灰色胎石質胎土 釉は淡灰緑色を呈す 内面キズあり
1083		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨
1084		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ四肢骨
1085	1b面	南無山山茶碗	12.8	✓	✓	明白色弱粘質胎土 磨滅度なし
1086		美濃? 灰釉瓶	17	✓	✓	灰色胎土 釉は灰緑褐色を呈す 洗成前に砂孔される 洗成用硬水鉢か?
1087		瀬戸 灰釉皿	19.8	✓	✓	黄味灰白色胎土 釉は黄味淡灰緑色を呈す 外底面はヘラで糸切り痕あり
1088		白磁 花口瓦皿	9.1	✓	✓	白色胎粒質土 釉は白濁する
1089		青磁 刷毛皿?	12.8	✓	✓	灰白色胎土 釉は淡青緑色を呈す
1090		磁石	✓	✓	✓	磁石
1091		刀子	✓	✓	✓	
1092		釘	7.8 (金量)	✓	✓	
1093		鉄				「皇宋法寶」北宋時代
1094		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨
1095		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨
1096		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨
1097		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨
1098		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨
1099		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中骨or中足骨
1100		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ四肢骨
1101		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ四肢骨
1102		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシウマ四肢骨
	1b下 D-5	かわらけ				1109-1107は副表参照
1108		青磁 飯湯丹文碗	27	✓	✓	灰色胎粒質土 釉は淡灰緑色を呈す
1109		青磁 飯湯丹文碗	16.4	3.8	7	灰色胎粒質土 釉は黄味淡灰緑色を呈す 1108、1109は重なる出土
1110	1b面下	草履 鉢	10.8	4.1	3	黄白色土
1111		筒壺	14.2	✓	✓	黒色胎石を多く混じえる黄褐色砂質土 筒部付込は窯付着
1112		伊勢赤土鍋	✓	✓	✓	白色胎石を多く混じえる白灰色土 胎心黒色 口縁付込は窯付着
1113		瓦器	✓	✓	✓	白色砂を少量混じえる白灰色砂質土 内面に陰文
1114		土埴	✓	✓	✓	
1115		瓦質漆台	✓	✓	✓	白・黒色胎石を多く混じえる灰色土 胎底は黒色を呈す 外底面はミダキ
1116		瓦質火鉢	✓	✓	✓	黄砂片・黒色砂・白色砂を多く混じえる明灰色砂質土
1117		瓦質火鉢	34.9	✓	✓	白色砂・白砂・黒色砂を多く混じえる灰色土
1118		瓦質火鉢	39.1	✓	✓	黒色砂を多く混じえる黄灰色土
	かわらけ					1119-1211は副表参照
1212		せつ谷丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面はヘラナゲ調整+自然釉、凹面は布目裏が残る
1213		軒丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土
1214		軒丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土
1215		軒丸瓦	✓	✓	✓	細砂・白色粒を混じえる灰色土
1216		軒平瓦	✓	✓	✓	山崎以馬 乾ブレ灰質土 細砂を混じえる灰色土
1217		軒平瓦	✓	✓	✓	III or IV期以降 厚草土 細砂・白色粒を混じえる灰~灰褐色土
1218		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は椿子印き、凹面はヘラナゲ調整痕残る
1219		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は椿子印き、凹面は離れ砂裏が残る
1220		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は綱目印き、凹面はヘラナゲ調整痕残る
1221		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は綱目印き、凹面は布目裏が残る
1222		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面はヘラナゲ調整、凹面は水口ナゲ調整痕が残る
1223		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面は綱目印き、凹面は布目裏が残る
1224		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面は綱目印き、凹面は布目裏が残る
1225		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は綱目印き、凹面は布目裏が残る
1226		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は綱目印き、凹面は水口ナゲ調整痕残る
1227		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は綱目印き、凹面は布目裏が残る
1228		南無山山茶碗	✓	✓	✓	粘性に欠く灰白色土 磨滅度なし
1229		南無山人子	3.8	✓	✓	黄白色胎質胎土 糸切り痕ヘラ調整 内面軽い磨滅度
1230		南無山山茶碗	6.7	✓	✓	粘性に欠く灰白色土 糸切り痕ナゲ調整 内面軽い磨滅度
1231		南無山山茶碗	7.8	✓	✓	粘性に欠く灰白色土 糸切り痕ナゲ調整 内面重しい磨滅度
1232		南無山人子	10.6	✓	✓	粘性に欠く灰白色胎土 内面磨滅度なし
1234		南無山人子	7.8	✓	✓	黄白色胎質胎土 内面磨滅度なし
1235		南無山人子	7.9	4.1	3.2	胎石を片付付く 黄白色胎質胎土 糸切り痕ヘラナゲ調整 内面磨滅度なし
1236		山茶碗とお鉢	35	✓	✓	暗灰色胎土 鉢内面中位から下方にかけて重しい磨滅度
1237		山茶碗とお鉢	34	✓	✓	暗灰色胎土 口縁から重しい磨滅度
1238		山茶碗とお鉢	20.1	✓	✓	暗灰色胎土 鉢内面中位から下方に磨滅度あり
1239		山茶碗とお鉢	28	✓	✓	粘性に欠く灰色土 鉢内面中位から下方に軽い磨滅度あり

造物観察表

番号	出土地	種類	口径	直径	高さ	材質・土色・釉など
1240	18国下	山系灰陶こ鉢	✓	11.9	✓	粘性に欠く灰色土 内面は滑しい磨滅痕あり
1241		山系灰陶こ鉢	✓	14.5	✓	灰白色胎質土 内面は滑しい磨滅痕あり
1242		山系灰陶こ鉢	✓	✓	✓	粘性に欠く灰色土 内面は滑しい磨滅痕あり
1243		山系灰陶こ鉢	✓	✓	✓	灰白色胎質土 内面は滑しい磨滅痕あり
1244		山系灰陶こ鉢	✓	10.6	✓	粘性にやや欠く灰色土 内面滑しい磨滅痕あり
1245		山系灰陶こ鉢	✓	15.2	✓	粘性に欠く埋灰土色 内面は使用による層みが見られるが磨滅痕はない
1246	常滑 広口小壺	11.3	9.4	6.9	✓	白色小石を混じえる埋灰赤土色 外面は凹印? 登孔は焼成前 炭灰埋木鉢?
1247	常滑 広口小壺	9.7	✓	✓	✓	埋灰赤土胎質土
1248	常滑 小田or合子	7.5	7.4	1.7	✓	明灰色土 底部と唇縁は筋り付けて成型
1249	常滑 こ鉢	20.4	✓	✓	✓	灰白色胎質土 内面凹輪下から下方は滑しい磨滅痕あり
1250	常滑 こ鉢	✓	12.8	✓	✓	白色小石を多く混じえる茶褐色土 内面やや磨滅痕あり
1251	常滑 こ鉢	✓	13	✓	✓	粘性に欠く白色小石を多く混じえる茶褐色土 内面磨滅痕あり
1252	常滑 こ鉢	✓	18.1	✓	✓	粘質灰褐色土 内面は滑しい磨滅痕
1253	常滑 こ鉢	✓	16.7	✓	✓	灰色胎質土 内面磨滅痕なし
1254	常美 罎	✓	✓	✓	✓	灰白色胎質土 炭成瓦
1255	新越前 罎	✓	6.6	✓	✓	粘性に欠く灰褐色灰白色土 釉は硝化味赤土色を呈し内面にも施される
1256	白磁 口元瓶	8	✓	✓	✓	灰白色胎質土 釉は硝化味赤土色を呈す 口元部に磨滅痕
1257	青磁 皿	9	✓	✓	✓	灰白色胎質胎質土 釉は灰味茶青緑色を呈す 口唇部にわずかに磨滅痕
1258	白磁 口元瓶	11.4	✓	✓	✓	明灰白色胎質胎質土 釉は灰緑味赤土色を呈す 口元部にわずかに磨滅痕
1259	白磁 口元瓶	12	✓	✓	✓	灰白色胎質胎質土 釉は硝化味赤土色を呈す キズなし
1260	白磁 口元瓶	11.2	✓	✓	✓	灰白色胎質胎質土 釉は硝化味赤土色を呈す キズなし
1261	白磁 口元瓶or罎	12.0	✓	✓	✓	灰白色胎質土 釉は硝化味赤土色を呈す キズなし
1262	白磁 口元瓶	✓	✓	✓	✓	明白色胎質土 釉は硝化味赤土色を呈す キズなし
1263	白磁 口元瓶	14.6	✓	✓	✓	灰白色胎質土 釉は硝化味赤土色を呈す キズなし
1264	白磁 口元瓶	13.1	✓	✓	✓	灰白色胎質胎質土 釉は硝化味赤土色を呈してよく施される キズなし
1265	白磁 口元瓶	✓	4.4	✓	✓	明灰白色胎質胎質土 釉は硝化味赤土色を呈す 内面に軽いキズ
1266	白磁 広口壺	11.4	✓	✓	✓	硝化白色胎質土 釉は硝化味赤土色を呈し 煎茶人が入る
1267	白磁 広口壺	14.3	✓	✓	✓	灰白色胎質土 釉は硝化味赤土色を呈す 煎茶人が入る
1268	青磁 鉄源弁文瓶	10.6	✓	✓	✓	灰白色胎質胎質土 釉は青味灰緑色を呈し厚めに施される
1269	青磁 鉄源弁文瓶	13.8	✓	✓	✓	明灰白色胎質胎質土 釉は灰味茶青緑色を呈す 内面に軽いキズあり
1270	青磁 鉄源弁文瓶	15	✓	✓	✓	灰一埋灰色胎質土 釉は硝化味赤土色を呈す 口唇部一筋磨り痕あり
1271	青磁 鉄源弁文瓶	13.4	✓	✓	✓	明灰白色胎質土 釉は明灰青緑色を呈し厚く施される 内面に軽いキズあり
1272	青磁 鉄源弁文瓶	15.5	✓	✓	✓	埋灰色胎質土 釉は灰緑色を呈す キズなし
1273	青磁 鉄源弁文瓶	14.9	✓	✓	✓	灰味赤土胎質土 釉は硝化味赤土色を呈し厚く施される キズなし
1274	青磁 罎	✓	5.6	✓	✓	明灰白色胎質土 釉は灰味茶青緑色を呈する
1275	青磁 罎	✓	5.8	✓	✓	灰味埋灰色胎質土 釉は硝化味赤土色を呈し煎茶人が入る
1276	青磁 罎	✓	5.8	✓	✓	明灰白色胎質土 釉は明灰青緑色を呈し 釉下に硝化痕あり
1277	青磁 鉄源弁文瓶	✓	5.2	✓	✓	灰白色胎質土 釉は硝化味赤土色を呈し厚めに施される
1278	青磁 鉄源弁文瓶	✓	6	✓	✓	灰白色胎質土 釉は灰味茶青緑色を呈す 内面滑しいキズあり
1279	青磁 鉄源弁文瓶	✓	9.8	✓	✓	灰一埋灰色胎質土 釉は硝化味赤土色を呈し厚めに施され煎茶人が入る
1280	青磁 鉄源弁文瓶	9.9	3.2	2.4	✓	灰白色胎質土 釉は灰味茶青緑色を呈す 内面は滑しいキズあり
1281	青白磁 瓶蓋	5.3	5.2	✓	✓	白色胎質土 釉は灰白色を呈しやや白濁する 蓋縁部は鉄灰色
1282	青白磁 若耳壺	✓	6.3	✓	✓	明灰白色胎質胎質土 釉は硝化味赤土色を呈す
1283	青白磁 風子	✓	9.4	✓	✓	白色胎質土 釉は水青色を呈す
1284	磁石	✓	✓	✓	✓	磁石
1285	磨り常滑	✓	✓	✓	✓	磨り常滑
1286	磨り常滑	✓	✓	✓	✓	磨り常滑
1287	磁石	✓	✓	✓	✓	磁石
1288	磁石	✓	✓	✓	✓	磁石
1289	磁石	✓	✓	✓	✓	磁石
1290	磁石	✓	✓	✓	✓	磁石
1291	磁石	✓	✓	✓	✓	磨り常滑
1292	磁石	✓	✓	✓	✓	磨り常滑
1293	磁石	✓	✓	✓	✓	磁石 復転用
1294	磁石	✓	✓	✓	✓	赤磁石 磨り切り タガネ底 切り取り使磨り石として使用
1295	磁石	✓	✓	✓	✓	赤磁石 磨り切り 鉄取り ノミ底 タガネ底
1296	釘	11.5 (全長)	✓	✓	✓	
1297	釘	8.2 (全長)	✓	✓	✓	
1298	釘	7.5 (全長)	✓	✓	✓	
1299	釘	5.4 (全長)	✓	✓	✓	
1300	骨製品	✓	✓	✓	✓	
1301	骨	✓	✓	✓	✓	骨が十分に行なわれずヤケツク 未製品か?
1302	骨	✓	✓	✓	✓	両側面に筋り直し、表面凹状溝の長さから再加工程中品であろう
1303	骨	✓	✓	✓	✓	丁寧に磨かれる

遺物観察表

番号	出土地	遺物	口径	底径	器高	材質・胎土・物など
1304	1b層下	甕	✓	✓	✓	丁字に磨かれる
1305		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中尾骨
1306		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中尾骨
1307		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中尾骨
1308		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中尾骨
1309		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中尾骨
1310		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中尾骨
1311		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨
1312		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨orウシ中尾骨
1313		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ中手骨
1314		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ大腸骨
1315		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ脛骨
1316		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ脛骨
1317		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ脛骨
1318		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ脛骨
1319		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ脛骨
1320		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ脛骨
1321		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1322		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1323		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1324		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1325		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1326		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1327		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1328		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1329		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1330		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1331		加工骨残片	✓	✓	✓	ウマ脛骨
	層12	かわらけ				1332～1335は別表参照
1336		せつ器丸瓦	✓	✓	✓	磁粉を混じえる灰褐色土 凸面はへり調整・自然釉、凹面は有目状が残る
1337		瀬戸 灰細磁	31.3	✓	✓	灰青色・灰白色胎土 釉は灰味・灰緑色を呈すが不安定
1338		青磁 折衝小鉢	9.3	✓	✓	明白色胎土・粘質胎土 釉は硝薬緑色を呈し厚く施される 貫入
1339		硯石	✓	✓	✓	黒色粘板土 磨り取り
	1a層 区	かわらけ				1340～1342は別表参照
1343		青磁 彫文文碗	11.8	✓	✓	灰青色・灰白色胎土 釉は灰味・灰緑色を呈し細貫入が入る
1344		青磁 鉢形文文碗	15.9	✓	✓	灰白色胎土 釉は灰味・灰青色を呈し厚く施される
1345		白磁 口元碗	✓	✓	✓	灰白色胎土 釉は純粋味乳白色を呈す
1346		青白磁 皿	11	✓	✓	白色胎土 釉は純粋青色を呈し濃度高い
1347		瀬戸 灰物広口壺	13.2	✓	✓	灰白色粘質胎土 釉は灰味・灰緑色を呈し厚く施される
1348		常滑 小鉢	34	✓	✓	白色小石を多く混じえる母灰土 体部内面中位から下方は磨り取り
1349		硯石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り
1350		磨り常滑	✓	✓	✓	
1351		鉄	✓	✓	✓	「天監元寶」北宋時代
1352		鉄	✓	✓	✓	「元祐通寶」北宋時代
1353		鉄	✓	✓	✓	「咸平元寶」北宋時代
1354		鉄	✓	✓	✓	「祥符元寶」北宋時代
1355		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1356		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1357	1a層上1・II区	加工骨残片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1358		硯石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り後磨り石として使用
	層3	かわらけ				1359～1362は別表参照
1363		南朝山形赤銅	12.4	✓	✓	粘性に欠く灰白色土 磨滅度なし
1364		常滑 小壺	✓	6.6	✓	白色胎土を多く混じえる灰褐色土 二次焼成受ける
1365		常滑 小鉢	22.4	✓	✓	粘性に欠く灰褐色土 磨滅度なし
1366		山形赤銅 小鉢	✓	13	✓	灰白色土 内面は黒しい磨滅度・磨り取り 割れ口には紅が微量付着
1367		山形赤銅 小鉢	✓	11.2	✓	黒色胎土・白色胎土を多く混じえる灰褐色土 内面無磨滅度あり
1368		青白磁 合子蓋	4.1	✓	✓	白色粘質胎土 釉は乳白色を呈し失透する
1369		白磁 器作り碗	✓	✓	✓	白色胎土 釉は純粋味透明
1370		白磁 皿	✓	6.2	✓	明白色粘質胎土 釉は純粋味乳白色を呈す
1371		青磁 蓮弁文碗	16	✓	✓	母灰色粘質胎土 釉は灰味・灰緑色を呈す へうによる蓮弁文 キズあり
1372		滑石スタンプ	✓	✓	✓	滑石質胎土 未製品
1373		硯石	✓	✓	✓	磨り取り
1374		加工骨残片	✓	✓	✓	ウシ脛骨

造物観察表

番号	出土地	産別	口径	底径	高さ	材質・胎土・釉など
	備6	かわらけ				1375～1387は別表参照
1388		土師瓦 筒台	✓	✓	✓	黒色砂粒を多く混じえる乳色かわらけ瓦土
1389		軒丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土
1390		瓦葺火鉢	33	✓	✓	白色・黒色砂を多く混じえる緑褐色砂質土
1391a		山形朝顔こね鉢	27.6	✓	✓	暗灰色胎土 磨減なし
1391		山形朝顔こね鉢	✓	15.6	✓	灰色筒状質胎土 内面は青い磨減あり
1392		青雫 朝顔皿or碗	13.2	✓	✓	淡青灰色筒状質土 胎は青味淡緑色を呈し顔瓦が入る
1393		青雫 朝顔文碗	✓	5.8	✓	明灰白色筒状質土 胎は灰味青緑色を呈す 内底面は軽いキズ痕が残る
1394		硯石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り切り 磨り取り後磨り石として使用
1395		硯石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り切り 新取り 磨り取り後磨り石として使用
1396		加工香焼片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1397		加工香焼片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1398		加工香焼片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1399		骨	✓	✓	✓	左側面に磨り痕が残る 再加工途中品
1400		刀子	✓	✓	✓	
1401		釘	8.7 (全長)	✓	✓	
1402		刀子	✓	✓	✓	
	備7	かわらけ				1403～1413は別表参照
1413		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面はヘナダ調整、凹面はナダ調整痕が残る
1414		白磁 口元碗or皿	13.6	✓	✓	白色筒状質土 胎は淡緑味乳白色を呈す
	備9	かわらけ				1415～1423は別表参照
1424		瓦葺火鉢	✓	✓	✓	黒色小石～細粒を多く混じえる黄灰色胎質土
1425		軒丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土
1426		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は磨り切り、凹面はヘナダ調整痕が残る
1427		丸瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面はナダ調整、凹面は有目痕が残る
1428		平瓦	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は磨り切り、凹面は有目痕が残る
1429		せつ草瓦	✓	✓	✓	白色粒を混じえる灰白色土 凸面は磨りナダ調整、凹面は有目痕が残る
1430		青粒系山形碗	✓	7.3	✓	明灰白色胎土 赤切り無染調整 磨減なし
1431		瀬戸 灰胎古瓦葺	✓	✓	✓	灰色胎質胎土 胎は二次焼成を受け淡緑色を呈し熟立つ
1432		瀬戸 灰胎古瓦葺	16.8	10.3	4	灰白色胎土 胎は二次焼成を受け淡緑色を呈す 赤切り後ヘナダ調整される
1433		常滑 こね鉢	20.6	✓	✓	白・黒色微粒を混じえる暗灰色土 磨減なし
1434		常滑 こね鉢	✓	13.5	✓	白色微粒を少量混じえる黄灰色土 内面は青い磨減
1435		常滑 こね鉢	20.6	✓	✓	胎人物の少ない灰色土 胎部内面中位から下方にかけて青い磨減痕が残る
1436		常滑 こね鉢	✓	11.6	✓	白色小石を多く混じえる暗灰色胎質胎土 内面は青い磨減痕が残る
1437		山形朝顔こね鉢	✓	15	✓	黒色微粒・白色細石を多く混じえる灰色土 内面は青い磨減痕が残る
1438	備9	青雫 朝顔文碗	✓	5.8	✓	灰色筒状質胎土 胎は淡緑色を呈し高台部～外底面にかけて黄土色染する
1439		白磁 口元碗	12.4	✓	✓	明灰白色胎土 胎は淡緑味乳白色を呈す 内面軽いキズあり
1440		白磁 碗	✓	5.6	✓	灰色胎土 胎は青味乳灰色を呈す
1441		硯	✓	✓	✓	黒色胎底面
1442		硯石	✓	✓	✓	黄灰色 数条の筋状磨り取り込みが入る
1443		磨り骨筒	✓	✓	✓	
1444		湯石	✓	✓	✓	滑石粉焼用 磨孔途中に破損したものと見られる
1445		釘	15.1 (全長)	✓	✓	
1446		釘	7.1 (全長)	✓	✓	
1447		骨	✓	✓	✓	裏面に磨り取り込みかけの磨り痕が多く残る 再加工途中品
1448		加工香焼片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
1449		加工香焼片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
1450		加工香焼片	✓	✓	✓	ウシ中足骨
1451		加工香焼片	✓	✓	✓	ウマ中足骨
1452		加工香焼片	✓	✓	✓	ウマ中足骨
1453		加工香焼片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
	備4	かわらけ				1454は別表参照
1455		磨り骨筒	✓	✓	✓	
1456		磨り骨筒	✓	✓	✓	「J」磨印あり
1457		加工香焼片	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
	備5	かわらけ				1458～1462は別表参照
1463		伊勢系山形碗	✓	✓	✓	石粒を多く混じえる胎土 胎底は灰色、胎心は黄灰色を呈す
1464		北部系山形碗	✓	5.5	✓	明灰白色胎質胎土 磨減なし
1465		瀬戸 灰胎小壺	✓	3.1	✓	明灰白色胎質胎土 胎は淡緑色を呈す 胎部内面にしぼり痕が残る
1466		瀬戸 灰胎口蓋	12.8	✓	✓	明灰白色胎質胎土 胎は淡緑色を呈し磨り落とされる
1467		山形朝顔こね鉢	28	✓	✓	青灰色筒状質胎土 胎部内面中位から下方にかけて磨減痕あり
1468		山形朝顔こね鉢	✓	11.2	✓	特性に欠く暗灰色土 内面は青い磨減痕・黒ずみがある
1469		硯石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り 磨り取り
1470		硯石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り 磨り取り後磨り石として使用

遺物観察表

番号	出土地	種類	口径	底径	高さ	材質・胎土・釉など
1471	溝5	磁石	✓	✓	✓	泥岩
1472	丸瓦	✓	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は鱗目直、凹面は布目直が残る
1473	釘	5.7 (全長)	✓	✓	✓	
1474	敷瓦	8.7 (重径)	✓	✓	✓	
1475	加工骨焼片	✓	✓	✓	✓	ウシ中手骨or中尾骨
1476	加工骨焼片	✓	✓	✓	✓	ウシ中手骨or中尾骨
1478	加工骨焼片	✓	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
土壌1	かわらけ	✓	✓	✓	✓	1479~1491は調査参照
1492	不明土製品	✓	✓	✓	✓	黒色砂・赤色泥粒を多く混じえるかわらけ質土
1493	平瓦	✓	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面は鱗目直、凹面は縦れ砂直が残る
1494	常滑 壺or甕	✓	14.4	✓	✓	粘性に欠く灰色土
1495	瀬戸 灰釉製足盤	✓	26.1	✓	✓	黄褐色灰白色土 釉は不安定 甕12c未確認? 瀬戸丹赤3号塗で類似品出土 ※瀬戸丹赤の製成式による
1496	加工骨焼片	✓	✓	✓	✓	ウシ大腿骨
1497	加工骨焼片	✓	✓	✓	✓	ウシorウマ肋骨
1498	加工骨焼片	✓	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1499~1500は欠番						
1501	釘	6.9 (全長)	✓	✓	✓	
1502	釘	6.8 (全長)	✓	✓	✓	
土壌2	かわらけ	✓	✓	✓	✓	1503は調査参照
1504	山茶碗蓋こ鉢	✓	15.4	✓	✓	粘性に欠く暗灰色土 内面は著しい磨滅直が残る
土壌3	かわらけ	✓	✓	✓	✓	1505~1507は調査参照
1508	瀬戸灰釉有写実	✓	8.4	✓	✓	灰白色粉粘質胎土 釉は淡緑色を呈す
1509	骨焼 椀	✓	3.6	✓	✓	明灰白色粘質胎土 釉は灰緑・青緑色を呈す
1510	加工骨焼片	✓	✓	✓	✓	ウシ中手骨
1511	骨製品	12.7 (全長)	✓	✓	✓	丁寧な削りが行なわれる
1a面上IV区	かわらけ	✓	✓	✓	✓	1512は調査参照
1513	青白磁 合子壺	9.2	✓	✓	✓	粘性に欠く白色土 釉は緑味緑水青色を呈す
1514	盛り骨滑	✓	✓	✓	✓	
1515	盛り骨滑	✓	✓	✓	✓	
1516	敷瓦	✓	✓	✓	✓	
1517	釘	✓	✓	✓	✓	丁寧な削りが行なわれる
1518	加工骨焼片	✓	✓	✓	✓	ウシorウマ四肢骨
1a面上土壌	かわらけ	✓	✓	✓	✓	1519~1540は調査参照
1541	瓦形装輪花面火鉢	48	34.8	15	✓	外面には「吉」のスタンプ、内底面は種子目+8弁の花文が押印される
1a山下	かわらけ	✓	✓	✓	✓	1542~1582は調査参照
1583	土製品 小甕?	✓	✓	✓	✓	白粒・葉骨片を混じえる淡明褐色かわらけ質土
1584	瓦質火鉢	✓	✓	✓	✓	白色細石を混じえる明灰~灰褐色土 器壁はやや薄い
1585	瓦質火鉢	41.1	✓	✓	✓	黒色砂・葉骨片を混じえる暗灰土 器表は黒色、胎土は黄灰色を呈す
1586	草屨 椀	✓	3.9	✓	✓	灰色胎土 器壁は高台つく 内面は著しい磨滅直残る
1587	平瓦	✓	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面はヘラナゲ調整、凹面は布目直残る
1588	丸瓦	✓	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面はナゲ調整、凹面は布目直が残る
1589	丸瓦	✓	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は鱗目直、凹面は布目直が残る
1590	平瓦	✓	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面は絶子目直、凹面は縦れ砂直が残る
1591	丸瓦	✓	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰白色土 凸面はナゲ調整、凹面は布目直が残る
1592	丸瓦	✓	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は鱗目直+ナゲ調整、凹面は布目直が残る
1593	平瓦	✓	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土 凸面は砂目直、凹面はナゲ調整直が残る
1594	軒丸瓦	✓	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰色土
1595	軒平瓦	✓	✓	✓	✓	III~IV期 上向の煎直文 細砂を混じえる灰褐色土
1596	軒平瓦	✓	✓	✓	✓	III~IV期 上向の煎直文 概ずれ 細砂を混じえる灰色土
1597	せつ形瓦 丸瓦	✓	✓	✓	✓	細砂を混じえる灰褐色土 凸面はヘラナゲ調整、凹面は布目直が残る
1598	黄良 壺	✓	✓	✓	✓	白色微粒を混じえる胎土灰褐色土
1599	常滑 小甕	✓	8.5	✓	✓	白色細石・黒色微粒を混じえる暗灰色土
1600	常滑 小甕	✓	✓	✓	✓	白色細石を多く混じえる暗灰色土
1601	常滑 こ鉢	28	✓	✓	✓	白色小~細石を混じえる茶褐色土 磨滅直なし
1602	常滑 こ鉢	✓	13.5	✓	✓	個人物をほとんど混じえない灰色土 磨滅直なし
1603	常滑 壺or甕	✓	12.6	✓	✓	個人物をほとんど混じえない黒灰色土
1604	山茶碗蓋こ鉢	27.1	✓	✓	✓	暗灰色胎土 器壁内面中位から下方にかけて軽い磨滅直が残る
1605	山茶碗蓋こ鉢	✓	13.1	✓	✓	暗灰色胎土 内面は著しい磨滅直残る
1607	山茶碗蓋こ鉢	23.6	✓	✓	✓	粘性に欠く灰色土 器壁内面中位から下方は軽い磨滅直+屑子直が残る
1608	青白磁 梅瓶底	6	5.2	✓	✓	灰白色胎土 釉は淡青緑色を呈す 裏胎は鉄発色
1609	青白磁 菓子	✓	9.4	✓	✓	黒色砂を多く混じえる灰白色胎土胎土 釉は水青色を呈しやや白濁する
1610	白磁 口元皿	13.4	✓	✓	✓	灰白色胎土 釉は淡緑味乳白色を呈す
1611	白磁 皿	✓	5	✓	✓	灰白色胎土胎土 釉は淡緑味乳白色を呈す

遺物観察表

番号	出土基	種類	口径	底径	高さ	材質・胎土・釉など
1612	1a層下	白磁 口元皿	9.2	5.8	2.8	灰白色胎質土 釉は淡緑味乳白色を呈す
1613		白磁 皿	4.4	4.4	4.4	明灰白色胎質胎質胎土 釉は淡緑味乳白色を呈す キズあり
1614		白磁 皿	5.4	5.4	5.4	明灰白色胎質胎土 釉は淡緑味乳白色を呈す 内底面に軽いキズ残る
1615		青磁 碗	3.8	3.8	3.8	灰白色胎質胎質胎土 釉は淡緑味青藍色を呈す
1616		青磁 折縁小皿	6.2	6.2	6.2	明灰白色胎質胎土 釉は淡緑味青藍色を呈し裏面が入る
1617		青磁六角弁合子(蓋)	6.8	6.8	6.8	灰白色胎質胎質胎土 釉は淡緑味青藍色を呈し厚めに施釉される
		河 (身)	6.4	6.4	6.4	同上
1618		龍織陶器合子蓋	4.4	4.4	4.4	淡灰白色胎質胎質胎土 釉は黄味茶褐色を呈す
1619		磁石	4.4	4.4	4.4	硝石紋用 散飯の盛り切り皮残る
1620		博石鉢	4.4	4.4	4.4	磨削下から下方は扉付層
1621		刀子	4.4	4.4	4.4	
1622		鉢	4.4	4.4	4.4	「治平元寶」北宋時代
1623		鉢	4.4	4.4	4.4	「至道元寶」北宋時代
1624		鉢	4.4	4.4	4.4	「開寧元寶」北宋時代
1625		鉢	4.4	4.4	4.4	「興元通」 「興元通寶」と思われる 唐時代
1626		加工骨残片	4.4	4.4	4.4	クワンウマ四肢骨
1627		加工骨残片	4.4	4.4	4.4	クワンウマ四肢骨
1628		加工骨残片	4.4	4.4	4.4	クワンウマ四肢骨
1629		磁石	4.4	4.4	4.4	磁石
1630		磁石	4.4	4.4	4.4	磁石
1631		磁石	4.4	4.4	4.4	磁石
1632		磁石	4.4	4.4	4.4	磁石
1633		盛り電漕	4.4	4.4	4.4	
1634		磁石	4.4	4.4	4.4	磨減痕あり
1635		磁	4.4	4.4	4.4	黄色粘板岩
1636		磁	4.4	4.4	4.4	黄色粘板岩 「海」に磨減残る
1637		磁石	4.4	4.4	4.4	赤陶石 盛り切り
1638		磁石	4.4	4.4	4.4	粘板岩 盛り切り 切り取り後盛り石として使用
1639		磁石	4.4	4.4	4.4	赤陶石 盛り切り 切り取り後盛り石として使用
1640		磁石	4.4	4.4	4.4	粘板岩 盛り切り ノミ痕
1641		磁石	4.4	4.4	4.4	赤陶石 盛り切り 新り取り 素材切り出し度
1642		磁石	4.4	4.4	4.4	赤陶石 盛り切り 新り取り 素材切り出し度
1643		磁石	4.4	4.4	4.4	赤陶石 盛り切り
1644		磁石	4.4	4.4	4.4	赤陶石 盛り切り 新り取り
1645		磁石	4.4	4.4	4.4	赤陶石 盛り切り
上層色合層	かわらけ					1646~1652, 1655は別表参照
1653		瓦質灰鉢	4.4	4.4	4.4	蓋骨片多く混じる暗灰色土
1654		土器黄七輪	4.4	4.4	4.4	白色胎質を多く混じる胎質土 器表は淡褐色、胎心は黄褐色を呈す
1656		土鉢	4.4	4.4	4.4	
1657		かわらけ質磁石	4.4	4.4	4.4	黒玉
1658		かわらけ質磁石	4.4	4.4	4.4	白玉
1659		伊勢赤土鉢	4.4	4.4	4.4	石粒を多く混じえる土 器表は灰色 胎心は黒灰色を呈す
1660		南無真人子	4.9	4.9	4.9	灰白色胎質胎質胎土 赤切り後無釉施 内底面磨減痕あり
1661		南無真人子	5.2	5.2	5.2	灰白色胎質胎質胎土 赤切り後無釉施 磨減痕なし
1662		北無真人花入子	5.1	2.8	1.7	灰白色胎質胎質胎土 赤切り後無釉施 内外底は一様磨減度が微量残る
1663		瀬戸 天目茶碗	4.2	4.2	4.2	粘性に欠く暗灰色土 釉は暗褐色を呈す
1664		瀬戸 灰地磁子	4.6	4.6	4.6	粘性に欠く黄褐色～黄味灰色土 釉は黄味淡灰緑色を呈す
1665		瀬戸 灰地花瓶	6.1	6.1	6.1	淡緑味灰白色胎質胎質胎土 釉は淡緑色を呈す
1666		瀬戸 灰地碗	6.8	6.8	6.8	黄味淡灰白色土 釉は淡灰緑色を呈す 内底面にはへう溜みによる磨花文あり
1667		盛り磁石	4.4	4.4	4.4	燕子使徒使に転用されたものと思われる
1668		電漕 盛り鉢	4.4	4.4	4.4	赤褐色胎質土
1669		磁前 盛り鉢	4.4	4.4	4.4	淡灰白色胎質胎質胎土 鉄混入 内壁は5本の条線が入る 軽い磨減痕あり
1670		磁前 盛り鉢	4.4	4.4	4.4	淡褐色胎質胎質胎土 内壁は5本の条線が入り磨しい磨減痕残る
1671		磁戸 鉄地盛り鉢	11.6	11.6	11.6	灰白色胎質胎質胎土 内壁・内底面は5本の条線が入る 著しい磨減痕あり
1672		磁前 盛り鉢	15.7	15.7	15.7	淡灰白色胎質胎質胎土 内壁は5本の条線が入る 磨減痕なし
1673		野上瓦	4.4	4.4	4.4	磁砂・白色粒を混じえる灰色土 やや小ぶり
1674		野上瓦	4.4	4.4	4.4	下向き割縁文 磁砂・白色粒を混じえる灰色土
1675		青磁 野上文碗	4.4	4.4	4.4	明磁 暗灰色胎質胎土 釉は淡灰緑青藍色を呈す 内底面には黒風子が指かかれる
1676		青磁 野上文碗	6.2	6.2	6.2	明灰白色胎質胎質胎土 釉は草緑色を呈す 内底面には黒風子が指かかれる
1677		青磁 湯舟文碗	16.6	16.6	16.6	白色胎質土 釉は淡灰青藍色を呈し厚く施釉される 内面にわずかにキズあり
1678		青磁 野上文碗	14.6	14.6	14.6	暗灰白色胎質土 釉は淡灰青藍色を呈し裏面が入る
1679		青磁 碗	5.8	5.8	5.8	暗灰白色胎質胎質胎土 釉は黄味淡灰緑色を呈し裏面が入る
1680		青白磁 小皿	4.4	4.4	4.4	白色胎質胎質胎土 釉は淡青白色を呈す 割縁口に一様磨減痕
1681		白磁 製作小皿	6.3	2.2	1.1	白色胎質胎土 釉は淡灰緑透明 内面は磨花文がつけ

遺物観察表

番号	出土地	種類	口径	底径	器高	材質・胎土・釉など
1682		白磁口元印瓦文碗	13.2	✓	✓	白色磁胎質土 釉は透明 内面には印花雷文がつく
1683		磨りごお鉢	✓	✓	✓	
1684		磨り常陸	✓	✓	✓	
1685		磨り常陸	✓	✓	✓	
1686		磨り常陸	✓	✓	✓	
1687		磨り常陸	✓	✓	✓	
1688		磨り常陸	✓	✓	✓	
1689		磨り常陸	✓	✓	✓	
1690		磨り常陸	✓	✓	✓	
1691		磁石	✓	✓	✓	磁石
1692		磁石	✓	✓	✓	磁石
1693		磨り常陸	✓	✓	✓	
1694		磁石	✓	✓	✓	粘板岩 磨り取り 取り取り後磨り石として使用
1695		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り ナガネ灰 裏面取り出し状
1696		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り
1697		磁石	✓	✓	✓	粘板岩 磨り取り 取り取り後磨り石として使用
1698		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り 取り取り後磨り石として使用
1699		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り 取り取り
1700		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 ノミ痕 取り取り後磨り石として使用
1701		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り 取り取り
1702		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り
1703		磁石	✓	✓	✓	粘板岩 磨り取り 取り取り
1704		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り 取り取り後磨り石として使用
1705		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り 取り取り ナガネ灰 取り取り後磨り石として使用
1706		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り 取り取り後磨り石として使用
1707		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り 取り取り
1708		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り 取り取り ナガネ灰
1709		磁石	✓	✓	✓	赤褐色 磨り取り 取り取り 取り取り後磨り石として使用
1710		加工骨残片	✓	✓	✓	ウツウマ胎骨
1711		加工骨残片	✓	✓	✓	ウツウマ胎骨
1712		加工骨残片	✓	✓	✓	ウツウマ胎骨
1713		加工骨残片	✓	✓	✓	ウツウマ胎骨
1714		骨	✓	✓	✓	裏面削り直し途中 再加工途中品
1715		鉄	✓	✓	✓	
1716		鉄	✓	✓	✓	「元祐通寶」北宋時代
1717		鉄	✓	✓	✓	「紹聖元寶」北宋時代
1718		鉄	✓	✓	✓	「聖宋元寶」北宋時代
1719		鉄	✓	✓	✓	「□元光□」
1720		水晶散珠玉	✓	✓	✓	未製品 穿孔途中に破壊したものと思われる

かわらけ観察表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナブ	比	底面	胎土色	胎土風人物	備考
46	井戸4	7.80	7.55	5.60	1.70	1.20	ノ	1.39	糸切り	桃赤褐色	砂 黒帯 白紋 砂っぽい	
47		7.40	7.10	5.55	1.60	1.10	ノ	1.34	糸切り	褐色	砂 白針 黒帯 白紋 やや砂っぽい	
48		8.00	7.60	5.85	1.85	1.35	ノ	1.37	糸切り	赤褐色	白針 白紋 砂 黒帯 砂っぽい	
49		7.80	7.40	5.60	1.70	1.20	ノ	1.39	糸切り	桃赤褐色	白針 黒帯 白紋 砂 やや砂っぽい	
50		9.80	9.30	6.70	2.00	1.25	ノ	1.46	糸切り	褐色	砂 黒帯 白針 白紋 やや砂っぽい	
51		10.20	9.80	8.40	2.15	1.60	ノ	1.21	糸切り	褐色	白針 砂 黒帯 やや砂っぽい	
52		9.60	9.10	8.55	ノ	1.40	ノ	1.20	ノ	桃赤褐色	砂 黒帯 やや砂っぽい	
53		10.60	10.20	8.40	ノ	2.15	1.60	ノ	ノ	桃赤色	黒帯 砂 白紋 やや砂っぽい	
54		12.75	12.40	8.40	3.00	2.20	ノ	1.52	糸切り	赤褐色	白紋 砂 白針 黒帯 砂っぽい	
55		14.00	13.70	9.20	3.25	2.30	ノ	1.53	糸切り	桃赤褐色	白針 砂 黒帯 やや砂っぽい	
56		13.00	12.60	7.20	3.40	2.70	ノ	1.81	糸切り	褐色	砂 黒帯 白針 白紋 砂っぽい	底付着
57		14.20	13.95	9.50	3.10	2.30	ノ	1.49	糸切り	桃赤褐色	砂 黒帯 白針 砂 砂っぽい	
58		12.00	11.60	6.55	3.15	2.30	ノ	1.83	糸切り	桃赤褐色	砂 黒帯 白紋 砂っぽい	底付着 器入品か?
65	井戸3	9.20	8.80	7.80	1.85	1.40	ノ	1.18	糸切り	褐色	黒帯 白針 砂 白紋 砂っぽい	
66		10.60	10.10	8.20	1.75	0.75	ノ	1.29	糸切り	桃赤褐色	砂 黒帯 白針 白紋 砂っぽい	
67		9.80	9.30	8.25	2.00	1.25	ノ	1.18	糸切り	桃赤褐色	白針 黒帯 砂 やや砂っぽい	
68		9.40	8.95	7.60	1.90	1.30	ノ	1.24	糸切り	新褐色	黒帯 砂 白針 やや砂っぽい	
69		9.70	9.35	6.40	1.90	1.30	ノ	1.52	糸切り	褐色	黒帯 砂 白針 やや砂っぽい	ゆがみ著しい
70		10.00	9.65	7.70	1.40	1.25	ノ	1.30	糸切り	新褐色	白針 黒帯 砂 やや砂っぽい	
71		9.60	9.35	6.90	1.85	1.35	ノ	1.39	糸切り	桃赤色	黒帯 白針 白紋 砂 やや砂っぽい	
72		9.70	9.30	6.90	1.70	0.65	ノ	1.41	糸切り	褐色	白紋 白針 砂 黒帯 砂っぽい	ゆがみ著しい
73		9.40	8.95	7.35	2.35	1.40	ノ	1.28	糸切り	桃赤褐色	黒帯 白針 白紋 やや砂っぽい	
74		9.40	9.25	7.20	1.90	1.20	ノ	1.31	糸切り	桃赤色	白針 黒帯 砂 砂っぽい	
75		10.00	9.60	7.25	2.10	1.20	ノ	1.38	糸切り	桃赤褐色	黒帯 白針 白紋 砂 やや砂っぽい	底付着
76		9.40	8.95	8.00	1.80	1.05	1.30	ノ	ノ	桃赤色	白紋 黒帯 砂 白針 砂っぽい	底付着 指痕不明瞭
77		9.4	8.95	7.55	1.7	0.9	1.4	ノ	ノ	桃赤色	砂 黒帯 やや砂っぽい	指痕不明瞭
78		8.40	8.00	8.10	1.75	0.90	1.55	ノ	ノ	桃赤褐色	白針 白紋 黒帯 やや砂っぽい	指痕不明瞭
79		9.40	9.20	7.20	1.80	1.00	1.60	ノ	ノ	桃赤色	黒帯 砂 白針 やや砂っぽい	指痕不明瞭
80		8.80	8.30	8.15	2.15	1.40	1.45	ノ	ノ	新褐色	白紋 白針 砂 黒帯 砂っぽい	
81		10.00	9.45	8.90	1.85	0.90	1.30	ノ	ノ	褐色	黒帯 砂 白紋 白針 砂っぽい	指痕不明瞭
82		10.60	10.10	9.50	2.15	1.40	4.35	ノ	丸み	桃赤色	黒帯 白針 白紋 やや砂っぽい	
83		10.00	9.55	8.20	2.40	1.90	1.80	ノ	丸み	桃赤色	黒帯 白針 白針 砂っぽい	
84		9.40	9.10	8.40	2.30	1.85	1.15	ノ	丸	褐色	白針 白紋 黒帯 砂 やや砂っぽい	
85		9.60	9.25	8.50	1.80	1.10	1.40	ノ	ノ	褐色	黒帯 砂 白針 白紋 やや砂っぽい	指痕不明瞭
86		10.40	9.95	8.55	2.00	1.25	1.70	ノ	ノ	褐色	黒帯 白針 白紋 砂っぽい	指痕不明瞭
87		9.00	8.60	8.00	1.40	0.95	1.25	ノ	ノ	桃褐色	白紋 黒帯 白針 砂 やや砂っぽい	指痕不明瞭
88		9.00	8.65	7.20	1.70	1.20	1.65	ノ	ノ	桃赤色	白針 白針 砂 砂っぽい	指痕不明瞭 底付着
89		14.00	13.45	9.40	3.80	3.25	ノ	1.49	糸切り	赤褐色	黒帯 白針 砂 白紋 やや砂っぽい	
90		14.40	14.10	9.20	3.00	2.30	ノ	1.57	糸切り	桃赤褐色	黒帯 白針 砂 白紋 やや砂っぽい	
91		14.00	13.50	10.30	3.30	2.15	ノ	1.56	糸切り	桃赤色	砂 白紋 白針 黒帯 やや砂っぽい	
92		13.80	13.35	7.20	3.35	2.50	ノ	1.89	糸切り	桃赤褐色	砂 黒帯 白針 砂っぽい	
93		13.40	12.90	12.00	3.25	2.50	2.30	ノ	丸み	桃赤色	黒帯 白針 白紋 やや砂っぽい	皿シナダなし
94		13.80	13.20	12.20	3.25	2.05	2.15	ノ	丸み	桃赤色	砂 白紋 黒帯 白針 砂っぽい	皿シナダなし
95		13.60	13.20	11.15	3.50	2.00	2.30	ノ	丸	桃赤褐色	黒帯 白針 白紋 やや砂っぽい	指痕+スノコ痕
96		14.00	13.50	11.95	3.60	2.30	2.10	ノ	丸	桃赤褐色	白針 砂 黒帯 白紋 砂っぽい	
97		14.00	13.40	12.40	3.45	2.70	2.20	ノ	丸	褐色	白針 黒帯 白紋 砂っぽい	
98		12.00	11.25	12.80	4.00	3.30	2.05	ノ	丸	桃赤褐色	黒帯 白針 白紋 やや砂っぽい	
99		14.20	13.45	13.00	3.80	3.10	1.65	ノ	丸	桃赤色	砂 黒帯 白針 白紋 やや砂っぽい	
100		14.60	14.15	12.90	3.20	2.40	2.25	ノ	丸み	桃赤褐色	砂 黒帯 白針 白紋 やや砂っぽい	皿シナダなし
101		ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	桃赤色	黒帯 砂 白針 やや砂っぽい	穿孔
102		14.60	14.25	13.65	3.65	2.80	2.40	ノ	丸	赤褐色	砂 白紋 黒帯	穿孔
107	土壌28	4.40	4.35	3.80	0.90	0.60	ノ	1.16	糸切り	桃赤色	黒帯 砂 やや砂っぽい	特殊(瓶小内付)
108		8.20	4.90	4.15	1.95	1.80	ノ	1.49	糸切り	桃赤色	黒帯 砂 白針	特殊かわらけ(瓶小)
109		9.20	8.85	7.50	ノ	ノ	ノ	1.20	ノ	新褐色	白針 砂 黒帯 やや砂っぽい	
110		9.60	9.25	8.00	1.65	1.10	1.35	ノ	ノ	桃褐色	白針 白紋 砂 黒帯 やや砂っぽい	指痕不明瞭
111		10.05	9.60	8.45	1.70	0.90	1.20	ノ	丸	桃赤色	白針 白紋 砂 黒帯 やや砂っぽい	ヘソ痕
112		14.50	13.95	12.80	ノ	ノ	ノ	1.70	ノ	新褐色	白針 砂 白紋 やや砂っぽい	
121	土壌218	8.40	8.05	5.45	2.15	1.40	ノ	1.54	糸切り	桃赤色	黒帯 白針 白紋	
122		9.00	8.60	7.60	1.75	1.00	ノ	ノ	ノ	桃赤色	砂 白紋 白針 黒帯 やや砂っぽい	指痕不明瞭
123		12.60	12.25	6.65	3.40	2.75	ノ	1.89	糸切り	桃赤色	砂 白針 黒帯 白紋 砂っぽい	底付着
124		11.60	11.50	6.40	3.05	2.50	ノ	1.83	糸切り	桃赤褐色	黒帯 白紋 白針 やや砂っぽい	
125		12.60	12.40	6.60	3.20	2.85	ノ	1.91	糸切り	桃赤色	砂 黒帯 白針 やや砂っぽい	外縁細小粒土質付着
126		12.20	11.85	6.65	3.30	2.30	ノ	1.83	糸切り	桃赤褐色	白針 白紋 砂 黒帯 砂っぽい	
127		13.00	12.70	9.00	3.60	2.85	ノ	1.44	糸切り	褐色	砂 黒帯 白針 やや砂っぽい	

かわらけ観察表

No.	出土地	外径	内径	底径	片高	内高	ナデ	比	底形	胎土色	胎土混入物	備考
128	土曜218	12.15	11.65	10.59	／	／	1.80	／	丸	淡赤褐色	砂 白針 白紋	やや砂っぽい
133	土曜218	8.30	7.80	6.30	1.70	1.15	／	1.32	糸切り	褐色	砂 白針 白紋	やや砂っぽい
134		9.60	8.90	7.20	1.80	1.30	／	1.34	糸切り	レンガ色	砂 白針 砂	やや砂っぽい
135		9.40	9.00	7.20	2.00	1.35	／	1.31	糸切り	褐色	砂 白針 白紋	やや砂っぽい
136		8.25	7.80	5.90	2.00	1.35	／	1.40	糸切り	レンガ色	白紋 砂 白針	重さ 砂っぽい
137		8.60	8.10	6.60	1.80	1.00	／	1.30	糸切り	淡褐色	砂 白紋 重さ	やや砂っぽい
138		8.70	8.30	6.20	1.55	0.90	／	1.40	糸切り	淡褐色	砂 白紋	やや砂っぽい
139		8.40	8.10	5.50	1.80	1.10	／	1.53	糸切り	淡赤褐色	砂 白針 重さ	砂っぽい
140		9.10	8.70	5.80	2.30	1.30	／	1.57	糸切り	淡褐色	白紋 砂 白針	重さ 砂っぽい
141		9.00	8.50	7.00	1.80	1.30	／	1.28	糸切り	レンガ色	砂 白紋 重さ	砂っぽい
142		8.00	7.60	6.60	1.10	0.40	1.10	／	平	褐色	砂 重さ 白紋	砂っぽい
143		9.00	8.40	8.30	1.05	0.50	0.90	／	平	淡褐色	砂 白紋 重さ	やや砂っぽい
144		9.00	8.55	8.05	1.15	0.55	1.15	／	平	淡赤褐色	砂 白紋 白針	砂っぽい
145		9.00	8.40	8.00	1.35	0.65	1.10	／	平	淡褐色	砂 白紋 白針	やや砂っぽい
146		9.20	8.75	8.05	1.30	0.60	1.10	／	平	淡赤褐色	白紋 砂 白針	焼成良好
147		9.30	9.30	8.50	1.30	1.00	1.40	／	平	淡赤褐色	砂 白紋 白針	砂っぽい 焼良
148		9.80	9.40	8.20	1.50	0.70	1.30	／	平	淡褐色	白紋 砂 白針	やや砂っぽい
149		9.50	9.10	8.50	1.30	0.70	0.85	／	平	淡赤褐色	砂 重さ 白紋 白針	砂っぽい
150		8.00	8.70	7.50	2.30	1.80	1.40	／	丸	レンガ色	砂 白針 白紋	焼成良好
151		9.10	8.70	7.40	2.30	1.90	1.70	／	丸	淡褐色	砂 白紋 重さ	砂っぽい
152		9.50	9.10	7.05	2.35	2.00	1.60	／	丸	淡褐色	砂 重さ 白紋	砂っぽい
153		9.60	9.40	7.80	2.35	1.85	1.80	／	丸	赤褐色	砂 白紋 白針	焼成良好
154		9.40	8.80	7.90	1.70	1.25	1.15	／	丸	淡褐色	砂 白紋 重さ	やや砂っぽい
155		10.20	9.55	7.85	1.80	1.30	1.45	／	丸	淡褐色	砂 白紋	やや砂っぽい
156		10.00	9.40	8.00	2.15	1.40	1.70	／	丸	褐色	砂 白紋 重さ	砂っぽい
157		15.25	14.80	13.50	3.90	3.10	2.20	／	丸	淡赤褐色	砂 白針 白紋 重さ	やや砂っぽい
158		14.00	13.40	11.60	3.10	2.20	2.00	／	丸	淡赤褐色	砂 重さ 白針 白紋	やや砂っぽい
159		14.60	14.20	12.60	2.90	2.30	2.00	／	丸	淡赤褐色	砂 白紋 白針 重さ	やや砂っぽい
160		14.40	13.80	12.50	3.60	2.80	2.30	／	丸	淡赤褐色	砂 重さ 白針	とても砂っぽい
161		13.20	12.60	11.15	3.30	2.80	2.90	／	丸	淡赤褐色	砂 白紋 重さ	やや砂っぽい
162	土曜18 風埜	8.70	8.20	7.60	1.30	0.65	1.15	／	平	赤褐色	砂 白針 白紋 重さ	やや砂っぽい
163		9.40	8.90	8.10	1.40	0.60	1.10	／	平	淡褐色	砂 白針 白紋 重さ	砂っぽい
164		9.40	8.80	8.00	1.75	1.25	1.50	／	平	赤褐色	砂 白紋 重さ	とても砂っぽい
165		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／
166		14.00	13.40	12.20	3.15	2.35	2.00	／	丸	淡褐色	砂 白針 白紋 重さ	砂っぽい
168	土曜213	9.60	9.20	8.20	1.70	0.75	1.17	／	丸	淡赤褐色	白針 白紋 砂 重さ	砂っぽい
169		9.60	9.15	6.80	1.60	0.80	1.41	／	糸切り	淡赤褐色	砂 白針 白紋	砂っぽい
170		9.00	8.60	6.60	1.80	1.10	1.36	／	糸切り	淡赤褐色	砂 白紋 重さ 白針	砂っぽい
171		9.00	8.60	6.10	1.80	1.15	1.48	／	糸切り	褐色	重さ 砂 白紋 白針	砂っぽい
172		8.80	8.45	6.40	2.45	2.00	1.38	／	糸切り	淡褐色	重さ 白針 白針 砂	やや砂っぽい
173		9.20	8.65	8.10	2.00	1.55	1.15	／	丸	淡褐色	砂 白針 白紋 重さ	砂っぽい
175		15.75	15.40	12.00	3.05	2.20	1.31	／	糸切り	淡褐色	砂 白針 重さ 白紋	砂っぽい
176		12.75	12.30	8.65	／	2.90	／	丸	淡赤褐色	白針 白紋 重さ 砂	やや砂っぽい	
177		13.60	13.10	11.80	3.50	2.50	2.40	／	丸	淡赤褐色	重さ 砂 白紋 白針	やや砂っぽい
178		15.70	15.40	11.80	／	2.70	／	平?	丸	淡褐色	重さ 砂 白針	とても砂っぽい
188	土曜23	13.10	12.70	11.70	3.05	2.55	1.70	／	丸	淡褐色	砂 白紋 重さ	砂っぽい
197	土曜211	7.80	7.35	5.45	1.75	1.00	1.43	／	糸切り	褐色	砂 白針 白針 重さ	砂っぽい
198	土曜215	9.20	8.70	6.80	2.05	1.45	1.33	／	糸切り	褐色	砂 白針 重さ 白紋	砂っぽい
199		9.40	9.05	7.40	2.05	1.40	／	丸	淡褐色	砂 重さ 白紋 白針	やや砂っぽい	
200		13.00	12.50	8.00	3.00	2.00	1.63	／	糸切り	淡赤褐色	砂 白紋 重さ 白針	砂っぽい
201		12.70	12.50	11.00	／	1.50	／	丸	淡赤褐色	白紋 白針	やや砂っぽい	
202		13.4	13.3	11.75	3.35	2.8	1.75	／	丸	淡赤褐色	重さ 白針 砂 白紋	／
206	土曜27	8.00	7.65	6.00	1.40	0.90	1.33	／	糸切り	淡赤褐色	砂 重さ 白紋	砂っぽい
207		8.55	8.25	6.60	1.85	1.20	1.30	／	糸切り	淡赤褐色	重さ 砂 白紋 白針	やや砂っぽい
208		8.80	8.40	8.00	1.85	1.30	／	平?	丸	褐色	白針 重さ 砂 白紋	やや砂っぽい
209		9.60	9.05	8.15	1.60	0.90	1.35	／	平	淡褐色	白針 重さ 白紋 白針	砂っぽい
210		9.80	9.50	7.85	2.30	1.40	1.70	／	丸	淡赤褐色	砂 重さ 白針	やや砂っぽい
217	土曜210	9.30	8.95	7.80	1.80	1.20	1.45	／	平	淡褐色	砂 重さ 白針 白針	やや砂っぽい
228		12.60	12.10	10.95	3.35	2.50	2.50	／	丸?	淡褐色	砂 白針 重さ 白紋	やや砂っぽい
229		14.00	13.60	7.50	3.40	2.90	1.87	／	糸切り	淡褐色	砂 重さ 白針 白針	やや砂っぽい
235	土曜216	8.90	8.60	6.80	1.65	0.90	1.31	／	糸切り	淡褐色	砂 白紋 白針	やや砂っぽい
236		8.80	8.45	7.20	1.75	1.20	1.24	／	糸切り	淡褐色	重さ 白針 白紋	やや砂っぽい
237		8.60	8.15	5.65	1.75	0.90	1.52	／	糸切り	淡赤褐色	砂 重さ 白針	砂っぽい
238		13.60	13.00	8.25	1.65	1.25	1.55	／	丸	淡褐色	重さ 砂	やや砂っぽい

かわらけ観察表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナブ	比	底形	胎土色	胎土埋人物	備考
239	土壇216	10.00	9.50	8.50	ノ	ノ	1.20	ノ	丸?	純茶色	白針 砂 葦草 白粒 やや砂っぽい	
240		10.50	10.10	5.70	3.00	2.00	ノ	1.84	糸切り	褐色	砂 白針 白粒 砂 やや砂っぽい	
241		13.10	12.75	7.13	3.10	2.30	ノ	1.83	糸切り	純赤褐色	砂 白針 白粒 葦草 砂っぽい	
242		12.80	12.30	6.75	3.05	2.15	ノ	1.80	糸切り	純褐色	白針 砂 白粒 葦草 砂っぽい	
243		13.00	12.50	7.40	3.40	2.70	ノ	1.76	糸切り	褐色	白針 葦草 砂 砂っぽい	
247	ビッド83	10.40	9.90	8.70	1.80	0.70	1.45	ノ	平み	褐色	白針 葦草 白粒 砂 やや砂っぽい	
248		13.20	12.80	11.90	3.50	2.80	1.75	ノ	丸	純褐色	砂 白針 白粒 葦草 やや砂っぽい	
250	ビッド87	8.80	8.30	6.10	2.05	1.25	ノ	1.44	糸切り	純茶色	砂 葦草 白針 白粒 砂っぽい	
251	ビッド89	10.00	9.60	6.95	2.00	1.30	ノ	1.44	糸切り	褐色	砂 白針 白粒 葦草 砂っぽい	
252	ビッド95	13.60	13.10	12.35	3.70	2.60	2.10	ノ	平み	純茶色	砂 葦草 白針 白粒 やや砂っぽい	
253		14.40	13.95	13.30	3.75	3.10	2.40	ノ	平み	純茶色	砂 白針 白粒 葦草 砂っぽい	
254		14.40	13.90	12.80	2.90	2.10	2.10	ノ	平み	褐色	砂 白針 白粒 葦草 やや砂っぽい	
257	2面上 区	8.60	8.30	6.70	1.55	1.10	ノ	1.20	糸切り	赤褐色	砂 白針 葦草 白針 砂っぽい	
258		8.65	8.40	6.20	1.70	0.90	ノ	1.40	糸切り	純茶色	砂 白針 砂っぽい 鉄線良好	水留り鉄線
259		7.80	7.40	4.60	1.70	1.10	ノ	1.70	糸切り	純茶色	砂 白粒 葦草 やや砂っぽい	底付着
260		8.00	7.50	5.65	1.95	1.10	ノ	1.42	糸切り	赤褐色	砂 白粒 葦草 白針 砂っぽい	
261		9.40	9.15	7.00	1.90	1.20	ノ	1.34	糸切り	純茶色	砂 葦草 白粒 砂っぽい	
262		12.00	11.50	8.60	3.25	2.70	ノ	1.40	糸切り	純赤褐色	砂 葦草 白粒 白針 砂っぽい	
263		13.35	12.90	8.45	3.25	2.15	ノ	1.49	糸切り	褐色	葦草 砂 白針 白粒 やや砂っぽい	
264		12.40	12.10	7.65	3.50	2.75	ノ	1.62	糸切り	赤褐色	白針 葦草 砂 やや砂っぽい	
265		12.00	11.60	6.50	2.95	2.20	ノ	1.83	糸切り	純茶色	葦草 白針 砂 白粒 やや砂っぽい	
269	溝214	9.15	8.75	6.00	2.15	1.50	ノ	1.53	糸切り	褐色	砂 白針 白粒 葦草 やや砂っぽい	
270		9.90	9.65	5.20	3.10	2.30	ノ	1.90	糸切り	純茶色	葦草 砂 白針 砂っぽい	底付着
271		12.40	12.00	8.65	2.90	2.20	ノ	1.43	糸切り	純赤褐色	砂 葦草 白針 白粒 やや砂っぽい	
272		13.40	12.90	8.30	3.10	2.10	ノ	1.61	糸切り	純茶色	白粒 白針 やや砂っぽい	
273		14.20	13.80	9.25	3.30	2.30	ノ	1.54	糸切り	純赤褐色	砂 白針 葦草 白粒 砂っぽい	
274		13.80	13.45	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	糸切り	純茶色	白針 白粒 葦草 砂 やや砂っぽい	
275		13.20	12.85	10.40	ノ	ノ	2.70	ノ	丸	純茶色	白針 白粒 葦草 砂っぽい	所収成不明
276		12.40	11.85	10.00	ノ	ノ	2.00	ノ	丸	純茶色	白針 葦草 砂 やや砂っぽい	底付着
277		13.70	13.25	11.80	ノ	ノ	2.70	ノ	丸	純茶色	白粒 白粒 砂っぽい	
279		13.60	13.30	10.05	ノ	ノ	2.40	ノ	丸	純茶色	砂 葦草 白針 砂っぽい	ヘラ掘き遺片文
333	土壇8	7.40	7.10	5.60	1.95	1.20	ノ	1.37	糸切り	純茶色	葦草 砂 白針 白粒 やや砂っぽい	
334		7.40	7.20	4.70	2.25	1.70	ノ	1.57	糸切り	純赤褐色	葦草 白粒 砂 やや砂っぽい	底付着
335		9.00	8.70	7.90	1.55	0.90	1.30	ノ	平	純赤褐色	葦草 砂 白針 やや砂っぽい	所収成不明
336		12.60	12.10	10.70	ノ	ノ	1.70	ノ	丸?	純茶色	葦草 砂 白粒 やや砂っぽい	
337		14.80	14.30	13.05	ノ	ノ	1.90	ノ	丸?	純褐色	葦草 白針 砂	
338		11.00	10.70	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	褐色	葦草 砂	経線に準じ
341	2面上 田区	8.35	7.75	7.30	1.70	0.80	1.55	ノ	平	褐色	葦草 砂 白針 やや砂っぽい	所収成不明
342		9.60	9.20	8.15	2.00	1.30	1.30	ノ	丸み	褐色	葦草 砂 白粒 やや砂っぽい	
343		10.00	9.70	9.10	2.00	1.15	1.30	ノ	平	純茶色	砂 葦草 白針 砂っぽい	所収成不明
344		9.40	8.95	8.20	2.00	1.40	1.50	ノ	平	純赤褐色	砂 白針 葦草 白粒	
345		10.00	9.50	8.10	1.65	1.10	1.25	ノ	平	褐色	葦草 砂 白粒	所収成不明
353	井戸2	9.20	8.90	6.80	2.15	1.45	ノ	1.30	糸切り	褐色	白針 葦草 白粒 やや砂っぽい	底付着
354		8.40	7.95	7.45	1.90	1.30	1.25	ノ	丸み	純赤褐色	葦草 白針 砂 やや砂っぽい	
357	ビッド66	8.80	8.60	7.40	1.55	1.00	1.50	ノ	平	純赤褐色	砂 白粒 葦草 砂っぽい	所収成不明
358	ビッド178	8.00	7.60	5.50	1.85	1.10	ノ	1.45	糸切り	純茶色	葦草 砂 白針 砂っぽい	
359		12.40	12.10	6.90	3.40	2.55	ノ	1.80	糸切り	褐色	白粒 砂 白針 葦草 砂っぽい	
360		12.95	12.70	7.40	3.45	3.00	ノ	1.75	糸切り	褐色	白粒 砂 葦草 白針 やや砂っぽい	
361		12.40	12.20	6.35	3.60	3.15	ノ	1.95	糸切り	純褐色	砂 葦草 白針 白粒	
362		12.40	12.05	7.80	3.40	2.70	ノ	1.57	糸切り	褐色	白針 白粒 砂 葦草 やや砂っぽい	
363		13.00	12.75	6.90	3.45	2.85	ノ	1.80	糸切り	褐色	砂 白粒 葦草 白粒 やや砂っぽい	
364		12.60	12.25	7.30	3.40	2.60	ノ	1.75	糸切り	純茶色	白針 白粒 砂 砂っぽい	
365		12.60	12.15	7.40	3.35	2.60	ノ	1.70	糸切り	褐色	白粒 砂 白針 葦草 砂っぽい	
366		12.60	12.40	7.35	3.75	2.95	ノ	1.71	糸切り	純赤褐色	砂 白針 白粒 やや砂っぽい	
367		13.00	12.65	7.40	3.40	2.65	ノ	1.76	糸切り	純赤褐色	砂 白粒 白粒 やや砂っぽい	
378	ビッド84	8.00	7.60	5.70	2.35	1.75	ノ	1.40	糸切り	純赤褐色	砂 白針 葦草 白粒 やや砂っぽい	
379	2面上 IV区	9.20	9.00	7.45	1.70	0.80	ノ	1.25	糸切り	純茶色	白針 砂 白粒 鉄線良好	
380		9.40	8.90	7.90	1.45	0.80	1.25	ノ	平	褐色	葦草 白粒 白針 砂 やや砂っぽい	所収成不明
382	2区 IV区	9.00	8.55	7.50	1.40	0.90	ノ	1.30	糸切り	褐色	白針 葦草 砂 砂っぽい	
387		9.20	8.85	6.70	1.85	1.35	ノ	1.37	糸切り	褐色	葦草 白針 砂 砂っぽい	
388		9.80	9.50	7.80	1.80	1.30	ノ	1.26	糸切り	褐色	葦草 砂 白粒	
389		9.80	9.50	8.50	1.65	1.10	ノ	1.15	糸切り	レンガ色	砂 白針 葦草 砂っぽい	
390		10.00	9.55	8.00	2.65	2.15	1.85	ノ	丸	純茶色	砂 葦草 白粒 やや砂っぽい	
391		11.40	11.00	10.10	1.85	1.25	1.20	ノ	平み	赤褐色	葦草 白針 砂	所収成不明

おわらけ観察表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナブ	比	底彫	胎土色	胎土混入物	備考
392	2期 IV区	13.00	12.70	7.43	3.30	2.63	ノ	1.74	赤褐色	白針 黒帯 砂 白粒	キヤ砂っぽい	採付層 最層下
393		13.60	13.20	12.40	3.90	3.00	1.85	ノ	丸 淡褐色	黒帯 白針 白粒	砂 砂っぽい	
394		12.40	14.00	13.00	4.05	3.00	2.65	ノ	丸 淡茶褐色	黒帯 砂 白針	キヤ砂っぽい	穿孔
426	溝28.29	8.05	7.70	5.55	1.40	1.10	ノ	1.45	赤切り	淡茶色 砂 白粒 白針	黒帯 砂っぽい	
427		8.15	7.80	3.00	2.00	1.30	ノ	1.63	赤切り	淡茶色 砂 白粒	砂 砂っぽい	
428		10.00	9.80	5.40	2.85	2.30	ノ	1.85	赤切り	淡赤褐色 砂 白針 白粒	黒帯 砂っぽい	
429		10.53	10.30	6.00	3.30	2.90	ノ	1.76	赤切り	淡茶色 砂 白針	砂っぽい	
430		12.15	11.90	6.00	3.30	3.10	ノ	2.03	赤切り	淡茶色 砂 白針 白粒	砂っぽい	
431		12.43	12.00	7.90	3.30	2.60	ノ	1.38	赤切り	淡赤褐色 砂 白針 白粒	黒帯 砂っぽい	
441	溝31	5.10	4.65	0.85	0.85	0.50	ノ	6.00	赤切り	褐色 砂 黒帯	白粒 キヤ砂っぽい	特徴 (堀小内折れ)
442		7.35	7.00	3.20	1.80	0.93	ノ	1.41	赤切り	褐色 白針 砂 白粒	黒帯 キヤ砂っぽい	
443		8.20	7.75	5.00	1.75	1.25	ノ	1.64	赤切り	淡茶色 白針 白粒 砂	黒帯 キヤ砂っぽい	
444		9.20	8.70	7.30	1.80	1.10	ノ	1.26	赤切り	褐色 砂 黒帯	白針 キヤ砂っぽい	
445		7.60	7.40	4.40	1.75	1.00	ノ	1.73	赤切り	赤褐色 白針 白粒 砂	黒帯 キヤ砂っぽい	
446		7.60	7.30	3.30	1.90	1.25	ノ	1.47	赤切り	赤褐色 砂 白粒 黒帯	白針 キヤ砂っぽい	
447		13.10	12.80	7.30	3.30	2.70	ノ	1.79	赤切り	淡茶色 白針 白粒 黒帯	キヤ砂っぽい	
448		13.00	12.65	8.20	3.20	2.65	ノ	1.39	赤切り	褐色 白針 白粒 黒帯 砂	キヤ砂っぽい	
449		11.80	11.50	6.00	3.30	2.90	ノ	1.97	赤切り	淡赤褐色 白針 白粒 砂	黒帯 キヤ砂っぽい	
449		13.30	12.90	7.40	3.45	2.90	ノ	1.80	赤切り	淡茶色 白粒 黒帯	砂っぽい	
450		13.40	13.75	9.60	3.30	2.60	ノ	1.40	赤切り	暗褐色 砂 白針 白粒 黒帯	砂っぽい	
451		13.00	12.65	7.40	3.65	2.80	ノ	1.76	赤切り	赤褐色 白針 白粒 黒帯	キヤ砂っぽい	採付層
463	ビッド114	8.60	8.10	6.50	1.50	0.80	ノ	1.32	赤褐色	白針 黒帯 砂	砂っぽい	
466	1b面上 取	7.00	6.80	4.50	1.80	1.35	ノ	1.56	赤切り	淡赤褐色 黒帯 砂 白粒	キヤ砂っぽい	採付層
467		8.30	8.00	5.60	1.75	1.30	ノ	1.48	赤切り	褐色 黒帯 砂 白針		
468		12.00	11.75	7.70	3.35	2.50	ノ	1.56	赤切り	赤褐色 白針 砂 白粒		
470	溝16	8.00	7.80	4.75	1.70	1.25	ノ	1.68	赤切り	淡褐色 黒帯 白針 白粒	砂	
471		12.60	12.20	7.30	3.10	2.60	ノ	1.73	赤切り	褐色 白針 白粒 黒帯 砂	キヤ砂っぽい	
472		12.20	11.80	7.90	3.50	2.95	ノ	1.54	赤切り	淡赤褐色 白針 白粒 黒帯 砂	キヤ砂っぽい	
473		11.80	11.50	10.00	2.05	1.55	1.45	ノ	丸赤	淡茶色 黒帯 砂 白針		
478	溝17	8.20	7.90	5.65	1.60	1.10	ノ	1.45	赤切り	淡赤褐色 黒帯 砂 白針	キヤ砂っぽい	外産部に粘土小異付着
479		8.60	8.25	5.85	1.85	1.10	ノ	1.48	赤切り	淡赤褐色 白針 砂 黒帯	キヤ砂っぽい	
480		9.00	8.85	5.50	2.05	1.30	ノ	1.64	赤切り	淡茶褐色 黒帯 砂 白針	キヤ砂っぽい	外産部に粘土小異付着
481		11.40	11.00	6.80	2.75	2.30	ノ	1.68	赤切り	淡褐色 黒帯 砂 白粒		
482		12.00	11.70	7.25	3.10	2.50	ノ	1.66	赤切り	淡赤褐色 黒帯 砂 白針	砂 砂っぽい	
483		12.00	11.55	6.70	3.15	2.70	ノ	1.79	赤切り	淡赤褐色 白針 黒帯 白粒	キヤ砂っぽい	外産部に粘土小異付着
484		13.00	12.60	7.60	3.40	2.75	ノ	1.71	赤切り	淡褐色 黒帯 砂 白針	キヤ砂っぽい	外産部に粘土小異付着
485		12.00	11.70	7.40	3.00	2.45	ノ	1.62	赤切り	褐色 砂 白針 黒帯	キヤ砂っぽい	
486		12.15	11.80	7.30	3.30	2.55	ノ	1.66	赤切り	淡赤褐色 砂 黒帯 白粒 白針	砂っぽい	
487		13.00	12.70	8.20	3.35	2.80	ノ	1.59	赤切り	赤褐色 白針 白粒 砂		
488		12.00	11.80	7.50	3.00	2.40	ノ	1.60	赤切り	褐色 白針 砂 黒帯 白粒	キヤ砂っぽい	
303	1b面 溝跡	8.40	8.10	6.10	1.70	1.10	ノ	1.38	赤切り	淡赤褐色 黒帯 砂 白針 白粒	キヤ砂っぽい	
304		8.10	7.75	5.85	1.90	1.20	ノ	1.38	赤切り	淡茶色 白粒 黒帯 砂 白針	キヤ砂っぽい	採付層 内面剥離
305		8.40	8.00	7.55	ノ	ノ	1.30	ノ	平 淡茶色	砂 黒帯 白粒	砂っぽい	層位置不明
306		8.40	8.10	7.40	1.55	0.90	1.20	ノ	平 淡褐色	砂 黒帯 白粒	砂っぽい	層位置不明
307		9.40	9.10	7.65	1.30	0.40	1.30	ノ	平 淡赤褐色	砂 白粒 黒帯	砂っぽい	層位置不明
308		9.70	9.40	7.20	ノ	ノ	1.70	ノ	丸 淡茶色	黒帯 白針 砂	キヤ砂っぽい	層位置不明
309		13.00	12.40	12.10	ノ	ノ	1.70	ノ	丸 褐色	砂 黒帯 白粒		
310		13.20	12.80	12.70	3.65	2.90	1.70	ノ	丸 淡褐色	黒帯 砂 白粒	砂っぽい	
311		14.00	13.50	12.80	3.75	3.10	2.20	ノ	丸 淡茶色	黒帯 白針 白粒 砂	キヤ砂っぽい	
323	溝216	13.60	13.00	8.40	3.30	2.50	ノ	1.62	赤切り	褐色 白粒 白針 砂 黒帯	キヤ砂っぽい	
333	方量201	7.40	7.10	4.40	1.80	1.45	ノ	1.68	赤切り	淡茶色 白針 白粒 黒帯	キヤ砂っぽい	
334		7.40	7.10	4.20	1.90	1.45	ノ	1.76	赤切り	淡茶色 白針 白粒 黒帯	キヤ砂っぽい	
335		7.80	7.40	4.30	2.35	1.90	ノ	1.73	赤切り	淡赤褐色 黒帯 白針 白粒	キヤ砂っぽい	
336		9.00	8.65	7.40	1.70	0.75	1.50	ノ	平 淡茶褐色	砂 白粒 白針 黒帯	砂っぽい	層位置不明
337		9.30	8.85	8.10	1.70	0.95	1.40	ノ	平 淡赤褐色	砂 白粒 白針 黒帯	砂っぽい	層位置不明
338		9.60	9.20	7.85	1.80	1.10	1.20	ノ	平 淡赤褐色	砂 白粒 白針	キヤ砂っぽい	層位置不明
339		9.40	9.00	9.00	1.90	1.15	1.25	ノ	平 淡茶色	砂 白粒 白針 黒帯	砂っぽい	
340		10.00	9.55	8.10	2.50	2.00	1.45	ノ	丸 淡茶色	黒帯 砂 白針	キヤ砂っぽい	
341		14.00	13.70	7.95	3.95	3.30	ノ	1.76	赤切り	淡茶色 針 黒帯 砂	砂 砂っぽい	採付層
342		12.00	11.70	7.50	3.40	1.05	ノ	1.80	赤切り	赤褐色 白針 砂 黒帯		粘土粒再生品
667	溝204	12.33	12.15	7.40	3.05	2.40	ノ	1.66	赤切り	赤褐色 白針 黒帯	白粒 砂	
676	土量203	6.80	6.40	4.40	2.10	1.40	ノ	1.55	赤切り	淡赤褐色 砂 白針 白粒 黒帯	キヤ砂っぽい	外産部に粘土小異付着
677		8.00	7.80	5.50	1.85	1.45	ノ	1.45	赤切り	淡赤褐色 黒帯 砂 白針	キヤ砂っぽい	
678		8.35	8.05	6.50	1.40	1.15	ノ	1.28	赤切り	淡赤褐色 砂 黒帯 白粒		

かわらけ製造表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底材	胎土色	胎土混入物	備考	
679	土壌203	12.15	11.70	7.65	3.30	2.65	ノ	1.59	赤切り	桃赤褐色	砂 白粉 雲母 白粉 ヤヤ磨っばい		
680		13.00	12.70	7.80	3.30	2.50	ノ	1.67	赤切り	赤褐色	白粉 雲母 雲母 ヤヤ磨っばい		
681		13.00	12.60	7.70	3.80	3.00	ノ	1.69	赤切り	赤褐色	白粉 雲母 白粉 砂	内底縁見込に黒香	
703	土壌205	7.80	7.30	5.20	1.75	1.40	ノ	1.50	赤切り	赤褐色	砂 白粉 雲母 白粉 砂 磨っばい		
704		9.40	8.90	8.00	2.00	1.30	ノ	1.30	丸	褐色	雲母 白粉 白粉 砂 磨っばい		
705		12.20	11.85	6.95	3.25	2.95	ノ	1.92	赤切り	赤褐色	砂 白粉 白粉 雲母 磨っばい		
708	土壌206	7.20	6.90	4.55	1.80	1.20	ノ	1.58	赤切り	桃赤褐色	砂 白粉 白粉 雲母 ヤヤ磨っばい		
709		7.20	6.90	3.85	1.55	0.95	ノ	1.87	赤切り	褐色	白粉 砂 白粉 雲母		
710		7.40	7.05	5.30	1.60	1.15	ノ	1.35	赤切り	桃赤褐色	砂 白粉 白粉 雲母 ヤヤ磨っばい		
713	土壌207	10.20	9.90	9.20	3.35	0.85	ノ	1.20	平	桃赤色	雲母 砂 白粉 白粉 ヤヤ磨っばい	指紋或不明痕	
714		9.55	9.20	8.30	1.60	0.90	ノ	1.45	平	桃赤褐色	砂 雲母 白粉 白粉 ヤヤ磨っばい	指紋或不明痕	
715		9.70	9.40	8.00	1.80	1.50	ノ	1.50	平	桃赤色	白粉 白粉 雲母 磨っばい	指紋或不明痕	
716		9.40	9.00	7.85	1.80	1.00	ノ	1.50	平	桃赤色	雲母 白粉 白粉 磨っばい		
717		9.45	9.20	8.10	1.75	1.10	ノ	1.50	平	桃赤色	雲母 白粉 白粉 ヤヤ磨っばい	指紋或不明痕	
718		ノ	ノ	5.95	ノ	ノ	ノ	ノ	赤切り	赤褐色	白粉 砂 磨っばい	磨りかわらけ	
719		12.70	12.40	7.60	3.30	2.90	ノ	1.67	赤切り	桃赤褐色	砂 白粉 白粉 磨っばい		
728	土壌217	8.15	7.70	5.05	1.95	1.05	ノ	1.40	赤切り	桃赤色	雲母 白粉 白粉 ヤヤ磨っばい		
729		8.60	8.15	5.40	1.85	1.30	ノ	1.59	赤切り	桃赤褐色	白粉 雲母 白粉 砂		
730		8.60	8.20	6.20	1.85	1.35	ノ	1.59	赤切り	桃赤色	砂 雲母 白粉	底付着	
731		8.60	8.20	6.20	1.70	1.10	ノ	1.59	赤切り	桃赤色	雲母 白粉 白粉 ヤヤ磨っばい		
732		9.40	9.20	7.80	ノ	ノ	ノ	1.50	平	桃赤色	雲母 白粉 白粉 ヤヤ磨っばい	指紋或不明痕	
733		10.80	10.30	9.80	ノ	ノ	ノ	1.80	平	桃赤色	雲母 白粉 白粉 ヤヤ磨っばい	指紋或不明痕	
734		13.00	12.75	7.80	3.00	2.55	ノ	1.67	赤切り	褐色	白粉 雲母 砂 磨っばい		
735		10.80	10.60	5.80	3.00	2.60	ノ	1.84	赤切り	桃褐色	雲母 砂 白粉	底付着	
736		11.00	10.70	6.20	3.10	2.60	ノ	1.77	赤切り	桃赤褐色	雲母 砂 白粉 ヤヤ磨っばい		
737		12.30	11.95	6.05	3.40	2.60	ノ	2.03	赤切り	赤褐色	砂 白粉 白粉 磨っばい		
738		13.10	12.80	7.55	3.75	3.50	ノ	1.74	赤切り	褐色	雲母 砂 白粉	底付着	
739		12.30	11.90	6.90	3.25	2.70	ノ	1.78	赤切り	桃赤褐色	白粉 雲母 ヤヤ磨っばい	底付着	
740		12.00	11.60	7.20	3.20	2.80	ノ	1.67	赤切り	桃赤褐色	砂 雲母 白粉 白粉 ヤヤ磨っばい	外底縁結土混付着	
741		13.20	12.90	6.60	3.50	3.00	ノ	2.00	赤切り	桃赤色	砂 白粉 白粉 雲母 磨っばい		
742		12.40	12.05	7.15	3.75	3.15	ノ	1.73	赤切り	褐色	雲母 砂 白粉		
743		11.60	11.35	7.45	3.25	2.50	ノ	1.56	赤切り	桃赤色	白粉 雲母 ヤヤ磨っばい		
749	ビット207	8.20	7.90	5.70	1.90	1.20	ノ	1.44	赤切り	桃赤褐色	雲母 白粉 砂 白粉		
750		10.83	10.50	6.15	2.80	2.20	ノ	1.76	赤切り	桃褐色	雲母 砂 白粉 白粉 磨っばい		
751		12.70	12.30	8.25	3.10	2.40	ノ	1.54	赤切り	桃赤褐色	雲母 白粉 砂 白粉 磨っばい		
757	ビット96	8.00	7.65	8.00	1.65	1.05	ノ	1.33	赤切り	桃赤褐色	白粉 白粉 雲母 砂 磨っばい		
758		7.00	6.80	4.00	2.25	1.75	ノ	1.75	赤切り	桃赤褐色	雲母 白粉 砂		
759		13.40	13.20	8.00	2.70	2.10	ノ	1.68	赤切り	褐色	白粉 雲母 砂	底付着	
761	溝201	7.60	7.30	4.50	2.00	1.30	ノ	1.69	赤切り	桃赤色	砂 白粉 雲母 白粉 ヤヤ磨っばい		
773	溝202	7.20	6.80	4.25	1.85	1.15	ノ	1.69	赤切り	桃赤褐色	白粉 白粉 砂 雲母 ヤヤ磨っばい		
774		8.50	8.00	6.50	ノ	ノ	ノ	1.70	ノ	丸	桃赤褐色	砂 白粉 雲母 ヤヤ磨っばい	
775	溝203	8.00	7.65	5.40	1.75	1.30	ノ	1.48	赤切り	桃赤褐色	雲母 砂 ヤヤ磨っばい		
783	ビット208	8.80	8.50	6.80	1.60	1.00	ノ	1.39	赤切り	桃赤褐色	雲母 砂 白粉 磨っばい		
784		8.85	8.60	7.20	1.35	0.70	ノ	1.23	赤切り	桃赤色	砂 白粉 白粉 雲母 磨っばい	底付着 内底割痕	
785		8.35	8.20	6.65	1.25	0.60	ノ	1.26	赤切り	桃赤色	砂 白粉 白粉 磨っばい		
786		8.95	8.70	8.50	0.70	0.70	ノ	1.50	平	桃赤色	白粉 白粉 砂 雲母	指紋或不明痕	
787		8.65	8.30	6.50	2.30	1.80	ノ	1.83	ノ	丸	桃赤褐色	白粉 雲母 磨っばい 胎土混入	黒香 指紋或不明痕
788		12.90	12.70	8.80	3.30	2.55	ノ	1.47	赤切り	桃褐色	砂 白粉 雲母 白粉 磨っばい		
789		13.90	13.70	9.00	2.90	2.00	ノ	1.54	赤切り	桃赤色	砂 雲母 磨っばい		
790		14.00	13.70	8.50	3.30	2.70	ノ	1.69	赤切り	桃赤色	白粉 白粉 雲母 砂 ヤヤ磨っばい		
791		13.20	12.90	11.70	3.10	2.70	ノ	1.80	ノ	丸	桃赤色	白粉 白粉 砂 磨っばい	指紋或不明痕
795	16面上 田区	8.60	8.15	7.00	2.10	1.50	ノ	1.45	ノ	丸	桃赤色	雲母 砂 ヤヤ磨っばい	
796		10.80	10.55	3.90	3.10	2.65	ノ	1.83	赤切り	褐色	雲母 砂 白粉		
800	16上II 田区	8.60	8.30	7.20	1.70	1.10	ノ	1.19	赤切り	桃赤褐色	砂 白粉 白粉 雲母		
801		7.40	7.00	5.00	1.85	1.30	ノ	1.48	赤切り	桃赤褐色	砂 雲母 白粉 白粉 磨っばい		
802		8.00	7.70	4.00	2.20	1.80	ノ	2.06	赤切り	桃赤褐色	砂 白粉 雲母 白粉 ヤヤ磨っばい		
803		7.80	7.40	5.20	1.80	1.15	ノ	1.56	赤切り	桃赤色	砂 雲母 白粉 磨っばい		
804		8.00	7.70	5.75	1.90	1.25	ノ	1.38	赤切り	桃赤褐色	砂 白粉 白粉 白粉 ヤヤ磨っばい		
805		9.80	9.20	8.60	ノ	ノ	ノ	1.20	ノ	丸	褐色	砂 白粉 白粉	
806		13.60	13.30	6.40	3.10	2.50	ノ	2.13	赤切り	桃赤褐色	砂 白粉 白粉 雲母 ヤヤ磨っばい	底付着	
807		12.40	11.10	7.25	2.90	2.15	ノ	1.71	赤切り	桃赤褐色	白粉 雲母 砂 白粉 ヤヤ磨っばい		
808		14.00	13.50	12.40	ノ	ノ	ノ	1.50	ノ	丸	褐色	砂 白粉 白粉	指紋或不明痕
819	土壌11	7.20	7.00	4.65	2.30	1.90	ノ	1.55	赤切り	桃赤褐色	砂 白粉 白粉 雲母 磨っばい	底付着	
820		11.20	10.95	6.40	3.85	2.55	ノ	1.75	赤切り	褐色	砂 雲母 白粉	水口工具でナデ	

かわらけ調査表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナブ	底	底厚	胎土色	胎土混入物	備考
825	井戸1	7.60	7.35	5.15	1.85	1.25	∕	1.48	赤切り	褐色	白粉 砂 白粒 重母 砂	ヤヤ砂っぽい
826		12.60	12.25	6.05	3.30	2.75	∕	2.08	赤切り	淡赤褐色	白粒 白粉 重母 砂	ヤヤ砂っぽい
829		∕	∕	∕	∕	∕	∕	∕	∕	褐色	重母 砂 白粉 白粒	ヤヤ砂っぽい
831	溝1	7.40	7.00	4.40	1.35	0.90	∕	1.68	赤切り	淡赤色	白粉 白粒 重母 砂	ヤヤ砂っぽい
832		9.40	9.05	7.50	1.70	1.20	∕	1.25	赤切り	淡紫色	砂 白粒 重母	鉄底良好
833		13.80	13.40	8.00	3.40	2.80	∕	1.75	赤切り	褐色	白粉 白粒 重母 砂	ヤヤ砂っぽい
834		12.80	12.50	8.40	3.00	2.30	∕	1.52	赤切り	淡赤褐色	白粒 重母 白粉	ヤヤ砂っぽい
835		14.40	14.05	8.85	3.35	2.85	∕	1.63	赤切り	淡赤褐色	白粒 砂 重母 白粉	ヤヤ砂っぽい
839	溝22	8.20	7.85	7.05	1.60	1.05	∕	1.16	赤切り	淡茶色	白粒 砂 白粉 重母	ヤヤ砂っぽい
840		8.00	7.80	6.75	0.90	0.90	∕	1.19	赤切り	淡茶色	重母 白粉 白粒	砂っぽい
841		8.00	7.70	5.80	1.80	1.25	∕	1.34	赤切り	褐色	白粉 白粒 重母 砂	砂っぽい
842		7.80	7.30	5.20	1.75	1.20	∕	1.46	赤切り	淡赤褐色	砂 白粒 白粉 重母	砂っぽい
843		8.00	7.70	5.80	1.75	1.20	∕	1.38	赤切り	褐色	砂 白粒 白粉 重母	砂っぽい
844		10.20	9.90	5.90	1.85	1.00	∕	1.73	赤切り	褐色	重母 砂 白粉 白粒	ヤヤ砂っぽい
845		10.60	10.15	9.25	1.60	1.20	1.30	∕	平	淡茶色	砂	重母
846		11.20	10.60	9.30	1.65	0.70	1.40	∕	平	淡茶色	重母 砂 白粒	砂っぽい
847		10.40	10.15	6.40	2.65	2.15	∕	1.63	赤切り	淡赤褐色	重母 砂 白粉 白粒	砂っぽい
848		11.20	10.65	5.50	3.00	2.35	∕	2.00	赤切り	淡赤褐色	白粉 重母 白粒 砂	砂っぽい
849		11.80	11.40	6.20	3.20	2.90	∕	1.95	赤切り	淡赤褐色	白粉 白粒 重母 砂	ヤヤ砂っぽい
850		11.40	11.10	6.05	3.00	2.90	∕	1.84	赤切り	淡赤褐色	重母 砂 白粉 白粒	ヤヤ砂っぽい
851		11.60	11.30	6.60	3.35	2.75	∕	1.76	赤切り	淡赤褐色	重母 白粉 白粒 砂	ヤヤ砂っぽい
852		12.00	11.55	6.60	3.05	2.40	∕	1.82	赤切り	淡赤褐色	白粒 砂 白粉 重母	ヤヤ砂っぽい
853		13.80	13.30	8.90	3.45	3.00	∕	1.55	赤切り	淡赤褐色	重母 白粉 砂	ヤヤ砂っぽい
854		12.80	12.45	7.55	3.65	3.00	∕	1.70	赤切り	赤褐色	白粉 砂 白粒 重母	砂っぽい
855		12.40	11.95	6.70	3.00	2.45	∕	1.85	赤切り	褐色	白粉 白粒 砂 重母	ヤヤ砂っぽい
856		12.80	12.50	8.10	2.40	2.85	∕	1.58	赤切り	褐色	砂 白粒 白粉 重母	ヤヤ砂っぽい
857		12.80	12.50	6.80	3.30	2.75	∕	1.80	赤切り	淡褐色	重母 白粉 砂 白粒	ヤヤ砂っぽい
858		12.40	12.00	6.60	3.20	2.70	∕	1.86	赤切り	淡赤褐色	白粒 白粉 重母 砂	ヤヤ砂っぽい
859		12.40	12.10	7.20	3.15	2.50	∕	1.72	赤切り	淡赤褐色	白粉 重母 砂 白粒	ヤヤ砂っぽい
870		14.40	14.10	7.60	3.35	2.65	∕	1.89	赤切り	淡赤褐色	重母 白粒 砂 白粉	ヤヤ砂っぽい
871		12.20	12.00	11.45	3.30	2.60	1.20	∕	光	淡茶色	砂 重母 白粒	砂っぽい
872		12.20	11.90	7.50	3.15	2.40	∕	1.63	赤切り	褐色	白粉 白粒 砂 重母	ヤヤ砂っぽい
8720		∕	∕	∕	∕	∕	∕	∕	赤切り	褐色	重母 白粉 砂 白粒	溝りかわらけ
889	溝24	8.00	7.70	5.30	1.65	1.00	∕	1.51	赤切り	淡茶色	白粒 白粉 白粉	ヤヤ砂っぽい
890		8.55	8.30	5.75	1.55	1.10	∕	1.49	赤切り	淡茶色	白粒 白粉	ヤヤ砂っぽい
891		8.50	8.05	6.05	1.60	1.10	∕	1.37	赤切り	淡茶色	白粒 白粉 重母 砂	ヤヤ砂っぽい
892		7.70	7.40	5.50	1.70	1.15	∕	1.40	赤切り	淡茶色	白粒 重母 砂	ヤヤ砂っぽい
893		7.40	7.15	5.10	1.80	1.00	∕	1.45	赤切り	淡赤褐色	白粉 白粒 重母 砂	ヤヤ砂っぽい
894		7.90	7.65	5.85	1.70	1.00	∕	1.55	赤切り	淡茶色	白粉 白粒 重母	とても磨っぽい
895		7.60	7.20	5.55	1.85	1.20	∕	1.37	赤切り	淡茶色	白粉 重母	ヤヤ砂っぽい
896		8.00	7.65	6.00	1.75	1.05	∕	1.33	赤切り	淡茶色	白粒 砂 重母	ヤヤ砂っぽい
897		7.25	6.90	5.25	1.60	0.95	∕	1.38	赤切り	淡茶色	白粉 白粒 砂	ヤヤ砂っぽい
898		7.90	7.55	5.25	1.80	1.15	∕	1.50	赤切り	淡赤褐色	重母 白粉 砂	ヤヤ砂っぽい
899		8.00	7.70	5.95	1.70	1.30	∕	1.34	赤切り	淡茶色	白粉 白粒 砂	ヤヤ砂っぽい
900		7.80	7.50	5.70	1.75	1.30	∕	1.37	赤切り	淡茶色	白粒 重母 砂	ヤヤ砂っぽい
901		7.40	7.25	4.85	1.65	1.10	∕	1.63	赤切り	淡褐色	白粉 白粒 砂	ヤヤ砂っぽい
902		7.80	7.40	5.20	1.75	1.05	∕	1.50	赤切り	淡茶色	重母 白粒 白粉 砂	ヤヤ砂っぽい
903		7.05	6.70	5.50	1.65	1.30	∕	1.28	赤切り	淡赤褐色	砂 白粒 重母 白粉	砂っぽい
904		7.40	7.10	5.00	1.85	1.50	∕	1.48	赤切り	淡茶色	白粉 砂 ヤヤ砂っぽい	
905		8.40	8.05	5.30	1.95	1.60	∕	1.58	赤切り	淡茶色	重母 白粉 白粒 砂	ヤヤ砂っぽい
906		8.30	8.00	5.60	2.00	1.30	∕	1.48	赤切り	淡茶色	白粉 白粉 重母 砂	ヤヤ砂っぽい
907		11.40	11.00	7.00	2.80	2.05	∕	1.63	赤切り	淡赤褐色	白粉 砂 重母 白粒	鉄底良好
908		12.95	12.70	7.25	3.30	2.50	∕	1.79	赤切り	淡茶色	重母 白粒 砂	ヤヤ砂っぽい
909		12.75	12.30	7.80	3.00	2.10	∕	1.82	赤切り	淡赤褐色	重母 白粉 砂	ヤヤ砂っぽい
910		11.95	11.40	7.40	3.90	3.20	∕	1.57	赤切り	淡赤褐色	白粉 砂 白粒 重母	ヤヤ砂っぽい
911		12.80	12.50	7.90	3.40	2.65	∕	1.71	赤切り	淡赤褐色	白粉 重母 砂	ヤヤ砂っぽい
912		13.00	12.70	7.55	3.55	2.65	∕	1.72	赤切り	褐色	白粉 重母 白粒	砂っぽい
913		12.60	12.35	6.80	3.15	2.55	∕	1.85	赤切り	淡赤褐色	重母 砂 白粉	ヤヤ砂っぽい
914		12.40	12.30	7.75	3.30	2.85	∕	1.63	赤切り	褐色	白粒 白粉 重母 砂	ヤヤ砂っぽい
915		13.00	12.70	7.65	3.20	2.50	∕	1.70	赤切り	淡赤褐色	重母 砂 白粉 白粉	ヤヤ砂っぽい
916		12.60	12.30	7.75	3.25	2.55	∕	1.63	赤切り	褐色	白粉 白粒 砂 重母	砂っぽい
917		12.80	12.55	7.85	3.55	2.90	∕	1.63	赤切り	褐色	白粉 重母 砂	砂っぽい
918		12.00	11.70	6.85	3.60	3.00	∕	1.75	赤切り	淡褐色	白粉 砂 重母	ヤヤ砂っぽい
919		12.40	12.10	7.65	3.55	2.85	∕	1.62	赤切り	淡茶色	白粉 白粒 重母 砂	砂っぽい

かわらけ観察表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底形	胎土色	胎土混入物	備考	
920	備24	13.15	12.80	7.40	3.30	2.60	／	1.78	糸切り	桃赤褐色	黒母 白針 砂	ヤヤ砂っぽい	
921		13.00	12.70	8.20	3.35	2.70	／	1.59	糸切り	赤褐色	白針 白粒	砂っぽい	
922		13.00	12.50	7.85	3.45	2.85	／	1.66	糸切り	褐色	白針 黒母 砂	白粒 砂っぽい	
923		13.90	13.40	8.60	3.35	2.60	／	1.62	糸切り	桃赤色	白針 白粒	黒母 砂	ヤヤ砂っぽい
924		13.20	12.90	8.00	3.05	2.20	／	1.65	糸切り	桃赤褐色	砂 黒母 白粒	砂っぽい	
925		12.60	12.30	8.05	3.20	2.75	／	1.57	糸切り	桃赤褐色	白針 黒母 砂	砂っぽい	
926		12.60	12.30	7.90	3.00	2.20	／	1.59	糸切り	桃赤褐色	砂 黒母 白粒	砂っぽい	
927		13.00	12.55	7.60	3.40	2.65	／	1.71	糸切り	褐色	白針 白粒 黒母 砂	砂っぽい	
928		12.50	12.10	7.30	3.20	2.60	／	1.71	糸切り	赤褐色	黒母 砂 白針	ヤヤ砂っぽい	
929		12.60	12.30	6.50	3.40	2.70	／	1.94	糸切り	褐色	白針 黒母 砂 白粒	ヤヤ砂っぽい	
930		13.60	13.25	8.45	3.30	2.75	／	1.61	糸切り	桃赤褐色	砂 黒母 白針 白粒	ヤヤ砂っぽい	
931		13.00	12.60	8.40	3.40	2.75	／	1.55	糸切り	桃赤褐色	白粒 黒母 砂 白針	ヤヤ砂っぽい	
932		12.40	12.10	7.30	3.40	2.85	／	1.70	糸切り	桃赤褐色	黒母 白針 白粒	砂 ヤヤ砂っぽい	
933		12.60	12.25	7.60	3.35	2.75	／	1.66	糸切り	褐色	白針 砂 黒母 白粒	砂っぽい	
934		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	
938	備14	8.80	8.40	7.60	1.05	1.20	／	1.16	糸切り	褐色	砂 白針 白粒 黒母	砂っぽい	
947	備18	7.60	7.35	4.90	1.70	1.05	／	1.55	糸切り	桃褐色	白針 白粒 黒母 砂	ヤヤ砂っぽい	
948		7.60	7.30	5.40	1.75	1.20	／	1.41	糸切り	桃赤褐色	砂 黒母 白針 白粒	ヤヤ砂っぽい	
949		7.95	7.55	5.40	1.85	1.10	／	1.47	糸切り	桃赤色	砂 白粒 白針	ヤヤ砂っぽい	
950		8.60	8.20	7.10	1.85	1.05	／	1.21	糸切り	赤褐色	黒母 白針 白粒	砂 砂っぽい	
951		9.80	9.50	7.20	2.20	1.05	／	1.36	糸切り	桃赤色	黒母 砂 白粒	ヤヤ砂っぽい	
952		9.60	9.05	7.85	2.00	1.25	1.45	／	丸	桃赤色	黒母 砂 白針	白粒 砂	
953		9.60	9.20	7.55	2.00	1.30	1.65	／	子	桃赤褐色	黒母 砂 白針	ヤヤ砂っぽい	
963	備19	8.00	8.40	8.15	1.70	1.05	／	1.70	平	桃赤色	白粒 黒母 砂	ヤヤ砂っぽい	
964		8.45	9.10	6.90	1.75	1.15	／	1.37	糸切り	褐色	白粒 白針 砂	ヤヤ砂っぽい	
965		13.40	12.70	12.00	／	／	1.90	／	丸	桃赤褐色	黒母 白針 砂 白粒	ヤヤ砂っぽい	
966	ビット13	／	／	／	／	／	／	／	糸切り	／	／	／	
968	方盤1 裏面	7.40	7.20	5.60	2.20	1.75	／	1.32	糸切り	桃赤色	白針 白粒 黒母	ヤヤ砂っぽい	
969		8.00	7.70	5.40	1.70	1.20	／	1.48	糸切り	赤褐色	白粒 白針	砂	
970		8.40	8.05	6.10	2.00	1.45	／	1.38	糸切り	桃赤色	白針 砂 白粒 黒母	ヤヤ砂っぽい	
971		13.00	12.70	8.15	3.50	3.00	／	1.60	糸切り	褐色	白針 黒母 砂	ヤヤ砂っぽい	
976	方盤1 下層	12.20	11.85	8.00	3.40	2.85	／	1.53	糸切り	褐色	砂 黒母 白針	白粒 ヤヤ砂っぽい	
977		13.00	12.55	6.65	3.50	2.50	／	1.95	糸切り	褐色	白粒 白針 黒母	ヤヤ砂っぽい	
984	方盤1 上層	6.35	6.05	3.80	2.10	1.60	／	1.67	糸切り	桃赤褐色	黒母 白粒	砂 ヤヤ砂っぽい	
985		6.40	6.20	3.25	1.80	1.40	／	1.97	糸切り	褐色	黒母 砂 白針	／	
986		7.00	6.75	4.60	1.80	1.45	／	1.52	糸切り	桃赤褐色	黒母 砂 白針	／	
987		7.80	7.50	5.80	1.75	1.30	／	1.34	糸切り	赤褐色	黒母 白粒 砂	／	
988		8.20	7.80	5.70	1.90	1.25	／	1.44	糸切り	レンガ色	白針 白粒 黒母 砂	砂っぽい	
989		8.15	7.80	6.20	1.65	1.25	／	1.31	糸切り	赤褐色	白針 白粒 砂	黒母 砂	
990		8.00	7.75	5.15	1.90	1.25	／	1.55	糸切り	褐色	白針 白粒 黒母 砂	ヤヤ砂っぽい	
991		8.60	8.35	5.80	1.95	1.45	／	1.48	糸切り	褐色	砂 黒母 白針	砂っぽい	
992		8.60	8.25	6.00	1.80	1.40	／	1.43	糸切り	桃赤色	砂 黒母 白針 白粒	砂っぽい	
993		8.80	8.40	7.70	1.80	0.85	1.45	／	平	桃赤褐色	砂 黒母 白針	ヤヤ砂っぽい	
994		10.80	10.30	6.00	3.20	2.65	／	1.77	糸切り	桃赤色	砂 白粒 黒母	砂っぽい	
995		10.90	10.70	4.65	2.75	2.20	／	2.34	糸切り	褐色	黒母 砂 白針	／	
996		10.20	10.00	4.60	2.75	2.15	／	2.22	糸切り	褐色	黒母 砂 白針	／	
997		11.25	10.80	5.60	3.10	2.40	／	2.01	糸切り	桃赤色	白針 白粒 黒母	ヤヤ砂っぽい	
998		11.00	10.60	7.10	3.40	3.00	／	1.55	糸切り	桃赤褐色	黒母 砂 白粒 白針	ヤヤ砂っぽい	
999		12.00	11.75	7.30	3.00	2.30	／	1.64	糸切り	桃赤色	白針 白粒 砂	ヤヤ砂っぽい	
1000		12.20	11.80	7.00	3.05	2.60	／	1.74	糸切り	褐色	白粒 白粒	／	
1001		12.20	11.90	7.40	3.40	2.75	／	1.65	糸切り	桃赤褐色	砂 黒母 白針	ヤヤ砂っぽい	
1002		12.00	11.60	7.25	3.30	2.65	／	1.66	糸切り	桃赤褐色	黒母 白針 白粒	砂	
1003		12.50	12.20	7.75	3.20	2.30	／	1.61	糸切り	桃赤褐色	砂 白針 白粒	ヤヤ砂っぽい	
1004		13.00	12.65	7.20	3.40	2.80	／	1.81	糸切り	桃褐色	砂 黒母 白粒	ヤヤ砂っぽい	
1005		14.70	14.40	8.80	3.10	2.45	／	1.67	糸切り	桃褐色	黒母 白粒 白針 砂	ヤヤ砂っぽい	
1006		11.50	11.75	6.60	3.25	2.65	／	1.74	糸切り	桃褐色	黒母 白針 砂	砂っぽい	
1007		12.00	11.50	8.20	3.15	2.55	／	1.94	糸切り	桃褐色	白針 白粒 砂 黒母	／	
1008		12.40	12.10	6.40	3.15	2.50	／	1.94	糸切り	桃赤色	砂 黒母 白粒	ヤヤ砂っぽい	
1009		13.50	13.20	8.00	3.45	2.80	／	1.69	糸切り	桃褐色	黒母 白粒 砂	ヤヤ砂っぽい	
1010		12.25	11.90	8.30	3.35	2.70	／	1.48	糸切り	桃赤褐色	砂 黒母 白針	／	
1011		12.70	12.35	8.25	3.60	2.85	／	1.54	糸切り	桃褐色	黒母 白針 白粒 砂	／	
1012		12.45	12.00	6.45	2.95	2.45	／	1.92	糸切り	桃赤色	黒母 砂 白粒	ヤヤ砂っぽい	
1013		12.20	11.80	8.20	2.85	2.20	／	1.49	糸切り	桃赤褐色	白粒 黒母 砂	ヤヤ砂っぽい	
1014		12.00	11.65	7.00	3.10	2.65	／	1.71	糸切り	桃赤褐色	白針 砂	／	

かわらけ観察表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナブ	北	底部	胎土色	胎土風人物			備考		
1015		12.60	12.20	8.00	3.35	2.60	ノ	1.50	赤切り	淡赤褐色	白粉	重母	砂	やや磨っばい		
1016		13.65	13.10	9.35	3.05	2.45	ノ	1.44	赤切り	淡赤褐色	白粉	砂	重母			
1017		12.00	11.50	6.15	3.30	2.60	ノ	1.95	赤切り	淡赤褐色	砂	白粉	重母	白粉	磨っばい	
1018	方堂1 上海	12.30	11.80	7.65	2.95	2.50	ノ	1.59	赤切り	淡赤褐色	白粉	砂	重母			
1019		12.30	11.80	7.40	3.20	2.55	ノ	1.65	赤切り	淡赤褐色	重母	白粉	砂	磨っばい		
1020		13.00	12.45	8.70	3.25	3.00	ノ	1.49	赤切り	淡赤褐色	白粉	砂	白粉	やや磨っばい		
1021		11.45	11.10	6.60	3.05	2.30	ノ	1.75	赤切り	淡赤褐色	重母	白粉	白粉	やや磨っばい		
1022		12.00	11.60	7.55	3.20	2.55	ノ	1.59	赤切り	褐色	重母	白粉	白粉	やや磨っばい	外底部小粒土質付着	
1023		12.20	11.90	13.00	3.00	2.40	ノ	0.94	赤切り	赤褐色	重母	白粉	白粉	やや磨っばい		
1024		12.00	11.65	7.10	3.15	2.50	ノ	1.69	赤切り	淡赤褐色	重母	砂	白粉			
1025		12.80	12.55	8.10	3.25	2.70	ノ	1.58	赤切り	淡赤褐色	白粉	白粉	砂			
1026		12.65	11.70	6.20	3.25	2.55	ノ	1.94	赤切り	淡赤褐色	砂	白粉	白粉	重母	磨っばい	
1071	ピット9	12.40	12.05	8.90	3.45	2.70	ノ	1.39	赤切り	赤褐色	重母	砂	白粉	白粉		
1072	ピット22	8.40	8.00	5.80	2.10	1.30	ノ	1.45	赤切り	褐色	砂	白粉	重母	やや磨っばい		
1073	ピット24	7.60	7.30	5.15	1.65	1.25	ノ	1.48	赤切り	淡赤褐色	砂	重母	白粉	やや磨っばい		
1075	ピット28	14.20	13.80	7.90	3.70	2.90	ノ	1.80	赤切り	淡赤褐色	重母	白粉	白粉	重母	やや磨っばい	
1077	1b面上 V区	7.60	7.30	5.55	1.70	1.15	ノ	1.37	赤切り	淡赤褐色	重母	砂	白粉	白粉	磨っばい	
1078		7.60	7.30	4.80	1.80	1.40	ノ	1.58	赤切り	褐色	白粉	重母	砂			
1079		12.00	11.60	6.10	3.35	2.60	ノ	1.97	赤切り	淡赤褐色	白粉	砂	白粉	重母		
1103	1b面下 D-5	8.15	7.80	5.90	1.70	1.05	ノ	1.38	赤切り	赤褐色	重母	白粉	白粉	砂	磨っばい	
1104		8.55	8.20	6.40	1.50	0.90	ノ	1.34	赤切り	淡赤褐色	砂	白粉	重母	白粉	磨っばい	
1105		9.60	9.20	6.70	1.60	0.75	ノ	1.43	赤切り	淡赤褐色	砂	白粉	白粉	とても磨っばい		
1106		8.60	8.30	7.85	1.45	0.70	1.25	ノ	平	淡赤褐色	砂	白粉	白粉	磨っばい	指紋痕不明瞭	
1107		13.00	12.80	8.15	3.20	2.60	ノ	1.60	赤切り	赤褐色	白粉	白粉	重母			
1119	1b面下	9.20	8.70	7.10	2.00	1.20	ノ	1.30	赤切り	赤褐色	白粉	白粉	白粉	重母	磨っばい	
1120		8.60	8.25	6.60	1.90	1.25	ノ	1.20	赤切り	赤褐色	白粉	砂	重母	やや磨っばい		
1121		7.20	6.80	5.20	1.70	1.10	ノ	1.38	赤切り	淡赤褐色	白粉	重母	砂	白粉	やや磨っばい	
1122		7.80	7.60	6.10	1.80	1.35	ノ	1.28	赤切り	淡赤褐色	砂	白粉	白粉	重母	磨っばい	
1123		7.60	7.20	5.85	1.80	1.10	ノ	1.30	赤切り	淡褐色	砂	白粉	重母	やや磨っばい		
1124		8.80	7.80	5.80	1.75	1.20	ノ	1.38	赤切り	淡褐色	砂	重母	白粉	白粉	やや磨っばい	
1125		8.90	8.80	7.60	2.00	1.20	ノ	1.18	赤切り	赤褐色	重母	砂	白粉	白粉	磨っばい	
1126		7.40	7.05	5.30	1.50	0.85	ノ	1.35	赤切り	淡赤褐色	砂	白粉	重母	やや磨っばい		
1127		8.60	8.40	6.50	1.75	0.95	ノ	1.32	赤切り	淡赤褐色	白粉	白粉	重母		採付層 内面剥離	
1128		8.80	8.40	6.35	1.65	0.95	ノ	1.39	赤切り	淡赤褐色	砂	重母	白粉	磨っばい		
1129		8.40	8.10	6.30	1.60	1.20	ノ	1.33	赤切り	淡赤褐色	砂	白粉	白粉	重母	やや磨っばい	
1130		7.50	7.20	5.40	1.50	1.10	ノ	1.39	赤切り	赤褐色	白粉	重母	砂	白粉	磨っばい	
1131		7.60	7.30	4.95	1.60	1.00	ノ	1.54	赤切り	淡赤褐色	重母	白粉	白粉	やや磨っばい		
1132		7.60	7.30	5.30	1.70	0.95	ノ	1.45	赤切り	淡赤褐色	砂	重母	白粉	やや磨っばい		
1133		7.60	7.20	4.95	1.65	1.10	ノ	1.54	赤切り	淡赤褐色	白粉	重母	白粉	砂	やや磨っばい	
1134		7.40	7.10	5.00	1.80	1.40	ノ	1.48	赤切り	淡赤褐色	白粉	重母	白粉	やや磨っばい		
1135		8.20	7.80	5.60	1.80	1.30	ノ	1.46	赤切り	淡赤褐色	白粉	白粉	重母	やや磨っばい	めがみがましい	
1136		8.20	7.90	5.70	2.00	1.60	ノ	1.44	赤切り	淡赤褐色	白粉	砂	重母	白粉	やや磨っばい	
1137		7.65	7.30	5.40	1.70	1.00	ノ	1.42	赤切り	淡赤褐色	白粉	重母	とても磨っばい			
1138		9.40	9.10	7.40	1.70	1.10	ノ	1.30	赤切り	淡褐色	重母	砂	白粉	やや磨っばい		
1139		9.60	9.25	7.50	1.80	1.05	ノ	1.28	赤切り	淡赤褐色	砂	重母	白粉		採付層	
1140		7.80	7.60	5.50	1.60	1.10	ノ	1.42	赤切り	淡赤褐色	白粉	重母	砂	白粉	やや磨っばい	
1141		9.40	9.15	6.65	1.85	1.40	ノ	1.41	赤切り	淡赤褐色	白粉	砂	やや磨っばい			
1142		8.40	8.20	6.10	1.70	1.20	ノ	1.38	赤切り	淡褐色	砂	白粉	白粉	重母	磨っばい	
1143		8.60	8.10	5.40	1.90	1.25	ノ	1.56	赤切り	褐色	白粉	砂	重母	白粉	やや磨っばい	
1144		7.45	7.50	5.20	1.50	0.80	ノ	1.45	赤切り	淡赤褐色	砂	重母	白粉	白粉	やや磨っばい	内底面に赤切り痕残る
1145		8.00	7.70	4.95	1.75	1.10	ノ	1.62	赤切り	淡赤褐色	白粉	重母	砂	白粉	やや磨っばい	
1146		9.05	8.60	6.40	1.95	1.20	ノ	1.41	赤切り	淡赤褐色	砂	白粉	とても磨っばい			
1147		8.00	7.70	5.30	1.50	1.00	ノ	1.45	赤切り	淡褐色	重母	砂	白粉	白粉	磨っばい	
1148		8.80	8.40	6.50	1.60	0.90	ノ	1.35	赤切り	赤褐色	白粉	白粉	白粉	磨っばい		
1149		10.10	9.45	7.55	1.95	1.35	ノ	1.34	赤切り	淡褐色	砂	白粉	白粉	重母	やや磨っばい	
1150		9.80	9.40	5.80	1.80	1.00	ノ	1.69	赤切り	淡褐色	重母	白粉	砂	やや磨っばい		穿孔
1151		8.80	8.40	6.20	1.70	1.20	ノ	1.42	赤切り	褐色	砂	白粉	重母	白粉	やや磨っばい	
1152		7.80	7.40	5.25	1.95	1.25	ノ	1.49	赤切り	淡赤褐色	砂	重母	白粉			
1153		9.00	8.55	6.00	1.85	1.20	ノ	1.50	赤切り	淡褐色	砂	白粉	重母	白粉	やや磨っばい	
1154		9.20	8.90	6.00	2.00	1.40	ノ	1.53	赤切り	褐色	重母	砂	白粉	やや磨っばい		
1155		9.20	8.90	6.45	1.90	1.30	ノ	1.43	赤切り	赤褐色	重母	白粉	砂	磨っばい		穿孔
1156		8.20	7.90	6.80	1.65	0.90	1.35	ノ	平	褐色	砂	重母	白粉	磨っばい	指紋痕不明瞭	
1157		9.80	9.40	7.60	1.40	0.75	1.30	ノ	平	淡赤褐色	白粉	重母	供底良好		指紋痕不明瞭	
1158		10.00	9.60	9.20	1.40	0.60	1.15	ノ	平	淡赤褐色	砂	白粉	重母	やや磨っばい	指紋痕不明瞭	

かわらけ観察表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナデ	比	底面	胎土色	胎土風人物	備考	
1159	1b下	8.60	8.30	7.20	1.45	0.85	1.35	/	平	淡茶色	砂 葎草 白粉 々々砂っぽい	厚底底不明	
1160		8.60	8.25	7.60	1.70	1.00	1.40	/	平	赤褐色	砂 白粉 白粉 葎草 砂っぽい	厚底底不明	
1161		9.60	9.00	7.75	1.25	1.10	1.60	/	平	淡茶色	白粉 葎草 砂 々々砂っぽい	厚底底不明	
1162		8.90	8.65	8.00	1.90	1.30	1.30	/	平	桃褐色	砂 白粉 白粉 葎草 砂っぽい	厚底底不明	
1163		9.60	9.10	8.60	1.85	1.05	1.40	/	平	淡茶色	砂 葎草 白粉 砂 砂っぽい	厚底底不明	
1164		9.60	9.00	8.30	2.05	1.30	1.65	/	平	淡茶色	葎草 白粉 白粉 々々砂っぽい	厚底底不明	
1165		9.60	9.30	7.50	1.60	0.55	1.50	/	平	褐色	葎草 白粉 白粉 々々砂っぽい	底付着 厚底底不明	
1166		8.20	8.00	6.70	1.70	0.90	1.40	/	平	淡赤褐色	砂 葎草 白粉 々々砂っぽい		
1167		9.00	8.50	6.40	1.90	1.10	1.65	/	平	淡茶色	砂 葎草 白粉 々々砂っぽい	底付着	
1168		9.15	8.70	8.00	1.90	1.10	1.85	/	平	淡茶色	白粉 白粉	厚底底不明	
1169		9.60	8.90	7.50	1.80	1.30	1.35	/	平	褐色	白粉 砂 葎草		
1170		9.60	9.10	6.80	1.90	0.90	1.20	/	平	淡茶色	葎草 白粉 砂 砂っぽい	底付着 厚底底不明	
1171		9.00	8.65	8.30	1.70	1.15	1.10	/	平?	赤褐色	砂 白粉 葎草 砂っぽい		
1172		10.00	9.50	7.50	1.95	1.25	1.45	/	平	淡茶色	白粉 白粉 砂 砂っぽい		
1173		9.60	9.20	8.90	2.20	1.40	1.75	/	平?	淡赤褐色	砂 白粉 白粉 砂 砂っぽい		
1174		9.60	9.10	7.65	2.50	1.95	1.60	/	丸	褐色	葎草 白粉 白粉 砂		
1175		9.60	8.80	7.80	/	/	1.40	/	平	淡褐色	砂 白粉 白粉 々々砂っぽい	厚底底不明	
1176		9.00	8.50	7.75	2.10	1.35	1.35	/	丸	淡茶色	砂 白粉 葎草 砂っぽい	厚底底不明	
1177		10.80	10.50	10.20	/	/	1.25	1.60	/	丸	褐色	砂 白粉 葎草 々々砂っぽい	
1178		10.60	10.20	5.70	3.30	2.90	/	1.84	赤切り	褐色	白粉 砂 葎草 々々砂っぽい	全体に剥離	
1179		11.00	10.80	6.70	3.05	2.60	/	1.64	赤切り	淡赤褐色	白粉白粉 葎草 砂 々々砂っぽい	外底面に小粘土質付着	
1180		11.20	10.90	6.00	3.10	2.60	/	1.87	赤切り	淡褐色	葎草 砂 白粉 々々砂っぽい		
1181		11.20	11.00	6.40	3.15	2.70	/	1.70	赤切り	淡褐色	葎草 砂 白粉		
1182		11.40	11.00	7.00	3.40	2.85	/	1.63	赤切り	淡茶色	白粉 葎草 白粉		
1183		13.40	12.90	8.40	3.65	2.90	/	1.60	赤切り	淡茶色	砂 葎草 白粉 白粉 砂っぽい		
1184		13.20	12.65	9.40	3.10	2.75	/	1.63	赤切り	淡赤褐色	葎草 白粉 砂 砂っぽい		
1185		14.20	13.60	8.90	3.40	2.30	/	1.60	赤切り	淡茶色	砂 白粉 白粉 葎草 砂っぽい		
1186		13.20	11.80	8.15	3.00	2.35	/	1.50	赤切り	褐色	砂 白粉 白粉 葎草 々々砂っぽい	穿孔	
1187		14.00	13.70	6.50	3.30	2.40	/	2.15	赤切り	淡赤褐色	白粉 白粉 々々砂っぽい		
1188		13.60	13.10	8.05	3.40	2.45	/	1.69	赤切り	淡茶色	砂 葎草 白粉 白粉 砂っぽい		
1189		12.60	12.30	7.60	3.20	2.35	/	1.66	赤切り	淡赤褐色	葎草 砂 白粉 白粉 砂っぽい		
1190		13.40	13.10	9.40	3.40	2.70	/	1.63	赤切り	褐色	葎草 白粉 白粉		
1191		12.60	12.35	8.00	3.20	2.60	/	1.58	赤切り	淡赤褐色	葎草 白粉 砂 々々砂っぽい		
1192		15.00	14.60	11.65	3.40	2.90	/	1.39	赤切り	淡赤褐色	白粉 葎草 々々砂っぽい		
1193		12.60	12.20	6.20	3.25	2.75	/	2.03	赤切り	淡褐色	砂 白粉 葎草 々々砂っぽい	底付着	
1194		13.00	11.65	7.40	3.60	2.90	/	1.76	赤切り	淡赤褐色	白粉 砂 葎草 々々砂っぽい		
1195		13.00	12.75	7.80	3.50	2.90	/	1.67	赤切り	淡褐色	白粉 砂 葎草 々々砂っぽい		
1196		12.60	12.15	8.20	3.10	2.30	/	1.54	赤切り	褐色	白粉 砂 白粉 砂っぽい		
1197		13.05	12.60	8.30	3.60	2.80	/	1.63	赤切り	淡赤褐色	葎草 砂 白粉 砂っぽい		
1198		12.40	12.25	7.70	3.30	2.80	/	1.61	赤切り	淡茶褐色	葎草 砂 白粉 白粉 々々砂っぽい	外底面に小粘土質付着	
1199		13.80	12.40	7.35	3.20	2.70	/	1.74	赤切り	淡茶色	白粉 砂 葎草 白粉 砂っぽい		
1200		12.00	11.60	7.90	3.30	2.65	/	1.52	赤切り	淡赤褐色	白粉 葎草 砂 砂っぽい		
1201		12.00	11.75	6.60	3.20	2.50	/	1.82	赤切り	淡褐色	葎草 砂 白粉 白粉 々々砂っぽい	底付着	
1202		12.20	11.70	7.35	3.40	2.80	/	1.66	赤切り	褐色	白粉 砂 葎草 砂っぽい		
1203		14.20	13.70	12.30	3.50	2.70	2.50	/	丸	淡茶色	砂 白粉 葎草 砂っぽい		
1204		14.00	13.50	12.50	/	/	2.40	1.93	/	丸?	淡赤褐色	砂 白粉 白粉 葎草 砂っぽい	
1205		15.00	14.60	/	/	/	1.60	/	丸?	淡褐色	葎草 白粉 砂 砂っぽい		
1206		15.00	14.70	13.10	/	/	2.20	/	丸	淡茶色	砂 白粉 砂 砂っぽい		
1207		13.30	12.55	12.00	/	/	1.80	/	丸	褐色	砂 白粉 砂 砂っぽい		
1208		13.40	12.70	11.20	/	/	1.90	/	丸	暗褐色	白粉 砂 砂 砂っぽい		
1209		14.20	13.85	11.80	3.00	2.35	2.00	/	丸	淡茶色	白粉 葎草 砂 砂っぽい		
1210		13.60	13.20	12.50	/	/	1.80	/	丸?	淡褐色	葎草 砂 白粉 々々砂っぽい		
1211		/	/	/	/	/	/	/	/	/	掃りかわらけ		
1332	溝12	7.20	6.95	4.95	1.55	1.00	/	1.45	赤切り	淡褐色	砂 白粉 白粉 々々砂っぽい		
1333		9.50	9.20	7.40	1.90	1.40	/	1.28	赤切り	淡褐色	砂 白粉 白粉 々々砂っぽい		
1334		12.20	12.00	7.30	3.45	2.50	/	1.67	赤切り	淡茶色	砂 白粉 白粉 葎草 々々砂っぽい		
1335		12.90	12.70	7.40	3.45	2.60	/	1.74	赤切り	赤褐色	砂 白粉 葎草 砂っぽい		
1340	1a上 1-11区	7.00	6.80	4.35	1.90	1.30	/	1.61	赤切り	淡赤褐色	葎草 砂 白粉		
1341		8.20	7.90	5.50	1.80	1.15	/	1.49	赤切り	褐色	葎草 白粉 砂		
1342		9.80	9.60	6.00	3.10	2.55	/	1.65	赤切り	褐色	白粉 白粉 砂		
1339	溝3	8.00	7.70	5.80	1.80	1.25	/	1.38	赤切り	褐色	砂 白粉 白粉 とも砂っぽい	外底面に粘土質付着	
1340		8.40	8.10	6.10	1.60	1.00	/	1.38	赤切り	淡茶色	葎草 砂 白粉 とも砂っぽい		
1361		8.60	8.30	5.60	1.65	1.00	/	1.54	赤切り	褐色	葎草 砂 白粉 とも砂っぽい		
1362		12.50	12.15	6.40	3.30	2.60	/	1.95	赤切り	褐色	葎草 砂 白粉 とも砂っぽい		

かわかけ履歴表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナブ	芯	底材	胎土色	胎土混入量	備考
1375	溝6	7.80	7.50	5.80	1.60	1.20	✓	1.34	赤切り	純茶色	白針 白粒 砂	
1376		7.20	6.80	4.95	1.55	1.05	✓	1.65	赤切り	純茶色	砂 白針 白粒 黒雲 中々砂っぽい	
1377		7.80	7.45	5.40	1.70	1.25	✓	1.64	赤切り	純茶色	砂 白針 白粒 黒雲 砂っぽい	採付層
1378		7.60	7.30	4.00	1.85	1.20	✓	1.90	赤切り	純赤茶色	砂 白粒 砂っぽい	
1379		8.40	8.10	5.60	1.85	1.40	✓	1.50	赤切り	純茶色	白針 白粒 砂 黒雲 砂っぽい	
1380		8.30	8.00	✓	✓	1.40	✓	1.7	赤切り	純茶色	砂 白針 白粒 砂っぽい	採付層不明瞭
1381		10.20	9.95	5.90	3.00	2.60	✓	1.73	赤切り	褐色	砂 白粒 黒雲 白針	採付層
1382		11.10	10.80	6.80	3.00	2.20	✓	1.63	赤切り	純茶色	砂 白粒 白粒 砂っぽい	
1383		12.00	11.55	7.70	3.20	2.70	✓	1.56	赤切り	純赤褐色	白針 白粒 黒雲 中々砂っぽい	
1384		12.30	11.80	7.00	3.25	2.45	✓	1.76	赤切り	純茶色	白針 白粒 砂っぽい	
1385		12.70	12.30	7.40	3.00	2.30	✓	1.72	赤切り	純赤茶色	砂 白針 黒雲 砂っぽい	
1386		12.60	12.35	8.60	3.30	2.65	✓	1.50	赤切り	純赤褐色	砂 白針 黒雲 白粒 中々砂っぽい	
1387		13.00	12.55	8.00	3.40	2.65	✓	1.63	赤切り	赤褐色	白針 砂 白粒 中々砂っぽい	
1403	溝7	7.80	7.50	5.45	1.70	1.00	✓	1.43	赤切り	赤褐色	砂 白粒 白針 黒雲 砂っぽい	
1404		9.00	8.60	6.30	2.30	1.30	✓	1.43	赤切り	純茶色	黒雲 砂 白針 白粒 中々砂っぽい	採付層
1405		7.20	7.00	4.50	2.05	1.65	✓	1.60	赤切り	褐色	黒雲 白粒 砂 白針	
1406		13.05	12.80	6.40	3.00	2.30	✓	2.04	赤切り	純茶色	砂 黒雲 白粒 白針 砂っぽい	
1407		11.00	10.70	6.70	3.15	2.55	✓	1.64	赤切り	褐色	黒雲 白粒 中々砂っぽい	
1408		10.40	10.00	7.00	3.20	2.45	✓	1.49	赤切り	純茶色	砂 白針 白粒 黒雲 砂っぽい	
1409		13.60	13.30	7.90	3.55	3.00	✓	1.72	赤切り	純赤褐色	黒雲 砂 白粒 白針 中々砂っぽい	
1410		12.35	12.00	7.00	3.45	2.90	✓	1.76	赤切り	純茶色	白針 白粒 砂 中々砂っぽい	
1411		12.60	12.30	7.60	3.40	2.90	✓	1.66	赤切り	純茶色	白粒 白針 中々砂っぽい	
1412		12.80	12.55	8.40	3.45	2.90	✓	1.52	赤切り	純茶色	黒雲 白粒 中々砂っぽい	
1413	溝9	7.80	7.40	5.80	1.50	0.90	✓	1.34	赤切り	純褐色	白針 黒雲 白粒 砂 中々砂っぽい	
1416		7.75	7.30	5.55	1.40	1.00	✓	1.40	赤切り	純褐色	砂 白粒 白針 黒雲 砂っぽい	
1417		7.20	6.95	4.80	1.85	1.35	✓	1.50	赤切り	純赤褐色	砂 白粒 白針 砂っぽい	
1418		8.20	7.85	6.15	1.80	1.10	✓	1.33	赤切り	純赤褐色	砂 白針 黒雲 白粒 中々砂っぽい	
1419		7.40	7.15	4.85	1.90	1.25	✓	1.53	赤切り	純赤褐色	砂 白針 黒雲 白粒 砂っぽい	
1420		12.00	11.70	7.20	3.10	2.60	✓	1.67	赤切り	赤褐色	砂 白針 白粒 黒雲 砂っぽい	
1421		12.30	11.80	11.40	3.25	2.70	✓	1.07	赤切り	褐色	白針 黒雲 白粒 砂 中々砂っぽい	
1422		14.20	13.90	8.00	3.90	3.45	✓	1.78	赤切り	純赤褐色	白針 黒雲 砂 中々砂っぽい	
1423		13.60	13.10	8.60	3.80	3.00	✓	1.58	赤切り	純茶色	白針 砂 黒雲 中々砂っぽい	
1454	溝4	13.60	13.30	8.30	3.30	2.60	✓	1.64	赤切り	赤褐色	砂 白粒 黒雲 砂っぽい	
1458	溝5	8.00	7.60	5.10	1.60	0.85	✓	1.57	赤切り	赤褐色	白針 砂 黒雲 中々砂っぽい	
1459		8.00	7.70	6.10	1.45	1.05	✓	1.31	赤切り	純茶色	白針 白粒	
1460		10.80	10.40	6.45	2.75	2.20	✓	1.67	赤切り	純茶色	白粒 白針 砂 中々砂っぽい	
1461		12.20	11.80	6.80	3.45	2.50	✓	1.79	赤切り	純茶色	白針 砂 黒雲 中々砂っぽい	
1462		12.60	12.30	6.60	3.45	2.75	✓	1.91	赤切り	純赤褐色	白針 白粒 黒雲 砂っぽい	
1479	土層1	8.40	8.10	6.30	1.75	1.25	✓	1.33	赤切り	純茶色	砂 白粒 砂 黒雲 中々砂っぽい	
1480		7.60	7.45	5.40	1.40	0.85	✓	1.41	赤切り	褐色	白針 白粒 黒雲 砂 砂っぽい	
1481		8.40	8.30	5.70	1.80	1.15	✓	1.47	赤切り	純赤褐色	白粒 黒雲 白針 砂 砂っぽい	
1482		8.00	7.85	4.60	2.00	1.20	✓	1.74	赤切り	褐色	白粒 砂 黒雲 純成良好	
1483		7.40	7.10	5.20	1.85	1.30	✓	1.42	赤切り	純褐色	砂 白針 黒雲 中々砂っぽい	
1484		7.50	7.20	4.60	1.75	1.05	✓	1.63	赤切り	暗赤褐色	砂 白針 黒雲 砂っぽい	
1485		7.80	7.60	4.70	1.80	1.00	✓	1.66	赤切り	純赤褐色	砂 白針 白粒 黒雲 中々砂っぽい	
1486		7.80	7.75	4.80	1.75	1.00	✓	1.43	赤切り	純茶色	砂 白針 白粒 黒雲 中々砂っぽい	
1487		11.55	11.30	6.50	3.05	2.50	✓	1.78	赤切り	赤褐色	砂 白粒 黒雲	採付層
1488		12.40	12.20	7.50	3.10	2.50	✓	1.70	赤切り	純茶色	砂 黒雲 白粒 中々砂っぽい	
1489		14.20	13.90	7.70	3.40	2.80	✓	1.84	赤切り	赤褐色	白針 白粒 砂 黒雲 中々砂っぽい	
1490		13.80	13.50	8.10	3.55	2.85	✓	1.70	赤切り	赤褐色	砂 白針 白粒 黒雲 中々砂っぽい	
1491		14.40	14.15	7.50	3.60	3.00	✓	1.92	赤切り	赤褐色	砂 白針 白粒 黒雲 中々砂っぽい	
1503	土層2	7.60	7.15	5.65	1.25	0.70	✓	1.35	赤切り	純赤褐色	黒雲 白粒 砂 中々砂っぽい	
1505	土層3	12.40	12.20	6.65	3.40	2.85	✓	1.86	赤切り	純赤褐色	黒雲 砂 白針 白粒 中々砂っぽい	
1506		14.00	13.75	8.00	3.45	3.25	✓	1.75	赤切り	純赤褐色	白粒 黒雲 白針 中々砂っぽい	
1507		14.40	14.10	8.60	3.75	3.05	✓	1.67	赤切り	純褐色	砂 白針 黒雲 白粒 中々砂っぽい	
1512	1a面上 1V区	13.60	13.25	7.90	3.50	2.75	✓	1.72	赤切り	純赤褐色	砂 白針 黒雲 中々砂っぽい	
1519	1a上IV区土層	8.15	7.80	4.65	1.80	1.25	✓	1.75	赤切り	純茶色	白針 黒雲 砂っぽい	
1520		7.60	7.35	4.50	2.40	1.90	✓	1.69	赤切り	褐色	白粒 黒雲 砂 白針 中々砂っぽい	
1521		7.60	7.15	4.70	2.35	1.80	✓	1.62	赤切り	純褐色	白粒 砂 白針 砂っぽい	
1522		8.30	8.10	5.80	2.30	1.70	✓	1.63	赤切り	純茶色	白針 砂 黒雲 とも砂っぽい	
1523		7.55	7.30	5.65	1.65	0.90	✓	1.50	赤切り	純赤褐色	白針 砂 黒雲 白粒 砂っぽい	
1524		8.30	7.90	5.90	1.80	1.30	✓	1.39	赤切り	純茶色	白針 白粒 黒雲 中々砂っぽい	採付層
1525		11.80	11.45	6.85	2.75	2.05	✓	1.72	赤切り	純茶色	砂 白針 白粒 黒雲 砂っぽい	
1526		11.00	10.60	6.50	2.80	2.20	✓	1.69	赤切り	純茶色	白粒 白針 黒雲 中々砂っぽい	

かわらけ観察表

No.	出土地	外径	内径	底径	外高	内高	ナア	比	底筋	胎土色	胎土人物	備考
1527	1a上IV区土質	11.00	10.70	5.60	3.35	2.45	／	2.04	赤切り	淡茶褐色	白針 霰母 白粒 砂 礫	砂っぽい
1528		11.60	11.30	6.90	3.30	2.60	／	1.68	赤切り	霰母 白針 砂	やや砂っぽい	保付書
1529		12.60	12.40	7.00	3.55	2.80	／	1.80	赤切り	淡茶褐色	霰母 白針 霰母 砂	やや砂っぽい
1530		12.60	12.20	6.60	3.00	2.10	／	1.91	赤切り	淡茶褐色	白針 霰母	やや砂っぽい
1531		12.80	12.50	8.35	3.25	2.60	／	1.53	赤切り	淡茶褐色	白針 白粒 霰母 砂	やや砂っぽい
1532		14.00	13.60	7.90	3.55	2.80	／	1.75	赤切り	淡褐色	霰母 白針 霰母 砂	やや砂っぽい
1533		13.60	13.60	8.20	3.70	2.95	／	1.66	赤切り	褐色	砂 白粒 白針 霰母	砂っぽい
1534		13.80	13.55	8.65	3.85	3.25	／	1.60	赤切り	淡茶褐色	白針 白粒 霰母	やや砂っぽい
1535		14.00	13.60	8.30	3.95	3.40	／	1.69	赤切り	褐色	白針 白粒 砂 霰母	
1536		11.50	11.25	6.60	3.30	2.30	／	1.80	赤切り	淡褐色	白針 白粒 砂 霰母	砂っぽい
1537		14.00	13.70	9.05	3.50	2.80	／	1.55	赤切り	淡茶褐色	白粒 白針 霰母 砂	やや砂っぽい
1538		14.20	13.85	7.85	3.55	2.85	／	1.81	赤切り	淡茶褐色	白粒 白針	やや砂っぽい
1539		13.20	12.80	7.40	3.60	2.95	／	1.78	赤切り	褐色	白針 白粒 霰母 砂	やや砂っぽい
1540		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	
1542	1a層下	8.00	7.70	5.55	1.30	0.70	／	1.44	赤切り	淡赤褐色	砂 霰母 白針	やや砂っぽい
1543		8.20	7.90	6.15	1.40	1.00	／	1.33	赤切り	淡茶褐色	白針	砂っぽい
1544		7.40	7.05	5.00	1.80	1.25	／	1.48	赤切り	褐色	白粒 白針 砂 霰母	やや砂っぽい
1545		8.00	7.70	5.55	1.80	1.15	／	1.50	赤切り	淡赤褐色	砂 霰母 白粒	やや砂っぽい
1546		8.20	7.90	5.60	1.70	1.10	／	1.46	赤切り	淡茶褐色	白粒 霰母 砂	
1547		7.95	7.55	5.10	1.80	1.20	／	1.56	赤切り	淡赤褐色	霰母 砂 白針	
1548		8.00	7.60	5.80	1.60	1.05	／	1.38	赤切り	褐色	砂 霰母 白針 白粒	砂っぽい
1549		8.00	7.60	5.60	1.80	1.15	／	1.43	赤切り	淡茶褐色	砂 霰母 白針 白粒	砂っぽい
1550		8.60	8.40	5.10	2.20	1.70	／	1.69	赤切り	淡褐色	霰母 白粒 砂	やや砂っぽい
1551		7.50	7.00	4.85	1.70	1.15	／	1.51	赤切り	淡赤褐色	白針 霰母 砂	やや砂っぽい
1552		7.40	7.20	4.00	1.75	1.20	／	1.85	赤切り	赤褐色	白粒 砂 白針 霰母	
1553		8.00	7.70	4.05	2.10	1.70	／	1.98	赤切り	褐色	白粒 霰母	白針
1554		8.00	7.60	5.80	1.90	1.35	／	1.38	赤切り	淡赤褐色	砂 霰母 白針	
1555		7.20	6.90	5.00	1.70	1.15	／	1.44	赤切り	淡褐色	霰母 白針 白粒	やや砂っぽい
1556		7.20	6.85	4.70	1.90	1.25	／	1.53	赤切り	淡茶褐色	霰母 砂 白針 白粒	やや砂っぽい
1557		7.20	7.05	5.45	2.00	1.65	／	1.32	赤切り	淡赤褐色	霰母 白針 白粒	
1558		7.40	7.10	4.60	2.15	1.60	／	1.61	赤切り	淡茶褐色	霰母 白粒 白針	砂っぽい
1559		7.00	6.70	4.25	2.20	1.60	／	1.65	赤切り	淡赤褐色	白粒 霰母 砂	やや砂っぽい
1560		7.40	7.10	3.60	2.20	1.75	／	2.06	赤切り	淡赤褐色	砂 霰母 白粒	やや砂っぽい
1561		13.00	12.75	8.90	3.80	3.10	／	1.46	赤切り	淡茶褐色	白針 白粒 砂	やや砂っぽい
1562		12.40	12.05	7.80	3.35	2.75	／	1.59	赤切り	淡赤褐色	霰母 砂 白粒	やや砂っぽい
1563		12.50	12.20	7.40	3.40	2.80	／	1.69	赤切り	淡茶褐色	砂 霰母 砂っぽい	
1564		12.40	12.00	7.60	3.50	2.75	／	1.77	赤切り	淡赤褐色	砂 霰母 白針	やや砂っぽい
1565		11.00	10.80	5.80	3.05	2.40	／	1.90	赤切り	褐色	砂 霰母 針 霰母	
1566		13.10	12.70	8.75	3.10	2.40	／	1.50	赤切り	淡褐色	砂 霰母 白針 白粒	砂っぽい
1567		13.35	13.10	7.60	3.50	2.80	／	1.76	赤切り	淡茶褐色	砂 白粒 霰母 白針	砂っぽい
1568		13.35	13.05	7.50	3.40	2.70	／	1.78	赤切り	赤褐色	霰母 砂 白針 白粒	やや砂っぽい
1569		13.60	13.25	7.20	3.30	2.70	／	1.89	赤切り	褐色	白粒 霰母 白針 砂	
1570		12.40	11.90	7.25	3.25	2.40	／	1.71	赤切り	淡赤褐色	砂 霰母	やや砂っぽい
1571		12.85	12.50	7.00	3.35	2.65	／	1.84	赤切り	淡茶褐色	霰母 白針 砂	とても砂っぽい
1572		11.40	11.20	6.65	2.10	2.60	／	1.71	赤切り	褐色	霰母 砂 白粒	やや砂っぽい
1573		13.00	11.70	7.65	3.25	2.50	／	1.57	赤切り	赤褐色	白針 白粒 砂 霰母	
1574		14.20	13.90	7.90	3.10	2.40	／	1.80	赤切り	淡褐色	砂 白粒 白針	やや砂っぽい
1575		15.05	14.70	8.80	3.90	3.10	／	1.71	赤切り	淡茶褐色	白粒 白針 霰母	やや砂っぽい
1576		13.55	13.15	7.30	3.40	2.85	／	1.86	赤切り	淡赤褐色	霰母 白針	
1577		13.80	13.40	7.45	3.65	2.85	／	1.85	赤切り	淡赤褐色	霰母 砂 白針	やや砂っぽい
1578		14.00	13.65	7.65	3.60	2.90	／	1.83	赤切り	淡赤褐色	砂 霰母	やや砂っぽい
1579		13.00	12.60	7.30	3.10	2.25	／	1.78	赤切り	赤褐色	白針 白粒 砂	砂っぽい
1580		11.00	10.70	6.00	2.85	2.20	／	1.83	赤切り	赤褐色	砂 霰母 白粒 白針	やや砂っぽい
1581		11.60	11.30	6.30	3.10	2.60	／	1.84	赤切り	褐色	砂 霰母 白針 白粒	やや砂っぽい
1582		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	
1582		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	磨りかわらけ
1646	上層包含層	7.20	6.80	5.20	1.80	1.25	／	1.51	赤切り	褐色	霰母 白針 白粒 砂	やや砂っぽい
1647		7.60	7.20	4.40	1.80	1.15	／	1.73	赤切り	淡茶褐色	白粒 砂 霰母 白針	
1648		7.90	7.40	3.45	1.95	1.15	／	1.43	赤切り	淡茶褐色	霰母 白針 砂	やや砂っぽい
1649		8.00	7.55	4.90	2.10	1.20	／	1.63	赤切り	淡茶褐色	砂 白粒 白針 霰母	やや砂っぽい
1650		9.60	9.00	7.90	1.40	0.70	／	1.23	赤切り	褐色	砂 白粒 白針 霰母	砂っぽい
1651		13.90	13.55	8.70	3.20	2.50	／	1.60	赤切り	淡褐色	白粒 霰母 砂	やや砂っぽい
1652		7.80	7.40	5.50	1.90	1.35	／	1.42	赤切り	淡茶褐色	白粒 霰母 白針	
1653		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	伊孔
1653		／	／	／	／	／	／	／	／	／	／	伊孔かわらけ













数字分類表

出上地	国名	通商	船名	船種	船積	出付	寄付	船名	船種	上船日	下船日	卸荷日	通商	船名	船種	上船日	下船日	卸荷日	通商	船名	船種	上船日	下船日	卸荷日
イノシシ属 <i>swarth</i>																								
1A 漢下北																								
1A 漢下東																								
1A 漢上北西																								
漢1																								
漢208																								
漢3																								
漢9																								
土漢210																								
土漢211																								
土漢215																								
合計																								
ウシ属 <i>swarth</i> or <i>U. Equus subellus</i>																								
1A 漢下																								
1A 漢下東																								
1A 漢上北西																								
1A 漢上																								
TT																								
漢16																								
漢214																								
漢215																								
漢216																								
漢217																								
漢218																								
土漢13																								
土漢21																								
土漢22																								
天原																								
先各港																								
方船以上																								
合計																								
ニホンウシ <i>swarth</i> or <i>U. Equus subellus</i>																								
TT																								
合計																								
イヌ <i>swarth</i>																								
ピット20																								
1A 漢下																								
1A 漢下東																								
1A 漢下北																								
1A 漢下北																								
1A 漢																								















船類

出土地	図号	図種	図機	図幅	前 台			上 部 台			下 部 台			側 甲 台			平 板 台			船 骨	尾 板 骨		
					r	l	w	r	l	w	r	l	w	r	l	w	r	l	w				
<i>イロカ科 Dalphididae (Gomphus griseus)</i>																							
1a底	al							al*	al*														
1a底下		1*	3*								al										al		
1a底下南								al*	al3														
1a底下北	al8																						
1a底下北東									al*														
1a底連絡面上				18																			
1b底南			1*9																				
1b底		1*									al												
1b底下			1*							al													
1b底上北南				2																			
2底下	al																						
TJ 4			1*					al*															
TT 2													al										
ビッド127/点28																					al		
ビッド40																					al		
月戸4								al	al														
標208			3*																				
標22													al										
標31			18																				
標5			1*																				
標9	per3	1	2*					per3*	per3*														
標全区域横	al*																						
土標15											al										al		
土標16																					al		
土標203			1*9																				
土標212			4*																				
土標8	al		1*																				
包含層			4*18					al													al		
方盤1			2*																				
方盤1上																					per1		
方盤201		1*											al										
合計	8	4	45				2	3	6	8	1	1	3	2							1	4	2

出土地	胸音	鳥口音	上級音	大級音	級音	中子音	不明
	r	l	u	r	l	u	r
ニワトリ <i>Ovis g. var. domesticus</i>							
TT4			plhl	pl			
ボン							
トレンナ						perl	
1面上等土質			dl				
2下		perl					
方眼1下				pl			
ヒシタイ属 <i>Amur</i> spp.							
1a面下						perl	
トビ <i>Milvus erispus</i>							
1a面下						al	
キジ <i>Phasianus colchicus</i>							
TT4				al			
不明		al					
キジ or ニワトリ							
方眼1上	al						
ハト <i>Columbidae</i>							
			al				
オオムシ <i>Oen. et sp. indet.</i>							
2面					al		
ミズナギドリ属 <i>Order Troonlactiformes</i>							
葉Sec.19			al				
トリ類							
土質28							al

## 魚類

出土地	前歯骨	上顎歯骨	上顎骨	眼窩骨	眼輪骨	眼柄	鼻骨	鰓蓋骨	尾骨	尾節状骨	鱗列	歯	前上顎	歯骨	甲	腹甲板	不明			
													r	l	u	r	l	u	r	
<b>マダイ <i>Pagrus major</i></b>																				
1b面下産							a2													
ピット32													per1							
ピット85														per1						
ピット86		al*			al															
標16	al																			
標2		al*																		
方眼201	al																			
不明													al							
<b>カツオ <i>Katsuwonus pelamis</i></b>																				
1b面上南西								al												
<b>コショウダイ</b>																				
1a面下													per1							
<b>カクギ <i>Xiphias gladius</i></b>																				
1a面下				al						al				al						
1b面						al														
1b面下南												al*								
1b面上						al														
1面上			al	al			al							al						
1面上等土壌														al						
TT 4							al													
標11														al						
標201														a2						
標202														al						
標205							al													
標208																				a3
標8,土壌8														al						
標9上										per1										
土壌1							al													
土壌15																				al*
土壌206																				a2
土壌210							a2													
土壌23																				al*
包含層					a3		al													a3
方眼1																				a2
方眼1上							al													
<b>アンコウ</b>																				
TT 4													al							
TT														al						a5
<b>サカナ飯</b>																				
1b面上南西																				al
1b面上北西																				al
標11																				a3
標202																				al
土壌28																				al
方眼1下																				al
不明																				al



加工腺体表

品名	上製骨	模骨	骨	中子骨	大頭骨	腰骨	中足骨	中子・足骨	加骨	四肢骨	その他
ウシ											
骨31							d1		a2		
骨32							p1				
骨33											
骨34				p1							
骨35					a1				a1		
骨36											
骨37							p1				
土製1											
土製15				p1							
土製203				p1							
土製205					d1						
土製206											
土製214							p1				
土製219				d1							
土製222				p1							
土製228											
土製229							p1				
土製3								a1			
土製7				p1							
土製100008	a1										
乳牛骨				p1							
刀製1上							p1				
刀製203								a1			
ウマ Equus caballus											
10歳下			a1								
2歳下				p1				per1			
骨201											
骨210			a1					d1			
骨210								d1			
骨213											
骨214				per1							
骨214			d1				per1				a1
骨214				p1				d1			
骨213								d1			
骨213								d1			
骨219								d1			
土製9				p1							

## 加工歌合表

品名	上製管	機 管	中子管	大細特	機 管	中尺管	中子・尺管	筋 管	四股管	その他
クシワウマ										
1A下下									42	
1A下之直									41	
1A下										43
1A下下										46
1A下下										41
1A下下北										41
1A下上										41
1A下										41
1A上										41
1A上南直									42	
2A下										44
ゾット200										41
巻17										41
巻201										41
巻203										41
巻204										41
巻214										41
巻215										41
巻22										41
巻4										41
巻5										42
巻6										41
巻6(片戸)										41
巻9									41	41
土製1										41
土製203										41
土製206										41
土製207										41
土製210										41
土製211										41
土製27										41
土製28										41
土製3										41
包合管									42	41
力製201										41
力製201									41	42

## 加工断音表

母土語	上断音	横音	中平音	大断音	断音	中仄音	中子・仄音	断音	四断音	その他
イロロFamily Deputa-like										
IT 3										al
ノロFamily Ove-like										
IT										al

瓦類観察表

出土地点	種類	長	幅	高	
1a面下	アコニシ			109+α	楕円・反対体層を欠く
1a面下	アコニシ			54	輪のみ
1a面下	アコニシ			84+α	輪の一部
1a面下	アコニシ			69+α	楕円・輪を欠く
1a面下	アコニシ			105	輪のみ
1a面下	アコニシ		80+α	119	反対体層を欠く
1a面下	アコニシ		93.5	117	楕円下体層を欠く
1a面下	アコニシ			94	反対体層を欠く
1a面下	アコニシ			112+α	楕円・外唇・反対体層を欠く
1a面下	アコニシ			106	外唇・反対体層を欠く
1a面下	アコニシ			107+α	楕円・外唇・反対体層を欠く
1a面下	アコニシ			103+α	楕円を欠く 輪のみ
1a面下	サザエ				フタのみ
1a面下	フメタガイ			33	輪のみ
1a面下	フノキガイ?			110+α	楕円と体層を欠く
1b面	アコニシ				
1b面下	アコニシ			115+α	楕円・反対体層を欠く
1b面下	アコニシ		81.5	99	楕円下反対体層を欠く
1b面下	バイ			51	外唇を欠く
1b面下	バイ			47.5	外唇を欠く
1b面下	フメタガイ		21	20	外唇を欠く
1b面下	アコニシ			76.6+α	口唇・反対体層・楕円を欠く
1b面下	アコニシ				楕円のみ
1b面下	アコニシ			89+α	輪の一部
1b面下	アコニシ			49+α	輪の一部
1b面下	アコニシ			77	96+α 楕円下体層を欠く
1b面下	アコニシ			91	? 外唇・反対体層・楕円を欠く
1b面下	アコニシ			? 101.5+α	輪のみ
1b面下	バイ			27	47.5 外唇を欠く
1b面下	アコニシ			93.3	114 反対体層を欠く
1b面下	アコニシ			62+α	反対体層・楕円を欠く
1b面下	アコニシ			134	反対体層を欠く
1b面下	アコニシ			107+α	反対体層・楕円を欠く
1b面下	チョウセンハマグリ		73+α	61+α	
1b面下(土壁)	アコニシ			114+α	楕円・反対体層を欠く
1b面上	チョウセンハマグリ		73.5	58	片殻
1b面(土壁)	アコニシ			117	外唇・楕円反対体層を欠く
1面上	トコブシ		41+α		
1面上	アコニシ			116	外唇と反対体層を欠く
2面下	アコニシ			90+α	楕円を欠く 体層一部残す
2面下	アコニシ			92+α	楕円を欠く 輪のみ
2面下	アコニシ			72+α	外唇を残す
2面下	バイ			42	体層下半を欠く
2面下	バイ			36+α	楕円と反対体層を欠く
2面下	ダンベイキサゴ		26	19	外唇を欠く
2面下	ダンベイキサゴ			15	外唇を欠く
2面下	アコニシ		81.5	98	楕円下反対体層を欠く
2面下	アコニシ			110.5	輪のみ
2面下	アコニシ				輪上半真周に缺ける
2面下	ダンベイキサゴ		31	23.5	外唇を欠く
2面下	ダンベイキサゴ			23.5	輪のみ
2面下	ダンベイキサゴ			20.5	輪のみ
2面下	サザエ				フタ
3面下	ボウシユウボラ			75	121.5+α 楕円を欠く
3面下	チョウセンハマグリ				殻頂のみ
4号井戸	アコニシ			106+α	反対体層・輪下縁を欠く
4号井戸	アコニシ			87+α	楕円・反対体層を欠く
4号井戸	アコニシ			112+α	楕円・反対体層を欠く
4号井戸	アコニシ			99+α	
1面上(土壁)	チョウセンハマグリ			?	殻頂
1面上(土壁)	ダンベイキサゴ		?	20	輪のみ
1面上(土壁)	ダンベイキサゴ			17	輪のみ
1面上(土壁)	ワスレガイ				殻頂
1面上(土壁)	バテイラ		14+α	19	外唇を欠く

貝類観察表

出土地点	種類	長	径	高	
1面上層土層	バイ		33	57	外唇を欠く
1面上層土層	ペンケイガイ				全周 片殻
1面上層土層	アカニシ		80.5±	101±	螺塔・反対体層を欠く
1面上層土層	アカニシ				逃けている 殻の一部
1面上層土層	アカニシ		?	105±	螺塔・反対体層を欠く
1面上層土層	イボキサゴ		18.6	18	外唇を欠く
1面上層土層	アカニシ			115	軸と外唇を残すのみ
1面上層土層	アカニシ		?	92±	軸のみ
1面上層土層	アカニシ			129±	螺塔と反対体層を欠く
1面上層土層	アカニシ			114.5	軸のみ
1面上層土層	アカニシ			70	軸のみ
1面上層土層	ハマグリ				破片 幼貝〜成貝
1面上層土層	チョウセンハマグリ		69	56	
1面上層土層	チョウセンハマグリ		61±	51	
1面上層土層	チョウセンハマグリ				
1面上層土層	チョウセンハマグリ				
1面上層土層	チョウセンハマグリ				
1面上層土層	チョウセンハマグリ				
ピット12	ダンベイキサゴ			21.6	軸のみ
ピット13	チョウセンハマグリ		?	?	片殻
ピット13	アカニシ			106±	螺塔・反対体層を欠く
ピット13	アカニシ			101±	螺塔・反対体層を欠く 上部に巻貝痕
ピット13	アカニシ			118	軸のみ
ピット204	ハマグリ		?	?	
ピット204	チョウセンハマグリ		?	?	
ピット209	タロアワビ				幼貝破片
ピット209	バテイラ		34		軸を欠く
ピット209	ダンベイキサゴ		20±	19	外唇を欠く
ピット209	ダンベイキサゴ			14.5	軸のみ
ピット209	ダンベイキサゴ			17.5	軸のみ
ピット209	サザエ			52	軸のみ
ピット209	アカニシ			68±	殻の一部
ピット209	アカニシ		?	114±	下層を欠き軸と外唇部のみを残す
ピット209	アカニシ			80±	軸のみ
ピット209	アカニシ			108±	螺塔・反対体層を欠く
ピット209	アカニシ				殻の一部
ピット209	アカニシ			79.5	軸のみ
ピット209	アカニシ		?	?	軸下層のみ
ピット209	ハマグリ		68	62	片殻
ピット209	チョウセンハマグリ		62±	51±	片殻
ピット209	バイ		32±	49	外唇・反対体層を欠く
ピット24	アカニシ		103	92±	螺塔を欠く
ピット3	アカニシ			105	反対体層を欠く
ピット32	アカニシ			95±	螺塔と反対体層を欠く
ピット33	アカニシ		54±	79±	螺塔・外唇・反対体層を欠く 反対体層に巻貝痕あり
ピット80	チョウセンハマグリ				
ピット86	アカニシ			112±	螺塔と体層のほとんどを欠く
溝12	フメタガイ		?	32	軸上層
溝13	フメタガイ				
溝13	ハマグリ		31±	41±	片殻のみ
溝14	サザエ				フタのみ
溝14	ダンベイキサゴ		25	15.5	外唇を欠く
溝14			32	15.5	外唇を欠く
溝14	アカニシ			123.5±	軸のみ
溝14	アカニシ		95	109.5	螺塔下体層を欠く
溝14	アカニシ				上半部のみ
溝14	アカニシ		106±	121±	螺塔と反対体層を欠く
溝18	アカニシ			91	螺塔下反対体層を欠く
溝18	サザエ				フタのみ
溝18	アカニシ			42	軸のみ
溝18	アカニシ			132	軸のみ外唇を一部残す
溝18	アカニシ			80±	軸上層
溝18	アカニシ			103	螺塔と反対体層を欠く
溝18	アカニシ			97±	螺塔・外唇・反対体層を欠く

貝類観察表

出土地点	種別	長	径	高		
溝18	アカニシ		84+α	113	螺塔下体層・外唇を欠く	
溝201	アカニシ		77	88	螺塔下体層を欠く	
溝201	サザエ				フタ	
溝202	アカニシ			114	軸のみ	
溝202	アカニシ			137	軸のみ	
溝205	アカニシ			123	軸のみ	
溝205	アカニシ			123	反対体層を欠く	
溝205	アカニシ			123	反対体層を欠く	
溝207	アカニシ			113	反対体層を欠く	
溝210	アカニシ			100	反対体層を欠く	
溝210	アカニシ			92	反対体層を欠く	
溝213	アカニシ		93	104	螺塔下反対体層を欠く	
溝213	アカニシ		88	99	螺塔下反対体層を欠く	
溝213	アカニシ			100	119	
溝213	アカニシ			83	94	
溝213	アカニシ			81.5	105.5	
溝213	アカニシ			129+α	螺塔を欠く 軸・外唇を欠く	
溝213	アカニシ			121+α	螺塔を欠く 軸・外唇を欠く	
溝213	アカニシ			88+α	螺塔・外唇・反対体層を欠く	
溝214	アカニシ			97+α	螺塔・反対体層を欠く	
溝214	アカニシ			111.3	外唇・反対体層を欠く	
溝214	アカニシ			111	外唇・反対体層を欠く	
溝214	アカニシ			76.3	外唇・反対体層を欠く	
溝214	アカニシ			67	外唇・反対体層を欠く	
溝214	アカニシ			94	軸のみ	
溝214	アカニシ			82	軸のみ	
溝214	アカニシ			114	軸のみ	
溝214	アカニシ			107	軸のみ	
溝214	アカニシ			104	軸のみ	
溝214	アカニシ		90	115	螺塔下反対体層を欠く	
溝214	アカニシ		84	102	螺塔下反対体層を欠く 体層剥ける	
溝214	アカニシ		90	115	螺塔下反対体層を欠く 剥ける	
溝214	チョウセンハマグリ	84		69	片殻	
溝214	チョウセンハマグリ	72+α		60	片殻	
溝214	メカイアワビ					
溝214	アカニシ		81	98	螺塔下反対体層を欠く	
溝214	チョウセンハマグリ	72+α		62+α	片殻のみ	
溝214	アカニシ			109	軸と外唇の一部を残す	
溝214	アカニシ	12	95.4	122.5+α	螺塔・螺塔下体層を一断欠く	
溝214	アカニシ		7	110	外唇と反対体層を欠く	
溝214	フノキガイ?			115+α	螺塔を欠く 軸のみ	
溝214	サザエ				フタ	
溝214	アカニシ			37+α	螺塔を欠く 軸	
溝214	マダカアワビ					
溝214	フメタガイ	29		44	外唇を欠く	
溝214	サザエ				フタのみ	
溝214	アカニシ			109	外唇と反対体層を欠く	
溝214	チョウセンハマグリ	93		69	片殻	
溝214	アカニシ			86+α	螺塔を欠く 軸	
溝214	アカニシ			42+α	螺塔を欠く 軸	
溝214	アカニシ			129	反対体層を欠く	
溝215	アカニシ			127	破損を受け反対体層を欠く	
溝215	アカニシ			89+α	反対体層を欠く	
溝22	アカニシ			107+α	螺塔・反対体層を欠く 外唇に破損痕あり	
溝23	サザエ				フタのみ	
溝27	アカニシ			109+α	螺塔・外唇・反対体層を欠く	
溝28	マダカ	109		79	片殻	
溝3	アカニシ		88.3	92+α	螺塔と螺塔下体層を欠く	
溝3	アカニシ			76+α	螺塔と反対体層を欠く	
溝3	アカニシ				軸上半	
溝33	チョウセンハマグリ	56+α			片殻	
溝33	サザエ		88	97	外唇を欠く	
溝5	サルボウ	61		51	片殻	
溝5	チョウセンハマグリ	?		?	片殻	

貝類観察表

出土地点	種別	長	幅	高	
溝5	チョウセンハマグリ	59		51	片殻
溝5	カギミガイ	69		66	片殻
溝6	ウチムラサミガイ	75		63	片殻
溝6	アカニシ	?	48	54	外唇を欠く
溝6	サザエ	?		?	フタのみ
溝6	フメタガイ	?	27+α	20	外唇を欠く
溝6	アサリ	27		20	片殻
溝7	アサリ	26		19	片殻
溝8	ダンベイキサゴ	?		21	
溝9	アカニシ			112+α	楕円を欠く 軸と外唇を残すのみ
溝9上層	アカニシ			99+α	下層を除く 軸と外唇を残す
溝9上層	アカニシ		58.4	61.5+α	外唇・楕円を欠く
溝9上層	アカニシ			145.7	口唇・反対体層を欠く
試掘溝	バイ		14.5	38.5	外唇を欠く
試掘溝	チョウセンハマグリ	81.3		64.3	片殻
試掘溝	チョウセンハマグリ	?			片殻
試掘溝	チョウセンハマグリ	?			片殻
試掘溝	ダンベイキサゴ		36	23.5	外唇を欠く
試掘溝	ダンベイキサゴ		31	19	外唇を欠く
試掘溝	ダンベイキサゴ		30	22	外唇を欠く
試掘溝	ダンベイキサゴ		26+α	19.5	外唇を欠く
試掘溝	ダンベイキサゴ		28.5	19	外唇を欠く
試掘溝	ダンベイキサゴ		14.5+α	19.5	外唇を欠く
試掘溝	ダンベイキサゴ		25	18.7	外唇を欠く
試掘溝	ダンベイキサゴ		25	20	外唇を欠く
土塚15	ダンベイキサゴ				外唇を欠く
土塚16	ダンベイキサゴ				軸のみ
土塚16	ダンベイキサゴ				軸のみ
土塚16	ダンベイキサゴ				軸のみ
土塚207	アカニシ		82+α	97+α	楕円と外唇、楕円下体層を欠く
土塚210	サルボウガイ	60.5		50.5	片殻
土塚210	バイ			43.5	外唇を欠く
土塚210	ダンベイキサゴ		29	20	外唇を欠く
土塚210	サザエ				フタ
土塚212	アカニシ			121	軸のみ
土塚212	アカニシ		90	101+α	楕円下反対体層を欠く 軸下層を欠く
土塚219	アカニシ		87.5	107	楕円下体層を一部欠く
土塚219	サザエ				軸のみ
土塚219	バイ			47	外唇を欠く
土塚219	フメタガイ		32	21	外唇を欠く
土塚22	サルボウ	68.6		62	片殻
土塚26	マガキ	86		69.5	片殻
包含層	アカニシ			110	外唇・反対体層を欠く
包含層	アカニシ			73.5	外唇・反対体層を欠く
包含層	アカニシ			100+α	楕円と体層を欠く
包含層	サザエ	?		?	フタのみ
包含層	ダンベイキサゴ			19.5	軸のみ
包含層	マガキ	87		170	片殻
包含層	アカニシ			120	反対体層を欠く
包含層	アカニシ			112	
包含層	サザエ				フタのみ
包含層	チョウセンハマグリ	89		71	
包含層	チョウセンハマグリ	82		61	
方型1	チョウセンハマグリ	89		68.4	片殻
方型1裏込め	ハマグリ			60+α	片殻
方型1裏込め	ハマグリ				片殻 殻貝
方型1裏込め	サルボウ	80		64	片殻

反対体層：外唇の高側の体層を示す。

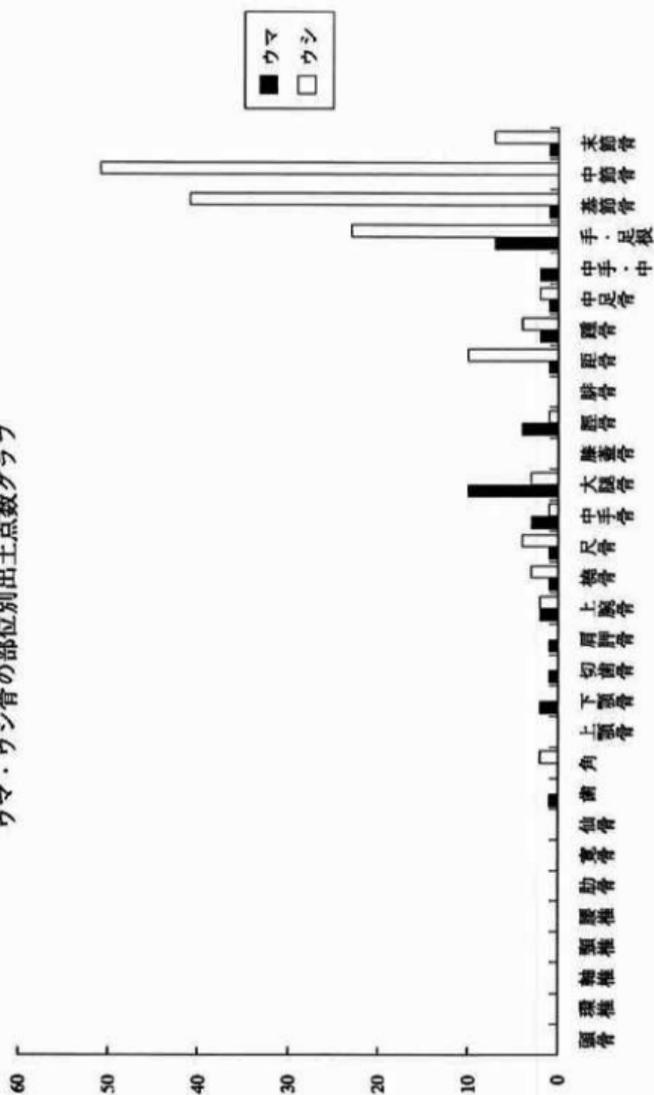
員の出土数表

	千陽群集			内陣別曲群集			内陣砂曲群集			陣外砂曲群集		
	アキ	ヒメ	ヒメ	アキ	ヒメ	ヒメ	アキ	ヒメ	ヒメ	アキ	ヒメ	ヒメ
1a面下			12						1			
1b面			1									
1b面下			13	3					1		1	
1b面壁土壁5			1									
1b面上										1		
1b面遺跡3			1									
1面上			1									
2面下			6	2								5
3面下										1		
4号方戸			4									
ビット12										1		
ビット13											1	2
ビット204				1								
ビット24			1									
ビット3			1					1				
ビット52			1									
ビット53						1	1					
ビット80			1									
ビット86			1									
ビット209				1						3		12
1面上層土壁			6			6				8		4
壁12			1									
壁13			2									
壁14			4	1		1				1		
壁18			5					2		1		
壁201						1						
壁202												2
壁203			1									
壁205			2									
壁207			1									
壁210			1									
壁213			7									
壁214			20							2		
壁215			1							1		
壁22			1									
壁25			1									
壁27			1									
壁28								17				
壁3			1									
壁33								11				
壁5			3							1		
壁6			4									
壁7			1									
壁8												
壁9			1									
壁9上層			2							1		
瓦葺壁	2	1	1	1			1	1	1	2		1
土壁15			1									
土壁16			3									
土壁207			1									
土壁210					1			1				1
土壁212			2									
土壁219			1	1				1				
土壁22							1					
土壁26												
包含層			5							2		1
方壘1										1		
方壘1基込め										1		
統計	2	1	133	10	1	9	4	17	1	28	1	28

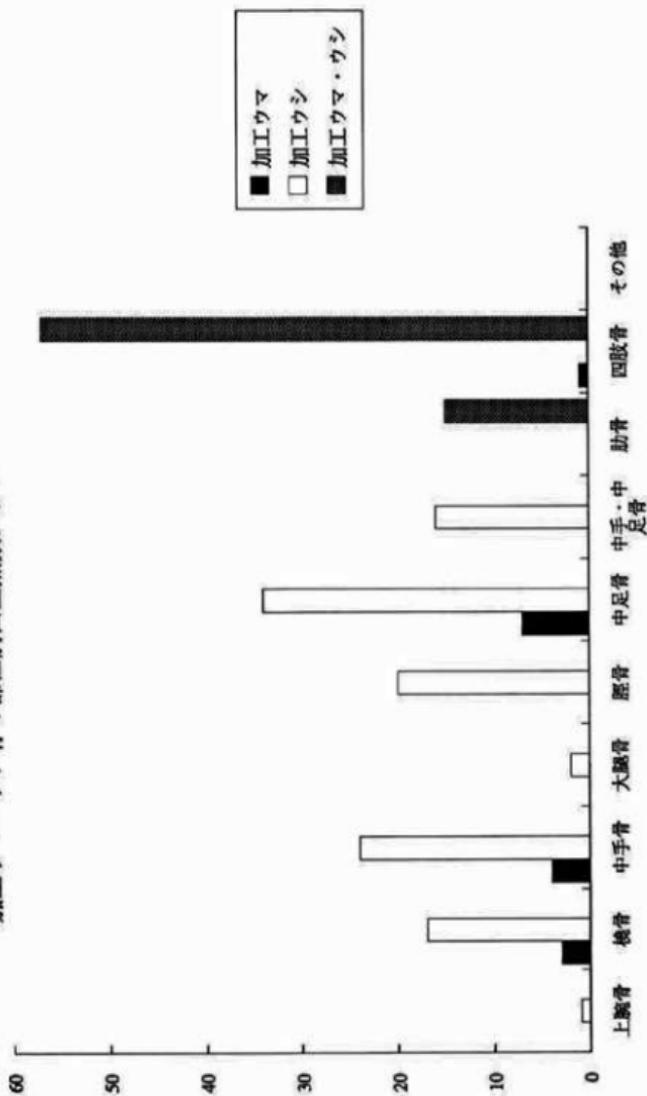
貝の出土数表

	岡村砂山跡集			岩橋群集						
	マダ	フノキダ	ペンケイダ	カワフツ	トコブレ	マダマツ	マダマツ	マダマツ	マダマツ	マダマツ
1a面下		17							1	
1b面										
1b面下										
1b面層C土層3										
1b面上										
1b面遺跡3										
1面上					1					
2面下									1	
3面下										1
4号井戸										
ピット12										
ピット13			1						1	
ピット204										
ピット24										
ピット3										
ピット32										
ピット33										
ピット80										
ピット86										
ピット209										
1面上層土層				1				1	1	
溝12										
溝13										
溝14										
溝18										
溝201								1		
溝202										
溝203										
溝205										
溝207										
溝210								1		
溝213								1		
溝214							1			
溝215										
溝22										
溝23										
溝27										
溝28										
溝3						1		1		
溝33								1		
溝5										
溝6								1		
溝7										
溝8	1									
溝9										
溝9上層										
試掘集								2		
土層15										
土層16										
土層207										
土層210								1		
土層212										
土層219								1		
土層22										
土層26	1									
包含層	1							3		
方壘1										
方壘1基込心										
総計	3	0	1	1	1	1	1	16	2	1

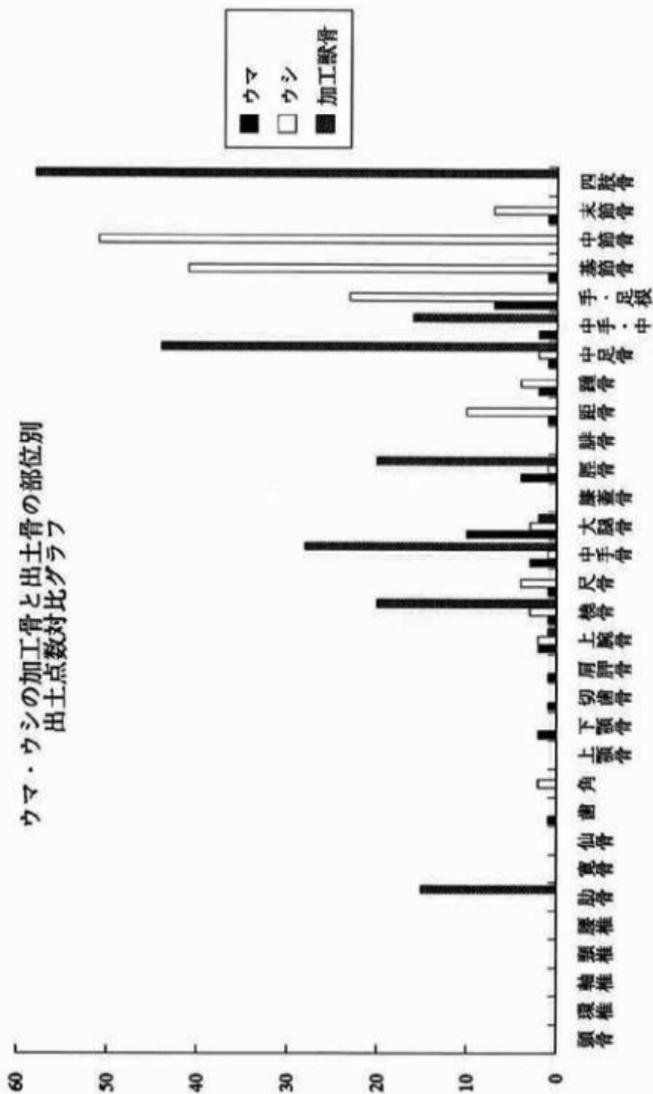
ウマ・ウシ骨の部位別出土点数グラフ



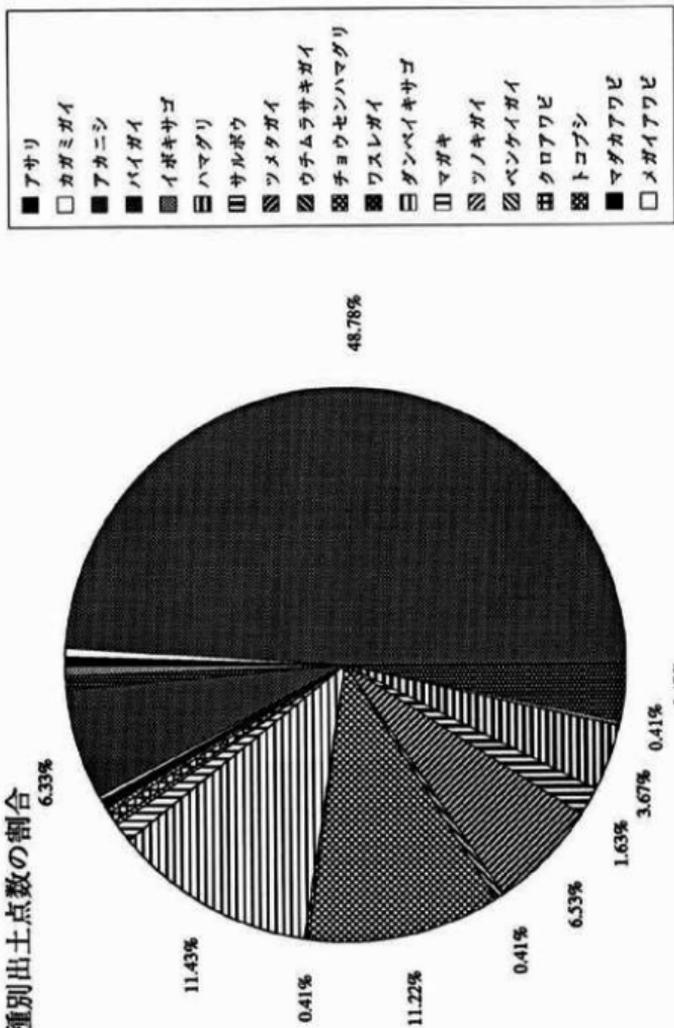
加工ウマ・ウシ骨の部位別出土点数グラフ



ウマ・ウシの加工骨と出土骨の部位別  
出土点数対比グラフ

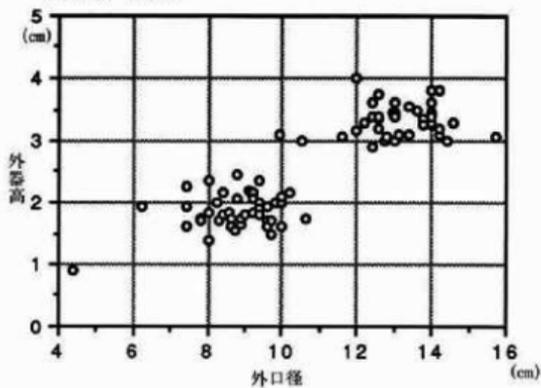


貝類種別出土点数の割合

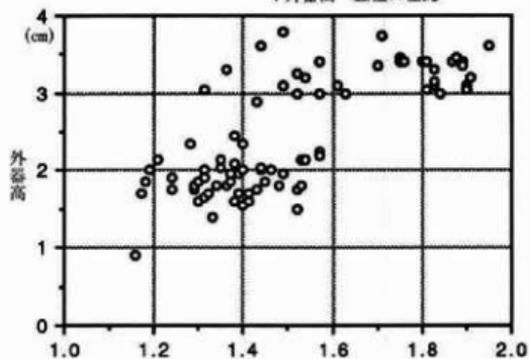


2面 遺構出土未切りがわらけ

▼外器高-外口径

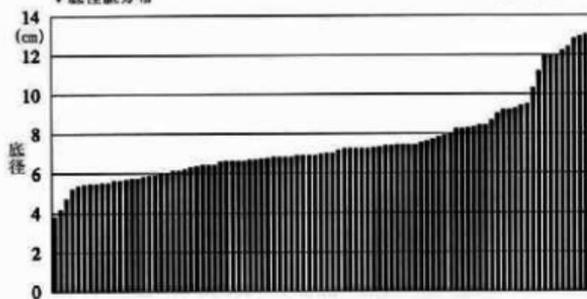


▼外器高-底径口径比

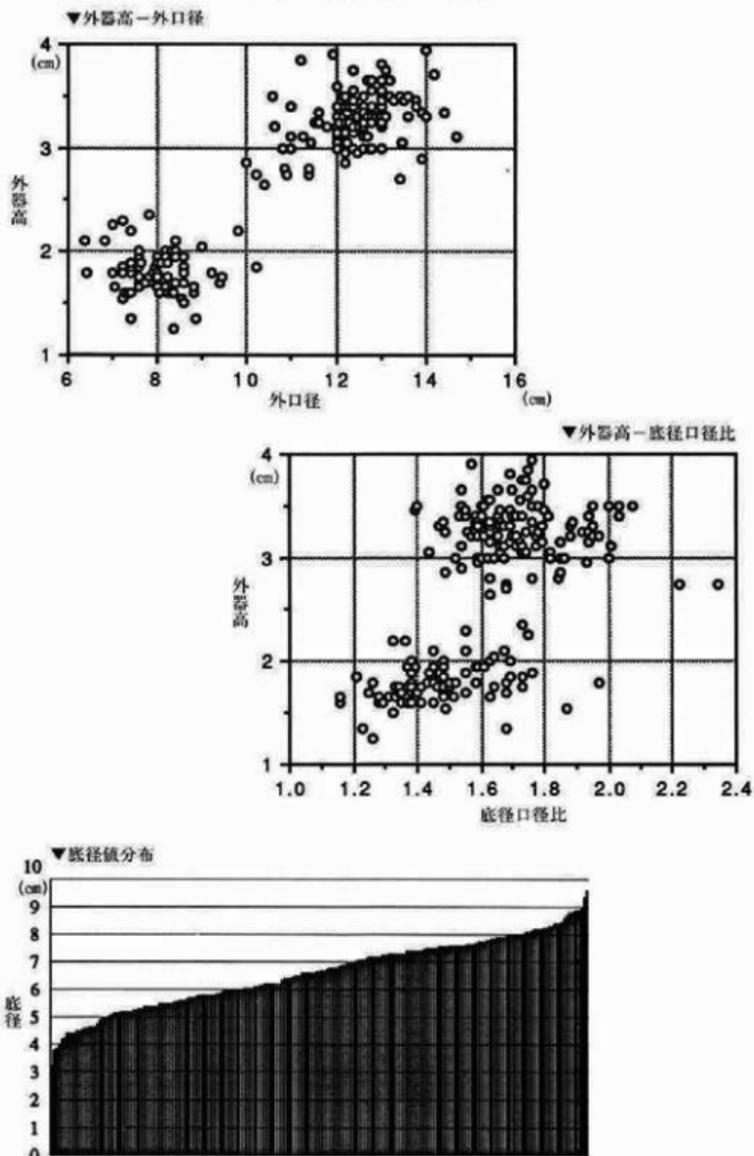


▼底径値分布

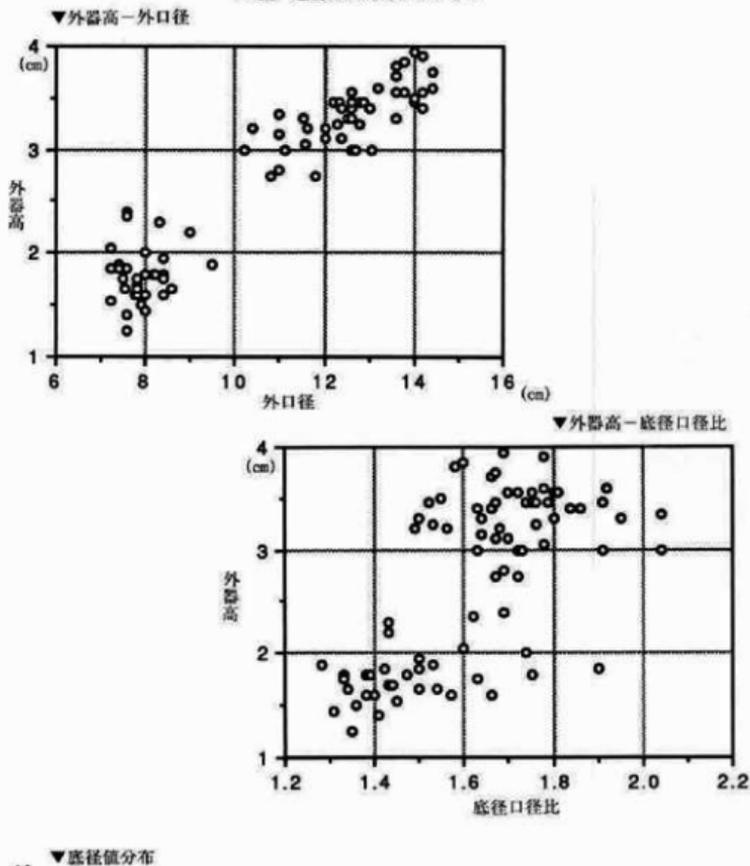
底径口径比



1b面 遺構出土糸切りかわらけ



1a 圖 遺構出土未切りかわらけ





▲調査地から海岸を望む

▼古代排水溝（東から）



▶ 2面全景西部（東から）

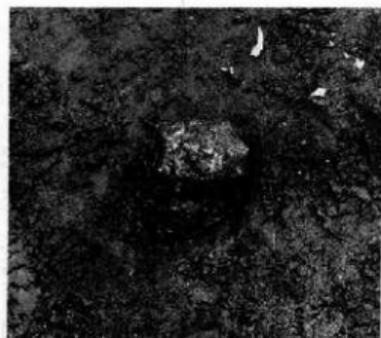


▶ 同上東部（西から）





◀ 土塚墓 (東から)



▲ 溝214内ヒト下顎骨とアカニシ出土状況



◀ 井戸4全景 (南から)

▶ 井戸4井戸枠 (南から)



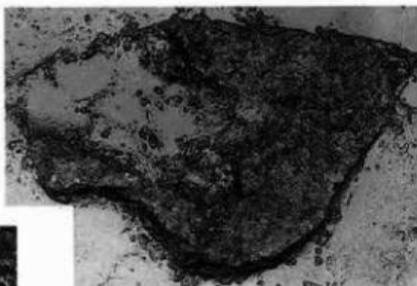


▼土壌28土層堆積

▲土壌28内編み籠遺存状況



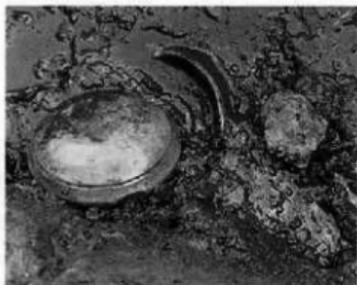
▲土壌18完掘状態



▲土壌18内編み籠痕



▲土壌18かわらけ出土状況



▲土坑18内かわらけ出土状況

▼1b 面西部全景 (東から)



▼方形竪穴建築址1 全景 (西より)



▼1b 面東部全景 (西から)





▼1a面全景（東から）  
左上方：大仏方面 右上方：御成方面



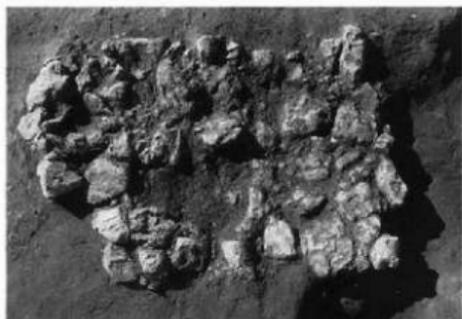
▲方形壘穴建築址1  
北東部配石状況と土台角材痕



▼1b面下B-5 グリッドかわらけ  
出土状況



▲1a面道路



◀ 1a面IV区  
泥岩敷

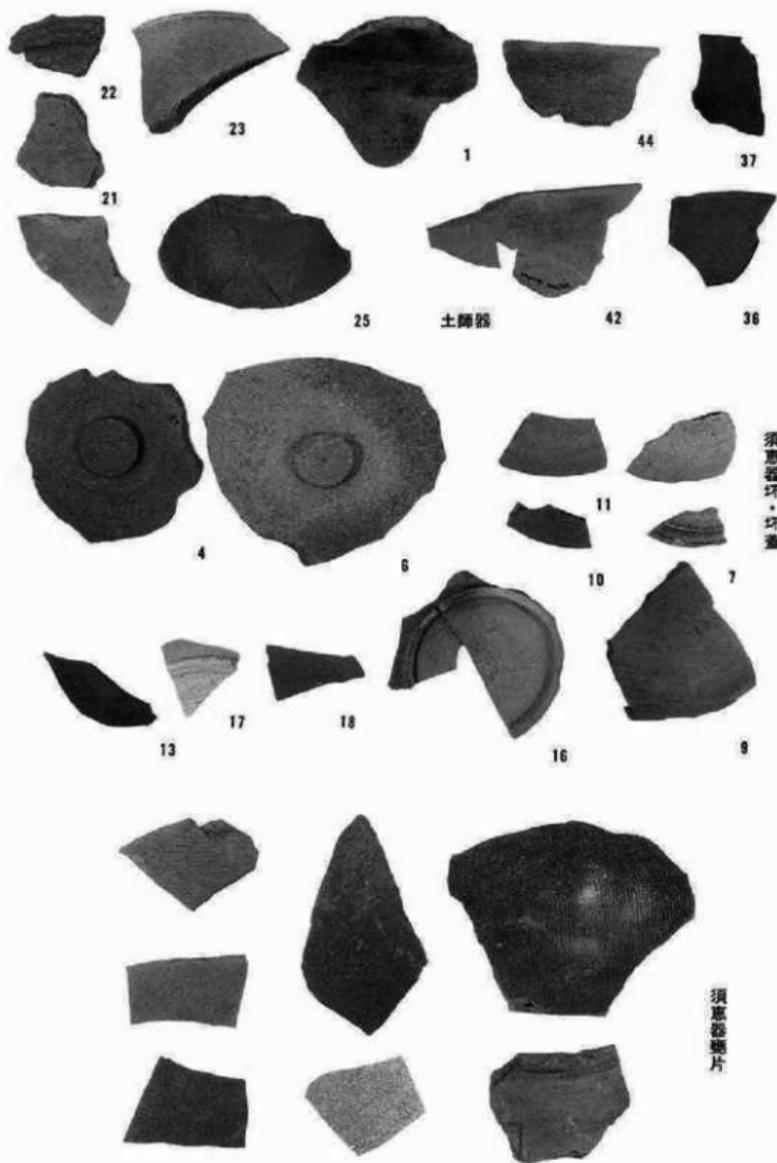
1a面道路面上▶  
イルカ骨体  
出土状況

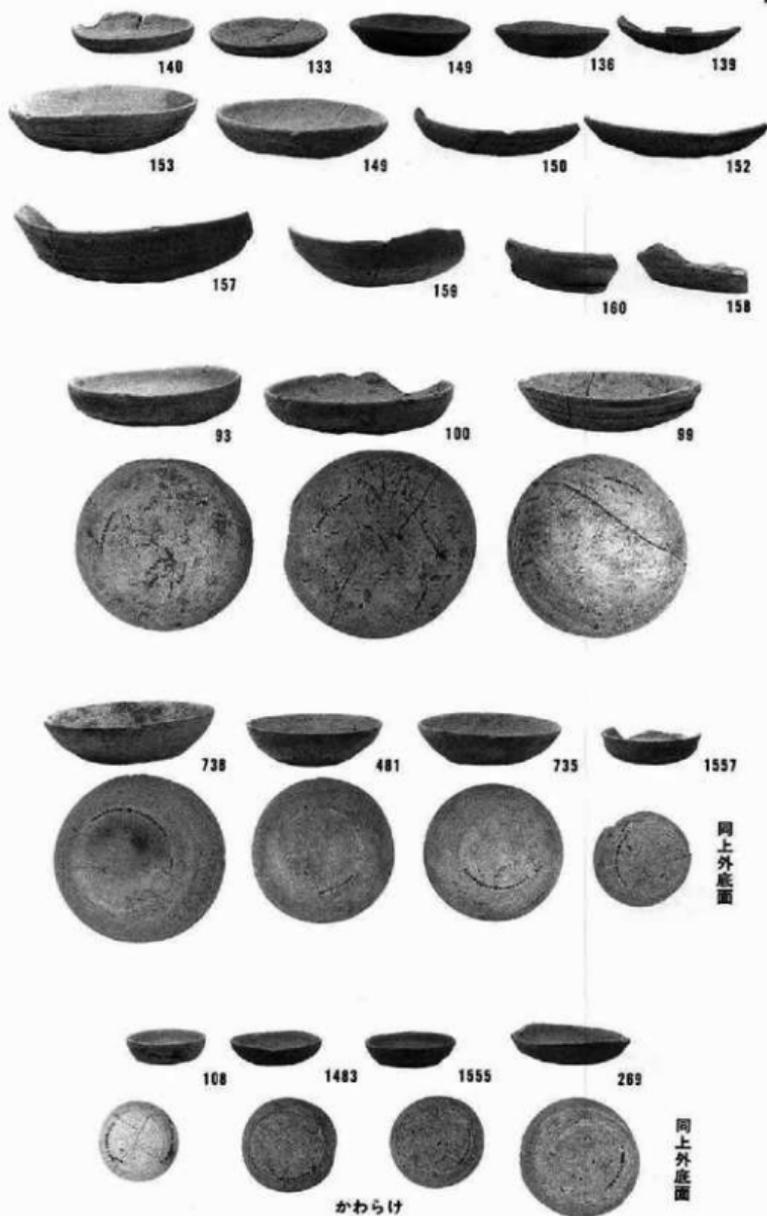


▲ 1a面溝9内  
ハナゴンドウイルカ出土状況

▼ 1a面 イノシシ下顎・上顎骨







かわらけ



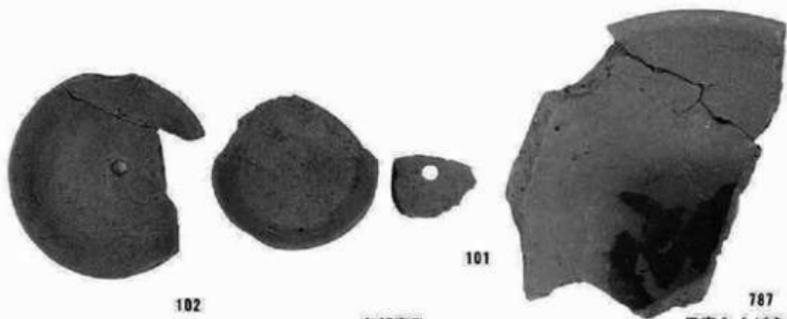
同上外底面



かわらけ



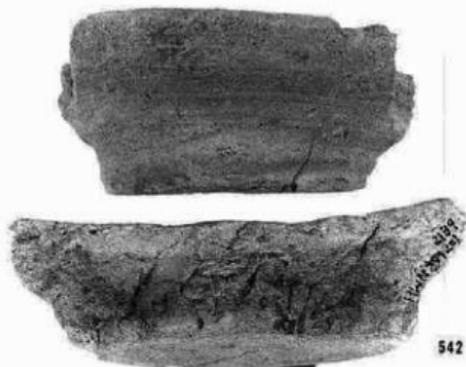
白かわらけ



底部穿孔  
かわらけ

墨書らくがき

異形かわらけ



542

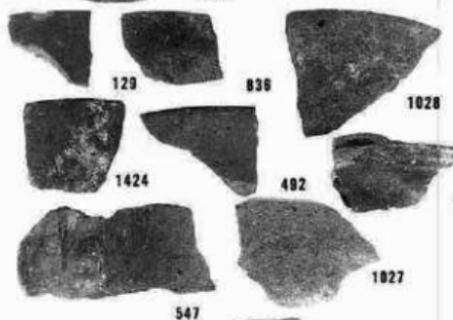


輪花瓦器質火鉢

1541



同左内底



火鉢各種

129

838

1028

1424

482

763

1027

547

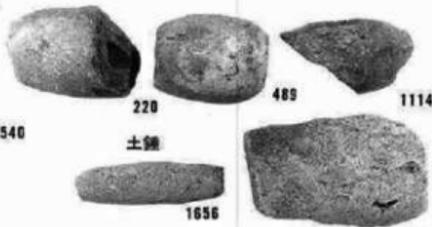


834

1582

1540

すりかわらけ



220

489

1114

土鍋

1656

230



545



1115



船載瓦質

439

瓦質・土器質各種



464



1404



1112



伊勢系土鍋



1111

土釜



418



1110

瀬戸内系（早島）土器碗

979



1586



720



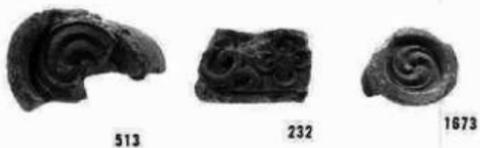
1113

瓦器



821

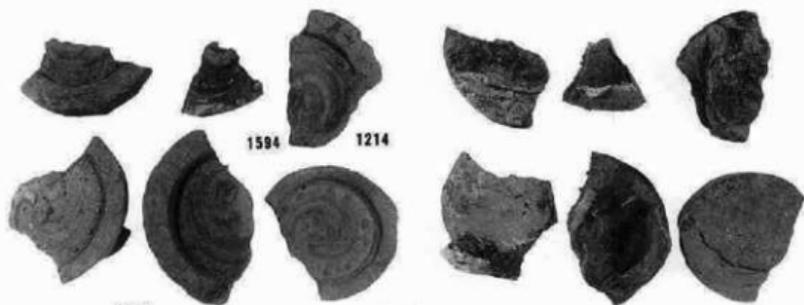
黒漆皿



513

232

1673



1504

1214

1309

1213

軒丸瓦

同左裏側



452

410

1596

1218

744

軒平瓦



東海系瓦

1429

1336

1507

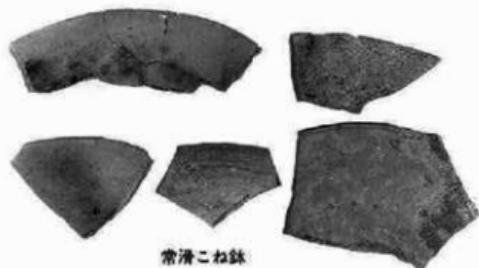
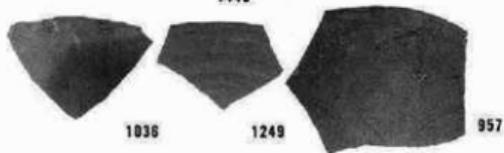
350

978

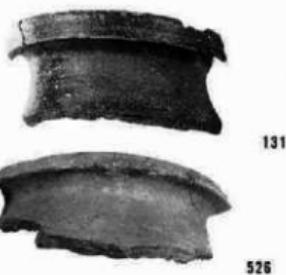
325



二ね鉢

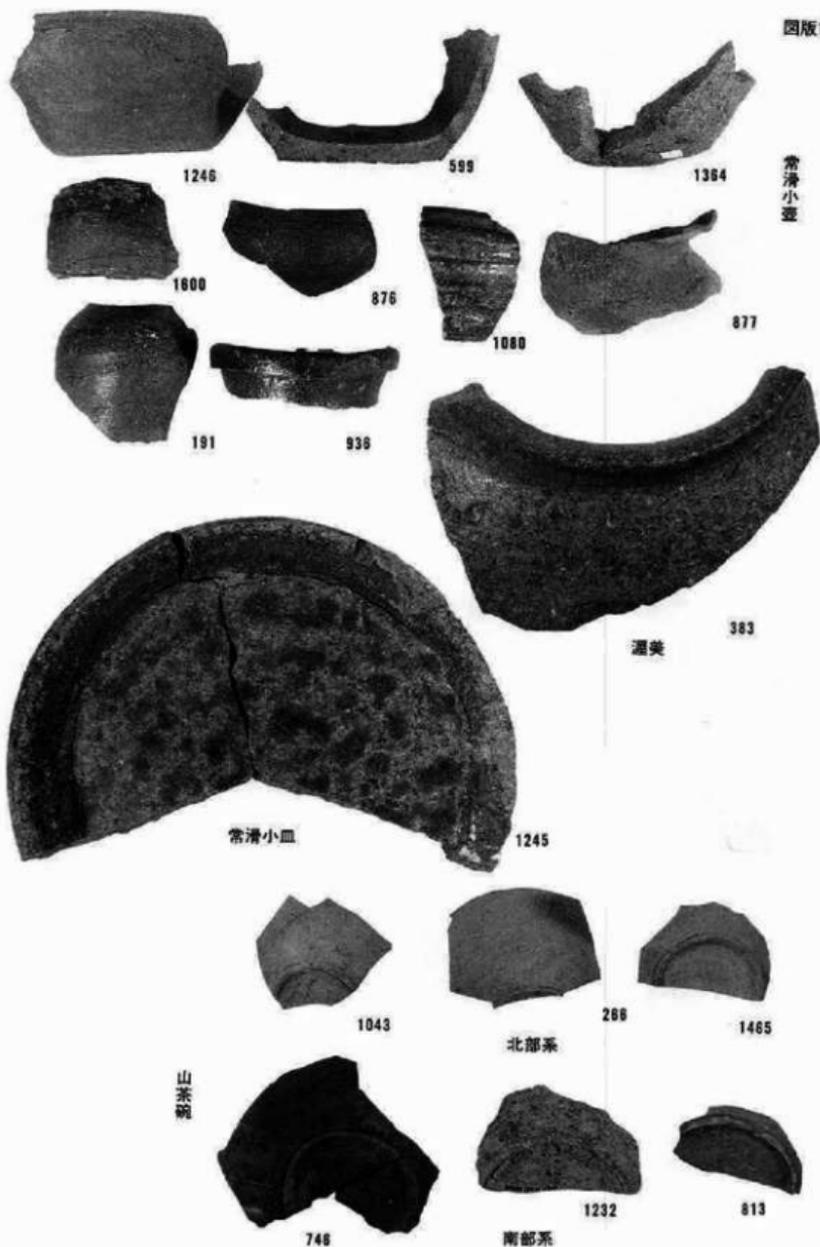


常滑二ね鉢



常滑壺





常滑小皿

温类

常滑小皿

北部系

南部系

山茶碗





白磁口无皿

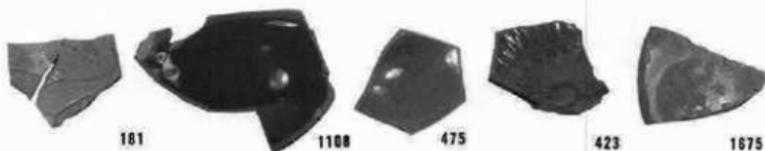


1109



1053

423



同上外面



974



211



1280



474

青磁



1267



1266



814



752



1048



1054



1608



1281



1282



白磁



1263



329



1513



1368



青白磁



1255



1618

船載陶器



351



褐釉陶

1057



同内面



褐釉陶

1057



967

高麗青磁天目台



1617

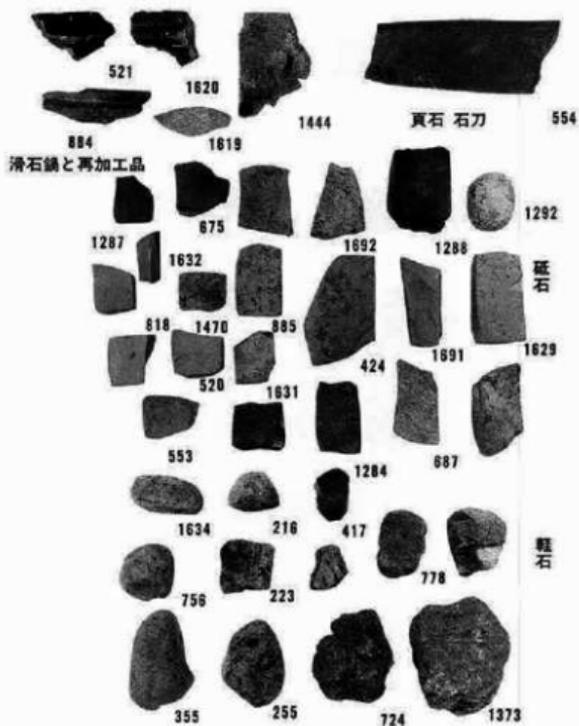
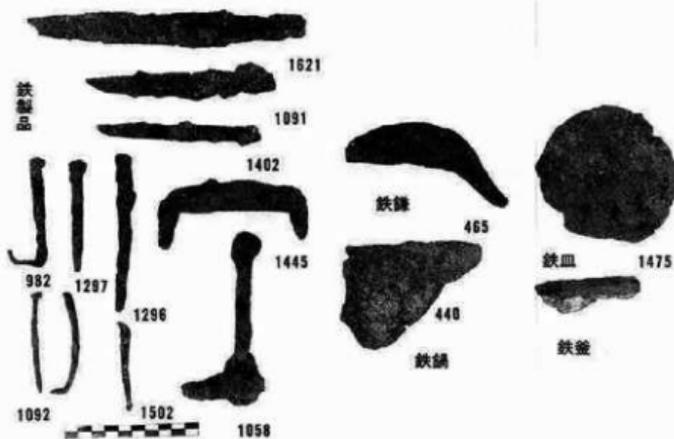
青磁六角舍利

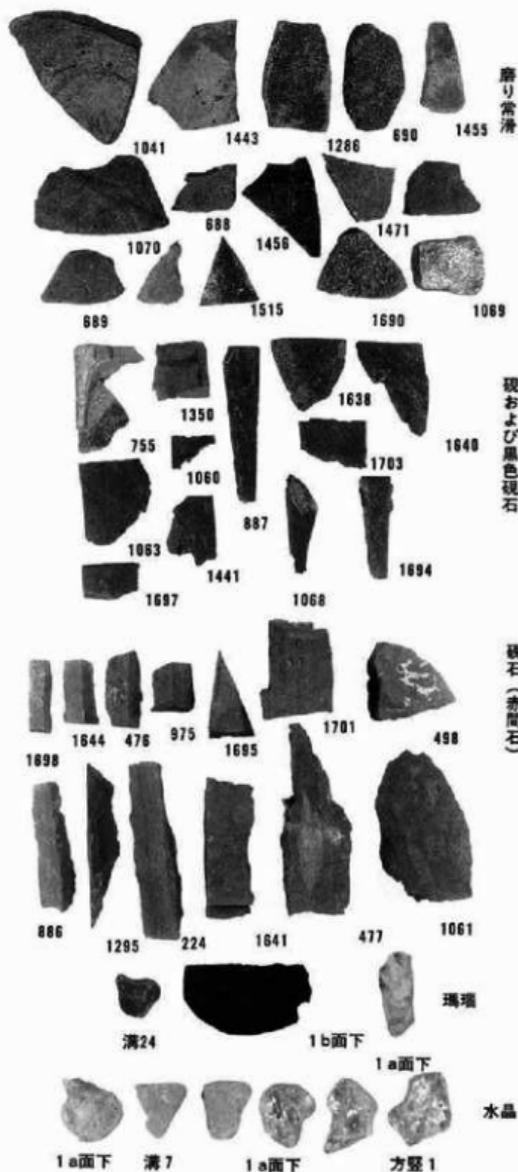


貫抽?



422



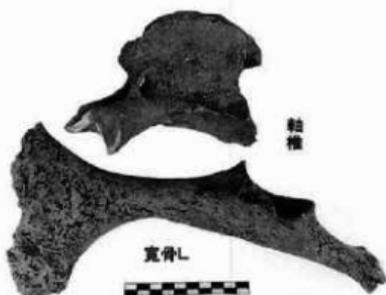




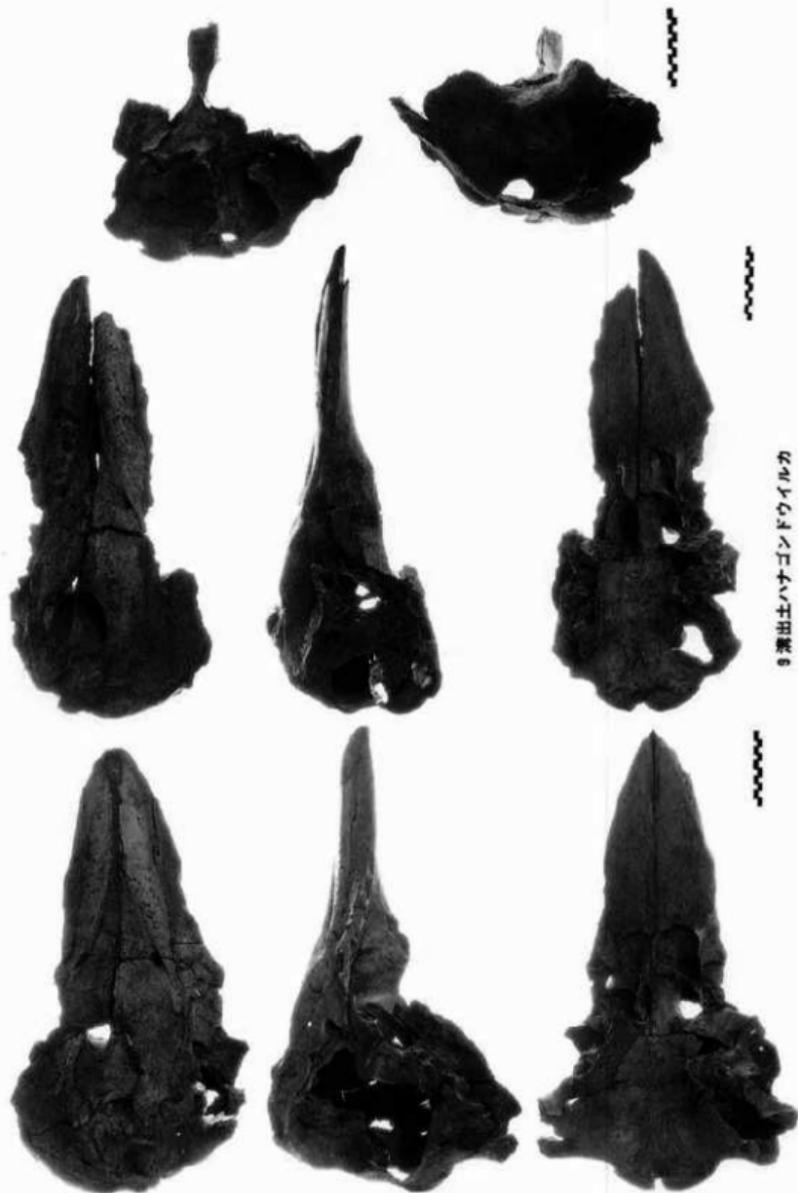
井戸1掘り方内出土犬



ウシ

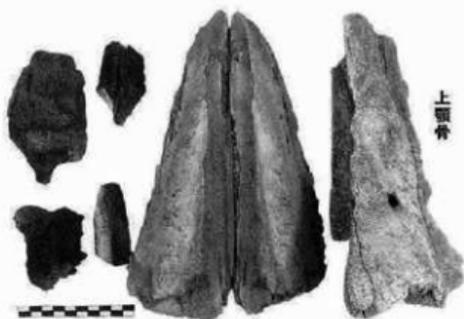






9 葉出士ハナゴキウインカ

焼けた頭骨・上顎骨



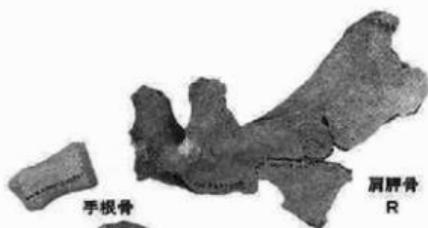
上顎骨



加工された上顎骨



椎体  
加工痕



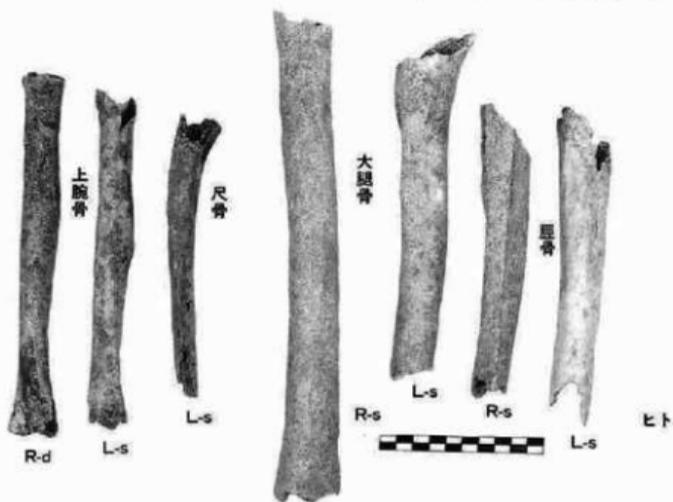
手根骨

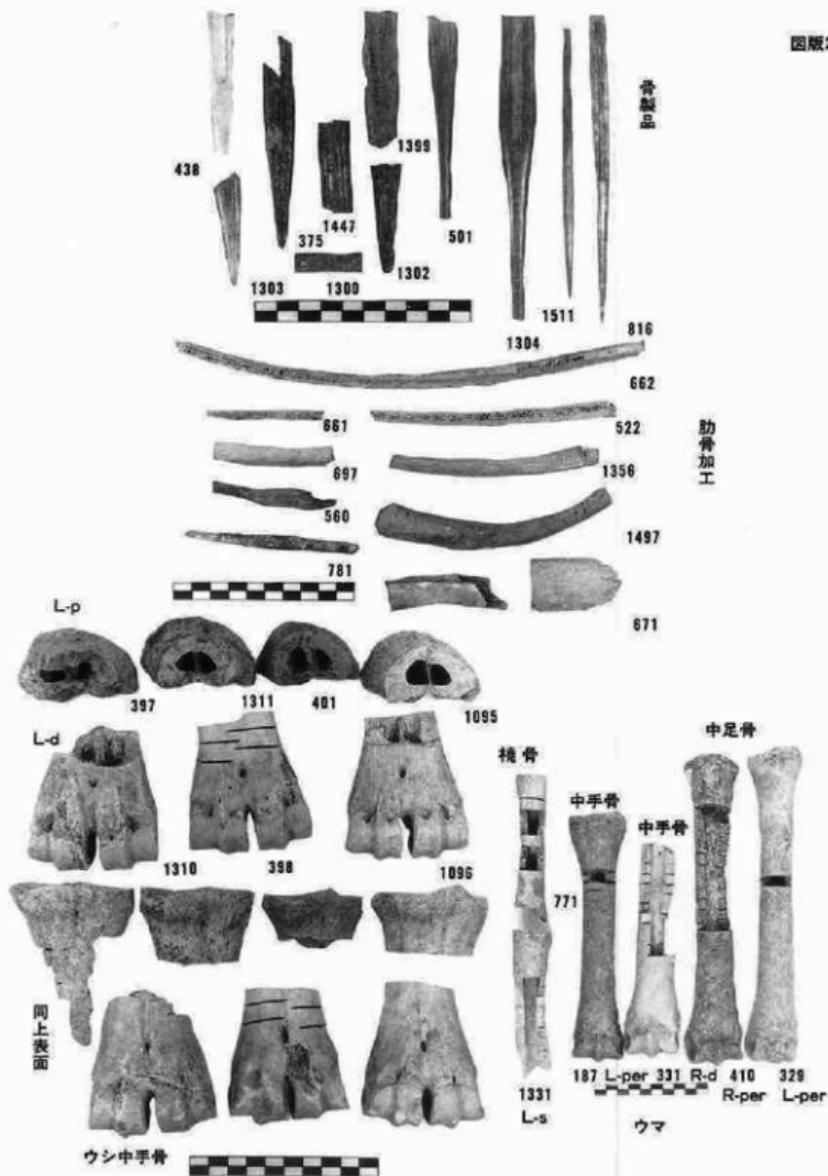
肩胛骨  
R

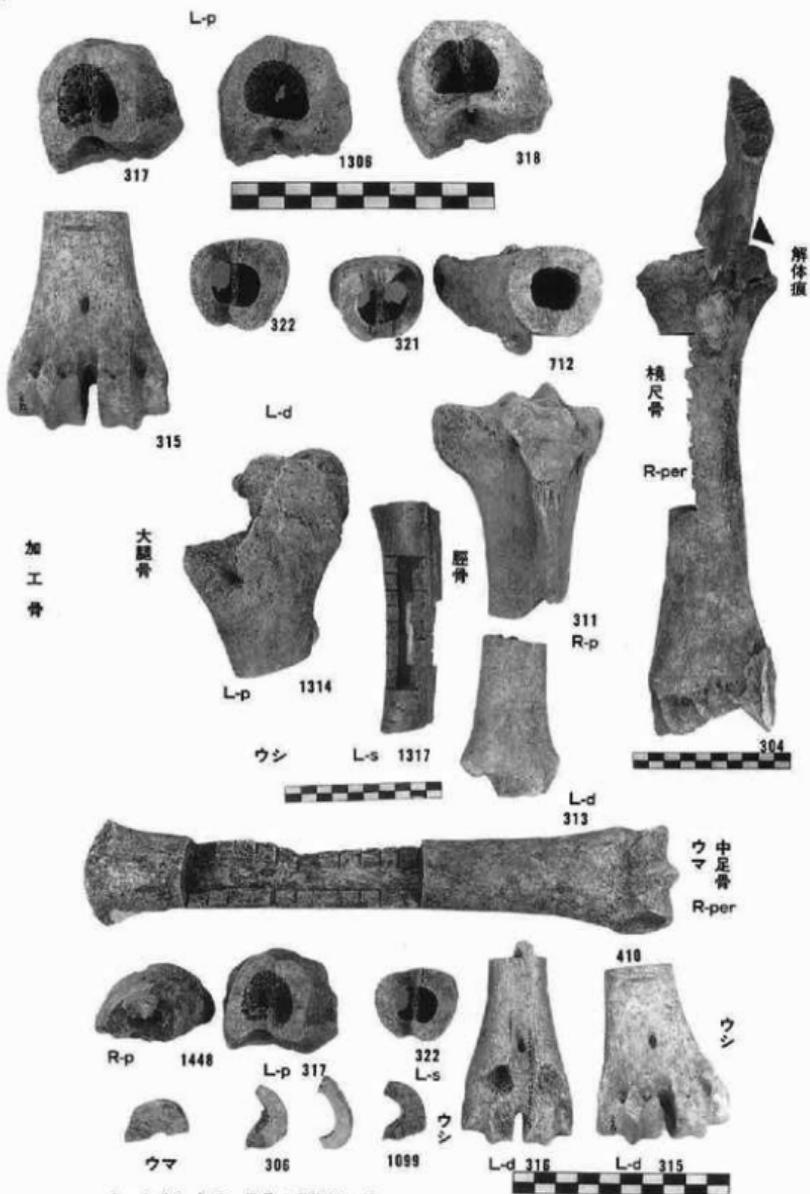
アシカ  
大腿骨R.

イルカ

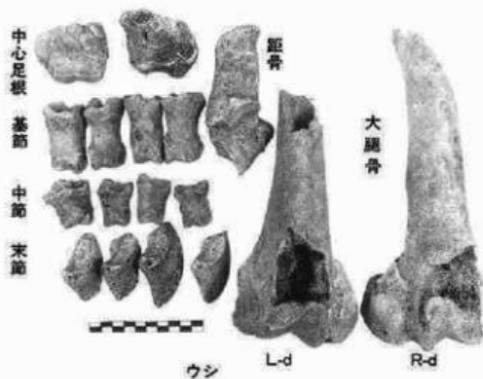








ウマとウシ中手・足骨の截断法の違い



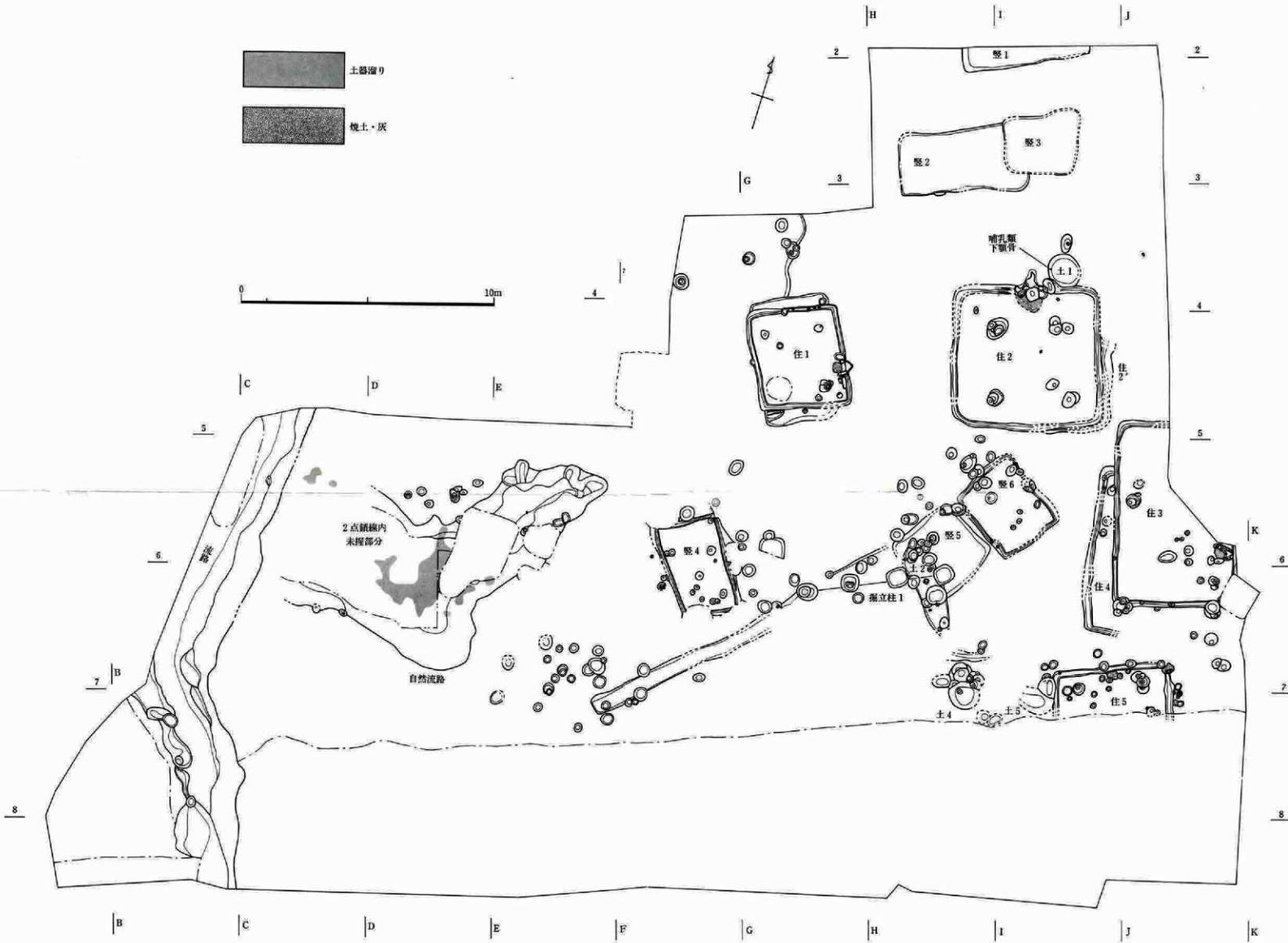
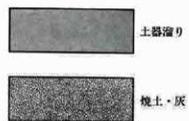


アカニシ

溝214出土具



大倉墓府周辺遺跡群 付図1 中世遺構全図



鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 9

平成4年度 発掘調査報告(第2分冊)

発行日 平成5年3月

編集  
発行 鎌倉市教育委員会

印刷 株式会社